1 アブラハムの子であるダビデの子、イエス・キリストの系図。 *2*アブラハムはイサクの父であり、イサクはヤコブの父、ヤコブはユダとその兄弟たちとの父、 *3*ユダはタマルによるパレスとザラとの父、パレスはエスロンの父、エスロンはアラムの父、 *4*アラムはアミナダブの父、アミナダブはナアソンの父、ナアソンはサルモンの父、 *5*サルモンはラハブによるボアズの父、ボアズはルツによるオベデの父、オベデはエッサイの父、 *6*エッサイはダビデ王の父であった。ダビデはウリヤの妻によるソロモンの父であり、 *7*ソロモンはレハベアムの父、レハベアムはアビヤの父、アビヤはアサの父、 *8*アサはヨサパテの父、ヨサパテはヨラムの父、ヨラムはウジヤの父、 *9*ウジヤはヨタムの父、ヨタムはアハズの父、アハズはヒゼキヤの父、 *10*ヒゼキヤはマナセの父、マナセはアモンの父、アモンはヨシヤの父、 *11*ヨシヤはバビロンへ移されたころ、エコニヤとその兄弟たちとの父となった。 *12*バビロンへ移されたのち、エコニヤはサラテルの父となった。サラテルはゾロバベルの父、 *13*ゾロバベルはアビウデの父、アビウデはエリヤキムの父、エリヤキムはアゾルの父、 *14*アゾルはサドクの父、サドクはアキムの父、アキムはエリウデの父、 *15*エリウデはエレアザルの父、エレアザルはマタンの父、マタンはヤコブの父、 *16*ヤコブはマリヤの夫ヨセフの父であった。このマリヤからキリストといわれるイエスがお生れになった。 *17*だから、アブラハムからダビデまでの代は合わせて十四代、ダビデからバビロンへ移されるまでは十四代、そして、バビロンへ移されてからキリストまでは十四代である。 *18*イエス・キリストの誕生の次第はこうであった。母マリヤはヨセフと婚約していたが、まだ一緒にならない前に、聖霊によって身重になった。 *19*夫ヨセフは正しい人であったので、彼女のことが公けになることを好まず、ひそかに離縁しようと決心した。 *20*彼がこのことを思いめぐらしていたとき、イオウオ[i]の使が夢に現れて言った、「ダビデの子ヨセフよ、心配しないでマリヤを妻として迎えるがよい。その胎内に宿っているものは聖霊によるのである。 *21*彼女は男の子を産むであろう。その名をイエスと名づけなさい。彼は、おのれの民をそのもろもろの罪から救う者となるからである」。 *22*すべてこれらのことが起ったのは、イオウオ[ii]が預言者によって言われたことの成就するためである。すなわち、 *23*「見よ、おとめがみごもって男の子を産むであろう。その名はインマヌエルと呼ばれるであろう」。これは、「神われらと共にいます」という意味である。 *24*ヨセフは眠りからさめた後に、イオウオ[iii]の使が命じたとおりに、マリヤを妻に迎えた。 *25*しかし、子が生れるまでは、彼女を知ることはなかった。そして、その子をイエスと名づけた。

2 イエスがヘロデ王の代に、ユダヤのベツレヘムでお生れになったとき、見よ、東からきた博士たちがエルサレムに着いて言った、 *2*「ユダヤ人の王としてお生れになったかたは、どこにおられますか。わたしたちは東の方でその星を見たので、そのかたを拝みにきました」。 *3*ヘロデ王はこのことを聞いて不安を感じた。エルサレムの人々もみな、同様であった。 *4*そこで王は祭司長たちと民の律法学者たちとを全部集めて、キリストはどこに生れるのかと、彼らに問いただした。 *5*彼らは王に言った、「それはユダヤのベツレヘムです。預言者がこうしるしています、 *6*『ユダの地、ベツレヘムよ、おまえはユダの君たちの中で、決して最も小さいものではない。おまえの中からひとりの君が出て、わが民イスラエルの牧者となるであろう』」。 *7*そこで、ヘロデはひそかに博士たちを呼んで、星の現れた時について詳しく聞き、 *8*彼らをベツレヘムにつかわして言った、「行って、その幼な子のことを詳しく調べ、見つかったらわたしに知らせてくれ。わたしも拝みに行くから」。 *9*彼らは王の言うことを聞いて出かけると、見よ、彼らが東方で見た星が、彼らより先に進んで、幼な子のいる所まで行き、その上にとどまった。 *10*彼らはその星を見て、非常な喜びにあふれた。 *11*そして、家にはいって、母マリヤのそばにいる幼な子に会い、ひれ伏して拝み、また、宝の箱をあけて、黄金・乳香・没薬などの贈り物をささげた。 *12*そして、夢でヘロデのところに帰るなとのみ告げを受けたので、他の道をとおって自分の国へ

帰って行った。 *13*彼らが帰って行ったの
ち、見よ、イオウオ[iv]の使が夢でヨセフに現
れて言った、「立って、幼な子とその母を
連れて、エジプトに逃げなさい。そして、
あなたに知らせるまで、そこにとどまって
いなさい。ヘロデが幼な子を捜し出して、
殺そうとしている」。 *14*そこで、ヨセフは立
って、夜の間に幼な子とその母とを連れて
エジプトへ行き、 *15*ヘロデが死ぬまでそ
こにとどまっていた。それは、イオウオ[v]が
預言者によって「エジプトからわが子を呼
び出した」と言われたことが、成就するた
めである。 *16*さて、ヘロデは博士たちに
だまされたと知って、非常に立腹した。そ
して人々をつかわし、博士たちから確か
めた時に基いて、ベツレヘムとその附近
の地方とにいる二歳以下の男の子を、こと
ごとく殺した。 *17*こうして、預言者エレミヤ
によって言われたことが、成就したのであ
る。 *18*「叫び泣く大いなる悲しみの声がラ
マで聞えた。ラケルはその子らのためになげいた。子らがもはやいないので、慰められることさえ願わなかった」。 *19*さて、ヘロ
デが死んだのち、見よ、イオウオ[vi]の使が
エジプトにいるヨセフに夢で現れて言った
、 *20*「立って、幼な子とその母を連れて、
イスラエルの地に行け。幼な子の命をねらっていた人々は、死んでしまった」。 *21*そ
こでヨセフは立って、幼な子とその母とを
連れて、イスラエルの地に帰った。 *22*しか
し、アケラオがその父ヘロデに代ってユダ
ヤを治めていると聞いたので、そこへ行く
ことを恐れた。そして夢でみ告げを受けた
ので、ガリラヤの地方に退き、 *23*ナザレと
いう町に行って住んだ。これは預言者た
ちによって、「彼はナザレ人と呼ばれるで
あろう」と言われたことが、成就するため
である。

3 そのころ、バプテスマのヨハネが現れ、
ユダヤの荒野で教を宣べて言った、 *2*「悔
い改めよ、天国は近づいた」。 *3*預言者イ
ザヤによって、「荒野で呼ばわる者の声が
する、『イオウオ[vii]の道を備えよ、その道筋
をまっすぐにせよ』」と言われたのは、この
人のことである。 *4*このヨハネは、らくだの
毛ごろもを着物にし、腰に皮の帯をしめ、
いなごと野蜜とを食物としていた。 *5*すると
、エルサレムとユダヤ全土とヨルダン附近
一帯の人々が、ぞくぞくとヨハネのところ
に出てきて、 *6*自分の罪を告白し、ヨルダ
ン川でヨハネからバプテスマを受けた。
*7*ヨハネは、パリサイ人やサドカイ人が大
ぜいバプテスマを受けようとしてきたのを
見て、彼らに言った、「まむしの子らよ、迫
ってきている神の怒りから、おまえたちは
のがれられると、だれが教えたのか。 *8*だ
から、悔改めにふさわしい実を結べ。 *9*自
分たちの父にはアブラハムがあるなどと、
心の中で思ってもみるな。おまえたちに言
っておく、神はこれらの石ころからでも、ア
ブラハムの子を起すことができるのだ。
*10*斧がすでに木の根もとに置かれている
。だから、良い実を結ばない木はことごと
く切られて、火の中に投げ込まれるのだ。
*11*わたしは悔改めのために、水でおまえ
たちにバプテスマを授けている。しかし、
わたしのあとから来る人はわたしよりも力
のあるかたで、わたしはそのくつをぬがせ
てあげる値うちもない。このかたは、聖霊と
火とによっておまえたちにバプテスマをお
授けになるであろう。 *12*また、箕を手に持
って、打ち場の麦をふるい分け、麦は倉
に納め、からは消えない火で焼き捨てる
であろう」。 *13*そのときイエスは、ガリラヤ
を出てヨルダン川に現れ、ヨハネのところ
にきて、バプテスマを受けようとされた。
*14*ところがヨハネは、それを思いとどまら
せようとして言った、「わたしこそあなたか
らバプテスマを受けるはずですのに、あな
たがわたしのところにおいでになるのです
か」。 *15*しかし、イエスは答えて言われた
、「今は受けさせてもらいたい。このように
、すべての正しいことを成就するのは、わ
れわれにふさわしいことである」。そこでヨ
ハネはイエスの言われるとおりにした。
*16*イエスはバプテスマを受けるとすぐ、水
から上がられた。すると、見よ、天が開け、
神の御霊がはとのように自分の上に下って
くるのを、ごらんになった。 *17*また天か
ら声があって言った、「これはわたしの愛
する子、わたしの心にかなう者である」。

4 さて、イエスは御霊によって荒野に導
かれた。悪魔に試みられるためである。
*2*そして、四十日四十夜、断食をし、その

のち空腹になられた。 *3*すると試みる者が
きて言った、「もしあなたが神の子である
なら、これらの石がパンになるように命じて
ごらんなさい」。 *4*イエスは答えて言われ
た、「『人はパンだけで生きるものではなく
、イオウオ[viii]の口から出る一つ一つの言で
生きるものである』と書いてある」。 *5*それ
から悪魔は、イエスを聖なる都に連れて
行き、宮の頂上に立たせて *6*言った、「も
しあなたが神の子であるなら、下へ飛び
おりてごらんなさい。『神はあなたのため
に御使たちにお命じになると、あなたの足
が石に打ちつけられないように、彼らはあ
なたを手でささえるであろう』と書いてあり
ますから」。 *7*イエスは彼に言われた、
「『あなたの神、イオウオ[ix]を試みてはなら
ない』とまた書いてある」。 *8*次に悪魔は、
イエスを非常に高い山に連れて行き、こ
の世のすべての国々とその栄華とを見せ
て *9*言った、「もしあなたが、ひれ伏してわ
たしを拝むなら、これらのものを皆あなた
にあげましょう」。 *10*するとイエスは彼に言
われた、「サタンよ、退け。『あなたの神、イ
オウオ[x]を拝し、ただ神にのみ仕えよ』と書
いてある」。 *11*そこで、悪魔はイエスを離
れ去り、そして、御使たちがみもとにきて
仕えた。 *12*さて、イエスはヨハネが捕えら
れたと聞いて、ガリラヤへ退かれた。 *13*そ
してナザレを去り、ゼブルンとナフタリとの
地方にある海べの町カペナウムに行って
住まわれた。 *14*これは預言者イザヤによ
って言われた言が、成就するためである。
15「ゼブルンの地、ナフタリの地、海に沿
う地方、ヨルダンの向こうの地、異邦人の
ガリラヤ、*16*暗黒の中に住んでいる民は
大いなる光を見、死の地、死の陰に住ん
でいる人々に、光がのぼった」。 *17*この時
からイエスは教を宣べはじめて言われた、
「悔い改めよ、天国は近づいた」。 *18*さて、
イエスがガリラヤの海べを歩いておられる
と、ふたりの兄弟、すなわち、ペテロと呼
ばれたシモンとその兄弟アンデレとが、海
に網を打っているのをごらんになった。彼
らは漁師であった。 *19*イエスは彼らに言
われた、「わたしについてきなさい。あなた
がたを、人間をとる漁師にしてあげよう」。
*20*すると、彼らはすぐに網を捨てて、イエ
スに従った。 *21*そこから進んで行かれると
、ほかのふたりの兄弟、すなわち、ゼベダ
イの子ヤコブとその兄弟ヨハネとが、父ゼ
ベダイと一緒に、舟の中で網を繕っている
のをごらんになった。そこで彼らをお招き
になると、 *22*すぐ舟と父とをおいて、イエ
スに従って行った。 *23*イエスはガリラヤの
全地を巡り歩いて、諸会堂で教え、御国
の福音を宣べ伝え、民の中のあらゆる病
気、あらゆるわずらいをおいやしになった
。 *24*そこで、その評判はシリヤ全地にひ
ろまり、人々があらゆる病にかかっている
者、すなわち、いろいろの病気と苦しみと
に悩んでいる者、悪霊につかれている者
、てんかん、中風の者などをイエスのところ
に連れてきたので、これらの人々をおい
やしになった。 *25*こうして、ガリラヤ、デカ
ポリス、エルサレム、ユダヤ及びヨルダン
の向こうから、おびただしい群衆がきてイ
エスに従った。

5 イエスはこの群衆を見て、山に登り、座
につかれると、弟子たちがみもとに近寄っ
てきた。 *2*そこで、イエスは口を開き、彼ら
に教えて言われた。 *3*「こころの貧しい人
たちは、さいわいである、天国は彼らのも
のである。 *4*悲しんでいる人たちは、さい
わいである、彼らは慰められるであろう。
*5*柔和な人たちは、さいわいである、彼ら
は地を受けつぐであろう。 *6*義に飢えかわ
いている人たちは、さいわいである、彼ら
は飽き足りるようになるであろう。 *7*あわれ
み深い人たちは、さいわいである、彼らは
あわれみを受けるであろう。 *8*心の清い人
たちは、さいわいである、彼らは神を見る
であろう。 *9*平和をつくり出す人たちは、さ
いわいである、彼らは神の子と呼ばれる
であろう。 *10*義のために迫害されてきた人
たちは、さいわいである、天国は彼らのも
のである。 *11*わたしのために人々があな
たがたをののしり、また迫害し、あなたが
たに対し偽って様々の悪口を言う時には
、あなたがたは、さいわいである。 *12*喜び
、よろこべ、天においてあなたがたの受け
る報いは大きい。あなたがたより前の預言
者たちも、同じように迫害されたのである。
*13*あなたがたは、地の塩である。もし塩の
ききめがなくなったら、何によってその味
が取りもどされようか。もはや、なんの役に

も立たず、ただ外に捨てられて、人々に
ふみつけられるだけである。 *14*あなたが
たは、世の光である。山の上にある町は
隠れることができない。 *15*また、あかりを
つけて、それを枡の下におく者はいない。
むしろ燭台の上において、家の中のすべ
てのものを照させるのである。 *16*そのよう
に、あなたがたの光を人々の前に輝かし、
そして、人々があなたがたのよいおこない
を見て、天にいますあなたがたの父をあ
がめるようにしなさい。 *17*わたしが律法や
預言者を廃するためにきた、と思ってはな
らない。廃するためではなく、成就するた
めにきたのである。 *18*よく言っておく。天
地が滅び行くまでは、律法の一点、一画
もすたることはなく、ことごとく全うされるの
である。 *19*それだから、これらの最も小さ
いいましめの一つでも破り、またそうする
ように人に教えたりする者は、天国で最も
小さい者と呼ばれるであろう。しかし、これ
をおこないまたそう教える者は、天国で大
いなる者と呼ばれるであろう。 *20*わたしは
言っておく。あなたがたの義が律法学者
やパリサイ人の義にまさっていなければ、
決して天国に、はいることはできない。
*21*昔の人々に『殺すな。殺す者は裁判を
受けねばならない』と言われていたことは
、あなたがたの聞いているところである。
*22*しかし、わたしはあなたがたに言う。兄
弟に対して怒る者は、だれでも裁判を受
けねばならない。兄弟にむかって愚か者
と言う者は、議会に引きわたされるであろ
う。また、ばか者と言う者は、地獄の火に
投げ込まれるであろう。 *23*だから、祭壇に
供え物をささげようとする場合、兄弟が自
分に対して何かうらみをいだいていること
を、そこで思い出したなら、 *24*その供え物
を祭壇の前に残しておき、まず行ってそ
の兄弟と和解し、それから帰ってきて、供
え物をささげることにしなさい。 *25*あなた
を訴える者と一緒に道を行く時には、その
途中で早く仲直りをしなさい。そうしないと
、その訴える者はあなたを裁判官にわた
し、裁判官は下役にわたし、そして、あな
たは獄に入れられるであろう。 *26*よくあな
たに言っておく。最後の一コドラントを支
払ってしまうまでは、決してそこから出てく
ることはできない。 *27*『姦淫するな』と言わ
れていたことは、あなたがたの聞いている
ところである。 *28*しかし、わたしはあなた
がたに言う。だれでも、情欲をいだいて女
を見る者は、心の中ですでに姦淫をした
のである。 *29*もしあなたの右の目が罪を
犯させるなら、それを抜き出して捨てなさ
い。五体の一部を失っても、全身が地獄
に投げ入れられない方が、あなたにとって
益である。 *30*もしあなたの右の手が罪を
犯させるなら、それを切って捨てなさい。
五体の一部を失っても、全身が地獄に落
ち込まない方が、あなたにとって益である
。 *31*また『妻を出す者は離縁状を渡せ』と
言われている。 *32*しかし、わたしはあなた
がたに言う。だれでも、不品行以外の理
由で自分の妻を出す者は、姦淫を行わせ
るのである。また出された女をめとる者も、
姦淫を行うのである。 *33*また昔の人々に
『いつわり誓うな、誓ったことは、すべてイ
オウオ[xi]に対して果せ』と言われていたこと
は、あなたがたの聞いているところである
。 *34*しかし、わたしはあなたがたに言う。
いっさい誓ってはならない。天をさして誓
うな。そこは神の御座であるから。 *35*また
地をさして誓うな。そこは神の足台である
から。またエルサレムをさして誓うな。それ
は『大王の都』であるから。 *36*また、自分
の頭をさして誓うな。あなたは髪の毛一す
じさえ、白くも黒くもすることができない。
*37*あなたがたの言葉は、ただ、しかり、し
かり、否、否、であるべきだ。それ以上に
出ることは、悪から来るのである。 *38*『目
には目を、歯には歯を』と言われていたこ
とは、あなたがたの聞いているところであ
る。 *39*しかし、わたしはあなたがたに言う
。悪人に手向かうな。もし、だれかがあな
たの右の頬を打つなら、ほかの頬をも向
けてやりなさい。 *40*あなたを訴えて、下着
を取ろうとする者には、上着をも与えなさ
い。 *41*もし、だれかが、あなたをしいて一
マイル行かせようとするなら、その人と共
に二マイル行きなさい。 *42*求める者には
与え、借りようとする者を断るな。 *43*『隣り
人を愛し、敵を憎め』と言われていたこと
は、あなたがたの聞いているところである
。 *44*しかし、わたしはあなたがたに言う。
敵を愛し、迫害する者のために祈れ。
*45*こうして、天にいますあなたがたの父の

子となるためである。天の父は、悪い者の
上にも良い者の上にも、太陽をのぼらせ、
正しい者にも正しくない者にも、雨を降ら
して下さるからである。 *46*あなたがたが自
分を愛する者を愛したからとて、なんの報
いがあろうか。そのようなことは取税人でも
するではないか。 *47*兄弟だけにあいさつ
をしたからとて、なんのすぐれた事をして
いるだろうか。そのようなことは異邦人でも
しているではないか。 *48*それだから、あな
たがたの天の父が完全であられるように、
あなたがたも完全な者となりなさい。

6 自分の義を、見られるために人の前で
行わないように、注意しなさい。もし、そう
しないと、天にいますあなたがたの父から
報いを受けることがないであろう。 *2*だから
、施しをする時には、偽善者たちが人に
ほめられるため会堂や町の中でするよう
に、自分の前でラッパを吹きならすな。よ
く言っておくが、彼らはその報いを受けて
しまっている。 *3*あなたは施しをする場合
、右の手のしていることを左の手に知らせ
るな。 *4*それは、あなたのする施しが隠れ
ているためである。すると、隠れた事を見
ておられるあなたの父は、報いてくださる
であろう。 *5*また祈る時には、偽善者たち
のようにするな。彼らは人に見せようとして
、会堂や大通りのつじに立って祈ることを
好む。よく言っておくが、彼らはその報い
を受けてしまっている。 *6*あなたは祈る時
、自分のへやにはいり、戸を閉じて、隠れ
た所においでになるあなたの父に祈りな
さい。すると、隠れた事を見ておられるあ
なたの父は、報いてくださるであろう。 *7*ま
た、祈る場合、異邦人のように、くどくどと
祈るな。彼らは言葉かずが多ければ、聞
きいれられるものと思っている。 *8*だから、
彼らのまねをするな。あなたがたの父なる
神は、求めない先から、あなたがたに必
要なものはご存じなのである。 *9*だから、
あなたがたはこう祈りなさい、天にいます
われらの父よ、御名があがめられますよう
に。 *10*御国がきますように。みこころが天
に行われるとおり、地にも行われますよう
に。 *11*わたしたちの日ごとの食物を、きょ
うもお与えください。 *12*わたしたちに負債
のある者をゆるしましたように、わたしたち
の負債をもおゆるしください。 *13*わたした
ちを試みに会わせないで、悪しき者から
お救いください。 *14*もしも、あなたがたが
、人々のあやまちをゆるすならば、あなた
がたの天の父も、あなたがたをゆるして下
さるであろう。 *15*もし人をゆるさないならば
、あなたがたの父も、あなたがたのあやま
ちをゆるして下さらないであろう。 *16*また
断食をする時には、偽善者がするように、
陰気な顔つきをするな。彼らは断食をし
ていることを人に見せようとして、自分の顔
を見苦しくするのである。よく言っておくが
、彼らはその報いを受けてしまっている。
*17*あなたがたは断食をする時には、自分
の頭に油を塗り、顔を洗いなさい。 *18*そ
れは断食をしていることが人に知れない
で、隠れた所においでになるあなたの父
に知られるためである。すると、隠れた事
を見ておられるあなたの父は、報いて下さ
るであろう。 *19*あなたがたは自分のため
に、虫が食い、さびがつき、また、盗人ら
が押し入って盗み出すような地上に、宝
をたくわえてはならない。 *20*むしろ自分の
ため、虫も食わず、さびもつかず、また、
盗人らが押し入って盗み出すこともない
天に、宝をたくわえなさい。 *21*あなたの宝
のある所には、心もあるからである。 *22*目
はからだのあかりである。だから、あなた
の目が澄んでおれば、全身も明るいだろ
う。 *23*しかし、あなたの目が悪ければ、全
身も暗いだろう。だから、もしあなたの内な
る光が暗ければ、その暗さは、どんなであ
ろう。 *24*だれも、ふたりの主人に兼ね仕え
ることはできない。一方を憎んで他方を愛
し、あるいは、一方に親しんで他方をうと
んじるからである。あなたがたは、神と富と
に兼ね仕えることはできない。 *25*それだ
から、あなたがたに言っておく。何を食べ
ようか、何を飲もうかと、自分の命のことで
思いわずらい、何を着ようかと自分のから
だのことで思いわずらうな。命は食物にま
さり、からだは着物にまさるではないか。
*26*空の鳥を見るがよい。まくことも、刈る
こともせず、倉に取りいれることもしない。そ
れだのに、あなたがたの天の父は彼らを
養っていて下さる。あなたがたは彼らより
も、はるかにすぐれた者ではないか。
*27*あなたがたのうち、だれが思いわずら

ったからとて、自分の寿命をわずかでも延
ばすことができようか。 28また、なぜ、着
物のことで思いわずらうのか。野の花がど
うして育っているか、考えて見るがよい。
働きもせず、紡ぎもしない。 29しかし、あ
なたがたに言うが、栄華をきわめた時のソ
ロモンでさえ、この花の一つほどにも着飾
ってはいなかった。 30きょうは生えていて
、あすは炉に投げ入れられる野の草でさ
え、神はこのように装って下さるのなら、あ
なたがたに、それ以上よくしてくださらな
いはずがあろうか。ああ、信仰の薄い者た
ちよ。 31だから、何を食べようか、何を飲
もうか、あるいは何を着ようかと言って思い
わずらうな。 32これらのものはみな、異邦
人が切に求めているものである。あなたが
たの天の父は、これらのものが、ことごとく
あなたがたに必要であることをご存じであ
る。 33まず神の国と神の義とを求めなさ
い。そうすれば、これらのものは、すべて
添えて与えられるであろう。 34だから、あ
すのことを思いわずらうな。あすのことは、
あす自身が思いわずらうであろう。一日の
苦労は、その日一日だけで十分である。

7 人をさばくな。自分がさばかれないた
めである。 2あなたがたがさばくそのさば
きで、自分もさばかれ、あなたがたの量る
そのはかりで、自分にも量り与えられるで
あろう。 3なぜ、兄弟の目にあるちりを見
ながら、自分の目にある梁を認めないの
か。 4自分の目には梁があるのに、どうし
て兄弟にむかって、あなたの目からちりを
取らせてください、と言えようか。 5偽善者
よ、まず自分の目から梁を取りのけるがよ
い。そうすれば、はっきり見えるようになっ
て、兄弟の目からちりを取りのけることが
できるだろう。 6聖なるものを犬にやるな。
また真珠を豚に投げてやるな。恐らく彼ら
はそれらを足で踏みつけ、向きなおって
あなたがたにかみついてくるであろう。
7求めよ、そうすれば、与えられるであろう
。捜せ、そうすれば、見いだすであろう。
門をたたけ、そうすれば、あけてもらえる
であろう。 8すべて求める者は得、捜す者
は見いだし、門をたたく者はあけてもらえ
るからである。 9あなたがたのうちで、自分
の子がパンを求めるのに、石を与える者
があろうか。 10魚を求めるのに、へびを与
える者があろうか。 11このように、あなた
がたは悪い者であっても、自分の子供に
は、良い贈り物をすることを知っていると
すれば、天にいますあなたがたの父はな
おさら、求めてくる者に良いものを下さら
ないことがあろうか。 12だから、何事でも
人々からしてほしいと望むことは、人々に
もそのとおりにせよ。これが律法であり預
言者である。 13狭い門からはいれ。滅び
にいたる門は大きく、その道は広い。そし
て、そこからはいって行く者が多い。 14命
にいたる門は狭く、その道は細い。そして
、それを見いだす者が少ない。 15にせ預
言者を警戒せよ。彼らは、羊の衣を着て
あなたがたのところに来るが、その内側は
強欲なおおかみである。 16あなたがたは
、その実によって彼らを見わけるであろう
。茨からぶどうを、あざみからいちじくを集
める者があろうか。 17そのように、すべて
良い木は良い実を結び、悪い木は悪い
実を結ぶ。 18良い木が悪い実をならせる
ことはないし、悪い木が良い実をならせる
ことはできない。 19良い実を結ばない木
はことごとく切られて、火の中に投げ込まれ
る。 20このように、あなたがたはその実
によって彼らを見わけるのである。 21わた
しにむかって『主よ、主よ』と言う者が、み
な天国にはいるのではなく、ただ、天にい
ますわが父の御旨を行う者だけが、はい
るのである。 22その日には、多くの者が、
わたしにむかって『主よ、主よ、わたしたち
はあなたの名によって預言したではありま
せんか。また、あなたの名によって悪霊を
追い出し、あなたの名によって多くの力あ
るわざを行ったではありませんか』と言うで
あろう。 23そのとき、わたしは彼らにはっ
きり、こう言おう、『あなたがたを全く知らな
い。不法を働く者どもよ、行ってしまえ』。
24それで、わたしのこれらの言葉を聞い
て行うものを、岩の上に自分の家を建て
た賢い人に比べることができよう。 25雨が
降り、洪水が押し寄せ、風が吹いてその
家に打ちつけても、倒れることはない。岩
を土台としているからである。 26また、わ
たしのこれらの言葉を聞いても行わない
者を、砂の上に自分の家を建てた愚かな
人に比べることができよう。 27雨が降り、

洪水が押し寄せ、風が吹いてその家に打
ちつけると、倒れてしまう。そしてその倒れ
方はひどいのである」。 *28*イエスがこれら
の言を語り終えられると、群衆はその教に
ひどく驚いた。 *29*それは律法学者たちの
ようにではなく、権威ある者のように、教え
られたからである。

8 イエスが山をお降りになると、おびただ
しい群衆がついてきた。 *2*すると、そのとき
、ひとりのらい病人がイエスのところにきて
、ひれ伏して言った、「主よ、みこころでし
たら、きよめていただけるのですが」。 *3*イ
エスは手を伸ばして、彼にさわり、「そうし
てあげよう、きよくなれ」と言われた。すると
、らい病は直ちにきよめられた。 *4*イエス
は彼に言われた、「だれにも話さないよう
に、注意しなさい。ただ行って、自分のか
らだを祭司に見せ、それから、モーセが
命じた供え物をささげて、人々に証明しな
さい」。 *5*さて、イエスがカペナウムに帰っ
てこられたとき、ある百卒長がみもとにきて
訴えて言った、 *6*「主よ、わたしの僕が中
風でひどく苦しんで、家に寝ています」。
*7*イエスは彼に、「わたしが行ってなおし
てあげよう」と言われた。 *8*そこで百卒長
は答えて言った、「主よ、わたしの屋根の
下にあなたをお入れする資格は、わたし
にはございません。ただ、お言葉を下さい
。そうすれば僕はなおります。 *9*わたしも
権威の下にある者ですが、わたしの下に
も兵卒がいまして、ひとりの者に『行け』と
言えば行き、ほかの者に『こい』と言えばき
ますし、また、僕に『これをせよ』と言えば、
してくれるのです」。 *10*イエスはこれを聞
いて非常に感心され、ついてきた人々に
言われた、「よく聞きなさい。イスラエル人
の中にも、これほどの信仰を見たことがな
い。 *11*なお、あなたがたに言うが、多くの
人が東から西からきて、天国で、アブラハ
ム、イサク、ヤコブと共に宴会の席につく
が、 *12*この国の子らは外のやみに追い出
され、そこで泣き叫んだり、歯がみをしたり
するであろう」。 *13*それからイエスは百卒
長に「行け、あなたの信じたとおりになるよ
うに」と言われた。すると、ちょうどその時
に、僕はいやされた。 *14*それから、イエス
はペテロの家にはいって行かれ、そのし
ゅうとめが熱病で、床についているのをご
らんになった。 *15*そこで、その手にさわら
れると、熱が引いた。そして女は起きあが
ってイエスをもてなした。 *16*夕暮になると
、人々は悪霊につかれた者を大ぜい、み
もとに連れてきたので、イエスはみ言葉を
もって霊どもを追い出し、病人をことごとく
おいやしになった。 *17*これは、預言者イ
ザヤによって「彼は、わたしたちのわずら
いを身に受け、わたしたちの病を負うた」
と言われた言葉が成就するためである。
*18*イエスは、群衆が自分のまわりに群が
っているのを見て、向こう岸に行くようにと
弟子たちにお命じになった。 *19*するとひ
とりの律法学者が近づいてきて言った、
「先生、あなたがおいでになる所なら、ど
こへでも従ってまいります」。 *20*イエスは
その人に言われた、「きつねには穴があり
、空の鳥には巣がある。しかし、人の子に
はまくらする所がない」。 *21*また弟子のひ
とりが言った、「主よ、まず、父を葬りに行
かせて下さい」。 *22*イエスは彼に言われ
た、「わたしに従ってきなさい。そして、そ
の死人を葬ることは、死人に任せておくが
よい」。 *23*それから、イエスが舟に乗り込
まれると、弟子たちも従った。 *24*すると突
然、海上に激しい暴風が起って、舟は波
にのまれそうになった。ところが、イエスは
眠っておられた。 *25*そこで弟子たちはみ
そばに寄ってきてイエスを起し、「主よ、お
助けください、わたしたちは死にそうです」
と言った。 *26*するとイエスは彼らに言われ
た、「なぜこわがるのか、信仰の薄い者た
ちよ」。それから起きあがって、風と海とを
おしかりになると、大なぎになった。 *27*彼
らは驚いて言った、「このかたはどういう人
なのだろう。風も海も従わせるとは」。
*28*それから、向こう岸、ガダラ人の地に着
かれると、悪霊につかれたふたりの者が、
墓場から出てきてイエスに出会った。彼ら
は手に負えない乱暴者で、だれもその辺
の道を通ることができないほどであった。
*29*すると突然、彼らは叫んで言った、「神
の子よ、あなたはわたしどもとなんの係わ
りがあるのです。まだその時ではないのに
、ここにきて、わたしどもを苦しめるのです
か」。 *30*さて、そこからはるか離れた所に
、おびただしい豚の群れが飼ってあった。

*31*悪霊どもはイエスに願って言った、「もしわたしどもを追い出されるのなら、あの豚の群れの中につかわして下さい」。
*32*そこで、イエスが「行け」と言われると、彼らは出て行って、豚の中へはいり込んだ。すると、その群れ全体が、がけから海へなだれを打って駆け下り、水の中で死んでしまった。*33*飼う者たちは逃げて町に行き、悪霊につかれた者たちのことなど、いっさいを知らせた。*34*すると、町中の者がイエスに会いに出てきた。そして、イエスに会うと、この地方から去ってくださるようにと頼んだ。

9 さて、イエスは舟に乗って海を渡り、自分の町に帰られた。*2*すると、人々が中風の者を床の上に寝かせたままでみもとに運んできた。イエスは彼らの信仰を見て、中風の者に、「子よ、しっかりしなさい。あなたの罪はゆるされたのだ」と言われた。
*3*すると、ある律法学者たちが心の中で言った、「この人は神を汚している」。*4*イエスは彼らの考えを見抜いて、「なぜ、あなたがたは心の中で悪いことを考えているのか。*5*あなたの罪はゆるされた、と言うのと、起きて歩け、と言うのと、どちらがたやすいか。*6*しかし、人の子は地上で罪をゆるす権威をもっていることが、あなたがたにわかるために」と言い、中風の者にむかって、「起きよ、床を取りあげて家に帰れ」と言われた。*7*すると彼は起きあがり、家に帰って行った。*8*群衆はそれを見て恐れ、こんな大きな権威を人にお与えになった神をあがめた。*9*さてイエスはそこから進んで行かれ、マタイという人が収税所にすわっているのを見て、「わたしに従ってきなさい」と言われた。すると彼は立ちあがって、イエスに従った。*10*それから、イエスが家で食事の席についておられた時のことである。多くの取税人や罪人たちがきて、イエスや弟子たちと共にその席に着いていた。*11*パリサイ人たちはこれを見て、弟子たちに言った、「なぜ、あなたがたの先生は、取税人や罪人などと食事を共にするのか」。*12*イエスはこれを聞いて言われた、「丈夫な人には医者はいらない。いるのは病人である。*13*『わたしが好むのは、あわれみであって、いけにえではない』とはどういう意味か、学んできなさい。わたしがきたのは、義人を招くためではなく、罪人を招くためである」。*14*そのとき、ヨハネの弟子たちがイエスのところにきて言った、「わたしたちとパリサイ人たちとが断食をしているのに、あなたの弟子たちは、なぜ断食をしないのですか」。
*15*するとイエスは言われた、「婚礼の客は、花婿が一緒にいる間は、悲しんでおられようか。しかし、花婿が奪い去られる日が来る。その時には断食をするであろう。
*16*だれも、真新しい布ぎれで、古い着物につぎを当てはしない。そのつぎきれは着物を引き破り、そして、破れがもっとひどくなるから。*17*だれも、新しいぶどう酒を古い皮袋に入れはしない。もしそんなことをしたら、その皮袋は張り裂け、酒は流れ出るし、皮袋もむだになる。だから、新しいぶどう酒は新しい皮袋に入れるべきである。そうすれば両方とも長もちがするであろう」。*18*これらのことを彼らに話しておられると、そこにひとりの会堂司がきて、イエスを拝して言った、「わたしの娘がただ今死にました。しかしおいでになって手をその上においてやって下さい。そうしたら、娘は生き返るでしょう」。*19*そこで、イエスが立って彼について行かれると、弟子たちも一緒に行った。*20*するとそのとき、十二年間も長血をわずらっている女が近寄ってきて、イエスのうしろからみ衣のふさにさわった。*21*み衣にさわりさえすれば、なおしていただけるだろう、と心の中で思っていたからである。*22*イエスは振り向いて、この女を見て言われた、「娘よ、しっかりしなさい。あなたの信仰があなたを救ったのです」。するとこの女はその時に、いやされた。*23*それからイエスは司の家に着き、笛吹きどもや騒いでいる群衆を見て言われた。*24*「あちらへ行っていなさい。少女は死んだのではない。眠っているだけである」。すると人々はイエスをあざ笑った。*25*しかし、群衆を外へ出したのち、イエスは内へはいって、少女の手をお取りになると、少女は起きあがった。
*26*そして、そのうわさがこの地方全体にひろまった。*27*そこから進んで行かれると、ふたりの盲人が、「ダビデの子よ、わたしたちをあわれんで下さい」と叫びながら、

イエスについてきた。 *28*そしてイエスが家
にはいられると、盲人たちがみもとにきた
ので、彼らに「わたしにそれができると信じ
るか」と言われた。彼らは言った、「主よ、
信じます」。 *29*そこで、イエスは彼らの目
にさわって言われた、「あなたがたの信仰
どおり、あなたがたの身になるように」。
*30*すると彼らの目が開かれた。イエスは
彼らをきびしく戒めて言われた、「だれに
も知れないように気をつけなさい」。 *31*し
かし、彼らは出て行って、その地方全体
にイエスのことを言いひろめた。 *32*彼らが
出て行くと、人々は悪霊につかれたおし
をイエスのところに連れてきた。 *33*すると
、悪霊は追い出されて、おしが物を言う
ようになった。群衆は驚いて、「このような
ことがイスラエルの中で見られたことは、
これまで一度もなかった」と言った。 *34*しか
し、パリサイ人たちは言った、「彼は、悪霊
どものかしらによって悪霊どもを追い出し
ているのだ」。 *35*イエスは、すべての町々
村々を巡り歩いて、諸会堂で教え、御国
の福音を宣べ伝え、あらゆる病気、あらゆ
るわずらいをおいやしになった。 *36*また
群衆が飼う者のない羊のように弱り果てて
、倒れているのをごらんになって、彼らを
深くあわれまれた。 *37*そして弟子たちに
言われた、「収穫は多いが、働き人が少な
い。 *38*だから、収穫の主に願って、その
収穫のために働き人を送り出すようにして
もらいなさい」。

10 そこで、イエスは十二弟子を呼び寄
せて、汚れた霊を追い出し、あらゆる病気
、あらゆるわずらいをいやす権威をお授
けになった。 *2*十二使徒の名は、次のとお
りである。まずペテロと呼ばれたシモンと
その兄弟アンデレ、それからゼベダイの
子ヤコブとその兄弟ヨハネ、 *3*ピリポとバ
ルトロマイ、トマスと取税人マタイ、アルパ
ヨの子ヤコブとタダイ、 *4*熱心党のシモン
とイスカリオテのユダ。このユダはイエスを
裏切った者である。 *5*イエスはこの十二人
をつかわすに当り、彼らに命じて言われた
、「異邦人の道に行くな。またサマリヤ人
の町にはいるな。 *6*むしろ、イスラエルの
家の失われた羊のところに行け。 *7*行って
、『天国が近づいた』と宣べ伝えよ。 *8*病
人をいやし、死人をよみがえらせ、らい病
人をきよめ、悪霊を追い出せ。ただで受け
たのだから、ただで与えるがよい。 *9*財布
の中に金、銀または銭を入れて行くな。
*10*旅行のための袋も、二枚の下着も、く
つも、つえも持って行くな。働き人がその
食物を得るのは当然である。 *11*どの町、
どの村にはいっても、その中でだれがふ
さわしい人か、たずね出して、立ち去るま
ではその人のところにとどまっておれ。
*12*その家にはいったなら、平安を祈って
あげなさい。 *13*もし平安を受けるにふさわ
しい家であれば、あなたがたの祈る平安
はその家に来るであろう。もしふさわしくな
ければ、その平安はあなたがたに帰って
来るであろう。 *14*もしあなたがたを迎えも
せず、またあなたがたの言葉を聞きもしな
い人があれば、その家や町を立ち去る時
に、足のちりを払い落しなさい。 *15*あなた
がたによく言っておく。さばきの日には、ソ
ドム、ゴモラの地の方が、その町よりは耐
えやすいであろう。 *16*わたしがあなたが
たをつかわすのは、羊をおおかみの中に
送るようなものである。だから、へびのよう
に賢く、はとのように素直であれ。 *17*人々
に注意しなさい。彼らはあなたがたを衆議
所に引き渡し、会堂でむち打つであろう。
*18*またあなたがたは、わたしのために長
官たちや王たちの前に引き出されるであ
ろう。それは、彼らと異邦人とに対してあ
かしをするためである。 *19*彼らがあなたが
たを引き渡したとき、何をどう言おうかと心
配しないがよい。言うべきことは、その時
に授けられるからである。 *20*語る者は、あ
なたがたではなく、あなたがたの中にあっ
て語る父の霊である。 *21*兄弟は兄弟を、
父は子を殺すために渡し、また子は親に
逆らって立ち、彼らを殺させるであろう。
*22*またあなたがたは、わたしの名のゆえ
にすべての人に憎まれるであろう。しかし
、最後まで耐え忍ぶ者は救われる。 *23*一
つの町で迫害されたなら、他の町へ逃げ
なさい。よく言っておく。あなたがたがイス
ラエルの町々を回り終らないうちに、人の
子は来るであろう。 *24*弟子はその師以上
のものではなく、僕はその主人以上の者
ではない。 *25*弟子がその師のようであり、
僕がその主人のようであれば、それで十

分である。もし家の主人がベルゼブルと
言われるならば、その家の者どもはなおさ
ら、どんなにか悪く言われることであろう。
*26*だから彼らを恐れるな。おおわれたも
ので、現れてこないものはなく、隠れてい
るもので、知られてこないものはない。
*27*わたしが暗やみであなたがたに話すこ
とを、明るみで言え。耳にささやかれたこ
とを、屋根の上で言いひろめよ。*28*また、
からだを殺しても、魂を殺すことのできな
い者どもを恐れるな。むしろ、からだも魂も
地獄で滅ぼす力のあるかたを恐れなさい
。*29*二羽のすずめは一アサリオンで売ら
れているではないか。しかもあなたがたの
父の許しがなければ、その一羽も地に落
ちることはない。*30*またあなたがたの頭の
毛までも、みな数えられている。*31*それだ
から、恐れることはない。あなたがたは多
くのすずめよりも、まさった者である。
*32*だから人の前でわたしを受けいれる者
を、わたしもまた、天にいますわたしの父
の前で受けいれるであろう。*33*しかし、人
の前でわたしを拒む者を、わたしも天にい
ますわたしの父の前で拒むであろう。
*34*地上に平和をもたらすために、わたし
がきたと思うな。平和ではなく、つるぎを投
げ込むためにきたのである。*35*わたしが
きたのは、人をその父と、娘をその母と、
嫁をそのしゅうとめと仲たがいさせるため
である。*36*そして家の者が、その人の敵
となるであろう。*37*わたしよりも父または母
を愛する者は、わたしにふさわしくない。
わたしよりもむすこや娘を愛する者は、わ
たしにふさわしくない。*38*また自分の十
字架をとってわたしに従ってこない者はわ
たしにふさわしくない。*39*自分の命を得
ている者はそれを失い、わたしのために
自分の命を失っている者は、それを得る
であろう。*40*あなたがたを受けいれる者
は、わたしを受けいれるのである。わたし
を受けいれる者は、わたしをおつかわしに
なったかたを受けいれるのである。*41*預
言者の名のゆえに預言者を受けいれる者
は、預言者の報いを受け、義人の名のゆ
えに義人を受けいれる者は、義人の報い
を受けるであろう。*42*わたしの弟子である
という名のゆえに、この小さい者のひとり
に冷たい水一杯でも飲ませてくれる者は
、よく言っておくが、決してその報いからも
れることはない」。

11 イエスは十二弟子にこのように命じ終
えてから、町々で教えまた宣べ伝えるた
めに、そこを立ち去られた。*2*さて、ヨハネ
は獄中でキリストのみわざについて伝え
聞き、自分の弟子たちをつかわして、*3*イ
エスに言わせた、「『きたるべきかた』はあ
なたなのですか。それとも、ほかにだれか
を待つべきでしょうか」。*4*イエスは答えて
言われた、「行って、あなたがたが見聞き
していることをヨハネに報告しなさい。*5*盲
人は見え、足なえは歩き、らい病人はきよ
まり、耳しいは聞え、死人は生きかえり、
貧しい人々は福音を聞かされている。
*6*わたしにつまずかない者は、さいわいで
ある」。*7*彼らが帰ってしまうと、イエスはヨ
ハネのことを群衆に語りはじめられた、「あ
なたがたは、何を見に荒野に出てきたの
か。風に揺らぐ葦であるか。*8*では、何を
見に出てきたのか。柔らかい着物をまとっ
た人か。柔らかい着物をまとった人々なら
、王の家にいる。*9*では、なんのために出
てきたのか。預言者を見るためか。そうだ
、あなたがたに言うが、預言者以上の者
である。*10*『見よ、わたしは使をあなたの
先につかわし、あなたの前に、道を整えさ
せるであろう』と書いてあるのは、この人の
ことである。*11*あなたがたによく言っておく。女の産んだ者の中で、バプテスマのヨハネより大きい人物は起らなかった。しかし、天国で最も小さい者も、彼よりは大きい。*12*バプテスマのヨハネの時から今に至るまで、天国は激しく襲われている。そして激しく襲う者たちがそれを奪い取っている。*13*すべての預言者と律法とが預言したのは、ヨハネの時までである。*14*そして、もしあなたがたが受けいれることを望めば、この人こそは、きたるべきエリヤなのである。*15*耳のある者は聞くがよい。
*16*今の時代を何に比べようか。それは子供たちが広場にすわって、ほかの子供たちに呼びかけ、*17*『わたしたちが笛を吹いたのに、あなたたちは踊ってくれなかった。弔いの歌を歌ったのに、胸を打ってくれなかった』と言うのに似ている。*18*なぜなら、ヨハネがきて、食べることも、飲むこ

ともしないと、あれは悪霊につかれている
のだ、と言い、 *19*また人の子がきて、食べ
たり飲んだりしていると、見よ、あれは食を
むさぼる者、大酒を飲む者、また取税人、
罪人の仲間だ、と言う。しかし、知恵の正
しいことは、その働きが証明する」。 *20*そ
れからイエスは、数々の力あるわざがなさ
れたのに、悔い改めることをしなかった町
々を、責めはじめられた。 *21*「わざわいだ
、コラジンよ。わざわいだ、ベツサイダよ。
おまえたちのうちでなされた力あるわざが
、もしツロとシドンでなされたなら、彼らは
とうの昔に、荒布をまとい灰をかぶって、
悔い改めたであろう。 *22*しかし、おまえた
ちに言っておく。さばきの日には、ツロとシ
ドンの方がおまえたちよりも、耐えやすい
であろう。 *23*ああ、カペナウムよ、おまえ
は天にまで上げられようとでもいうのか。
黄泉にまで落されるであろう。おまえの中
でなされた力あるわざが、もしソドムでなさ
れたなら、その町は今日までも残っていた
であろう。 *24*しかし、あなたがたに言う。さ
ばきの日には、ソドムの地の方がおまえよ
りは耐えやすいであろう」。 *25*そのときイ
エスは声をあげて言われた、「天地の主な
る父よ。あなたをほめたたえます。これら
の事を知恵のある者や賢い者に隠して、
幼な子にあらわしてくださいました。 *26*父
よ、これはまことにみこころにかなった事
でした。 *27*すべての事は父からわたしに
任せられています。そして、子を知る者は
父のほかにはなく、父を知る者は、子と、
父をあらわそうとして子が選んだ者とのほ
かに、だれもありません。 *28*すべて重荷
を負うて苦労している者は、わたしのもと
にきなさい。あなたがたを休ませてあげよ
う。 *29*わたしは柔和で心のへりくだった者
であるから、わたしのくびきを負うて、わた
しに学びなさい。そうすれば、あなたがた
の魂に休みが与えられるであろう。 *30*わ
たしのくびきは負いやすく、わたしの荷は
軽いからである」。

12 そのころ、ある安息日に、イエスは麦
畑の中を通られた。すると弟子たちは、空
腹であったので、穂を摘んで食べはじめ
た。 *2*パリサイ人たちがこれを見て、イエス
に言った、「ごらんなさい、あなたの弟子
たちが、安息日にしてはならないことをし
ています」。 *3*そこでイエスは彼らに言わ
れた、「あなたがたは、ダビデとその供の
者たちとが飢えたとき、ダビデが何をした
か読んだことがないのか。 *4*すなわち、神
の家にはいって、祭司たちのほか、自分
も供の者たちも食べてはならぬ供えのパ
ンを食べたのである。 *5*また、安息日に宮
仕えをしている祭司たちは安息日を破っ
ても罪にはならないことを、律法で読んだ
ことがないのか。 *6*あなたがたに言っておく。宮よりも大いなる者がここにいる。 *7*『わたしが好むのは、あわれみであって、いけにえではない』とはどういう意味か知っていたなら、あなたがたは罪のない者をとがめなかったであろう。 *8*人の子は安息日の主である」。 *9*イエスはそこを去って、彼らの会堂にはいられた。 *10*すると、そのとき、片手のなえた人がいた。人々はイエスを訴えようと思って、「安息日に人をいやしても、さしつかえないか」と尋ねた。 *11*イエスは彼らに言われた、「あなたがたのうちに、一匹の羊を持っている人があるとして、もしそれが安息日に穴に落ちこんだなら、手をかけて引き上げてやらないだろうか。 *12*人は羊よりも、はるかにすぐれているではないか。だから、安息日に良いことをするのは、正しいことである」。 *13*そしてイエスはその人に、「手を伸ばしなさい」と言われた。そこで手を伸ばすと、ほかの手のように良くなった。 *14*パリサイ人たちは出て行って、なんとかしてイエスを殺そうと相談した。 *15*イエスはこれを知って、そこを去って行かれた。ところが多くの人々がついてきたので、彼らを皆いやし、 *16*そして自分のことを人々にあらわさないようにと、彼らを戒められた。 *17*これは預言者イザヤの言った言葉が、成就するためである、 *18*「見よ、わたしが選んだ僕、わたしの心にかなう、愛する者。わたしは彼にわたしの霊を授け、そして彼は正義を異邦人に宣べ伝えるであろう。 *19*彼は争わず、叫ばず、またその声を大路で聞く者はない。 *20*彼が正義に勝ちを得させる時まで、いためられた葦を折ることがなく、煙っている燈心を消すこともない。 *21*異邦人は彼の名に望みを置くであろう」。 *22*そのとき、人々が悪霊につかれた盲

人のおしを連れてきたので、イエスは彼を
いやして、物を言い、また目が見えるよう
にされた。 23すると群衆はみな驚いて言
った、「この人が、あるいはダビデの子で
はあるまいか」。 24しかし、パリサイ人たち
は、これを聞いて言った、「この人が悪霊
を追い出しているのは、まったく悪霊のか
しらベルゼブルによるのだ」。 25イエスは
彼らの思いを見抜いて言われた、「おおよ
そ、内部で分れ争う国は自滅し、内わで
分れ争う町や家は立ち行かない。 26もし
サタンがサタンを追い出すならば、それは
内わで分れ争うことになる。それでは、そ
の国はどうして立ち行けよう。 27もしわた
しがベルゼブルによって悪霊を追い出す
とすれば、あなたがたの仲間はだれによ
って追い出すのであろうか。だから、彼ら
があなたがたをさばく者となるであろう。
28しかし、わたしが神の霊によって悪霊
を追い出しているのなら、神の国はすで
にあなたがたのところにきたのである。
29まただれでも、まず強い人を縛りあげ
なければ、どうして、その人の家に押し入
って家財を奪い取ることができようか。縛
ってから、はじめてその家を掠奪すること
ができる。 30わたしの味方でない者は、
わたしに反対するものであり、わたしと共
に集めない者は、散らすものである。
31だから、あなたがたに言っておく。人に
は、その犯すすべての罪も神を汚す言葉
も、ゆるされる。しかし、聖霊を汚す言葉
は、ゆるされることはない。 32また人の子
に対して言い逆らう者は、ゆるされるであ
ろう。しかし、聖霊に対して言い逆らう者は
、この世でも、きたるべき世でも、ゆるされ
ることはない。 33木が良ければ、その実も
良いとし、木が悪ければ、その実も悪いと
せよ。木はその実でわかるからである。
34まむしの子らよ。あなたがたは悪い者
であるのに、どうして良いことを語ることが
できようか。おおよそ、心からあふれること
を、口が語るものである。 35善人はよい
倉から良い物を取り出し、悪人は悪い倉
から悪い物を取り出す。 36あなたがたに
言うが、審判の日には、人はその語る無
益な言葉に対して、言い開きをしなけれ
ばならないであろう。 37あなたは、自分の
言葉によって正しいとされ、また自分の言
葉によって罪ありとされるからである」。
38そのとき、律法学者、パリサイ人のうち
のある人々がイエスにむかって言った、
「先生、わたしたちはあなたから、しるしを
見せていただきとうございます」。 39すると、彼らに答えて言われた、「邪悪で不義
な時代は、しるしを求める。しかし、預言
者ヨナのしるしのほかには、なんのしるし
も与えられないであろう。 40すなわち、ヨ
ナが三日三晩、大魚の腹の中にいたよう
に、人の子も三日三晩、地の中にいるで
あろう。 41ニネベの人々が、今の時代の
人々と共にさばきの場に立って、彼らを罪
に定めるであろう。なぜなら、ニネベの人
々はヨナの宣教によって悔い改めたから
である。しかし見よ、ヨナにまさる者がここ
にいる。 42南の女王が、今の時代の人々
と共にさばきの場に立って、彼らを罪に定
めるであろう。なぜなら、彼女はソロモンの
知恵を聞くために地の果から、はるばるき
たからである。しかし見よ、ソロモンにまさ
る者がここにいる。 43汚れた霊が人から
出ると、休み場を求めて水の無い所を歩
きまわるが、見つからない。 44そこで、出
てきた元の家に帰ろうと言って帰って見る
と、その家はあいていて、そうじがしてある
上、飾りつけがしてあった。 45そこでまた
出て行って、自分以上に悪い他の七つの
霊を一緒に引き連れてきて中にはいり、
そこに住み込む。そうすると、その人のの
ちの状態は初めよりももっと悪くなるので
ある。よこしまな今の時代も、このようにな
るであろう」。 46イエスがまだ群衆に話し
ておられるとき、その母と兄弟たちとが、イ
エスに話そうと思って外に立っていた。
47それで、ある人がイエスに言った、「ごら
んなさい。あなたの母上と兄弟がたが、
あなたに話そうと思って、外に立っておら
れます」。 48イエスは知らせてくれた者に
答えて言われた、「わたしの母とは、だれ
のことか。わたしの兄弟とは、だれのことか
」。 49そして、弟子たちの方に手をさし伸
べて言われた、「ごらんなさい。ここにわた
しの母、わたしの兄弟がいる。 50天にい
ますわたしの父のみこころを行う者はだれ
でも、わたしの兄弟、また姉妹、また母な
のである」。

13 その日、イエスは家を出て、海べに
すわっておられた。 2ところが、大ぜいの
群衆がみもとに集まったので、イエスは舟
に乗ってすわられ、群衆はみな岸に立っ
ていた。 3イエスは譬で多くの事を語り、こ
う言われた、「見よ、種まきが種をまきに出
て行った。 4まいているうちに、道ばたに
落ちた種があった。すると、鳥がきて食べ
てしまった。 5ほかの種は土の薄い石地
に落ちた。そこは土が深くないので、すぐ
芽を出したが、 6日が上ると焼けて、根が
ないために枯れてしまった。 7ほかの種は
いばらの地に落ちた。すると、いばらが伸
びて、ふさいでしまった。 8ほかの種は良
い地に落ちて実を結び、あるものは百倍、
あるものは六十倍、あるものは三十倍にも
なった。 9耳のある者は聞くがよい」。
10それから、弟子たちがイエスに近寄っ
てきて言った、「なぜ、彼らに譬でお話し
になるのですか」。 11そこでイエスは答え
て言われた、「あなたがたには、天国の奥
義を知ることが許されているが、彼らには
許されていない。 12おおよそ、持ってい
る人は与えられて、いよいよ豊かになるが
、持っていない人は、持っているものまで
も取り上げられるであろう。 13だから、彼
らには譬で語るのである。それは彼らが、
見ても見ず、聞いても聞かず、また悟らな
いからである。 14こうしてイザヤの言った
預言が、彼らの上に成就したのである。
『あなたがたは聞くには聞くが、決して悟
らない。見るには見るが、決して認めない
。 15この民の心は鈍くなり、その耳は聞え
にくく、その目は閉じている。それは、彼ら
が目で見ず、耳で聞かず、心で悟らず、
悔い改めていやされることがないためであ
る』。 16しかし、あなたがたの目は見てお
り、耳は聞いているから、さいわいである。
17あなたがたによく言っておく。多くの預
言者や義人は、あなたがたの見ていること
を見ようと熱心に願ったが、見ることができ
ず、またあなたがたの聞いていることを聞
こうとしたが、聞けなかったのである。
18そこで、種まきの譬を聞きなさい。
19だれでも御国の言を聞いて悟らないな
らば、悪い者がきて、その人の心にまかれ
たものを奪いとって行く。道ばたにまかれ
たものというのは、そういう人のことである
。 20石地にまかれたものというのは、御言
を聞くと、すぐに喜んで受ける人のことで
ある。 21その中に根がないので、しばらく
続くだけであって、御言のために困難や
迫害が起ってくると、すぐつまずいてしまう
。 22また、いばらの中にまかれたものとは
、御言を聞くが、世の心づかいと富の惑わ
しとが御言をふさぐので、実を結ばなくな
る人のことである。 23また、良い地にまか
れたものとは、御言を聞いて悟る人のこと
であって、そういう人が実を結び、百倍、
あるいは六十倍、あるいは三十倍にもな
るのである」。 24また、ほかの譬を彼らに
示して言われた、「天国は、良い種を自分
の畑にまいておいた人のようなものである
。 25人々が眠っている間に敵がきて、麦
の中に毒麦をまいて立ち去った。 26芽が
はえ出て実を結ぶと、同時に毒麦もあら
われてきた。 27僕たちがきて、家の主人
に言った、『ご主人様、畑におまきになっ
たのは、良い種ではありませんでしたか。
どうして毒麦がはえてきたのですか』。
28主人は言った、『それは敵のしわざだ』
。すると僕たちが言った『では行って、そ
れを抜き集めましょうか』。 29彼は言った
、『いや、毒麦を集めようとして、麦も一緒
に抜くかも知れない。 30収穫まで、両方と
も育つままにしておけ。収穫の時になった
ら、刈る者に、まず毒麦を集めて束にして
焼き、麦の方は集めて倉に入れてくれ、と
言いつけよう』」。 31また、ほかの譬を彼ら
に示して言われた、「天国は、一粒のから
し種のようなものである。ある人がそれをと
って畑にまくと、 32それはどんな種よりも
小さいが、成長すると、野菜の中でいちば
ん大きくなり、空の鳥がきて、その枝に宿
るほどの木になる」。 33またほかの譬を彼
らに語られた、「天国は、パン種のようなも
のである。女がそれを取って三斗の粉の
中に混ぜると、全体がふくらんでくる」。
34イエスはこれらのことをすべて、譬で群
衆に語られた。譬によらないでは何事も
彼らに語られなかった。 35これは預言者
によって言われたことが、成就するためで
ある、「わたしは口を開いて譬を語り、世
の初めから隠されていることを語り出そう」
。 36それからイエスは、群衆をあとに残し
て家にはいられた。すると弟子たちは、

みもとにきて言った、「畑の毒麦の譬を説
明してください」。 *37*イエスは答えて言わ
れた、「良い種をまく者は、人の子である。
*38*畑は世界である。良い種と言うのは御
国の子たちで、毒麦は悪い者の子たちで
ある。 *39*それをまいた敵は悪魔である。
収穫とは世の終りのことで、刈る者は御使
たちである。 *40*だから、毒麦が集められ
て火で焼かれるように、世の終りにもその
とおりになるであろう。 *41*人の子はその使
たちをつかわし、つまずきとなるものと不
法を行う者とを、ことごとく御国からとり集
めて、 *42*炉の火に投げ入れさせるであろ
う。そこでは泣き叫んだり、歯がみをしたり
するであろう。 *43*そのとき、義人たちは彼
らの父の御国で、太陽のように輝きわたる
であろう。耳のある者は聞くがよい。 *44*天
国は、畑に隠してある宝のようなものであ
る。人がそれを見つけると隠しておき、喜
びのあまり、行って持ち物をみな売りはら
い、そしてその畑を買うのである。 *45*また
天国は、良い真珠を捜している商人のよう
なものである。 *46*高価な真珠一個を見い
だすと、行って持ち物をみな売りはらい、
そしてこれを買うのである。 *47*また天国は
、海におろして、あらゆる種類の魚を囲み
いれる網のようなものである。 *48*それがい
っぱいになると岸に引き上げ、そしてすわ
って、良いのを器に入れ、悪いのを外へ
捨てるのである。 *49*世の終りにも、そのと
おりになるであろう。すなわち、御使たち
がきて、義人のうちから悪人をえり分け、
*50*そして炉の火に投げこむであろう。そこ
では泣き叫んだり、歯がみをしたりするで
あろう。 *51*あなたがたは、これらのことが
皆わかったか」。彼らは「わかりました」と答
えた。 *52*そこで、イエスは彼らに言われた
、「それだから、天国のことを学んだ学者
は、新しいものと古いものとを、その倉から
取り出す一家の主人のようなものである」
。 *53*イエスはこれらの譬を語り終えてから
、そこを立ち去られた。 *54*そして郷里に
行き、会堂で人々を教えられたところ、彼
らは驚いて言った、「この人は、この知恵
とこれらの力あるわざとを、どこで習ってき
たのか。 *55*この人は大工の子ではないか
。母はマリヤといい、兄弟たちは、ヤコブ、
ヨセフ、シモン、ユダではないか。 *56*また
その姉妹たちもみな、わたしたちと一緒に
いるではないか。こんな数々のことを、い
ったい、どこで習ってきたのか」。 *57*こうし
て人々はイエスにつまずいた。しかし、イ
エスは言われた、「預言者は、自分の郷
里や自分の家以外では、どこででも敬わ
れないことはない」。 *58*そして彼らの不信
仰のゆえに、そこでは力あるわざを、あま
りなさらなかった。

14 そのころ、領主ヘロデはイエスのうわ
さを聞いて、 *2*家来に言った、「あれはバ
プテスマのヨハネだ。死人の中からよみが
えったのだ。それで、あのような力が彼の
うちに働いているのだ」。 *3*というのは、ヘ
ロデは先に、自分の兄弟ピリポの妻ヘロ
デヤのことで、ヨハネを捕えて縛り、獄に
入れていた。 *4*すなわち、ヨハネはヘロデ
に、「その女をめとるのは、よろしくない」と
言ったからである。 *5*そこでヘロデはヨハ
ネを殺そうと思ったが、群衆を恐れた。彼
らがヨハネを預言者と認めていたからで
ある。 *6*さてヘロデの誕生日の祝に、ヘロデ
ヤの娘がその席上で舞をまい、ヘロデを
喜ばせたので、 *7*彼女の願うものは、なん
でも与えようと、彼は誓って約束までした。
*8*すると彼女は母にそそのかされて、「バ
プテスマのヨハネの首を盆に載せて、ここ
に持ってきていただきとうございます」と言
った。 *9*王は困ったが、いったん誓ったの
と、また列座の人たちの手前、それを与え
るように命じ、 *10*人をつかわして、獄中で
ヨハネの首を切らせた。 *11*その首は盆に
載せて運ばれ、少女にわたされ、少女は
それを母のところに持って行った。 *12*そ
れから、ヨハネの弟子たちがきて、死体を
引き取って葬った。そして、イエスのところ
に行って報告した。 *13*イエスはこのことを
聞くと、舟に乗ってそこを去り、自分ひとり
で寂しい所へ行かれた。しかし、群衆はそ
れと聞いて、町々から徒歩であとを追って
きた。 *14*イエスは舟から上がって、大ぜい
の群衆をごらんになり、彼らを深くあわれ
んで、そのうちの病人たちをおいやしになっ
た。 *15*夕方になったので、弟子たちが
イエスのもとにきて言った、「ここは寂しい
所でもあり、もう時もおそくなりました。群
衆を解散させ、めいめいで食物を買いに

、村々へ行かせてください」。 *16*するとイ
エスは言われた、「彼らが出かけて行くに
は及ばない。あなたがたの手で食物をや
りなさい」。 *17*弟子たちは言った、「わたし
たちはここに、パン五つと魚二ひきしか持
っていません」。 *18*イエスは言われた、
「それをここに持ってきなさい」。 *19*そして
群衆に命じて、草の上にすわらせ、五つ
のパンと二ひきの魚とを手に取り、天を仰
いでそれを祝福し、パンをさいて弟子たち
に渡された。弟子たちはそれを群衆に与
えた。 *20*みんなの者は食べて満腹した。
パンくずの残りを集めると、十二のかごに
いっぱいになった。 *21*食べた者は、女と
子供とを除いて、おおよそ五千人であっ
た。 *22*それからすぐ、イエスは群衆を解
散させておられる間に、しいて弟子たちを
舟に乗り込ませ、向こう岸へ先におやりに
なった。 *23*そして群衆を解散させてから、
祈るためひそかに山へ登られた。夕方に
なっても、ただひとりそこにおられた。 *24*と
ころが舟は、もうすでに陸から数丁も離れ
ており、逆風が吹いていたために、波に
悩まされていた。 *25*イエスは夜明けの四
時ごろ、海の上を歩いて彼らの方へ行か
れた。 *26*弟子たちは、イエスが海の上を
歩いておられるのを見て、幽霊だと言って
おじ惑い、恐怖のあまり叫び声をあげた。
*27*しかし、イエスはすぐに彼らに声をかけ
て、「しっかりするのだ、わたしである。恐
れることはない」と言われた。 *28*するとペ
テロが答えて言った、「主よ、あなたでした
か。では、わたしに命じて、水の上を渡っ
てみもとに行かせてください」。 *29*イエス
は、「おいでなさい」と言われたので、ペテ
ロは舟からおり、水の上を歩いてイエスの
ところへ行った。 *30*しかし、風を見て恐ろ
しくなり、そしておぼれかけたので、彼は
叫んで、「主よ、お助けください」と言った
。 *31*イエスはすぐに手を伸ばし、彼をつ
かまえて言われた、「信仰の薄い者よ、な
ぜ疑ったのか」。 *32*ふたりが舟に乗り込む
と、風はやんでしまった。 *33*舟の中にい
た者たちはイエスを拝して、「ほんとうに、
あなたは神の子です」と言った。 *34*それ
から、彼らは海を渡ってゲネサレの地に
着いた。 *35*するとその土地の人々はイエ
スと知って、その附近全体に人をつかわ
し、イエスのところに病人をみな連れてこ
させた。 *36*そして彼らにイエスの上着の
ふさにでも、さわらせてやっていただきた
いとお願いした。そしてさわった者は皆い
やされた。

15 ときに、パリサイ人と律法学者たちと
が、エルサレムからイエスのもとにきて言
った、 *2*「あなたの弟子たちは、なぜ昔の
人々の言伝えを破るのですか。彼らは食
事の時に手を洗っていません」。 *3*イエス
は答えて言われた、「なぜ、あなたがたも
自分たちの言伝えによって、神のいまし
めを破っているのか。 *4*神は言われた、
『父と母とを敬え』、また『父または母をの
のしる者は、必ず死に定められる』と。 *5*そ
れだのに、あなたがたは『だれでも父また
は母にむかって、あなたにさしあげるはず
のこのものは供え物です、と言えば、 *6*父
または母を敬わなくてもよろしい』と言って
いる。こうしてあなたがたは自分たちの言
伝えによって、神の言を無にしている。
*7*偽善者たちよ、イザヤがあなたがたについ
て、こういう適切な預言をしている、
8『この民は、口さきではわたしを敬うが、
その心はわたしから遠く離れている。 *9*人
間のいましめを教として教え、無意味にわ
たしを拝んでいる』」。 *10*それからイエス
は群衆を呼び寄せて言われた、「聞いて
悟るがよい。 *11*口にはいるものは人を汚
すことはない。かえって、口から出るもの
が人を汚すのである」。 *12*そのとき、弟子
たちが近寄ってきてイエスに言った、「パリ
サイ人たちが御言を聞いてつまずいたこ
とを、ご存じですか」。 *13*イエスは答えて
言われた、「わたしの天の父がお植えにな
らなかったものは、みな抜き取られるであ
ろう。 *14*彼らをそのままにしておけ。彼ら
は盲人を手引きする盲人である。もし盲人
が盲人を手引きするなら、ふたりとも穴に
落ち込むであろう」。 *15*ペテロが答えて言
った、「その譬を説明してください」。 *16*イ
エスは言われた、「あなたがたも、まだわ
からないのか。 *17*口にはいってくるものは
、みな腹の中にはいり、そして、外に出て
行くことを知らないのか。 *18*しかし、口か
ら出て行くものは、心の中から出てくるの
であって、それが人を汚すのである。

*19*というのは、悪い思い、すなわち、殺人
、姦淫、不品行、盗み、偽証、誹りは、心
の中から出てくるのであって、*20*これらの
ものが人を汚すのである。しかし、洗わな
い手で食事することは、人を汚すのでは
ない」。*21*さて、イエスはそこを出て、ツロ
とシドンとの地方へ行かれた。*22*すると、
そこへ、その地方出のカナンの女が出て
きて、「主よ、ダビデの子よ、わたしをあわ
れんでください。娘が悪霊にとりつかれて
苦しんでいます」と言って叫びつづけた。
*23*しかし、イエスはひと言もお答えにならな
かった。そこで弟子たちがみもとにきて
願って言った、「この女を追い払ってください。
叫びながらついてきていますから」。
*24*するとイエスは答えて言われた、「わた
しは、イスラエルの家の失われた羊以外
の者には、つかわされていない」。*25*しか
し、女は近寄りイエスを拝して言った、「主
よ、わたしをお助けください」。*26*イエスは
答えて言われた、「子供たちのパンを取っ
て小犬に投げてやるのは、よろしくない」。
*27*すると女は言った、「主よ、お言葉どお
りです。でも、小犬もその主人の食卓から
落ちるパンくずは、いただきます」。*28*そ
こでイエスは答えて言われた、「女よ、あな
たの信仰は見あげたものである。あなたの
願いどおりになるように」。その時に、娘は
いやされた。*29*イエスはそこを去って、ガ
リラヤの海べに行き、それから山に登って
そこにすわられた。*30*すると大ぜいの群
衆が、足なえ、不具者、盲人、おし、その
ほか多くの人々を連れてきて、イエスの足
もとに置いたので、彼らをおいやしになっ
た。*31*群衆は、おしが物を言い、不具者
が直り、足なえが歩き、盲人が見えるよう
になったのを見て驚き、そしてイスラエル
の神をほめたたえた。*32*イエスは弟子た
ちを呼び寄せて言われた、「この群衆が
かわいそうである。もう三日間もわたしと一
緒にいるのに、何も食べるものがない。し
かし、彼らを空腹のままで帰らせたくはな
い。恐らく途中で弱り切ってしまうであろう
」。*33*弟子たちは言った、「荒野の中で、
こんなに大ぜいの群衆にじゅうぶん食べ
させるほどたくさんのパンを、どこで手に
入れましょうか」。*34*イエスは弟子たちに
「パンはいくつあるか」と尋ねられると、「七
つあります。また小さい魚が少しあります」
と答えた。*35*そこでイエスは群衆に、地に
すわるようにと命じ、*36*七つのパンと魚と
を取り、感謝してこれをさき、弟子たちに
わたされ、弟子たちはこれを群衆にわけ
た。*37*一同の者は食べて満腹した。そし
て残ったパンくずを集めると、七つのかご
にいっぱいになった。*38*食べた者は、女
と子供とを除いて四千人であった。*39*そ
こでイエスは群衆を解散させ、舟に乗って
マガダンの地方へ行かれた。

16 パリサイ人とサドカイ人とが近寄って
きて、イエスを試み、天からのしるしを見
せてもらいたいと言った。*2*イエスは彼ら
に言われた、「あなたがたは夕方になると
、『空がまっかだから、晴だ』と言い、*3*ま
た明け方には『空が曇ってまっかだから、
きょうは荒れだ』と言う。あなたがたは空の
模様を見分けることを知りながら、時のし
るしを見分けることができないのか。*4*邪
悪で不義な時代は、しるしを求める。しか
し、ヨナのしるしのほかには、なんのしるし
も与えられないであろう」。そして、イエス
は彼らをあとに残して立ち去られた。*5*弟
子たちは向こう岸に行ったが、パンを持っ
て来るのを忘れていた。*6*そこでイエスは
言われた、「パリサイ人とサドカイ人とのパ
ン種を、よくよく警戒せよ」。*7*弟子たちは
、これは自分たちがパンを持ってこなかっ
たためであろうと言って、互に論じ合った
。*8*イエスはそれと知って言われた、「信
仰の薄い者たちよ、なぜパンがないから
だと互に論じ合っているのか。*9*まだわか
らないのか。覚えていないのか。五つの
パンを五千人に分けたとき、幾かご拾った
か。*10*また、七つのパンを四千人に分け
たとき、幾かご拾ったか。*11*わたしが言っ
たのは、パンについてではないことを、どう
して悟らないのか。ただ、パリサイ人とサ
ドカイ人とのパン種を警戒しなさい」。
*12*そのとき彼らは、イエスが警戒せよと言
われたのは、パン種のことではなく、パリ
サイ人とサドカイ人との教のことであると悟
った。*13*イエスがピリポ・カイザリヤの地方
に行かれたとき、弟子たちに尋ねて言わ
れた、「人々は人の子をだれと言っている
か」。*14*彼らは言った、「ある人々はバプ

テスマのヨハネだと言っています。しかし、
ほかの人たちは、エリヤだと言い、また、
エレミヤあるいは預言者のひとりだ、と言
っている者もあります」。 *15*そこでイエスは
彼らに言われた、「それでは、あなたがた
はわたしをだれと言うか」。 *16*シモン・ペテ
ロが答えて言った、「あなたこそ、生ける神
の子キリストです」。 *17*すると、イエスは彼
にむかって言われた、「バルヨナ・シモン、
あなたはさいわいである。あなたにこの事
をあらわしたのは、血肉ではなく、天にい
ますわたしの父である。 *18*そこで、わたし
もあなたに言う。あなたはペテロである。そ
して、わたしはこの岩の上にわたしの教会
を建てよう。黄泉の力もそれに打ち勝つこ
とはない。 *19*わたしは、あなたに天国の
かぎを授けよう。そして、あなたが地上で
つなぐことは、天でもつながれ、あなたが
地上で解くことは天でも解かれるであろう」
。 *20*そのとき、イエスは、自分がキリストで
あることをだれにも言ってはいけないと、
弟子たちを戒められた。 *21*この時から、イ
エス・キリストは、自分が必ずエルサレム
に行き、長老、祭司長、律法学者たちから
多くの苦しみを受け、殺され、そして三日
目によみがえるべきことを、弟子たちに示
しはじめられた。 *22*すると、ペテロはイエ
スをわきへ引き寄せて、いさめはじめ、「
主よ、とんでもないことです。そんなことが
あるはずはございません」と言った。 *23*イ
エスは振り向いて、ペテロに言われた、
「サタンよ、引きさがれ。わたしの邪魔をす
る者だ。あなたは神のことを思わないで、
人のことを思っている」。 *24*それからイエ
スは弟子たちに言われた、「だれでもわた
しについてきたいと思うなら、自分を捨て
、自分の十字架を負うて、わたしに従って
きなさい。 *25*自分の命を救おうと思う者は
それを失い、わたしのために自分の命を
失う者は、それを見いだすであろう。 *26*た
とい人が全世界をもうけても、自分の命を
損したら、なんの得になろうか。また、人は
どんな代価を払って、その命を買いもどす
ことができようか。 *27*人の子は父の栄光
のうちに、御使たちを従えて来るが、その
時には、実際のおこないに応じて、それ
ぞれに報いるであろう。 *28*よく聞いておく
がよい、人の子が御国の力をもって来る
のを見るまでは、死を味わわない者が、こ
ここに立っている者の中にいる」。

17 六日ののち、イエスはペテロ、ヤコブ
、ヤコブの兄弟ヨハネだけを連れて、高い
山に登られた。 *2*ところが、彼らの目の前
でイエスの姿が変り、その顔は日のように
輝き、その衣は光のように白くなった。
*3*すると、見よ、モーセとエリヤが彼らに現
れて、イエスと語り合っていた。 *4*ペテロは
イエスにむかって言った、「主よ、わたした
ちがここにいるのは、すばらしいことです。
もし、おさしつかえなければ、わたしはここ
に小屋を三つ建てましょう。一つはあなた
のために、一つはモーセのために、一つ
はエリヤのために」。 *5*彼がまだ話し終え
ないうちに、たちまち、輝く雲が彼らをお
おい、そして雲の中から声がした、「これ
はわたしの愛する子、わたしの心にかなう
者である。これに聞け」。 *6*弟子たちはこ
れを聞いて非常に恐れ、顔を地に伏せた
。 *7*イエスは近づいてきて、手を彼らにお
いて言われた、「起きなさい、恐れることは
ない」。 *8*彼らが目をあげると、イエスのほ
かには、だれも見えなかった。 *9*一同が山
を下って来るとき、イエスは「人の子が死
人の中からよみがえるまでは、いま見たこ
とをだれにも話してはならない」と、彼らに
命じられた。 *10*弟子たちはイエスにお尋
ねして言った、「いったい、律法学者たち
は、なぜ、エリヤが先に来るはずだと言っ
ているのですか」。 *11*答えて言われた、
「確かに、エリヤがきて、万事を元どおりに
改めるであろう。 *12*しかし、あなたがたに
言っておく。エリヤはすでにきたのだ。し
かし人々は彼を認めず、自分かってに彼
をあしらった。人の子もまた、そのように彼
らから苦しみを受けることになろう」。 *13*そ
のとき、弟子たちは、イエスがバプテスマ
のヨハネのことを言われたのだと悟った。
*14*さて彼らが群衆のところに帰ると、ひと
りの人がイエスに近寄ってきて、ひざまず
いて、言った、 *15*「主よ、わたしの子をあ
われんでください。てんかんで苦しんでお
ります。何度も何度も火の中や水の中に
倒れるのです。 *16*それで、その子をお弟
子たちのところに連れてきましたが、なお
していただけませんでした」。 *17*イエスは

答えて言われた、「ああ、なんという不信
仰な、曲った時代であろう。いつまで、わ
たしはあなたがたと一緒におられようか。
いつまであなたがたに我慢ができようか。
その子をここに、わたしのところに連れて
きなさい」。 *18*イエスがおしかりになると、
悪霊はその子から出て行った。そして子
はその時いやされた。 *19*それから、弟子
たちがひそかにイエスのもとにきて言った
、「わたしたちは、どうして霊を追い出せな
かったのですか」。 *20*するとイエスは言わ
れた、「あなたがたの信仰が足りないから
である。よく言い聞かせておくが、もし、か
らし種一粒ほどの信仰があるなら、この山
にむかって『ここからあそこに移れ』と言え
ば、移るであろう。このように、あなたがた
にできない事は、何もないであろう。
〔 *21*しかし、このたぐいは、祈と断食とによ
らなければ、追い出すことはできない〕」。
*22*彼らがガリラヤで集まっていた時、イエ
スは言われた、「人の子は人々の手にわ
たされ、 *23*彼らに殺され、そして三日目
によみがえるであろう」。弟子たちは非常
に心をいためた。 *24*彼らがカペナウムに
きたとき、宮の納入金を集める人たちがペ
テロのところにきて言った、「あなたがたの
先生は宮の納入金を納めないのか」。
*25*ペテロは「納めておられます」と言った
。そして彼が家にはいると、イエスから先
に話しかけて言われた、「シモン、あなた
はどう思うか。この世の王たちは税や貢を
だれから取るのか。自分の子からか、それ
とも、ほかの人たちからか」。 *26*ペテロが「
ほかの人たちからです」と答えると、イエス
は言われた、「それでは、子は納めなくて
もよいわけである。 *27*しかし、彼らをつま
ずかせないために、海に行って、つり針を
たれなさい。そして最初につれた魚をとっ
て、その口をあけると、銀貨一枚が見つか
るであろう。それをとり出して、わたしとあ
なたのために納めなさい」。

18 そのとき、弟子たちがイエスのもとに
きて言った、「いったい、天国ではだれが
いちばん偉いのですか」。 *2*すると、イエ
スは幼な子を呼び寄せ、彼らのまん中に
立たせて言われた、 *3*「よく聞きなさい。心
をいれかえて幼な子のようにならなければ
、天国にはいることはできないであろう。
*4*この幼な子のように自分を低くする者が
、天国でいちばん偉いのである。 *5*また、
だれでも、このようなひとりの幼な子を、わ
たしの名のゆえに受けいれる者は、わた
しを受けいれるのである。 *6*しかし、わたし
を信ずるこれらの小さい者のひとりをつま
ずかせる者は、大きなひきうすを首にかけ
られて海の深みに沈められる方が、その
人の益になる。 *7*この世は、罪の誘惑があ
るから、わざわいである。罪の誘惑は必ず
来る。しかし、それをきたらせる人は、わざ
わいである。 *8*もしあなたの片手または片
足が、罪を犯させるなら、それを切って捨
てなさい。両手、両足がそろったままで、
永遠の火に投げ込まれるよりは、片手、片
足になって命に入る方がよい。 *9*もしあな
たの片目が罪を犯させるなら、それを抜き
出して捨てなさい。両眼がそろったままで
地獄の火に投げ入れられるよりは、片目
になって命に入る方がよい。 *10*あなたが
たは、これらの小さい者のひとりをも軽ん
じないように、気をつけなさい。あなたがた
に言うが、彼らの御使たちは天にあって、
天にいますわたしの父のみ顔をいつも仰
いでいるのである。〔 *11*人の子は、滅びる
者を救うためにきたのである。〕 *12*あなた
がたはどう思うか。ある人に百匹の羊があ
り、その中の一匹が迷い出たとすれば、
九十九匹を山に残しておいて、その迷い
出ている羊を捜しに出かけないであろうか
。 *13*もしそれを見つけたなら、よく聞きな
さい、迷わないでいる九十九匹のためより
も、むしろその一匹のために喜ぶであろう
。 *14*そのように、これらの小さい者のひと
りが滅びることは、天にいますあなたがた
の父のみこころではない。 *15*もしあなたの
兄弟が罪を犯すなら、行って、彼とふたり
だけの所で忠告しなさい。もし聞いてくれ
たら、あなたの兄弟を得たことになる。
*16*もし聞いてくれないなら、ほかにひとり
ふたりを、一緒に連れて行きなさい。それ
は、ふたりまたは三人の証人の口によっ
て、すべてのことがらが確かめられるため
である。 *17*もし彼らの言うことを聞かない
なら、教会に申し出なさい。もし教会の言
うことも聞かないなら、その人を異邦人ま
たは取税人同様に扱いなさい。 *18*よく言

っておく。あなたがたが地上でつなぐことは、天でも皆つながれ、あなたがたが地上で解くことは、天でもみな解かれるであろう。 *19*また、よく言っておく。もしあなたがたのうちのふたりが、どんな願い事についても地上で心を合わせるなら、天にいますわたしの父はそれをかなえて下さるであろう。 *20*ふたりまたは三人が、わたしの名によって集まっている所には、わたしもその中にいるのである」。 *21*そのとき、ペテロがイエスのもとにきて言った、「主よ、兄弟がわたしに対して罪を犯した場合、幾たびゆるさねばなりませんか。七たびまでですか」。 *22*イエスは彼に言われた、「わたしは七たびまでとは言わない。七たびを七十倍するまでにしなさい。 *23*それだから、天国は王が僕たちと決算をするようなものだ。 *24*決算が始まると、一万タラントの負債のある者が、王のところに連れられてきた。 *25*しかし、返せなかったので、主人は、その人自身とその妻子と持ち物全部とを売って返すように命じた。 *26*そこで、この僕はひれ伏して哀願した、『どうぞお待ちください。全部お返しいたしますから』。 *27*僕の主人はあわれに思って、彼をゆるし、その負債を免じてやった。
*28*その僕が出て行くと、百デナリを貸しているひとりの仲間に出会い、彼をつかまえ、首をしめて『借金を返せ』と言った。
*29*そこでこの仲間はひれ伏し、『どうか待ってくれ。返すから』と言って頼んだ。
*30*しかし承知せずに、その人をひっぱって行って、借金を返すまで獄に入れた。
*31*その人の仲間たちは、この様子を見て、非常に心をいため、行ってそのことをのこらず主人に話した。 *32*そこでこの主人は彼を呼びつけて言った、『悪い僕、わたしに願ったからこそ、あの負債を全部ゆるしてやったのだ。 *33*わたしがあわれんでやったように、あの仲間をあわれんでやるべきではなかったか』。 *34*そして主人は立腹して、負債全部を返してしまうまで、彼を獄吏に引きわたした。 *35*あなたがためいめいも、もし心から兄弟をゆるさないならば、わたしの天の父もまたあなたがたに対して、そのようになさるであろう」。

19 イエスはこれらのことを語り終えられてから、ガリラヤを去ってヨルダンの向こうのユダヤの地方へ行かれた。 *2*すると大ぜいの群衆がついてきたので、彼らをそこでおいやしになった。 *3*さてパリサイ人たちが近づいてきて、イエスを試みようとして言った、「何かの理由で、夫がその妻を出すのは、さしつかえないでしょうか」。
*4*イエスは答えて言われた、「あなたがたはまだ読んだことがないのか。『創造者は初めから人を男と女とに造られ、 *5*そして言われた、それゆえに、人は父母を離れ、その妻と結ばれ、ふたりの者は一体となるべきである』。 *6*彼らはもはや、ふたりではなく一体である。だから、神が合わせられたものを、人は離してはならない」。 *7*彼らはイエスに言った、「それでは、なぜモーセは、妻を出す場合には離縁状を渡せ、と定めたのですか」。 *8*イエスが言われた、「モーセはあなたがたの心が、かたくななので、妻を出すことを許したのだが、初めからそうではなかった。 *9*そこでわたしはあなたがたに言う。不品行のゆえでなくて、自分の妻を出して他の女をめとる者は、姦淫を行うのである」。 *10*弟子たちは言った、「もし妻に対する夫の立場がそうだとすれば、結婚しない方がましです」。
*11*するとイエスは彼らに言われた、「その言葉を受けいれることができるのはすべての人ではなく、ただそれを授けられている人々だけである。 *12*というのは、母の胎内から独身者に生れついているものがあり、また他から独身者にされたものもあり、また天国のために、みずから進んで独身者となったものもある。この言葉を受けられる者は、受けいれるがよい」。 *13*そのとき、イエスに手をおいて祈っていただくために、人々が幼な子らをみもとに連れてきた。ところが、弟子たちは彼らをたしなめた。
*14*するとイエスは言われた、「幼な子らをそのままにしておきなさい。わたしのところに来るのをとめてはならない。天国はこのような者の国である」。 *15*そして手を彼らの上においてから、そこを去って行かれた。 *16*すると、ひとりの人がイエスに近寄ってきて言った、「先生、永遠の生命を得るためには、どんなよいことをしたらいいでしょうか」。 *17*イエスは言われた、「なぜよ

い事についてわたしに尋ねるのか。よい
かたはただひとりだけである。もし命に入
りたいと思うなら、いましめを守りなさい」。
*18*彼は言った、「どのいましめですか」。
イエスは言われた、「『殺すな、姦淫する
な、盗むな、偽証を立てるな。*19*父と母と
を敬え』。また『自分を愛するように、あな
たの隣り人を愛せよ』」。*20*この青年はイ
エスに言った、「それはみな守ってきまし
た。ほかに何が足りないのでしょう」。*21*イ
エスは彼に言われた、「もしあなたが完全
になりたいと思うなら、帰ってあなたの持
ち物を売り払い、貧しい人々に施しなさい
。そうすれば、天に宝を持つようになろう。
そして、わたしに従ってきなさい」。*22*この
言葉を聞いて、青年は悲しみながら立ち
去った。たくさんの資産を持っていたから
である。*23*それからイエスは弟子たちに
言われた、「よく聞きなさい。富んでいる者
が天国にはいるのは、むずかしいものの
である。*24*また、あなたがたに言うが、富ん
でいる者が神の国にはいるよりは、らくだ
が針の穴を通る方が、もっとやさしい」。
*25*弟子たちはこれを聞いて非常に驚い
て言った、「では、だれが救われることが
できるのだろう」。*26*イエスは彼らを見つ
めて言われた、「人にはそれはできないが
、神にはなんでもできない事はない」。
*27*そのとき、ペテロがイエスに答えて言っ
た、「ごらんなさい、わたしたちはいっさい
を捨てて、あなたに従いました。ついては
、何がいただけるでしょうか」。*28*イエスは
彼らに言われた、「よく聞いておくがよい。
世が改まって、人の子がその栄光の座に
つく時には、わたしに従ってきたあなたが
たもまた、十二の位に座してイスラエルの
十二の部族をさばくであろう。*29*おおよそ
、わたしの名のために、家、兄弟、姉妹、
父、母、子、もしくは畑を捨てた者は、そ
の幾倍もを受け、また永遠の生命を受け
つぐであろう。*30*しかし、多くの先の者は
あとになり、あとの者は先になるであろう。

20 天国は、ある家の主人が、自分のぶ
どう園に労働者を雇うために、夜が明ける
と同時に、出かけて行くようなものである。
*2*彼は労働者たちと、一日一デナリの約
束をして、彼らをぶどう園に送った。*3*そ
れから九時ごろに出て行って、他の人々
が市場で何もせずに立っているのを見た
。*4*そして、その人たちに言った、『あなた
がたも、ぶどう園に行きなさい。相当な賃
銀を払うから』。*5*そこで、彼らは出かけて
行った。主人はまた、十二時ごろと三時ご
ろとに出て行って、同じようにした。*6*五時
ごろまた出て行くと、まだ立っている人々
を見たので、彼らに言った、『なぜ、何もし
ないで、一日中ここに立っていたのか』。
*7*彼らが『だれもわたしたちを雇ってくれま
せんから』と答えたので、その人々に言っ
た、『あなたがたも、ぶどう園に行きなさい
』。*8*さて、夕方になって、ぶどう園の主人
は管理人に言った、『労働者たちを呼び
なさい。そして、最後にきた人々からはじ
めて順々に最初にきた人々にわたるよう
に、賃銀を払ってやりなさい』。*9*そこで、
五時ごろに雇われた人々がきて、それぞ
れ一デナリずつもらった。*10*ところが、最
初の人々がきて、もっと多くもらえるだろう
と思っていたのに、彼らも一デナリずつも
らっただけであった。*11*もらったとき、家
の主人にむかって不平をもらして *12*言っ
た、『この最後の者たちは一時間しか働か
なかったのに、あなたは一日じゅう、労苦
と暑さを辛抱したわたしたちと同じ扱いを
なさいました』。*13*そこで彼はそのひとり
に答えて言った、『友よ、わたしはあなた
に対して不正をしてはいない。あなたはわ
たしと一デナリの約束をしたではないか。
*14*自分の賃銀をもらって行きなさい。わ
たしは、この最後の者にもあなたと同様に
払ってやりたいのだ。*15*自分の物を自分
がしたいようにするのは、当りまえではな
いか。それともわたしが気前よくしている
ので、ねたましく思うのか』。*16*このように
、あとの者は先になり、先の者はあとにな
るであろう」。*17*さて、イエスはエルサレム
へ上るとき、十二弟子をひそかに呼びよ
せ、その途中で彼らに言われた、*18*「見
よ、わたしたちはエルサレムへ上って行く
が、人の子は祭司長、律法学者たちの手
に渡されるであろう。彼らは彼に死刑を宣
告し、*19*そして彼をあざけり、むち打ち、
十字架につけさせるために、異邦人に引
きわたすであろう。そして彼は三日目によ
みがえるであろう」。*20*そのとき、ゼベダイ

の子らの母が、その子らと一緒にイエスの
もとにきてひざまずき、何事かをお願いし
た。 *21*そこでイエスは彼女に言われた、
「何をしてほしいのか」。彼女は言った、
「わたしのこのふたりのむすこが、あなた
の御国で、ひとりはあなたの右に、ひとり
は左にすわれるように、お言葉をください
」。 *22*イエスは答えて言われた、「あなた
がたは、自分が何を求めているのか、わ
かっていない。わたしの飲もうとしている
杯を飲むことができるか」。彼らは「できま
す」と答えた。 *23*イエスは彼らに言われた
、「確かに、あなたがたはわたしの杯を飲
むことになろう。しかし、わたしの右、左に
すわらせることは、わたしのすることではな
く、わたしの父によって備えられている人
々だけに許されることである」。 *24*十人の
者はこれを聞いて、このふたりの兄弟たち
のことで憤慨した。 *25*そこで、イエスは彼
らを呼び寄せて言われた、「あなたがたの
知っているとおり、異邦人の支配者たちは
その民を治め、また偉い人たちは、その
民の上に権力をふるっている。 *26*あなた
がたの間ではそうであってはならない。か
えって、あなたがたの間で偉くなりたいと
思う者は、仕える人となり、 *27*あなたがた
の間でかしらになりたいと思う者は、僕と
ならねばならない。 *28*それは、人の子が
きたのも、仕えられるためではなく、仕える
ためであり、また多くの人のあがないとし
て、自分の命を与えるためであるのと、ち
ょうど同じである」。 *29*それから、彼らがエ
リコを出て行ったとき、大ぜいの群衆がイ
エスに従ってきた。 *30*すると、ふたりの盲
人が道ばたにすわっていたが、イエスがと
おって行かれると聞いて、叫んで言った、
「主よ、ダビデの子よ、わたしたちをあわれ
んで下さい」。 *31*群衆は彼らをしかって黙
らせようとしたが、彼らはますます叫びつ
づけて言った、「主よ、ダビデの子よ、わた
したちをあわれんで下さい」。 *32*イエスは
立ちどまり、彼らを呼んで言われた、「わた
しに何をしてほしいのか」。 *33*彼らは言っ
た、「主よ、目をあけていただくことです」。
*34*イエスは深くあわれんで、彼らの目にさ
わられた。すると彼らは、たちまち見えるよ
うになり、イエスに従って行った。

21 さて、彼らがエルサレムに近づき、オ
リブ山沿いのベテパゲに着いたとき、イエ
スはふたりの弟子をつかわして言われた、
2「向こうの村へ行きなさい。するとすぐ、
ろばがつながれていて、子ろばがそばに
いるのを見るであろう。それを解いてわた
しのところに引いてきなさい。 *3*もしだれか
が、あなたがたに何か言ったなら、主がお
入り用なのです、と言いなさい。そう言え
ば、すぐ渡してくれるであろう」。 *4*こうした
のは、預言者によって言われたことが、成
就するためである。 *5*すなわち、「シオン
の娘に告げよ、見よ、あなたの王がおい
でになる、柔和なおかたで、ろばに乗って
、くびきを負うろばの子に乗って」。 *6*弟子
たちは出て行って、イエスがお命じになっ
たとおりにし、 *7*ろばと子ろばとを引いてき
た。そしてその上に自分たちの上着をか
けると、イエスはそれにお乗りになった。
*8*群衆のうち多くの者は自分たちの上着
を道に敷き、また、ほかの者たちは木の枝
を切ってきて道に敷いた。 *9*そして群衆は
、前に行く者も、あとに従う者も、共に叫び
つづけた、「ダビデの子に、ホサナ。イオ
ウオ[xii]の御名によってきたる者に、祝福あ
れ。いと高き所に、ホサナ」。 *10*イエスが
エルサレムにはいって行かれたとき、町中
がこぞって騒ぎ立ち、「これは、いったい、
どなただろう」と言った。 *11*そこで群衆は
、「この人はガリラヤのナザレから出た預
言者イエスである」と言った。 *12*それから
、イエスは宮にはいられた。そして、宮の
庭で売り買いしていた人々をみな追い出
し、また両替人の台や、はとを売る者の腰
掛をくつがえされた。 *13*そして彼らに言わ
れた、「『わたしの家は、祈の家ととなえら
るべきである』と書いてある。それだのに、
あなたがたはそれを強盗の巣にしている」
。 *14*そのとき宮の庭で、盲人や足なえが
みもとにきたので、彼らをおいやしになっ
た。 *15*しかし、祭司長、律法学者たちは、
イエスがなされた不思議なわざを見、また
宮の庭で「ダビデの子に、ホサナ」と叫ん
でいる子供たちを見て立腹し、 *16*イエス
に言った、「あの子たちが何を言っている
のか、お聞きですか」。イエスは彼らに言
われた、「そうだ、聞いている。あなたがた
は『幼な子、乳のみ子たちの口にさんびを

備えられた』とあるのを読んだことがない
のか」。 *17*それから、イエスは彼らをあと
に残し、都を出てベタニヤに行き、そこで
夜を過ごされた。 *18*朝はやく都に帰るとき
、イエスは空腹をおぼえられた。 *19*そして
、道のかたわらに一本のいちじくの木があ
るのを見て、そこに行かれたが、ただ葉の
ほかは何も見当らなかった。そこでその木
にむかって、「今から後いつまでも、おま
えには実がならないように」と言われた。
すると、いちじくの木はたちまち枯れた。
*20*弟子たちはこれを見て、驚いて言った
、「いちじくがどうして、こうすぐに枯れたの
でしょう」。 *21*イエスは答えて言われた、
「よく聞いておくがよい。もしあなたがたが
信じて疑わないならば、このいちじくにあ
ったようなことが、できるばかりでなく、この
山にむかって、動き出して海の中にはい
れと言っても、そのとおりになるであろう。
*22*また、祈のとき、信じて求めるものは、
みな与えられるであろう」。 *23*イエスが宮
にはいられたとき、祭司長たちや民の長
老たちが、その教えておられる所にきて
言った、「何の権威によって、これらの事
をするのですか。だれが、そうする権威を
授けたのですか」。 *24*そこでイエスは彼ら
に言われた、「わたしも一つだけ尋ねよう
。あなたがたがそれに答えてくれたなら、
わたしも、何の権威によってこれらの事を
するのか、あなたがたに言おう。 *25*ヨハネ
のバプテスマはどこからきたのであったか
。天からであったか、人からであったか」。
すると、彼らは互に論じて言った、「もし天
からだと言えば、では、なぜ彼を信じなか
ったのか、とイエスは言うだろう。 *26*しかし
、もし人からだと言えば、群衆が恐ろしい
。人々がみなヨハネを預言者と思っている
のだから」。 *27*そこで彼らは、「わたしたち
にはわかりません」と答えた。すると、イエ
スが言われた、「わたしも何の権威によっ
てこれらの事をするのか、あなたがたに言
うまい。 *28*あなたがたはどう思うか。ある人
にふたりの子があったが、兄のところに行
って言った、『子よ、きょう、ぶどう園へ行っ
て働いてくれ』。 *29*すると彼は『おとうさん
、参ります』と答えたが、行かなかった。
*30*また弟のところにきて同じように言った
。彼は『いやです』と答えたが、あとから心
を変えて、出かけた。 *31*このふたりのうち
、どちらが父の望みどおりにしたのか」。彼
らは言った、「あとの者です」。イエスは言
われた、「よく聞きなさい。取税人や遊女
は、あなたがたより先に神の国にはいる。
*32*というのは、ヨハネがあなたがたのところ
にきて、義の道を説いたのに、あなたが
たは彼を信じなかった。ところが、取税人
や遊女は彼を信じた。あなたがたはそれ
を見たのに、あとになっても、心をいれ変
えて彼を信じようとしなかった。 *33*もう一
つの譬を聞きなさい。ある所に、ひとりの
家の主人がいたが、ぶどう園を造り、かき
をめぐらし、その中に酒ぶねの穴を掘り、
やぐらを立て、それを農夫たちに貸して、
旅に出かけた。 *34*収穫の季節がきたので
、その分け前を受け取ろうとして、僕たち
を農夫のところへ送った。 *35*すると、農夫
たちは、その僕たちをつかまえて、ひとり
を袋だたきにし、ひとりを殺し、もうひとりを
石で打ち殺した。 *36*また別に、前よりも多
くの僕たちを送ったが、彼らをも同じように
あしらった。 *37*しかし、最後に、わたしの
子は敬ってくれるだろうと思って、主人は
その子を彼らの所につかわした。 *38*する
と農夫たちは、その子を見て互に言った、
『あれはあと取りだ。さあ、これを殺して、
その財産を手に入れよう』。 *39*そして彼を
つかまえて、ぶどう園の外に引き出して殺
した。 *40*このぶどう園の主人が帰ってきた
ら、この農夫たちをどうするだろうか」。
*41*彼らはイエスに言った、「悪人どもを、
皆殺しにして、季節ごとに収穫を納めるほ
かの農夫たちに、そのぶどう園を貸し与え
るでしょう」。 *42*イエスは彼らに言われた、
「あなたがたは、聖書でまだ読んだことが
ないのか、『家造りらの捨てた石が隅のかし
ら石になった。これはイオウオ[xiii]がなさ
れたことで、わたしたちの目には不思議に
見える』。 *43*それだから、あなたがたに言
うが、神の国はあなたがたから取り上げら
れて、御国にふさわしい実を結ぶような異
邦人に与えられるであろう。 *44*またその
石の上に落ちる者は打ち砕かれ、それが
だれかの上に落ちかかるなら、その人は
こなみじんにされるであろう」。 *45*祭司長
たちやパリサイ人たちがこの譬を聞いたと
き、自分たちのことをさして言っておられ

ることを悟ったので、46イエスを捕えようとしたが、群衆を恐れた。群衆はイエスを預言者だと思っていたからである。

22 イエスはまた、譬で彼らに語って言われた、2「天国は、ひとりの王がその王子のために、婚宴を催すようなものである。
3王はその僕たちをつかわして、この婚宴に招かれていた人たちを呼ばせたが、その人たちはこようとはしなかった。4そこでまた、ほかの僕たちをつかわして言った、『招かれた人たちに言いなさい。食事の用意ができました。牛も肥えた獣もほふられて、すべての用意ができました。さあ、婚宴においでください』。5しかし、彼らは知らぬ顔をして、ひとりは自分の畑に、ひとりは自分の商売に出て行き、6またほかの人々は、この僕たちをつかまえて侮辱を加えた上、殺してしまった。7そこで王は立腹し、軍隊を送ってそれらの人殺しどもを滅ぼし、その町を焼き払った。8それから僕たちに言った、『婚宴の用意はできているが、招かれていたのは、ふさわしくない人々であった。9だから、町の大通りに出て行って、出会った人はだれでも婚宴に連れてきなさい』。10そこで、僕たちは道に出て行って、出会う人は、悪人でも善人でもみな集めてきたので、婚宴の席は客でいっぱいになった。11王は客を迎えようとしてはいってきたが、そこに礼服をつけていないひとりの人を見て、
12彼に言った、『友よ、どうしてあなたは礼服をつけないで、ここにはいってきたのですか』。しかし、彼は黙っていた。13そこで、王はそばの者たちに言った、『この者の手足をしばって、外の暗やみにほうり出せ。そこで泣き叫んだり、歯がみをしたりするであろう』。14招かれる者は多いが、選ばれる者は少ない」。15そのときパリサイ人たちがきて、どうかしてイエスを言葉のわなにかけようと、相談をした。16そして、彼らの弟子を、ヘロデ党の者たちと共に、イエスのもとにつかわして言わせた、「先生、わたしたちはあなたが真実なかたであって、真理に基いて神の道を教え、また、人に分け隔てをしないで、だれをもはばかられないことを知っています。
17それで、あなたはどう思われますか、答えてください。カイザルに税金を納めてよいでしょうか、いけないでしょうか」。
18イエスは彼らの悪意を知って言われた、「偽善者たちよ、なぜわたしをためそうとするのか。19税に納める貨幣を見せなさい」。彼らはデナリ一つを持ってきた。
20そこでイエスは言われた、「これは、だれの肖像、だれの記号か」。21彼らは「カイザルのです」と答えた。するとイエスは言われた、「それでは、カイザルのものはカイザルに、神のものは神に返しなさい」。22彼らはこれを聞いて驚嘆し、イエスを残して立ち去った。23復活ということはないと主張していたサドカイ人たちが、その日、イエスのもとにきて質問した、24「先生、モーセはこう言っています、『もし、ある人が子がなくて死んだなら、その弟は兄の妻をめとって、兄のために子をもうけねばならない』。25さて、わたしたちのところに七人の兄弟がありました。長男は妻をめとったが死んでしまい、そして子がなかったので、その妻を弟に残しました。26次男も三男も、ついに七人とも同じことになりました。27最後に、その女も死にました。28すると復活の時には、この女は、七人のうちだれの妻なのでしょうか。みんながこの女を妻にしたのですが」。29イエスは答えて言われた、「あなたがたは聖書も神の力も知らないから、思い違いをしている。30復活の時には、彼らはめとったり、とついだりすることはない。彼らは天にいる御使のようなものである。31また、死人の復活については、神があなたがたに言われた言葉を読んだことがないのか。
32『わたしはアブラハムの神、イサクの神、ヤコブの神である』と書いてある。神は死んだ者の神ではなく、生きている者の神である」。33群衆はこれを聞いて、イエスの教に驚いた。34さて、パリサイ人たちは、イエスがサドカイ人たちを言いこめられたと聞いて、一緒に集まった。35そして彼らの中のひとりの律法学者が、イエスをためそうとして質問した、36「先生、律法の中で、どのいましめがいちばん大切なのですか」。37イエスは言われた、「『心をつくし、精神をつくし、思いをつくして、あなたの神、イオウオ[xiv]を愛せよ』。38これがいちばん大切な、第一のいましめであ

る。 *39*第二もこれと同様である、『自分を
愛するようにあなたの隣り人を愛せよ』。
*40*これらの二つのいましめに、律法全体
と預言者とが、かかっている」。 *41*パリサイ
人たちが集まっていたとき、イエスは彼ら
にお尋ねになった、 *42*「あなたがたはキリ
ストをどう思うか。だれの子なのか」。彼ら
は「ダビデの子です」と答えた。 *43*イエス
は言われた、「それではどうして、ダビデ
が御霊に感じてキリストを主と呼んでいる
のか。 *44*すなわち『イオウオ[xv]はわが主に
仰せになった、あなたの敵をあなたの足も
とに置くときまでは、わたしの右に座して
いなさい』。 *45*このように、ダビデ自身がキ
リストを主と呼んでいるなら、キリストはどう
してダビデの子であろうか」。 *46*イエスに
ひと言でも答えうる者は、なかったし、そ
の日からもはや、進んでイエスに質問する
者も、いなくなった。

23 そのときイエスは、群衆と弟子たちと
に語って言われた、 *2*「律法学者とパリサ
イ人とは、モーセの座にすわっている。
*3*だから、彼らがあなたがたに言うことは、
みな守って実行しなさい。しかし、彼らの
することには、ならうな。彼らは言うだけで
、実行しないから。 *4*また、重い荷物をくく
って人々の肩にのせるが、それを動かす
ために、自分では指一本も貸そうとはしな
い。 *5*そのすることは、すべて人に見せる
ためである。すなわち、彼らは経札を幅広
くつくり、その衣のふさを大きくし、 *6*また、
宴会の上座、会堂の上席を好み、 *7*広場
であいさつされることや、人々から先生と
呼ばれることを好んでいる。 *8*しかし、あな
たがたは先生と呼ばれてはならない。あ
なたがたの先生は、ただひとりであって、
あなたがたはみな兄弟なのだから。 *9*また
、地上のだれをも、父と呼んではならない
。あなたがたの父はただひとり、すなわち
、天にいます父である。 *10*また、あなたが
たは教師と呼ばれてはならない。あなた
がたの教師はただひとり、すなわち、キリ
ストである。 *11*そこで、あなたがたのうちで
いちばん偉い者は、仕える人でなければ
ならない。 *12*だれでも自分を高くする者
は低くされ、自分を低くする者は高くされ
るであろう。 *13*偽善な律法学者、パリサイ
人たちよ。あなたがたは、わざわいである
。あなたがたは、天国を閉ざして人々をは
いらせない。自分もはいらないし、はいろ
うとする人をはいらせもしない。〔 *14*偽善
な律法学者、パリサイ人たちよ。あなたが
たは、わざわいである。あなたがたは、や
もめたちの家を食い倒し、見えのために
長い祈をする。だから、もっときびしいさば
きを受けるに違いない。〕 *15*偽善な律法
学者、パリサイ人たちよ。あなたがたは、
わざわいである。あなたがたはひとりの改
宗者をつくるために、海と陸とを巡り歩く。
そして、つくったなら、彼を自分より倍もひ
どい地獄の子にする。 *16*盲目な案内者
たちよ。あなたがたは、わざわいである。
あなたがたは言う、『神殿をさして誓うなら
、そのままでよいが、神殿の黄金をさして
誓うなら、果す責任がある』と。 *17*愚かな
盲目な人たちよ。黄金と、黄金を神聖に
する神殿と、どちらが大事なのか。 *18*また
、あなたがたは言う、『祭壇をさして誓うな
ら、そのままでよいが、その上の供え物を
さして誓うなら、果す責任がある』と。 *19*盲
目な人たちよ。供え物と供え物を神聖に
する祭壇とどちらが大事なのか。 *20*祭壇
をさして誓う者は、祭壇と、その上にある
すべての物とをさして誓うのである。 *21*神
殿をさして誓う者は、神殿とその中に住ん
でおられるかたとをさして誓うのである。
*22*また、天をさして誓う者は、神の御座と
その上にすわっておられるかたとをさして
誓うのである。 *23*偽善な律法学者、パリ
サイ人たちよ。あなたがたは、わざわいで
ある。はっか、いのんど、クミンなどの薬味
の十分の一を宮に納めておりながら、律
法の中でもっと重要な、公平とあわれみと
忠実とを見のがしている。それもしなけれ
ばならないが、これも見のがしてはならな
い。 *24*盲目な案内者たちよ。あなたがた
は、ぶよはこしているが、らくだはのみこん
でいる。 *25*偽善な律法学者、パリサイ人
たちよ。あなたがたは、わざわいである。
杯と皿との外側はきよめるが、内側は貪欲
と放縦とで満ちている。 *26*盲目なパリサイ
人よ。まず、杯の内側をきよめるがよい。
そうすれば、外側も清くなるであろう。
*27*偽善な律法学者、パリサイ人たちよ。
あなたがたは、わざわいである。あなたが

たは白く塗った墓に似ている。外側は美
しく見えるが、内側は死人の骨や、あらゆ
る不潔なものでいっぱいである。 *28*このよ
うにあなたがたも、外側は人に正しく見え
るが、内側は偽善と不法とでいっぱいで
ある。 *29*偽善な律法学者、パリサイ人た
ちよ。あなたがたは、わざわいである。あ
なたがたは預言者の墓を建て、義人の碑
を飾り立てて、こう言っている、 *30*『もしわ
たしたちが先祖の時代に生きていたなら、
預言者の血を流すことに加わってはいな
かっただろう』と。 *31*このようにして、あな
たがたは預言者を殺した者の子孫である
ことを、自分で証明している。 *32*あなたが
たもまた先祖たちがした悪の枡目を満た
すがよい。 *33*へびよ、まむしの子らよ、どう
して地獄の刑罰をのがれることができよ
うか。 *34*それだから、わたしは、預言者、
知者、律法学者たちをあなたがたにつか
わすが、そのうちのある者を殺し、また十
字架につけ、そのある者を会堂でむち打
ち、また町から町へと迫害して行くであろ
う。 *35*こうして義人アベルの血から、聖所
と祭壇との間であなたがたが殺したバラキ
ヤの子ザカリヤの血に至るまで、地上に
流された義人の血の報いが、ことごとくあ
なたがたに及ぶであろう。 *36*よく言っておく。これらのことの報いは、みな今の時代
に及ぶであろう。 *37*ああ、エルサレム、エ
ルサレム、預言者たちを殺し、おまえにつ
かわされた人たちを石で打ち殺す者よ。
ちょうど、めんどりが翼の下にそのひなを
集めるように、わたしはおまえの子らを幾
たび集めようとしたことであろう。それだの
に、おまえたちは応じようとしなかった。
*38*見よ、おまえたちの家は見捨てられて
しまう。 *39*わたしは言っておく、『イオウ
オ[xvi]の御名によってきたる者に、祝福あれ
』とおまえたちが言う時までは、今後ふた
たび、わたしに会うことはないであろう」。

24 イエスが宮から出て行こうとしておら
れると、弟子たちは近寄ってきて、宮の建
物にイエスの注意を促した。 *2*そこでイエ
スは彼らにむかって言われた、「あなたが
たは、これらすべてのものを見ないか。よ
く言っておく。その石一つでもくずされず
に、そこに他の石の上に残ることもなくな
るであろう」。 *3*またオリブ山ですわっておられると、弟子たちが、ひそかにみもとに
きて言った、「どうぞお話しください。いつ
、そんなことが起るのでしょうか。あなたが
またおいでになる時や、世の終りには、ど
んな前兆がありますか」。 *4*そこでイエスは
答えて言われた、「人に惑わされないよう
に気をつけなさい。 *5*多くの者がわたしの
名を名のって現れ、自分がキリストだと言
って、多くの人を惑わすであろう。 *6*また、
戦争と戦争のうわさとを聞くであろう。注意
していなさい、あわててはいけない。それ
は起らねばならないが、まだ終りではない
。 *7*民は民に、国は国に敵対して立ち上
がるであろう。またあちこちに、ききんが起
り、また地震があるであろう。 *8*しかし、す
べてこれらは産みの苦しみの初めである
。 *9*そのとき人々は、あなたがたを苦しみ
にあわせ、また殺すであろう。またあなた
がたは、わたしの名のゆえにすべての民
に憎まれるであろう。 *10*そのとき、多くの
人がつまずき、また互に裏切り、憎み合う
であろう。 *11*また多くのにせ預言者が起
って、多くの人を惑わすであろう。 *12*また
不法がはびこるので、多くの人の愛が冷
えるであろう。 *13*しかし、最後まで耐え忍
ぶ者は救われる。 *14*そしてこの御国の福
音は、すべての民に対してあかしをする
ために、全世界に宣べ伝えられるであろう
。そしてそれから最後が来るのである。
*15*預言者ダニエルによって言われた荒ら
す憎むべき者が、聖なる場所に立つのを
見たならば（読者よ、悟れ）、 *16*そのとき、
ユダヤにいる人々は山へ逃げよ。 *17*屋上
にいる者は、家からものを取り出そうとして
下におりるな。 *18*畑にいる者は、上着を
取りにあとへもどるな。 *19*その日には、身
重の女と乳飲み子をもつ女とは、不幸で
ある。 *20*あなたがたの逃げるのが、冬また
は安息日にならないように祈れ。 *21*その
時には、世の初めから現在に至るまで、
かつてなく今後もないような大きな患難が
起るからである。 *22*もしその期間が縮めら
れないなら、救われる者はひとりもないで
あろう。しかし、選民のためには、その期
間が縮められるであろう。 *23*そのとき、だ
れかがあなたがたに『見よ、ここにキリスト
がいる』、また、『あそこにいる』と言っても

、それを信じるな。 *24*にせキリストたちや、
にせ預言者たちが起って、大いなるしるし
と奇跡とを行い、できれば、選民をも惑わ
そうとするであろう。 *25*見よ、あなたがたに
前もって言っておく。 *26*だから、人々が『
見よ、彼は荒野にいる』と言っても、出て
行くな。また『見よ、へやの中にいる』と言
っても、信じるな。 *27*ちょうど、いなずまが
東から西にひらめき渡るように、人の子も
現れるであろう。 *28*死体のあるところには
、はげたかが集まるものである。 *29*しかし
、その時に起る患難の後、たちまち日は
暗くなり、月はその光を放つことをやめ、
星は空から落ち、天体は揺り動かされる
であろう。 *30*そのとき、人の子のしるしが
天に現れるであろう。またそのとき、地の
すべての民族は嘆き、そして力と大いなる
栄光とをもって、人の子が天の雲に乗っ
て来るのを、人々は見るであろう。 *31*また
、彼は大いなるラッパの音と共に御使たち
をつかわして、天のはてからはてに至るま
で、四方からその選民を呼び集めるであ
ろう。 *32*いちじくの木からこの譬を学びな
さい。その枝が柔らかになり、葉が出るよう
になると、夏の近いことがわかる。 *33*その
ように、すべてこれらのことを見たならば、
人の子が戸口まで近づいていると知りな
さい。 *34*よく聞いておきなさい。これらの
事が、ことごとく起るまでは、この時代は滅
びることがない。 *35*天地は滅びるであろう
。しかしわたしの言葉は滅びることがない
。 *36*その日、その時は、だれも知らない。
天の御使たちも、また子も知らない、ただ
父だけが知っておられる。 *37*人の子の現
れるのも、ちょうどノアの時のようであろう。
*38*すなわち、洪水の出る前、ノアが箱舟
にはいる日まで、人々は食い、飲み、めと
り、とつぎなどしていた。 *39*そして洪水が
襲ってきて、いっさいのものをさらって行く
まで、彼らは気がつかなかった。人の子の
現れるのも、そのようであろう。 *40*そのとき
、ふたりの者が畑にいると、ひとりは取り去
られ、ひとりは取り残されるであろう。 *41*ふ
たりの女がうすをひいていると、ひとりは取
り去られ、ひとりは残されるであろう。 *42*だ
から、目をさましていなさい。いつの日に
あなたがたの主がこられるのか、あなたが
たには、わからないからである。 *43*このこ
とをわきまえているがよい。家の主人は、
盗賊がいつごろ来るかわかっているなら、
目をさましていて、自分の家に押し入るこ
とを許さないであろう。 *44*だから、あなた
がたも用意をしていなさい。思いがけない
時に人の子が来るからである。 *45*主人が
その家の僕たちの上に立てて、時に応じ
て食物をそなえさせる忠実な思慮深い僕
は、いったい、だれであろう。 *46*主人が帰
ってきたとき、そのようにつとめているのを
見られる僕は、さいわいである。 *47*よく言
っておくが、主人は彼を立てて自分の全
財産を管理させるであろう。 *48*もしそれが
悪い僕であって、自分の主人は帰りがお
そいと心の中で思い、 *49*その僕仲間をた
たきはじめ、また酒飲み仲間と一緒に食
べたり飲んだりしているなら、 *50*その僕の
主人は思いがけない日、気がつかない時
に帰ってきて、 *51*彼を厳罰に処し、偽善
者たちと同じ目にあわせるであろう。彼は
そこで泣き叫んだり、歯がみをしたりする
であろう。

25 そこで天国は、十人のおとめがそれ
ぞれあかりを手にして、花婿を迎えに出て
行くのに似ている。 *2*その中の五人は思
慮が浅く、五人は思慮深い者であった。
*3*思慮の浅い者たちは、あかりは持って
いたが、油を用意していなかった。 *4*しか
し、思慮深い者たちは、自分たちのあかり
と一緒に、入れものの中に油を用意して
いた。 *5*花婿の来るのがおくれたので、彼
らはみな居眠りをして、寝てしまった。 *6*夜
中に、『さあ、花婿だ、迎えに出なさい』と
呼ぶ声がした。 *7*そのとき、おとめたちは
みな起きて、それぞれあかりを整えた。
*8*ところが、思慮の浅い女たちが、思慮深
い女たちに言った、『あなたがたの油をわ
たしたちにわけてください。わたしたちの
あかりが消えかかっていますから』。 *9*する
と、思慮深い女たちは答えて言った、『わ
たしたちとあなたがたとに足りるだけは、
多分ないでしょう。店に行って、あなたが
たの分をお買いになる方がよいでしょう』。
*10*彼らが買いに出ているうちに、花婿が
着いた。そこで、用意のできていた女たち
は、花婿と一緒に婚宴のへやにはいり、
そして戸がしめられた。 *11*そのあとで、ほ

かのおとめたちもきて、『ご主人様、ご主
人様、どうぞ、あけてください』と言った。
*12*しかし彼は答えて、『はっきり言うが、わ
たしはあなたがたを知らない』と言った。
*13*だから、目をさましていなさい。その日
その時が、あなたがたにはわからないから
である。 *14*また天国は、ある人が旅に出
るとき、その僕どもを呼んで、自分の財産
を預けるようなものである。 *15*すなわち、
それぞれの能力に応じて、ある者には五
タラント、ある者には二タラント、ある者に
は一タラントを与えて、旅に出た。 *16*五タ
ラントを渡された者は、すぐに行って、そ
れで商売をして、ほかに五タラントをもうけ
た。 *17*二タラントの者も同様にして、ほか
に二タラントをもうけた。 *18*しかし、一タラ
ントを渡された者は、行って地を掘り、主
人の金を隠しておいた。 *19*だいぶ時がた
ってから、これらの僕の主人が帰ってきて
、彼らと計算をしはじめた。 *20*すると五タ
ラントを渡された者が進み出て、ほかの五
タラントをさし出して言った、『ご主人様、
あなたはわたしに五タラントをお預けにな
りましたが、ごらんのとおり、ほかに五タラ
ントをもうけました』。 *21*主人は彼に言った
、『良い忠実な僕よ、よくやった。あなたは
わずかなものに忠実であったから、多くの
ものを管理させよう。主人と一緒に喜んで
くれ』。 *22*二タラントの者も進み出て言っ
た、『ご主人様、あなたはわたしに二タラ
ントをお預けになりましたが、ごらんのとお
り、ほかに二タラントをもうけました』。
*23*主人は彼に言った、『良い忠実な僕よ
、よくやった。あなたはわずかなものに忠
実であったから、多くのものを管理させよ
う。主人と一緒に喜んでくれ』。 *24*一タラ
ントを渡された者も進み出て言った、『ご
主人様、わたしはあなたが、まかない所か
ら刈り、散らさない所から集める酷な人で
あることを承知していました。 *25*そこで恐
ろしさのあまり、行って、あなたのタラント
を地の中に隠しておきました。ごらんくだ
さい。ここにあなたのお金がございます』。
*26*すると、主人は彼に答えて言った、『悪
い怠惰な僕よ、あなたはわたしが、まかな
い所から刈り、散らさない所から集めるこ
とを知っているのか。 *27*それなら、わたし
の金を銀行に預けておくべきであった。そ
うしたら、わたしは帰ってきて、利子と一緒
にわたしの金を返してもらえたであろうに
。 *28*さあ、そのタラントをこの者から取りあ
げて、十タラントを持っている者にやりなさ
い。 *29*おおよそ、持っている人は与えら
れて、いよいよ豊かになるが、持っていな
い人は、持っているものまでも取り上げら
れるであろう。 *30*この役に立たない僕を
外の暗い所に追い出すがよい。彼は、そ
こで泣き叫んだり、歯がみをしたりするで
あろう』。 *31*人の子が栄光の中にすべて
の御使たちを従えて来るとき、彼はその栄
光の座につくであろう。 *32*そして、すべて
の国民をその前に集めて、羊飼が羊とや
ぎとを分けるように、彼らをより分け、 *33*羊
を右に、やぎを左におくであろう。 *34*その
とき、王は右にいる人々に言うであろう、
『わたしの父に祝福された人たちよ、さあ、
世の初めからあなたがたのために用意さ
れている御国を受けつぎなさい。 *35*あな
たがたは、わたしが空腹のときに食べさせ
、かわいていたときに飲ませ、旅人であっ
たときに宿を貸し、 *36*裸であったときに着
せ、病気のときに見舞い、獄にいたときに
尋ねてくれたからである』。 *37*そのとき、
正しい者たちは答えて言うであろう、『主よ
、いつ、わたしたちは、あなたが空腹であ
るのを見て食物をめぐみ、かわいているの
を見て飲ませましたか。 *38*いつあなたが
旅人であるのを見て宿を貸し、裸なのを
見て着せましたか。 *39*また、いつあなた
が病気をし、獄にいるのを見て、あなたの
所に参りましたか』。 *40*すると、王は答え
て言うであろう、『あなたがたによく言って
おく。わたしの兄弟であるこれらの最も小
さい者のひとりにしたのは、すなわち、わ
たしにしたのである』。 *41*それから、左に
いる人々にも言うであろう、『のろわれた者
どもよ、わたしを離れて、悪魔とその使た
ちとのために用意されている永遠の火に
はいってしまえ。 *42*あなたがたは、わたし
が空腹のときに食べさせず、かわいてい
たときに飲ませず、 *43*旅人であったときに
宿を貸さず、裸であったときに着せず、ま
た病気のときや、獄にいたときに、わたし
を尋ねてくれなかったからである』。 *44*そ
のとき、彼らもまた答えて言うであろう、『主
よ、いつ、あなたが空腹であり、かわいて

おられ、旅人であり、裸であり、病気であり
、獄におられたのを見て、わたしたちはお
世話をしませんでしたか』。 *45*そのとき、
彼は答えて言うであろう、『あなたがたによ
く言っておく。これらの最も小さい者のひ
とりにしなかったのは、すなわち、わたし
にしなかったのである』。 *46*そして彼らは
永遠の刑罰を受け、正しい者は永遠の生
命に入るであろう」。

26 イエスはこれらの言葉をすべて語り終
えてから、弟子たちに言われた。 *2*「あな
たがたが知っているとおり、ふつかの後に
は過越の祭になるが、人の子は十字架に
つけられるために引き渡される」。 *3*そのと
き、祭司長たちや民の長老たちが、カヤ
パという大祭司の中庭に集まり、 *4*策略を
もってイエスを捕えて殺そうと相談した。
*5*しかし彼らは言った、「祭の間はいけな
い。民衆の中に騒ぎが起るかも知れない」
。 *6*さて、イエスがベタニヤで、らい病人シ
モンの家におられたとき、 *7*ひとりの女が、
高価な香油が入れてある石膏のつぼを持
ってきて、イエスに近寄り、食事の席につ
いておられたイエスの頭に香油を注ぎか
けた。 *8*すると、弟子たちはこれを見て憤
って言った、「なんのためにこんなむだ使
をするのか。 *9*それを高く売って、貧しい
人たちに施すことができたのに」。 *10*イエ
スはそれを聞いて彼らに言われた、「なぜ
、女を困らせるのか。わたしによい事をし
てくれたのだ。 *11*貧しい人たちはいつも
あなたがたと一緒にいるが、わたしはいつ
も一緒にいるわけではない。 *12*この女が
わたしのからだにこの香油を注いだのは、
わたしの葬りの用意をするためである。
*13*よく聞きなさい。全世界のどこででも、
この福音が宣べ伝えられる所では、この
女のした事も記念として語られるであろう」
。 *14*時に、十二弟子のひとりイスカリオテ
のユダという者が、祭司長たちのところに
行って *15*言った、「彼をあなたがたに引き
渡せば、いくらくださいますか」。すると、
彼らは銀貨三十枚を彼に支払った。 *16*そ
の時から、ユダはイエスを引きわたそうと、
機会をねらっていた。 *17*さて、除酵祭の
第一日に、弟子たちはイエスのもとにきて
言った、「過越の食事をなさるために、わ
たしたちはどこに用意をしたらよいでしょう
か」。 *18*イエスは言われた、「市内にはい
り、かねて話してある人の所に行って言い
なさい、『先生が、わたしの時が近づいた
、あなたの家で弟子たちと一緒に過越を
守ろうと、言っておられます』」。 *19*弟子た
ちはイエスが命じられたとおりにして、過
越の用意をした。 *20*夕方になって、イエ
スは十二弟子と一緒に食事の席につか
れた。 *21*そして、一同が食事をしていると
き言われた、「特にあなたがたに言っておく
が、あなたがたのうちのひとりが、わたし
を裏切ろうとしている」。 *22*弟子たちは非
常に心配して、つぎつぎに「主よ、まさか、
わたしではないでしょう」と言い出した。
*23*イエスは答えて言われた、「わたしと一
緒に同じ鉢に手を入れている者が、わた
しを裏切ろうとしている。 *24*たしかに人の
子は、自分について書いてあるとおりに
去って行く。しかし、人の子を裏切るその
人は、わざわいである。その人は生れな
かった方が、彼のためによかったであろう
」。 *25*イエスを裏切ったユダが答えて言っ
た、「先生、まさか、わたしではないでしょ
う」。イエスは言われた、「いや、あなただ」
。 *26*一同が食事をしているとき、イエスは
パンを取り、祝福してこれをさき、弟子た
ちに与えて言われた、「取って食べよ、こ
れはわたしのからだである」。 *27*また杯を
取り、感謝して彼らに与えて言われた、
「みな、この杯から飲め。 *28*これは、罪の
ゆるしを得させるようにと、多くの人のため
に流すわたしの契約の血である。 *29*あな
たがたに言っておく。わたしの父の国であ
なたがたと共に、新しく飲むその日までは
、わたしは今後決して、ぶどうの実から造
ったものを飲むことをしない」。 *30*彼らは、
さんびを歌った後、オリブ山へ出かけて行
った。 *31*そのとき、イエスは弟子たちに言
われた、「今夜、あなたがたは皆わたしに
つまずくであろう。『わたしは羊飼を打つ。
そして、羊の群れは散らされるであろう』と
、書いてあるからである。 *32*しかしわたし
は、よみがえってから、あなたがたより先
にガリラヤへ行くであろう」。 *33*するとペテ
ロはイエスに答えて言った、「たとい、みん
なの者があなたにつまずいても、わたしは
決してつまずきません」。 *34*イエスは言わ

れた、「よくあなたに言っておく。今夜、鶏
が鳴く前に、あなたは三度わたしを知らな
いと言うだろう」。 *35*ペテロは言った、「た
といあなたと一緒に死なねばならなくなっ
ても、あなたを知らないなどとは、決して申
しません」。弟子たちもみな同じように言っ
た。 *36*それから、イエスは彼らと一緒に、
ゲツセマネという所へ行かれた。そして弟
子たちに言われた、「わたしが向こうへ行
って祈っている間、ここにすわっていなさ
い」。 *37*そしてペテロとゼベダイの子ふた
りとを連れて行かれたが、悲しみを催しま
た悩みはじめられた。 *38*そのとき、彼らに
言われた、「わたしは悲しみのあまり死ぬ
ほどである。ここに待っていて、わたしと一
緒に目をさましていなさい」。 *39*そして少
し進んで行き、うつぶしになり、祈って言
われた、「わが父よ、もしできることでした
らどうか、この杯をわたしから過ぎ去らせ
てください。しかし、わたしの思いのままに
ではなく、みこころのままになさって下さい
」。 *40*それから、弟子たちの所にきてごら
んになると、彼らが眠っていたので、ペテ
ロに言われた、「あなたがたはそんなに、
ひと時もわたしと一緒に目をさましている
ことが、できなかったのか。 *41*誘惑に陥ら
ないように、目をさまして祈っていなさい。
心は熱しているが、肉体が弱いのである」
。 *42*また二度目に行って、祈って言われ
た、「わが父よ、この杯を飲むほかに道が
ないのでしたら、どうか、みこころが行われ
ますように」。 *43*またきてごらんになると、
彼らはまた眠っていた。その目が重くなっ
ていたのである。 *44*それで彼らをそのま
まにして、また行って、三度目に同じ言葉
で祈られた。 *45*それから弟子たちの所に
帰ってきて、言われた、「まだ眠っている
のか、休んでいるのか。見よ、時が迫った
。人の子は罪人らの手に渡されるのだ。
*46*立て、さあ行こう。見よ、わたしを裏切
る者が近づいてきた」。 *47*そして、イエス
がまだ話しておられるうちに、そこに、十
二弟子のひとりのユダがきた。また祭司長
、民の長老たちから送られた大ぜいの群
衆も、剣と棒とを持って彼についてきた。
*48*イエスを裏切った者が、あらかじめ彼ら
に、「わたしの接吻する者が、その人だ。
その人をつかまえろ」と合図をしておいた
。 *49*彼はすぐイエスに近寄り、「先生、い
かがですか」と言って、イエスに接吻した。
*50*しかし、イエスは彼に言われた、「友よ
、なんのためにきたのか」。このとき、人々
が進み寄って、イエスに手をかけてつかま
えた。 *51*すると、イエスと一緒にいた者の
ひとりが、手を伸ばして剣を抜き、そして
大祭司の僕に切りかかって、その片耳を
切り落した。 *52*そこで、イエスは彼に言わ
れた、「あなたの剣をもとの所におさめな
さい。剣をとる者はみな、剣で滅びる。
*53*それとも、わたしが父に願って、天の使
たちを十二軍団以上も、今つかわしてい
ただくことができないと、あなたは思うのか
。 *54*しかし、それでは、こうならねばならな
いと書いてある聖書の言葉は、どうして成
就されようか」。 *55*そのとき、イエスは群衆
に言われた、「あなたがたは強盗にむかう
ように、剣や棒を持ってわたしを捕えにき
たのか。わたしは毎日、宮ですわって教
えていたのに、わたしをつかまえはしなか
った。 *56*しかし、すべてこうなったのは、
預言者たちの書いたことが、成就するた
めである」。そのとき、弟子たちは皆イエス
を見捨てて逃げ去った。 *57*さて、イエスを
つかまえた人たちは、大祭司カヤパのとこ
ろにイエスを連れて行った。そこには律法
学者、長老たちが集まっていた。 *58*ペテ
ロは遠くからイエスについて、大祭司の中
庭まで行き、そのなりゆきを見とどけるた
めに、中にはいって下役どもと一緒にす
わっていた。 *59*さて、祭司長たちと全議
会とは、イエスを死刑にするため、イエス
に不利な偽証を求めようとしていた。 *60*そ
こで多くの偽証者が出てきたが、証拠が
あがらなかった。しかし、最後にふたりの
者が出てきて *61*言った、「この人は、わた
しは神の宮を打ちこわし、三日の後に建
てることができる、と言いました」。 *62*する
と、大祭司が立ち上がってイエスに言った
、「何も答えないのか。これらの人々があ
なたに対して不利な証言を申し立てて
るが、どうなのか」。 *63*しかし、イエスは黙
っておられた。そこで大祭司は言った、
「あなたは神の子キリストなのかどうか、生
ける神に誓ってわれわれに答えよ」。 *64*イ
エスは彼に言われた、「あなたの言うとお
りである。しかし、わたしは言っておく。

あなたがたは、間もなく、人の子が力ある
者の右に座し、天の雲に乗って来るのを
見るであろう」。 *65*すると、大祭司はその
衣を引き裂いて言った、「彼は神を汚した
。どうしてこれ以上、証人の必要があろう。
あなたがたは今このけがし言を聞いた。
*66*あなたがたの意見はどうか」。すると、
彼らは答えて言った、「彼は死に当るもの
だ」。 *67*それから、彼らはイエスの顔につ
ばきをかけて、こぶしで打ち、またある人
は手のひらでたたいて言った、 *68*「キリス
トよ、言いあててみよ、打ったのはだれか」
。 *69*ペテロは外で中庭にすわっていた。
するとひとりの女中が彼のところにきて、
「あなたもあのガリラヤ人イエスと一緒だっ
た」と言った。 *70*するとペテロは、みんな
の前でそれを打ち消して言った、「あなた
が何を言っているのか、わからない」。
*71*そう言って入口の方に出て行くと、ほ
かの女中が彼を見て、そこにいる人々に
むかって、「この人はナザレ人イエスと一
緒だった」と言った。 *72*そこで彼は再びそ
れを打ち消して、「そんな人は知らない」と
誓って言った。 *73*しばらくして、そこに立
っていた人々が近寄ってきて、ペテロに
言った、「確かにあなたも彼らの仲間だ。
言葉づかいであなたのことがわかる」。
*74*彼は「その人のことは何も知らない」と
言って、激しく誓いはじめた。するとすぐ
鶏が鳴いた。 *75*ペテロは「鶏が鳴く前に、
三度わたしを知らないと言うであろう」と言
われたイエスの言葉を思い出し、外に出
て激しく泣いた。

27 夜が明けると、祭司長たち、民の長
老たち一同は、イエスを殺そうとして協議
をこらした上、 *2*イエスを縛って引き出し、
総督ピラトに渡した。 *3*そのとき、イエスを
裏切ったユダは、イエスが罪に定められ
たのを見て後悔し、銀貨三十枚を祭司長
、長老たちに返して *4*言った、「わたしは
罪のない人の血を売るようなことをして、
罪を犯しました」。しかし彼らは言った、
「それは、われわれの知ったことか。自分
で始末するがよい」。 *5*そこで、彼は銀貨
を聖所に投げ込んで出て行き、首をつっ
て死んだ。 *6*祭司長たちは、その銀貨を
拾いあげて言った、「これは血の代価だか
ら、宮の金庫に入れるのはよくない」。 *7*そ
こで彼らは協議の上、外国人の墓地にす
るために、その金で陶器師の畑を買った
。 *8*そのために、この畑は今日まで血の畑
と呼ばれている。 *9*こうして預言者エレミヤ
によって言われた言葉が、成就したので
ある。すなわち、「彼らは、値をつけられた
もの、すなわち、イスラエルの子らが値を
つけたものの代価、銀貨三十を取って、
*10*イオウオ[xvii]がお命じになったように、陶
器師の畑の代価として、その金を与えた」
。 *11*さて、イエスは総督の前に立たれた。
すると総督はイエスに尋ねて言った、「あ
なたがユダヤ人の王であるか」。イエスは
「そのとおりである」と言われた。 *12*しかし
、祭司長、長老たちが訴えている間、イエ
スはひと言もお答えにならなかった。
*13*するとピラトは言った、「あんなにまで
次々に、あなたに不利な証言を立てて
るのが、あなたには聞えないのか」。 *14*し
かし、総督が非常に不思議に思ったほど
に、イエスは何を言われても、ひと言もお
答えにならなかった。 *15*さて、祭のたびご
とに、総督は群衆が願い出る囚人ひとりを
、ゆるしてやる慣例になっていた。 *16*とき
に、バラバという評判の囚人がいた。 *17*そ
れで、彼らが集まったとき、ピラトは言った
、「おまえたちは、だれをゆるしてほしいの
か。バラバか、それとも、キリストといわれ
るイエスか」。 *18*彼らがイエスを引きわた
したのは、ねたみのためであることが、ピ
ラトにはよくわかっていたからである。
*19*また、ピラトが裁判の席についていたと
き、その妻が人を彼のもとにつかわして、
「あの義人には関係しないでください。わ
たしはきょう夢で、あの人のためにさんざ
ん苦しみましたから」と言わせた。 *20*しか
し、祭司長、長老たちは、バラバをゆるし
て、イエスを殺してもらうようにと、群衆を
説き伏せた。 *21*総督は彼らにむかって言
った、「ふたりのうち、どちらをゆるしてほし
いのか」。彼らは「バラバの方を」と言った
。 *22*ピラトは言った、「それではキリストと
いわれるイエスは、どうしたらよいか」。彼
らはいっせいに「十字架につけよ」と言っ
た。 *23*しかし、ピラトは言った、「あの人は
、いったい、どんな悪事をしたのか」。する
と彼らはいっそう激しく叫んで、「十字架に

つけよ」と言った。 24ピラトは手のつけようがなく、かえって暴動になりそうなのを見て、水を取り、群衆の前で手を洗って言った、「この人の血について、わたしには責任がない。おまえたちが自分で始末をするがよい」。 25すると、民衆全体が答えて言った、「その血の責任は、われわれとわれわれの子孫の上にかかってもよい」。
26そこで、ピラトはバラバをゆるしてやり、イエスをむち打ったのち、十字架につけるために引きわたした。 27それから総督の兵士たちは、イエスを官邸に連れて行って、全部隊をイエスのまわりに集めた。
28そしてその上着をぬがせて、赤い外套を着せ、 29また、いばらで冠を編んでその頭にかぶらせ、右の手には葦の棒を持たせ、それからその前にひざまずき、嘲弄して、「ユダヤ人の王、ばんざい」と言った。 30また、イエスにつばきをかけ、葦の棒を取りあげてその頭をたたいた。 31こうしてイエスを嘲弄したあげく、外套をはぎ取って元の上着を着せ、それから十字架につけるために引き出した。 32彼らが出て行くと、シモンという名のクレネ人に出会ったので、イエスの十字架を無理に負わせた。 33そして、ゴルゴタ、すなわち、されこうべの場、という所にきたとき、 34彼らはにがみをまぜたぶどう酒を飲ませようとしたが、イエスはそれをなめただけで、飲もうとされなかった。 35彼らはイエスを十字架につけてから、くじを引いて、その着物を分け、 36そこにすわってイエスの番をしていた。 37そしてその頭の上の方に、「これはユダヤ人の王イエス」と書いた罪状書きをかかげた。 38同時に、ふたりの強盗がイエスと一緒に、ひとりは右に、ひとりは左に、十字架につけられた。 39そこを通りかかった者たちは、頭を振りながら、イエスをののしって 40言った、「神殿を打ちこわして三日のうちに建てる者よ。もし神の子なら、自分を救え。そして十字架からおりてこい」。 41祭司長たちも同じように、律法学者、長老たちと一緒になって、嘲弄して言った、 42「他人を救ったが、自分自身を救うことができない。あれがイスラエルの王なのだ。いま十字架からおりてみよ。そうしたら信じよう。 43彼は神にたよっているが、神のおぼしめしがあれば、今、救ってもらうがよい。自分は神の子だと言っていたのだから」。 44一緒に十字架につけられた強盗どもまでも、同じようにイエスをののしった。 45さて、昼の十二時から地上の全面が暗くなって、三時に及んだ。
46そして三時ごろに、イエスは大声で叫んで、「エリ、エリ、レマ、サバクタニ」と言われた。それは「わが神、わが神、どうしてわたしをお見捨てになったのですか」という意味である。 47すると、そこに立っていたある人々が、これを聞いて言った、「あれはエリヤを呼んでいるのだ」。 48するとすぐ、彼らのうちのひとりが走り寄って、海綿を取り、それに酢いぶどう酒を含ませて葦の棒につけ、イエスに飲ませようとした。
49ほかの人々は言った、「待て、エリヤが彼を救いに来るかどうか、見ていよう」。
50イエスはもう一度大声で叫んで、ついに息をひきとられた。 51すると見よ、神殿の幕が上から下まで真二つに裂けた。また地震があり、岩が裂け、 52また墓が開け、眠っている多くの聖徒たちの死体が生き返った。 53そしてイエスの復活ののち、墓から出てきて、聖なる都にはいり、多くの人に現れた。 54百卒長、および彼と一緒にイエスの番をしていた人々は、地震や、いろいろのできごとを見て非常に恐れ、「まことに、この人は神の子であった」と言った。 55また、そこには遠くの方から見ている女たちも多くいた。彼らはイエスに仕えて、ガリラヤから従ってきた人たちであった。 56その中には、マグダラのマリヤ、ヤコブとヨセフとの母マリヤ、またゼベダイの子たちの母がいた。 57夕方になってから、アリマタヤの金持で、ヨセフという名の人がきた。彼もまたイエスの弟子であった。 58この人がピラトの所へ行って、イエスのからだの引取りかたを願った。そこで、ピラトはそれを渡すように命じた。 59ヨセフは死体を受け取って、きれいな亜麻布に包み、 60岩を掘って造った彼の新しい墓に納め、そして墓の入口に大きい石をころがしておいて、帰った。 61マグダラのマリヤとほかのマリヤとが、墓にむかってそこにすわっていた。 62あくる日は準備の日の翌日であったが、その日に、祭司長、パリサイ人たちは、ピラトのもとに集まって言った、 63「長官、あの偽り者がま

だ生きていたとき、『三日の後に自分はよ
みがえる』と言ったのを、思い出しました。
*64*ですから、三日目まで墓の番をするよ
うに、さしずをして下さい。そうしないと、弟
子たちがきて彼を盗み出し、『イエスは死
人の中から、よみがえった』と、民衆に言
いふらすかも知れません。そうなると、み
んなが前よりも、もっとひどくだまされること
になりましょう」。 *65*ピラトは彼らに言った、
「番人がいるから、行ってできる限り、番を
させるがよい」。 *66*そこで、彼らは行って
石に封印をし、番人を置いて墓の番をさ
せた。

28 さて、安息日が終って、週の初めの
日の明け方に、マグダラのマリヤとほかの
マリヤとが、墓を見にきた。 *2*すると、大き
な地震が起った。それはイオウオ[xviii]の使
が天から下って、そこにきて石をわきへこ
ろがし、その上にすわったからである。
*3*その姿はいなずまのように輝き、その衣
は雪のように真白であった。 *4*見張りをし
ていた人たちは、恐ろしさの余り震えあが
って、死人のようになった。 *5*この御使は
女たちにむかって言った、「恐れることは
ない。あなたがたが十字架におかかりに
なったイエスを捜していることは、わたしに
わかっているが、 *6*もうここにはおられない
。かねて言われたとおりに、よみがえられ
たのである。さあ、イエスが納められてい
た場所をごらんなさい。 *7*そして、急いで
行って、弟子たちにこう伝えなさい、『イエ
スは死人の中からよみがえられた。見よ、
あなたがたより先にガリラヤへ行かれる。
そこでお会いできるであろう』。あなたがた
に、これだけ言っておく」。 *8*そこで女たち
は恐れながらも大喜びで、急いで墓を立
ち去り、弟子たちに知らせるために走って
行った。 *9*すると、イエスは彼らに出会っ
て、「平安あれ」と言われたので、彼らは
近寄りイエスのみ足をいだいて拝した。
*10*そのとき、イエスは彼らに言われた、
「恐れることはない。行って兄弟たちに、
ガリラヤに行け、そこでわたしに会えるで
あろう、と告げなさい」。 *11*女たちが行っ
ている間に、番人のうちのある人々が都に
帰って、いっさいの出来事を祭司長たち
に話した。 *12*祭司長たちは長老たちと集
まって協議をこらし、兵卒たちにたくさん
の金を与えて言った、 *13*「『弟子たちが夜
中にきて、われわれの寝ている間に彼を
盗んだ』と言え。 *14*万一このことが総督の
耳にはいっても、われわれが総督に説い
て、あなたがたに迷惑が掛からないように
しよう」。 *15*そこで、彼らは金を受け取って
、教えられたとおりにした。そしてこの話は
、今日に至るまでユダヤ人の間にひろま
っている。 *16*さて、十一人の弟子たちは
ガリラヤに行って、イエスが彼らに行くよう
に命じられた山に登った。 *17*そして、イエ
スに会って拝した。しかし、疑う者もいた。
*18*イエスは彼らに近づいてきて言われた
、「わたしは、天においても地においても、
いっさいの権威を授けられた。 *19*それゆ
えに、あなたがたは行って、すべての国
民を弟子として、父と子と聖霊との名によ
って、彼らにバプテスマを施し、 *20*あなた
がたに命じておいたいっさいのことを守る
ように教えよ。見よ、わたしは世の終りまで
、いつもあなたがたと共にいるのである」。

---

[i] Hutter (1599), Fry (1817), Delitzsch (1877), Salkinson (1885), UBS (1979) を参照。旧約聖書では、「イオウオの使」と言う表現は出エジプト記3章2節など52カ所で使用され、「主の使」と言う表現が一度も使用されない。

[ii] イザヤ書7章14節と比較せよ。マソラ本文によると、本来ここで神のみ名「イオウオ」が使用され、ソフェリム（＝書記）はここで「主」とした。C.D.Ginsburg(1894): The Massoretico-Critical Text of the Hebrew Bible を参照。死海文書のイザヤ書（1QIsa[a]）もここで「イオウオ」とする。

[iii] Hutter (1599), Fry (1817), Delitzsch (1877), Salkinson (1885), UBS (1979) を参照。旧約聖書では、「イオウオの使」と言う表現は出エジプト記3章2節など52カ所で使用され、「主の使」と言う表現が一度も使用されない。

[iv] 同上。

[v] ホセア書11章1、2、11節と比較せよ。

[vi] Hutter (1599), Fry (1817), Delitzsch (1877), Salkinson (1885), UBS (1979) を参照。旧約聖書では、「イオウオの使」と言う表現は 出エジプト記3章2節など52カ所で使用され、「主の使」と言う表現が一度も使用されない。

[vii] イザヤ書40章3節と比較せよ。

[viii] 申命記8章3節と比較せよ。引用の原文は「神」のかわりに「イオウオ」が使用されるから、ここで「イオウオ」とした。

[ix] 申命記6章16節と比較せよ。

[x] 申命記6章13節と比較せよ。
[xi] レビ記19章12節、民数記30章3、4節と比較せよ。
[xii] 詩編118編26節と比較せよ。
[xiii] 詩編118編22、23節と比較せよ。
[xiv] 申命記6章5節と比較せよ。
[xv] 詩編110編1節と比較せよ。
[xvi] 詩編118編26節と比較せよ。
[xvii] エレミヤ書32章8、9節、ゼカリヤ書11章12、13節と比較せよ。
[xviii] Hutter (1599), Fry (1817), Delitzsch (1877), Salkinson (1885), UBS (1979) を参照。旧約聖書では、「イオウオの使」と言う表現は 出エジプト記3章2節など52カ所で使用され、「主の使」と言う表現が一度も使用されない。

1 神の子イエス・キリストの福音のはじめ。
*2*預言者イザヤの書に、「見よ、わたしは
使をあなたの先につかわし、あなたの道
を整えさせるであろう。 *3*荒野で呼ばわる
者の声がする、『イオウオ[i]の道を備えよ、
その道筋をまっすぐにせよ』」と書いてある
ように、 *4*バプテスマのヨハネが荒野に現
れて、罪のゆるしを得させる悔改めのバプ
テスマを宣べ伝えていた。 *5*そこで、ユダ
ヤ全土とエルサレムの全住民とが、彼のも
とにぞくぞくと出て行って、自分の罪を告
白し、ヨルダン川でヨハネからバプテスマ
を受けた。 *6*このヨハネは、らくだの毛ごろ
もを身にまとい、腰に皮の帯をしめ、いな
ごと野蜜とを食物としていた。 *7*彼は宣べ
伝えて言った、「わたしよりも力のあるかた
が、あとからおいでになる。わたしはかがん
で、そのくつのひもを解く値うちもない。
*8*わたしは水でバプテスマを授けたが、こ
のかたは、聖霊によってバプテスマをお
授けになるであろう」。 *9*そのころ、イエス
はガリラヤのナザレから出てきて、ヨルダ
ン川で、ヨハネからバプテスマをお受けに
なった。 *10*そして、水の中から上がられる
とすぐ、天が裂けて、聖霊がはとのように
自分に下って来るのを、ごらんになった。
*11*すると天から声があった、「あなたはわ
たしの愛する子、わたしの心にかなう者で
ある」。 *12*それからすぐに、御霊がイエス
を荒野に追いやった。 *13*イエスは四十日
のあいだ荒野にいて、サタンの試みにあ
われた。そして獣もそこにいたが、御使た
ちはイエスに仕えていた。 *14*ヨハネが捕
えられた後、イエスはガリラヤに行き、神
の福音を宣べ伝えて言われた、 *15*「時は
満ちた、神の国は近づいた。悔い改めて
福音を信ぜよ」。 *16*さて、イエスはガリラヤ
の海べを歩いて行かれ、シモンとシモン
の兄弟アンデレとが、海で網を打っている
のをごらんになった。彼らは漁師であった
。 *17*イエスは彼らに言われた、「わたしに
ついてきなさい。あなたがたを、人間をと
る漁師にしてあげよう」。 *18*すると、彼らは
すぐに網を捨てて、イエスに従った。 *19*ま
た少し進んで行かれると、ゼベダイの子ヤ
コブとその兄弟ヨハネとが、舟の中で網を
繕っているのをごらんになった。 *20*そこで
、すぐ彼らをお招きになると、父ゼベダイ
を雇人たちと一緒に舟において、イエス
のあとについて行った。 *21*それから、彼ら
はカペナウムに行った。そして安息日に
すぐ、イエスは会堂にはいって教えられた
。 *22*人々は、その教に驚いた。律法学者
たちのようにではなく、権威ある者のように
、教えられたからである。 *23*ちょうどその
時、けがれた霊につかれた者が会堂にい
て、叫んで言った、 *24*「ナザレのイエスよ
、あなたはわたしたちとなんの係わりがあ
るのです。わたしたちを滅ぼしにこられた
のですか。あなたがどなたであるか、わか
っています。神の聖者です」。 *25*イエスは
これをしかって、「黙れ、この人から出て行
け」と言われた。 *26*すると、けがれた霊は
彼をひきつけさせ、大声をあげて、その人
から出て行った。 *27*人々はみな驚きのあ
まり、互に論じて言った、「これは、いった
い何事か。権威ある新しい教だ。けがれ
た霊にさえ命じられると、彼らは従うのだ」
。 *28*こうしてイエスのうわさは、たちまちガ
リラヤの全地方、いたる所にひろまった。
*29*それから会堂を出るとすぐ、ヤコブとヨ
ハネとを連れて、シモンとアンデレとの家
にはいって行かれた。 *30*ところが、シモン
のしゅうとめが熱病で床についていたの
で、人々はさっそく、そのことをイエスに知
らせた。 *31*イエスは近寄り、その手をとっ
て起されると、熱が引き、女は彼らをもて
なした。 *32*夕暮になり日が沈むと、人々
は病人や悪霊につかれた者をみな、イエ
スのところに連れてきた。 *33*こうして、町
中の者が戸口に集まった。 *34*イエスは、
さまざまの病をわずらっている多くの人々
をいやし、また多くの悪霊を追い出された
。また、悪霊どもに、物言うことをお許しに
ならなかった。彼らがイエスを知っていた
からである。 *35*朝はやく、夜の明けるよほ
ど前に、イエスは起きて寂しい所へ出て
行き、そこで祈っておられた。 *36*すると、
シモンとその仲間とが、あとを追ってきた。
*37*そしてイエスを見つけて、「みんなが、
あなたを捜しています」と言った。 *38*イエ
スは彼らに言われた、「ほかの、附近の町
々にみんなで行って、そこでも教を宣べ
伝えよう。わたしはこのために出てきたの
だから」。 *39*そして、ガリラヤ全地を巡りあ
るいて、諸会堂で教を宣べ伝え、また悪

霊を追い出された。 *40*ひとりのらい病人
が、イエスのところに願いにきて、ひざま
ずいて言った、「みこころでしたら、きよめ
ていただけるのですが」。 *41*イエスは深く
あわれみ、手を伸ばして彼にさわり、「そう
してあげよう、きよくなれ」と言われた。
*42*すると、らい病が直ちに去って、その
人はきよくなった。 *43*イエスは彼をきびし
く戒めて、すぐにそこを去らせ、こう言い聞
かせられた、 *44*「何も人に話さないように
、注意しなさい。ただ行って、自分のから
だを祭司に見せ、それから、モーセが命
じた物をあなたのきよめのためにささげて
、人々に証明しなさい」。 *45*しかし、彼は
出て行って、自分の身に起ったことを盛ん
に語り、また言いひろめはじめたので、イ
エスはもはや表立っては町に、はいること
ができなくなり、外の寂しい所にとどまって
おられた。しかし、人々は方々から、イエ
スのところにぞくぞくと集まってきた。

2 幾日かたって、イエスがまたカペナウム
にお帰りになったとき、家におられるという
うわさが立ったので、 *2*多くの人々が集ま
ってきて、もはや戸口のあたりまでも、すき
まが無いほどになった。そして、イエスは
御言を彼らに語っておられた。 *3*すると、
人々がひとりの中風の者を四人の人に運
ばせて、イエスのところに連れてきた。 *4*と
ころが、群衆のために近寄ることができな
いので、イエスのおられるあたりの屋根を
はぎ、穴をあけて、中風の者を寝かせたま
ま、床をつりおろした。 *5*イエスは彼らの信
仰を見て、中風の者に、「子よ、あなたの
罪はゆるされた」と言われた。 *6*ところが、
そこに幾人かの律法学者がすわっていて
、心の中で論じた、 *7*「この人は、なぜあ
んなことを言うのか。それは神をけがすこ
とだ。神ひとりのほかに、だれが罪をゆる
すことができるか」。 *8*イエスは、彼らが内
心このように論じているのを、自分の心で
すぐ見ぬいて、「なぜ、あなたがたは心の
中でそんなことを論じているのか。 *9*中風
の者に、あなたの罪はゆるされた、と言う
のと、起きよ、床を取りあげて歩け、と言う
のと、どちらがたやすいか。 *10*しかし、人
の子は地上で罪をゆるす権威をもってい
ることが、あなたがたにわかるために」と彼
らに言い、中風の者にむかって、 *11*「あな
たに命じる。起きよ、床を取りあげて家に
帰れ」と言われた。 *12*すると彼は起きあが
り、すぐに床を取りあげて、みんなの前を
出て行ったので、一同は大いに驚き、神
をあがめて、「こんな事は、まだ一度も見
たことがない」と言った。 *13*イエスはまた
海べに出て行かれると、多くの人々がみも
とに集まってきたので、彼らを教えられた
。 *14*また途中で、アルパヨの子レビが収
税所にすわっているのをごらんになって、
「わたしに従ってきなさい」と言われた。す
ると彼は立ちあがって、イエスに従った。
*15*それから彼の家で、食事の席について
おられたときのことである。多くの取税人
や罪人たちも、イエスや弟子たちと共にそ
の席に着いていた。こんな人たちが大ぜ
いいて、イエスに従ってきたのである。
*16*パリサイ派の律法学者たちは、イエス
が罪人や取税人たちと食事を共にしてお
られるのを見て、弟子たちに言った、「な
ぜ、彼は取税人や罪人などと食事を共に
するのか」。 *17*イエスはこれを聞いて言わ
れた、「丈夫な人には医者はいらない。い
るのは病人である。わたしがきたのは、義
人を招くためではなく、罪人を招くためで
ある」。 *18*ヨハネの弟子とパリサイ人とは、
断食をしていた。そこで人々がきて、イエ
スに言った、「ヨハネの弟子たちとパリサイ
人の弟子たちとが断食をしているのに、あ
なたの弟子たちは、なぜ断食をしないの
ですか」。 *19*するとイエスは言われた、
「婚礼の客は、花婿が一緒にいるのに、
断食ができるであろうか。花婿と一緒にい
る間は、断食はできない。 *20*しかし、花婿
が奪い去られる日が来る。その日には断
食をするであろう。 *21*だれも、真新しい布
ぎれを、古い着物に縫いつけはしない。も
しそうすれば、新しいつぎは古い着物を
引き破り、そして、破れがもっとひどくなる
。 *22*まただれも、新しいぶどう酒を古い皮
袋に入れはしない。もしそうすれば、ぶど
う酒は皮袋をはり裂き、そして、ぶどう酒も
皮袋もむだになってしまう。〔だから、新し
いぶどう酒は新しい皮袋に入れるべきで
ある〕」。 *23*ある安息日に、イエスは麦畑
の中をとおって行かれた。そのとき弟子た
ちが、歩きながら穂をつみはじめた。

*24*すると、パリサイ人たちがイエスに言った、「いったい、彼らはなぜ、安息日にしてはならぬことをするのですか」。*25*そこで彼らに言われた、「あなたがたは、ダビデとその供の者たちとが食物がなくて飢えたとき、ダビデが何をしたか、まだ読んだことがないのか。*26*すなわち、大祭司アビアタルの時、神の家にはいって、祭司たちのほか食べてはならぬ供えのパンを、自分も食べ、また供の者たちにも与えたではないか」。*27*また彼らに言われた、「安息日は人のためにあるもので、人が安息日のためにあるのではない。*28*それだから、人の子は、安息日にもまた主なのである」。

3 イエスがまた会堂にはいられると、そこに片手のなえた人がいた。*2*人々はイエスを訴えようと思って、安息日にその人をいやされるかどうかをうかがっていた。
*3*すると、イエスは片手のなえたその人に、「立って、中へ出てきなさい」と言い、
*4*人々にむかって、「安息日に善を行うのと悪を行うのと、命を救うのと殺すのと、どちらがよいか」と言われた。彼らは黙っていた。*5*イエスは怒りを含んで彼らを見まわし、その心のかたくななのを嘆いて、その人に「手を伸ばしなさい」と言われた。そこで手を伸ばすと、その手は元どおりになった。*6*パリサイ人たちは出て行って、すぐにヘロデ党の者たちと、なんとかしてイエスを殺そうと相談しはじめた。*7*それから、イエスは弟子たちと共に海べに退かれたが、ガリラヤからきたおびただしい群衆がついて行った。またユダヤから、*8*エルサレムから、イドマヤから、更にヨルダンの向こうから、ツロ、シドンのあたりからも、おびただしい群衆が、そのなさっていることを聞いて、みもとにきた。*9*イエスは群衆が自分に押し迫るのを避けるために、小舟を用意しておけと、弟子たちに命じられた。*10*それは、多くの人をいやされたので、病苦に悩む者は皆イエスにさわろうとして、押し寄せてきたからである。*11*また、けがれた霊どもはイエスを見るごとに、みまえにひれ伏し、叫んで、「あなたこそ神の子です」と言った。*12*イエスは御自身のことを人にあらわさないようにと、彼らをきびしく戒められた。*13*さてイエスは山に登り、みこころにかなった者たちを呼び寄せられたので、彼らはみもとにきた。
*14*そこで十二人をお立てになった。彼らを自分のそばに置くためであり、さらに宣教につかわし、*15*また悪霊を追い出す権威を持たせるためであった。*16*こうして、この十二人をお立てになった。そしてシモンにペテロという名をつけ、*17*またゼベダイの子ヤコブと、ヤコブの兄弟ヨハネ、彼らにはボアネルゲ、すなわち、雷の子という名をつけられた。*18*つぎにアンデレ、ピリポ、バルトロマイ、マタイ、トマス、アルパヨの子ヤコブ、タダイ、熱心党のシモン、
*19*それからイスカリオテのユダ。このユダがイエスを裏切ったのである。イエスが家にはいられると、*20*群衆がまた集まってきたので、一同は食事をする暇もないほどであった。*21*身内の者たちはこの事を聞いて、イエスを取押えに出てきた。気が狂ったと思ったからである。*22*また、エルサレムから下ってきた律法学者たちも、「彼はベルゼブルにとりつかれている」と言い、「悪霊どものかしらによって、悪霊どもを追い出しているのだ」とも言った。*23*そこでイエスは彼らを呼び寄せ、譬をもって言われた、「どうして、サタンがサタンを追い出すことができようか。*24*もし国が内部で分れ争うなら、その国は立ち行かない。
*25*また、もし家が内わで分れ争うなら、その家は立ち行かないであろう。*26*もしサタンが内部で対立し分争するなら、彼は立ち行けず、滅んでしまう。*27*だれでも、まず強い人を縛りあげなければ、その人の家に押し入って家財を奪い取ることはできない。縛ってからはじめて、その家を略奪することができる。*28*よく言い聞かせておくが、人の子らには、その犯すすべての罪も神をけがす言葉も、ゆるされる。*29*しかし、聖霊をけがす者は、いつまでもゆるされず、永遠の罪に定められる」。*30*そう言われたのは、彼らが「イエスはけがれた霊につかれている」と言っていたからである。*31*さて、イエスの母と兄弟たちとがきて、外に立ち、人をやってイエスを呼ばせた。*32*ときに、群衆はイエスを囲んですわっていたが、「ごらんなさい。あなたの母上と兄弟、姉妹たちが、外であなたを尋ねて

おられます」と言った。 *33*すると、イエスは
彼らに答えて言われた、「わたしの母、わ
たしの兄弟とは、だれのことか」。 *34*そし
て、自分をとりかこんで、すわっている人
々を見まわして、言われた、「ごらんなさい
、ここにわたしの母、わたしの兄弟がいる
。 *35*神のみこころを行う者はだれでも、わ
たしの兄弟、また姉妹、また母なのである
」。

4 イエスはまたも、海べで教えはじめられ
た。おびただしい群衆がみもとに集まった
ので、イエスは舟に乗ってすわったまま、
海上におられ、群衆はみな海に沿って陸
地にいた。 *2*イエスは譬で多くの事を教え
られたが、その教の中で彼らにこう言われ
た、 *3*「聞きなさい、種まきが種をまきに出
て行った。 *4*まいているうちに、道ばたに
落ちた種があった。すると、鳥がきて食べ
てしまった。 *5*ほかの種は土の薄い石地
に落ちた。そこは土が深くないので、すぐ
芽を出したが、 *6*日が上ると焼けて、根が
ないために枯れてしまった。 *7*ほかの種は
いばらの中に落ちた。すると、いばらが伸
びて、ふさいでしまったので、実を結ばな
かった。 *8*ほかの種は良い地に落ちた。
そしてはえて、育って、ますます実を結び
、三十倍、六十倍、百倍にもなった」。 *9*そ
して言われた、「聞く耳のある者は聞くが
よい」。 *10*イエスがひとりになられた時、そ
ばにいた者たちが、十二弟子と共に、こ
れらの譬について尋ねた。 *11*そこでイエ
スは言われた、「あなたがたには神の国の
奥義が授けられているが、ほかの者たち
には、すべてが譬で語られる。 *12*それは
『彼らは見るには見るが、認めず、聞くに
は聞くが、悟らず、悔い改めてゆるされる
ことがない』ためである」。 *13*また彼らに言
われた、「あなたがたはこの譬がわからな
いのか。それでは、どうしてすべての譬が
わかるだろうか。 *14*種まきは御言をまくの
である。 *15*道ばたに御言がまかれたとは
、こういう人たちのことである。すなわち、
御言を聞くと、すぐにサタンがきて、彼らの
中にまかれた御言を、奪って行くのである
。 *16*同じように、石地にまかれたものとは
、こういう人たちのことである。御言を聞く
と、すぐに喜んで受けるが、 *17*自分の中
に根がないので、しばらく続くだけである
。そののち、御言のために困難や迫害が
起ってくると、すぐつまずいてしまう。 *18*ま
た、いばらの中にまかれたものとは、こうい
う人たちのことである。御言を聞くが、
*19*世の心づかいと、富の惑わしと、その
他いろいろな欲とがはいってきて、御言を
ふさぐので、実を結ばなくなる。 *20*また、
良い地にまかれたものとは、こういう人た
ちのことである。御言を聞いて受けいれ、
三十倍、六十倍、百倍の実を結ぶのであ
る」。 *21*また彼らに言われた、「ますの下
や寝台の下に置くために、あかりを持って
くることがあろうか。燭台の上に置くため
ではないか。 *22*なんでも、隠されているもの
で、現れないものはなく、秘密にされてい
るもので、明るみに出ないものはない。
*23*聞く耳のある者は聞くがよい」。 *24*また
彼らに言われた、「聞くことがらに注意しな
さい。あなたがたの量るそのはかりで、自
分にも量り与えられ、その上になお増し加
えられるであろう。 *25*だれでも、持ってい
る人は更に与えられ、持っていない人は、
持っているものまでも取り上げられるであ
ろう」。 *26*また言われた、「神の国は、ある
人が地に種をまくようなものである。 *27*夜
昼、寝起きしている間に、種は芽を出して
育って行くが、どうしてそうなるのか、その
人は知らない。 *28*地はおのずから実を結
ばせるもので、初めに芽、つぎに穂、つぎ
に穂の中に豊かな実ができる。 *29*実がい
ると、すぐにかまを入れる。刈入れ時がき
たからである」。 *30*また言われた、「神の
国を何に比べようか。また、どんな譬で言
いあらわそうか。 *31*それは一粒のからし
種のようなものである。地にまかれる時に
は、地上のどんな種よりも小さいが、 *32*ま
かれると、成長してどんな野菜よりも大きく
なり、大きな枝を張り、その陰に空の鳥が
宿るほどになる」。 *33*イエスはこのような多
くの譬で、人々の聞く力にしたがって、御
言を語られた。 *34*譬によらないでは語ら
れなかったが、自分の弟子たちには、ひ
そかにすべてのことを解き明かされた。
*35*さてその日、夕方になると、イエスは弟
子たちに、「向こう岸へ渡ろう」と言われた
。 *36*そこで、彼らは群衆をあとに残し、イ
エスが舟に乗っておられるまま、乗り出し

た。ほかの舟も一緒に行った。 *37*すると、
激しい突風が起り、波が舟の中に打ち込
んできて、舟に満ちそうになった。 *38*ところ
がイエス自身は、舳の方でまくらをして
、眠っておられた。そこで、弟子たちはイ
エスをおこして、「先生、わたしどもがおぼ
れ死んでも、おかまいにならないのです
か」と言った。 *39*イエスは起きあがって風
をしかり、海にむかって、「静まれ、黙れ」
と言われると、風はやんで、大なぎになっ
た。 *40*イエスは彼らに言われた、「なぜ、
そんなにこわがるのか。どうして信仰がな
いのか」。 *41*彼らは恐れおののいて、互
に言った、「いったい、この方はだれだろう
。風も海も従わせるとは」。

5 こうして彼らは海の向こう岸、ゲラサ人
の地に着いた。 *2*それから、イエスが舟か
らあがられるとすぐに、けがれた霊につか
れた人が墓場から出てきて、イエスに出
会った。 *3*この人は墓場をすみかとしてお
り、もはやだれも、鎖でさえも彼をつなぎと
めて置けなかった。 *4*彼はたびたび足か
せや鎖でつながれたが、鎖を引きちぎり、
足かせを砕くので、だれも彼を押えつける
ことができなかったからである。 *5*そして、
夜昼たえまなく墓場や山で叫びつづけて
、石で自分のからだを傷つけていた。 *6*と
ころが、この人がイエスを遠くから見て、走
り寄って拝し、 *7*大声で叫んで言った、
「いと高き神の子イエスよ、あなたはわたし
となんの係わりがあるのです。神に誓って
お願いします。どうぞ、わたしを苦しめな
いでください」。 *8*それは、イエスが、「けが
れた霊よ、この人から出て行け」と言われ
たからである。 *9*また彼に、「なんという名
前か」と尋ねられると、「レギオンと言いま
す。大ぜいなのですから」と答えた。 *10*そ
して、自分たちをこの土地から追い出さな
いようにと、しきりに願いつづけた。 *11*さて
、そこの山の中腹に、豚の大群が飼って
あった。 *12*霊はイエスに願って言った、
「わたしどもを、豚にはいらせてください。
その中へ送ってください」。 *13*イエスがお
許しになったので、けがれた霊どもは出て
行って、豚の中へはいり込んだ。すると、
その群れは二千匹ばかりであったが、が
けから海へなだれを打って駆け下り、海の
中でおぼれ死んでしまった。 *14*豚を飼う
者たちが逃げ出して、町や村にふれまわ
ったので、人々は何事が起ったのかと見
にきた。 *15*そして、イエスのところにきて、
悪霊につかれた人が着物を着て、正気に
なってすわっており、それがレギオンを宿
していた者であるのを見て、恐れた。 *16*ま
た、それを見た人たちは、悪霊につかれ
た人の身に起った事と豚のこととを、彼ら
に話して聞かせた。 *17*そこで、人々はイ
エスに、この地方から出て行っていただき
たいと、頼みはじめた。 *18*イエスが舟に乗
ろうとされると、悪霊につかれていた人が
お供をしたいと願い出た。 *19*しかし、イエ
スはお許しにならないで、彼に言われた、
「あなたの家族のもとに帰って、イオウオ[ii]
がどんなに大きなことをしてくださったか、
またどんなにあわれんでくださったか、そ
れを知らせなさい」。 *20*そこで、彼は立ち
去り、そして自分にイエスがしてくださった
ことを、ことごとくデカポリスの地方に言い
ひろめ出したので、人々はみな驚き怪し
んだ。 *21*イエスがまた舟で向こう岸へ渡ら
れると、大ぜいの群衆がみもとに集まって
きた。イエスは海べにおられた。 *22*そこへ
、会堂司のひとりであるヤイロという者がき
て、イエスを見かけるとその足もとにひれ
伏し、 *23*しきりに願って言った、「わたしの
幼い娘が死にかかっています。どうぞ、そ
の子がなおって助かりますように、おいで
になって、手をおいてやってください」。
*24*そこで、イエスは彼と一緒に出かけら
れた。大ぜいの群衆もイエスに押し迫りな
がら、ついて行った。 *25*さてここに、十二
年間も長血をわずらっている女がいた。
*26*多くの医者にかかって、さんざん苦し
められ、その持ち物をみな費してしまった
が、なんのかいもないばかりか、かえって
ますます悪くなる一方であった。 *27*この女
がイエスのことを聞いて、群衆の中にまぎ
れ込み、うしろから、み衣にさわった。
*28*それは、せめて、み衣にでもさわれば
、なおしていただけるだろうと、思っていた
からである。 *29*すると、血の元がすぐにか
わき、女は病気がなおったことを、その身
に感じた。 *30*イエスはすぐ、自分の内から
力が出て行ったことに気づかれて、群衆
の中で振り向き、「わたしの着物にさわっ

たのはだれか」と言われた。 *31*そこで弟
子たちが言った、「ごらんのとおり、群衆が
あなたに押し迫っていますのに、だれがさ
わったかと、おっしゃるのですか」。 *32*し
かし、イエスはさわった者を見つけようとし
て、見まわしておられた。 *33*その女は自
分の身に起ったことを知って、恐れおの
のきながら進み出て、みまえにひれ伏し
て、すべてありのままを申し上げた。 *34*イ
エスはその女に言われた、「娘よ、あなた
の信仰があなたを救ったのです。安心し
て行きなさい。すっかりなおって、達者で
いなさい」。 *35*イエスが、まだ話しておら
れるうちに、会堂司の家から人々がきて言
った、「あなたの娘はなくなりました。このう
え、先生を煩わすには及びますまい」。
*36*イエスはその話している言葉を聞き流
して、会堂司に言われた、「恐れることは
ない。ただ信じなさい」。 *37*そしてペテロ、
ヤコブ、ヤコブの兄弟ヨハネのほかは、つ
いて来ることを、だれにもお許しにならな
かった。 *38*彼らが会堂司の家に着くと、イ
エスは人々が大声で泣いたり、叫んだりし
て、騒いでいるのをごらんになり、 *39*内に
はいって、彼らに言われた、「なぜ泣き騒
いでいるのか。子供は死んだのではない
。眠っているだけである」。 *40*人々はイエ
スをあざ笑った。しかし、イエスはみんな
の者を外に出し、子供の父母と供の者た
ちだけを連れて、子供のいる所にはいっ
て行かれた。 *41*そして子供の手を取って
、「タリタ、クミ」と言われた。それは、「少女
よ、さあ、起きなさい」という意味である。
*42*すると、少女はすぐに起き上がって、
歩き出した。十二歳にもなっていたからで
ある。彼らはたちまち非常な驚きに打たれ
た。 *43*イエスは、だれにもこの事を知らす
なと、きびしく彼らに命じ、また、少女に食
物を与えるようにと言われた。

6 イエスはそこを去って、郷里に行かれ
たが、弟子たちも従って行った。 *2*そして
、安息日になったので、会堂で教えはじ
められた。それを聞いた多くの人々は、驚
いて言った、「この人は、これらのことをど
こで習ってきたのか。また、この人の授か
った知恵はどうだろう。このような力あるわ
ざがその手で行われているのは、どうして
か。 *3*この人は大工ではないか。マリヤの
むすこで、ヤコブ、ヨセ、ユダ、シモンの兄
弟ではないか。またその姉妹たちも、ここ
にわたしたちと一緒にいるではないか」。
こうして彼らはイエスにつまずいた。 *4*イエ
スは言われた、「預言者は、自分の郷里、
親族、家以外では、どこででも敬われな
いことはない」。 *5*そして、そこでは力ある
わざを一つもすることができず、ただ少数
の病人に手をおいていやされただけであ
った。 *6*そして、彼らの不信仰を驚き怪し
まれた。それからイエスは、附近の村々を
巡りあるいて教えられた。 *7*また十二弟子
を呼び寄せ、ふたりずつつかわすことにし
て、彼らにけがれた霊を制する権威を与
え、 *8*また旅のために、つえ一本のほかに
は何も持たないように、パンも、袋も、帯の
中に銭も持たず、 *9*ただわらじをはくだけ
で、下着も二枚は着ないように命じられた
。 *10*そして彼らに言われた、「どこへ行っ
ても、家にはいったなら、その土地を去る
までは、そこにとどまっていなさい。 *11*ま
た、あなたがたを迎えず、あなたがたの話
を聞きもしない所があったなら、そこから
出て行くとき、彼らに対する抗議のしるし
に、足の裏のちりを払い落しなさい」。
*12*そこで、彼らは出て行って、悔改めを
宣べ伝え、 *13*多くの悪霊を追い出し、大
ぜいの病人に油をぬっていやした。 *14*さ
て、イエスの名が知れわたって、ヘロデ王
の耳にはいった。ある人々は「バプテスマ
のヨハネが、死人の中からよみがえってき
たのだ。それで、あのような力が彼のうち
に働いているのだ」と言い、 *15*他の人々
は「彼はエリヤだ」と言い、また他の人々
は「昔の預言者のような預言者だ」と言っ
た。 *16*ところが、ヘロデはこれを聞いて、
「わたしが首を切ったあのヨハネがよみが
えったのだ」と言った。 *17*このヘロデは、
自分の兄弟ピリポの妻ヘロデヤをめとっ
たが、そのことで、人をつかわし、ヨハネを
捕えて獄につないだ。 *18*それは、ヨハネ
がヘロデに、「兄弟の妻をめとるのは、よ
ろしくない」と言ったからである。 *19*そこで
、ヘロデヤはヨハネを恨み、彼を殺そうと
思っていたが、できないでいた。 *20*それ
はヘロデが、ヨハネは正しくて聖なる人で
あることを知って、彼を恐れ、彼に保護を

加え、またその教を聞いて非常に悩みながらも、なお喜んで聞いていたからである。 *21*ところが、よい機会がきた。ヘロデは自分の誕生日の祝に、高官や将校やガリラヤの重立った人たちを招いて宴会を催したが、 *22*そこへ、このヘロデヤの娘がはいってきて舞をまい、ヘロデをはじめ列座の人たちを喜ばせた。そこで王はこの少女に「ほしいものはなんでも言いなさい。あなたにあげるから」と言い、 *23*さらに「ほしければ、この国の半分でもあげよう」と誓って言った。 *24*そこで少女は座をはずして、母に「何をお願いしましょうか」と尋ねると、母は「バプテスマのヨハネの首を」と答えた。 *25*するとすぐ、少女は急いで王のところに行って願った、「今すぐに、バプテスマのヨハネの首を盆にのせて、それをいただきとうございます」。 *26*王は非常に困ったが、いったん誓ったのと、また列座の人たちの手前、少女の願いを退けることを好まなかった。 *27*そこで、王はすぐに衛兵をつかわし、ヨハネの首を持って来るように命じた。衛兵は出て行き、獄中でヨハネの首を切り、 *28*盆にのせて持ってきて少女に与え、少女はそれを母にわたした。 *29*ヨハネの弟子たちはこのことを聞き、その死体を引き取りにきて、墓に納めた。 *30*さて、使徒たちはイエスのもとに集まってきて、自分たちがしたことや教えたことを、みな報告した。 *31*するとイエスは彼らに言われた、「さあ、あなたがたは、人を避けて寂しい所へ行って、しばらく休むがよい」。それは、出入りする人が多くて、食事をする暇もなかったからである。 *32*そこで彼らは人を避け、舟に乗って寂しい所へ行った。 *33*ところが、多くの人々は彼らが出かけて行くのを見、それと気づいて、方々の町々からそこへ、一せいに駆けつけ、彼らより先に着いた。 *34*イエスは舟から上がって大ぜいの群衆をごらんになり、飼う者のない羊のようなその有様を深くあわれんで、いろいろと教えはじめられた。 *35*ところが、はや時もおそくなったので、弟子たちはイエスのもとにきて言った、「ここは寂しい所でもあり、もう時もおそくなりました。 *36*みんなを解散させ、めいめいで何か食べる物を買いに、まわりの部落や村々へ行かせてください」。 *37*イエスは答えて言われた、「あなたがたの手で食物をやりなさい」。弟子たちは言った、「わたしたちが二百デナリものパンを買ってきて、みんなに食べさせるのですか」。 *38*するとイエスは言われた、「パンは幾つあるか。見てきなさい」。彼らは確かめてきて、「五つあります。それに魚が二ひき」と言った。 *39*そこでイエスは、みんなを組々に分けて、青草の上にすわらせるように命じられた。 *40*人々は、あるいは百人ずつ、あるいは五十人ずつ、列をつくってすわった。 *41*それから、イエスは五つのパンと二ひきの魚とを手に取り、天を仰いでそれを祝福し、パンをさき、弟子たちにわたして配らせ、また、二ひきの魚もみんなにお分けになった。 *42*みんなの者は食べて満腹した。 *43*そこで、パンくずや魚の残りを集めると、十二のかごにいっぱいになった。 *44*パンを食べた者は男五千人であった。 *45*それからすぐ、イエスは自分で群衆を解散させておられる間に、しいて弟子たちを舟に乗り込ませ、向こう岸のベツサイダへ先におやりになった。 *46*そして群衆に別れてから、祈るために山へ退かれた。 *47*夕方になったとき、舟は海のまん中に出ており、イエスだけが陸地におられた。 *48*ところが逆風が吹いていたために、弟子たちがこぎ悩んでいるのをごらんになって、夜明けの四時ごろ、海の上を歩いて彼らに近づき、そのそばを通り過ぎようとされた。 *49*彼らはイエスが海の上を歩いておられるのを見て、幽霊だと思い、大声で叫んだ。 *50*みんなの者がそれを見て、おじ恐れたからである。しかし、イエスはすぐ彼らに声をかけ、「しっかりするのだ。わたしである。恐れることはない」と言われた。 *51*そして、彼らの舟に乗り込まれると、風はやんだ。彼らは心の中で、非常に驚いた。 *52*先のパンのことを悟らず、その心が鈍くなっていたからである。 *53*彼らは海を渡り、ゲネサレの地に着いて舟をつないだ。 *54*そして舟からあがると、人々はすぐイエスと知って、 *55*その地方をあまねく駆けめぐり、イエスがおられると聞けば、どこへでも病人を床にのせて運びはじめた。 *56*そして、村でも町でも部落でも、イエスがはいって行かれる所では、病人たちをその広場におき、せめてその上着の

ふさにでも、さわらせてやっていただきたいと、お願いした。そしてさわった者は皆いやされた。

7 さて、パリサイ人と、ある律法学者たちとが、エルサレムからきて、イエスのもとに集まった。 *2*そして弟子たちのうちに、不浄な手、すなわち洗わない手で、パンを食べている者があるのを見た。 *3*もともと、パリサイ人をはじめユダヤ人はみな、昔の人の言伝えをかたく守って、念入りに手を洗ってからでないと、食事をしない。 *4*また市場から帰ったときには、身を清めてからでないと、食事をせず、なおそのほかにも、杯、鉢、銅器を洗うことなど、昔から受けついでかたく守っている事が、たくさんあった。 *5*そこで、パリサイ人と律法学者たちとは、イエスに尋ねた、「なぜ、あなたの弟子たちは、昔の人の言伝えに従って歩まないで、不浄な手でパンを食べるのですか」。 *6*イエスは言われた、「イザヤは、あなたがた偽善者について、こう書いているが、それは適切な預言である、『この民は、口さきではわたしを敬うが、その心はわたしから遠く離れている。 *7*人間のいましめを教として教え、無意味にわたしを拝んでいる』。 *8*あなたがたは、神のいましめをさしおいて、人間の言伝えを固執している」。 *9*また、言われた、「あなたがたは、自分たちの言伝えを守るために、よくも神のいましめを捨てたものだ。 *10*モーセは言ったではないか、『父と母とを敬え』、また『父または母をののしる者は、必ず死に定められる』と。 *11*それだのに、あなたがたは、もし人が父または母にむかって、あなたに差上げるはずのこのものはコルバン、すなわち、供え物ですと言えば、それでよいとして、 *12*その人は父母に対して、もう何もしないで済むのだと言っている。 *13*こうしてあなたがたは、自分たちが受けついだ言伝えによって、神の言を無にしている。また、このような事をしばしばおこなっている」。 *14*それから、イエスは再び群衆を呼び寄せて言われた、「あなたがたはみんな、わたしの言うことを聞いて悟るがよい。 *15*すべて外から人の中にはいって、人をけがしうるものはない。かえって、人の中から出てくるものが、人をけがすのである。〔 *16*聞く耳のある者は聞くがよい〕」。 *17*イエスが群衆を離れて家にはいられると、弟子たちはこの譬について尋ねた。 *18*すると、言われた、「あなたがたも、そんなに鈍いのか。すべて、外から人の中にはいって来るものは、人を汚し得ないことが、わからないのか。 *19*それは人の心の中にはいるのではなく、腹の中にはいり、そして、外に出て行くだけである」。イエスはこのように、どんな食物でもきよいものとされた。 *20*さらに言われた、「人から出て来るもの、それが人をけがすのである。 *21*すなわち内部から、人の心の中から、悪い思いが出て来る。不品行、盗み、殺人、 *22*姦淫、貪欲、邪悪、欺き、好色、妬み、誹り、高慢、愚痴。 *23*これらの悪はすべて内部から出てきて、人をけがすのである」。 *24*さて、イエスは、そこを立ち去って、ツロの地方に行かれた。そして、だれにも知れないように、家の中にはいられたが、隠れていることができなかった。 *25*そして、けがれた霊につかれた幼い娘をもつ女が、イエスのことをすぐ聞きつけてきて、その足もとにひれ伏した。 *26*この女はギリシヤ人で、スロ・フェニキヤの生れであった。そして、娘から悪霊を追い出してくださいとお願いした。 *27*イエスは女に言われた、「まず子供たちに十分食べさすべきである。子供たちのパンを取って小犬に投げてやるのは、よろしくない」。 *28*すると、女は答えて言った、「主よ、お言葉どおりです。でも、食卓の下にいる小犬も、子供たちのパンくずは、いただきます」。 *29*そこでイエスは言われた、「その言葉で、じゅうぶんである。お帰りなさい。悪霊は娘から出てしまった」。 *30*そこで、女が家に帰ってみると、その子は床の上に寝ており、悪霊は出てしまっていた。 *31*それから、イエスはまたツロの地方を去り、シドンを経てデカポリス地方を通りぬけ、ガリラヤの海べにこられた。 *32*すると人々は、耳が聞えず口のきけない人を、みもとに連れてきて、手を置いてやっていただきたいとお願いした。 *33*そこで、イエスは彼ひとりを群衆の中から連れ出し、その両耳に指をさし入れ、それから、つばきでその舌を潤し、 *34*天を仰いでため息をつき、その人に「エパタ」と言われた。これ

は「開けよ」という意味である。 *35*すると彼
の耳が開け、その舌のもつれもすぐ解け
て、はっきりと話すようになった。 *36*イエス
は、この事をだれにも言ってはならぬと、
人々に口止めをされたが、口止めをすれ
ばするほど、かえって、ますます言いひろ
めた。 *37*彼らは、ひとかたならず驚いて
言った、「このかたのなさった事は、何もか
も、すばらしい。耳の聞えない者を聞える
ようにしてやり、口のきけない者をきけるよ
うにしておやりになった」。

8 そのころ、また大ぜいの群衆が集まっ
ていたが、何も食べるものがなかったので
、イエスは弟子たちを呼び寄せて言われ
た、 *2*「この群衆がかわいそうである。もう
三日間もわたしと一緒にいるのに、何も食
べるものがない。 *3*もし、彼らを空腹のまま
家に帰らせるなら、途中で弱り切ってしま
うであろう。それに、なかには遠くからきて
いる者もある」。 *4*弟子たちは答えた、「こ
んな荒野で、どこからパンを手に入れて、
これらの人々にじゅうぶん食べさせること
ができましょうか」。 *5*イエスが弟子たちに
、「パンはいくつあるか」と尋ねられると、
「七つあります」と答えた。 *6*そこでイエス
は群衆に地にすわるように命じられた。そ
して七つのパンを取り、感謝してこれをさ
き、人々に配るように弟子たちに渡される
と、弟子たちはそれを群衆に配った。 *7*ま
た小さい魚が少しばかりあったので、祝福
して、それをも人々に配るようにと言われ
た。 *8*彼らは食べて満腹した。そして残っ
たパンくずを集めると、七かごになった。
*9*人々の数はおよそ四千人であった。そ
れからイエスは彼らを解散させ、 *10*すぐ
弟子たちと共に舟に乗って、ダルマヌタの
地方へ行かれた。 *11*パリサイ人たちが出
てきて、イエスを試みようとして議論をしか
け、天からのしるしを求めた。 *12*イエスは
、心の中で深く嘆息して言われた、「なぜ
、今の時代はしるしを求めるのだろう。よく
言い聞かせておくが、しるしは今の時代
には決して与えられない」。 *13*そして、イ
エスは彼らをあとに残し、また舟に乗って
向こう岸へ行かれた。 *14*弟子たちはパン
を持って来るのを忘れていたので、舟の
中にはパン一つしか持ち合わせがなかっ
た。 *15*そのとき、イエスは彼らを戒めて、
「パリサイ人のパン種とヘロデのパン種と
を、よくよく警戒せよ」と言われた。 *16*弟子
たちは、これは自分たちがパンを持って
いないためであろうと、互に論じ合った。
*17*イエスはそれと知って、彼らに言われ
た、「なぜ、パンがないからだと論じ合って
いるのか。まだわからないのか、悟らない
のか。あなたがたの心は鈍くなっているの
か。 *18*目があっても見えないのか。耳が
あっても聞えないのか。まだ思い出さない
のか。 *19*五つのパンをさいて五千人に分
けたとき、拾い集めたパンくずは、幾つの
かごになったか」。弟子たちは答えた、
「十二かごです」。 *20*「七つのパンを四千
人に分けたときには、パンくずを幾つのか
ごに拾い集めたか」。「七かごです」と答え
た。 *21*そこでイエスは彼らに言われた、
「まだ悟らないのか」。 *22*そのうちに、彼ら
はベツサイダに着いた。すると人々が、ひ
とりの盲人を連れてきて、さわってやって
いただきたいとお願いした。 *23*イエスはこ
の盲人の手をとって、村の外に連れ出し、
その両方の目につばきをつけ、両手を彼
に当てて、「何か見えるか」と尋ねられた。
*24*すると彼は顔を上げて言った、「人が
見えます。木のように見えます。歩いてい
るようです」。 *25*それから、イエスが再び
目の上に両手を当てられると、盲人は見
つめているうちに、なおってきて、すべて
のものがはっきりと見えだした。 *26*そこで
イエスは、「村にはいってはいけない」と言
って、彼を家に帰された。 *27*さて、イエス
は弟子たちとピリポ・カイザリヤの村々へ
出かけられたが、その途中で、弟子たち
に尋ねて言われた、「人々は、わたしをだ
れと言っているか」。 *28*彼らは答えて言っ
た、「バプテスマのヨハネだと、言っていま
す。また、エリヤだと言い、また、預言者の
ひとりだと言っている者もあります」。 *29*そ
こでイエスは彼らに尋ねられた、「それで
は、あなたがたはわたしをだれと言うか」。
ペテロが答えて言った、「あなたこそキリス
トです」。 *30*するとイエスは、自分のことを
だれにも言ってはいけないと、彼らを戒め
られた。 *31*それから、人の子は必ず多く
の苦しみを受け、長老、祭司長、律法学
者たちに捨てられ、また殺され、そして三

日の後によみがえるべきことを、彼らに教
えはじめ、 *32*しかもあからさまに、この事
を話された。すると、ペテロはイエスをわき
へ引き寄せて、いさめはじめたので、
*33*イエスは振り返って、弟子たちを見な
がら、ペテロをしかって言われた、「サタン
よ、引きさがれ。あなたは神のことを思わ
ないで、人のことを思っている」。 *34*それ
から群衆を弟子たちと一緒に呼び寄せて
、彼らに言われた、「だれでもわたしにつ
いてきたいと思うなら、自分を捨て、自分
の十字架を負うて、わたしに従ってきなさ
い。 *35*自分の命を救おうと思う者はそれ
を失い、わたしのため、また福音のために
、自分の命を失う者は、それを救うであろ
う。 *36*人が全世界をもうけても、自分の命
を損したら、なんの得になろうか。 *37*また
、人はどんな代価を払って、その命を買
いもどすことができようか。 *38*邪悪で罪深
いこの時代にあって、わたしとわたしの言
葉とを恥じる者に対しては、人の子もまた
、父の栄光のうちに聖なる御使たちと共に
来るときに、その者を恥じるであろう」。

9 また、彼らに言われた、「よく聞いておく
がよい。神の国が力をもって来るのを見る
までは、決して死を味わわない者が、ここ
に立っている者の中にいる」。 *2*六日の後
、イエスは、ただペテロ、ヤコブ、ヨハネだ
けを連れて、高い山に登られた。ところが
、彼らの目の前でイエスの姿が変り、 *3*そ
の衣は真白く輝き、どんな布さらしでも、
それほどに白くすることはできないくらい
になった。 *4*すると、エリヤがモーセと共に
彼らに現れて、イエスと語り合っていた。
*5*ペテロはイエスにむかって言った、「先
生、わたしたちがここにいるのは、すばら
しいことです。それで、わたしたちは小屋
を三つ建てましょう。一つはあなたのため
に、一つはモーセのために、一つはエリ
ヤのために」。 *6*そう言ったのは、みんな
の者が非常に恐れていたので、ペテロは
何を言ってよいか、わからなかったからで
ある。 *7*すると、雲がわき起って彼らをお
おった。そして、その雲の中から声があっ
た、「これはわたしの愛する子である。これ
に聞け」。 *8*彼らは急いで見まわしたが、
もはやだれも見えず、ただイエスだけが、
自分たちと一緒におられた。 *9*一同が山
を下って来るとき、イエスは「人の子が死
人の中からよみがえるまでは、いま見たこ
とをだれにも話してはならない」と、彼らに
命じられた。 *10*彼らはこの言葉を心にと
め、死人の中からよみがえるとはどういうこ
とかと、互に論じ合った。 *11*そしてイエス
に尋ねた、「なぜ、律法学者たちは、エリ
ヤが先に来るはずだと言っているのです
か」。 *12*イエスは言われた、「確かに、エリ
ヤが先にきて、万事を元どおりに改める。
しかし、人の子について、彼が多くの苦し
みを受け、かつ恥ずかしめられると、書い
てあるのはなぜか。 *13*しかしあなたがた
に言っておく、エリヤはすでにきたのだ。
そして彼について書いてあるように、人々
は自分かってに彼をあしらった」。 *14*さて
、彼らがほかの弟子たちの所にきて見ると
、大ぜいの群衆が弟子たちを取り囲み、
そして律法学者たちが彼らと論じ合って
いた。 *15*群衆はみな、すぐイエスを見つ
けて、非常に驚き、駆け寄ってきて、あい
さつをした。 *16*イエスが彼らに、「あなた
がたは彼らと何を論じているのか」と尋ね
られると、 *17*群衆のひとりが答えた、「先
生、おしの霊につかれているわたしのむ
すこを、こちらに連れて参りました。 *18*霊
がこのむすこにとりつきますと、どこででも
彼を引き倒し、それから彼はあわを吹き、
歯をくいしばり、からだをこわばらせてしま
います。それでお弟子たちに、この霊を
追い出してくださるように願いましたが、で
きませんでした」。 *19*イエスは答えて言わ
れた、「ああ、なんという不信仰な時代で
あろう。いつまで、わたしはあなたがたと
一緒におられようか。いつまで、あなたが
たに我慢ができようか。その子をわたしの
所に連れてきなさい」。 *20*そこで人々は、
その子をみもとに連れてきた。霊がイエス
を見るや否や、その子をひきつけさせた
ので、子は地に倒れ、あわを吹きながらこ
ろげまわった。 *21*そこで、イエスが父親に
「いつごろから、こんなになったのか」と尋
ねられると、父親は答えた、「幼い時から
です。 *22*霊はたびたび、この子を火の中
、水の中に投げ入れて、殺そうとしました
。しかしできますれば、わたしどもをあわ
れんでお助けください」。 *23*イエスは彼に

言われた、「もしできれば、と言うのか。信
ずる者には、どんな事でもできる」。 24その
の子の父親はすぐ叫んで言った、「信じま
す。不信仰なわたしを、お助けください」。
25イエスは群衆が駆け寄って来るのをご
らんになって、けがれた霊をしかって言わ
れた、「おしとつんぼの霊よ、わたしがお
まえに命じる。この子から出て行け。二度
と、はいって来るな」。 26すると霊は叫び
声をあげ、激しく引きつけさせて出て行っ
た。その子は死人のようになったので、多
くの人は、死んだのだと言った。 27しかし
、イエスが手を取って起されると、その子
は立ち上がった。 28家にはいられたとき、
弟子たちはひそかにお尋ねした、「わたし
たちは、どうして霊を追い出せなかったの
ですか」。 29すると、イエスは言われた、
「このたぐいは、祈によらなければ、どうし
ても追い出すことはできない」。 30それか
ら彼らはそこを立ち去り、ガリラヤをとおっ
て行ったが、イエスは人に気づかれるの
を好まれなかった。 31それは、イエスが
弟子たちに教えて、「人の子は人々の手
にわたされ、彼らに殺され、殺されてから
三日の後によみがえるであろう」と言って
おられたからである。 32しかし、彼らはイ
エスの言われたことを悟らず、また尋ねる
のを恐れていた。 33それから彼らはカペ
ナウムにきた。そして家におられるとき、イ
エスは弟子たちに尋ねられた、「あなたが
たは途中で何を論じていたのか」。 34彼
らは黙っていた。それは途中で、だれが
一ばん偉いかと、互に論じ合っていたか
らである。 35そこで、イエスはすわって十
二弟子を呼び、そして言われた、「だれで
も一ばん先になろうと思うならば、一ばん
あとになり、みんなに仕える者とならねば
ならない」。 36そして、ひとりの幼な子をと
りあげて、彼らのまん中に立たせ、それを
抱いて言われた。 37「だれでも、このよう
な幼な子のひとりを、わたしの名のゆえに
受けいれる者は、わたしを受けいれるの
である。そして、わたしを受けいれる者は
、わたしを受けいれるのではなく、わたし
をおつかわしになったかたを受けいれる
のである」。 38ヨハネがイエスに言った、
「先生、わたしたちについてこない者が、
あなたの名を使って悪霊を追い出してい
るのを見ましたが、その人はわたしたちに
ついてこなかったので、やめさせました」。
39イエスは言われた、「やめさせないがよ
い。だれでもわたしの名で力あるわざを行
いながら、すぐそのあとで、わたしをそしる
ことはできない。 40わたしたちに反対しな
い者は、わたしたちの味方である。 41だ
れでも、キリストについている者だというの
で、あなたがたに水一杯でも飲ませてくれ
るものは、よく言っておくが、決してその報
いからもれることはないであろう。 42また、
わたしを信じるこれらの小さい者のひとり
をつまずかせる者は、大きなひきうすを首
にかけられて海に投げ込まれた方が、は
るかによい。 43もし、あなたの片手が罪を
犯させるなら、それを切り捨てなさい。両
手がそろったままで地獄の消えない火の
中に落ち込むよりは、かたわになって命
に入る方がよい。〔 44地獄では、うじがつ
きず、火も消えることがない。〕 45もし、あ
なたの片足が罪を犯させるなら、それを切
り捨てなさい。両足がそろったままで地獄
に投げ入れられるよりは、片足で命に入る
方がよい。〔 46地獄では、うじがつきず、
火も消えることがない。〕 47もし、あなたの
片目が罪を犯させるなら、それを抜き出し
なさい。両眼がそろったままで地獄に投
げ入れられるよりは、片目になって神の国
に入る方がよい。 48地獄では、うじがつき
ず、火も消えることがない。 49人はすべて
火で塩づけられねばならない。 50塩はよ
いものである。しかし、もしその塩の味が
ぬけたら、何によってその味が取りもどさ
れようか。あなたがた自身の内に塩を持ち
なさい。そして、互に和らぎなさい」。

10 それから、イエスはそこを去って、ユ
ダヤの地方とヨルダンの向こう側へ行かれ
たが、群衆がまた寄り集まったので、いつ
ものように、また教えておられた。 2そのと
き、パリサイ人たちが近づいてきて、イエ
スを試みようとして質問した、「夫はその妻
を出しても差しつかえないでしょうか」。
3イエスは答えて言われた、「モーセはあ
なたがたになんと命じたか」。 4彼らは言
った、「モーセは、離縁状を書いて妻を出
すことを許しました」。 5そこでイエスは言
われた、「モーセはあなたがたの心が、

かたくななので、あなたがたのためにこの
定めを書いたのである。 6しかし、天地創
造の初めから、『神は人を男と女とに造ら
れた。 7それゆえに、人はその父母を離
れ、 8ふたりの者は一体となるべきである』
。彼らはもはや、ふたりではなく一体であ
る。 9だから、神が合わせられたものを、
人は離してはならない」。 10家にはいって
から、弟子たちはまたこのことについて尋
ねた。 11そこで、イエスは言われた、「だ
れでも、自分の妻を出して他の女をめとる
者は、その妻に対して姦淫を行うのである
。 12また妻が、その夫と別れて他の男に
とつぐならば、姦淫を行うのである」。 13イ
エスにさわっていただくために、人々が幼
な子らをみもとに連れてきた。ところが、弟
子たちは彼らをたしなめた。 14それを見
てイエスは憤り、彼らに言われた、「幼な
子らをわたしの所に来るままにしておきな
さい。止めてはならない。神の国はこのよ
うな者の国である。 15よく聞いておくがよ
い。だれでも幼な子のように神の国を受け
いれる者でなければ、そこにはいることは
決してできない」。 16そして彼らを抱き、
手をその上において祝福された。 17イエ
スが道に出て行かれると、ひとりの人が走
り寄り、みまえにひざまずいて尋ねた、「よ
き師よ、永遠の生命を受けるために、何を
したらよいでしょうか」。 18イエスは言われ
た、「なぜわたしをよき者と言うのか。神ひ
とりのほかによい者はいない。 19いましめ
はあなたの知っているとおりである。『殺す
な、姦淫するな、盗むな、偽証を立てるな
。欺き取るな。父と母とを敬え』」。 20すると、彼は言った、「先生、それらの事はみ
な、小さい時から守っております」。 21イ
エスは彼に目をとめ、いつくしんで言われ
た、「あなたに足りないことが一つある。帰
って、持っているものをみな売り払って、
貧しい人々に施しなさい。そうすれば、天
に宝を持つようになろう。そして、わたしに
従ってきなさい」。 22すると、彼はこの言
葉を聞いて、顔を曇らせ、悲しみながら立
ち去った。たくさんの資産を持っていたか
らである。 23それから、イエスは見まわし
て、弟子たちに言われた、「財産のある者
が神の国にはいるのは、なんとむずかし
いことであろう」。 24弟子たちはこの言葉
に驚き怪しんだ。イエスは更に言われた、
「子たちよ、神の国にはいるのは、なんと
むずかしいことであろう。 25富んでいる者
が神の国にはいるよりは、らくだが針の穴
を通る方が、もっとやさしい」。 26すると彼
らはますます驚いて、互に言った、「それ
では、だれが救われることができるのだろ
う」。 27イエスは彼らを見つめて言われた
、「人にはできないが、神にはできる。神
はなんでもできるからである」。 28ペテロ
がイエスに言い出した、「ごらんなさい、わ
たしたちはいっさいを捨てて、あなたに従
って参りました」。 29イエスは言われた、
「よく聞いておくがよい。だれでもわたしの
ために、また福音のために、家、兄弟、姉
妹、母、父、子、もしくは畑を捨てた者は、
30必ずその百倍を受ける。すなわち、今
この時代では家、兄弟、姉妹、母、子およ
び畑を迫害と共に受け、また、きたるべき
世では永遠の生命を受ける。 31しかし、
多くの先の者はあとになり、あとの者は先
になるであろう」。 32さて、一同はエルサ
レムへ上る途上にあったが、イエスが先頭
に立って行かれたので、彼らは驚き怪し
み、従う者たちは恐れた。するとイエスは
また十二弟子を呼び寄せて、自分の身に
起ろうとすることについて語りはじめられた
、 33「見よ、わたしたちはエルサレムへ上
って行くが、人の子は祭司長、律法学者
たちの手に引きわたされる。そして彼らは
死刑を宣告した上、彼を異邦人に引きわ
たすであろう。 34また彼をあざけり、つば
きをかけ、むち打ち、ついに殺してしまう。
そして彼は三日の後によみがえるであろう
」。 35さて、ゼベダイの子のヤコブとヨハ
ネとがイエスのもとにきて言った、「先生、
わたしたちがお頼みすることは、なんでも
かなえてくださるようにお願いします」。
36イエスは彼らに「何をしてほしいと、願う
のか」と言われた。 37すると彼らは言った
、「栄光をお受けになるとき、ひとりをあな
たの右に、ひとりを左にすわるようにしてく
ださい」。 38イエスは言われた、「あなた
がたは自分が何を求めているのか、わか
っていない。あなたがたは、わたしが飲む
杯を飲み、わたしが受けるバプテスマを受
けることができるか」。 39彼らは「できます
」と答えた。するとイエスは言われた、

「あなたがたは、わたしが飲む杯を飲み、
わたしが受けるバプテスマを受けるであろ
う。 *40*しかし、わたしの右、左にすわらせ
ることは、わたしのすることではなく、ただ
備えられている人々だけに許されることで
ある」。 *41*十人の者はこれを聞いて、ヤコ
ブとヨハネとのことで憤慨し出した。 *42*そ
こで、イエスは彼らを呼び寄せて言われた
、「あなたがたの知っているとおり、異邦人
の支配者と見られている人々は、その民
を治め、また偉い人たちは、その民の上
に権力をふるっている。 *43*しかし、あなた
がたの間では、そうであってはならない。
かえって、あなたがたの間で偉くなりたい
と思う者は、仕える人となり、 *44*あなたが
たの間でかしらになりたいと思う者は、す
べての人の僕とならねばならない。 *45*人
の子がきたのも、仕えられるためではなく
、仕えるためであり、また多くの人のあが
ないとして、自分の命を与えるためである
」。 *46*それから、彼らはエリコにきた。そし
て、イエスが弟子たちや大ぜいの群衆と
共にエリコから出かけられたとき、テマイの
子、バルテマイという盲人のこじきが、道
ばたにすわっていた。 *47*ところが、ナザレ
のイエスだと聞いて、彼は「ダビデの子イ
エスよ、わたしをあわれんでください」と叫
び出した。 *48*多くの人々は彼をしかって
黙らせようとしたが、彼はますます激しく叫
びつづけた、「ダビデの子イエスよ、わた
しをあわれんでください」。 *49*イエスは立
ちどまって「彼を呼べ」と命じられた。そこ
で、人々はその盲人を呼んで言った、「喜
べ、立て、おまえを呼んでおられる」。
*50*そこで彼は上着を脱ぎ捨て、踊りあが
ってイエスのもとにきた。 *51*イエスは彼に
むかって言われた、「わたしに何をしてほ
しいのか」。その盲人は言った、「先生、見
えるようになることです」。 *52*そこでイエス
は言われた、「行け、あなたの信仰があな
たを救った」。すると彼は、たちまち見える
ようになり、イエスに従って行った。

11 さて、彼らがエルサレムに近づき、オ
リブの山に沿ったベテパゲ、ベタニヤの
附近にきた時、イエスはふたりの弟子をつ
かわして言われた、 *2*「むこうの村へ行き
なさい。そこにはいるとすぐ、まだだれも乗
ったことのないろばの子が、つないである
のを見るであろう。それを解いて引いてき
なさい。 *3*もし、だれかがあなたがたに、な
ぜそんな事をするのかと言ったなら、主が
お入り用なのです。またすぐ、ここへ返し
てくださいますと、言いなさい」。 *4*そこで、
彼らは出かけて行き、そして表通りの戸口
に、ろばの子がつないであるのを見たの
で、それを解いた。 *5*すると、そこに立って
いた人々が言った、「そのろばの子を解い
て、どうするのか」。 *6*弟子たちは、イエス
が言われたとおり彼らに話したので、ゆる
してくれた。 *7*そこで、弟子たちは、そのろ
ばの子をイエスのところに引いてきて、自
分たちの上着をそれに投げかけると、イエ
スはその上にお乗りになった。 *8*すると多
くの人々は自分たちの上着を道に敷き、
また他の人々は葉のついた枝を野原から
切ってきて敷いた。 *9*そして、前に行く者
も、あとに従う者も共に叫びつづけた、「ホ
サナ、イオウオ[iii]の御名によってきたる者
に、祝福あれ。 *10*今きたる、われらの父ダ
ビデの国に、祝福あれ。いと高き所に、ホ
サナ」。 *11*こうしてイエスはエルサレムに
着き、宮にはいられた。そして、すべての
ものを見まわった後、もはや時もおそくな
っていたので、十二弟子と共にベタニヤ
に出て行かれた。 *12*翌日、彼らがベタニ
ヤから出かけてきたとき、イエスは空腹を
おぼえられた。 *13*そして、葉の茂ったい
ちじくの木を遠くからごらんになって、その
木に何かありはしないかと近寄られたが、
葉のほかは何も見当らなかった。いちじく
の季節でなかったからである。 *14*そこで、
イエスはその木にむかって、「今から後い
つまでも、おまえの実を食べる者がないよ
うに」と言われた。弟子たちはこれを聞い
ていた。 *15*それから、彼らはエルサレム
にきた。イエスは宮に入り、宮の庭で売り
買いしていた人々を追い出しはじめ、両
替人の台や、はとを売る者の腰掛をくつ
がえし、 *16*また器ものを持って宮の庭を
通り抜けるのをお許しにならなかった。
*17*そして、彼らに教えて言われた、「『わ
たしの家は、すべての国民の祈の家とと
なえらるべきである』と書いてあるではな
いか。それだのに、あなたがたはそれを
強盗の巣にしてしまった」。 *18*祭司長、

律法学者たちはこれを聞いて、どうかして
イエスを殺そうと計った。彼らは、群衆が
みなその教に感動していたので、イエスを
恐れていたからである。 *19*夕方になると、
イエスと弟子たちとは、いつものように都
の外に出て行った。 *20*朝はやく道をとお
っていると、彼らは先のいちじくが根元か
ら枯れているのを見た。 *21*そこで、ペテロ
は思い出してイエスに言った、「先生、ご
らんなさい。あなたがのろわれたいちじく
が、枯れています」。 *22*イエスは答えて言
われた、「神を信じなさい。 *23*よく聞いて
おくがよい。だれでもこの山に、動き出し
て、海の中にはいれと言い、その言ったこ
とは必ず成ると、心に疑わないで信じるな
ら、そのとおりに成るであろう。 *24*そこで、
あなたがたに言うが、なんでも祈り求める
ことは、すでにかなえられたと信じなさい。
そうすれば、そのとおりになるであろう。
*25*また立って祈るとき、だれかに対して、
何か恨み事があるならば、ゆるしてやりな
さい。そうすれば、天にいますあなたがた
の父も、あなたがたのあやまちを、ゆるし
てくださるであろう。〔 *26*もしゆるさないな
らば、天にいますあなたがたの父も、あな
たがたのあやまちを、ゆるしてくださらない
であろう〕」。 *27*彼らはまたエルサレムにき
た。そして、イエスが宮の内を歩いておら
れると、祭司長、律法学者、長老たちが、
みもとにきて言った、 *28*「何の権威によっ
てこれらの事をするのですか。だれが、そ
うする権威を授けたのですか」。 *29*そこで
、イエスは彼らに言われた、「一つだけ尋
ねよう。それに答えてほしい。そうしたら、
何の権威によって、わたしがこれらの事を
するのか、あなたがたに言おう。 *30*ヨハネ
のバプテスマは天からであったか、人から
であったか、答えなさい」。 *31*すると、彼ら
は互に論じて言った、「もし天からだと言
えば、では、なぜ彼を信じなかったのか、
とイエスは言うだろう。 *32*しかし、人からだ
と言えば……」。彼らは群衆を恐れていた
。人々が皆、ヨハネを預言者だとほんとう
に思っていたからである。 *33*それで彼ら
は「わたしたちにはわかりません」と答えた
。するとイエスは言われた、「わたしも何の
権威によってこれらの事をするのか、あな
たがたに言うまい」。

12 そこでイエスは譬で彼らに語り出され
た、「ある人がぶどう園を造り、垣をめぐら
し、また酒ぶねの穴を掘り、やぐらを立て
、それを農夫たちに貸して、旅に出かけた
。 *2*季節になったので、農夫たちのところ
へ、ひとりの僕を送って、ぶどう園の収穫
の分け前を取り立てさせようとした。 *3*する
と、彼らはその僕をつかまえて、袋だたき
にし、から手で帰らせた。 *4*また他の僕を
送ったが、その頭をなぐって侮辱した。
*5*そこでまた他の者を送ったが、今度はそ
れを殺してしまった。そのほか、なお大ぜ
いの者を送ったが、彼らを打ったり、殺し
たりした。 *6*ここに、もうひとりの者がいた。
それは彼の愛子であった。自分の子は敬
ってくれるだろうと思って、最後に彼をつ
かわした。 *7*すると、農夫たちは『あれはあ
と取りだ。さあ、これを殺してしまおう。そう
したら、その財産はわれわれのものになる
のだ』と話し合い、 *8*彼をつかまえて殺し、
ぶどう園の外に投げ捨てた。 *9*このぶどう
園の主人は、どうするだろうか。彼は出て
きて、農夫たちを殺し、ぶどう園を他の人
々に与えるであろう。 *10*あなたがたは、こ
の聖書の句を読んだことがないのか。『家
造りらの捨てた石が隅のかしら石になった
。 *11*これはイオウオ[iv]がなされたことで、わ
たしたちの目には不思議に見える』」。
*12*彼らはいまの譬が、自分たちに当てて
語られたことを悟ったので、イエスを捕え
ようとしたが、群衆を恐れた。そしてイエス
をそこに残して立ち去った。 *13*さて、人々
はパリサイ人やヘロデ党の者を数人、イ
エスのもとにつかわして、その言葉じりを
捕えようとした。 *14*彼らはきてイエスに言
った、「先生、わたしたちはあなたが真実
なかたで、だれをも、はばかられないこと
を知っています。あな たは人に分け隔て
をなさらないで、真理に基いて神の道を
教えてくださいます。ところで、カイザルに
税金を納めてよいでしょうか、いけないで
しょうか。納めるべきでしょうか、納めては
ならないのでしょうか」。 *15*イエスは彼らの
偽善を見抜いて言われた、「なぜわたしを
ためそうとするのか。デナリを持ってきて
見せなさい」。 *16*彼らはそれを持ってきた
。そこでイエスは言われた、「これは、だれ
の肖像、だれの記号か」。彼らは「カイザ

ルのです」と答えた。 *17*するとイエスは言
われた、「カイザルのものはカイザルに、
神のものは神に返しなさい」。彼らはイエ
スに驚嘆した。 *18*復活ということはないと
主張していたサドカイ人たちが、イエスの
もとにきて質問した、 *19*「先生、モーセは
、わたしたちのためにこう書いています、
『もし、ある人の兄が死んで、その残され
た妻に、子がない場合には、弟はこの女
をめとって、兄のために子をもうけねばな
らない』。 *20*ここに、七人の兄弟がいまし
た。長男は妻をめとりましたが、子がなくて
死に、 *21*次男がその女をめとって、また
子をもうけずに死に、三男も同様でした。
*22*こうして、七人ともみな子孫を残しませ
んでした。最後にその女も死にました。
*23*復活のとき、彼らが皆よみがえった場
合、この女はだれの妻なのでしょうか。七
人とも彼女を妻にしたのですが」。 *24*イエ
スは言われた、「あなたがたがそんな思い
違いをしているのは、聖書も神の力も知ら
ないからではないか。 *25*彼らが死人の中
からよみがえるときには、めとったり、とつ
いだりすることはない。彼らは天にいる御
使のようなものである。 *26*死人がよみがえ
ることについては、モーセの書の柴の篇
で、神がモーセに仰せられた言葉を読ん
だことがないのか。『わたしはアブラハム
の神、イサクの神、ヤコブの神である』とあ
るではないか。 *27*神は死んだ者の神では
なく、生きている者の神である。あなたが
たは非常な思い違いをしている」。 *28*ひと
りの律法学者がきて、彼らが互に論じ合っ
ているのを聞き、またイエスが巧みに答え
られたのを認めて、イエスに質問した、
「すべてのいましめの中で、どれが第一の
ものですか」。 *29*イエスは答えられた、
「第一のいましめはこれである、『イスラエ
ルよ、聞け。わたしたちの神、イオウオ[v]だ
けはイオウオ[vi]である。 *30*心をつくし、精
神をつくし、思いをつくし、力をつくして、
あなたの神、イオウオ[vii]を愛せよ』。 *31*第
二はこれである、『自分を愛するようにあ
なたの隣り人を愛せよ』。これより大事ない
ましめは、ほかにない」。 *32*そこで、この
律法学者はイエスに言った、「先生、仰せ
のとおりです、『神はひとりであって、その
ほかに神はない』と言われたのは、ほんと
うです。 *33*また『心をつくし、知恵をつくし
、力をつくして神を愛し、また自分を愛す
るように隣り人を愛する』ということは、す
べての燔祭や犠牲よりも、はるかに大事
なことです」。 *34*イエスは、彼が適切な答
をしたのを見て言われた、「あなたは神の
国から遠くない」。それから後は、イエスに
あえて問う者はなかった。 *35*イエスが宮
で教えておられたとき、こう言われた、「律
法学者たちは、どうしてキリストをダビデの
子だと言うのか。 *36*ダビデ自身が聖霊に
感じて言った、『イオウオ[viii]はわが主に仰
せになった、あなたの敵をあなたの足もと
に置くときまでは、わたしの右に座してい
なさい』。 *37*このように、ダビデ自身がキリ
ストを主と呼んでいる。それなら、どうして
キリストはダビデの子であろうか」。大ぜい
の群衆は、喜んでイエスに耳を傾けてい
た。 *38*イエスはその教の中で言われた、「
律法学者に気をつけなさい。彼らは長い
衣を着て歩くことや、広場であいさつされ
ることや、 *39*また会堂の上席、宴会の上
座を好んでいる。 *40*また、やもめたちの
家を食い倒し、見えのために長い祈をす
る。彼らはもっときびしいさばきを受けるで
あろう」。 *41*イエスは、さいせん箱にむか
ってすわり、群衆がその箱に金を投げ入
れる様子を見ておられた。多くの金持は、
たくさんの金を投げ入れていた。 *42*ところ
が、ひとりの貧しいやもめがきて、レプタ二
つを入れた。それは一コドラントに当る。
*43*そこで、イエスは弟子たちを呼び寄せ
て言われた、「よく聞きなさい。あの貧しい
やもめは、さいせん箱に投げ入れている
人たちの中で、だれよりもたくさん入れた
のだ。 *44*みんなの者はありあまる中から
投げ入れたが、あの婦人はその乏しい中
から、あらゆる持ち物、その生活費全部を
入れたからである」。

13 イエスが宮から出て行かれるとき、弟
子のひとりが言った、「先生、ごらんなさい
。なんという見事な石、なんという立派な
建物でしょう」。 *2*イエスは言われた、「あ
なたは、これらの大きな建物をながめて
るのか。その石一つでもくずされないまま
で、他の石の上に残ることもなくなるであ
ろう」。 *3*またオリブ山で、宮にむかってす

わっておられると、ペテロ、ヤコブ、ヨハネ
、アンデレが、ひそかにお尋ねした。
4「わたしたちにお話しください。いつ、そ
んなことが起るのでしょうか。またそんなこ
とがことごとく成就するような場合には、ど
んな前兆がありますか」。 *5*そこで、イエス
は話しはじめられた、「人に惑わされない
ように気をつけなさい。 *6*多くの者がわた
しの名を名のって現れ、自分がそれだと
言って、多くの人を惑わすであろう。 *7*ま
た、戦争と戦争のうわさとを聞くときにも、
あわてるな。それは起らねばならないが、
まだ終りではない。 *8*民は民に、国は国に
敵対して立ち上がるであろう。またあちこ
ちに地震があり、またききんが起るであろ
う。これらは産みの苦しみの初めである。
*9*あなたがたは自分で気をつけていなさ
い。あなたがたは、わたしのために、衆議
所に引きわたされ、会堂で打たれ、長官
たちや王たちの前に立たされ、彼らに対
してあかしをさせられるであろう。 *10*こうし
て、福音はまずすべての民に宣べ伝えら
れねばならない。 *11*そして、人々があな
たがたを連れて行って引きわたすとき、何
を言おうかと、前もって心配するな。その
場合、自分に示されることを語るがよい。
語る者はあなたがた自身ではなくて、聖
霊である。 *12*また兄弟は兄弟を、父は子
を殺すために渡し、子は両親に逆らって
立ち、彼らを殺させるであろう。 *13*また、
あなたがたはわたしの名のゆえに、すべ
ての人に憎まれるであろう。しかし、最後
まで耐え忍ぶ者は救われる。 *14*荒らす憎
むべきものが、立ってはならぬ所に立つ
のを見たならば（読者よ、悟れ）、そのとき
、ユダヤにいる人々は山へ逃げよ。 *15*屋
上にいる者は、下におりるな。また家から
物を取り出そうとして内にはいるな。 *16*畑
にいる者は、上着を取りにあとへもどるな
。 *17*その日には、身重の女と乳飲み子を
もつ女とは、不幸である。 *18*この事が冬
おこらぬように祈れ。 *19*その日には、神が
万物を造られた創造の初めから現在に至
るまで、かつてなく今後もないような患難
が起るからである。 *20*もしイオウオ[ix]がそ
の期間を縮めてくださらないなら、救われ
る者はひとりもないであろう。しかし、選ば
れた選民のために、その期間を縮めてく
ださったのである。 *21*そのとき、だれかが
あなたがたに『見よ、ここにキリストがいる』
、『見よ、あそこにいる』と言っても、それを
信じるな。 *22*にせキリストたちや、にせ預
言者たちが起って、しるしと奇跡とを行い
、できれば、選民をも惑わそうとするであ
ろう。 *23*だから、気をつけていなさい。い
っさいの事を、あなたがたに前もって言っ
ておく。 *24*その日には、この患難の後、
日は暗くなり、月はその光を放つことをや
め、 *25*星は空から落ち、天体は揺り動か
されるであろう。 *26*そのとき、大いなる力と
栄光とをもって、人の子が雲に乗って来る
のを、人々は見るであろう。 *27*そのとき、
彼は御使たちをつかわして、地のはてか
ら天のはてまで、四方からその選民を呼
び集めるであろう。 *28*いちじくの木からこ
の譬を学びなさい。その枝が柔らかになり
、葉が出るようになると、夏の近いことがわ
かる。 *29*そのように、これらの事が起るの
を見たならば、人の子が戸口まで近づい
ていると知りなさい。 *30*よく聞いておきな
さい。これらの事が、ことごとく起るまでは
、この時代は滅びることがない。 *31*天地
は滅びるであろう。しかしわたしの言葉は
滅びることがない。 *32*その日、その時は、
だれも知らない。天にいる御使たちも、ま
た子も知らない、ただ父だけが知っておら
れる。 *33*気をつけて、目をさましていなさ
い。その時がいつであるか、あなたがたに
はわからないからである。 *34*それはちょう
ど、旅に立つ人が家を出るに当り、その僕
たちに、それぞれ仕事を割り当てて責任
をもたせ、門番には目をさましておれと、
命じるようなものである。 *35*だから、目をさ
ましていなさい。いつ、家の主人が帰って
来るのか、夕方か、夜中か、にわとりの鳴
くころか、明け方か、わからないからである
。 *36*あるいは急に帰ってきて、あなたがた
の眠っているところを見つけるかも知れな
い。 *37*目をさましていなさい。わたしがあ
なたがたに言うこの言葉は、すべての人
々に言うのである」。

14 さて、過越と除酵との祭の二日前に
なった。祭司長たちや律法学者たちは、
策略をもってイエスを捕えたうえ、なんとか
して殺そうと計っていた。 *2*彼らは、「祭の

間はいけない。民衆が騒ぎを起すかも知
れない」と言っていた。 *3*イエスがベタニヤ
で、らい病人シモンの家にいて、食卓に
ついておられたとき、ひとりの女が、非常
に高価で純粋なナルドの香油が入れてあ
る石膏のつぼを持ってきて、それをこわし
、香油をイエスの頭に注ぎかけた。 *4*すす
と、ある人々が憤って互に言った、「なん
のために香油をこんなにむだにするのか
。 *5*この香油を三百デナリ以上にでも売っ
て、貧しい人たちに施すことができたのに
」。そして女をきびしくとがめた。 *6*するとイ
エスは言われた、「するままにさせておき
なさい。なぜ女を困らせるのか。わたしに
よい事をしてくれたのだ。 *7*貧しい人たち
はいつもあなたがたと一緒にいるから、し
たいときにはいつでも、よい事をしてやれ
る。しかし、わたしはあなたがたといつも一
緒にいるわけではない。 *8*この女はできる
限りの事をしたのだ。すなわち、わたしの
からだに油を注いで、あらかじめ葬りの用
意をしてくれたのである。 *9*よく聞きなさい
。全世界のどこででも、福音が宣べ伝えら
れる所では、この女のした事も記念として
語られるであろう」。 *10*ときに、十二弟子
のひとりイスカリオテのユダは、イエスを祭
司長たちに引きわたそうとして、彼らの所
へ行った。 *11*彼らはこれを聞いて喜び、
金を与えることを約束した。そこでユダは
、どうかしてイエスを引きわたそうと、機会
をねらっていた。 *12*除酵祭の第一日、す
なわち過越の小羊をほふる日に、弟子た
ちがイエスに尋ねた、「わたしたちは、過
越の食事をなさる用意を、どこへ行ってし
たらよいでしょうか」。 *13*そこで、イエスは
ふたりの弟子を使いに出して言われた、
「市内に行くと、水がめを持っている男に
出会うであろう。その人について行きなさ
い。 *14*そして、その人がはいって行く家
の主人に言いなさい、『弟子たちと一緒に
過越の食事をする座敷はどこか、と先生
が言っておられます』。 *15*するとその主人
は、席を整えて用意された二階の広間を
見せてくれるから、そこにわたしたちのた
めに用意をしなさい」。 *16*弟子たちは出
かけて市内に行って見ると、イエスが言わ
れたとおりであったので、過越の食事の
用意をした。 *17*夕方になって、イエスは
十二弟子と一緒にそこに行かれた。 *18*そ
して、一同が席について食事をしていると
き言われた、「特にあなたがたに言っておく
が、あなたがたの中のひとりで、わたしと
一緒に食事をしている者が、わたしを裏
切ろうとしている」。 *19*弟子たちは心配し
て、ひとりびとり「まさか、わたしではない
でしょう」と言い出した。 *20*イエスは言わ
れた、「十二人の中のひとりで、わたしと一
緒に同じ鉢にパンをひたしている者が、そ
れである。 *21*たしかに人の子は、自分に
ついて書いてあるとおりに去って行く。し
かし、人の子を裏切るその人は、わざわい
である。その人は生れなかった方が、彼
のためによかったであろう」。 *22*一同が食
事をしているとき、イエスはパンを取り、祝
福してこれをさき、弟子たちに与えて言わ
れた、「取れ、これはわたしのからだである
」。 *23*また杯を取り、感謝して彼らに与
えられると、一同はその杯から飲んだ。
*24*イエスはまた言われた、「これは、多く
の人のために流すわたしの契約の血であ
る。 *25*あなたがたによく言っておく。神の
国で新しく飲むその日までは、わたしは決
して二度と、ぶどうの実から造ったものを
飲むことをしない」。 *26*彼らは、さんびを
歌った後、オリブ山へ出かけて行った。
*27*そのとき、イエスは弟子たちに言われ
た、「あなたがたは皆、わたしにつまずくで
あろう。『わたしは羊飼を打つ。そして、羊
は散らされるであろう』と書いてあるからで
ある。 *28*しかしわたしは、よみがえってか
ら、あなたがたより先にガリラヤへ行くであ
ろう」。 *29*するとペテロはイエスに言った、
「たとい、みんなの者がつまずいても、わ
たしはつまずきません」。 *30*イエスは言わ
れた、「あなたによく言っておく。きょう、今
夜、にわとりが二度鳴く前に、そう言うあな
たが、三度わたしを知らないと言うだろう」
。 *31*ペテロは力をこめて言った、「たとい
あなたと一緒に死なねばならなくなっても
、あなたを知らないなどとは、決して申しま
せん」。みんなの者もまた、同じようなこと
を言った。 *32*さて、一同はゲツセマネとい
う所にきた。そしてイエスは弟子たちに言
われた、「わたしが祈っている間、ここにす
わっていなさい」。 *33*そしてペテロ、ヤコ
ブ、ヨハネを一緒に連れて行かれたが、

恐れおののき、また悩みはじめて、彼らに
言われた、 *34*「わたしは悲しみのあまり死
ぬほどである。ここに待っていて、目をさま
していなさい」。 *35*そして少し進んで行き
、地にひれ伏し、もしできることなら、この
時を過ぎ去らせてくださるようにと祈りつづ
け、そして言われた、 *36*「アバ、父よ、あ
なたには、できないことはありません。どう
か、この杯をわたしから取りのけてください
。しかし、わたしの思いではなく、みこころ
のままになさってください」。 *37*それから、
きてごらんになると、弟子たちが眠ってい
たので、ペテロに言われた、「シモンよ、
眠っているのか、ひと時も目をさましてい
ることができなかったのか。 *38*誘惑に陥ら
ないように、目をさまして祈っていなさい。
心は熱しているが、肉体が弱いのである」
。 *39*また離れて行って同じ言葉で祈られ
た。 *40*またきてごらんになると、彼らはま
だ眠っていた。その目が重くなっていたの
である。そして、彼らはどうお答えしてよい
か、わからなかった。 *41*三度目にきて言
われた、「まだ眠っているのか、休んでい
るのか。もうそれでよかろう。時がきた。見
よ、人の子は罪人らの手に渡されるのだ。
*42*立て、さあ行こう。見よ、わたしを裏切
る者が近づいてきた」。 *43*そしてすぐ、イ
エスがまだ話しておられるうちに、十二弟
子のひとりのユダが進みよってきた。また
祭司長、律法学者、長老たちから送られ
た群衆も、剣と棒とを持って彼についてき
た。 *44*イエスを裏切る者は、あらかじめ彼
らに合図をしておいた、「わたしの接吻す
る者が、その人だ。その人をつかまえて、
まちがいなく引ひっぱって行け」。 *45*彼は
来るとすぐ、イエスに近寄り、「先生」と言
って接吻した。 *46*人々はイエスに手をか
けてつかまえた。 *47*すると、イエスのそば
に立っていた者のひとりが、剣を抜いて大
祭司の僕に切りかかり、その片耳を切り落
した。 *48*イエスは彼らにむかって言われ
た、「あなたがたは強盗にむかうように、剣
や棒を持ってわたしを捕えにきたのか。
*49*わたしは毎日あなたがたと一緒に宮に
いて教えていたのに、わたしをつかまえは
しなかった。しかし聖書の言葉は成就され
ねばならない」。 *50*弟子たちは皆イエスを
見捨てて逃げ去った。 *51*ときに、ある若
者が身に亜麻布をまとって、イエスのあと
について行ったが、人々が彼をつかまえ
ようとしたので、 *52*その亜麻布を捨てて、
裸で逃げて行った。 *53*それから、イエスを
大祭司のところに連れて行くと、祭司長、
長老、律法学者たちがみな集まってきた
。 *54*ペテロは遠くからイエスについて行っ
て、大祭司の中庭まではいり込み、その
下役どもにまじってすわり、火にあたって
いた。 *55*さて、祭司長たちと全議会とは、
イエスを死刑にするために、イエスに不利
な証拠を見つけようとしたが、得られなか
った。 *56*多くの者がイエスに対して偽証
を立てたが、その証言が合わなかったか
らである。 *57*ついに、ある人々が立ちあ
がり、イエスに対して偽証を立てて言った
、 *58*「わたしたちはこの人が『わたしは手
で造ったこの神殿を打ちこわし、三日の
後に手で造られない別の神殿を建てるの
だ』と言うのを聞きました」。 *59*しかし、この
ような証言も互に合わなかった。 *60*そこで
大祭司が立ちあがって、まん中に進み、
イエスに聞きただして言った、「何も答え
ないのか。これらの人々があなたに対して
不利な証言を申し立てているが、どうなの
か」。 *61*しかし、イエスは黙っていて、何も
お答えにならなかった。大祭司は再び聞
きただして言った、「あなたは、ほむべき
者の子、キリストであるか」。 *62*イエスは言
われた、「わたしがそれである。あなたが
たは人の子が力ある者の右に座し、天の
雲に乗って来るのを見るであろう」。 *63*す
ると、大祭司はその衣を引き裂いて言っ
た、「どうして、これ以上、証人の必要があ
ろう。 *64*あなたがたはこのけがし言を聞い
た。あなたがたの意見はどうか」。すると、
彼らは皆、イエスを死に当るものと断定し
た。 *65*そして、ある者はイエスにつばきを
かけ、目隠しをし、こぶしでたたいて、「言
いあててみよ」と言いはじめた。また下役
どもはイエスを引きとって、手のひらでた
たいた。 *66*ペテロは下で中庭にいたが、
大祭司の女中のひとりがきて、 *67*ペテロ
が火にあたっているのを見ると、彼を見つ
めて、「あなたもあのナザレ人イエスと一
緒だった」と言った。 *68*するとペテロはそ
れを打ち消して、「わたしは知らない。あ
なたの言うことがなんの事か、わからない」

と言って、庭口の方に出て行った。 *69*ところが、先の女中が彼を見て、そばに立っていた人々に、またもや「この人はあの仲間のひとりです」と言いだした。 *70*ペテロは再びそれを打ち消した。しばらくして、そばに立っていた人たちがまたペテロに言った、「確かにあなたは彼らの仲間だ。あなたもガリラヤ人だから」。 *71*しかし、彼は、「あなたがたの話しているその人のことは何も知らない」と言い張って、激しく誓いはじめた。 *72*するとすぐ、にわとりが二度目に鳴いた。ペテロは、「にわとりが二度鳴く前に、三度わたしを知らないと言うであろう」と言われたイエスの言葉を思い出し、そして思いかえして泣きつづけた。

15 夜が明けるとすぐ、祭司長たちは長老、律法学者たち、および全議会と協議をこらした末、イエスを縛って引き出し、ピラトに渡した。 *2*ピラトはイエスに尋ねた、「あなたがユダヤ人の王であるか」。イエスは、「そのとおりである」とお答えになった。 *3*そこで祭司長たちは、イエスのことをいろいろと訴えた。 *4*ピラトはもう一度イエスに尋ねた、「何も答えないのか。見よ、あなたに対してあんなにまで次々に訴えているではないか」。 *5*しかし、イエスはピラトが不思議に思うほどに、もう何もお答えにならなかった。 *6*さて、祭のたびごとに、ピラトは人々が願い出る囚人ひとりを、ゆるしてやることにしていた。 *7*ここに、暴動を起し人殺しをしてつながれていた暴徒の中に、バラバという者がいた。 *8*群衆が押しかけてきて、いつものとおりにしてほしいと要求しはじめたので、 *9*ピラトは彼らにむかって、「おまえたちはユダヤ人の王をゆるしてもらいたいのか」と言った。 *10*それは、祭司長たちがイエスを引きわたしたのは、ねたみのためであることが、ピラトにわかっていたからである。 *11*しかし祭司長たちは、バラバの方をゆるしてもらうように、群衆を煽動した。 *12*そこでピラトはまた彼らに言った、「それでは、おまえたちがユダヤ人の王と呼んでいるあの人は、どうしたらよいか」。 *13*彼らは、また叫んだ、「十字架につけよ」。 *14*ピラトは言った、「あの人は、いったい、どんな悪事をしたのか」。すると、彼らは一そう激しく叫んで、「十字架につけよ」と言った。 *15*それで、ピラトは群衆を満足させようと思って、バラバをゆるしてやり、イエスをむち打ったのち、十字架につけるために引きわたした。 *16*兵士たちはイエスを、邸宅、すなわち総督官邸の内に連れて行き、全部隊を呼び集めた。 *17*そしてイエスに紫の衣を着せ、いばらの冠を編んでかぶらせ、 *18*「ユダヤ人の王、ばんざい」と言って敬礼をしはじめた。 *19*また、葦の棒でその頭をたたき、つばきをかけ、ひざまずいて拝んだりした。 *20*こうして、イエスを嘲弄したあげく、紫の衣をはぎとり、元の上着を着せた。それから、彼らはイエスを十字架につけるために引き出した。 *21*そこへ、アレキサンデルとルポスとの父シモンというクレネ人が、郊外からきて通りかかったので、人々はイエスの十字架を無理に負わせた。 *22*そしてイエスをゴルゴタ、その意味は、されこうべ、という所に連れて行った。 *23*そしてイエスに、没薬をまぜたぶどう酒をさし出したが、お受けにならなかった。 *24*それから、イエスを十字架につけた。そしてくじを引いて、だれが何を取るかを定めたうえ、イエスの着物を分けた。 *25*イエスを十字架につけたのは、朝の九時ごろであった。 *26*イエスの罪状書きには「ユダヤ人の王」と、しるしてあった。 *27*また、イエスと共にふたりの強盗を、ひとりを右に、ひとりを左に、十字架につけた。〔 *28*こうして「彼は罪人たちのひとりに数えられた」と書いてある言葉が成就したのである。〕 *29*そこを通りかかった者たちは、頭を振りながら、イエスをののしって言った、「ああ、神殿を打ちこわして三日のうちに建てる者よ、 *30*十字架からおりてきて自分を救え」。 *31*祭司長たちも同じように、律法学者たちと一緒になって、かわるがわる嘲弄して言った、「他人を救ったが、自分自身を救うことができない。 *32*イスラエルの王キリスト、いま十字架からおりてみるがよい。それを見たら信じよう」。また、一緒に十字架につけられた者たちも、イエスをののしった。 *33*昼の十二時になると、全地は暗くなって、三時に及んだ。 *34*そして三時に、イエスは大声で、「エロイ、エロイ、ラマ、サバクタニ」と叫ばれた。それは「わが神、わが神、どうしてわたしを

お見捨てになったのですか」という意味である。 *35*すると、そばに立っていたある人々が、これを聞いて言った、「そら、エリヤを呼んでいる」。 *36*ひとりの人が走って行き、海綿に酢いぶどう酒を含ませて葦の棒につけ、イエスに飲ませようとして言った、「待て、エリヤが彼をおろしに来るかどうか、見ていよう」。 *37*イエスは声高く叫んで、ついに息をひきとられた。 *38*そのとき、神殿の幕が上から下まで真二つに裂けた。 *39*イエスにむかって立っていた百卒長は、このようにして息をひきとられたのを見て言った、「まことに、この人は神の子であった」。 *40*また、遠くの方から見ている女たちもいた。その中には、マグダラのマリヤ、小ヤコブとヨセとの母マリヤ、またサロメがいた。 *41*彼らはイエスがガリラヤにおられたとき、そのあとに従って仕えた女たちであった。なおそのほか、イエスと共にエルサレムに上ってきた多くの女たちもいた。 *42*さて、すでに夕がたになったが、その日は準備の日、すなわち安息日の前日であったので、 *43*アリマタヤのヨセフが大胆にもピラトの所へ行き、イエスのからだの引取りかたを願った。彼は地位の高い議員であって、彼自身、神の国を待ち望んでいる人であった。 *44*ピラトは、イエスがもはや死んでしまったのかと不審に思い、百卒長を呼んで、もう死んだのかと尋ねた。 *45*そして、百卒長から確かめた上、死体をヨセフに渡した。 *46*そこで、ヨセフは亜麻布を買い求め、イエスをとりおろして、その亜麻布に包み、岩を掘って造った墓に納め、墓の入口に石をころがしておいた。 *47*マグダラのマリヤとヨセの母マリヤとは、イエスが納められた場所を見とどけた。

16 さて、安息日が終ったので、マグダラのマリヤとヤコブの母マリヤとサロメとが、行ってイエスに塗るために、香料を買い求めた。 *2*そして週の初めの日に、早朝、日の出のころ墓に行った。 *3*そして、彼らは「だれが、わたしたちのために、墓の入口から石をころがしてくれるのでしょうか」と話し合っていた。 *4*ところが、目をあげて見ると、石はすでにころがしてあった。この石は非常に大きかった。 *5*墓の中にはいると、右手に真白な長い衣を着た若者がすわっているのを見て、非常に驚いた。 *6*するとこの若者は言った、「驚くことはない。あなたがたは十字架につけられたナザレ人イエスを捜しているのであろうが、イエスはよみがえって、ここにはおられない。ごらんなさい、ここがお納めした場所である。 *7*今から弟子たちとペテロとの所へ行って、こう伝えなさい。イエスはあなたがたより先にガリラヤへ行かれる。かねて、あなたがたに言われたとおり、そこでお会いできるであろう、と」。 *8*女たちはおののき恐れながら、墓から出て逃げ去った。そして、人には何も言わなかった。恐ろしかったからである。〔 *9*週の初めの日の朝早く、イエスはよみがえって、まずマグダラのマリヤに御自身をあらわされた。イエスは以前に、この女から七つの悪霊を追い出されたことがある。 *10*マリヤは、イエスと一緒にいた人々が泣き悲しんでいる所に行って、それを知らせた。 *11*彼らは、イエスが生きておられる事と、彼女に御自身をあらわされた事とを聞いたが、信じなかった。 *12*この後、そのうちのふたりが、いなかの方へ歩いていると、イエスはちがった姿で御自身をあらわされた。 *13*このふたりも、ほかの人々の所に行って話したが、彼らはその話を信じなかった。 *14*その後、イエスは十一弟子が食卓についているところに現れ、彼らの不信仰と、心のかたくななことをお責めになった。彼らは、よみがえられたイエスを見た人々の言うことを、信じなかったからである。 *15*そして彼らに言われた、「全世界に出て行って、すべての造られたものに福音を宣べ伝えよ。 *16*信じてバプテスマを受ける者は救われる。しかし、不信仰の者は罪に定められる。 *17*信じる者には、このようなしるしが伴う。すなわち、彼らはわたしの名で悪霊を追い出し、新しい言葉を語り、 *18*へびをつかむであろう。また、毒を飲んでも、決して害を受けない。病人に手をおけば、いやされる」。 *19*主イエスは彼らに語り終ってから、天にあげられ、神の右にすわられた。 *20*弟子たちは出て行って、至る所で福音を宣べ伝えた。主も彼らと共に働き、御言に伴うしるしをもって、その確かなことをお示しになった。〕

[i] イザヤ書40章3節、マラキ書3章1節と比較せよ.

[ii] 詩編126編3節と比較せよ。ヨエル書2章21、26節とも比較せよ。

[iii] 詩編118編26節と比較せよ。

[iv] 詩編118編22、23節と比較せよ。

[v] 申命記6章4節と比較せよ。

[vi] 同上。

[vii] 申命記6章5節と比較せよ。

[viii] 詩編110編1節と比較せよ。

[ix] Hutter (1599), Delitzsch (1877), Salkinson (1885), UBS (1979)を参照。イザヤ書1章9節、イザヤ書65章8、9節とも比較せよ。

1 わたしたちの間に成就された出来事を
、最初から親しく見た人々であって、 *2*御
言に仕えた人々が伝えたとおり物語に書
き連ねようと、多くの人が手を着けました
が、 *3*テオピロ閣下よ、わたしもすべての
事を初めから詳しく調べていますので、こ
こに、それを順序正しく書きつづって、閣
下に献じることにしました。 *4*すでにお聞
きになっている事が確実であることを、こ
れによって十分に知っていただきたいた
めであります。 *5*ユダヤの王ヘロデの世に
、アビヤの組の祭司で名をザカリヤという
者がいた。その妻はアロン家の娘のひとり
で、名をエリサベツといった。 *6*ふたりとも
神のみまえに正しい人であって、イオウオ[i]
の戒めと定めとを、みな落度なく行ってい
た。 *7*ところが、エリサベツは不妊の女で
あったため、彼らには子がなく、そしてふ
たりともすでに年老いていた。 *8*さてザカリ
ヤは、その組が当番になり神のみまえに
祭司の務をしていたとき、 *9*祭司職の慣
例に従ってくじを引いたところ、イオウオ[ii]
の聖所にはいって香をたくことになった。
*10*香をたいている間、多くの民衆はみな
外で祈っていた。 *11*するとイオウオ[iii]の御
使が現れて、香壇の右に立った。 *12*ザカ
リヤはこれを見て、おじ惑い、恐怖の念に
襲われた。 *13*そこで御使が彼に言った、
「恐れるな、ザカリヤよ、あなたの祈が聞き
いれられたのだ。あなたの妻エリサベツは
男の子を産むであろう。その子をヨハネと
名づけなさい。 *14*彼はあなたに喜びと楽
しみとをもたらし、多くの人々もその誕生
を喜ぶであろう。 *15*彼はイオウオ[iv]のみま
えに大いなる者となり、ぶどう酒や強い酒
をいっさい飲まず、母の胎内にいる時から
すでに聖霊に満たされており、 *16*そして
、イスラエルの多くの子らを、彼らの神、イ
オウオ[v]に立ち帰らせるであろう。 *17*彼は
エリヤの霊と力とをもって、みまえに先立
って行き、父の心を子に向けさせ、逆らう
者に義人の思いを持たせて、整えられた
民をイオウオ[vi]に備えるであろう」。 *18*する
とザカリヤは御使に言った、「どうしてそん
な事が、わたしにわかるでしょうか。わたし
は老人ですし、妻も年をとっています」。
*19*御使が答えて言った、「わたしは神の
みまえに立つガブリエルであって、この喜
ばしい知らせをあなたに語り伝えるために
、つかわされたものである。 *20*時が来れ
ば成就するわたしの言葉を信じなかった
から、あなたはおしになり、この事の起る
日まで、ものが言えなくなる」。 *21*民衆は
ザカリヤを待っていたので、彼が聖所内
で暇どっているのを不思議に思っていた
。 *22*ついに彼は出てきたが、物が言えな
かったので、人々は彼が聖所内でまぼろ
しを見たのだと悟った。彼は彼らに合図を
するだけで、引きつづき、おしのままでい
た。 *23*それから務の期日が終ったので、
家に帰った。 *24*そののち、妻エリサベツ
はみごもり、五か月のあいだ引きこもって
いたが、 *25*「イオウオ[vii]は、今わたしを心
にかけてくださって、人々の間からわたし
の恥を取り除くために、こうしてくださいま
した」と言った。 *26*六か月目に、御使ガブ
リエルが、神からつかわされて、ナザレと
いうガリラヤの町の一処女のもとにきた。
*27*この処女はダビデ家の出であるヨセフ
という人のいいなづけになっていて、名を
マリヤといった。 *28*御使がマリヤのところ
にきて言った、「恵まれた女よ、おめでとう
、イオウオ[viii]があなたと共におられます」。
*29*この言葉にマリヤはひどく胸騒ぎがし
て、このあいさつはなんの事であろうかと、
思いめぐらしていた。 *30*すると御使が言
った、「恐れるな、マリヤよ、あなたは神か
ら恵みをいただいているのです。 *31*見よ
、あなたはみごもって男の子を産むでしょ
う。その子をイエスと名づけなさい。 *32*彼
は大いなる者となり、いと高き者の子と、と
なえられるでしょう。そして、イオウオ[ix]神は
彼に父ダビデの王座をお与えになり、
*33*彼はとこしえにヤコブの家を支配し、そ
の支配は限りなく続くでしょう」。 *34*そこで
マリヤは御使に言った、「どうして、そんな
事があり得ましょうか。わたしにはまだ夫
がありませんのに」。 *35*御使が答えて言っ
た、「聖霊があなたに臨み、いと高き者の
力があなたをおおうでしょう。それゆえに、
生れ出る子は聖なるものであり、神の子と
、となえられるでしょう。 *36*あなたの親族
エリサベツも老年ながら子を宿しています
。不妊の女といわれていたのに、はや六
か月になっています。 *37*神には、なんで
もできないことはありません」。 *38*そこでマ

リヤが言った、「わたしはイオウオ[x]のはしためです。お言葉どおりこの身に成りますように」。そして御使は彼女から離れて行った。 *39*そのころ、マリヤは立って、大急ぎで山里へむかいユダの町に行き、 *40*ザカリヤの家にはいってエリサベツにあいさつした。 *41*エリサベツがマリヤのあいさつを聞いたとき、その子が胎内でおどった。エリサベツは聖霊に満たされ、 *42*声高く叫んで言った、「あなたは女の中で祝福されたかた、あなたの胎の実も祝福されています。 *43*主の母上がわたしのところにきてくださるとは、なんという光栄でしょう。 *44*ごらんなさい。あなたのあいさつの声がわたしの耳にはいったとき、子供が胎内で喜びおどりました。 *45*イオウオ[xi]のお語りになったことが必ず成就すると信じた女は、なんとさいわいなことでしょう」。 *46*するとマリヤは言った、「わたしの魂はイオウオ[xii]をあがめ、 *47*わたしの霊は救主なる神をたたえます。 *48*この卑しい女をさえ、心にかけてくださいました。今からのち代々の人々は、わたしをさいわいな女と言うでしょう、 *49*力あるかたが、わたしに大きな事をしてくださったからです。そのみ名はきよく、 *50*そのあわれみは、代々限りなく主をかしこみ恐れる者に及びます。 *51*主はみ腕をもって力をふるい、心の思いのおごり高ぶる者を追い散らし、 *52*権力ある者を王座から引きおろし、卑しい者を引き上げ、 *53*飢えている者を良いもので飽かせ、富んでいる者を空腹のまま帰らせなさいます。 *54*主は、あわれみをお忘れにならず、その僕イスラエルを助けてくださいました、 *55*わたしたちの父祖アブラハムとその子孫とをとこしえにあわれむと約束なさったとおりに」。 *56*マリヤは、エリサベツのところに三か月ほど滞在してから、家に帰った。 *57*さてエリサベツは月が満ちて、男の子を産んだ。 *58*近所の人々や親族は、イオウオ[xiii]が大きなあわれみを彼女におかけになったことを聞いて、共どもに喜んだ。 *59*八日目になったので、幼な子に割礼をするために人々がきて、父の名にちなんでザカリヤという名にしようとした。 *60*ところが、母親は、「いいえ、ヨハネという名にしなくてはいけません」と言った。 *61*人々は、「あなたの親族の中には、そういう名のついた者は、ひとりもいません」と彼女に言った。 *62*そして父親に、どんな名にしたいのですかと、合図で尋ねた。 *63*ザカリヤは書板を持ってこさせて、それに「その名はヨハネ」と書いたので、みんなの者は不思議に思った。 *64*すると、立ちどころにザカリヤの口が開けて舌がゆるみ、語り出して神をほめたたえた。 *65*近所の人々はみな恐れをいだき、またユダヤの山里の至るところに、これらの事がことごとく語り伝えられたので、 *66*聞く者たちは皆それを心に留めて、「この子は、いったい、どんな者になるだろう」と語り合った。イオウオ[xiv]のみ手が彼と共にあった。 *67*父ザカリヤは聖霊に満たされ、預言して言った、 *68*「イスラエルの神、イオウオ[xv]は、ほむべきかな。神はその民を顧みてこれをあがない、 *69*わたしたちのために救の角を僕ダビデの家にお立てになった。 *70*古くから、聖なる預言者たちの口によってお語りになったように、 *71*わたしたちを敵から、またすべてわたしたちを憎む者の手から、救い出すためである。 *72*こうして、神はわたしたちの父祖たちにあわれみをかけ、その聖なる契約、 *73*すなわち、父祖アブラハムにお立てになった誓いをおぼえて、 *74*わたしたちを敵の手から救い出し、 *75*生きている限り、きよく正しく、みまえに恐れなく仕えさせてくださるのである。 *76*幼な子よ、あなたは、いと高き者の預言者と呼ばれるであろう。イオウオ[xvi]のみまえに先立って行き、その道を備え、 *77*罪のゆるしによる救をその民に知らせるのであるから。 *78*これはわたしたちの神のあわれみ深いみこころによる。また、そのあわれみによって、日の光が上からわたしたちに臨み、 *79*暗黒と死の陰とに住む者を照し、わたしたちの足を平和の道へ導くであろう」。 *80*幼な子は成長し、その霊も強くなり、そしてイスラエルに現れる日まで、荒野にいた。

2 そのころ、全世界の人口調査をせよとの勅令が、皇帝アウグストから出た。 *2*これは、クレニオがシリヤの総督であった時に行われた最初の人口調査であった。 *3*人々はみな登録をするために、それぞれ自分の町へ帰って行った。 *4*ヨセフもダ

ビデの家系であり、またその血統であったので、ガリラヤの町ナザレを出て、ユダヤのベツレヘムというダビデの町へ上って行った。 *5*それは、すでに身重になっていたいいなづけの妻マリヤと共に、登録をするためであった。 *6*ところが、彼らがベツレヘムに滞在している間に、マリヤは月が満ちて、 *7*初子を産み、布にくるんで、飼葉おけの中に寝かせた。客間には彼らのいる余地がなかったからである。 *8*さて、この地方で羊飼たちが夜、野宿しながら羊の群れの番をしていた。 *9*するとイオウオ[xvii]の御使が現れ、イオウオ[xviii]の栄光が彼らをめぐり照したので、彼らは非常に恐れた。 *10*御使は言った、「恐れるな。見よ、すべての民に与えられる大きな喜びを、あなたがたに伝える。 *11*きょうダビデの町に、あなたがたのために救主がお生れになった。このかたこそ主なるキリストである。 *12*あなたがたは、幼な子が布にくるまって飼葉おけの中に寝かしてあるのを見るであろう。それが、あなたがたに与えられるしるしである」。 *13*するとたちまち、おびただしい天の軍勢が現れ、御使と一緒になって神をさんびして言った、 *14*「いと高きところでは、神に栄光があるように、地の上では、み心にかなう人々に平和があるように」。 *15*御使たちが彼らを離れて天に帰ったとき、羊飼たちは「さあ、ベツレヘムへ行って、イオウオ[xix]がお知らせ下さったその出来事を見てこようではないか」と、互に語り合った。 *16*そして急いで行って、マリヤとヨセフ、また飼葉おけに寝かしてある幼な子を捜しあてた。 *17*彼らに会った上で、この子について自分たちに告げ知らされた事を、人々に伝えた。 *18*人々はみな、羊飼たちが話してくれたことを聞いて、不思議に思った。 *19*しかし、マリヤはこれらの事をことごとく心に留めて、思いめぐらしていた。 *20*羊飼たちは、見聞きしたことが何もかも自分たちに語られたとおりであったので、神をあがめ、またさんびしながら帰って行った。 *21*八日が過ぎ、割礼をほどこす時となったので、受胎のまえに御使が告げたとおり、幼な子をイエスと名づけた。 *22*それから、モーセの律法による彼らのきよめの期間が過ぎたとき、両親は幼な子を連れてエルサレムへ上った。 *23*それはイオウオ[xx]の律法に「母の胎を初めて開く男の子はみな、イオウオ[xxi]に聖別された者と、となえられねばならない」と書いてあるとおり、幼な子をイオウオ[xxii]にささげるためであり、 *24*また同じイオウオ[xxiii]の律法に、「山ばと一つがい、または、家ばとのひな二羽」と定めてあるのに従って、犠牲をささげるためであった。 *25*その時、エルサレムにシメオンという名の人がいた。この人は正しい信仰深い人で、イスラエルの慰められるのを待ち望んでいた。また聖霊が彼に宿っていた。 *26*そしてイオウオ[xxiv]のつかわす救主に会うまでは死ぬことはないと、聖霊の示しを受けていた。 *27*この人が御霊に感じて宮にはいった。すると律法に定めてあることを行うため、両親もその子イエスを連れてはいってきたので、 *28*シメオンは幼な子を腕に抱き、神をほめたたえて言った、 *29*「主よ、今こそ、あなたはみ言葉のとおりにこの僕を安らかに去らせてくださいます、 *30*わたしの目が今あなたの救を見たのですから。 *31*この救はあなたが万民のまえにお備えになったもので、 *32*異邦人を照す啓示の光、み民イスラエルの栄光であります」。 *33*父と母とは幼な子についてこのように語られたことを、不思議に思った。 *34*するとシメオンは彼らを祝し、そして母マリヤに言った、「ごらんなさい、この幼な子は、イスラエルの多くの人を倒れさせたり立ちあがらせたりするために、また反対を受けるしるしとして、定められています。—— *35*そして、あなた自身もつるぎで胸を刺し貫かれるでしょう。——それは多くの人の心にある思いが、現れるようになるためです」。 *36*また、アセル族のパヌエルの娘で、アンナという女預言者がいた。彼女は非常に年をとっていた。むすめ時代にとついで、七年間だけ夫と共に住み、 *37*その後やもめぐらしをし、八十四歳になっていた。そして宮を離れずに夜も昼も断食と祈とをもって神に仕えていた。 *38*この老女も、ちょうどそのとき近寄ってきて、神[xxv]に感謝をささげ、そしてこの幼な子のことを、エルサレムの救を待ち望んでいるすべての人々に語りきかせた。 *39*両親はイオウオ[xxvi]の律法どおりすべての事をすませたので、ガリラヤへむかい、

自分の町ナザレに帰った。 *40*幼な子は、
ますます成長して強くなり、知恵に満ち、
そして神の恵みがその上にあった。 *41*さ
て、イエスの両親は、過越の祭には毎年
エルサレムへ上っていた。 *42*イエスが十
二歳になった時も、慣例に従って祭のた
めに上京した。 *43*ところが、祭が終って帰
るとき、少年イエスはエルサレムに居残っ
ておられたが、両親はそれに気づかなか
った。 *44*そして道連れの中にいることと思
いこんで、一日路を行ってしまい、それか
ら、親族や知人の中を捜しはじめたが、
*45*見つからないので、捜しまわりながらエ
ルサレムへ引返した。 *46*そして三日の後
に、イエスが宮の中で教師たちのまん中
にすわって、彼らの話を聞いたり質問した
りしておられるのを見つけた。 *47*聞く人々
はみな、イエスの賢さやその答に驚嘆し
ていた。 *48*両親はこれを見て驚き、そして
母が彼に言った、「どうしてこんな事をして
くれたのです。ごらんなさい、おとう様もわ
たしも心配して、あなたを捜していたので
す」。 *49*するとイエスは言われた、「どうし
てお捜しになったのですか。わたしが自
分の父の家にいるはずのことを、ご存じな
かったのですか」。 *50*しかし、両親はその
語られた言葉を悟ることができなかった。
*51*それからイエスは両親と一緒にナザレ
に下って行き、彼らにお仕えになった。母
はこれらの事をみな心に留めていた。
*52*イエスはますます知恵が加わり、背た
けも伸び、そして神と人から愛された。

3 皇帝テベリオ在位の第十五年、ポンテ
オ・ピラトがユダヤの総督、ヘロデがガリラ
ヤの領主、その兄弟ピリポがイツリヤ・テラ
コニテ地方の領主、ルサニヤがアビレネ
の領主、 *2*アンナスとカヤパとが大祭司で
あったとき、神の言が荒野でザカリヤの子
ヨハネに臨んだ。 *3*彼はヨルダンのほとり
の全地方に行って、罪のゆるしを得させる
悔改めのバプテスマを宣べ伝えた。 *4*それ
は、預言者イザヤの言葉の書に書いて
あるとおりである。すなわち「荒野で呼ばわる
者の声がする、『イオウオ[xxvii]の道を備
えよ、その道筋をまっすぐにせよ』。 *5*す
べての谷は埋められ、すべての山と丘と
は、平らにされ、曲ったところはまっすぐに
、わるい道はならされ、 *6*人はみな神の救
を見るであろう」。 *7*さて、ヨハネは、彼から
バプテスマを受けようとして出てきた群衆
にむかって言った、「まむしの子らよ、迫っ
てきている神の怒りから、のがれられると、
おまえたちにだれが教えたのか。 *8*だから
、悔改めにふさわしい実を結べ。自分た
ちの父にはアブラハムがあるなどと、心の
中で思ってもみるな。おまえたちに言って
おく。神はこれらの石ころからでも、アブラ
ハムの子を起すことができるのだ。 *9*斧が
すでに木の根もとに置かれている。だから
、良い実を結ばない木はことごとく切られ
て、火の中に投げ込まれるのだ」。 *10*そこ
で群衆が彼に、「それでは、わたしたちは
何をすればよいのですか」と尋ねた。
*11*彼は答えて言った、「下着を二枚もっ
ている者は、持たない者に分けてやりなさ
い。食物を持っている者も同様にしなさい
」。 *12*取税人もバプテスマを受けにきて、
彼に言った、「先生、わたしたちは何をす
ればよいのですか」。 *13*彼らに言った、
「きまっているもの以上に取り立ててはい
けない」。 *14*兵卒たちもたずねて言った、
「では、わたしたちは何をすればよいので
すか」。彼は言った、「人をおどかしたり、
だまし取ったりしてはいけない。自分の給
与で満足していなさい」。 *15*民衆は救主
を待ち望んでいたので、みな心の中でヨ
ハネのことを、もしかしたらこの人がそれで
はなかろうかと考えていた。 *16*そこでヨハ
ネはみんなの者にむかって言った、「わた
しは水でおまえたちにバプテスマを授け
るが、わたしよりも力のあるかたが、おいで
になる。わたしには、そのくつのひもを解く
値うちもない。このかたは、聖霊と火とによ
っておまえたちにバプテスマをお授けに
なるであろう。 *17*また、箕を手に持って、
打ち場の麦をふるい分け、麦は倉に納め
、からは消えない火で焼き捨てるであろう
」。 *18*こうしてヨハネはほかにもなお、さま
ざまの勧めをして、民衆に教を説いた。
*19*ところが領主ヘロデは、兄弟の妻ヘロ
デヤのことで、また自分がしたあらゆる悪
事について、ヨハネから非難されていたの
で、 *20*彼を獄に閉じ込めて、いろいろな
悪事の上に、もう一つこの悪事を重ねた。
*21*さて、民衆がみなバプテスマを受けた

とき、イエスもバプテスマを受けて祈って
おられると、天が開けて、 22聖霊がはとの
ような姿をとってイエスの上に下り、そして
天から声がした、「あなたはわたしの愛す
る子、わたしの心にかなう者である」。
23イエスが宣教をはじめられたのは、年
およそ三十歳の時であって、人々の考え
によれば、ヨセフの子であった。ヨセフは
ヘリの子、 24それから、さかのぼって、マ
タテ、レビ、メルキ、ヤンナイ、ヨセフ、
25マタテヤ、アモス、ナホム、エスリ、ナン
ガイ、 26マハテ、マタテヤ、シメイ、ヨセク
、ヨダ、 27ヨハナン、レサ、ゾロバベル、サ
ラテル、ネリ、 28メルキ、アデイ、コサム、
エルマダム、エル、 29ヨシュア、エリエゼ
ル、ヨリム、マタテ、レビ、 30シメオン、ユ
ダ、ヨセフ、ヨナム、エリヤキム、 31メレヤ、
メナ、マタタ、ナタン、ダビデ、 32エッサイ
、オベデ、ボアズ、サラ、ナアソン、 33アミ
ナダブ、アデミン、アルニ、エスロン、パレ
ス、ユダ、 34ヤコブ、イサク、アブラハム、
テラ、ナホル、 35セルグ、レウ、ペレグ、エ
ベル、サラ、 36カイナン、アルパクサデ、
セム、ノア、ラメク、 37メトセラ、エノク、ヤ
レデ、マハラレル、カイナン、 38エノス、セ
ツ、アダム、そして神にいたる。

4 さて、イエスは聖霊に満ちてヨルダン川
から帰り、 2荒野を四十日のあいだ御霊
にひきまわされて、悪魔の試みにあわれ
た。そのあいだ何も食べず、その日数が
つきると、空腹になられた。 3そこで悪魔
が言った、「もしあなたが神の子であるな
ら、この石に、パンになれと命じてごらん
なさい」。 4イエスは答えて言われた、
「『人はパンだけで生きるものではない』と
書いてある」。 5それから、悪魔はイエスを
高い所へ連れて行き、またたくまに世界
のすべての国々を見せて 6言った、「これ
らの国々の権威と栄華とをみんな、あなた
にあげましょう。それらはわたしに任せら
れていて、だれでも好きな人にあげてよい
のですから。 7それで、もしあなたがわた
しの前にひざまずくなら、これを全部あな
たのものにしてあげましょう」。 8イエスは
答えて言われた、「『あなたの神、イオウ
オ[xxviii]を拝し、ただ神にのみ仕えよ』と書い
てある」。 9それから悪魔はイエスをエル
サレムに連れて行き、宮の頂上に立たせ
て言った、「もしあなたが神の子であるなら
、ここから下へ飛びおりてごらんなさい。
10『神はあなたのために、御使たちに命
じてあなたを守らせるであろう』とあり、
11また、『あなたの足が石に打ちつけら
れないように、彼らはあなたを手でささえ
るであろう』とも書いてあります」。 12イエ
スは答えて言われた、「『あなたの神、イオ
ウオ[xxix]を試みてはならない』と言われてい
る」。 13悪魔はあらゆる試みをしつくして、
一時イエスを離れた。 14それからイエス
は御霊の力に満ちあふれてガリラヤへ帰
られると、そのうわさがその地方全体にひ
ろまった。 15イエスは諸会堂で教え、み
んなの者から尊敬をお受けになった。
16それからお育ちになったナザレに行き
、安息日にいつものように会堂にはいり、
聖書を朗読しようとして立たれた。 17する
と預言者イザヤの書が手渡されたので、
その書を開いて、こう書いてある所を出さ
れた、 18「イオウオ[xxx]の御霊がわたしに宿
っている。貧しい人々に福音を宣べ伝え
させるために、わたしを聖別してくださっ
たからである。主はわたしをつかわして、
囚人が解放され、盲人の目が開かれるこ
とを告げ知らせ、打ちひしがれている者に
自由を得させ、 19イオウオ[xxxi]のめぐみの
年を告げ知らせるのである」。 20イエスは
聖書を巻いて係りの者に返し、席に着か
れると、会堂にいるみんなの者の目がイエ
スに注がれた。 21そこでイエスは、「この
聖句は、あなたがたが耳にしたこの日に
成就した」と説きはじめられた。 22すると、
彼らはみなイエスをほめ、またその口から
出て来るめぐみの言葉に感嘆して言った
、「この人はヨセフの子ではないか」。
23そこで彼らに言われた、「あなたがたは
、きっと『医者よ、自分自身をいやせ』とい
うことわざを引いて、カペナウムで行われ
たと聞いていた事を、あなたの郷里のこの
地でもしてくれ、と言うであろう」。 24それ
から言われた、「よく言っておく。預言者は
、自分の郷里では歓迎されないものであ
る。 25よく聞いておきなさい。エリヤの時
代に、三年六か月にわたって天が閉じ、
イスラエル全土に大ききんがあった際、そ
こには多くのやもめがいたのに、 26エリヤ

はそのうちのだれにもつかわされないで、
ただシドンのサレプタにいるひとりのやも
めにだけつかわされた。 27また預言者エ
リシャの時代に、イスラエルには多くのら
い病人がいたのに、そのうちのひとりもき
よめられないで、ただシリヤのナアマンだ
けがきよめられた」。 28会堂にいた者たち
はこれを聞いて、みな憤りに満ち、 29立
ち上がってイエスを町の外へ追い出し、
その町が建っている丘のがけまでひっぱ
って行って、突き落そうとした。 30しかし、
イエスは彼らのまん中を通り抜けて、去っ
て行かれた。 31それから、イエスはガリラ
ヤの町カペナウムに下って行かれた。そ
して安息日になると、人々をお教えになっ
たが、 32その言葉に権威があったので、
彼らはその教に驚いた。 33すると、汚れ
た悪霊につかれた人が会堂にいて、大声
で叫び出した、 34「ああ、ナザレのイエス
よ、あなたはわたしたちとなんの係わりが
あるのです。わたしたちを滅ぼしにこられ
たのですか。あなたがどなたであるか、わ
かっています。神の聖者です」。 35イエス
はこれをしかって、「黙れ、この人から出て
行け」と言われた。すると悪霊は彼を人な
かに投げ倒し、傷は負わせずに、その人
から出て行った。 36みんなの者は驚いて
、互に語り合って言った、「これは、いった
い、なんという言葉だろう。権威と力とをも
って汚れた霊に命じられると、彼らは出て
行くのだ」。 37こうしてイエスの評判が、そ
の地方のいたる所にひろまっていった。
38イエスは会堂を出てシモンの家におは
いりになった。ところがシモンのしゅうとめ
が高い熱を病んでいたので、人々は彼女
のためにイエスにお願いした。 39そこで、
イエスはそのまくらもとに立って、熱が引く
ように命じられると、熱は引き、女はすぐに
起き上がって、彼らをもてなした。 40日が
暮れると、いろいろな病気になやむ者を
かかえている人々が、皆それをイエスのと
ころに連れてきたので、そのひとりびとりに
手を置いて、おいやしになった。 41悪霊
も「あなたこそ神の子です」と叫びながら
多くの人々から出ていった。しかし、イエ
スは彼らを戒めて、物を言うことをお許し
にならなかった。彼らがイエスはキリストだ
と知っていたからである。 42夜が明けると
、イエスは寂しい所へ出て行かれたが、群
衆が捜しまわって、みもとに集まり、自分
たちから離れて行かれないようにと、引き
止めた。 43しかしイエスは、「わたしは、ほ
かの町々にも神の国の福音を宣べ伝えね
ばならない。自分はそのためにつかわさ
れたのである」と言われた。 44そして、ユ
ダヤの諸会堂で教を説かれた。

5 さて、群衆が神の言を聞こうとして押し
寄せてきたとき、イエスはゲネサレ湖畔に
立っておられたが、 2そこに二そうの小舟
が寄せてあるのをごらんになった。漁師た
ちは、舟からおりて網を洗っていた。 3その
一そうはシモンの舟であったが、イエス
はそれに乗り込み、シモンに頼んで岸か
ら少しこぎ出させ、そしてすわって、舟の
中から群衆にお教えになった。 4話がす
むと、シモンに「沖へこぎ出し、網をおろし
て漁をしてみなさい」と言われた。 5シモ
ンは答えて言った、「先生、わたしたちは
夜通し働きましたが、何も取れませんでし
た。しかし、お言葉ですから、網をおろし
てみましょう」。 6そしてそのとおりにしたと
ころ、おびただしい魚の群れがはいって、
網が破れそうになった。 7そこで、もう一そ
うの舟にいた仲間に、加勢に来るよう合図
をしたので、彼らがきて魚を両方の舟いっ
ぱいに入れた。そのために、舟が沈みそ
うになった。 8これを見てシモン・ペテロは
、イエスのひざもとにひれ伏して言った、
「主よ、わたしから離れてください。わたし
は罪深い者です」。 9彼も一緒にいた者
たちもみな、取れた魚がおびただしいの
に驚いたからである。 10シモンの仲間で
あったゼベダイの子ヤコブとヨハネも、同
様であった。すると、イエスがシモンに言
われた、「恐れることはない。今からあなた
は人間をとる漁師になるのだ」。 11そこで
彼らは舟を陸に引き上げ、いっさいを捨て
てイエスに従った。 12イエスがある町にお
られた時、全身らい病になっている人が
そこにいた。イエスを見ると、顔を地に伏
せて願って言った、「主よ、みこころでした
ら、きよめていただけるのですが」。 13イ
エスは手を伸ばして彼にさわり、「そうして
あげよう、きよくなれ」と言われた。すると、
らい病がただちに去ってしまった。 14イエ

スは、だれにも話さないようにと彼に言い
聞かせ、「ただ行って自分のからだを祭司
に見せ、それからあなたのきよめのため、
モーセが命じたとおりのささげ物をして、
人々に証明しなさい」とお命じになった。
*15*しかし、イエスの評判はますますひろ
まって行き、おびただしい群衆が、教を聞
いたり、病気をなおしてもらったりするため
に、集まってきた。*16*しかしイエスは、寂
しい所に退いて祈っておられた。*17*ある
日のこと、イエスが教えておられると、ガリ
ラヤやユダヤの方々の村から、またエル
サレムからきたパリサイ人や律法学者たち
が、そこにすわっていた。イオウオ[xxxii]の力
が働いて、イエスは人々をいやされた。
*18*その時、ある人々が、ひとりの中風をわ
ずらっている人を床にのせたまま連れて
きて、家の中に運び入れ、イエスの前に
置こうとした。*19*ところが、群衆のために
どうしても運び入れる方法がなかったので
、屋根にのぼり、瓦をはいで、病人を床ご
と群衆のまん中につりおろして、イエスの
前においた。*20*イエスは彼らの信仰を見
て、「人よ、あなたの罪はゆるされた」と言
われた。*21*すると律法学者とパリサイ人た
ちとは、「神を汚すことを言うこの人は、い
ったい、何者だ。神おひとりのほかに、だ
れが罪をゆるすことができるか」と言って
論じはじめた。*22*イエスは彼らの論議を
見ぬいて、「あなたがたは心の中で何を
論じているのか。*23*あなたの罪はゆるさ
れたと言うのと、起きて歩けと言うのと、ど
ちらがたやすいか。*24*しかし、人の子は
地上で罪をゆるす権威を持っていること
が、あなたがたにわかるために」と彼らに
対して言い、中風の者にむかって、「あな
たに命じる。起きよ、床を取り上げて家に
帰れ」と言われた。*25*すると病人は即座
にみんなの前で起きあがり、寝ていた床を
取りあげて、神をあがめながら家に帰って
行った。*26*みんなの者は驚嘆してしまっ
た。そして神をあがめ、おそれに満たされ
て、「きょうは驚くべきことを見た」と言った
。*27*そののち、イエスが出て行かれると、
レビという名の取税人が収税所にすわっ
ているのを見て、「わたしに従ってきなさ
い」と言われた。*28*すると、彼はいっさい
を捨てて立ちあがり、イエスに従ってきた
。*29*それから、レビは自分の家で、イエス
のために盛大な宴会を催したが、取税人
やそのほか大ぜいの人々が、共に食卓に
着いていた。*30*ところが、パリサイ人やそ
の律法学者たちが、イエスの弟子たちに
対してつぶやいて言った、「どうしてあな
たがたは、取税人や罪人などと飲食を共
にするのか」。*31*イエスは答えて言われ
た、「健康な人には医者はいらない。いる
のは病人である。*32*わたしがきたのは、
義人を招くためではなく、罪人を招いて悔
い改めさせるためである」。*33*また彼らは
イエスに言った、「ヨハネの弟子たちは、し
ばしば断食をし、また祈をしており、パリサ
イ人の弟子たちもそうしているのに、あな
たの弟子たちは食べたり飲んだりしていま
す」。*34*するとイエスは言われた、「あなた
がたは、花婿が一緒にいるのに、婚礼の
客に断食をさせることができるであろうか。
*35*しかし、花婿が奪い去られる日が来る
。その日には断食をするであろう」。*36*そ
れからイエスはまた一つの譬を語られた、
「だれも、新しい着物から布ぎれを切り取
って、古い着物につぎを当てるものはな
い。もしそんなことをしたら、新しい着物を
裂くことになるし、新しいのから取った布ぎ
れも古いのに合わないであろう。*37*また
だれも、新しいぶどう酒を古い皮袋に入
れはしない。もしそんなことをしたら、新し
いぶどう酒は皮袋をはり裂き、そしてぶど
う酒は流れ出るし、皮袋もむだになるであ
ろう。*38*新しいぶどう酒は新しい皮袋に
入れるべきである。*39*まただれも、古い酒
を飲んでから、新しいのをほしがりはしな
い。『古いのが良い』と考えているからであ
る」。

6 ある安息日にイエスが麦畑の中をとお
って行かれたとき、弟子たちが穂をつみ、
手でもみながら食べていた。*2*すると、あ
るパリサイ人たちが言った、「あなたがた
はなぜ、安息日にしてはならぬことをする
のか」。*3*そこでイエスが答えて言われた
、「あなたがたは、ダビデとその供の者た
ちとが飢えていたとき、ダビデのしたことに
ついて、読んだことがないのか。*4*すなわ
ち、神の家にはいって、祭司たちのほか
だれも食べてはならぬ供えのパンを取っ

て食べ、また供の者たちにも与えたでは
ないか」。 5また彼らに言われた、「人の子
は安息日の主である」。 6また、ほかの安
息日に会堂にはいって教えておられたと
ころ、そこに右手のなえた人がいた。 7律
法学者やパリサイ人たちは、イエスを訴え
る口実を見付けようと思って、安息日にい
やされるかどうかをうかがっていた。 8イエ
スは彼らの思っていることを知って、その
手のなえた人に、「起きて、まん中に立ち
なさい」と言われると、起き上がって立った
。 9そこでイエスは彼らにむかって言われ
た、「あなたがたに聞くが、安息日に善を
行うのと悪を行うのと、命を救うのと殺すの
と、どちらがよいか」。 10そして彼ら一同を
見まわして、その人に「手を伸ばしなさい」
と言われた。そのとおりにすると、その手
は元どおりになった。 11そこで彼らは激し
く怒って、イエスをどうかしてやろうと、互
に話合いをはじめた。 12このころ、イエス
は祈るために山へ行き、夜を徹して神に
祈られた。 13夜が明けると、弟子たちを
呼び寄せ、その中から十二人を選び出し
、これに使徒という名をお与えになった。
14すなわち、ペテロとも呼ばれたシモンと
その兄弟アンデレ、ヤコブとヨハネ、ピリポ
とバルトロマイ、 15マタイとトマス、アルパ
ヨの子ヤコブと、熱心党と呼ばれたシモン
、 16ヤコブの子ユダ、それからイスカリオ
テのユダ。このユダが裏切者となったので
ある。 17そして、イエスは彼らと一緒に山
を下って平地に立たれたが、大ぜいの弟
子たちや、ユダヤ全土、エルサレム、ツロ
とシドンの海岸地方などからの大群衆が、
18教を聞こうとし、また病気をなおしても
らおうとして、そこにきていた。そして汚れ
た霊に悩まされている者たちも、いやされ
た。 19また群衆はイエスにさわろうと努め
た。それは力がイエスの内から出て、みん
なの者を次々にいやしたからである。
20そのとき、イエスは目をあげ、弟子たち
を見て言われた、「あなたがた貧しい人た
ちは、さいわいだ。神の国はあなたがたの
ものである。 21あなたがたいま飢えている
人たちは、さいわいだ。飽き足りるようになる
からである。あなたがたいま泣いている
人たちは、さいわいだ。笑うようになるから
である。 22人々があなたがたを憎むとき、
また人の子のためにあなたがたを排斥し
、ののしり、汚名を着せるときは、あなたが
たはさいわいだ。 23その日には喜びおど
れ。見よ、天においてあなたがたの受ける
報いは大きいのだから。彼らの祖先も、預
言者たちに対して同じことをしたのである
。 24しかしあなたがた富んでいる人たち
は、わざわいだ。慰めを受けてしまってい
るからである。 25あなたがた今満腹して
いる人たちは、わざわいだ。飢えるように
なるからである。あなたがた今笑っている
人たちは、わざわいだ。悲しみ泣くように
なるからである。 26人が皆あなたがたを
ほめるときは、あなたがたはわざわいだ。
彼らの祖先も、にせ預言者たちに対して
同じことをしたのである。 27しかし、聞い
ているあなたがたに言う。敵を愛し、憎む
者に親切にせよ。 28のろう者を祝福し、
はずかしめる者のために祈れ。 29あなた
の頬を打つ者にはほかの頬をも向けてや
り、あなたの上着を奪い取る者には下着
をも拒むな。 30あなたに求める者には与
えてやり、あなたの持ち物を奪う者からは
取りもどそうとするな。 31人々にしてほし
いと、あなたがたの望むことを、人々にも
そのとおりにせよ。 32自分を愛してくれる
者を愛したからとて、どれほどの手柄にな
ろうか。罪人でさえ、自分を愛してくれる
者を愛している。 33自分によくしてくれる
者によくしたとて、どれほどの手柄になろう
か。罪人でさえ、それくらいの事はしてい
る。 34また返してもらうつもりで貸したとて
、どれほどの手柄になろうか。罪人でも、
同じだけのものを返してもらおうとして、仲
間に貸すのである。 35しかし、あなたがた
は、敵を愛し、人によくしてやり、また何も
当てにしないで貸してやれ。そうすれば
受ける報いは大きく、あなたがたはいと高
き者の子となるであろう。いと高き者は、恩
を知らぬ者にも悪人にも、なさけ深いから
である。 36あなたがたの父なる神が慈悲
深いように、あなたがたも慈悲深い者とな
れ。 37人をさばくな。そうすれば、自分も
さばかれることがないであろう。また人を
罪に定めるな。そうすれば、自分も罪に定
められることがないであろう。ゆるしてやれ
。そうすれば、自分もゆるされるであろう。
38与えよ。そうすれば、自分にも与えられ

るであろう。人々はおし入れ、ゆすり入れ
、あふれ出るまでに量をよくして、あなた
がたのふところに入れてくれるであろう。あ
なたがたの量るその量りで、自分にも量り
かえされるであろうから」。 *39*イエスはまた
一つの譬を語られた、「盲人は盲人の手
引ができようか。ふたりとも穴に落ち込ま
ないだろうか。 *40*弟子はその師以上のも
のではないが、修業をつめば、みなその
師のようになろう。 *41*なぜ、兄弟の目にあ
るちりを見ながら、自分の目にある梁を認
めないのか。 *42*自分の目にある梁は見な
いでいて、どうして兄弟にむかって、兄弟
よ、あなたの目にあるちりを取らせてくださ
い、と言えようか。偽善者よ、まず自分の
目から梁を取りのけるがよい、そうすれば
、はっきり見えるようになって、兄弟の目に
あるちりを取りのけることができるだろう。
*43*悪い実のなる良い木はないし、また良
い実のなる悪い木もない。 *44*木はそれぞ
れ、その実でわかる。いばらからいちじく
を取ることはないし、野ばらからぶどうを摘
むこともない。 *45*善人は良い心の倉から
良い物を取り出し、悪人は悪い倉から悪
い物を取り出す。心からあふれ出ることを
、口が語るものである。 *46*わたしを主よ、
主よ、と呼びながら、なぜわたしの言うこと
を行わないのか。 *47*わたしのもとにきて、
わたしの言葉を聞いて行う者が、何に似
ているか、あなたがたに教えよう。 *48*それ
は、地を深く掘り、岩の上に土台をすえて
家を建てる人に似ている。洪水が出て激
流がその家に押し寄せてきても、それを
揺り動かすことはできない。よく建ててある
からである。 *49*しかし聞いても行わない人
は、土台なしで、土の上に家を建てた人
に似ている。激流がその家に押し寄せて
きたら、たちまち倒れてしまい、その被害
は大きいのである」。

7 イエスはこれらの言葉をことごとく人々
に聞かせてしまったのち、カペナウムに帰
ってこられた。 *2*ところが、ある百卒長の頼
みにしていた僕が、病気になって死にか
かっていた。 *3*この百卒長はイエスのこと
を聞いて、ユダヤ人の長老たちをイエスの
ところにつかわし、自分の僕を助けにきて
くださるようにと、お願いした。 *4*彼らはイ
エスのところにきて、熱心に願って言った
、「あの人はそうしていただくねうちがござ
います。 *5*わたしたちの国民を愛し、わた
したちのために会堂を建ててくれたので
す」。 *6*そこで、イエスは彼らと連れだって
お出かけになった。ところが、その家から
ほど遠くないあたりまでこられたとき、百卒
長は友だち を送ってイエスに言わせた、「
主よ、どうぞ、ご足労くださいませんように
。わたしの屋根の下にあなたをお入れす
る資格は、わたしにはございません。 *7*そ
れですから、自分でお迎えにあがるねうち
さえないと思っていたのです。ただ、お言
葉を下さい。そして、わたしの僕をなおし
てください。 *8*わたしも権威の下に服して
いる者ですが、わたしの下にも兵卒がい
まして、ひとりの者に『行け』と言えば行き
、ほかの者に『こい』と言えばきますし、ま
た、僕に『これをせよ』と言えば、してくれ
るのです」。 *9*イエスはこれを聞いて非常
に感心され、ついてきた群衆の方に振り
向いて言われた、「あなたがたに言っておく
が、これほどの信仰は、イスラエルの中
でも見たことがない」。 *10*使にきた者たち
が家に帰ってみると、僕は元気になって
いた。 *11*そののち、間もなく、ナインという
町へおいでになったが、弟子たちや大ぜ
いの群衆も一緒に行った。 *12*町の門に近
づかれると、ちょうど、あるやもめにとって
ひとりむすこであった者が死んだので、葬
りに出すところであった。大ぜいの町の人
たちが、その母につきそっていた。 *13*主
はこの婦人を見て深い同情を寄せられ、
「泣かないでいなさい」と言われた。 *14*そ
して近寄って棺に手をかけられると、かつ
いでいる者たちが立ち止まったので、「若
者よ、さあ、起きなさい」と言われた。 *15*す
ると、死人が起き上がって物を言い出した
。イエスは彼をその母にお渡しになった。
*16*人々はみな恐れをいだき、「大預言者
がわたしたちの間に現れた」、また、「神は
その民を顧みてくださった」と言って、神を
ほめたたえた。 *17*イエスについてのこの
話は、ユダヤ全土およびその附近のいた
る所にひろまった。 *18*ヨハネの弟子たち
は、これらのことを全部彼に報告した。す
るとヨハネは弟子の中からふたりの者を呼
んで、 *19*主のもとに送り、「『きたるべきか

た』はあなたなのですか。それとも、ほか
にだれかを待つべきでしょうか」と尋ねさ
せた。 *20*そこで、この人たちがイエスのも
とにきて言った、「わたしたちはバプテス
マのヨハネからの使ですが、『きたるべき
かた』はあなたなのですか、それとも、ほ
かにだれかを待つべきでしょうか、とヨハ
ネが尋ねています」。 *21*そのとき、イエス
はさまざまの病苦と悪霊とに悩む人々を
いやし、また多くの盲人を見えるようにし
ておられたが、 *22*答えて言われた、「行っ
て、あなたがたが見聞きしたことを、ヨハネ
に報告しなさい。盲人は見え、足なえは
歩き、らい病人はきよまり、耳しいは聞え、
死人は生きかえり、貧しい人々は福音を
聞かされている。 *23*わたしにつまずかな
い者は、さいわいである」。 *24*ヨハネの使
が行ってしまうと、イエスはヨハネのことを
群衆に語りはじめられた、「あなたがたは
、何を見に荒野に出てきたのか。風に揺
らぐ葦であるか。 *25*では、何を見に出てき
たのか。柔らかい着物をまとった人か。き
らびやかに着かざって、ぜいたくに暮して
いる人々なら、宮殿にいる。 *26*では、何を
見に出てきたのか。預言者か。そうだ、あ
なたがたに言うが、預言者以上の者であ
る。 *27*『見よ、わたしは使をあなたの先に
つかわし、あなたの前に、道を整えさせる
であろう』と書いてあるのは、この人のこと
である。 *28*あなたがたに言っておく。女の
産んだ者の中で、ヨハネより大きい人物は
いない。しかし、神の国で最も小さい者も
、彼よりは大きい。 *29*(これを聞いた民衆
は皆、また取税人たちも、ヨハネのバプテ
スマを受けて神の正しいことを認めた。
*30*しかし、パリサイ人と律法学者たちとは
彼からバプテスマを受けないで、自分た
ちに対する神のみこころを無にした。)
*31*だから今の時代の人々を何に比べよう
か。彼らは何に似ているか。 *32*それは子
供たちが広場にすわって、互に呼びかけ
、『わたしたちが笛を吹いたのに、あなた
たちは踊ってくれなかった。弔いの歌を歌
ったのに、泣いてくれなかった』と言うのに
似ている。 *33*なぜなら、バプテスマのヨハ
ネがきて、パンを食べることも、ぶどう酒を
飲むこともしないと、あなたがたは、あれは
悪霊につかれているのだ、と言い、 *34*ま
た人の子がきて食べたり飲んだりしている
と、見よ、あれは食をむさぼる者、大酒を
飲む者、また取税人、罪人の仲間だ、と
言う。 *35*しかし、知恵の正しいことは、そ
のすべての子が証明する」。 *36*あるパリサ
イ人がイエスに、食事を共にしたいと申し
出たので、そのパリサイ人の家にはいって
食卓に着かれた。 *37*するとそのとき、その
町で罪の女であったものが、パリサイ人の
家で食卓に着いておられることを聞いて、
香油が入れてある石膏のつぼを持ってき
て、 *38*泣きながら、イエスのうしろでその
足もとに寄り、まず涙でイエスの足をぬら
し、自分の髪の毛でぬぐい、そして、その
足に接吻して、香油を塗った。 *39*イエス
を招いたパリサイ人がそれを見て、心の
中で言った、「もしこの人が預言者である
なら、自分にさわっている女がだれだか、
どんな女かわかるはずだ。それは罪の女
なのだから」。 *40*そこでイエスは彼にむか
って言われた、「シモン、あなたに言うこと
がある」。彼は「先生、おっしゃってください」
と言った。 *41*イエスが言われた、「ある
金貸しに金をかりた人がふたりいたが、ひ
とりは五百デナリ、もうひとりは五十デナリ
を借りていた。 *42*ところが、返すことがで
きなかったので、彼はふたり共ゆるしてや
った。このふたりのうちで、どちらが彼を多
く愛するだろうか」。 *43*シモンが答えて言
った、「多くゆるしてもらったほうだと思いま
す」。イエスが言われた、「あなたの判断
は正しい」。 *44*それから女の方に振り向
いて、シモンに言われた、「この女を見な
いか。わたしがあなたの家にはいってきた
時に、あなたは足を洗う水をくれなかった
。ところが、この女は涙でわたしの足をぬ
らし、髪の毛でふいてくれた。 *45*あなたは
わたしに接吻をしてくれなかったが、彼女
はわたしが家にはいった時から、わたしの
足に接吻をしてやまなかった。 *46*あなた
はわたしの頭に油を塗ってくれなかった
が、彼女はわたしの足に香油を塗ってく
れた。 *47*それであなたに言うが、この女は
多く愛したから、その多くの罪はゆるされ
ているのである。少しだけゆるされた者は
、少しだけしか愛さない」。 *48*そして女に
、「あなたの罪はゆるされた」と言われた。
*49*すると同席の者たちが心の中で言い

はじめた、「罪をゆるすことさえするこの人
は、いったい、何者だろう」。 *50*しかし、イ
エスは女にむかって言われた、「あなたの
信仰があなたを救ったのです。安心して
行きなさい」。

8 そののちイエスは、神の国の福音を説
きまた伝えながら、町々村々を巡回し続け
られたが、十二弟子もお供をした。 *2*また
悪霊を追い出され病気をいやされた数名
の婦人たち、すなわち、七つの悪霊を追
い出してもらったマグダラと呼ばれるマリ
ヤ、 *3*ヘロデの家令クーザの妻ヨハンナ、
スザンナ、そのほか多くの婦人たちも一緒
にいて、自分たちの持ち物をもって一行
に奉仕した。 *4*さて、大ぜいの群衆が集ま
り、その上、町々からの人たちがイエスの
ところに、ぞくぞくと押し寄せてきたので、
一つの譬で話をされた、 *5*「種まきが種を
まきに出て行った。まいているうちに、ある
種は道ばたに落ち、踏みつけられ、そし
て空の鳥に食べられてしまった。 *6*ほかの
種は岩の上に落ち、はえはしたが水気が
ないので枯れてしまった。 *7*ほかの種は、
いばらの間に落ちたので、いばらも一緒
に茂ってきて、それをふさいでしまった。
*8*ところが、ほかの種は良い地に落ちたの
で、はえ育って百倍もの実を結んだ」。こう
語られたのち、声をあげて「聞く耳のある
者は聞くがよい」と言われた。 *9*弟子たち
は、この譬はどういう意味でしょうか、とイ
エスに質問した。 *10*そこで言われた、「あ
なたがたには、神の国の奥義を知ることが
許されているが、ほかの人たちには、見て
も見えず、聞いても悟られないために、譬
で話すのである。 *11*この譬はこういう意味
である。種は神の言である。 *12*道ばたに
落ちたのは、聞いたのち、信じることも救
われることもないように、悪魔によってその
心から御言が奪い取られる人たちのこと
である。 *13*岩の上に落ちたのは、御言を
聞いた時には喜んで受けいれるが、根が
無いので、しばらくは信じていても、試錬
の時が来ると、信仰を捨てる人たちのこと
である。 *14*いばらの中に落ちたのは、聞
いてから日を過ごすうちに、生活の心づ
かいや富や快楽にふさがれて、実の熟す
るまでにならない人たちのことである。
*15*良い地に落ちたのは、御言を聞いた
のち、これを正しい良い心でしっかりと守
り、耐え忍んで実を結ぶに至る人たちのこ
とである。 *16*だれもあかりをともして、それ
を何かの器でおおいかぶせたり、寝台の
下に置いたりはしない。燭台の上に置い
て、はいって来る人たちに光が見えるよう
にするのである。 *17*隠されているもので、
あらわにならないものはなく、秘密にされ
ているもので、ついには知られ、明るみに
出されないものはない。 *18*だから、どう聞
くかに注意するがよい。持っている人は更
に与えられ、持っていない人は、持って
ると思っているものまでも、取り上げられる
であろう」。 *19*さて、イエスの母と兄弟たち
とがイエスのところにきたが、群衆のため
そば近くに行くことができなかった。 *20*そ
れで、だれかが「あなたの母上と兄弟がた
が、お目にかかろうと思って、外に立って
おられます」と取次いだ。 *21*するとイエス
は人々にむかって言われた、「神の御言
を聞いて行う者こそ、わたしの母、わたし
の兄弟なのである」。 *22*ある日のこと、イ
エスは弟子たちと舟に乗り込み、「湖の向
こう岸へ渡ろう」と言われたので、一同が
船出した。 *23*渡って行く間に、イエスは眠
ってしまわれた。すると突風が湖に吹きお
ろしてきたので、彼らは水をかぶって危険
になった。 *24*そこで、みそばに寄ってきて
イエスを起し、「先生、先生、わたしたちは
死にそうです」と言った。イエスは起き上
がって、風と荒浪とをおしかりになると、止
んでなぎになった。 *25*イエスは彼らに言
われた、「あなたがたの信仰は、どこにあ
るのか」。彼らは恐れ驚いて互に言い合っ
た、「いったい、このかたはだれだろう。お
命じになると、風も水も従うとは」。 *26*それ
から、彼らはガリラヤの対岸、ゲラサ人の
地に渡った。 *27*陸にあがられると、その町
の人で、悪霊につかれて長いあいだ着物
も着ず、家に居つかないで墓場にばかり
いた人に、出会われた。 *28*この人がイエ
スを見て叫び出し、みまえにひれ伏して
大声で言った、「いと高き神の子イエスよ、
あなたはわたしとなんの係わりがあるので
す。お願いです、わたしを苦しめないでく
ださい」。 *29*それは、イエスが汚れた霊に
、その人から出て行け、とお命じになった

からである。というのは、悪霊が何度も彼
をひき捕えたので、彼は鎖と足かせとで
つながれて看視されていたが、それを断
ち切っては悪霊によって荒野へ追いやら
れていたのである。 *30*イエスは彼に「なん
という名前か」とお尋ねになると、「レギオ
ンと言います」と答えた。彼の中にたくさん
の悪霊がはいり込んでいたからである。
*31*悪霊どもは、底知れぬ所に落ちて行く
ことを自分たちにお命じにならぬようにと、
イエスに願いつづけた。 *32*ところが、そこ
の山べにおびただしい豚の群れが飼って
あったので、その豚の中へはいることを許
していただきたいと、悪霊どもが願い出た
。イエスはそれをお許しになった。 *33*そこ
で悪霊どもは、その人から出て豚の中へ
はいり込んだ。するとその群れは、がけか
ら湖へなだれを打って駆け下り、おぼれ
死んでしまった。 *34*飼う者たちは、この出
来事を見て逃げ出して、町や村里にふれ
まわった。 *35*人々はこの出来事を見に出
てきた。そして、イエスのところにきて、悪
霊を追い出してもらった人が着物を着て、
正気になってイエスの足もとにすわって
いるのを見て、恐れた。 *36*それを見た人た
ちは、この悪霊につかれていた者が救わ
れた次第を、彼らに語り聞かせた。 *37*そ
れから、ゲラサの地方の民衆はこぞって、
自分たちの所から立ち去ってくださるよう
にとイエスに頼んだ。彼らが非常な恐怖
に襲われていたからである。そこで、イエ
スは舟に乗って帰りかけられた。 *38*悪霊
を追い出してもらった人は、お供をしたい
と、しきりに願ったが、イエスはこう言って
彼をお帰しになった。 *39*「家へ帰って、神
があなたにどんなに大きなことをしてくだ
さったか、語り聞かせなさい」。そこで彼は
立ち去って、自分にイエスがして下さった
ことを、ことごとく町中に言いひろめた。
*40*イエスが帰ってこられると、群衆は喜び
迎えた。みんながイエスを待ちうけていた
のである。 *41*するとそこに、ヤイロという名
の人がきた。この人は会堂司であった。イ
エスの足もとにひれ伏して、自分の家に
おいでくださるようにと、しきりに願った。
*42*彼に十二歳ばかりになるひとり娘があ
ったが、死にかけていた。ところが、イエス
が出て行かれる途中、群衆が押し迫って
きた。 *43*ここに、十二年間も長血をわずら
っていて、医者のために自分の身代をみ
な使い果してしまったが、だれにもなおし
てもらえなかった女がいた。 *44*この女がう
しろから近寄ってみ衣のふさにさわったと
ころ、その長血がたちまち止まってしまっ
た。 *45*イエスは言われた、「わたしにさわ
ったのは、だれか」。人々はみな自分では
ないと言ったので、ペテロが「先生、群衆
があなたを取り囲んで、ひしめき合って
るのです」と答えた。 *46*しかしイエスは言
われた、「だれかがわたしにさわった。力
がわたしから出て行ったのを感じたのだ」
。 *47*女は隠しきれないのを知って、震え
ながら進み出て、みまえにひれ伏し、イエ
スにさわった訳と、さわるとたちまちなおっ
たこととを、みんなの前で話した。 *48*そこ
でイエスが女に言われた、「娘よ、あなた
の信仰があなたを救ったのです。安心し
て行きなさい」。 *49*イエスがまだ話してお
られるうちに、会堂司の家から人がきて、
「お嬢さんはなくなられました。この上、先
生を煩わすには及びません」と言った。
*50*しかしイエスはこれを聞いて会堂司に
むかって言われた、「恐れることはない。
ただ信じなさい。娘は助かるのだ」。 *51*そ
れから家にはいられるとき、ペテロ、ヨハネ
、ヤコブおよびその子の父母のほかは、
だれも一緒にはいって来ることをお許しに
ならなかった。 *52*人々はみな、娘のため
に泣き悲しんでいた。イエスは言われた、
「泣くな、娘は死んだのではない。眠って
いるだけである」。 *53*人々は娘が死んだ
ことを知っていたので、イエスをあざ笑っ
た。 *54*イエスは娘の手を取って、呼びか
けて言われた、「娘よ、起きなさい」。 *55*す
るとその霊がもどってきて、娘は即座に立
ち上がった。イエスは何か食べ物を与え
るように、さしずをされた。 *56*両親は驚い
てしまった。イエスはこの出来事をだれに
も話さないようにと、彼らに命じられた。

9 それからイエスは十二弟子を呼び集め
て、彼らにすべての悪霊を制し、病気をい
やす力と権威とをお授けになった。 *2*また
神の国を宣べ伝え、かつ病気をなおすた
めにつかわして *3*言われた、「旅のために
何も携えるな。つえも袋もパンも銭も持た

ず、また下着も二枚は持つな。 4また、どこかの家にはいったら、そこに留まっておれ。そしてそこから出かけることにしなさい。 5だれもあなたがたを迎えるものがいなかったら、その町を出て行くとき、彼らに対する抗議のしるしに、足からちりを払い落しなさい」。 6弟子たちは出て行って、村々を巡り歩き、いたる所で福音を宣べ伝え、また病気をいやした。 7さて、領主ヘロデはいろいろな出来事を耳にして、あわて惑っていた。それは、ある人たちは、ヨハネが死人の中からよみがえったと言い、 8またある人たちは、エリヤが現れたと言い、またほかの人たちは、昔の預言者のひとりが復活したのだと言っていたからである。 9そこでヘロデが言った、「ヨハネはわたしがすでに首を切ったのだが、こうしてうわさされているこの人は、いったい、だれなのだろう」。そしてイエスに会ってみようと思っていた。 10使徒たちは帰ってきて、自分たちのしたことをすべてイエスに話した。それからイエスは彼らを連れて、ベツサイダという町へひそかに退かれた。 11ところが群衆がそれと知って、ついてきたので、これを迎えて神の国のことを語り聞かせ、また治療を要する人たちをいやされた。 12それから日が傾きかけたので、十二弟子がイエスのもとにきて言った、「群衆を解散して、まわりの村々や部落へ行って宿を取り、食物を手にいれるようにさせてください。わたしたちはこんな寂しい所にきているのですから」。 13しかしイエスは言われた、「あなたがたの手で食物をやりなさい」。彼らは言った、「わたしたちにはパン五つと魚二ひきしかありません、この大ぜいの人のために食物を買いに行くかしなければ」。 14というのは、男が五千人ばかりもいたからである。しかしイエスは弟子たちに言われた、「人々をおおよそ五十人ずつの組にして、すわらせなさい」。 15彼らはそのとおりにして、みんなをすわらせた。 16イエスは五つのパンと二ひきの魚とを手に取り、天を仰いでそれを祝福してさき、弟子たちにわたして群衆に配らせた。 17みんなの者は食べて満腹した。そして、その余りくずを集めたら、十二かごあった。 18イエスがひとりで祈っておられたとき、弟子たちが近くにいたので、彼らに尋ねて言われた、「群衆はわたしをだれと言っているか」。 19彼らは答えて言った、「バプテスマのヨハネだと、言っています。しかしほかの人たちは、エリヤだと言い、また昔の預言者のひとりが復活したのだと、言っている者もあります」。 20彼らに言われた、「それでは、あなたがたはわたしをだれと言うか」。ペテロが答えて言った、「神のキリストです」。
21イエスは彼らを戒め、この事をだれにも言うなと命じ、そして言われた、 22「人の子は必ず多くの苦しみを受け、長老、祭司長、律法学者たちに捨てられ、また殺され、そして三日目によみがえる」。 23それから、みんなの者に言われた、「だれでもわたしについてきたいと思うなら、自分を捨て、日々自分の十字架を負うて、わたしに従ってきなさい。 24自分の命を救おうと思う者はそれを失い、わたしのために自分の命を失う者は、それを救うであろう。
25人が全世界をもうけても、自分自身を失いまたは損したら、なんの得になろうか。 26わたしとわたしの言葉とを恥じる者に対しては、人の子もまた、自分の栄光と、父と聖なる御使との栄光のうちに現れて来るとき、その者を恥じるであろう。 27よく聞いておくがよい、神の国を見るまでは、死を味わわない者が、ここに立っている者の中にいる」。 28これらのことを話された後、八日ほどたってから、イエスはペテロ、ヨハネ、ヤコブを連れて、祈るために山に登られた。 29祈っておられる間に、み顔の様が変り、み衣がまばゆいほどに白く輝いた。 30すると見よ、ふたりの人がイエスと語り合っていた。それはモーセとエリヤであったが、 31栄光の中に現れて、イエスがエルサレムで遂げようとする最後のことについて話していたのである。 32ペテロとその仲間の者たちとは熟睡していたが、目をさますと、イエスの栄光の姿と、共に立っているふたりの人とを見た。 33このふたりがイエスを離れ去ろうとしたとき、ペテロは自分が何を言っているのかわからないで、イエスに言った、「先生、わたしたちがここにいるのは、すばらしいことです。それで、わたしたちは小屋を三つ建てましょう。一つはあなたのために、一つはモーセのために、一つはエリヤのため

に」。 *34*彼がこう言っている間に、雲がわ
き起って彼らをおおいはじめた。そしてそ
の雲に囲まれたとき、彼らは恐れた。
*35*すると雲の中から声があった、「これは
わたしの子、わたしの選んだ者である。こ
れに聞け」。 *36*そして声が止んだとき、イ
エスがひとりだけになっておられた。弟子
たちは沈黙を守って、自分たちが見たこと
については、そのころだれにも話さなかっ
た。 *37*翌日、一同が山を降りて来ると、大
ぜいの群衆がイエスを出迎えた。 *38*する
と突然、ある人が群衆の中から大声をあ
げて言った、「先生、お願いです。わたし
のむすこを見てやってください。この子は
わたしのひとりむすこですが、 *39*霊が取り
つきますと、彼は急に叫び出すのです。
それから、霊は彼をひきつけさせて、あわ
を吹かせ、彼を弱り果てさせて、なかなか
出て行かないのです。 *40*それで、お弟子
たちに、この霊を追い出してくださるように
願いましたが、できませんでした」。 *41*イ
エスは答えて言われた、「ああ、なんという
不信仰な、曲った時代であろう。いつまで
、わたしはあなたがたと一緒におられよう
か、またあなたがたに我慢ができようか。
あなたの子をここに連れてきなさい」。
*42*ところが、その子がイエスのところに来
る時にも、悪霊が彼を引き倒して、引きつ
けさせた。イエスはこの汚れた霊をしかり
つけ、その子供をいやして、父親にお渡
しになった。 *43*人々はみな、神の偉大な
力に非常に驚いた。みんなの者がイエス
のしておられた数々の事を不思議に思っ
ていると、弟子たちに言われた、 *44*「あな
たがたはこの言葉を耳におさめて置きな
さい。人の子は人々の手に渡されようとし
ている」。 *45*しかし、彼らはなんのことかわ
からなかった。それが彼らに隠されていて
、悟ることができなかったのである。また彼
らはそのことについて尋ねるのを恐れて
いた。 *46*弟子たちの間に、彼らのうちで
だれがいちばん偉いだろうかということで
、議論がはじまった。 *47*イエスは彼らの心
の思いを見抜き、ひとりの幼な子を取りあ
げて自分のそばに立たせ、彼らに言われ
た、 *48*「だれでもこの幼な子をわたしの名
のゆえに受けいれる者は、わたしを受け
いれるのである。そしてわたしを受けいれ
る者は、わたしをおつかわしになったかた
を受けいれるのである。あなたがたみんな
の中でいちばん小さい者こそ、大きいの
である」。 *49*するとヨハネが答えて言った
、「先生、わたしたちはある人があなたの
名を使って悪霊を追い出しているのを見
ましたが、その人はわたしたちの仲間でな
いので、やめさせました」。 *50*イエスは彼
に言われた、「やめさせないがよい。あな
たがたに反対しない者は、あなたがたの
味方なのである」。 *51*さて、イエスが天に
上げられる日が近づいたので、エルサレ
ムへ行こうと決意して、その方へ顔をむけ
られ、 *52*自分に先立って使者たちをおつ
かわしになった。そして彼らがサマリヤ人
の村へはいって行き、イエスのために準
備をしようとしたところ、 *53*村人は、エルサ
レムへむかって進んで行かれるというので
、イエスを歓迎しようとはしなかった。
*54*弟子のヤコブとヨハネとはそれを見て
言った、「主よ、いかがでしょう。彼らを焼
き払ってしまうように、天から火をよび求め
ましょうか」。 *55*イエスは振りかえって、彼
らをおしかりになった。 *56*そして一同はほ
かの村へ行った。 *57*道を進んで行くと、
ある人がイエスに言った、「あなたがおい
でになる所ならどこへでも従ってまいりま
す」。 *58*イエスはその人に言われた、「きつ
ねには穴があり、空の鳥には巣がある。
しかし、人の子にはまくらする所がない」。
*59*またほかの人に、「わたしに従ってきな
さい」と言われた。するとその人が言った、
「まず、父を葬りに行かせてください」。
*60*彼に言われた、「その死人を葬ることは
、死人に任せておくがよい。あなたは、出
て行って神の国を告げひろめなさい」。
*61*またほかの人が言った、「主よ、従って
まいりますが、まず家の者に別れを言い
に行かせてください」。 *62*イエスは言われ
た、「手をすきにかけてから、うしろを見る
者は、神の国にふさわしくないものである
」。

10 その後、主は別に七十二人を選び、
行こうとしておられたすべての町や村へ、
ふたりずつ先におつかわしになった。 *2*そ
のとき、彼らに言われた、「収穫は多いが
、働き人が少ない。だから、収穫の主に願

って、その収穫のために働き人を送り出
すようにしてもらいなさい。 *3*さあ、行きな
さい。わたしがあなたがたをつかわすのは
、小羊をおおかみの中に送るようなもので
ある。 *4*財布も袋もくつも持って行くな。だ
れにも道であいさつするな。 *5*どこかの家
にはいったら、まず『平安がこの家にある
ように』と言いなさい。 *6*もし平安の子がそ
こにおれば、あなたがたの祈る平安はそ
の人の上にとどまるであろう。もしそうでな
かったら、それはあなたがたの上に帰って
来るであろう。 *7*それで、その同じ家に留
まっていて、家の人が出してくれるものを
飲み食いしなさい。働き人がその報いを
得るのは当然である。家から家へと渡り歩
くな。 *8*どの町へはいっても、人々があな
たがたを迎えてくれるなら、前に出される
ものを食べなさい。 *9*そして、その町にい
る病人をいやしてやり、『神の国はあなた
がたに近づいた』と言いなさい。 *10*しかし
、どの町へはいっても、人々があなたがた
を迎えない場合には、大通りに出て行っ
て言いなさい、 *11*『わたしたちの足につい
ているこの町のちりも、ぬぐい捨てて行く。
しかし、神の国が近づいたことは、承知し
ているがよい』。 *12*あなたがたに言っておく。その日には、この町よりもソドムの方が
耐えやすいであろう。 *13*わざわいだ、コラ
ジンよ。わざわいだ、ベツサイダよ。おまえ
たちの中でなされた力あるわざが、もしツ
ロとシドンでなされたなら、彼らはとうの昔
に、荒布をまとい灰の中にすわって、悔い
改めたであろう。 *14*しかし、さばきの日に
は、ツロとシドンの方がおまえたちよりも、
耐えやすいであろう。 *15*ああ、カペナウム
よ、おまえは天にまで上げられようとでも
いうのか。黄泉にまで落されるであろう。
*16*あなたがたに聞き従う者は、わたしに
聞き従うのであり、あなたがたを拒む者は
、わたしを拒むのである。そしてわたしを
拒む者は、わたしをおつかわしになった
かたを拒むのである」。 *17*七十二人が喜
んで帰ってきて言った、「主よ、あなたの
名によっていたしますと、悪霊までがわた
したちに服従します」。 *18*彼らに言われた
、「わたしはサタンが電光のように天から
落ちるのを見た。 *19*わたしはあなたがた
に、へびやさそりを踏みつけ、敵のあらゆ
る力に打ち勝つ権威を授けた。だから、あ
なたがたに害をおよぼす者はまったく無
いであろう。 *20*しかし、霊があなたがたに
服従することを喜ぶな。むしろ、あなたが
たの名が天にしるされていることを喜びな
さい」。 *21*そのとき、イエスは聖霊によって
喜びあふれて言われた、「天地の主なる
父よ。あなたをほめたたえます。これらの
事を知恵のある者や賢い者に隠して、幼
な子にあらわしてくださいました。父よ、こ
れはまことに、みこころにかなった事でし
た。 *22*すべての事は父からわたしに任せ
られています。そして、子がだれであるか
は、父のほか知っている者はありません。
また父がだれであるかは、子と、父をあら
わそうとして子が選んだ者とのほか、だれ
も知っている者はいません」。 *23*それから
弟子たちの方に振りむいて、ひそかに言
われた、「あなたがたが見ていることを見
る目は、さいわいである。 *24*あなたがたに
言っておく。多くの預言者や王たちも、あ
なたがたの見ていることを見ようとしたが、
見ることができず、あなたがたの聞いてい
ることを聞こうとしたが、聞けなかったので
ある」。 *25*するとそこへ、ある律法学者が
現れ、イエスを試みようとして言った、「先
生、何をしたら永遠の生命が受けられまし
ょうか」。 *26*彼に言われた、「律法にはな
んと書いてあるか。あなたはどう読むか」。
*27*彼は答えて言った、「『心をつくし、精
神をつくし、力をつくし、思いをつくして、
あなたの神、イオウオ[xxxiii]を愛せよ』。また、
『自分を愛するように、あなたの隣り人を
愛せよ』とあります」。 *28*彼に言われた、
「あなたの答は正しい。そのとおり行いな
さい。そうすれば、いのちが得られる」。
*29*すると彼は自分の立場を弁護しようと
思って、イエスに言った、「では、わたしの
隣り人とはだれのことですか」。 *30*イエス
が答えて言われた、「ある人がエルサレム
からエリコに下って行く途中、強盗どもが
彼を襲い、その着物をはぎ取り、傷を負わ
せ、半殺しにしたまま、逃げ去った。 *31*す
るとたまたま、ひとりの祭司がその道を下
ってきたが、この人を見ると、向こう側を通
って行った。 *32*同様に、レビ人もこの場所
にさしかかってきたが、彼を見ると向こう側
を通って行った。 *33*ところが、あるサマリ

ヤ人が旅をしてこの人のところを通りかかり、彼を見て気の毒に思い、 *34*近寄ってきてその傷にオリブ油とぶどう酒とを注いでほうたいをしてやり、自分の家畜に乗せ、宿屋に連れて行って介抱した。 *35*翌日、デナリ二つを取り出して宿屋の主人に手渡し、『この人を見てやってください。費用がよけいにかかったら、帰りがけに、わたしが支払います』と言った。 *36*この三人のうち、だれが強盗に襲われた人の隣り人になったと思うか」。 *37*彼が言った、「その人に慈悲深い行いをした人です」。そこでイエスは言われた、「あなたも行って同じようにしなさい」。 *38*一同が旅を続けているうちに、イエスがある村へはいられた。するとマルタという名の女がイエスを家に迎え入れた。 *39*この女にマリヤという妹がいたが、主の足もとにすわって、御言に聞き入っていた。 *40*ところが、マルタは接待のことで忙がしくて心をとりみだし、イエスのところにきて言った、「主よ、妹がわたしだけに接待をさせているのを、なんともお思いになりませんか。わたしの手伝いをするように妹におっしゃってください」。
*41*主は答えて言われた、「マルタよ、マルタよ、あなたは多くのことに心を配って思いわずらっている。 *42*しかし、無くてならぬものは多くはない。いや、一つだけである。マリヤはその良い方を選んだのだ。そしてそれは、彼女から取り去ってはならないものである」。

11 また、イエスはある所で祈っておられたが、それが終ったとき、弟子のひとりが言った、「主よ、ヨハネがその弟子たちに教えたように、わたしたちにも祈ることを教えてください」。 *2*そこで彼らに言われた、「祈るときには、こう言いなさい、『父よ、御名があがめられますように。御国がきますように。 *3*わたしたちの日ごとの食物を、日々お与えください。 *4*わたしたちに負債のある者を皆ゆるしますから、わたしたちの罪をもおゆるしください。わたしたちを試みに会わせないでください』」。 *5*そして彼らに言われた、「あなたがたのうちのだれかに、友人があるとして、その人のところへ真夜中に行き、『友よ、パンを三つ貸してください。 *6*友だちが旅先からわたしのところに着いたのですが、何も出すものがありませんから』と言った場合、 *7*彼は内から、『面倒をかけないでくれ。もう戸は締めてしまったし、子供たちもわたしと一緒に床にはいっているので、いま起きて何もあげるわけにはいかない』と言うであろう。
*8*しかし、よく聞きなさい、友人だからというのでは起きて与えないが、しきりに願うので、起き上がって必要なものを出してくれるであろう。 *9*そこでわたしはあなたがたに言う。求めよ、そうすれば、与えられるであろう。捜せ、そうすれば見いだすであろう。門をたたけ、そうすれば、あけてもらえるであろう。 *10*すべて求める者は得、捜す者は見いだし、門をたたく者はあけてもらえるからである。 *11*あなたがたのうちで、父であるものは、その子が魚を求めるのに、魚の代りにへびを与えるだろうか。
*12*卵を求めるのに、さそりを与えるだろうか。 *13*このように、あなたがたは悪い者であっても、自分の子供には、良い贈り物をすることを知っているとすれば、天の父はなおさら、求めて来る者に聖霊を下さらないことがあろうか」。 *14*さて、イエスが悪霊を追い出しておられた。それは、おしの霊であった。悪霊が出て行くと、おしが物を言うようになったので、群衆は不思議に思った。 *15*その中のある人々が、「彼は悪霊のかしらベルゼブルによって、悪霊どもを追い出しているのだ」と言い、 *16*またほかの人々は、イエスを試みようとして、天からのしるしを求めた。 *17*しかしイエスは、彼らの思いを見抜いて言われた、「おおよそ国が内部で分裂すれば自滅してしまい、また家が分れ争えば倒れてしまう。
*18*そこでサタンも内部で分裂すれば、その国はどうして立ち行けよう。あなたがたはわたしがベルゼブルによって悪霊を追い出していると言うが、 *19*もしわたしがベルゼブルによって悪霊を追い出すとすれば、あなたがたの仲間はだれによって追い出すのであろうか。だから、彼らがあなたがたをさばく者となるであろう。 *20*しかし、わたしが神の指によって悪霊を追い出しているのなら、神の国はすでにあなたがたのところにきたのである。 *21*強い人が十分に武装して自分の邸宅を守っている限り、その持ち物は安全である。 *22*しかし

、もっと強い者が襲ってきて彼に打ち勝てば、その頼みにしていた武具を奪って、その分捕品を分けるのである。 *23*わたしの味方でない者は、わたしに反対するものであり、わたしと共に集めない者は、散らすものである。 *24*汚れた霊が人から出ると、休み場を求めて水の無い所を歩きまわるが、見つからないので、出てきた元の家に帰ろうと言って、 *25*帰って見ると、その家はそうじがしてある上、飾りつけがしてあった。 *26*そこでまた出て行って、自分以上に悪い他の七つの霊を引き連れてきて中にはいり、そこに住み込む。そうすると、その人の後の状態は初めよりももっと悪くなるのである」。 *27*イエスがこう話しておられるとき、群衆の中からひとりの女が声を張りあげて言った、「あなたを宿した胎、あなたが吸われた乳房は、なんとめぐまれていることでしょう」。 *28*しかしイエスは言われた、「いや、めぐまれているのは、むしろ、神の言を聞いてそれを守る人たちである」。 *29*さて群衆が群がり集まったので、イエスは語り出された、「この時代は邪悪な時代である。それはしるしを求めるが、ヨナのしるしのほかには、なんのしるしも与えられないであろう。 *30*というのは、ニネベの人々に対してヨナがしるしとなったように、人の子もこの時代に対してしるしとなるであろう。 *31*南の女王が、今の時代の人々と共にさばきの場に立って、彼らを罪に定めるであろう。なぜなら、彼女はソロモンの知恵を聞くために、地の果からはるばるきたからである。しかし見よ、ソロモンにまさる者がここにいる。 *32*ニネベの人々が、今の時代の人々と共にさばきの場に立って、彼らを罪に定めるであろう。なぜなら、ニネベの人々はヨナの宣教によって悔い改めたからである。しかし見よ、ヨナにまさる者がここにいる。 *33*だれもあかりをともして、それを穴倉の中や枡の下に置くことはしない。むしろはいって来る人たちに、そのあかりが見えるように、燭台の上におく。 *34*あなたの目は、からだのあかりである。あなたの目が澄んでおれば、全身も明るいが、目がわるければ、からだも暗い。 *35*だから、あなたの内なる光が暗くならないように注意しなさい。 *36*もし、あなたのからだ全体が明るくて、暗い部分が少しもなければ、ちょうど、あかりが輝いてあなたを照す時のように、全身が明るくなるであろう」。 *37*イエスが語っておられた時、あるパリサイ人が、自分の家で食事をしていただきたいと申し出たので、はいって食卓につかれた。 *38*ところが、食前にまず洗うことをなさらなかったのを見て、そのパリサイ人が不思議に思った。 *39*そこで主は彼に言われた、「いったい、あなたがたパリサイ人は、杯や盆の外側をきよめるが、あなたがたの内側は貪欲と邪悪とで満ちている。 *40*愚かな者たちよ、外側を造ったかたは、また内側も造られたではないか。 *41*ただ、内側にあるものをきよめなさい。そうすれば、いっさいがあなたがたにとって、清いものとなる。 *42*しかし、あなた方パリサイ人は、わざわいである。はっか、うん香、あらゆる野菜などの十分の一を宮に納めておりながら、義と神に対する愛とをなおざりにしている。それもなおざりにはできないが、これは行わねばならない。 *43*あなたがたパリサイ人は、わざわいである。会堂の上席や広場での敬礼を好んでいる。 *44*あなたがたは、わざわいである。人目につかない墓のようなものである。その上を歩いても人々は気づかないでいる」。 *45*ひとりの律法学者がイエスに答えて言った、「先生、そんなことを言われるのは、わたしたちまでも侮辱することです」。 *46*そこで言われた、「あなたがた律法学者も、わざわいである。負い切れない重荷を人に負わせながら、自分ではその荷に指一本でも触れようとしない。 *47*あなたがたは、わざわいである。預言者たちの碑を建てるが、しかし彼らを殺したのは、あなたがたの先祖であったのだ。 *48*だから、あなたがたは、自分の先祖のしわざに同意する証人なのだ。先祖が彼らを殺し、あなたがたがその碑を建てるのだから。 *49*それゆえに、『神の知恵』も言っている、『わたしは預言者と使徒とを彼らにつかわすが、彼らはそのうちのある者を殺したり、迫害したりするであろう』。 *50*それで、アベルの血から祭壇と神殿との間で殺されたザカリヤの血に至るまで、世の初めから流されてきたすべての預言者の血について、この時代がその責任を問われる。 *51*そうだ、あなたがたに言って

おく、この時代がその責任を問われるであろう。 *52*あなたがた律法学者は、わざわいである。知識のかぎを取りあげて、自分がはいらないばかりか、はいろうとする人たちを妨げてきた」。 *53*イエスがそこを出て行かれると、律法学者やパリサイ人は、激しく詰め寄り、いろいろな事を問いかけて、 *54*イエスの口から何か言いがかりを得ようと、ねらいはじめた。

12 その間に、おびただしい群衆が、互に踏み合うほどに群がってきたが、イエスはまず弟子たちに語りはじめられた、「パリサイ人のパン種、すなわち彼らの偽善に気をつけなさい。 *2*おおいかぶされたもので、現れてこないものはなく、隠れているもので、知られてこないものはない。 *3*だから、あなたがたが暗やみで言ったことは、なんでもみな明るみで聞かれ、密室で耳にささやいたことは、屋根の上で言いひろめられるであろう。 *4*そこでわたしの友であるあなたがたに言うが、からだを殺しても、そのあとでそれ以上なにもできない者どもを恐れるな。 *5*恐るべき者がだれであるか、教えてあげよう。殺したあとで、更に地獄に投げ込む権威のあるかたを恐れなさい。そうだ、あなたがたに言っておくが、そのかたを恐れなさい。 *6*五羽のすずめは二アサリオンで売られているではないか。しかも、その一羽も神のみまえで忘れられてはいない。 *7*その上、あなたがたの頭の毛までも、みな数えられている。恐れることはない。あなたがたは多くのすずめよりも、まさった者である。 *8*そこで、あなたがたに言う。だれでも人の前でわたしを受けいれる者を、人の子も神の使たちの前で受けいれるであろう。 *9*しかし、人の前でわたしを拒む者は、神の使たちの前で拒まれるであろう。 *10*また、人の子に言い逆らう者はゆるされるであろうが、聖霊をけがす者は、ゆるされることはない。 *11*あなたがたが会堂や役人や高官の前へひっぱられて行った場合には、何をどう弁明しようか、何を言おうかと心配しないがよい。 *12*言うべきことは、聖霊がその時に教えてくださるからである」。 *13*群衆の中のひとりがイエスに言った、「先生、わたしの兄弟に、遺産を分けてくれるようにおっしゃってください」。 *14*彼に言われた、「人よ、だれがわたしをあなたがたの裁判人または分配人に立てたのか」。 *15*それから人々にむかって言われた、「あらゆる貪欲に対してよくよく警戒しなさい。たといたくさんの物を持っていても、人のいのちは、持ち物にはよらないのである」。 *16*そこで一つの譬を語られた、「ある金持の畑が豊作であった。 *17*そこで彼は心の中で、『どうしようか、わたしの作物をしまっておく所がないのだが』と思いめぐらして *18*言った、『こうしよう。わたしの倉を取りこわし、もっと大きいのを建てて、そこに穀物や食糧を全部しまい込もう。 *19*そして自分の魂に言おう。たましいよ、おまえには長年分の食糧がたくさんたくわえてある。さあ安心せよ、食え、飲め、楽しめ』。 *20*すると神が彼に言われた、『愚かな者よ、あなたの魂は今夜のうちにも取り去られるであろう。そしたら、あなたが用意した物は、だれのものになるのか』。 *21*自分のために宝を積んで神に対して富まない者は、これと同じである」。 *22*それから弟子たちに言われた、「それだから、あなたがたに言っておく。何を食べようかと、命のことで思いわずらい、何を着ようかとからだのことで思いわずらうな。 *23*命は食物にまさり、からだは着物にまさっている。 *24*からすのことを考えて見よ。まくことも、刈ることもせず、また、納屋もなく倉もない。それだのに、神は彼らを養っていて下さる。あなたがたは鳥よりも、はるかにすぐれているではないか。 *25*あなたがたのうち、だれが思いわずらったからとて、自分の寿命をわずかでも延ばすことができようか。 *26*そんな小さな事さえできないのに、どうしてほかのことを思いわずらうのか。 *27*野の花のことを考えて見るがよい。紡ぎもせず、織りもしない。しかし、あなたがたに言うが、栄華をきわめた時のソロモンでさえ、この花の一つほどにも着飾ってはいなかった。 *28*きょうは野にあって、あすは炉に投げ入れられる草でさえ、神はこのように装って下さるのなら、あなたがたに、それ以上よくしてくださらないはずがあろうか。ああ、信仰の薄い者たちよ。 *29*あなたがたも、何を食べ、何を飲もうかと、あくせくするな、また気を使うな。 *30*これらのものは

皆、この世の異邦人が切に求めているものである。あなたがたの父は、これらのものがあなたがたに必要であることを、ご存じである。 *31*ただ、御国を求めなさい。そうすれば、これらのものは添えて与えられるであろう。 *32*恐れるな、小さい群れよ。御国を下さることは、あなたがたの父のみこころなのである。 *33*自分の持ち物を売って、施しなさい。自分のために古びることのない財布をつくり、盗人も近寄らず、虫も食い破らない天に、尽きることのない宝をたくわえなさい。 *34*あなたがたの宝のある所には、心もあるからである。 *35*腰に帯をしめ、あかりをともしていなさい。
*36*主人が婚宴から帰ってきて戸をたたくとき、すぐあけてあげようと待っている人のようにしていなさい。 *37*主人が帰ってきたとき、目を覚しているのを見られる僕たちは、さいわいである。よく言っておく。主人が帯をしめて僕たちを食卓につかせ、進み寄って給仕をしてくれるであろう。 *38*主人が夜中ごろ、あるいは夜明けごろに帰ってきても、そうしているのを見られるなら、その人たちはさいわいである。 *39*このことを、わきまえているがよい。家の主人は、盗賊がいつごろ来るかわかっているなら、自分の家に押し入らせはしないであろう。 *40*あなたがたも用意していなさい。思いがけない時に人の子が来るからである」。
*41*するとペテロが言った、「主よ、この譬を話しておられるのはわたしたちのためなのですか。それとも、みんなの者のためなのですか」。 *42*そこで主が言われた、「主人が、召使たちの上に立てて、時に応じて定めの食事をそなえさせる忠実な思慮深い家令は、いったいだれであろう。
*43*主人が帰ってきたとき、そのようにつとめているのを見られる僕は、さいわいである。 *44*よく言っておくが、主人はその僕を立てて自分の全財産を管理させるであろう。 *45*しかし、もしその僕が、主人の帰りがおそいと心の中で思い、男女の召使たちを打ちたたき、そして食べたり、飲んだりして酔いはじめるならば、 *46*その僕の主人は思いがけない日、気がつかない時に帰って来るであろう。そして、彼を厳罰に処して、不忠実なものたちと同じ目にあわせるであろう。 *47*主人のこころを知っていながら、それに従って用意もせず勤めもしなかった僕は、多くむち打たれるであろう。 *48*しかし、知らずに打たれるようなことをした者は、打たれ方が少ないだろう。多く与えられた者からは多く求められ、多く任せられた者からは更に多く要求されるのである。 *49*わたしは、火を地上に投じるためにきたのだ。火がすでに燃えていたならと、わたしはどんなに願っていることか。
*50*しかし、わたしには受けねばならないバプテスマがある。そして、それを受けてしまうまでは、わたしはどんなにか苦しい思いをすることであろう。 *51*あなたがたは、わたしが平和をこの地上にもたらすためにきたと思っているのか。あなたがたに言っておく。そうではない。むしろ分裂である。 *52*というのは、今から後は、一家の内で五人が相分れて、三人はふたりに、ふたりは三人に対立し、 *53*また父は子に、子は父に、母は娘に、娘は母に、しゅうとめは嫁に、嫁はしゅうとめに、対立するであろう」。 *54*イエスはまた群衆に対しても言われた、「あなたがたは、雲が西に起るのを見るとすぐ、にわか雨がやって来る、と言う。果してそのとおりになる。 *55*それから南風が吹くと、暑つくなるだろう、と言う。果してそのとおりになる。 *56*偽善者よ、あなたがたは天地の模様を見分けることを知りながら、どうして今の時代を見分けることができないのか。 *57*また、あなたがたは、なぜ正しいことを自分で判断しないのか。 *58*たとえば、あなたを訴える人と一緒に役人のところへ行くときには、途中でその人と和解するように努めるがよい。そうしないと、その人はあなたを裁判官のところへひっぱって行き、裁判官はあなたを獄吏に引き渡し、獄吏はあなたを獄に投げ込むであろう。 *59*わたしは言って置く、最後の一レプタまでも支払ってしまうまでは、決してそこから出て来ることはできない」。

13 ちょうどその時、ある人々がきて、ピラトがガリラヤ人たちの血を流し、それを彼らの犠牲の血に混ぜたことを、イエスに知らせた。 *2*そこでイエスは答えて言われた、「それらのガリラヤ人が、そのような災難にあったからといって、他のすべてのガリ

ラヤ人以上に罪が深かったと思うのか。
3あなたがたに言うが、そうではない。あ
なたがたも悔い改めなければ、みな同じ
ように滅びるであろう。 4また、シロアムの
塔が倒れたためにおし殺されたあの十八
人は、エルサレムの他の全住民以上に罪
の負債があったと思うか。 5あなたがたに
言うが、そうではない。あなたがたも悔い
改めなければ、みな同じように滅びるであ
ろう」。 6それから、この譬を語られた、「ある
人が自分のぶどう園にいちじくの木を植
えて置いたので、実を捜しにきたが見つ
からなかった。 7そこで園丁に言った、『わ
たしは三年間も実を求めて、このいちじく
の木のところにきたのだが、いまだに見あ
たらない。その木を切り倒してしまえ。なん
のために、土地をむだにふさがせて置く
のか』。 8すると園丁は答えて言った、『ご
主人様、ことしも、そのままにして置いてく
ださい。そのまわりを掘って肥料をやって
見ますから。 9それで来年実がなりました
ら結構です。もしそれでもだめでしたら、
切り倒してください』」。 10安息日に、ある
会堂で教えておられると、 11そこに十八
年間も病気の霊につかれ、かがんだまま
で、からだを伸ばすことの全くできない女
がいた。 12イエスはこの女を見て、呼びよ
せ、「女よ、あなたの病気はなおった」と言
って、 13手をその上に置かれた。すると
立ちどころに、そのからだがまっすぐになり、そして神をたたえはじめた。 14ところが会堂司は、イエスが安息日に病気をいやされたことを憤り、群衆にむかって言った、「働くべき日は六日ある。その間に、なおしてもらいにきなさい。安息日にはいけない」。 15主はこれに答えて言われた、「偽善者たちよ、あなたがたはだれでも、安息日であっても、自分の牛やろばを家畜小屋から解いて、水を飲ませに引き出してやるではないか。 16それなら、十八年間もサタンに縛られていた、アブラハムの娘であるこの女を、安息日であっても、その束縛から解いてやるべきではなかったか」。 17こう言われたので、イエスに反対していた人たちはみな恥じ入った。そして群衆はこぞって、イエスがなされたすべてのすばらしいみわざを見て喜んだ。
18そこで言われた、「神の国は何に似て
いるか。またそれを何にたとえようか。
19一粒のからし種のようなものである。ある人がそれを取って庭にまくと、育って木となり、空の鳥もその枝に宿るようになる」。 20また言われた、「神の国を何にたとえようか。 21パン種のようなものである。女がそれを取って三斗の粉の中に混ぜると、全体がふくらんでくる」。 22さてイエスは教えながら町々村々を通り過ぎ、エルサレムへと旅を続けられた。 23すると、ある人がイエスに、「主よ、救われる人は少ないのですか」と尋ねた。 24そこでイエスは人々にむかって言われた、「狭い戸口からはいるように努めなさい。事実、はいろうとしても、はいれない人が多いのだから。
25家の主人が立って戸を閉じてしまってから、あなたがたが外に立ち戸をたたき始めて、『ご主人様、どうぞあけてください』と言っても、主人はそれに答えて、『あなたがたがどこからきた人なのか、わたしは知らない』と言うであろう。 26そのとき、『わたしたちはあなたとご一緒に飲み食いしました。また、あなたはわたしたちの大通りで教えてくださいました』と言い出しても、
27彼は、『あなたがたがどこからきた人なのか、わたしは知らない。悪事を働く者どもよ、みんな行ってしまえ』と言うであろう。
28あなたがたは、アブラハム、イサク、ヤコブやすべての預言者たちが、神の国にはいっているのに、自分たちは外に投げ出されることになれば、そこで泣き叫んだり、歯がみをしたりするであろう。 29それから人々が、東から西から、また南から北からきて、神の国で宴会の席につくであろう。 30こうしてあとのもので先になるものがあり、また、先のものであとになるものもある」。 31ちょうどその時、あるパリサイ人たちが、イエスに近寄ってきて言った、「ここから出て行きなさい。ヘロデがあなたを殺そうとしています」。 32そこで彼らに言われた、「あのきつねのところへ行ってこう言え、『見よ、わたしはきょうもあすも悪霊を追い出し、また、病気をいやし、そして三日目にわざを終えるであろう。 33しかし、きょうもあすも、またその次の日も、わたしは進んで行かねばならない。預言者がエルサレム以外の地で死ぬことは、あり得ないからである』。 34ああ、エルサレム、

エルサレム、預言者たちを殺し、おまえに
つかわされた人々を石で打ち殺す者よ。
ちょうどめんどりが翼の下にひなを集める
ように、わたしはおまえの子らを幾たび集
めようとしたことであろう。それだのに、お
まえたちは応じようとしなかった。 *35*見よ、
おまえたちの家は見捨てられてしまう。わ
たしは言って置く、『イオウオ[xxxiv]の名によ
ってきたるものに、祝福あれ』とおまえたち
が言う時の来るまでは、再びわたしに会う
ことはないであろう」。

14 ある安息日のこと、食事をするために
、あるパリサイ派のかしらの家にはいって
行かれたが、人々はイエスの様子をうか
がっていた。 *2*するとそこに、水腫をわず
らっている人が、みまえにいた。 *3*イエス
は律法学者やパリサイ人たちにむかって
言われた、「安息日に人をいやすのは、
正しいことかどうか」。 *4*彼らは黙っていた
。そこでイエスはその人に手を置いてい
やしてやり、そしてお帰しになった。 *5*そ
れから彼らに言われた、「あなたがたのう
ちで、自分のむすこか牛が井戸に落ち込
んだなら、安息日だからといって、すぐに
引き上げてやらない者がいるだろうか」。
*6*彼らはこれに対して返す言葉がなかっ
た。 *7*客に招かれた者たちが上座を選ん
でいる様子をごらんになって、彼らに一つ
の譬を語られた。 *8*「婚宴に招かれたとき
には、上座につくな。あるいは、あなたより
も身分の高い人が招かれているかも知れ
ない。 *9*その場合、あなたとその人とを招
いた者がきて、『このかたに座を譲ってく
ださい』と言うであろう。そのとき、あなたは
恥じ入って末座につくことになるであろう。
*10*むしろ、招かれた場合には、末座に行
ってすわりなさい。そうすれば、招いてく
れた人がきて、『友よ、上座の方へお進み
ください』と言うであろう。そのとき、あなた
は席を共にするみんなの前で、面目をほ
どこすことになるであろう。 *11*おおよそ、
自分を高くする者は低くされ、自分を低く
する者は高くされるであろう」。 *12*また、イ
エスは自分を招いた人に言われた、「午
餐または晩餐の席を設ける場合には、友
人、兄弟、親族、金持の隣り人などは呼
ばぬがよい。恐らく彼らもあなたを招きか
えし、それであなたは返礼を受けることに
なるから。 *13*むしろ、宴会を催す場合に
は、貧乏人、不具者、足なえ、盲人などを
招くがよい。 *14*そうすれば、彼らは返礼が
できないから、あなたはさいわいになるで
あろう。正しい人々の復活の際には、あな
たは報いられるであろう」。 *15*列席者のひ
とりがこれを聞いてイエスに「神の国で食
事をする人は、さいわいです」と言った。
*16*そこでイエスが言われた、「ある人が盛
大な晩餐会を催して、大ぜいの人を招い
た。 *17*晩餐の時刻になったので、招いて
おいた人たちのもとに僕を送って、『さあ、
おいでください。もう準備ができましたから
』と言わせた。 *18*ところが、みんな一様に
断りはじめた。最初の人は、『わたしは土
地を買いましたので、行って見なければ
なりません。どうぞ、おゆるしください』と言
った。 *19*ほかの人は、『わたしは五対の
牛を買いましたので、それをしらべに行く
ところです。どうぞ、おゆるしください』、
*20*もうひとりの人は、『わたしは妻をめとり
ましたので、参ることができません』と言っ
た。 *21*僕は帰ってきて、以上の事を主人
に報告した。すると家の主人はおこって僕
に言った、『いますぐに、町の大通りや小
道へ行って、貧乏人、不具者、盲人、足
なえなどを、ここへ連れてきなさい』。
*22*僕は言った、『ご主人様、仰せのとおり
にいたしましたが、まだ席がございます』。
*23*主人が僕に言った、『道やかきねのあ
たりに出て行って、この家がいっぱいにな
るように、人々を無理やりにひっぱってき
なさい。 *24*あなたがたに言って置くが、招
かれた人で、わたしの晩餐にあずかる者
はひとりもないであろう』」。 *25*大ぜいの群
衆がついてきたので、イエスは彼らの方に
向いて言われた、 *26*「だれでも、父、母、
妻、子、兄弟、姉妹、さらに自分の命まで
も捨てて、わたしのもとに来るのでなけれ
ば、わたしの弟子となることはできない。
*27*自分の十字架を負うてわたしについて
来るものでなければ、わたしの弟子となる
ことはできない。 *28*あなたがたのうちで、
だれかが邸宅を建てようと思うなら、それ
を仕上げるのに足りるだけの金を持って
いるかどうかを見るため、まず、すわって
その費用を計算しないだろうか。 *29*そうし

ないと、土台をすえただけで完成することができず、見ているみんなの人が、 *30*『あの人は建てかけたが、仕上げができなかった』と言ってあざ笑うようになろう。 *31*また、どんな王でも、ほかの王と戦いを交えるために出て行く場合には、まず座して、こちらの一万人をもって、二万人を率いて向かって来る敵に対抗できるかどうか、考えて見ないだろうか。 *32*もし自分の力にあまれば、敵がまだ遠くにいるうちに、使者を送って、和を求めるであろう。 *33*それと同じように、あなたがたのうちで、自分の財産をことごとく捨て切るものでなくては、わたしの弟子となることはできない。 *34*塩は良いものだ。しかし、塩もききめがなくなったら、何によって塩味が取りもどされようか。 *35*土にも肥料にも役立たず、外に投げ捨てられてしまう。聞く耳のあるものは聞くがよい」。

15 さて、取税人や罪人たちが皆、イエスの話を聞こうとして近寄ってきた。 *2*するとパリサイ人や律法学者たちがつぶやいて、「この人は罪人たちを迎えて一緒に食事をしている」と言った。 *3*そこでイエスは彼らに、この譬をお話しになった、 *4*「あなたがたのうちに、百匹の羊を持っている者がいたとする。その一匹がいなくなったら、九十九匹を野原に残しておいて、いなくなった一匹を見つけるまでは捜し歩かないであろうか。 *5*そして見つけたら、喜んでそれを自分の肩に乗せ、 *6*家に帰ってきて友人や隣り人を呼び集め、『わたしと一緒に喜んでください。いなくなった羊を見つけましたから』と言うであろう。 *7*よく聞きなさい。それと同じように、罪人がひとりでも悔い改めるなら、悔改めを必要としない九十九人の正しい人のためにもまさる大きいよろこびが、天にあるであろう。 *8*また、ある女が銀貨十枚を持っていて、もしその一枚をなくしたとすれば、彼女はあかりをつけて家中を掃き、それを見つけるまでは注意深く捜さないであろうか。 *9*そして、見つけたなら、女友だちや近所の女たちを呼び集めて、『わたしと一緒に喜んでください。なくした銀貨が見つかりましたから』と言うであろう。 *10*よく聞きなさい。それと同じように、罪人がひとりでも悔い改めるなら、神の御使たちの前でよろこびがあるであろう」。 *11*また言われた、「ある人に、ふたりのむすこがあった。 *12*ところが、弟が父親に言った、『父よ、あなたの財産のうちでわたしがいただく分をください』。そこで、父はその身代をふたりに分けてやった。 *13*それから幾日もたたないうちに、弟は自分のものを全部とりまとめて遠い所へ行き、そこで放蕩に身を持ちくずして財産を使い果した。 *14*何もかも浪費してしまったのち、その地方にひどいききんがあったので、彼は食べることにも窮しはじめた。 *15*そこで、その地方のある住民のところに行って身を寄せたところが、その人は彼を畑にやって豚を飼わせた。 *16*彼は、豚の食べるいなご豆で腹を満たしたいと思うほどであったが、何もくれる人はなかった。 *17*そこで彼は本心に立ちかえって言った、『父のところには食物のあり余っている雇人が大ぜいいるのに、わたしはここで飢えて死のうとしている。 *18*立って、父のところへ帰って、こう言おう、父よ、わたしは天に対しても、あなたにむかっても、罪を犯しました。 *19*もう、あなたのむすこと呼ばれる資格はありません。どうぞ、雇人のひとり同様にしてください』。 *20*そこで立って、父のところへ出かけた。まだ遠く離れていたのに、父は彼をみとめ、哀れに思って走り寄り、その首をだいて接吻した。 *21*むすこは父に言った、『父よ、わたしは天に対しても、あなたにむかっても、罪を犯しました。もうあなたのむすこと呼ばれる資格はありません』。 *22*しかし父は僕たちに言いつけた、『さあ、早く、最上の着物を出してきてこの子に着せ、指輪を手にはめ、はきものを足にはかせなさい。 *23*また、肥えた子牛を引いてきてほふりなさい。食べて楽しもうではないか。 *24*このむすこが死んでいたのに生き返り、いなくなっていたのに見つかったのだから』。それから祝宴がはじまった。 *25*ところが、兄は畑にいたが、帰ってきて家に近づくと、音楽や踊りの音が聞えたので、 *26*ひとりの僕を呼んで、『いったい、これは何事なのか』と尋ねた。 *27*僕は答えた、『あなたのご兄弟がお帰りになりました。無事に迎えたというので、父上が肥えた子牛をほふらせなさったのです』。

*28*兄はおこって家にはいろうとしなかったので、父が出てきてなだめると、*29*兄は父にむかって言った、『わたしは何か年もあなたに仕えて、一度でもあなたの言いつけにそむいたことはなかったのに、友だちと楽しむために子やぎ一匹も下さったことはありません。*30*それだのに、遊女どもと一緒になって、あなたの身代を食いつぶしたこのあなたの子が帰ってくると、そのために肥えた子牛をほふりなさいました』。*31*すると父は言った、『子よ、あなたはいつもわたしと一緒にいるし、またわたしのものは全部あなたのものだ。*32*しかし、このあなたの弟は、死んでいたのに生き返り、いなくなっていたのに見つかったのだから、喜び祝うのはあたりまえである』」。

16 イエスはまた、弟子たちに言われた、「ある金持のところにひとりの家令がいたが、彼は主人の財産を浪費していると、告げ口をする者があった。*2*そこで主人は彼を呼んで言った、『あなたについて聞いていることがあるが、あれはどうなのか。あなたの会計報告を出しなさい。もう家令をさせて置くわけにはいかないから』。*3*この家令は心の中で思った、『どうしようか。主人がわたしの職を取り上げようとしている。土を掘るには力がないし、物ごいするのは恥ずかしい。*4*そうだ、わかった。こうしておけば、職をやめさせられる場合、人々がわたしをその家に迎えてくれるだろう』。*5*それから彼は、主人の負債者をひとりびとり呼び出して、初めの人に、『あなたは、わたしの主人にどれだけ負債がありますか』と尋ねた。*6*『油百樽です』と答えた。そこで家令が言った、『ここにあなたの証書がある。すぐそこにすわって、五十樽と書き変えなさい』。*7*次に、もうひとりに、『あなたの負債はどれだけですか』と尋ねると、『麦百石です』と答えた。これに対して、『ここに、あなたの証書があるが、八十石と書き変えなさい』と言った。*8*ところが主人は、この不正な家令の利口なやり方をほめた。この世の子らはその時代に対しては、光の子らよりも利口である。*9*またあなたがたに言うが、不正の富を用いてでも、自分のために友だちをつくるがよい。そうすれば、富が無くなった場合、あなたがたを永遠のすまいに迎えてくれるであろう。*10*小事に忠実な人は、大事にも忠実である。そして、小事に不忠実な人は大事にも不忠実である。*11*だから、もしあなたがたが不正の富について忠実でなかったら、だれが真の富を任せるだろうか。*12*また、もしほかの人のものについて忠実でなかったら、だれがあなたがたのものを与えてくれようか。*13*どの僕でも、ふたりの主人に兼ね仕えることはできない。一方を憎んで他方を愛し、あるいは、一方に親しんで他方をうとんじるからである。あなたがたは、神と富とに兼ね仕えることはできない」。*14*欲の深いパリサイ人たちが、すべてこれらの言葉を聞いて、イエスをあざ笑った。*15*そこで彼らにむかって言われた、「あなたがたは、人々の前で自分を正しいとする人たちである。しかし、神はあなたがたの心をご存じである。人々の間で尊ばれるものは、神のみまえでは忌みきらわれる。*16*律法と預言者とはヨハネの時までのものである。それ以来、神の国が宣べ伝えられ、人々は皆これに突入している。*17*しかし、律法の一画が落ちるよりは、天地の滅びる方が、もっとたやすい。*18*すべて自分の妻を出して他の女をめとる者は、姦淫を行うものであり、また、夫から出された女をめとる者も、姦淫を行うものである。*19*ある金持がいた。彼は紫の衣や細布を着て、毎日ぜいたくに遊び暮していた。*20*ところが、ラザロという貧乏人が全身でき物でおおわれて、この金持の玄関の前にすわり、*21*その食卓から落ちるもので飢えをしのごうと望んでいた。その上、犬がきて彼のでき物をなめていた。*22*この貧乏人がついに死に、御使たちに連れられてアブラハムのふところに送られた。金持も死んで葬られた。*23*そして黄泉にいて苦しみながら、目をあげると、アブラハムとそのふところにいるラザロとが、はるかに見えた。*24*そこで声をあげて言った、『父、アブラハムよ、わたしをあわれんでください。ラザロをおつかわしになって、その指先を水でぬらし、わたしの舌を冷やさせてください。わたしはこの火炎の中で苦しみもだえています』。*25*アブラハムが言った、『子よ、思い出すがよい。

あなたは生前よいものを受け、ラザロの方
は悪いものを受けた。しかし今ここでは、
彼は慰められ、あなたは苦しみもだえてい
る。 *26*そればかりか、わたしたちとあなた
がたとの間には大きな淵がおいてあって、
こちらからあなたがたの方へ渡ろうと思っ
てもできないし、そちらからわたしたちの
方へ越えて来ることもできない』。 *27*そこ
で金持が言った、『父よ、ではお願いしま
す。わたしの父の家へラザロをつかわして
ください。 *28*わたしに五人の兄弟がいま
すので、こんな苦しい所へ来ることがない
ように、彼らに警告していただきたいので
す』。 *29*アブラハムは言った、『彼らには
モーセと預言者とがある。それに聞くがよ
かろう』。 *30*金持が言った、『いえいえ、父
アブラハムよ、もし死人の中からだれかが
兄弟たちのところへ行ってくれましたら、
彼らは悔い改めるでしょう』。 *31*アブラハ
ムは言った、『もし彼らがモーセと預言者
とに耳を傾けないなら、死人の中からよみ
がえってくる者があっても、彼らはその勧
めを聞き入れはしないであろう』」。

17 イエスは弟子たちに言われた、「罪の
誘惑が来ることは避けられない。しかし、
それをきたらせる者は、わざわいである。
*2*これらの小さい者のひとりを罪に誘惑す
るよりは、むしろ、ひきうすを首にかけられ
て海に投げ入れられた方が、ましである。
*3*あなたがたは、自分で注意していなさい
。もしあなたの兄弟が罪を犯すなら、彼を
いさめなさい。そして悔い改めたら、ゆる
してやりなさい。 *4*もしあなたに対して一日
に七度罪を犯し、そして七度『悔い改めま
す』と言ってあなたのところへ帰ってくれ
ば、ゆるしてやるがよい」。 *5*使徒たちは
主に「わたしたちの信仰を増してください」
と言った。 *6*そこで主が言われた、「もし、
からし種一粒ほどの信仰があるなら、この
桑の木に、『抜け出して海に植われ』と言
ったとしても、その言葉どおりになるであろ
う。 *7*あなたがたのうちのだれかに、耕作
か牧畜かをする僕があるとする。その僕が
畑から帰って来たとき、彼に『すぐきて、食
卓につきなさい』と言うだろうか。 *8*かえっ
て、『夕食の用意をしてくれ。そしてわたし
が飲み食いをするあいだ、帯をしめて給
仕をしなさい。そのあとで、飲み食いをす
るがよい』と、言うではないか。 *9*僕が命じ
られたことをしたからといって、主人は彼
に感謝するだろうか。 *10*同様にあなたが
たも、命じられたことを皆してしまったとき
、『わたしたちはふつつかな僕です。すべ
き事をしたに過ぎません』と言いなさい」。
*11*イエスはエルサレムへ行かれるとき、サ
マリヤとガリラヤとの間を通られた。 *12*そし
て、ある村にはいられると、十人のらい病
人に出会われたが、彼らは遠くの方で立
ちとどまり、 *13*声を張りあげて、「イエスさ
ま、わたしたちをあわれんでください」と言
った。 *14*イエスは彼らをごらんになって、「
祭司たちのところに行って、からだを見せ
なさい」と言われた。そして、行く途中で彼
らはきよめられた。 *15*そのうちのひとりは、
自分がいやされたことを知り、大声で神を
ほめたたえながら帰ってきて、 *16*イエスの
足もとにひれ伏して感謝した。これはサマ
リヤ人であった。 *17*イエスは彼にむかって
言われた、「きよめられたのは、十人では
なかったか。ほかの九人は、どこにいるの
か。 *18*神をほめたたえるために帰ってき
たものは、この他国人のほかにはいない
のか」。 *19*それから、その人に言われた、
「立って行きなさい。あなたの信仰があな
たを救ったのだ」。 *20*神の国はいつ来る
のかと、パリサイ人が尋ねたので、イエス
は答えて言われた、「神の国は、見られる
かたちで来るものではない。 *21*また『見よ
、ここにある』『あそこにある』などとも言え
ない。神の国は、実にあなたがたのただ
中にあるのだ」。 *22*それから弟子たちに
言われた、「あなたがたは、人の子の日を
一日でも見たいと願っても見ることができ
ない時が来るであろう。 *23*人々はあなた
がたに、『見よ、あそこに』『見よ、ここに』と
言うだろう。しかし、そちらへ行くな、彼ら
のあとを追うな。 *24*いなずまが天の端から
ひかり出て天の端へとひらめき渡るように
、人の子もその日には同じようであるだろ
う。 *25*しかし、彼はまず多くの苦しみを受
け、またこの時代の人々に捨てられねば
ならない。 *26*そして、ノアの時にあったよ
うに、人の子の時にも同様なことが起るで
あろう。 *27*ノアが箱舟にはいる日まで、人
々は食い、飲み、めとり、とつぎなどしてい

たが、そこへ洪水が襲ってきて、彼らをことごとく滅ぼした。 *28*ロトの時にも同じようなことが起った。人々は食い、飲み、買い、売り、植え、建てなどしていたが、 *29*ロトがソドムから出て行った日に、天から火と硫黄とが降ってきて、彼らをことごとく滅ぼした。 *30*人の子が現れる日も、ちょうどそれと同様であろう。 *31*その日には、屋上にいる者は、自分の持ち物が家の中にあっても、取りにおりるな。畑にいる者も同じように、あとへもどるな。 *32*ロトの妻のことを思い出しなさい。 *33*自分の命を救おうとするものは、それを失い、それを失うものは、保つのである。 *34*あなたがたに言っておく。その夜、ふたりの男が一つ寝床にいるならば、ひとりは取り去られ、他のひとりは残されるであろう。 *35*ふたりの女が一緒にうすをひいているならば、ひとりは取り去られ、他のひとりは残されるであろう。〔 *36*ふたりの男が畑におれば、ひとりは取り去られ、他のひとりは残されるであろう〕」。 *37*弟子たちは「主よ、それはどこであるのですか」と尋ねた。するとイエスは言われた、「死体のある所には、またはげたかが集まるものである」。

18 また、イエスは失望せずに常に祈るべきことを、人々に譬で教えられた。 *2*「ある町に、神を恐れず、人を人とも思わぬ裁判官がいた。 *3*ところが、その同じ町にひとりのやもめがいて、彼のもとにたびたびきて、『どうぞ、わたしを訴える者をさばいて、わたしを守ってください』と願いつづけた。 *4*彼はしばらくの間きき入れないでいたが、そののち、心のうちで考えた、『わたしは神をも恐れず、人を人とも思わないが、 *5*このやもめがわたしに面倒をかけるから、彼女のためになる裁判をしてやろう。そうしたら、絶えずやってきてわたしを悩ますことがなくなるだろう』」。 *6*そこで主は言われた、「この不義な裁判官の言っていることを聞いたか。 *7*まして神は、日夜叫び求める選民のために、正しいさばきをしてくださらずに長い間そのままにしておかれることがあろうか。 *8*あなたがたに言っておくが、神はすみやかにさばいてくださるであろう。しかし、人の子が来るとき、地上に信仰が見られるであろうか」。

*9*自分を義人だと自任して他人を見下げている人たちに対して、イエスはまたこの譬をお話しになった。 *10*「ふたりの人が祈るために宮に上った。そのひとりはパリサイ人であり、もうひとりは取税人であった。 *11*パリサイ人は立って、ひとりでこう祈った、『神よ、わたしはほかの人たちのような貪欲な者、不正な者、姦淫をする者ではなく、また、この取税人のような人間でもないことを感謝します。 *12*わたしは一週に二度断食しており、全収入の十分の一をささげています』。 *13*ところが、取税人は遠く離れて立ち、目を天にむけようともしないで、胸を打ちながら言った、『神様、罪人のわたしをおゆるしください』と。 *14*あなたがたに言っておく。神に義とされて自分の家に帰ったのは、この取税人であって、あのパリサイ人ではなかった。おおよそ、自分を高くする者は低くされ、自分を低くする者は高くされるであろう」。 *15*イエスにさわっていただくために、人々が幼な子らをみもとに連れてきた。ところが、弟子たちはそれを見て、彼らをたしなめた。 *16*するとイエスは幼な子らを呼び寄せて言われた、「幼な子らをわたしのところに来るままにしておきなさい、止めてはならない。神の国はこのような者の国である。 *17*よく聞いておくがよい。だれでも幼な子のように神の国を受けいれる者でなければ、そこにはいることは決してできない」。 *18*また、ある役人がイエスに尋ねた、「よき師よ、何をしたら永遠の生命が受けられましょうか」。 *19*イエスは言われた、「なぜわたしをよき者と言うのか。神ひとりのほかによい者はいない。 *20*いましめはあなたの知っているとおりである、『姦淫するな、殺すな、盗むな、偽証を立てるな、父と母とを敬え』」。 *21*すると彼は言った、「それらのことはみな、小さい時から守っております」。 *22*イエスはこれを聞いて言われた、「あなたのする事がまだ一つ残っている。持っているものをみな売り払って、貧しい人々に分けてやりなさい。そうすれば、天に宝を持つようになろう。そして、わたしに従ってきなさい」。 *23*彼はこの言葉を聞いて非常に悲しんだ。大金持であったからである。 *24*イエスは彼の様子を見て言われた、「財産のある者が神の国

にはいるのはなんとむずかしいことであろう。 *25*富んでいる者が神の国にはいるよりは、らくだが針の穴を通る方が、もっとやさしい」。 *26*これを聞いた人々が、「それでは、だれが救われることができるのですか」と尋ねると、 *27*イエスは言われた、「人にはできない事も、神にはできる」。 *28*ペテロが言った、「ごらんなさい、わたしたちは自分のものを捨てて、あなたに従いました」。 *29*イエスは言われた、「よく聞いておくがよい。だれでも神の国のために、家、妻、兄弟、両親、子を捨てた者は、 *30*必ずこの時代ではその幾倍もを受け、また、きたるべき世では永遠の生命を受けるのである」。 *31*イエスは十二弟子を呼び寄せて言われた、「見よ、わたしたちはエルサレムへ上って行くが、人の子について預言者たちがしるしたことは、すべて成就するであろう。 *32*人の子は異邦人に引きわたされ、あざけられ、はずかしめを受け、つばきをかけられ、 *33*また、むち打たれてから、ついに殺され、そして三日目によみがえるであろう」。 *34*弟子たちには、これらのことが何一つわからなかった。この言葉が彼らに隠されていたので、イエスの言われた事が理解できなかった。 *35*イエスがエリコに近づかれたとき、ある盲人が道ばたにすわって、物ごいをしていた。 *36*群衆が通り過ぎる音を耳にして、彼は何事があるのかと尋ねた。 *37*ところが、ナザレのイエスがお通りなのだと聞かされたので、 *38*声をあげて、「ダビデの子イエスよ、わたしをあわれんで下さい」と言った。 *39*先頭に立つ人々が彼をしかって黙らせようとしたが、彼はますます激しく叫びつづけた、「ダビデの子よ、わたしをあわれんで下さい」。 *40*そこでイエスは立ちどまって、その者を連れて来るように、とお命じになった。彼が近づいたとき、 *41*「わたしに何をしてほしいのか」とおたずねになると、「主よ、見えるようになることです」と答えた。 *42*そこでイエスは言われた、「見えるようになれ。あなたの信仰があなたを救った」。 *43*すると彼は、たちまち見えるようになった。そして神をあがめながらイエスに従って行った。これを見て、人々はみな神をさんびした。

19 さて、イエスはエリコにはいって、その町をお通りになった。 *2*ところが、そこにザアカイという名の人がいた。この人は取税人のかしらで、金持であった。 *3*彼は、イエスがどんな人か見たいと思っていたが、背が低かったので、群衆にさえぎられて見ることができなかった。 *4*それでイエスを見るために、前の方に走って行って、いちじく桑の木に登った。そこを通られるところだったからである。 *5*イエスは、その場所にこられたとき、上を見あげて言われた、「ザアカイよ、急いで下りてきなさい。きょう、あなたの家に泊まることにしているから」。 *6*そこでザアカイは急いでおりてきて、よろこんでイエスを迎え入れた。 *7*人々はみな、これを見てつぶやき、「彼は罪人の家にはいって客となった」と言った。 *8*ザアカイは立って主に言った、「主よ、わたしは誓って自分の財産の半分を貧民に施します。また、もしだれかから不正な取立てをしていましたら、それを四倍にして返します」。 *9*イエスは彼に言われた、「きょう、救がこの家にきた。この人もアブラハムの子なのだから。 *10*人の子がきたのは、失われたものを尋ね出して救うためである」。 *11*人々がこれらの言葉を聞いているときに、イエスはなお一つの譬をお話しになった。それはエルサレムに近づいてこられたし、また人々が神の国はたちまち現れると思っていたためである。 *12*それで言われた、「ある身分の高い人が、王位を受けて帰ってくるために遠い所へ旅立つことになった。 *13*そこで十人の僕を呼び十ミナを渡して言った、『わたしが帰って来るまで、これで商売をしなさい』。 *14*ところが、本国の住民は彼を憎んでいたので、あとから使者をおくって、『この人が王になるのをわれわれは望んでいない』と言わせた。 *15*さて、彼が王位を受けて帰ってきたとき、だれがどんなもうけをしたかを知ろうとして、金を渡しておいた僕たちを呼んでこさせた。 *16*最初の者が進み出て言った、『ご主人様、あなたの一ミナで十ミナをもうけました』。 *17*主人は言った、『よい僕よ、うまくやった。あなたは小さい事に忠実であったから、十の町を支配させる』。 *18*次の者がきて言った、『ご主人様、あなたの一ミナで五ミナをつくりました』。

*19*そこでこの者にも、『では、あなたは五
つの町のかしらになれ』と言った。*20*それ
から、もうひとりの者がきて言った、『ご主
人様、さあ、ここにあなたの一ミナがありま
す。わたしはそれをふくさに包んで、しま
っておきました。*21*あなたはきびしい方で
、おあずけにならなかったものを取りたて
、おまきにならなかったものを刈る人なの
で、おそろしかったのです』。*22*彼に言っ
た、『悪い僕よ、わたしはあなたの言った
その言葉であなたをさばこう。わたしがき
びしくて、あずけなかったものを取りたて、
まかなかったものを刈る人間だと、知って
いるのか。*23*では、なぜわたしの金を銀
行に入れなかったのか。そうすれば、わた
しが帰ってきたとき、その金を利子と一緒
に引き出したであろうに』。*24*そして、そ
ばに立っていた人々に、『その一ミナを彼
から取り上げて、十ミナを持っている者に
与えなさい』と言った。*25*彼らは言った、
『ご主人様、あの人は既に十ミナを持って
います』。*26*『あなたがたに言うが、おお
よそ持っている人には、なお与えられ、持
っていない人からは、持っているものまで
も取り上げられるであろう。*27*しかしわた
しが王になることを好まなかったあの敵ど
もを、ここにひっぱってきて、わたしの前で
打ち殺せ』」。*28*イエスはこれらのことを言
ったのち、先頭に立ち、エルサレムへ上っ
て行かれた。*29*そしてオリブという山に沿
ったベテパゲとベタニヤに近づかれたとき
、ふたりの弟子をつかわして言われた、
30「向こうの村へ行きなさい。そこにはい
ったら、まだだれも乗ったことのないろば
の子がつないであるのを見るであろう。そ
れを解いて、引いてきなさい。*31*もしだれ
かが『なぜ解くのか』と問うたら、『主がお
入り用なのです』と、そう言いなさい」。
*32*そこで、つかわされた者たちが行って
見ると、果して、言われたとおりであった。
*33*彼らが、そのろばの子を解いていると、
その持ち主たちが、「なぜろばの子を解く
のか」と言ったので、*34*「主がお入り用な
のです」と答えた。*35*そしてそれをイエス
のところに引いてきて、その子ろばの上に
自分たちの上着をかけてイエスをお乗せ
した。*36*そして進んで行かれると、人々は
自分たちの上着を道に敷いた。*37*いよい
よオリブ山の下り道あたりに近づかれると
、大ぜいの弟子たちはみな喜んで、彼ら
が見たすべての力あるみわざについて、
声高らかに神をさんびして言いはじめた、
38「イオウオ[xxxv]の御名によってきたる王
に、祝福あれ。天には平和、いと高きとこ
ろには栄光あれ」。*39*ところが、群衆の中
にいたあるパリサイ人たちがイエスに言っ
た、「先生、あなたの弟子たちをおしかり
下さい」。*40*答えて言われた、「あなたが
たに言うが、もしこの人たちが黙れば、石
が叫ぶであろう」。*41*いよいよ都の近くに
きて、それが見えたとき、そのために泣い
て言われた、*42*「もしおまえも、この日に、
平和をもたらす道を知ってさえいたら……
しかし、それは今おまえの目に隠されてい
る。*43*いつかは、敵が周囲に塁を築き、
おまえを取りかこんで、四方から押し迫り
、*44*おまえとその内にいる子らとを地に打
ち倒し、城内の一つの石も他の石の上に
残して置かない日が来るであろう。それは
、おまえが神のおとずれの時を知らない
でいたからである」。*45*それから宮にはい
り、商売人たちを追い出しはじめて、
*46*彼らに言われた、「『わが家は祈の家
であるべきだ』と書いてあるのに、あなた
がたはそれを盗賊の巣にしてしまった」。
*47*イエスは毎日、宮で教えておられた。
祭司長、律法学者また民衆の重立った者
たちはイエスを殺そうと思っていたが、
*48*民衆がみな熱心にイエスに耳を傾け
ていたので、手のくだしようがなかった。

20 ある日、イエスが宮で人々に教え、福
音を宣べておられると、祭司長や律法学
者たちが、長老たちと共に近寄ってきて、
*2*イエスに言った、「何の権威によってこ
れらの事をするのですか。そうする権威を
あなたに与えたのはだれですか、わたし
たちに言ってください」。*3*そこで、イエス
は答えて言われた、「わたしも、ひと言た
ずねよう。それに答えてほしい。*4*ヨハネ
のバプテスマは、天からであったか、人か
らであったか」。*5*彼らは互に論じて言っ
た、「もし天からだと言えば、では、なぜ彼
を信じなかったのか、とイエスは言うだろう
。*6*しかし、もし人からだと言えば、民衆は
みな、ヨハネを預言者だと信じているから

、わたしたちを石で打つだろう」。 *7*それで
彼らは「どこからか、知りません」と答えた。
*8*イエスはこれに対して言われた、「わた
しも何の権威によってこれらの事をするの
か、あなたがたに言うまい」。 *9*そこでイエ
スは次の譬を民衆に語り出された、「ある
人がぶどう園を造って農夫たちに貸し、長
い旅に出た。 *10*季節になったので、農夫
たちのところへ、ひとりの僕を送って、ぶど
う園の収穫の分け前を出させようとした。と
ころが、農夫たちは、その僕を袋だたきに
し、から手で帰らせた。 *11*そこで彼はもう
ひとりの僕を送った。彼らはその僕も袋だ
たきにし、侮辱を加えて、から手で帰らせ
た。 *12*そこで更に三人目の者を送ったが
、彼らはこの者も、傷を負わせて追い出し
た。 *13*ぶどう園の主人は言った、『どうしよ
うか。そうだ、わたしの愛子をつかわそう。
これなら、たぶん敬ってくれるだろう』。
*14*ところが、農夫たちは彼を見ると、『あ
れはあと取りだ。あれを殺してしまおう。そ
うしたら、その財産はわれわれのものになる
のだ』と互に話し合い、 *15*彼をぶどう園
の外に追い出して殺した。そのさい、ぶど
う園の主人は、彼らをどうするだろうか。
*16*彼は出てきて、この農夫たちを殺し、
ぶどう園を他の人々に与えるであろう」。
人々はこれを聞いて、「そんなことがあっ
てはなりません」と言った。 *17*そこで、イエ
スは彼らを見つめて言われた、「それでは
、『家造りらの捨てた石が隅のかしら石に
なった』と書いてあるのは、どういうことか。
*18*すべてその石の上に落ちる者は打ち
砕かれ、それがだれかの上に落ちかかる
なら、その人はこなみじんにされるであろ
う」。 *19*このとき、律法学者たちや祭司長
たちはイエスに手をかけようと思ったが、
民衆を恐れた。いまの譬が自分たちに当
てて語られたのだと、悟ったからである。
*20*そこで、彼らは機会をうかがい、義人を
装うまわし者どもを送って、イエスを総督
の支配と権威とに引き渡すため、その言
葉じりを捕えさせようとした。 *21*彼らは尋
ねて言った、「先生、わたしたちは、あな
たの語り教えられることが正しく、また、あ
なたは分け隔てをなさらず、真理に基い
て神の道を教えておられることを、承知し
ています。 *22*ところで、カイザルに貢を納
めてよいでしょうか、いけないでしょうか」。
*23*イエスは彼らの悪巧みを見破って言わ
れた、 *24*「デナリを見せなさい。それにあ
るのは、だれの肖像、だれの記号なのか」
。「カイザルのです」と、彼らが答えた。
*25*するとイエスは彼らに言われた、「それ
なら、カイザルのものはカイザルに、神の
ものは神に返しなさい」。 *26*そこで彼らは
、民衆の前でイエスの言葉じりを捕えるこ
とができず、その答に驚嘆して、黙ってし
まった。 *27*復活ということはないと言い張
っていたサドカイ人のある者たちが、イエ
スに近寄ってきて質問した、 *28*「先生、モ
ーセは、わたしたちのためにこう書いてい
ます、『もしある人の兄が妻をめとり、子が
なくて死んだなら、弟はこの女をめとって
、兄のために子をもうけねばならない』。
*29*ところで、ここに七人の兄弟がいました
。長男は妻をめとりましたが、子がなくて
死に、 *30*そして次男、三男と、次々に、そ
の女をめとり、 *31*七人とも同様に、子をも
うけずに死にました。 *32*のちに、その女も
死にました。 *33*さて、復活の時には、この
女は七人のうち、だれの妻になるのです
か。七人とも彼女を妻にしたのですが」。
*34*イエスは彼らに言われた、「この世の子
らは、めとったり、とついだりするが、 *35*か
の世にはいって死人からの復活にあずか
るにふさわしい者たちは、めとったり、とつ
いだりすることはない。 *36*彼らは天使に
等しいものであり、また復活にあずかるゆ
えに、神の子でもあるので、もう死ぬことは
あり得ないからである。 *37*死人がよみが
えることは、モーセも柴の篇で、イオウ
オ[xxxvi]を『アブラハムの神、イサクの神、ヤ
コブの神』と呼んで、これを示した。 *38*神
は死んだ者の神ではなく、生きている者
の神である。人はみな神に生きるものだか
らである」。 *39*律法学者のうちのある人々
が答えて言った、「先生、仰せのとおりで
す」。 *40*彼らはそれ以上何もあえて問い
かけようとしなかった。 *41*イエスは彼らに
言われた、「どうして人々はキリストをダビ
デの子だと言うのか。 *42*ダビデ自身が詩
篇の中で言っている、『イオウオ[xxxvii]はわ
が主に仰せになった、 *43*あなたの敵をあ
なたの足台とする時までは、わたしの右に
座していなさい』。 *44*このように、ダビデは

キリストを主と呼んでいる。それなら、どうし
てキリストはダビデの子であろうか」。 45民
衆がみな聞いているとき、イエスは弟子た
ちに言われた、 46「律法学者に気をつけ
なさい。彼らは長い衣を着て歩くのを好み
、広場での敬礼や会堂の上席や宴会の
上座をよろこび、 47やもめたちの家を食
い倒し、見えのために長い祈をする。彼ら
はもっときびしいさばきを受けるであろう」
。

21 イエスは目をあげて、金持たちがさい
せん箱に献金を投げ入れるのを見られ、
2また、ある貧しいやもめが、レプタ二つ
を入れるのを見て 3言われた、「よく聞き
なさい。あの貧しいやもめはだれよりもたく
さん入れたのだ。 4これらの人たちはみな
、ありあまる中から献金を投げ入れたが、
あの婦人は、その乏しい中から、持って
る生活費全部を入れたからである」。 5あ
る人々が、見事な石と奉納物とで宮が飾
られていることを話していたので、イエス
は言われた、 6「あなたがたはこれらのも
のをながめているが、その石一つでもくず
されずに、他の石の上に残ることもなくな
る日が、来るであろう」。 7そこで彼らはた
ずねた、「先生、では、いつそんなことが
起るのでしょうか。またそんなことが起るよ
うな場合には、どんな前兆がありますか」。
8イエスが言われた、「あなたがたは、惑
わされないように気をつけなさい。多くの
者がわたしの名を名のって現れ、自分が
それだとか、時が近づいたとか、言うであ
ろう。彼らについて行くな。 9戦争と騒乱と
のうわさを聞くときにも、おじ恐れるな。こう
したことはまず起らねばならないが、終り
はすぐにはこない」。 10それから彼らに言
われた、「民は民に、国は国に敵対して立
ち上がるであろう。 11また大地震があり、
あちこちに疫病やききんが起り、いろいろ
恐ろしいことや天からの物すごい前兆が
あるであろう。 12しかし、これらのあらゆる
出来事のある前に、人々はあなたがたに
手をかけて迫害をし、会堂や獄に引き渡
し、わたしの名のゆえに王や総督の前に
ひっぱって行くであろう。 13それは、あな
たがたがあかしをする機会となるであろう
。 14だから、どう答弁しようかと、前もって
考えておかないことに心を決めなさい。
15あなたの反対者のだれもが抗弁も否
定もできないような言葉と知恵とを、わたし
が授けるから。 16しかし、あなたがたは両
親、兄弟、親族、友人にさえ裏切られるで
あろう。また、あなたがたの中で殺されるも
のもあろう。 17また、わたしの名のゆえに
すべての人に憎まれるであろう。 18しかし
、あなたがたの髪の毛一すじでも失われ
ることはない。 19あなたがたは耐え忍ぶこ
とによって、自分の魂をかち取るであろう
。 20エルサレムが軍隊に包囲されるのを
見たならば、そのときは、その滅亡が近づ
いたとさとりなさい。 21そのとき、ユダヤに
いる人々は山へ逃げよ。市中にいる者は
、そこから出て行くがよい。また、いなかに
いる者は市内にはいってはいけない。
22それは、聖書にしるされたすべての事
が実現する刑罰の日であるからだ。 23そ
の日には、身重の女と乳飲み子をもつ女
とは、不幸である。地上には大きな苦難が
あり、この民にはみ怒りが臨み、 24彼らは
つるぎの刃に倒れ、また捕えられて諸国
へ引きゆかれるであろう。そしてエルサレ
ムは、異邦人の時期が満ちるまで、彼らに
踏みにじられているであろう。 25また日と
月と星とに、しるしが現れるであろう。そし
て、地上では、諸国民が悩み、海と大波と
のとどろきにおじ惑い、 26人々は世界に
起ろうとする事を思い、恐怖と不安で気絶
するであろう。もろもろの天体が揺り動かさ
れるからである。 27そのとき、大いなる力
と栄光とをもって、人の子が雲に乗って来
るのを、人々は見るであろう。 28これらの
事が起りはじめたら、身を起し頭をもたげ
なさい。あなたがたの救が近づいている
のだから」。 29それから一つの譬を話され
た、「いちじくの木を、またすべての木を見
なさい。 30はや芽を出せば、あなたがた
はそれを見て、夏がすでに近いと、自分
で気づくのである。 31このようにあなたが
たも、これらの事が起るのを見たなら、神
の国が近いのだとさとりなさい。 32よく聞
いておきなさい。これらの事が、ことごとく
起るまでは、この時代は滅びることがない
。 33天地は滅びるであろう。しかしわたし
の言葉は決して滅びることがない。 34あ
なたがたが放縦や、泥酔や、世の煩いの

ために心が鈍っているうちに、思いがけな
いとき、その日がわなのようにあなたがた
を捕えることがないように、よく注意して
なさい。 *35*その日は地の全面に住むす
べての人に臨むのであるから。 *36*これら
の起ろうとしているすべての事からのがれ
て、人の子の前に立つことができるように
、絶えず目をさまして祈っていなさい」。
*37*イエスは昼のあいだは宮で教え、夜に
は出て行ってオリブという山で夜をすごし
ておられた。 *38*民衆はみな、み教を聞こ
うとして、いつも朝早く宮に行き、イエスの
もとに集まった。

22 さて、過越といわれている除酵祭が
近づいた。 *2*祭司長たちや律法学者たち
は、どうかしてイエスを殺そうと計っていた
。民衆を恐れていたからである。 *3*そのと
き、十二弟子のひとりで、イスカリオテと呼
ばれていたユダに、サタンがはいった。
*4*すなわち、彼は祭司長たちや宮守がし
らたちのところへ行って、どうしてイエスを
彼らに渡そうかと、その方法について協議
した。 *5*彼らは喜んで、ユダに金を与える
取決めをした。 *6*ユダはそれを承諾した。
そして、群衆のいないときにイエスを引き
渡そうと、機会をねらっていた。 *7*さて、過
越の小羊をほふるべき除酵祭の日がきた
ので、 *8*イエスはペテロとヨハネとを使い
に出して言われた、「行って、過越の食事
ができるように準備をしなさい」。 *9*彼らは
言った、「どこに準備をしたらよいのです
か」。 *10*イエスは言われた、「市内にはい
ったら、水がめを持っている男に出会うで
あろう。その人がはいる家までついて行っ
て、 *11*その家の主人に言いなさい、『弟
子たちと一緒に過越の食事をする座敷は
どこか、と先生が言っておられます』。
*12*すると、その主人は席の整えられた二
階の広間を見せてくれるから、そこに用意
をしなさい」。 *13*弟子たちは出て行ってみ
ると、イエスが言われたとおりであったの
で、過越の食事の用意をした。 *14*時間に
なったので、イエスは食卓につかれ、使
徒たちも共に席についた。 *15*イエスは彼
らに言われた、「わたしは苦しみを受ける
前に、あなたがたとこの過越の食事をしよ
うと、切に望んでいた。 *16*あなたがたに言
って置くが、神の国で過越が成就する時
までは、わたしは二度と、この過越の食事
をすることはない」。 *17*そして杯を取り、感
謝して言われた、「これを取って、互に分
けて飲め。 *18*あなたがたに言っておくが、
今からのち神の国が来るまでは、わたし
はぶどうの実から造ったものを、いっさい
飲まない」。 *19*またパンを取り、感謝して
これをさき、弟子たちに与えて言われた、
「これは、あなたがたのために与えるわた
しのからだである。わたしを記念するため
、このように行いなさい」。 *20*食事ののち、
杯も同じ様にして言われた、「この杯は、
あなたがたのために流すわたしの血で立
てられる新しい契約である。 *21*しかし、そ
こに、わたしを裏切る者が、わたしと一緒
に食卓に手を置いている。 *22*人の子は定
められたとおりに、去って行く。しかし人の
子を裏切るその人は、わざわいである」。
*23*弟子たちは、自分たちのうちのだれが
、そんな事をしようとしているのだろうと、
互に論じはじめた。 *24*それから、自分た
ちの中でだれがいちばん偉いだろうかと
言って、争論が彼らの間に、起った。
*25*そこでイエスが言われた、「異邦の王
たちはその民の上に君臨し、また、権力を
ふるっている者たちは恩人と呼ばれる。
*26*しかし、あなたがたは、そうであっては
ならない。かえって、あなたがたの中でい
ちばん偉い人はいちばん若い者のように
、指導する人は仕える者のようになるべき
である。 *27*食卓につく人と給仕する者と、
どちらが偉いのか。食卓につく人の方で
はないか。しかし、わたしはあなたがたの
中で、給仕をする者のようにしている。
*28*あなたがたは、わたしの試錬のあいだ
、わたしと一緒に最後まで忍んでくれた人
たちである。 *29*それで、わたしの父が国
の支配をわたしにゆだねてくださったよう
に、わたしもそれをあなたがたにゆだね、
*30*わたしの国で食卓について飲み食い
をさせ、また位に座してイスラエルの十二
の部族をさばかせるであろう。 *31*シモン、
シモン、見よ、サタンはあなたがたを麦の
ようにふるいにかけることを願って許され
た。 *32*しかし、わたしはあなたの信仰がな
くならないように、あなたのために祈った。
それで、あなたが立ち直ったときには、

兄弟たちを力づけてやりなさい」。 *33*シモンが言った、「主よ、わたしは獄にでも、また死に至るまでも、あなたとご一緒に行く覚悟です」。 *34*するとイエスが言われた、「ペテロよ、あなたに言っておく。きょう、鶏が鳴くまでに、あなたは三度わたしを知らないと言うだろう」。 *35*そして彼らに言われた、「わたしが財布も袋もくつも持たせずにあなたがたをつかわしたとき、何かこまったことがあったか」。彼らは、「いいえ、何もありませんでした」と答えた。 *36*そこで言われた、「しかし今は、財布のあるものは、それを持って行け。袋も同様に持って行け。また、つるぎのない者は、自分の上着を売って、それを買うがよい。 *37*あなたがたに言うが、『彼は罪人のひとりに数えられた』としるしてあることは、わたしの身に成しとげられねばならない。そうだ、わたしに係わることは成就している」。
*38*弟子たちが言った、「主よ、ごらんなさい、ここにつるぎが二振りございます」。イエスは言われた、「それでよい」。 *39*イエスは出て、いつものようにオリブ山に行かれると、弟子たちも従って行った。 *40*いつもの場所に着いてから、彼らに言われた、「誘惑に陥らないように祈りなさい」。 *41*そしてご自分は、石を投げてとどくほど離れたところへ退き、ひざまずいて、祈って言われた、 *42*「父よ、みこころならば、どうぞ、この杯をわたしから取りのけてください。しかし、わたしの思いではなく、みこころが成るようにしてください」。 *43*そのとき、御使が天からあらわれてイエスを力づけた。
*44*イエスは苦しみもだえて、ますます切に祈られた。そして、その汗が血のしたたりのように地に落ちた。 *45*祈を終えて立ちあがり、弟子たちのところへ行かれると、彼らが悲しみのはて寝入っているのをごらんになって *46*言われた、「なぜ眠っているのか。誘惑に陥らないように、起きて祈っていなさい」。 *47*イエスがまだそう言っておられるうちに、そこに群衆が現れ、十二弟子のひとりでユダという者が先頭に立って、イエスに接吻しようとして近づいてきた。 *48*そこでイエスは言われた、「ユダ、あなたは接吻をもって人の子を裏切るのか」。 *49*イエスのそばにいた人たちは、事のなりゆきを見て、「主よ、つるぎで切りつけてやりましょうか」と言って、 *50*そのうちのひとりが、祭司長の僕に切りつけ、その右の耳を切り落した。 *51*イエスはこれに対して言われた、「それだけでやめなさい」。そして、その僕の耳に手を触て、おいやしになった。 *52*それから、自分にむかって来る祭司長、宮守がしら、長老たちに対して言われた、「あなたがたは、強盗にむかうように剣や棒を持って出てきたのか。 *53*毎日あなたがたと一緒に宮にいた時には、わたしに手をかけなかった。だが、今はあなたがたの時、また、やみの支配の時である」。 *54*それから人々はイエスを捕え、ひっぱって大祭司の邸宅へつれて行った。ペテロは遠くからついて行った。
*55*人々は中庭のまん中に火をたいて、一緒にすわっていたので、ペテロもその中にすわった。 *56*すると、ある女中が、彼が火のそばにすわっているのを見、彼を見つめて、「この人もイエスと一緒にいました」と言った。 *57*ペテロはそれを打ち消して、「わたしはその人を知らない」と言った。
*58*しばらくして、ほかの人がペテロを見て言った、「あなたもあの仲間のひとりだ」。するとペテロは言った、「いや、それはちがう」。 *59*約一時間たってから、またほかの者が言い張った、「たしかにこの人もイエスと一緒だった。この人もガリラヤ人なのだから」。 *60*ペテロは言った、「あなたの言っていることは、わたしにわからない」。すると、彼がまだ言い終らぬうちに、たちまち、鶏が鳴いた。 *61*主は振りむいてペテロを見つめられた。そのときペテロは、「きょう、鶏が鳴く前に、三度わたしを知らないと言うであろう」と言われた主のお言葉を思い出した。 *62*そして外へ出て、激しく泣いた。 *63*イエスを監視していた人たちは、イエスを嘲弄し、打ちたたき、 *64*目かくしをして、「言いあててみよ。打ったのは、だれか」ときいたりした。 *65*そのほか、いろいろな事を言って、イエスを愚弄した。 *66*夜が明けたとき、人民の長老、祭司長たち、律法学者たちが集まり、イエスを議会に引き出して言った、 *67*「あなたがキリストなら、そう言ってもらいたい」。イエスは言われた、「わたしが言っても、あなたがたは信じないだろう。 *68*また、わたしがたずねても、答えないだろう。 *69*しかし、

人の子は今からのち、全能の神の右に座
するであろう」。 *70*彼らは言った、「では、
あなたは神の子なのか」。イエスは言われ
た、「あなたがたの言うとおりである」。
*71*すると彼らは言った、「これ以上、なん
の証拠がいるか。われわれは直接彼の口
から聞いたのだから」。

23 群衆はみな立ちあがって、イエスをピ
ラトのところへ連れて行った。 *2*そして訴え
出て言った、「わたしたちは、この人が国
民を惑わし、貢をカイザルに納めることを
禁じ、また自分こそ王なるキリストだと、と
なえているところを目撃しました」。 *3*ピラト
はイエスに尋ねた、「あなたがユダヤ人の
王であるか」。イエスは「そのとおりである」
とお答えになった。 *4*そこでピラトは祭司
長たちと群衆とにむかって言った、「わた
しはこの人になんの罪もみとめない」。 *5*と
ころが彼らは、ますます言いつのってやま
なかった、「彼は、ガリラヤからはじめてこ
の所まで、ユダヤ全国にわたって教え、
民衆を煽動しているのです」。 *6*ピラトはこ
れを聞いて、この人はガリラヤ人かと尋ね
、 *7*そしてヘロデの支配下のものであるこ
とを確かめたので、ちょうどこのころ、ヘロ
デがエルサレムにいたのをさいわい、そち
らへイエスを送りとどけた。 *8*ヘロデはイエ
スを見て非常に喜んだ。それは、かねてイ
エスのことを聞いていたので、会って見た
いと長いあいだ思っていたし、またイエス
が何か奇跡を行うのを見たいと望んでい
たからである。 *9*それで、いろいろと質問
を試みたが、イエスは何もお答えにならな
かった。 *10*祭司長たちと律法学者たちと
は立って、激しい語調でイエスを訴えた。
*11*またヘロデはその兵卒どもと一緒になっ
て、イエスを侮辱したり嘲弄したりしたあ
げく、はなやかな着物を着せてピラトへ送
りかえした。 *12*ヘロデとピラトとは以前は
互に敵視していたが、この日に親しい仲
になった。 *13*ピラトは、祭司長たちと役人
たちと民衆とを、呼び集めて言った、
14「おまえたちは、この人を民衆を惑わ
すものとしてわたしのところに連れてきた
ので、おまえたちの面前でしらべたが、訴
え出ているような罪は、この人に少しもみ
とめられなかった。 *15*ヘロデもまたみとめ
なかった。現に彼はイエスをわれわれに
送りかえしてきた。この人はなんら死に当
るようなことはしていないのである。 *16*だ
から、彼をむち打ってから、ゆるしてやるこ
とにしよう」。〔 *17*祭ごとにピラトがひとりの
囚人をゆるしてやることになっていた。〕
*18*ところが、彼らはいっせいに叫んで言
った、「その人を殺せ。バラバをゆるしてく
れ」。 *19*このバラバは、都で起った暴動と
殺人とのかどで、獄に投ぜられていた者
である。 *20*ピラトはイエスをゆるしてやりた
いと思って、もう一度かれらに呼びかけた
。 *21*しかし彼らは、わめきたてて「十字架
につけよ、彼を十字架につけよ」と言いつ
づけた。 *22*ピラトは三度目に彼らにむか
って言った、「では、この人は、いったい、
どんな悪事をしたのか。彼には死に当る
罪は全くみとめられなかった。だから、む
ち打ってから彼をゆるしてやることにしよう
」。 *23*ところが、彼らは大声をあげて詰め
寄り、イエスを十字架につけるように要求
した。そして、その声が勝った。 *24*ピラト
はついに彼らの願いどおりにすることに決
定した。 *25*そして、暴動と殺人とのかどで
獄に投ぜられた者の方を、彼らの要求に
応じてゆるしてやり、イエスの方は彼らに
引き渡して、その意のままにまかせた。
*26*彼らがイエスをひいてゆく途中、シモン
というクレネ人が郊外から出てきたのを捕
えて十字架を負わせ、それをになってイ
エスのあとから行かせた。 *27*大ぜいの民
衆と、悲しみ嘆いてやまない女たちの群
れとが、イエスに従って行った。 *28*イエス
は女たちの方に振りむいて言われた、「エ
ルサレムの娘たちよ、わたしのために泣く
な。むしろ、あなたがた自身のため、また
自分の子供たちのために泣くがよい。
29『不妊の女と子を産まなかった胎と、ふ
くませなかった乳房とは、さいわいだ』と言
う日が、いまに来る。 *30*そのとき、人々は
山にむかって、われわれの上に倒れかか
れと言い、また丘にむかって、われわれに
おおいかぶされと言い出すであろう。
*31*もし、生木でさえもそうされるなら、枯
木はどうされることであろう」。 *32*さて、イエ
スと共に刑を受けるために、ほかにふたり
の犯罪人も引かれていった。 *33*されこう
べと呼ばれている所に着くと、人々はそこ

でイエスを十字架につけ、犯罪人たちも、
ひとりは右に、ひとりは左に、十字架につ
けた。 34そのとき、イエスは言われた、
「父よ、彼らをおゆるしください。彼らは何
をしているのか、わからずにいるのです」。
人々はイエスの着物をくじ引きで分け合っ
た。 35民衆は立って見ていた。役人たち
もあざ笑って言った、「彼は他人を救った
。もし彼が神のキリスト、選ばれた者である
なら、自分自身を救うがよい」。 36兵卒ど
ももイエスをののしり、近寄ってきて酢い
ぶどう酒をさし出して言った、 37「あなた
がユダヤ人の王なら、自分を救いなさい」
。 38イエスの上には、「これはユダヤ人の
王」と書いた札がかけてあった。 39十字
架にかけられた犯罪人のひとりが、「あな
たはキリストではないか。それなら、自分を
救い、またわれわれも救ってみよ」と、イエ
スに悪口を言いつづけた。 40もうひとりは
、それをたしなめて言った、「おまえは同
じ刑を受けていながら、神を恐れないのの
か。 41お互は自分のやった事のむくいを
受けているのだから、こうなったのは当然
だ。しかし、このかたは何も悪いことをした
のではない」。 42そして言った、「イエスよ
、あなたが御国の権威をもっておいでに
なる時には、わたしを思い出してください」
。 43イエスは言われた、「よく言っておく
が、あなたはきょう、わたしと一緒にパラダ
イスにいるであろう」。 44時はもう昼の十
二時ごろであったが、太陽は光を失い、
全地は暗くなって、三時に及んだ。 45そ
して聖所の幕がまん中から裂けた。 46そ
のとき、イエスは声高く叫んで言われた、
「父よ、わたしの霊をみ手にゆだねます」。
こう言ってついに息を引きとられた。 47百
卒長はこの有様を見て、神をあがめ、「ほ
んとうに、この人は正しい人であった」と言
った。 48この光景を見に集まってきた群
衆も、これらの出来事を見て、みな胸を打
ちながら帰って行った。 49すべてイエス
を知っていた者や、ガリラヤから従ってき
た女たちも、遠い所に立って、これらのこ
とを見ていた。 50ここに、ヨセフという議員
がいたが、善良で正しい人であった。
51この人はユダヤの町アリマタヤの出身
で、神の国を待ち望んでいた。彼は議会
の議決や行動には賛成していなかった。
52この人がピラトのところへ行って、イエ
スのからだの引取り方を願い出て、 53そ
れを取りおろして亜麻布に包み、まだだ
れも葬ったことのない、岩を掘って造った
墓に納めた。 54この日は準備の日であっ
て、安息日が始まりかけていた。 55イエス
と一緒にガリラヤからきた女たちは、あと
についてきて、その墓を見、またイエスの
からだが納められる様子を見とどけた。
56そして帰って、香料と香油とを用意し
た。それからおきてに従って安息日を休
んだ。

24 週の初めの日、夜明け前に、女たち
は用意しておいた香料を携えて、墓に行
った。 2ところが、石が墓からころがしてあ
るので、 3中にはいってみると、主イエス
のからだが見当らなかった。 4そのため途
方にくれていると、見よ、輝いた衣を着た
ふたりの者が、彼らに現れた。 5女たちは
驚き恐れて、顔を地に伏せていると、この
ふたりの者が言った、「あなたがたは、な
ぜ生きた方を死人の中にたずねているの
か。 6そのかたは、ここにはおられない。よ
みがえられたのだ。まだガリラヤにおられ
たとき、あなたがたにお話しになったこと
を思い出しなさい。 7すなわち、人の子は
必ず罪人らの手に渡され、十字架につけ
られ、そして三日目によみがえる、と仰せ
られたではないか」。 8そこで女たちはそ
の言葉を思い出し、 9墓から帰って、これ
らいっさいのことを、十一弟子や、その他
みんなの人に報告した。 10この女たちと
いうのは、マグダラのマリヤ、ヨハンナ、お
よびヤコブの母マリヤであった。彼女たち
と一緒にいたほかの女たちも、このことを
使徒たちに話した。 11ところが、使徒たち
には、それが愚かな話のように思われて、
それを信じなかった。〔 12ペテロは立って
墓へ走って行き、かがんで中を見ると、亜
麻布だけがそこにあったので、事の次第
を不思議に思いながら帰って行った。〕
13この日、ふたりの弟子が、エルサレム
から七マイルばかり離れたエマオという村
へ行きながら、 14このいっさいの出来事
について互に語り合っていた。 15語り合
い論じ合っていると、イエスご自身が近づ
いてきて、彼らと一緒に歩いて行かれた。

*16*しかし、彼らの目がさえぎられて、イエ
スを認めることができなかった。 *17*イエス
は彼らに言われた、「歩きながら互に語り
合っているその話は、なんのことなのか」。
彼らは悲しそうな顔をして立ちどまった。
*18*そのひとりのクレオパという者が、答え
て言った、「あなたはエルサレムに泊まっ
ていながら、あなただけが、この都でこの
ごろ起ったことをご存じないのですか」。
19「それは、どんなことか」と言われると、
彼らは言った、「ナザレのイエスのことで
す。あのかたは、神とすべての民衆との前
で、わざにも言葉にも力ある預言者でした
が、 *20*祭司長たちや役人たちが、死刑に
処するために引き渡し、十字架につけた
のです。 *21*わたしたちは、イスラエルを救
うのはこの人であろうと、望みをかけてい
ました。しかもその上に、この事が起って
から、きょうが三日目なのです。 *22*ところ
が、わたしたちの仲間である数人の女が、
わたしたちを驚かせました。というのは、
彼らが朝早く墓に行きますと、 *23*イエスの
からだが見当らないので、帰ってきました
が、そのとき御使が現れて、『イエスは生
きておられる』と告げたと申すのです。
*24*それで、わたしたちの仲間が数人、墓
に行って見ますと、果して女たちが言った
とおりで、イエスは見当りませんでした」。
*25*そこでイエスが言われた、「ああ、愚か
で心のにぶいため、預言者たちが説いた
すべての事を信じられない者たちよ。
*26*キリストは必ず、これらの苦難を受けて
、その栄光に入るはずではなかったのか」
。 *27*こう言って、モーセやすべての預言
者からはじめて、聖書全体にわたり、ご自
身についてしるしてある事どもを、説きあ
かされた。 *28*それから、彼らは行こうとし
ていた村に近づいたが、イエスがなお先
へ進み行かれる様子であった。 *29*そこで
、しいて引き止めて言った、「わたしたちと
一緒にお泊まり下さい。もう夕暮になって
おり、日もはや傾いています」。イエスは、
彼らと共に泊まるために、家にはいられた
。 *30*一緒に食卓につかれたとき、パンを
取り、祝福してさき、彼らに渡しておられる
うちに、 *31*彼らの目が開けて、それがイエ
スであることがわかった。すると、み姿が
見えなくなった。 *32*彼らは互に言った、
「道々お話しになったとき、また聖書を説
き明してくださったとき、お互の心が内に
燃えたではないか」。 *33*そして、すぐに立
ってエルサレムに帰って見ると、十一弟子
とその仲間が集まっていて、 *34*「主は、ほ
んとうによみがえって、シモンに現れなさ
った」と言っていた。 *35*そこでふたりの者
は、途中であったことや、パンをおさきに
なる様子でイエスだとわかったことなどを
話した。 *36*こう話していると、イエスが彼ら
の中にお立ちになった。〔そして「やすか
れ」と言われた。〕 *37*彼らは恐れ驚いて、
霊を見ているのだと思った。 *38*そこでイエ
スが言われた、「なぜおじ惑っているのか
。どうして心に疑いを起すのか。 *39*わたし
の手や足を見なさい。まさしくわたしなの
だ。さわって見なさい。霊には肉や骨はな
いが、あなたがたが見るとおり、わたしに
はあるのだ」。〔 *40*こう言って、手と足とを
お見せになった。〕 *41*彼らは喜びのあまり
、まだ信じられないで不思議に思っている
と、イエスが「ここに何か食物があるか」と
言われた。 *42*彼らが焼いた魚の一きれを
さしあげると、 *43*イエスはそれを取って、
みんなの前で食べられた。 *44*それから彼
らに対して言われた、「わたしが以前あな
たがたと一緒にいた時分に話して聞かせ
た言葉は、こうであった。すなわち、モー
セの律法と預言書と詩篇とに、わたしに
ついて書いてあることは、必ずことごとく成就
する」。 *45*そこでイエスは、聖書を悟らせ
るために彼らの心を開いて *46*言われた、
「こう、しるしてある。キリストは苦しみを受
けて、三日目に死人の中からよみがえる。
*47*そして、その名によって罪のゆるしを得
させる悔改めが、エルサレムからはじまっ
て、もろもろの国民に宣べ伝えられる。
*48*あなたがたは、これらの事の証人であ
る。 *49*見よ、わたしの父が約束されたもの
を、あなたがたに贈る。だから、上から力
を授けられるまでは、あなたがたは都にと
どまっていなさい」。 *50*それから、イエスは
彼らをベタニヤの近くまで連れて行き、手
をあげて彼らを祝福された。 *51*祝福して
おられるうちに、彼らを離れて、〔天にあげ
られた。〕 *52*彼らは〔イエスを拝し、〕非常
な喜びをもってエルサレムに帰り、 *53*絶
えず宮にいて、神をほめたたえていた。

[i] Hutter (1599), Fry (1817), Delitzsch (1877), UBS (1979) を参照。申命記4章1、40節、6章1節、エゼキエル書20章19節とも比較せよ。

[ii] 出エジプト記30章7、8節と比較せよ。

[iii] Fry (1817), Delitzsch (1877), Salkinson (1885), UBS (1979) を参照。旧約聖書では、「イオウオの使」と言う表現は出エジプト記3章2節など52カ所で使用され、「主の使」と言う表現が一度も使用されない。

[iv] Fry (1817), Delitzsch (1877), Salkinson (1885), UBS (1979) を参照。ヨシュア記3章7節、民数記6章2～13節、エレミア書1章5節とも比較せよ。

[v] Fry (1817), Delitzsch (1877), Salkinson (1885), UBS (1979) を参照。マラキ書3章1節、4章5、6節と比較せよ。イザヤ書40章3節、ダニエル書12章3節、詩編106編47節とも比較せよ。

[vi] マラキ書3章1節、4章5、6節と比較せよ.

[vii] 創世記30章22～24節と比較せよ.

[viii] Fry (1817), Delitzsch (1877), Salkinson (1885), UBS (1979) を参照。士師記6章12節、ルツ記2章4節とも比較せよ。

[ix] イザヤ書8章1節、イザヤ書9章6節と比較せよ.

[x] Fry (1817), Delitzsch (1877), Salkinson (1885), UBS (1979) を参照。サムエル記下7章26節、詩編116編16節とも比較せよ。

[xi] Fry (1817), Delitzsch (1877), Salkinson (1885), UBS (1979) を参照。歴代志下20章20節、創世記15章6節とも比較せよ。

[xii] サムエル記上2章1～10節と比較せよ.

[xiii] Fry (1817), Delitzsch (1877), Salkinson (1885), UBS (1979) を参照。詩編113編2、9節、119編156節、ルツ記2章20節、4章14～17節とも比較せよ。

[xiv] Fry (1817), Delitzsch (1877), Salkinson (1885), UBS (1979) を参照。列王紀上18章46節、エゼキエル書1章3節、詩編80編17節、89編21節とも比較せよ。

[xv] Fry (1817), Stolz (1820), Delitzsch (1877), Salkinson (1885), UBS (1979) を参照。列王紀上1章48節、詩編41編13節、72編18節、106編48節とも比較せよ。

[xvi] マラキ書3章1節と比較せよ.

[xvii] Hutter (1599), Fry (1817), Delitzsch (1877), UBS (1979) を参照。旧約聖書では、「イオウオの使」と言う表現は出エジプト記3章2節など52カ所で使用され、「主の使」と言う表現が一度も使用されない。

[xviii] Fry (1817), Delitzsch (1877), Salkinson (1885), UBS (1979) を参照。イザヤ書40章5節、60章1節、35章2節、エゼキエル書3章23節とも比較せよ.

[xix] Fry (1817), Delitzsch (1877), Salkinson (1885), UBS (1979) を参照。エレミア書33章2、3節、42章4節、詩編111編2節とも比較せよ。

[xx] 出エジプト記13章2、15節 、レビ記12章1～4節、民数記18章15節と比較せよ。

[xxi] 出エジプト記13章2、15節と比較せよ。

[xxii] 民数記18章15節と比較せよ。

[xxiii] レビ記12章6～8節と比較せよ。

[xxiv] Fry (1817), Delitzsch (1877), Salkinson (1885), UBS (1979) を参照。詩編2章2節、132編17節、イザヤ書7章14節、9章1～6節、11章1、2節、エゼキエル書34章23節、アモス書3章7節、詩編25編14節とも比較せよ。

[xxv] 本文の異文:「イオウオに感謝をささげ」。Hutter (1599), Fry (1817), Delitzsch (1877) を参照。歴代志下29章10節、詩編72章18、19節とも比較せよ。

[xxvi] Fry (1817), Delitzsch (1877), Salkinson (1885), UBS (1979) を参照。申命記4章3節、出エジプト記13章2、15節、レビ記12章1～8節、民数記18章15節とも比較せよ。

[xxvii] イザヤ書40章3～5節と比較せよ.

[xxviii] 申命記6章13節と比較せよ。

[xxix] 申命記6章16節と比較せよ。

[xxx] イザヤ書61章1節と比較せよ.

[xxxi] イザヤ書61章2節と比較せよ。レビ記25章10節とも比較せよ。

[xxxii] Fry (1817), Delitzsch (1877), Salkinson (1885), UBS (1979) を参照。ミカ書5章3節、民数記14章17節、イザヤ書52章10節 とも比較せよ。

[xxxiii] 申命記6章5節と比較せよ。

[xxxiv] 詩編118編26節と比較せよ。

[xxxv] 詩編118編26節と比較せよ。

[xxxvi] 出エジプト記3章4～6節と比較せよ。

[xxxvii] 詩編110編1節と比較せよ。

1 初めに言があった。言は神と共にあった。言は神であった。 *2*この言は初めに神
と共にあった。 *3*すべてのものは、これに
よってできた。できたもののうち、一つとし
てこれによらないものはなかった。 *4*この
言に命があった。そしてこの命は人の光
であった。 *5*光はやみの中に輝いている。
そして、やみはこれに勝たなかった。 *6*こ
こにひとりの人があって、神からつかわさ
れていた。その名をヨハネと言った。 *7*こ
の人はあかしのためにきた。光について
あかしをし、彼によってすべての人が信じ
るためである。 *8*彼は光ではなく、ただ、
光についてあかしをするためにきたので
ある。 *9*すべての人を照すまことの光があ
って、世にきた。 *10*彼は世にいた。そして
、世は彼によってできたのであるが、世は
彼を知らずにいた。 *11*彼は自分のところ
にきたのに、自分の民は彼を受けいれな
かった。 *12*しかし、彼を受けいれた者、す
なわち、その名を信じた人々には、彼は
神の子となる力を与えたのである。 *13*そ
れらの人は、血すじによらず、肉の欲によ
らず、また、人の欲にもよらず、ただ神に
よって生れたのである。 *14*そして言は肉
体となり、わたしたちのうちに宿った。わた
したちはその栄光を見た。それは父のひ
とり子としての栄光であって、めぐみとま
こととに満ちていた。 *15*ヨハネは彼につい
てあかしをし、叫んで言った、「『わたしの
あとに来るかたは、わたしよりもすぐれた
かたである。わたしよりも先におられたか
らである』とわたしが言ったのは、この人の
ことである」。 *16*わたしたちすべての者は
、その満ち満ちているものの中から受けて
、めぐみにめぐみを加えられた。 *17*律法
はモーセをとおして与えられ、めぐみとま
こととは、イエス・キリストをとおしてきたの
である。 *18*神を見た者はまだひとりもいな
い。ただ父のふところにいるひとり子なる
神だけが、神をあらわしたのである。 *19*さ
て、ユダヤ人たちが、エルサレムから祭司
たちやレビ人たちをヨハネのもとにつかわ
して、「あなたはどなたですか」と問わせた
が、その時ヨハネが立てたあかしは、こう
であった。 *20*すなわち、彼は告白して否
まず、「わたしはキリストではない」と告白し
た。 *21*そこで、彼らは問うた、「それでは、
どなたなのですか、あなたはエリヤですか
」。彼は「いや、そうではない」と言った。
「では、あの預言者ですか」。彼は「いいえ
」と答えた。 *22*そこで、彼らは言った、「あ
なたはどなたですか。わたしたちをつかわ
した人々に、答を持って行けるようにして
いただきたい。あなた自身をだれだと考え
るのですか」。 *23*彼は言った、「わたしは
、預言者イザヤが言ったように、『イオウオ[i]
の道をまっすぐにせよと荒野で呼ばわる
者の声』である」。 *24*つかわされた人たち
は、パリサイ人であった。 *25*彼らはヨハネ
に問うて言った、「では、あなたがキリスト
でもエリヤでもまたあの預言者でもないの
なら、なぜバプテスマを授けるのですか」
。 *26*ヨハネは彼らに答えて言った、「わた
しは水でバプテスマを授けるが、あなたが
たの知らないかたが、あなたがたの中に
立っておられる。 *27*それがわたしのあとに
あとにおいでになる方であって、わたしは
その人のくつのひもを解く値うちもない」。
*28*これらのことは、ヨハネがバプテスマを
授けていたヨルダンの向こうのベタニヤで
あったのである。 *29*その翌日、ヨハネはイ
エスが自分の方にこられるのを見て言っ
た、「見よ、世の罪を取り除く神の小羊。
30『わたしのあとに来るかたは、わたしよ
りもすぐれたかたである。わたしよりも先に
おられたからである』とわたしが言ったの
は、この人のことである。 *31*わたしはこの
かたを知らなかった。しかし、このかたがイ
スラエルに現れてくださるそのことのため
に、わたしはきて、水でバプテスマを授け
ているのである」。 *32*ヨハネはまたあかし
をして言った、「わたしは、御霊がはとのよ
うに天から下って、彼の上にとどまるのを
見た。 *33*わたしはこの人を知らなかった。
しかし、水でバプテスマを授けるようにと、
わたしをおつかわしになったそのかたが、
わたしに言われた、『ある人の上に、御霊
が下ってとどまるのを見たら、その人こそ
は、御霊によってバプテスマを授けるかた
である』。 *34*わたしはそれを見たので、こ
のかたこそ神の子であると、あかしをした
のである」。 *35*その翌日、ヨハネはまたふ
たりの弟子たちと一緒に立っていたが、
*36*イエスが歩いておられるのに目をとめ
て言った、「見よ、神の小羊」。 *37*そのふ

たりの弟子は、ヨハネがそう言うのを聞い
て、イエスについて行った。 *38*イエスはふ
り向き、彼らがついてくるのを見て言われ
た、「何か願いがあるのか」。彼らは言った
、「ラビ（訳して言えば、先生）どこにおとま
りなのですか」。 *39*イエスは彼らに言われ
た、「きてごらんなさい。そうしたらわかるだ
ろう」。そこで彼らはついて行って、イエス
の泊まっておられる所を見た。そして、その
日はイエスのところに泊まった。時は午
後四時ごろであった。 *40*ヨハネから聞い
て、イエスについて行ったふたりのうちの
ひとりは、シモン・ペテロの兄弟アンデレ
であった。 *41*彼はまず自分の兄弟シモン
に出会って言った、「わたしたちはメシヤ
（訳せば、キリスト）にいま出会った」。
*42*そしてシモンをイエスのもとにつれてき
た。イエスは彼に目をとめて言われた、
「あなたはヨハネの子シモンである。あな
たをケパ（訳せば、ペテロ）と呼ぶことにす
る」。 *43*その翌日、イエスはガリラヤに行こ
うとされたが、ピリポに出会って言われた、
「わたしに従ってきなさい」。 *44*ピリポは、
アンデレとペテロとの町ベツサイダの人で
あった。 *45*このピリポがナタナエルに出会
って言った、「わたしたちは、モーセが律
法の中にしるしており、預言者たちがしる
していた人、ヨセフの子、ナザレのイエス
にいま出会った」。 *46*ナタナエルは彼に
言った、「ナザレから、なんのよいものが
出ようか」。ピリポは彼に言った、「きて見
なさい」。 *47*イエスはナタナエルが自分の
方に来るのを見て、彼について言われた
、「見よ、あの人こそ、ほんとうのイスラエル
人である。その心には偽りがない」。 *48*ナ
タナエルは言った、「どうしてわたしをご存
じなのですか」。イエスは答えて言われた
、「ピリポがあなたを呼ぶ前に、わたしはあ
なたが、いちじくの木の下にいるのを見た
」。 *49*ナタナエルは答えた、「先生、あな
たは神の子です。あなたはイスラエルの
王です」。 *50*イエスは答えて言われた、
「あなたが、いちじくの木の下にいるのを
見たと、わたしが言ったので信じるのか。
これよりも、もっと大きなことを、あなたは見
るであろう」。 *51*また言われた、「よくよくあ
なたがたに言っておく。天が開けて、神の
御使たちが人の子の上に上り下りするの
を、あなたがたは見るであろう」。

2 三日目にガリラヤのカナに婚礼があっ
て、イエスの母がそこにいた。 *2*イエスも弟
子たちも、その婚礼に招かれた。 *3*ぶどう
酒がなくなったので、母はイエスに言った
、「ぶどう酒がなくなってしまいました」。
*4*イエスは母に言われた、「婦人よ、あな
たは、わたしと、なんの係わりがありますか
。わたしの時は、まだきていません」。 *5*母
は僕たちに言った、「このかたが、あなた
がたに言いつけることは、なんでもして下
さい」。 *6*そこには、ユダヤ人のきよめのな
らわしに従って、それぞれ四、五斗もはい
る石の水がめが、六つ置いてあった。 *7*イ
エスは彼らに「かめに水をいっぱい入れ
なさい」と言われたので、彼らは口のところ
までいっぱいに入れた。 *8*そこで彼らに言
われた、「さあ、くんで、料理がしらのとこ
ろに持って行きなさい」。すると、彼らは持
って行った。 *9*料理がしらは、ぶどう酒に
なった水をなめてみたが、それがどこから
きたのか知らなかったので、（水をくんだ
僕たちは知っていた）花婿を呼んで *10*言
った、「どんな人でも、初めによいぶどう酒
を出して、酔いがまわったころにわるいの
を出すものだ。それだのに、あなたはよい
ぶどう酒を今までとっておかれました」。
*11*イエスは、この最初のしるしをガリラヤ
のカナで行い、その栄光を現された。そし
て弟子たちはイエスを信じた。 *12*そのの
ち、イエスは、その母、兄弟たち、弟子た
ちと一緒に、カペナウムに下って、幾日か
そこにとどまられた。 *13*さて、ユダヤ人の
過越の祭が近づいたので、イエスはエル
サレムに上られた。 *14*そして牛、羊、はと
を売る者や両替する者などが宮の庭にす
わり込んでいるのをごらんになって、 *15*な
わでむちを造り、羊も牛もみな宮から追い
だし、両替人の金を散らし、その台をひっ
くりかえし、 *16*はとを売る人々には「これら
のものを持って、ここから出て行け。わた
しの父の家を商売の家とするな」と言われ
た。 *17*弟子たちは、「あなたの家を思う熱
心が、わたしを食いつくすであろう」と書い
てあることを思い出した。 *18*そこで、ユダ
ヤ人はイエスに言った、「こんなことをする

からには、どんなしるしをわたしたちに見
せてくれますか」。 *19*イエスは彼らに答え
て言われた、「この神殿をこわしたら、わた
しは三日のうちに、それを起すであろう」。
*20*そこで、ユダヤ人たちは言った、「この
神殿を建てるのには、四十六年もかかって
います。それだのに、あなたは三日のうち
に、それを建てるのですか」。 *21*イエス
は自分のからだである神殿のことを言わ
れたのである。 *22*それで、イエスが死人
の中からよみがえったとき、弟子たちはイ
エスがこう言われたことを思い出して、聖
書とイエスのこの言葉とを信じた。 *23*過越
の祭の間、イエスがエルサレムに滞在して
おられたとき、多くの人々は、その行われ
たしるしを見て、イエスの名を信じた。
*24*しかしイエスご自身は、彼らに自分を
お任せにならなかった。それは、すべての
人を知っておられ、 *25*また人についてあ
かしする者を、必要とされなかったからで
ある。それは、ご自身人の心の中にあることを
知っておられたからである。

3 パリサイ人のひとりで、その名をニコデ
モというユダヤ人の指導者があった。 *2*この
人が夜イエスのもとにきて言った、「先
生、わたしたちはあなたが神からこられた
教師であることを知っています。神がご一
緒でないなら、あなたがなさっておられる
ようなしるしは、だれにもできはしません」
。 *3*イエスは答えて言われた、「よくよくあ
なたに言っておく。だれでも新しく生れな
ければ、神の国を見ることはできない」。
*4*ニコデモは言った、「人は年をとってか
ら生れることが、どうしてできますか。もう
一度、母の胎にはいって生れることができ
ましょうか」。 *5*イエスは答えられた、「よく
よくあなたに言っておく。だれでも、水と霊
とから生れなければ、神の国にはいること
はできない。 *6*肉から生れる者は肉であり
、霊から生れる者は霊である。 *7*あなたが
たは新しく生れなければならないと、わた
しが言ったからとて、不思議に思うには及
ばない。 *8*風は思いのままに吹く。あなた
はその音を聞くが、それがどこからきて、
どこへ行くかは知らない。霊から生れる者
もみな、それと同じである」。 *9*ニコデモは
イエスに答えて言った、「どうして、そんな
ことがあり得ましょうか」。 *10*イエスは彼に
答えて言われた、「あなたはイスラエルの
教師でありながら、これぐらいのことがわ
からないのか。 *11*よくよく言っておく。わた
したちは自分の知っていることを語り、ま
た自分の見たことをあかししているのに、
あなたがたはわたしたちのあかしを受けい
れない。 *12*わたしが地上のことを語って
いるのに、あなたがたが信じないならば、
天上のことを語った場合、どうしてそれを
信じるだろうか。 *13*天から下ってきた者、
すなわち人の子のほかには、だれも天に
上った者はない。 *14*そして、ちょうどモー
セが荒野でへびを上げたように、人の子
もまた上げられなければならない。 *15*そ
れは彼を信じる者が、すべて永遠の命を
得るためである」。 *16*神はそのひとり子を
賜わったほどに、この世を愛して下さった
。それは御子を信じる者がひとりも滅びな
いで、永遠の命を得るためである。 *17*神
が御子を世につかわされたのは、世をさ
ばくためではなく、御子によって、この世
が救われるためである。 *18*彼を信じる者
は、さばかれない。信じない者は、すでに
さばかれている。神のひとり子の名を信じ
ることをしないからである。 *19*そのさばき
というのは、光がこの世にきたのに、人々は
そのおこないが悪いために、光よりもやみ
の方を愛したことである。 *20*悪を行って
る者はみな光を憎む。そして、そのおこな
いが明るみに出されるのを恐れて、光にこ
ようとはしない。 *21*しかし、真理を行って
る者は光に来る。その人のおこないの、
神にあってなされたということが、明らかに
されるためである。 *22*こののち、イエスは
弟子たちとユダヤの地に行き、彼らと一緒
にそこに滞在して、バプテスマを授けてお
られた。 *23*ヨハネもサリムに近いアイノン
で、バプテスマを授けていた。そこには水
がたくさんあったからである。人々がぞく
ぞくとやってきてバプテスマを受けていた
。 *24*そのとき、ヨハネはまだ獄に入れられ
てはいなかった。 *25*ところが、ヨハネの弟
子たちとひとりのユダヤ人との間に、きよ
めのことで争論が起った。 *26*そこで彼ら
はヨハネのところにきて言った、「先生、ご
らん下さい。ヨルダンの向こうであなたと一
緒にいたことがあり、そして、あなたがあか

しをしておられたあのかたが、バプテスマを授けており、皆の者が、そのかたのところへ出かけています」。 *27*ヨハネは答えて言った、「人は天から与えられなければ、何ものも受けることはできない。 *28*『わたしはキリストではなく、そのかたよりも先につかわされた者である』と言ったことをあかししてくれるのは、あなたがた自身である。 *29*花嫁をもつ者は花婿である。花婿の友人は立って彼の声を聞き、その声を聞いて大いに喜ぶ。こうして、この喜びはわたしに満ち足りている。 *30*彼は必ず栄え、わたしは衰える。 *31*上から来る者は、すべてのものの上にある。地から出る者は、地に属する者であって、地のことを語る。天から来る者は、すべてのものの上にある。 *32*彼はその見たところ、聞いたところをあかししているが、だれもそのあかしを受けいれない。 *33*しかし、そのあかしを受けいれる者は、神がまことであることを、たしかに認めたのである。 *34*神がおつかわしになったかたは、神の言葉を語る。神は聖霊を限りなく賜うからである。 *35*父は御子を愛して、万物をその手にお与えになった。 *36*御子を信じる者は永遠の命をもつ。御子に従わない者は、命にあずかることがないばかりか、神の怒りがその上にとどまるのである」。

4 イエスが、ヨハネよりも多く弟子をつくり、またバプテスマを授けておられるということを、パリサイ人たちが聞き、それを主が知られたとき、 *2*(しかし、イエスみずからが、バプテスマをお授けになったのではなく、その弟子たちであった) *3*ユダヤを去って、またガリラヤへ行かれた。 *4*しかし、イエスはサマリヤを通過しなければならなかった。 *5*そこで、イエスはサマリヤのスカルという町においでになった。この町は、ヤコブがその子ヨセフに与えた土地の近くにあったが、 *6*そこにヤコブの井戸があった。イエスは旅の疲れを覚えて、そのまま、この井戸のそばにすわっておられた。時は昼の十二時ごろであった。 *7*ひとりのサマリヤの女が水をくみにきたので、イエスはこの女に、「水を飲ませて下さい」と言われた。 *8*弟子たちは食物を買いに町に行っていたのである。 *9*すると、サマリヤの女はイエスに言った、「あなたはユダヤ人でありながら、どうしてサマリヤの女のわたしに、飲ませてくれとおっしゃるのですか」。これは、ユダヤ人はサマリヤ人と交際していなかったからである。 *10*イエスは答えて言われた、「もしあなたが神の賜物のことを知り、また、『水を飲ませてくれ』と言った者が、だれであるか知っていたならば、あなたの方から願い出て、その人から生ける水をもらったことであろう」。 *11*女はイエスに言った、「主よ、あなたは、くむ物をお持ちにならず、その上、井戸は深いのです。その生ける水を、どこから手に入れるのですか。 *12*あなたは、この井戸を下さったわたしたちの父ヤコブよりも、偉いかたなのですか。ヤコブ自身も飲み、その子らも、その家畜も、この井戸から飲んだのですが」。 *13*イエスは女に答えて言われた、「この水を飲む者はだれでも、またかわくであろう。 *14*しかし、わたしが与える水を飲む者は、いつまでも、かわくことがないばかりか、わたしが与える水は、その人のうちで泉となり、永遠の命に至る水が、わきあがるであろう」。 *15*女はイエスに言った、「主よ、わたしがかわくことがなく、また、ここにくみにこなくてもよいように、その水をわたしに下さい」。 *16*イエスは女に言われた、「あなたの夫を呼びに行って、ここに連れてきなさい」。 *17*女は答えて言った、「わたしには夫はありません」。イエスは女に言われた、「夫がないと言ったのは、もっともだ。 *18*あなたには五人の夫があったが、今のはあなたの夫ではない。あなたの言葉のとおりである」。 *19*女はイエスに言った、「主よ、わたしはあなたを預言者と見ます。 *20*わたしたちの先祖は、この山で礼拝をしたのですが、あなたがたは礼拝すべき場所は、エルサレムにあると言っています」。 *21*イエスは女に言われた、「女よ、わたしの言うことを信じなさい。あなたがたが、この山でも、またエルサレムでもない所で、父を礼拝する時が来る。 *22*あなたがたは自分の知らないものを拝んでいるが、わたしたちは知っているかたを礼拝している。救はユダヤ人から来るからである。 *23*しかし、まことの礼拝をする者たちが、霊とまことをもって父を礼拝する時が来る。そうだ、今きて

いる。父は、このような礼拝をする者たち
を求めておられるからである。 *24*神は霊
であるから、礼拝をする者も、霊とまことと
をもって礼拝すべきである」。 *25*女はイエ
スに言った、「わたしは、キリストと呼ばれ
るメシヤがこられることを知っています。そ
のかたがこられたならば、わたしたちに、
いっさいのことを知らせて下さるでしょう」。
*26*イエスは女に言われた、「あなたと話を
しているこのわたしが、それである」。
*27*そのとき、弟子たちが帰って来て、イエ
スがひとりの女と話しておられるのを見て
不思議に思ったが、しかし、「何を求めて
おられますか」とも、「何を彼女と話してお
られるのですか」とも、尋ねる者はひとりも
なかった。 *28*この女は水がめをそのまま
そこに置いて町に行き、人々に言った、
29「わたしのしたことを何もかも、言いあて
た人がいます。さあ、見にきてごらんなさ
い。もしかしたら、この人がキリストかも知
れません」。 *30*人々は町を出て、ぞくぞく
とイエスのところへ行った。 *31*その間に弟
子たちはイエスに、「先生、召しあがってく
ださい」とすすめた。 *32*ところが、イエスは
言われた、「わたしには、あなたがたの知
らない食物がある」。 *33*そこで、弟子たち
が互に言った、「だれかが、何か食べるも
のを持ってきてさしあげたのであろうか」。
*34*イエスは彼らに言われた、「わたしの食
物というのは、わたしをつかわされたかた
のみこころを行い、そのみわざをなし遂げ
ることである。 *35*あなたがたは、刈入れ時
が来るまでには、まだ四か月あると、言っ
ているではないか。しかし、わたしはあな
たがたに言う。目をあげて畑を見なさい。
はや色づいて刈入れを待っている。 *36*刈
る者は報酬を受けて、永遠の命に至る実
を集めている。まく者も刈る者も、共々に
喜ぶためである。 *37*そこで、『ひとりがまき
、ひとりが刈る』ということわざが、ほんとう
のこととなる。 *38*わたしは、あなたがたを
つかわして、あなたがたがそのために労
苦しなかったものを刈りとらせた。ほかの
人々が労苦し、あなたがたは、彼らの労
苦の実にあずかっているのである」。 *39*さ
て、この町からきた多くのサマリヤ人は、
「この人は、わたしのしたことを何もかも言
いあてた」とあかしした女の言葉によって、
イエスを信じた。 *40*そこで、サマリヤ人た
ちはイエスのもとにきて、自分たちのところ
に滞在していただきたいと願ったので、イ
エスはそこにふつか滞在された。 *41*そし
てなお多くの人々が、イエスの言葉を聞
いて信じた。 *42*彼らは女に言った、「わた
したちが信じるのは、もうあなたが話してく
れたからではない。自分自身で親しく聞
いて、この人こそまことに世の救主である
ことが、わかったからである」。 *43*ふつか
の後に、イエスはここを去ってガリラヤへ
行かれた。 *44*イエスはみずからはっきり、
「預言者は自分の故郷では敬われないも
のだ」と言われたのである。 *45*ガリラヤに
着かれると、ガリラヤの人たちはイエスを
歓迎した。それは、彼らも祭に行っていた
ので、その祭の時、イエスがエルサレムで
なされたことをことごとく見ていたからであ
る。 *46*イエスは、またガリラヤのカナに行
かれた。そこは、かつて水をぶどう酒にか
えられた所である。ところが、病気をして
いるむすこを持つある役人がカペナウム
にいた。 *47*この人が、ユダヤからガリラヤ
にイエスのきておられることを聞き、みもと
にきて、カペナウムに下って、彼の子をな
おしていただきたいと、願った。その子が
死にかかっていたからである。 *48*そこで、
イエスは彼に言われた、「あなたがたは、
しるしと奇跡とを見ない限り、決して信じな
いだろう」。 *49*この役人はイエスに言った
、「主よ、どうぞ、子供が死なないうちにき
て下さい」。 *50*イエスは彼に言われた、
「お帰りなさい。あなたのむすこは助かる
のだ」。彼は自分に言われたイエスの言
葉を信じて帰って行った。 *51*その下って
行く途中、僕たちが彼に出会い、その子
が助かったことを告げた。 *52*そこで、彼は
僕たちに、そのなおりはじめた時刻を尋
ねてみたら、「きのうの午後一時に熱が引
きました」と答えた。 *53*それは、イエスが「
あなたのむすこは助かるのだ」と言われた
のと同じ時刻であったことを、この父は知
って、彼自身もその家族一同も信じた。
*54*これは、イエスがユダヤからガリラヤに
きてなされた第二のしるしである。

5 こののち、ユダヤ人の祭があったので、
イエスはエルサレムに上られた。 *2*エルサ

レムにある羊の門のそばに、ヘブル語で
ベテスダと呼ばれる池があった。そこには
五つの廊があった。 *3*その廊の中には、
病人、盲人、足なえ、やせ衰えた者など
が、大ぜいからだを横たえていた。〔彼ら
は水の動くのを待っていたのである。 *4*それ
は、時々、イオウオの御使[ii]がこの池に
降りてきて水を動かすことがあるが、水が
動いた時まっ先にはいる者は、どんな病
気にかかっていても、いやされたからであ
る。〕 *5*さて、そこに三十八年のあいだ、病
気に悩んでいる人があった。 *6*イエスはそ
の人が横になっているのを見、また長い
間わずらっていたのを知って、その人に
「なおりたいのか」と言われた。 *7*この病人
はイエスに答えた、「主よ、水が動く時に、
わたしを池の中に入れてくれる人がいま
せん。わたしがはいりかけると、ほかの人
が先に降りて行くのです」。 *8*イエスは彼
に言われた、「起きて、あなたの床を取り
あげ、そして歩きなさい」。 *9*すると、この
人はすぐにいやされ、床をとりあげて歩い
て行った。その日は安息日であった。
*10*そこでユダヤ人たちは、そのいやされ
た人に言った、「きょうは安息日だ。床を
取りあげるのは、よろしくない」。 *11*彼は答
えた、「わたしをなおして下さったかたが、
床を取りあげて歩けと、わたしに言われま
した」。 *12*彼らは尋ねた、「取りあげて歩
けと言った人は、だれか」。 *13*しかし、この
いやされた人は、それがだれであるか知
らなかった。群衆がその場にいたので、イ
エスはそっと出て行かれたからである。
*14*そののち、イエスは宮でその人に出会
ったので、彼に言われた、「ごらん、あなた
はよくなった。もう罪を犯してはいけない。
何かもっと悪いことが、あなたの身に起る
かも知れないから」。 *15*彼は出て行って、
自分をいやしたのはイエスであったと、ユ
ダヤ人たちに告げた。 *16*そのためユダヤ
人たちは、安息日にこのようなことをしたと
言って、イエスを責めた。 *17*そこで、イエ
スは彼らに答えられた、「わたしの父は今
に至るまで働いておられる。わたしも働く
のである」。 *18*このためにユダヤ人たちは
、ますますイエスを殺そうと計るようになっ
た。それは、イエスが安息日を破られたば
かりではなく、神を自分の父と呼んで、自
分を神と等しいものとされたからである。
*19*さて、イエスは彼らに答えて言われた、
「よくよくあなたがたに言っておく。子は父
のなさることを見てする以外に、自分から
は何事もすることができない。父のなさる
ことであればすべて、子もそのとおりにす
るのである。 *20*なぜなら、父は子を愛して
、みずからなさることは、すべて子にお示
しになるからである。そして、それよりもな
お大きなわざを、お示しになるであろう。
あなたがたが、それによって不思議に思う
ためである。 *21*すなわち、父が死人を起
して命をお与えになるように、子もまた、そ
のこころにかなう人々に命を与えるであろ
う。 *22*父はだれをもさばかない。さばきの
ことはすべて、子にゆだねられたからであ
る。 *23*それは、すべての人が父を敬うと
同様に、子を敬うためである。子を敬わな
い者は、子をつかわされた父をも敬わな
い。 *24*よくよくあなたがたに言っておく。
わたしの言葉を聞いて、わたしをつかわさ
れたかたを信じる者は、永遠の命を受け、
またさばかれることがなく、死から命に移
っているのである。 *25*よくよくあなたがた
に言っておく。死んだ人たちが、神の子の
声を聞く時が来る。今すでにきている。そ
して聞く人は生きるであろう。 *26*それは、
父がご自分のうちに生命をお持ちになっ
ていると同様に、子にもまた、自分のうち
に生命を持つことをお許しになったからで
ある。 *27*そして子は人の子であるから、子
にさばきを行う権威をお与えになった。
*28*このことを驚くには及ばない。墓の中
にいる者たちがみな神の子の声を聞き、
*29*善をおこなった人々は、生命を受ける
ためによみがえり、悪をおこなった人々は
、さばきを受けるためによみがえって、そ
れぞれ出てくる時が来るであろう。 *30*わた
しは、自分からは何事もすることができな
い。ただ聞くままにさばくのである。そして
、わたしのこのさばきは正しい。それは、
わたし自身の考えでするのではなく、わた
しをつかわされたかたの、み旨を求めて
いるからである。 *31*もし、わたしが自分自
身についてあかしをするならば、わたしの
あかしはほんとうではない。 *32*わたしにつ
いてあかしをするかたはほかにあり、そし
て、その人がするあかしがほんとうである

ことを、わたしは知っている。 33あなたがたはヨハネのもとへ人をつかわしたが、そのとき彼は真理についてあかしをした。
34わたしは人からあかしを受けないが、このことを言うのは、あなたがたが救われるためである。 35ヨハネは燃えて輝くあかりであった。あなたがたは、しばらくの間その光を喜び楽しもうとした。 36しかし、わたしには、ヨハネのあかしよりも、もっと力あるあかしがある。父がわたしに成就させようとしてお与えになったわざ、すなわち、今わたしがしているこのわざが、父のわたしをつかわされたことをあかししている。
37また、わたしをつかわされた父も、ご自分でわたしについてあかしをされた。あなたがたは、まだそのみ声を聞いたこともなく、そのみ姿を見たこともない。 38また、神がつかわされた者を信じないから、神の御言はあなたがたのうちにとどまっていない。 39あなたがたは、聖書の中に永遠の命があると思って調べているが、この聖書は、わたしについてあかしをするものである。 40しかも、あなたがたは、命を得るためにわたしのもとにこようともしない。
41わたしは人からの誉を受けることはしない。 42しかし、あなたがたのうちには神を愛する愛がないことを知っている。 43わたしは父の名によってきたのに、あなたがたはわたしを受けいれない。もし、ほかの人が彼自身の名によって来るならば、その人を受けいれるのであろう。 44互に誉を受けながら、ただひとりの神からの誉を求めようとしないあなたがたは、どうして信じることができようか。 45わたしがあなたがたのことを父に訴えると、考えてはいけない。あなたがたを訴える者は、あなたがたが頼みとしているモーセその人である。
46もし、あなたがたがモーセを信じたならば、わたしをも信じたであろう。モーセは、わたしについて書いたのである。 47しかし、モーセの書いたものを信じないならば、どうしてわたしの言葉を信じるだろうか」。

6 そののち、イエスはガリラヤの海、すなわち、テベリヤ湖の向こう岸へ渡られた。
2すると、大ぜいの群衆がイエスについてきた。病人たちになさっていたしるしを見たからである。 3イエスは山に登って、弟子たちと一緒にそこで座につかれた。
4時に、ユダヤ人の祭である過越が間近になっていた。 5イエスは目をあげ、大ぜいの群衆が自分の方に集まって来るのを見て、ピリポに言われた、「どこからパンを買ってきて、この人々に食べさせようか」。
6これはピリポをためそうとして言われたのであって、ご自分ではしようとすることを、よくご承知であった。 7すると、ピリポはイエスに答えた、「二百デナリのパンがあっても、めいめいが少しずついただくにも足りますまい」。 8弟子のひとり、シモン・ペテロの兄弟アンデレがイエスに言った、
9「ここに、大麦のパン五つと、さかな二ひきとを持っている子供がいます。しかし、こんなに大ぜいの人では、それが何になりましょう」。 10イエスは「人々をすわらせなさい」と言われた。その場所には草が多かった。そこにすわった男の数は五千人ほどであった。 11そこで、イエスはパンを取り、感謝してから、すわっている人々に分け与え、また、さかなをも同様にして、彼らの望むだけ分け与えられた。 12人々がじゅうぶんに食べたのち、イエスは弟子たちに言われた、「少しでもむだにならないように、パンくずのあまりを集めなさい」。
13そこで彼らが集めると、五つの大麦のパンを食べて残ったパンくずは、十二のかごにいっぱいになった。 14人々はイエスのなさったこのしるしを見て、「ほんとうに、この人こそ世にきたるべき預言者である」と言った。 15イエスは人々がきて、自分をとらえて王にしようとしていると知って、ただひとり、また山に退かれた。 16夕方になったとき、弟子たちは海べに下り、
17舟に乗って海を渡り、向こう岸のカペナウムに行きかけた。すでに暗くなっていたのに、イエスはまだ彼らのところにおいでにならなかった。 18その上、強い風が吹いてきて、海は荒れ出した。 19四、五十丁こぎ出したとき、イエスが海の上を歩いて舟に近づいてこられるのを見て、彼らは恐れた。 20すると、イエスは彼らに言われた、「わたしだ、恐れることはない」。
21そこで、彼らは喜んでイエスを舟に迎えようとした。すると舟は、すぐ、彼らが行こうとしていた地に着いた。 22その翌日、

海の向こう岸に立っていた群衆は、そこに
小舟が一そうしかなく、またイエスは弟子
たちと一緒に小舟にお乗りにならず、ただ
弟子たちだけが船出したのを見た。 *23*し
かし、数そうの小舟がテベリヤからきて、
主が感謝されたのちパンを人々に食べさ
せた場所に近づいた。 *24*群衆は、イエス
も弟子たちもそこにいないと知って、それ
らの小舟に乗り、イエスをたずねてカペナ
ウムに行った。 *25*そして、海の向こう岸で
イエスに出会ったので言った、「先生、い
つ、ここにおいでになったのですか」。
*26*イエスは答えて言われた、「よくよくあ
なたがたに言っておく。あなたがたがわた
しを尋ねてきているのは、しるしを見たた
めではなく、パンを食べて満腹したからで
ある。 *27*朽ちる食物のためではなく、永
遠の命に至る朽ちない食物のために働く
がよい。これは人の子があなたがたに与
えるものである。父なる神は、人の子にそ
れをゆだねられたのである」。 *28*そこで、
彼らはイエスに言った、「神のわざを行う
ために、わたしたちは何をしたらよいでし
ょうか」。 *29*イエスは彼らに答えて言われ
た、「神がつかわされた者を信じることが、
神のわざである」。 *30*彼らはイエスに言っ
た、「わたしたちが見てあなたを信じるた
めに、どんなしるしを行って下さいますか
。どんなことをして下さいますか。 *31*わた
したちの先祖は荒野でマナを食べました
。それは『天よりのパンを彼らに与えて食
べさせた』と書いてあるとおりです」。 *32*そ
こでイエスは彼らに言われた、「よくよく言
っておく。天からのパンをあなたがたに与
えたのは、モーセではない。天からのまこ
とのパンをあなたがたに与えるのは、わた
しの父なのである。 *33*神のパンは、天か
ら下ってきて、この世に命を与えるものの
である」。 *34*彼らはイエスに言った、「主よ、
そのパンをいつもわたしたちに下さい」。
*35*イエスは彼らに言われた、「わたしが命
のパンである。わたしに来る者は決して飢
えることがなく、わたしを信じる者は決して
かわくことがない。 *36*しかし、あなたがた
に言ったが、あなたがたはわたしを見たの
に信じようとはしない。 *37*父がわたしに与
えて下さる者は皆、わたしに来るであろう
。そして、わたしに来る者を決して拒みは
しない。 *38*わたしが天から下ってきたの
は、自分のこころのままを行うためではな
く、わたしをつかわされたかたのみこころ
を行うためである。 *39*わたしをつかわされ
たかたのみこころは、わたしに与えて下さ
った者を、わたしがひとりも失わずに、終り
の日によみがえらせることである。 *40*わた
しの父のみこころは、子を見て信じる者が
、ことごとく永遠の命を得ることなのである
。そして、わたしはその人々を終りの日に
よみがえらせるであろう」。 *41*ユダヤ人ら
は、イエスが「わたしは天から下ってきた
パンである」と言われたので、イエスにつ
いてつぶやき始めた。 *42*そして言った、
「これはヨセフの子イエスではないか。わ
たしたちはその父母を知っているではな
いか。わたしは天から下ってきたと、どうし
て今いうのか」。 *43*イエスは彼らに答えて
言われた、「互につぶやいてはいけない。
*44*わたしをつかわされた父が引きよせて
下さらなければ、だれもわたしに来ること
はできない。わたしは、その人々を終りの
日によみがえらせるであろう。 *45*預言者
の書に、『彼らはみなイオウオ[iii]に教えられ
るであろう』と書いてある。父から聞いて学
んだ者は、みなわたしに来るのである。
*46*神から出た者のほかに、だれかが父を
見たのではない。その者だけが父を見た
のである。 *47*よくよくあなたがたに言って
おく。信じる者には永遠の命がある。
*48*わたしは命のパンである。 *49*あなたが
たの先祖は荒野でマナを食べたが、死ん
でしまった。 *50*しかし、天から下ってきた
パンを食べる人は、決して死ぬことはない
。 *51*わたしは天から下ってきた生きたパ
ンである。それを食べる者は、いつまでも
生きるであろう。わたしが与えるパンは、
世の命のために与えるわたしの肉である」
。 *52*そこで、ユダヤ人らが互に論じて言っ
た、「この人はどうして、自分の肉をわたし
たちに与えて食べさせることができようか」
。 *53*イエスは彼らに言われた、「よくよく言
っておく。人の子の肉を食べず、また、そ
の血を飲まなければ、あなたがたの内に
命はない。 *54*わたしの肉を食べ、わたし
の血を飲む者には、永遠の命があり、わ
たしはその人を終りの日によみがえらせる
であろう。 *55*わたしの肉はまことの食物、

わたしの血はまことの飲み物である。
*56*わたしの肉を食べ、わたしの血を飲む
者はわたしにおり、わたしもまたその人に
おる。 *57*生ける父がわたしをつかわされ、
また、わたしが父によって生きているよう
に、わたしを食べる者もわたしによって生
きるであろう。 *58*天から下ってきたパンは
、先祖たちが食べたが死んでしまったよう
なものではない。このパンを食べる者は、
いつまでも生きるであろう」。 *59*これらのこ
とは、イエスがカペナウムの会堂で教えて
おられたときに言われたものである。 *60*弟
子たちのうちの多くの者は、これを聞いて
言った、「これは、ひどい言葉だ。だれが
そんなことを聞いておられようか」。 *61*しか
しイエスは、弟子たちがそのことでつぶや
いているのを見破って、彼らに言われた、
「このことがあなたがたのつまずきになる
のか。 *62*それでは、もし人の子が前にい
た所に上るのを見たら、どうなるのか。
*63*人を生かすものは霊であって、肉はな
んの役にも立たない。わたしがあなたがた
に話した言葉は霊であり、また命である。
*64*しかし、あなたがたの中には信じない
者がいる」。イエスは、初めから、だれが信
じないか、また、だれが彼を裏切るかを知
っておられたのである。 *65*そしてイエスは
言われた、「それだから、父が与えて下さ
った者でなければ、わたしに来ることはで
きないと、言ったのである」。 *66*それ以来
、多くの弟子たちは去っていって、もはや
イエスと行動を共にしなかった。 *67*そこで
イエスは十二弟子に言われた、「あなたが
たも去ろうとするのか」。 *68*シモン・ペテロ
が答えた、「主よ、わたしたちは、だれのと
ころに行きましょう。永遠の命の言をもって
いるのはあなたです。 *69*わたしたちは、あ
なたが神の聖者であることを信じ、また知
っています」。 *70*イエスは彼らに答えられ
た、「あなたがた十二人を選んだのは、わ
たしではなかったか。それだのに、あなた
がたのうちのひとりは悪魔である」。 *71*こ
れは、イスカリオテのシモンの子ユダをさ
して言われたのである。このユダは、十二
弟子のひとりでありながら、イエスを裏切
ろうとしていた。

7 そののち、イエスはガリラヤを巡回して
おられた。ユダヤ人たちが自分を殺そうと
していたので、ユダヤを巡回しようとはさ
れなかった。 *2*時に、ユダヤ人の仮庵の
祭が近づいていた。 *3*そこで、イエスの兄
弟たちがイエスに言った、「あなたがして
おられるわざを弟子たちにも見せるため
に、ここを去りユダヤに行ってはいかがで
す。 *4*自分を公けにあらわそうと思って
る人で、隠れて仕事をするものはありませ
ん。あなたがこれらのことをするからには、
自分をはっきりと世にあらわしなさい」。
*5*こう言ったのは、兄弟たちもイエスを信
じていなかったからである。 *6*そこでイエス
は彼らに言われた、「わたしの時はまだき
ていない。しかし、あなたがたの時はいつ
も備わっている。 *7*世はあなたがたを憎み
得ないが、わたしを憎んでいる。わたしが
世のおこないの悪いことを、あかししてい
るからである。 *8*あなたがたこそ祭に行き
なさい。わたしはこの祭には行かない。わ
たしの時はまだ満ちていないから」。 *9*彼
らにこう言って、イエスはガリラヤにとどま
っておられた。 *10*しかし、兄弟たちが祭に
行ったあとで、イエスも人目にたたぬよう
に、ひそかに行かれた。 *11*ユダヤ人らは
祭の時に、「あの人はどこにいるのか」と言
って、イエスを捜していた。 *12*群衆の中に
、イエスについていろいろとうわさが立っ
た。ある人々は、「あれはよい人だ」と言い
、他の人々は、「いや、あれは群衆を惑わ
している」と言った。 *13*しかし、ユダヤ人ら
を恐れて、イエスのことを公然と口にする
者はいなかった。 *14*祭も半ばになってか
ら、イエスは宮に上って教え始められた。
*15*すると、ユダヤ人たちは驚いて言った
、「この人は学問をしたこともないのに、ど
うして律法の知識をもっているのだろう」。
*16*そこでイエスは彼らに答えて言われた
、「わたしの教はわたし自身の教ではなく
、わたしをつかわされたかたの教である。
*17*神のみこころを行おうと思う者であれば
、だれでも、わたしの語っているこの教が
神からのものか、それとも、わたし自身か
ら出たものか、わかるであろう。 *18*自分か
ら出たことを語る者は、自分の栄光を求め
るが、自分をつかわされたかたの栄光を
求める者は真実であって、その人の内に

は偽りがない。 *19*モーセはあなたがたに
律法を与えたではないか。それだのに、
あなたがたのうちには、その律法を行う者
がひとりもない。あなたがたは、なぜわた
しを殺そうと思っているのか」。 *20*群衆は
答えた、「あなたは悪霊に取りつかれてい
る。だれがあなたを殺そうと思っているも
のか」。 *21*イエスは彼らに答えて言われた
、「わたしが一つのわざをしたところ、あな
たがたは皆それを見て驚いている。 *22*モ
ーセはあなたがたに割礼を命じたので、
（これは、実は、モーセから始まったので
はなく、先祖たちから始まったものである）
あなたがたは安息日にも人に割礼を施し
ている。 *23*もし、モーセの律法が破られな
いように、安息日であっても割礼を受ける
のなら、安息日に人の全身を丈夫にして
やったからといって、どうして、そんなにお
こるのか。 *24*うわべで人をさばかないで、
正しいさばきをするがよい」。 *25*さて、エ
ルサレムのある人たちが言った、「この人
は人々が殺そうと思っている者ではない
か。 *26*見よ、彼は公然と語っているのに、
人々はこれに対して何も言わない。役人
たちは、この人がキリストであることを、ほ
んとうに知っているのではなかろうか。
*27*わたしたちはこの人がどこからきたの
か知っている。しかし、キリストが現れる時
には、どこから来るのか知っている者は、
ひとりもいない」。 *28*イエスは宮の内で教
えながら、叫んで言われた、「あなたがた
は、わたしを知っており、また、わたしがど
こからきたかも知っている。しかし、わたし
は自分からきたのではない。わたしをつか
わされたかたは真実であるが、あなたがた
は、そのかたを知らない。 *29*わたしは、そ
のかたを知っている。わたしはそのかたの
もとからきた者で、そのかたがわたしをつ
かわされたのである」。 *30*そこで人々はイ
エスを捕えようと計ったが、だれひとり手を
かける者はなかった。イエスの時が、まだ
きていなかったからである。 *31*しかし、群
衆の中の多くの者が、イエスを信じて言っ
た、「キリストがきても、この人が行ったより
も多くのしるしを行うだろうか」。 *32*群衆が
イエスについてこのようなうわさをしている
のを、パリサイ人たちは耳にした。そこで、
祭司長たちやパリサイ人たちは、イエスを
捕えようとして、下役どもをつかわした。
*33*イエスは言われた、「今しばらくの間、
わたしはあなたがたと一緒にいて、それか
ら、わたしをおつかわしになったかたのみ
もとに行く。 *34*あなたがたはわたしを捜す
であろうが、見つけることはできない。そし
てわたしのいる所に、あなたがたは来るこ
とができない」。 *35*そこでユダヤ人たちは
互に言った、「わたしたちが見つけること
ができないというのは、どこへ行こうとして
いるのだろう。ギリシヤ人の中に離散して
いる人たちのところにでも行って、ギリシヤ
人を教えようというのだろうか。 *36*また、
『わたしを捜すが、見つけることはできな
い。そしてわたしのいる所には来ることが
できないだろう』と言ったその言葉は、どう
いう意味だろう」。 *37*祭の終りの大事な日
に、イエスは立って、叫んで言われた、
「だれでもかわく者は、わたしのところにき
て飲むがよい。 *38*わたしを信じる者は、聖
書に書いてあるとおり、その腹から生ける
水が川となって流れ出るであろう」。 *39*こ
れは、イエスを信じる人々が受けようとして
いる御霊をさして言われたのである。すな
わち、イエスはまだ栄光を受けておられな
かったので、御霊がまだ下っていなかっ
たのである。 *40*群衆のある者がこれらの
言葉を聞いて、「このかたは、ほんとうに、
あの預言者である」と言い、 *41*ほかの人
たちは「このかたはキリストである」と言い、
また、ある人々は、「キリストはまさか、ガリ
ラヤからは出てこないだろう。 *42*キリストは
、ダビデの子孫から、またダビデのいたベ
ツレヘムの村から出ると、聖書に書いてあ
るではないか」と言った。 *43*こうして、群衆
の間にイエスのことで分争が生じた。
*44*彼らのうちのある人々は、イエスを捕え
ようと思ったが、だれひとり手をかける者は
なかった。 *45*さて、下役どもが祭司長た
ちやパリサイ人たちのところに帰ってきた
ので、彼らはその下役どもに言った、「な
ぜ、あの人を連れてこなかったのか」。
*46*下役どもは答えた、「この人の語るよう
に語った者は、これまでにありませんでし
た」。 *47*パリサイ人たちが彼らに答えた、
「あなたがたまでが、だまされているので
ではないか。 *48*役人たちやパリサイ人たち
の中で、ひとりでも彼を信じた者があった

だろうか。 *49*律法をわきまえないこの群衆
は、のろわれている」。 *50*彼らの中のひと
りで、以前にイエスに会いにきたことのあ
るニコデモが、彼らに言った、 *51*「わたし
たちの律法によれば、まずその人の言い
分を聞き、その人のしたことを知った上で
なければ、さばくことをしないのではない
か」。 *52*彼らは答えて言った、「あなたもガ
リラヤ出なのか。よく調べてみなさい、ガリ
ラヤからは預言者が出るものではないこと
が、わかるだろう」。〔 *53*そして、人々はお
のおの家に帰って行った。

8 イエスはオリブ山に行かれた。 *2*朝早く
また宮にはいられると、人々が皆みもとに
集まってきたので、イエスはすわって彼ら
を教えておられた。 *3*すると、律法学者た
ちやパリサイ人たちが、姦淫をしている時
につかまえられた女をひっぱってきて、中
に立たせた上、イエスに言った、 *4*「先生
、この女は姦淫の場でつかまえられました
。 *5*モーセは律法の中で、こういう女を石
で打ち殺せと命じましたが、あなたはどう
思いますか」。 *6*彼らがそう言ったのは、イ
エスをためして、訴える口実を得るためで
あった。しかし、イエスは身をかがめて、指
で地面に何か書いておられた。 *7*彼らが
問い続けるので、イエスは身を起して彼ら
に言われた、「あなたがたの中で罪のない
者が、まずこの女に石を投げつけるがよ
い」。 *8*そしてまた身をかがめて、地面に
物を書きつづけられた。 *9*これを聞くと、
彼らは年寄から始めて、ひとりびとり出て
行き、ついに、イエスだけになり、女は中
にいたまま残された。 *10*そこでイエスは身
を起して女に言われた、「女よ、みんなは
どこにいるか。あなたを罰する者はなかっ
たのか」。 *11*女は言った、「主よ、だれもご
ざいません」。イエスは言われた、「わたし
もあなたを罰しない。お帰りなさい。今後
はもう罪を犯さないように」。〕 *12*イエスは
、また人々に語ってこう言われた、「わたし
は世の光である。わたしに従って来る者
は、やみのうちを歩くことがなく、命の光を
もつであろう」。 *13*するとパリサイ人たちが
イエスに言った、「あなたは、自分のことを
あかししている。あなたのあかしは真実で
はない」。 *14*イエスは彼らに答えて言われ
た、「たとい、わたしが自分のことをあかし
しても、わたしのあかしは真実である。そ
れは、わたしがどこからきたのか、また、どこ
へ行くのかを知っているからである。し
かし、あなたがたは、わたしがどこからきて
、どこへ行くのかを知らない。 *15*あなたが
たは肉によって人をさばくが、わたしはだ
れもさばかない。 *16*しかし、もしわたしが
さばくとすれば、わたしのさばきは正しい。
なぜなら、わたしはひとりではなく、わたし
をつかわされたかたが、わたしと一緒だか
らである。 *17*あなたがたの律法には、ふ
たりによる証言は真実だと、書いてある。
*18*わたし自身のことをあかしするのは、わ
たしであるし、わたしをつかわされた父も、
わたしのことをあかしして下さるのである」
。 *19*すると、彼らはイエスに言った、「あな
たの父はどこにいるのか」。イエスは答え
られた、「あなたがたは、わたしをもわたし
の父をも知っていない。もし、あなたがた
がわたしを知っていたなら、わたしの父を
も知っていたであろう」。 *20*イエスが宮の
内で教えていた時、これらの言葉をさい
せん箱のそばで語られたのであるが、イ
エスの時がまだきていなかったので、だれ
も捕える者がなかった。 *21*さて、また彼ら
に言われた、「わたしは去って行く。あな
たがたはわたしを捜し求めるであろう。そ
して自分の罪のうちに死ぬであろう。わた
しの行く所には、あなたがたは来ることが
できない」。 *22*そこでユダヤ人たちは言っ
た、「わたしの行く所に、あなたがたは来る
ことができないと、言ったのは、あるいは
自殺でもしようとするつもりか」。 *23*イエス
は彼らに言われた、「あなたがたは下から
出た者だが、わたしは上からきた者である
。あなたがたはこの世の者であるが、わた
しはこの世の者ではない。 *24*だからわた
しは、あなたがたは自分の罪のうちに死
ぬであろうと、言ったのである。もしわたし
がそういう者であることをあなたがたが信
じなければ、罪のうちに死ぬことになるか
らである」。 *25*そこで彼らはイエスに言っ
た、「あなたは、いったい、どういうかたで
すか」。イエスは彼らに言われた、「わたし
がどういう者であるかは、初めからあなた
がたに言っているではないか。 *26*あなた
がたについて、わたしの言うべきこと、さば

くべきことが、たくさんある。しかし、わたし
をつかわされたかたは真実なかたである。
わたしは、そのかたから聞いたままを世に
むかって語るのである」。 *27*彼らは、イエ
スが父について話しておられたことを悟ら
なかった。 *28*そこでイエスは言われた、
「あなたがたが人の子を上げてしまった後
はじめて、わたしがそういう者であること、
また、わたしは自分からは何もせず、ただ
父が教えて下さったままを話していたこと
が、わかってくるであろう。 *29*わたしをつ
かわされたかたは、わたしと一緒におられ
る。わたしは、いつも神のみこころにかなう
ことをしているから、わたしをひとり置きざ
りになさることはない」。 *30*これらのことを
語られたところ、多くの人々がイエスを信
じた。 *31*イエスは自分を信じたユダヤ人
たちに言われた、「もしわたしの言葉のう
ちにとどまっておるなら、あなたがたは、ほ
んとうにわたしの弟子なのである。 *32*また
真理を知るであろう。そして真理は、あな
たがたに自由を得させるであろう」。 *33*そ
こで、彼らはイエスに言った、「わたしたち
はアブラハムの子孫であって、人の奴隷
になったことなどは、一度もない。どうして
、あなたがたに自由を得させるであろうと、
言われるのか」。 *34*イエスは彼らに答えら
れた、「よくよくあなたがたに言っておく。
すべて罪を犯す者は罪の奴隷である。
*35*そして、奴隷はいつまでも家にいる者
ではない。しかし、子はいつまでもいる。
*36*だから、もし子があなたがたに自由を
得させるならば、あなたがたは、ほんとうに
自由な者となるのである。 *37*わたしは、あ
なたがたがアブラハムの子孫であることを
知っている。それだのに、あなたがたはわ
たしを殺そうとしている。わたしの言葉が、
あなたがたのうちに根をおろしていないか
らである。 *38*わたしはわたしの父のもとで
見たことを語っているが、あなたがたは自
分の父から聞いたことを行っている」。
*39*彼らはイエスに答えて言った、「わたし
たちの父はアブラハムである」。イエスは
彼らに言われた、「もしアブラハムの子で
あるなら、アブラハムのわざをするがよい。
*40*ところが今、神から聞いた真理をあな
たがたに語ってきたこのわたしを、殺そう
としている。そんなことをアブラハムはしな
かった。 *41*あなたがたは、あなたがたの
父のわざを行っているのである」。彼らは
言った、「わたしたちは、不品行の結果う
まれた者ではない。わたしたちにはひとり
の父がある。それは神である」。 *42*イエス
は彼らに言われた、「神があなたがたの父
であるならば、あなたがたはわたしを愛す
るはずである。わたしは神から出た者、ま
た神からきている者であるからだ。わたし
は自分からきたのではなく、神からつかわ
されたのである。 *43*どうしてあなたがたは
、わたしの話すことがわからないのか。あ
なたがたが、わたしの言葉を悟ることがで
きないからである。 *44*あなたがたは自分
の父、すなわち、悪魔から出てきた者であ
って、その父の欲望どおりを行おうと思っ
ている。彼は初めから、人殺しであって、
真理に立つ者ではない。彼のうちには真
理がないからである。彼が偽りを言うとき、
いつも自分の本音をはいているのである
。彼は偽り者であり、偽りの父であるから
だ。 *45*しかし、わたしが真理を語っている
ので、あなたがたはわたしを信じようとしな
い。 *46*あなたがたのうち、だれがわたしに
罪があると責めうるのか。わたしは真理を
語っているのに、なぜあなたがたは、わた
しを信じないのか。 *47*神からきた者は神
の言葉に聞き従うが、あなたがたが聞き従
わないのは、神からきた者でないからであ
る」。 *48*ユダヤ人たちはイエスに答えて言
った、「あなたはサマリヤ人で、悪霊に取り
つかれていると、わたしたちが言うのは、
当然ではないか」。 *49*イエスは答えられた
、「わたしは、悪霊に取りつかれているの
ではなくて、わたしの父を重んじているの
だが、あなたがたはわたしを軽んじている
。 *50*わたしは自分の栄光を求めてはいな
い。それを求めるかたが別にある。そのか
たは、またさばくかたである。 *51*よくよく言
っておく。もし人がわたしの言葉を守るな
らば、その人はいつまでも死を見ることが
ないであろう」。 *52*ユダヤ人たちが言った
、「あなたが悪霊に取りつかれていること
が、今わかった。アブラハムは死に、預言
者たちも死んでいる。それだのに、あなた
は、わたしの言葉を守る者はいつまでも
死を味わうことがないであろうと、言われる
。 *53*あなたは、わたしたちの父アブラハム

より偉いのだろうか。彼も死に、預言者たちも死んだではないか。あなたは、いったい、自分をだれと思っているのか」。 *54*イエスは答えられた、「わたしがもし自分に栄光を帰するなら、わたしの栄光は、むなしいものである。わたしに栄光を与えるかたは、わたしの父であって、あなたがたが自分の神だと言っているのは、そのかたのことである。 *55*あなたがたはその神を知っていないが、わたしは知っている。もしわたしが神を知らないと言うならば、あなたがたと同じような偽り者であろう。しかし、わたしはそのかたを知り、その御言を守っている。 *56*あなたがたの父アブラハムは、わたしのこの日を見ようとして楽しんでいた。そしてそれを見て喜んだ」。 *57*そこでユダヤ人たちはイエスに言った、「あなたはまだ五十にもならないのに、アブラハムを見たのか」。 *58*イエスは彼らに言われた、「よくよくあなたがたに言っておく。アブラハムの生れる前からわたしは、いるのである」。 *59*そこで彼らは石をとって、イエスに投げつけようとした。しかし、イエスは身を隠して、宮から出て行かれた。

9 イエスが道をとおっておられるとき、生れつきの盲人を見られた。 *2*弟子たちはイエスに尋ねて言った、「先生、この人が生れつき盲人なのは、だれが罪を犯したためですか。本人ですか、それともその両親ですか」。 *3*イエスは答えられた、「本人が罪を犯したのでもなく、また、その両親が犯したのでもない。ただ神のみわざが、彼の上に現れるためである。 *4*わたしたちは、わたしをつかわされたかたのわざを、昼の間にしなければならない。夜が来る。すると、だれも働けなくなる。 *5*わたしは、この世にいる間は、世の光である」。 *6*イエスはそう言って、地につばきをし、そのつばきで、どろをつくり、そのどろを盲人の目に塗って言われた、 *7*「シロアム（つかわされた者、の意）の池に行って洗いなさい」。そこで彼は行って洗った。そして見えるようになって、帰って行った。 *8*近所の人々や、彼がもと、こじきであったのを見知っていた人々が言った、「この人は、すわってこじきをしていた者ではないか」。 *9*ある人々は「その人だ」と言い、他の人々は「いや、ただあの人に似ているだけだ」と言った。しかし、本人は「わたしがそれだ」と言った。 *10*そこで人々は彼に言った、「では、おまえの目はどうしてあいたのか」。 *11*彼は答えた、「イエスというかたが、どろをつくって、わたしの目に塗り、『シロアムに行って洗え』と言われました。それで、行って洗うと、見えるようになりました」。 *12*人々は彼に言った、「その人はどこにいるのか」。彼は「知りません」と答えた。

*13*人々は、もと盲人であったこの人を、パリサイ人たちのところにつれて行った。

*14*イエスがどろをつくって彼の目をあけたのは、安息日であった。 *15*パリサイ人たちもまた、「どうして見えるようになったのか」、と彼に尋ねた。彼は答えた、「あのかたがわたしの目にどろを塗り、わたしがそれを洗い、そして見えるようになりました」。 *16*そこで、あるパリサイ人たちが言った、「その人は神からきた人ではない。安息日を守っていないのだから」。しかし、ほかの人々は言った、「罪のある人が、どうしてそのようなしるしを行うことができようか」。そして彼らの間に分争が生じた。

*17*そこで彼らは、もう一度この盲人に聞いた、「おまえの目をあけてくれたその人を、どう思うか」。「預言者だと思います」と彼は言った。 *18*ユダヤ人たちは、彼がもと盲人であったが見えるようになったことを、まだ信じなかった。ついに彼らは、目が見えるようになったこの人の両親を呼んで、 *19*尋ねて言った、「これが、生れつき盲人であったと、おまえたちの言っているむすこか。それではどうして、いま目が見えるのか」。 *20*両親は答えて言った、「これがわたしどものむすこであること、また生れつき盲人であったことは存じています。 *21*しかし、どうしていま見えるようになったのか、それは知りません。また、だれがその目をあけて下さったのかも知りません。あれに聞いて下さい。あれはもうおとなですから、自分のことは自分で話せるでしょう」。 *22*両親はユダヤ人たちを恐れていたので、こう答えたのである。それは、もしイエスをキリストと告白する者があれば、会堂から追い出すことに、ユダヤ人たちが既に決めていたからである。 *23*彼の両親が「おとなですから、あれに聞いて下さ

い」と言ったのは、そのためであった。
*24*そこで彼らは、盲人であった人をもう一
度呼んで言った、「神に栄光を帰するがよ
い。あの人が罪人であることは、わたした
ちにはわかっている」。*25*すると彼は言っ
た、「あのかたが罪人であるかどうか、わた
しは知りません。ただ一つのことだけ知っ
ています。わたしは盲であったが、今は見
えるということです」。*26*そこで彼らは言っ
た、「その人はおまえに何をしたのか。どん
なにしておまえの目をあけたのか」。
*27*彼は答えた、「そのことはもう話してあ
げたのに、聞いてくれませんでした。なぜ
また聞こうとするのですか。あなたがたも、
あの人の弟子になりたいのですか」。
*28*そこで彼らは彼をののしって言った、
「おまえはあれの弟子だが、わたしたちは
モーセの弟子だ。*29*モーセに神が語られ
たということは知っている。だが、あの人
がどこからきた者か、わたしたちは知らぬ」
。*30*そこで彼が答えて言った、「わたしの
目をあけて下さったのに、そのかたがどこ
からきたか、ご存じないとは、不思議千万
です。*31*わたしたちはこのことを知ってい
ます。神は罪人の言うことはお聞きいれに
なりませんが、神を敬い、そのみこころを
行う人の言うことは、聞きいれて下さいま
す。*32*生れつき盲であった者の目をあけ
た人があるということは、世界が始まって
以来、聞いたことがありません。*33*もしあ
のかたが神からきた人でなかったら、何一
つできなかったはずです」。*34*これを聞
いて彼らは言った、「おまえは全く罪の中
に生れていながら、わたしたちを教えよう
とするのか」。そして彼を外へ追い出した
。*35*イエスは、その人が外へ追い出され
たことを聞かれた。そして彼に会って言わ
れた、「あなたは人の子を信じるか」。
*36*彼は答えて言った、「主よ、それはどな
たですか。そのかたを信じたいのですが」
。*37*イエスは彼に言われた、「あなたは、
もうその人に会っている。今あなたと話し
ているのが、その人である」。*38*すると彼
は、「主よ、信じます」と言って、イエスを拝
した。*39*そこでイエスは言われた、「わた
しがこの世にきたのは、さばくためである。
すなわち、見えない人たちが見えるように
なり、見える人たちが見えないようになる
ためである」。*40*そこにイエスと一緒にい
たあるパリサイ人たちが、それを聞いてイ
エスに言った、「それでは、わたしたちも
盲なのでしょうか」。*41*イエスは彼らに言
われた、「もしあなたがたが盲人であった
なら、罪はなかったであろう。しかし、今あ
なたがたが『見える』と言い張るところに、
あなたがたの罪がある。

10 よくよくあなたがたに言っておく。羊の
囲いにはいるのに、門からでなく、ほかの
所からのりこえて来る者は、盗人であり、
強盗である。*2*門からはいる者は、羊の羊
飼である。*3*門番は彼のために門を開き、
羊は彼の声を聞く。そして彼は自分の羊
の名をよんで連れ出す。*4*自分の羊をみ
な出してしまうと、彼は羊の先頭に立って
行く。羊はその声を知っているので、彼に
ついて行くのである。*5*ほかの人には、つ
いて行かないで逃げ去る。その人の声を
知らないからである」。*6*イエスは彼らにこ
の比喩を話されたが、彼らは自分たちに
お話しになっているのが何のことだか、わ
からなかった。*7*そこで、イエスはまた言
われた、「よくよくあなたがたに言っておく
。わたしは羊の門である。*8*わたしよりも前
にきた人は、みな盗人であり、強盗である
。羊は彼らに聞き従わなかった。*9*わたし
は門である。わたしをとおってはいる者は
救われ、また出入りし、牧草にありつくで
あろう。*10*盗人が来るのは、盗んだり、殺
したり、滅ぼしたりするためにほかならな
い。わたしがきたのは、羊に命を得させ、
豊かに得させるためである。*11*わたしは
よい羊飼である。よい羊飼は、羊のために
命を捨てる。*12*羊飼ではなく、羊が自分
のものでもない雇人は、おおかみが来る
のを見ると、羊をすてて逃げ去る。そして
、おおかみは羊を奪い、また追い散らす。
*13*彼は雇人であって、羊のことを心にか
けていないからである。*14*わたしはよい
羊飼であって、わたしの羊を知り、わたし
の羊はまた、わたしを知っている。*15*それ
はちょうど、父がわたしを知っておられ、わ
たしが父を知っているのと同じである。そ
して、わたしは羊のために命を捨てるので
ある。*16*わたしにはまた、この囲いにいな
い他の羊がある。わたしは彼らをも導かね

ばならない。彼らも、わたしの声に聞き従
うであろう。そして、ついに一つの群れ、
ひとりの羊飼となるであろう。 *17*父は、わ
たしが自分の命を捨てるから、わたしを愛
して下さるのである。命を捨てるのは、そ
れを再び得るためである。 *18*だれかが、
わたしからそれを取り去るのではない。わ
たしが、自分からそれを捨てるのである。
わたしには、それを捨てる力があり、また
それを受ける力もある。これはわたしの父
から授かった定めである」。 *19*これらの言
葉を語られたため、ユダヤ人の間にまたも
分争が生じた。 *20*そのうちの多くの者が
言った、「彼は悪霊に取りつかれて、気が
狂っている。どうして、あなたがたはその
言うことを聞くのか」。 *21*他の人々は言っ
た、「それは悪霊に取りつかれた者の言
葉ではない。悪霊は盲人の目をあけること
ができようか」。 *22*そのころ、エルサレムで
宮きよめの祭が行われた。時は冬であっ
た。 *23*イエスは、宮の中にあるソロモンの
廊を歩いておられた。 *24*するとユダヤ人
たちが、イエスを取り囲んで言った、「いつ
までわたしたちを不安のままにしておくの
か。あなたがキリストであるなら、そうとはっ
きり言っていただきたい」。 *25*イエスは彼
らに答えられた、「わたしは話したのだが、
あなたがたは信じようとしない。わたしの
父の名によってしているすべてのわざが、
わたしのことをあかししている。 *26*あなた
がたが信じないのは、わたしの羊でない
からである。 *27*わたしの羊はわたしの声
に聞き従う。わたしは彼らを知っており、
彼らはわたしについて来る。 *28*わたしは、
彼らに永遠の命を与える。だから、彼らは
いつまでも滅びることがなく、また、彼らを
わたしの手から奪い去る者はない。 *29*わ
たしの父がわたしに下さったものは、すべ
てにまさるものである。そしてだれも父の
み手から、それを奪い取ることはできない
。 *30*わたしと父とは一つである」。 *31*そこ
でユダヤ人たちは、イエスを打ち殺そうと
して、また石を取りあげた。 *32*するとイエ
スは彼らに答えられた、「わたしは、父によ
る多くのよいわざを、あなたがたに示した
。その中のどのわざのために、わたしを石
で打ち殺そうとするのか」。 *33*ユダヤ人た
ちは答えた、「あなたを石で殺そうとする
のは、よいわざをしたからではなく、神を
汚したからである。また、あなたは人間で
あるのに、自分を神としているからである」
。 *34*イエスは彼らに答えられた、「あなた
がたの律法に、『わたしは言う、あなたが
たは神々である』と書いてあるではないか
。 *35*神の言を託された人々が、神々とい
われておるとすれば、（そして聖書の言は
、すたることがあり得ない） *36*父が聖別し
て、世につかわされた者が、『わたしは神
の子である』と言ったからとて、どうして『あ
なたは神を汚す者だ』と言うのか。 *37*もし
わたしが父のわざを行わないとすれば、
わたしを信じなくてもよい。 *38*しかし、もし
行っているなら、たといわたしを信じなくて
も、わたしのわざを信じるがよい。そうすれ
ば、父がわたしにおり、また、わたしが父
におることを知って悟るであろう」。 *39*そこ
で、彼らはまたイエスを捕えようとしたが、
イエスは彼らの手をのがれて、去って行か
れた。 *40*さて、イエスはまたヨルダンの向
こう岸、すなわち、ヨハネが初めにバプテ
スマを授けていた所に行き、そこに滞在し
ておられた。 *41*多くの人々がイエスのところ
にきて、互に言った、「ヨハネはなんのしる
しも行わなかったが、ヨハネがこのかた
について言ったことは、皆ほんとうであっ
た」。 *42*そして、そこで多くの者がイエスを
信じた。

11 さて、ひとりの病人がいた。ラザロとい
い、マリヤとその姉妹マルタの村ベタニヤ
の人であった。 *2*このマリヤは主に香油を
ぬり、自分の髪の毛で、主の足をふいた
女であって、病気であったのは、彼女の
兄弟ラザロであった。 *3*姉妹たちは人をイ
エスのもとにつかわして、「主よ、ただ今、
あなたが愛しておられる者が病気をして
います」と言わせた。 *4*イエスはそれを聞
いて言われた、「この病気は死ぬほどのも
のではない。それは神の栄光のため、ま
た、神の子がそれによって栄光を受ける
ためのものである」。 *5*イエスは、マルタと
その姉妹とラザロとを愛しておられた。 *6*ラ
ザロが病気であることを聞いてから、なお
ふつか、そのおられた所に滞在された。
*7*それから弟子たちに、「もう一度ユダヤ
に行こう」と言われた。 *8*弟子たちは言っ

た、「先生、ユダヤ人らが、さきほどもあな
たを石で殺そうとしていましたのに、また
そこに行かれるのですか」。 *9*イエスは答
えられた、「一日には十二時間あるではな
いか。昼間あるけば、人はつまずくことは
ない。この世の光を見ているからである。
*10*しかし、夜あるけば、つまずく。その人
のうちに、光がないからである」。 *11*そう言
われたが、それからまた、彼らに言われた
、「わたしたちの友ラザロが眠っている。わ
たしは彼を起しに行く」。 *12*すると弟子た
ちは言った、「主よ、眠っているのでしたら
、助かるでしょう」。 *13*イエスはラザロが死
んだことを言われたのであるが、弟子たち
は、眠って休んでいることをさして言われ
たのだと思った。 *14*するとイエスは、あか
らさまに彼らに言われた、「ラザロは死ん
だのだ。 *15*そして、わたしがそこにいあわ
せなかったことを、あなたがたのために喜
ぶ。それは、あなたがたが信じるようにな
るためである。では、彼のところに行こう」
。 *16*するとデドモと呼ばれているトマスが
、仲間の弟子たちに言った、「わたしたち
も行って、先生と一緒に死のうではないか
」。 *17*さて、イエスが行ってごらんになると
、ラザロはすでに四日間も墓の中に置か
れていた。 *18*ベタニヤはエルサレムに近
く、二十五丁ばかり離れたところにあった
。 *19*大ぜいのユダヤ人が、その兄弟のこ
とで、マルタとマリヤとを慰めようとしてきて
いた。 *20*マルタはイエスがこられたと聞い
て、出迎えに行ったが、マリヤは家ですわ
っていた。 *21*マルタはイエスに言った、
「主よ、もしあなたがここにいて下さったな
ら、わたしの兄弟は死ななかったでしょう。
*22*しかし、あなたがどんなことをお願いに
なっても、神はかなえて下さることを、わた
しは今でも存じています」。 *23*イエスはマ
ルタに言われた、「あなたの兄弟はよみが
えるであろう」。 *24*マルタは言った、「終り
の日のよみがえりの時よみがえることは、
存じています」。 *25*イエスは彼女に言わ
れた、「わたしはよみがえりであり、命であ
る。わたしを信じる者は、たとい死んでも
生きる。 *26*また、生きていて、わたしを信
じる者は、いつまでも死なない。あなたは
これを信じるか」。 *27*マルタはイエスに言
った、「主よ、信じます。あなたがこの世に
きたるべきキリスト、神の御子であると信じ
ております」。 *28*マルタはこう言ってから、
帰って姉妹のマリヤを呼び、「先生がおい
でになって、あなたを呼んでおられます」
と小声で言った。 *29*これを聞いたマリヤ
はすぐ立ち上がって、イエスのもとに行っ
た。 *30*イエスはまだ村に、はいってこられ
ず、マルタがお迎えしたその場所におら
れた。 *31*マリヤと一緒に家にいて彼女を
慰めていたユダヤ人たちは、マリヤが急
いで立ち上がって出て行くのを見て、彼
女は墓に泣きに行くのであろうと思い、そ
のあとからついて行った。 *32*マリヤは、イ
エスのおられる所に行ってお目にかかり、
その足もとにひれ伏して言った、「主よ、も
しあなたがここにいて下さったなら、わたし
の兄弟は死ななかったでしょう」。 *33*イエ
スは、彼女が泣き、また、彼女と一緒にき
たユダヤ人たちも泣いているのをごらんに
なり、激しく感動し、また心を騒がせ、そし
て言われた、 *34*「彼をどこに置いたのか」
。彼らはイエスに言った、「主よ、きて、ごら
ん下さい」。 *35*イエスは涙を流された。
*36*するとユダヤ人たちは言った、「ああ、
なんと彼を愛しておられたことか」。 *37*し
かし、彼らのある人たちは言った、「あの
盲人の目をあけたこの人でも、ラザロを死
なせないようには、できなかったのか」。
*38*イエスはまた激しく感動して、墓にはい
られた。それは洞穴であって、そこに石が
はめてあった。 *39*イエスは言われた、「石
を取りのけなさい」。死んだラザロの姉妹
マルタが言った、「主よ、もう臭くなっており
ます。四日もたっていますから」。 *40*イエ
スは彼女に言われた、「もし信じるなら神
の栄光を見るであろうと、あなたに言った
ではないか」。 *41*人々は石を取りのけた。
すると、イエスは目を天にむけて言われた
、「父よ、わたしの願いをお聞き下さったこ
とを感謝します。 *42*あなたがいつでもわ
たしの願いを聞きいれて下さることを、よく
知っています。しかし、こう申しますのは、
そばに立っている人々に、あなたがわた
しをつかわされたことを、信じさせるため
であります」。 *43*こう言いながら、大声で
「ラザロよ、出てきなさい」と呼ばわれた。
*44*すると、死人は手足を布でまかれ、顔
も顔おおいで包まれたまま、出てきた。

イエスは人々に言われた、「彼をほどいて
やって、帰らせなさい」。 *45*マリヤのところ
にきて、イエスのなさったことを見た多くの
ユダヤ人たちは、イエスを信じた。 *46*しか
し、そのうちの数人がパリサイ人たちのと
ころに行って、イエスのされたことを告げ
た。 *47*そこで、祭司長たちとパリサイ人た
ちとは、議会を召集して言った、「この人
が多くのしるしを行っているのに、お互は
何をしているのだ。 *48*もしこのままにして
おけば、みんなが彼を信じるようになるだ
ろう。そのうえ、ローマ人がやってきて、わ
たしたちの土地も人民も奪ってしまうであ
ろう」。 *49*彼らのうちのひとりで、その年の
大祭司であったカヤパが、彼らに言った、
「あなたがたは、何もわかっていないし、
*50*ひとりの人が人民に代って死んで、全
国民が滅びないようになるのがわたしたち
にとって得だということを、考えてもいない
」。 *51*このことは彼が自分から言ったので
はない。彼はこの年の大祭司であったので
、預言をして、イエスが国民のために、
*52*ただ国民のためだけではなく、また散
在している神の子らを一つに集めるために
、死ぬことになっていると、言ったのである
。 *53*彼らはこの日からイエスを殺そうと
相談した。 *54*そのためイエスは、もはや
公然とユダヤ人の間を歩かないで、そこを
出て、荒野に近い地方のエフライムという
町に行かれ、そこに弟子たちと一緒に滞
在しておられた。 *55*さて、ユダヤ人の過
越の祭が近づいたので、多くの人々は身
をきよめるために、祭の前に、地方からエ
ルサレムへ上った。 *56*人々はイエスを捜
し求め、宮の庭に立って互に言った、「あ
なたがたはどう思うか。イエスはこの祭にこ
ないのだろうか」。 *57*祭司長たちとパリサ
イ人たちとは、イエスを捕えようとして、そ
のいどころを知っている者があれば申し
出よ、という指令を出していた。

12 過越の祭の六日まえに、イエスはベ
タニヤに行かれた。そこは、イエスが死人
の中からよみがえらせたラザロのいた所で
ある。 *2*イエスのためにそこで夕食の用意
がされ、マルタは給仕をしていた。イエス
と一緒に食卓についていた者のうちに、ラ
ザロも加わっていた。 *3*その時、マリヤは
高価で純粋なナルドの香油一斤を持って
きて、イエスの足にぬり、自分の髪の毛で
それをふいた。すると、香油のかおりが家
にいっぱいになった。 *4*弟子のひとりで、
イエスを裏切ろうとしていたイスカリオテの
ユダが言った、 *5*「なぜこの香油を三百デ
ナリに売って、貧しい人たちに、施さなか
ったのか」。 *6*彼がこう言ったのは、貧しい
人たちに対する思いやりがあったからで
はなく、自分が盗人であり、財布を預かっ
ていて、その中身をごまかしていたからで
あった。 *7*イエスは言われた、「この女の
するままにさせておきなさい。わたしの葬
りの日のために、それをとっておいたのだ
から。 *8*貧しい人たちはいつもあなたがた
と共にいるが、わたしはいつも共にいるわ
けではない」。 *9*大ぜいのユダヤ人たちが
、そこにイエスのおられるのを知って、押
しよせてきた。それはイエスに会うためだ
けではなく、イエスが死人のなかから、よ
みがえらせたラザロを見るためでもあった
。 *10*そこで祭司長たちは、ラザロも殺そう
と相談した。 *11*それは、ラザロのことで、
多くのユダヤ人が彼らを離れ去って、イエ
スを信じるに至ったからである。 *12*その翌
日、祭にきていた大ぜいの群衆は、イエス
がエルサレムにこられると聞いて、 *13*しゅ
ろの枝を手にとり、迎えに出て行った。そ
して叫んだ、「ホサナ、イオウオ[iv]の御名に
よってきたる者に祝福あれ、イスラエルの
王に」。 *14*イエスは、ろばの子を見つけて
、その上に乗られた。それは *15*「シオンの
娘よ、恐れるな。見よ、あなたの王がろば
の子に乗っておいでになる」と書いてある
とおりであった。 *16*弟子たちは初めには
このことを悟らなかったが、イエスが栄光
を受けられた時に、このことがイエスにつ
いて書かれてあり、またそのとおりに、人
々がイエスに対してしたのだということを、
思い起した。 *17*また、イエスがラザロを墓
から呼び出して、死人の中からよみがえら
せたとき、イエスと一緒にいた群衆が、そ
のあかしをした。 *18*群衆がイエスを迎えに
出たのは、イエスがこのようなしるしを行わ
れたことを、聞いていたからである。 *19*そ
こで、パリサイ人たちは互に言った、「何を
してもむだだった。世をあげて彼のあとを
追って行ったではないか」。 *20*祭で礼拝

するために上ってきた人々のうちに、数人
のギリシヤ人がいた。 *21*彼らはガリラヤの
ベツサイダ出であるピリポのところにきて、
「君よ、イエスにお目にかかりたいのです
が」と言って頼んだ。 *22*ピリポはアンデレ
のところに行ってそのことを話し、アンデレ
とピリポは、イエスのもとに行って伝えた。
*23*すると、イエスは答えて言われた、「人
の子が栄光を受ける時がきた。 *24*よくよく
あなたがたに言っておく。一粒の麦が地
に落ちて死ななければ、それはただ一粒
のままである。しかし、もし死んだなら、豊
かに実を結ぶようになる。 *25*自分の命を
愛する者はそれを失い、この世で自分の
命を憎む者は、それを保って永遠の命に
至るであろう。 *26*もしわたしに仕えようとす
る人があれば、その人はわたしに従って
来るがよい。そうすれば、わたしのおる所
に、わたしに仕える者もまた、おるであろう
。もしわたしに仕えようとする人があれば、
その人を父は重んじて下さるであろう。
*27*今わたしは心が騒いでいる。わたしは
なんと言おうか。父よ、この時からわたしを
お救い下さい。しかし、わたしはこのため
に、この時に至ったのです。 *28*父よ、み
名があがめられますように」。すると天から
声があった、「わたしはすでに栄光をあら
わした。そして、更にそれをあらわすであ
ろう」。 *29*すると、そこに立っていた群衆
がこれを聞いて、「雷がなったのだ」と言い
、ほかの人たちは、「御使が彼に話しかけ
たのだ」と言った。 *30*イエスは答えて言わ
れた、「この声があったのは、わたしのた
めではなく、あなたがたのためである。
*31*今はこの世がさばかれる時である。今
こそこの世の君は追い出されるであろう。
*32*そして、わたしがこの地から上げられる
時には、すべての人をわたしのところに引
きよせるであろう」。 *33*イエスはこう言って
、自分がどんな死に方で死のうとしていた
かを、お示しになったのである。 *34*すると
群衆はイエスにむかって言った、「わたし
たちは律法によって、キリストはいつまで
も生きておいでになるのだ、と聞いていま
した。それだのに、どうして人の子は上げ
られねばならないと、言われるのですか。
その人の子とは、だれのことですか」。
*35*そこでイエスは彼らに言われた、「もう
しばらくの間、光はあなたがたと一緒にこ
こにある。光がある間に歩いて、やみに追
いつかれないようにしなさい。やみの中を
歩く者は、自分がどこへ行くのかわかって
いない。 *36*光のある間に、光の子となる
ために、光を信じなさい」。イエスはこれら
のことを話してから、そこを立ち去って、彼
らから身をお隠しになった。 *37*このように
多くのしるしを彼らの前でなさったが、彼ら
はイエスを信じなかった。 *38*それは、預
言者イザヤの次の言葉が成就するためで
ある、「イオウオ[v]よ、わたしたちの説くとこ
ろを、だれが信じたでしょうか。また、イオ
ウオ[vi]のみ腕はだれに示されたでしょうか」
。 *39*こういうわけで、彼らは信じることがで
きなかった。イザヤはまた、こうも言った、
40「神は彼らの目をくらまし、心をかたく
なになさった。それは、彼らが目で見ず、
心で悟らず、悔い改めていやされることが
ないためである」。 *41*イザヤがこう言った
のは、イエスの栄光を見たからであって、
イエスのことを語ったのである。 *42*しかし
、役人たちの中にも、イエスを信じた者が
多かったが、パリサイ人をはばかって、告
白はしなかった。会堂から追い出されるの
を恐れていたのである。 *43*彼らは神のほ
まれよりも、人のほまれを好んだからであ
る。 *44*イエスは大声で言われた、「わたし
を信じる者は、わたしを信じるのではなく、
わたしをつかわされたかたを信じるのであ
り、 *45*また、わたしを見る者は、わたしを
つかわされたかたを見るのである。 *46*わ
たしは光としてこの世にきた。それは、わ
たしを信じる者が、やみのうちにとどまらな
いようになるためである。 *47*たとい、わた
しの言うことを聞いてそれを守らない人が
あっても、わたしはその人をさばかない。
わたしがきたのは、この世をさばくためで
はなく、この世を救うためである。 *48*わた
しを捨てて、わたしの言葉を受けいれない
人には、その人をさばくものがある。わた
しの語ったその言葉が、終りの日にその
人をさばくであろう。 *49*わたしは自分から
語ったのではなく、わたしをつかわされた
父ご自身が、わたしの言うべきこと、語る
べきことをお命じになったのである。 *50*わ
たしは、この命令が永遠の命であることを
知っている。それゆえに、わたしが語って

いることは、わたしの父がわたしに仰せになったことを、そのまま語っているのである」。

13 過越の祭の前に、イエスは、この世を去って父のみもとに行くべき自分の時がきたことを知り、世にいる自分の者たちを愛して、彼らを最後まで愛し通された。 *2*夕食のとき、悪魔はすでにシモンの子イスカリオテのユダの心に、イエスを裏切ろうとする思いを入れていたが、 *3*イエスは、父がすべてのものを自分の手にお与えになったこと、また、自分は神から出てきて、神にかえろうとしていることを思い、 *4*夕食の席から立ち上がって、上着を脱ぎ、手ぬぐいをとって腰に巻き、 *5*それから水をたらいに入れて、弟子たちの足を洗い、腰に巻いた手ぬぐいでふき始められた。 *6*こうして、シモン・ペテロの番になった。すると彼はイエスに、「主よ、あなたがわたしの足をお洗いになるのですか」と言った。 *7*イエスは彼に答えて言われた、「わたしのしていることは今あなたにはわからないが、あとでわかるようになるだろう」。 *8*ペテロはイエスに言った、「わたしの足を決して洗わないで下さい」。イエスは彼に答えられた、「もしわたしがあなたの足を洗わないなら、あなたはわたしとなんの係わりもなくなる」。 *9*シモン・ペテロはイエスに言った、「主よ、では、足だけではなく、どうぞ、手も頭も」。 *10*イエスは彼に言われた、「すでにからだを洗った者は、足のほかは洗う必要がない。全身がきれいなのだから。あなたがたはきれいなのだ。しかし、みんながそうなのではない」。 *11*イエスは自分を裏切る者を知っておられた。それで、「みんながきれいなのではない」と言われたのである。 *12*こうして彼らの足を洗ってから、上着をつけ、ふたたび席にもどって、彼らに言われた、「わたしがあなたがたにしたことがわかるか。 *13*あなたがたはわたしを教師、また主と呼んでいる。そう言うのは正しい。わたしはそのとおりである。 *14*しかし、主であり、また教師であるわたしが、あなたがたの足を洗ったからには、あなたがたもまた、互に足を洗い合うべきである。 *15*わたしがあなたがたにしたとおりに、あなたがたもするように、わたしは手本を示したのだ。 *16*よくよくあなたがたに言っておく。僕はその主人にまさるものではなく、つかわされた者はつかわした者にまさるものではない。 *17*もしこれらのことがわかっていて、それを行うなら、あなたがたはさいわいである。 *18*あなたがた全部の者について、こう言っているのではない。わたしは自分が選んだ人たちを知っている。しかし、『わたしのパンを食べている者が、わたしにむかってそのかかとをあげた』とある聖書は成就されなければならない。 *19*そのことがまだ起らない今のうちに、あなたがたに言っておく。いよいよ事が起ったとき、わたしがそれであることを、あなたがたが信じるためである。 *20*よくよくあなたがたに言っておく。わたしがつかわす者を受けいれる者は、わたしを受けいれるのである。わたしを受けいれる者は、わたしをつかわされたかたを、受けいれるのである」。 *21*イエスがこれらのことを言われた後、その心が騒ぎ、おごそかに言われた、「よくよくあなたがたに言っておく。あなたがたのうちのひとりが、わたしを裏切ろうとしている」。 *22*弟子たちはだれのことを言われたのか察しかねて、互に顔を見合わせた。 *23*弟子たちのひとりで、イエスの愛しておられた者が、み胸に近く席についていた。 *24*そこで、シモン・ペテロは彼に合図をして言った、「だれのことをおっしゃったのか、知らせてくれ」。 *25*その弟子はそのままイエスの胸によりかかって、「主よ、だれのことですか」と尋ねると、 *26*イエスは答えられた、「わたしが一きれの食物をひたして与える者が、それである」。そして、一きれの食物をひたしてとり上げ、シモンの子イスカリオテのユダにお与えになった。 *27*この一きれの食物を受けるやいなや、サタンがユダにはいった。そこでイエスは彼に言われた、「しようとしていることを、今すぐするがよい」。 *28*席を共にしていた者のうち、なぜユダにこう言われたのか、わかっていた者はひとりもなかった。 *29*ある人々は、ユダが金入れをあずかっていたので、イエスが彼に、「祭のために必要なものを買え」と言われたか、あるいは、貧しい者に何か施させようとされたのだと思っていた。 *30*ユダは一きれの食物を受けると、すぐに出て行った。

時は夜であった。 *31*さて、彼が出て行くと
、イエスは言われた、「今や人の子は栄光
を受けた。神もまた彼によって栄光をお受
けになった。 *32*彼によって栄光をお受け
になったのなら、神ご自身も彼に栄光を
お授けになるであろう。すぐにもお授けに
なるであろう。 *33*子たちよ、わたしはまだ
しばらく、あなたがたと一緒にいる。あなた
がたはわたしを捜すだろうが、すでにユダ
ヤ人たちに言ったとおり、今あなたがたに
も言う、『あなたがたはわたしの行く所に来
ることはできない』。 *34*わたしは、新しいい
ましめをあなたがたに与える、互に愛し合
いなさい。わたしがあなたがたを愛したよ
うに、あなたがたも互に愛し合いなさい。
*35*互に愛し合うならば、それによって、あ
なたがたがわたしの弟子であることを、す
べての者が認めるであろう」。 *36*シモン・
ペテロがイエスに言った、「主よ、どこへお
いでになるのですか」。イエスは答えられ
た、「あなたはわたしの行くところに、今は
ついて来ることはできない。しかし、あとに
なってから、ついて来ることになろう」。
*37*ペテロはイエスに言った、「主よ、なぜ
、今あなたについて行くことができないの
ですか。あなたのためには、命も捨てます
」。 *38*イエスは答えられた、「わたしのため
に命を捨てると言うのか。よくよくあなたに
言っておく。鶏が鳴く前に、あなたはわた
しを三度知らないと言うであろう」。

14 「あなたがたは、心を騒がせないがよ
い。神を信じ、またわたしを信じなさい。
*2*わたしの父の家には、すまいがたくさん
ある。もしなかったならば、わたしはそう言
っておいたであろう。あなたがたのために
、場所を用意しに行くのだから。 *3*そして、
行って、場所の用意ができたならば、また
きて、あなたがたをわたしのところに迎え
よう。わたしのおる所にあなたがたもおら
せるためである。 *4*わたしがどこへ行くの
か、その道はあなたがたにわかっている」
。 *5*トマスはイエスに言った、「主よ、どこへ
おいでになるのか、わたしたちにはわかり
ません。どうしてその道がわかるでしょう」
。 *6*イエスは彼に言われた、「わたしは道
であり、真理であり、命である。だれでもわ
たしによらないでは、父のみもとに行くこと
はできない。 *7*もしあなたがたがわたしを
知っていたならば、わたしの父をも知った
であろう。しかし、今は父を知っており、ま
たすでに父を見たのである」。 *8*ピリポはイ
エスに言った、「主よ、わたしたちに父を
示して下さい。そうして下されば、わたした
ちは満足します」。 *9*イエスは彼に言われ
た、「ピリポよ、こんなに長くあなたがたと
一緒にいるのに、わたしがわかっていな
いのか。わたしを見た者は、父を見たので
ある。どうして、わたしたちに父を示してほ
しいと、言うのか。 *10*わたしが父におり、
父がわたしにおられることをあなたは信じ
ないのか。わたしがあなたがたに話してい
る言葉は、自分から話しているのではな
い。父がわたしのうちにおられて、みわざ
をなさっているのである。 *11*わたしが父に
おり、父がわたしにおられることを信じなさ
い。もしそれが信じられないならば、わざ
そのものによって信じなさい。 *12*よくよくあ
なたがたに言っておく。わたしを信じる者
は、またわたしのしているわざをするであ
ろう。そればかりか、もっと大きいわざをす
るであろう。わたしが父のみもとに行くから
である。 *13*わたしの名によって願うことは
、なんでもかなえてあげよう。父が子によ
って栄光をお受けになるためである。
*14*何事でもわたしの名によって願うなら
ば、わたしはそれをかなえてあげよう。
*15*もしあなたがたがわたしを愛するなら
ば、わたしのいましめを守るべきである。
*16*わたしは父にお願いしよう。そうすれば
、父は別に助け主を送って、いつまでもあ
なたがたと共におらせて下さるであろう。
*17*それは真理の御霊である。この世はそ
れを見ようともせず、知ろうともしないので
、それを受けることができない。あなたが
たはそれを知っている。なぜなら、それは
あなたがたと共におり、またあなたがたの
うちにいるからである。 *18*わたしはあなた
がたを捨てて孤児とはしない。あなたがた
のところに帰って来る。 *19*もうしばらくした
ら、世はもはやわたしを見なくなるだろう。
しかし、あなたがたはわたしを見る。わた
しが生きるので、あなたがたも生きるから
である。 *20*その日には、わたしはわたしの
父におり、あなたがたはわたしにおり、ま
た、わたしがあなたがたにおることが、

わかるであろう。 *21*わたしのいましめを心
にいだいてこれを守る者は、わたしを愛す
る者である。わたしを愛する者は、わたし
の父に愛されるであろう。わたしもその人
を愛し、その人にわたし自身をあらわすで
あろう」。 *22*イスカリオテでない方のユダ
がイエスに言った、「主よ、あなたご自身を
わたしたちにあらわそうとして、世にはあら
わそうとされないのはなぜですか」。 *23*イ
エスは彼に答えて言われた、「もしだれで
もわたしを愛するならば、わたしの言葉を
守るであろう。そして、わたしの父はその
人を愛し、また、わたしたちはその人のと
ころに行って、その人と一緒に住むであろ
う。 *24*わたしを愛さない者はわたしの言葉
を守らない。あなたがたが聞いている言葉
は、わたしの言葉ではなく、わたしをつか
わされた父の言葉である。 *25*これらのこと
は、あなたがたと一緒にいた時、すでに語
ったことである。 *26*しかし、助け主、すな
わち、父がわたしの名によってつかわされ
る聖霊は、あなたがたにすべてのことを教
え、またわたしが話しておいたことを、こと
ごとく思い起させるであろう。 *27*わたしは
平安をあなたがたに残して行く。わたしの
平安をあなたがたに与える。わたしが与え
るのは、世が与えるようなものとは異なる。
あなたがたは心を騒がせるな、またおじけ
るな。 *28*『わたしは去って行くが、またあ
なたがたのところに帰って来る』と、わたし
が言ったのを、あなたがたは聞いている。
もしわたしを愛しているなら、わたしが父
のもとに行くのを喜んでくれるであろう。父
がわたしより大きいかたであるからである。
*29*今わたしは、そのことが起らない先に
あなたがたに語った。それは、事が起った
時にあなたがたが信じるためである。
*30*わたしはもはや、あなたがたに、多くを
語るまい。この世の君が来るからである。
だが、彼はわたしに対して、なんの力もな
い。 *31*しかし、わたしが父を愛していること
を世が知るように、わたしは父がお命じ
になったとおりのことを行うのである。立て
。さあ、ここから出かけて行こう。

15 わたしはまことのぶどうの木、わたし
の父は農夫である。 *2*わたしにつながって
いる枝で実を結ばないものは、父がすべ
てこれをとりのぞき、実を結ぶものは、もっ
と豊かに実らせるために、手入れしてこれ
をきれいになさるのである。 *3*あなたがた
は、わたしが語った言葉によって既にきよ
くされている。 *4*わたしにつながっていな
さい。そうすれば、わたしはあなたがたと
つながっていよう。枝がぶどうの木につな
がっていなければ、自分だけでは実を結
ぶことができないように、あなたがたもわた
しにつながっていなければ実を結ぶこと
ができない。 *5*わたしはぶどうの木、あな
たがたはその枝である。もし人がわたしに
つながっており、またわたしがその人とつ
ながっておれば、その人は実を豊かに結
ぶようになる。わたしから離れては、あな
たがたは何一つできないからである。 *6*人
がわたしにつながっていないならば、枝の
ように外に投げすてられて枯れる。人々は
それをかき集め、火に投げ入れて、焼い
てしまうのである。 *7*あなたがたがわたしに
つながっており、わたしの言葉があなたが
たにとどまっているならば、なんでも望む
ものを求めるがよい。そうすれば、与えら
れるであろう。 *8*あなたがたが実を豊かに
結び、そしてわたしの弟子となるならば、
それによって、わたしの父は栄光をお受
けになるであろう。 *9*父がわたしを愛され
たように、わたしもあなたがたを愛したの
である。わたしの愛のうちにいなさい。
*10*もしわたしのいましめを守るならば、あ
なたがたはわたしの愛のうちにおるのであ
る。それはわたしがわたしの父のいましめ
を守ったので、その愛のうちにおるのと同
じである。 *11*わたしがこれらのことを話し
たのは、わたしの喜びがあなたがたのうち
にも宿るため、また、あなたがたの喜びが
満ちあふれるためである。 *12*わたしのい
ましめは、これである。わたしがあなたが
たを愛したように、あなたがたも互に愛し
合いなさい。 *13*人がその友のために自分
の命を捨てること、これよりも大きな愛はな
い。 *14*あなたがたにわたしが命じることを
行うならば、あなたがたはわたしの友であ
る。 *15*わたしはもう、あなたがたを僕とは
呼ばない。僕は主人のしていることを知ら
ないからである。わたしはあなたがたを友
と呼んだ。わたしの父から聞いたことを皆
、あなたがたに知らせたからである。

*16*あなたがたがわたしを選んだのではない。わたしがあなたがたを選んだのである。そして、あなたがたを立てた。それは、あなた がたが行って実をむすび、その実がいつまでも残るためであり、また、あなたがたがわたしの名によって父に求めるものはなんでも、父が与えて下さるためである。 *17*これらのことを命じるのは、あなたがたが互に愛し合うためである。 *18*もしこの世があなたがたを憎むならば、あなたがたよりも先にわたしを憎んだことを、知っておくがよい。 *19*もしあなたがたがこの世から出たものであったなら、この世は、あなたがたを自分のものとして愛したであろう。しかし、あなたがたはこの世のものではない。かえって、わたしがあなたがたをこの世から選び出したのである。だから、この世はあなたがたを憎むのである。 *20*わたしがあなたがたに『僕はその主人にまさるものではない』と言ったことを、おぼえていなさい。もし人々がわたしを迫害したなら、あなたがたをも迫害するであろう。また、もし彼らがわたしの言葉を守っていたなら、あなたがたの言葉をも守るであろう。
*21*彼らはわたしの名のゆえに、あなたがたに対してすべてそれらのことをするであろう。それは、わたしをつかわされたかたを彼らが知らないからである。 *22*もしわたしがきて彼らに語らなかったならば、彼らは罪を犯さないですんだであろう。しかし今となっては、彼らには、その罪について言いのがれる道がない。 *23*わたしを憎む者は、わたしの父をも憎む。 *24*もし、ほかのだれもがしなかったようなわざを、わたしが彼らの間でしなかったならば、彼らは罪を犯さないですんだであろう。しかし事実、彼らはわたしとわたしの父とを見て、憎んだのである。 *25*それは、『彼らは理由なしにわたしを憎んだ』と書いてある彼らの律法の言葉が成就するためである。
*26*わたしが父のみもとからあなたがたにつかわそうとしている助け主、すなわち、父のみもとから来る真理の御霊が下る時、それはわたしについてあかしをするであろう。 *27*あなたがたも、初めからわたしと一緒にいたのであるから、あかしをするのである。

16 わたしがこれらのことを語ったのは、あなたがたがつまずくことのないためである。 *2*人々はあなたがたを会堂から追い出すであろう。更にあなたがたを殺す者がみな、それによって自分たちは神に仕えているのだと思う時が来るであろう。
*3*彼らがそのようなことをするのは、父をもわたしをも知らないからである。 *4*わたしがあなたがたにこれらのことを言ったのは、彼らの時がきた場合、わたしが彼らについて言ったことを、思い起させるためである。これらのことを初めから言わなかったのは、わたしがあなたがたと一緒にいたからである。 *5*けれども今わたしは、わたしをつかわされたかたのところに行こうとしている。しかし、あなたがたのうち、だれも『どこへ行くのか』と尋ねる者はない。 *6*かえって、わたしがこれらのことを言ったために、あなたがたの心は憂いで満たされている。 *7*しかし、わたしはほんとうのことをあなたがたに言うが、わたしが去って行くことは、あなたがたの益になるのだ。わたしが去って行かなければ、あなたがたのところに助け主はこないであろう。もし行けば、それをあなたがたにつかわそう。
*8*それがきたら、罪と義とさばきとについて、世の人の目を開くであろう。 *9*罪についてと言ったのは、彼らがわたしを信じないからである。 *10*義についてと言ったのは、わたしが父のみもとに行き、あなたがたは、もはやわたしを見なくなるからである。
*11*さばきについてと言ったのは、この世の君がさばかれるからである。 *12*わたしには、あなたがたに言うべきことがまだ多くあるが、あなたがたは今はそれに堪えられない。 *13*けれども真理の御霊が来る時には、あなたがたをあらゆる真理に導いてくれるであろう。それは自分から語るのではなく、その聞くところを語り、きたるべき事をあなたがたに知らせるであろう。 *14*御霊はわたしに栄光を得させるであろう。わたしのものを受けて、それをあなたがたに知らせるからである。 *15*父がお持ちになっているものはみな、わたしのものである。御霊はわたしのものを受けて、それをあなたがたに知らせるのだと、わたしが言ったのは、そのためである。 *16*しばらくすれば、あなたがたはもうわたしを見なくなる。

しかし、またしばらくすれば、わたしに会えるであろう」。 *17*そこで、弟子たちのうちのある者は互に言い合った、「『しばらくすれば、わたしを見なくなる。またしばらくすれば、わたしに会えるであろう』と言われ、『わたしの父のところに行く』と言われたのは、いったい、どういうことなのであろう」。 *18*彼らはまた言った、「『しばらくすれば』と言われるのは、どういうことか。わたしたちには、その言葉の意味がわからない」。 *19*イエスは、彼らが尋ねたがっていることに気がついて、彼らに言われた、「しばらくすればわたしを見なくなる、またしばらくすればわたしに会えるであろうと、わたしが言ったことで、互に論じ合っているのか。 *20*よくよくあなたがたに言っておく。あなたがたは泣き悲しむが、この世は喜ぶであろう。あなたがたは憂えているが、その憂いは喜びに変るであろう。 *21*女が子を産む場合には、その時がきたというので、不安を感じる。しかし、子を産んでしまえば、もはやその苦しみをおぼえてはいない。ひとりの人がこの世に生れた、という喜びがあるためである。 *22*このように、あなたがたにも今は不安がある。しかし、わたしは再びあなたがたと会うであろう。そして、あなたがたの心は喜びに満たされるであろう。その喜びをあなたがたから取り去る者はいない。 *23*その日には、あなたがたがわたしに問うことは、何もないであろう。よくよくあなたがたに言っておく。あなたがたが父に求めるものはなんでも、わたしの名によって下さるであろう。 *24*今までは、あなたがたはわたしの名によって求めたことはなかった。求めなさい、そうすれば、与えられるであろう。そして、あなたがたの喜びが満ちあふれるであろう。 *25*わたしはこれらのことを比喩で話したが、もはや比喩では話さないで、あからさまに、父のことをあなたがたに話してきかせる時が来るであろう。 *26*その日には、あなたがたは、わたしの名によって求めるであろう。わたしは、あなたがたのために父に願ってあげようとは言うまい。 *27*父ご自身があなたがたを愛しておいでになるからである。それは、あなたがたがわたしを愛したため、また、わたしが神のみもとからきたことを信じたためである。 *28*わたしは父から出てこの世にきたが、またこの世を去って、父のみもとに行くのである」。 *29*弟子たちは言った、「今はあからさまにお話しになって、少しも比喩ではお話しになりません。 *30*あなたはすべてのことをご存じであり、だれもあなたにお尋ねする必要のないことが、今わかりました。このことによって、わたしたちはあなたが神からこられたかたであると信じます」。 *31*イエスは答えられた、「あなたがたは今信じているのか。 *32*見よ、あなたがたは散らされて、それぞれ自分の家に帰り、わたしをひとりだけ残す時が来るであろう。いや、すでにきている。しかし、わたしはひとりでいるのではない。父がわたしと一緒におられるのである。 *33*これらのことをあなたがたに話したのは、わたしにあって平安を得るためである。あなたがたは、この世ではなやみがある。しかし、勇気を出しなさい。わたしはすでに世に勝っている」。

17 これらのことを語り終えると、イエスは天を見あげて言われた、「父よ、時がきました。あなたの子があなたの栄光をあらわすように、子の栄光をあらわして下さい。 *2*あなたは、子に賜わったすべての者に、永遠の命を授けさせるため、万民を支配する権威を子にお与えになったのですから。 *3*永遠の命とは、唯一の、まことの神でいますあなたと、また、あなたがつかわされたイエス・キリストとを知ることであります。 *4*わたしは、わたしにさせるためにお授けになったわざをなし遂げて、地上であなたの栄光をあらわしました。 *5*父よ、世が造られる前に、わたしがみそばで持っていた栄光で、今み前にわたしを輝かせて下さい。 *6*わたしは、あなたが世から選んでわたしに賜わった人々に、み名をあらわしました。彼らはあなたのものでありましたが、わたしに下さいました。そして、彼らはあなたの言葉を守りました。 *7*いま彼らは、わたしに賜わったものはすべて、あなたから出たものであることを知りました。 *8*なぜなら、わたしはあなたからいただいた言葉を彼らに与え、そして彼らはそれを受け、わたしがあなたから出たものであることをほんとうに知り、また、あなたがわたしをつかわされたことを信じるに至った

からです。 *9*わたしは彼らのためにお願い
します。わたしがお願いするのは、この世
のためにではなく、あなたがわたしに賜わ
った者たちのためです。彼らはあなたのも
のなのです。 *10*わたしのものは皆あなた
のもの、あなたのものはわたしのものです
。そして、わたしは彼らによって栄光を受
けました。 *11*わたしはもうこの世にはいな
くなりますが、彼らはこの世に残っており、
わたしはみもとに参ります。聖なる父よ、わ
たしに賜わった御名によって彼らを守って
下さい。それはわたしたちが一つであるよ
うに、彼らも一つになるためであります。
*12*わたしが彼らと一緒にいた間は、あな
たからいただいた御名によって彼らを守り
、また保護してまいりました。彼らのうち、
だれも滅びず、ただ滅びの子だけが滅び
ました。それは聖書が成就するためでし
た。 *13*今わたしはみもとに参ります。そし
て世にいる間にこれらのことを語るのは、
わたしの喜びが彼らのうちに満ちあふれ
るためであります。 *14*わたしは彼らに御言
を与えましたが、世は彼らを憎みました。
わたしが世のものでないように、彼らも世
のものではないからです。 *15*わたしがお
願いするのは、彼らを世から取り去ること
ではなく、彼らを悪しき者から守って下さ
ることであります。 *16*わたしが世のもので
ないように、彼らも世のものではありません
。 *17*真理によって彼らを聖別して下さい。
あなたの御言は真理であります。 *18*あな
たがわたしを世につかわされたように、わ
たしも彼らを世につかわしました。 *19*また
彼らが真理によって聖別されるように、彼
らのためわたし自身を聖別いたします。
*20*わたしは彼らのためばかりではなく、彼
らの言葉を聞いてわたしを信じている人
々のためにも、お願いいたします。 *21*父
よ、それは、あなたがわたしのうちにおら
れ、わたしがあなたのうちにいるように、み
んなの者が一つとなるためであります。す
なわち、彼らをもわたしたちのうちにおら
せるためであり、それによって、あなたが
わたしをおつかわしになったことを、世が
信じるようになるためであります。 *22*わた
しは、あなたからいただいた栄光を彼らに
も与えました。それは、わたしたちが一つ
であるように、彼らも一つになるためであり
ます。 *23*わたしが彼らにおり、あなたがわ
たしにいますのは、彼らが完全に一つと
なるためであり、また、あなたがわたしをつ
かわし、わたしを愛されたように、彼らをお
愛しになったことを、世が知るためであり
ます。 *24*父よ、あなたがわたしに賜わった
人々が、わたしのいる所に一緒にいるよう
にして下さい。天地が造られる前からわた
しを愛して下さって、わたしに賜わった栄
光を、彼らに見させて下さい。 *25*正しい
父よ、この世はあなたを知っていません。
しかし、わたしはあなたを知り、また彼らも
、あなたがわたしをおつかわしになったこ
とを知っています。 *26*そしてわたしは彼ら
に御名を知らせました。またこれからも知
らせましょう。それは、あなたがわたしを愛
して下さったその愛が彼らのうちにあり、ま
たわたしも彼らのうちにおるためであります」。

18 イエスはこれらのことを語り終えて、弟
子たちと一緒にケデロンの谷の向こうへ
行かれた。そこには園があって、イエスは
弟子たちと一緒にその中にはいられた。
*2*イエスを裏切ったユダは、その所をよく
知っていた。イエスと弟子たちとがたびた
びそこで集まったことがあるからである。
*3*さてユダは、一隊の兵卒と祭司長やパリ
サイ人たちの送った下役どもを引き連れ、
たいまつやあかりや武器を持って、そこへ
やってきた。 *4*しかしイエスは、自分の身
に起ろうとすることをことごとく承知して
おられ、進み出て彼らに言われた、「だれを
捜しているのか」。 *5*彼らは「ナザレのイエ
スを」と答えた。イエスは彼らに言われた、
「わたしが、それである」。イエスを裏切っ
たユダも、彼らと一緒に立っていた。 *6*イ
エスが彼らに「わたしが、それである」と言
われたとき、彼らはうしろに引きさがって地
に倒れた。 *7*そこでまた彼らに、「だれを
捜しているのか」とお尋ねになると、彼ら
は「ナザレのイエスを」と言った。 *8*イエス
は答えられた、「わたしがそれであると、言
ったではないか。わたしを捜しているのな
ら、この人たちを去らせてもらいたい」。
*9*それは、「あなたが与えて下さった人た
ちの中のひとりも、わたしは失わなかった」
とイエスの言われた言葉が、成就するた

めである。 *10*シモン・ペテロは剣を持って
いたが、それを抜いて、大祭司の僕に切
りかかり、その右の耳を切り落した。その
僕の名はマルコスであった。 *11*すると、イ
エスはペテロに言われた、「剣をさやに納
めなさい。父がわたしに下さった杯は、飲
むべきではないか」。 *12*それから一隊の
兵卒やその千卒長やユダヤ人の下役ども
が、イエスを捕え、縛りあげて、 *13*まずア
ンナスのところに引き連れて行った。彼は
その年の大祭司カヤパのしゅうとであった
。 *14*カヤパは前に、ひとりの人が民のた
めに死ぬのはよいことだと、ユダヤ人に助
言した者であった。 *15*シモン・ペテロともう
ひとりの弟子とが、イエスについて行った
。この弟子は大祭司の知り合いであった
ので、イエスと一緒に大祭司の中庭には
いった。 *16*しかし、ペテロは外で戸口に
立っていた。すると大祭司の知り合いであ
るその弟子が、外に出て行って門番の女
に話し、ペテロを内に入れてやった。
*17*すると、この門番の女がペテロに言っ
た、「あなたも、あの人の弟子のひとりでは
ありませんか」。ペテロは「いや、そうでは
ない」と答えた。 *18*僕や下役どもは、寒い
時であったので、炭火をおこし、そこに立
ってあたっていた。ペテロもまた彼らに交
じり、立ってあたっていた。 *19*大祭司はイ
エスに、弟子たちのことやイエスの教のこ
とを尋ねた。 *20*イエスは答えられた、「わ
たしはこの世に対して公然と語ってきた。
すべてのユダヤ人が集まる会堂や宮で、
いつも教えていた。何事も隠れて語ったこ
とはない。 *21*なぜ、わたしに尋ねるのか。
わたしが彼らに語ったことは、それを聞い
た人々に尋ねるがよい。わたしの言ったこ
とは、彼らが知っているのだから」。 *22*イ
エスがこう言われると、そこに立っていた
下役のひとりが、「大祭司にむかって、そ
のような答をするのか」と言って、平手でイ
エスを打った。 *23*イエスは答えられた、
「もしわたしが何か悪いことを言ったのなら
、その悪い理由を言いなさい。しかし、正
しいことを言ったのなら、なぜわたしを打
つのか」。 *24*それからアンナスは、イエス
を縛ったまま大祭司カヤパのところへ送っ
た。 *25*シモン・ペテロは、立って火にあた
っていた。すると人々が彼に言った、「あ
なたも、あの人の弟子のひとりではないか
」。彼はそれをうち消して、「いや、そうで
はない」と言った。 *26*大祭司の僕のひとり
で、ペテロに耳を切りおとされた人の親族
の者が言った、「あなたが園であの人と一
緒にいるのを、わたしは見たではないか」
。 *27*ペテロはまたそれを打ち消した。する
とすぐに、鶏が鳴いた。 *28*それから人々
は、イエスをカヤパのところから官邸につ
れて行った。時は夜明けであった。彼らは
、けがれを受けないで過越の食事ができ
るように、官邸にはいらなかった。 *29*そこ
で、ピラトは彼らのところに出てきて言った
、「あなたがたは、この人に対してどんな
訴えを起すのか」。 *30*彼らはピラトに答え
て言った、「もしこの人が悪事をはたらか
なかったなら、あなたに引き渡すようなこと
はしなかったでしょう」。 *31*そこでピラトは
彼らに言った、「あなたがたは彼を引き取
って、自分たちの律法でさばくがよい」。
ユダヤ人らは彼に言った、「わたしたちに
は、人を死刑にする権限がありません」。
*32*これは、ご自身がどんな死にかたをし
ようとしているかを示すために言われたイ
エスの言葉が、成就するためである。
*33*さて、ピラトはまた官邸にはいり、イエス
を呼び出して言った、「あなたは、ユダヤ
人の王であるか」。 *34*イエスは答えられた
、「あなたがそう言うのは、自分の考えから
か。それともほかの人々が、わたしのこと
をあなたにそう言ったのか」。 *35*ピラトは
答えた、「わたしはユダヤ人なのか。あな
たの同族や祭司長たちが、あなたをわた
しに引き渡したのだ。あなたは、いったい
、何をしたのか」。 *36*イエスは答えられた
、「わたしの国はこの世のものではない。
もしわたしの国がこの世のものであれば、
わたしに従っている者たちは、わたしをユ
ダヤ人に渡さないように戦ったであろう。し
かし事実、わたしの国はこの世のものでは
ない」。 *37*そこでピラトはイエスに言った、
「それでは、あなたは王なのだな」。イエス
は答えられた、「あなたの言うとおり、わた
しは王である。わたしは真理についてあ
かしをするために生れ、また、そのために
この世にきたのである。だれでも真理につ
く者は、わたしの声に耳を傾ける」。 *38*ピ
ラトはイエスに言った、「真理とは何か」。

こう言って、彼はまたユダヤ人の所に出て
行き、彼らに言った、「わたしには、この人
になんの罪も見いだせない。 *39*過越の時
には、わたしがあなたがたのために、ひと
りの人を許してやるのが、あなたがたのし
きたりになっている。ついては、あなたが
たは、このユダヤ人の王を許してもらいた
いのか」。 *40*すると彼らは、また叫んで「そ
の人ではなく、バラバを」と言った。このバ
ラバは強盗であった。

19 そこでピラトは、イエスを捕え、むちで
打たせた。 *2*兵卒たちは、いばらで冠をあ
んで、イエスの頭にかぶらせ、紫の上着を
着せ、 *3*それから、その前に進み出て、
「ユダヤ人の王、ばんざい」と言った。そし
て平手でイエスを打ちつづけた。 *4*すると
ピラトは、また出て行ってユダヤ人たちに
言った、「見よ、わたしはこの人をあなたが
たの前に引き出すが、それはこの人にな
んの罪も見いだせないことを、あなたがた
に知ってもらうためである」。 *5*イエスはい
ばらの冠をかぶり、紫の上着を着たままで
外へ出られると、ピラトは彼らに言った、
「見よ、この人だ」。 *6*祭司長たちや下役ど
もはイエスを見ると、叫んで「十字架につ
けよ、十字架につけよ」と言った。ピラトは
彼らに言った、「あなたがたが、この人を
引き取って十字架につけるがよい。わたし
は、彼にはなんの罪も見いだせない」。
*7*ユダヤ人たちは彼に答えた、「わたした
ちには律法があります。その律法によれ
ば、彼は自分を神の子としたのだから、死
罪に当る者です」。 *8*ピラトがこの言葉を
聞いたとき、ますますおそれ、 *9*もう一度
官邸にはいってイエスに言った、「あなた
は、もともと、どこからきたのか」。しかし、イ
エスはなんの答もなさらなかった。 *10*そこ
でピラトは言った、「何も答えないのか。わ
たしには、あなたを許す権威があり、また
十字架につける権威があることを、知らな
いのか」。 *11*イエスは答えられた、「あなた
は、上から賜わるのでなければ、わたしに
対してなんの権威もない。だから、わたし
をあなたに引き渡した者の罪は、もっと大
きい」。 *12*これを聞いて、ピラトはイエスを
許そうと努めた。しかしユダヤ人たちが叫
んで言った、「もしこの人を許したなら、あ
なたはカイザルの味方ではありません。自
分を王とするものはすべて、カイザルにそ
むく者です」。 *13*ピラトはこれらの言葉を
聞いて、イエスを外へ引き出して行き、敷
石（ヘブル語ではガバタ）という場所で裁
判の席についた。 *14*その日は過越の準
備の日であって、時は昼の十二時ころで
あった。ピラトはユダヤ人らに言った、「見
よ、これがあなたがたの王だ」。 *15*すると
彼らは叫んだ、「殺せ、殺せ、彼を十字架
につけよ」。ピラトは彼らに言った、「あな
たがたの王を、わたしが十字架につける
のか」。祭司長たちは答えた、「わたしたち
には、カイザル以外に王はありません」。
*16*そこでピラトは、十字架につけさせるた
めに、イエスを彼らに引き渡した。彼らは
イエスを引き取った。 *17*イエスはみずから
十字架を背負って、されこうべ（ヘブル語
ではゴルゴダ）という場所に出て行かれた
。 *18*彼らはそこで、イエスを十字架につけ
た。イエスをまん中にして、ほかのふたり
の者を両側に、イエスと一緒に十字架に
つけた。 *19*ピラトは罪状書きを書いて、十
字架の上にかけさせた。それには「ユダヤ
人の王、ナザレのイエス」と書いてあった。
*20*イエスが十字架につけられた場所は
都に近かったので、多くのユダヤ人がこの
罪状書きを読んだ。それはヘブル、ロー
マ、ギリシヤの国語で書いてあった。 *21*ユ
ダヤ人の祭司長たちがピラトに言った、
「『ユダヤ人の王』と書かずに、『この人は
ユダヤ人の王と自称していた』と書いてほ
しい」。 *22*ピラトは答えた、「わたしが書い
たことは、書いたままにしておけ」。 *23*さて
、兵卒たちはイエスを十字架につけてか
ら、その上着をとって四つに分け、おのお
の、その一つを取った。また下着を手に
取ってみたが、それには縫い目がなく、上
の方から全部一つに織ったものであった
。 *24*そこで彼らは互に言った、「それを裂
かないで、だれのものになるか、くじを引
こう」。これは、「彼らは互にわたしの上着
を分け合い、わたしの衣をくじ引にした」と
いう聖書が成就するためで、兵卒たちは
そのようにしたのである。 *25*さて、イエスの
十字架のそばには、イエスの母と、母の
姉妹と、クロパの妻マリヤと、マグダラのマ
リヤとが、たたずんでいた。 *26*イエスは、

その母と愛弟子とがそばに立っているのをごらんになって、母にいわれた、「婦人よ、ごらんなさい。これはあなたの子です」。 *27*それからこの弟子に言われた、「ごらんなさい。これはあなたの母です」。そのとき以来、この弟子はイエスの母を自分の家に引きとった。 *28*そののち、イエスは今や万事が終ったことを知って、「わたしは、かわく」と言われた。それは、聖書が全うされるためであった。 *29*そこに、酢いぶどう酒がいっぱい入れてある器がおいてあったので、人々は、このぶどう酒を含ませた海綿をヒソプの茎に結びつけて、イエスの口もとにさし出した。 *30*すると、イエスはそのぶどう酒を受けて、「すべてが終った」と言われ、首をたれて息をひきとられた。
*31*さてユダヤ人たちは、その日が準備の日であったので、安息日に死体を十字架の上に残しておくまいと、(特にその安息日は大事な日であったから)、ピラトに願って、足を折った上で、死体を取りおろすことにした。 *32*そこで兵卒らがきて、イエスと一緒に十字架につけられた初めの者と、もうひとりの者との足を折った。 *33*しかし、彼らがイエスのところにきた時、イエスはもう死んでおられたのを見て、その足を折ることはしなかった。 *34*しかし、ひとりの兵卒がやりでそのわきを突きさすと、すぐ血と水とが流れ出た。 *35*それを見た者があかしをした。そして、そのあかしは真実である。その人は、自分が真実を語っていることを知っている。それは、あなたがたも信ずるようになるためである。 *36*これらのことが起ったのは、「その骨はくだかれないであろう」との聖書の言葉が、成就するためである。 *37*また聖書のほかのところに、「彼らは自分が刺し通した者を見るであろう」とある。 *38*そののち、ユダヤ人をはばかって、ひそかにイエスの弟子となったアリマタヤのヨセフという人が、イエスの死体を取りおろしたいと、ピラトに願い出た。ピラトはそれを許したので、彼はイエスの死体を取りおろしに行った。 *39*また、前に、夜、イエスのみもとに行ったニコデモも、没薬と沈香とをまぜたものを百斤ほど持ってきた。 *40*彼らは、イエスの死体を取りおろし、ユダヤ人の埋葬の習慣にしたがって、香料を入れて亜麻布で巻いた。
*41*イエスが十字架にかけられた所には、一つの園があり、そこにはまだだれも葬られたことのない新しい墓があった。 *42*その日はユダヤ人の準備の日であったので、その墓が近くにあったため、イエスをそこに納めた。

20 さて、一週の初めの日に、朝早くまだ暗いうちに、マグダラのマリヤが墓に行くと、墓から石がとりのけてあるのを見た。 *2*そこで走って、シモン・ペテロとイエスが愛しておられた、もうひとりの弟子のところへ行って、彼らに言った、「だれかが、主を墓から取り去りました。どこへ置いたのか、わかりません」。 *3*そこでペテロともうひとりの弟子は出かけて、墓へむかって行った。
*4*ふたりは一緒に走り出したが、そのもうひとりの弟子の方が、ペテロよりも早く走って先に墓に着き、 *5*そして身をかがめてみると、亜麻布がそこに置いてあるのを見たが、中へははいらなかった。 *6*シモン・ペテロも続いてきて、墓の中にはいった。彼は亜麻布がそこに置いてあるのを見たが、 *7*イエスの頭に巻いてあった布は亜麻布のそばにはなくて、はなれた別の場所にくるめてあった。 *8*すると、先に墓に着いたもうひとりの弟子もはいってきて、これを見て信じた。 *9*しかし、彼らは死人のうちからイエスがよみがえるべきことをしるした聖句を、まだ悟っていなかった。 *10*それから、ふたりの弟子たちは自分の家に帰って行った。 *11*しかし、マリヤは墓の外に立って泣いていた。そして泣きながら、身をかがめて墓の中をのぞくと、 *12*白い衣を着たふたりの御使が、イエスの死体のおかれていた場所に、ひとりは頭の方に、ひとりは足の方に、すわっているのを見た。 *13*すると、彼らはマリヤに、「女よ、なぜ泣いているのか」と言った。マリヤは彼らに言った、「だれかが、わたしの主を取り去りました。そして、どこに置いたのか、わからないのです」。 *14*そう言って、うしろをふり向くと、そこにイエスが立っておられるのを見た。しかし、それがイエスであることに気がつかなかった。 *15*イエスは女に言われた、「女よ、なぜ泣いているのか。だれを捜しているのか」。マリヤは、その人が園の番人だと思って言った、「もしあ

なたが、あのかたを移したのでしたら、どこへ置いたのか、どうぞ、おっしゃって下さい。わたしがそのかたを引き取ります」。
*16*イエスは彼女に「マリヤよ」と言われた。マリヤはふり返って、イエスにむかってヘブル語で「ラボニ」と言った。それは、先生という意味である。 *17*イエスは彼女に言われた、「わたしにさわってはいけない。わたしは、まだ父のみもとに上っていないのだから。ただ、わたしの 兄弟たちの所に行って、『わたしは、わたしの父またあなたがたの父であって、わたしの神またあなたがたの神であられるかたのみもとへ上って行く』と、彼らに伝えなさい」。 *18*マグダラのマリヤは弟子たちのところに行って、自分が主に会ったこと、またイエスがこれこれのことを自分に仰せになったことを、報告した。 *19*その日、すなわち、一週の初めの日の夕方、弟子たちはユダヤ人をおそれて、自分たちのおる所の戸をみなしめていると、イエスがはいってきて、彼らの中に立ち、「安かれ」と言われた。 *20*そう言って、手とわきとを、彼らにお見せになった。弟子たちは主を見て喜んだ。
*21*イエスはまた彼らに言われた、「安かれ。父がわたしをおつかわしになったように、わたしもまたあなたがたをつかわす」。
*22*そう言って、彼らに息を吹きかけて仰せになった、「聖霊を受けよ。 *23*あなたがたがゆるす罪は、だれの罪でもゆるされ、あなたがたがゆるさずにおく罪は、そのまま残るであろう」。 *24*十二弟子のひとりで、デドモと呼ばれているトマスは、イエスがこられたとき、彼らと一緒にいなかった。 *25*ほかの弟子たちが、彼に「わたしたちは主にお目にかかった」と言うと、トマスは彼らに言った、「わたしは、その手に釘あとを見、わたしの指をその釘あとにさし入れ、また、わたしの手をそのわきにさし入れてみなければ、決して信じない」。 *26*八日ののち、イエスの弟子たちはまた家の内におり、トマスも一緒にいた。戸はみな閉ざされていたが、イエスがはいってこられ、中に立って「安かれ」と言われた。
*27*それからトマスに言われた、「あなたの指をここにつけて、わたしの手を見なさい。手をのばしてわたしのわきにさし入れてみなさい。信じない者にならないで、信じる者になりなさい」。 *28*トマスはイエスに答えて言った、「わが主よ、わが神よ」。 *29*イエスは彼に言われた、「あなたはわたしを見たので信じたのか。見ないで信ずる者は、さいわいである」。 *30*イエスは、この書に書かれていないしるしを、ほかにも多く、弟子たちの前で行われた。 *31*しかし、これらのことを書いたのは、あなたがたがイエスは神の子キリストであると信じるためであり、また、そう信じて、イエスの名によって命を得るためである。

21 そののち、イエスはテベリヤの海べで、ご自身をまた弟子たちにあらわされた。そのあらわされた次第は、こうである。 *2*シモン・ペテロが、デドモと呼ばれているトマス、ガリラヤのカナのナタナエル、ゼベダイの子らや、ほかのふたりの弟子たちと一緒にいた時のことである。 *3*シモン・ペテロは彼らに「わたしは漁に行くのだ」と言うと、彼らは「わたしたちも一緒に行こう」と言った。彼らは出て行って舟に乗った。しかし、その夜はなんの獲物もなかった。 *4*夜が明けたころ、イエスが岸に立っておられた。しかし弟子たちはそれがイエスだとは知らなかった。 *5*イエスは彼らに言われた、「子たちよ、何か食べるものがあるか」。彼らは「ありません」と答えた。 *6*すると、イエスは彼らに言われた、「舟の右の方に網をおろして見なさい。そうすれば、何かとれるだろう」。彼らは網をおろすと、魚が多くとれたので、それを引き上げることができなかった。 *7*イエスの愛しておられた弟子が、ペテロに「あれは主だ」と言った。シモン・ペテロは主であると聞いて、裸になっていたため、上着をまとって海にとびこんだ。 *8*しかし、ほかの弟子たちは舟に乗ったまま、魚のはいっている網を引きながら帰って行った。陸からはあまり遠くない五十間ほどの所にいたからである。
*9*彼らが陸に上って見ると、炭火がおこしてあって、その上に魚がのせてあり、またそこにパンがあった。 *10*イエスは彼らに言われた、「今とった魚を少し持ってきなさい」。 *11*シモン・ペテロが行って、網を陸へ引き上げると、百五十三びきの大きな魚でいっぱいになっていた。そんなに多かったが、網はさけないでいた。 *12*イエス

は彼らに言われた、「さあ、朝の食事をし
なさい」。弟子たちは、主であることがわか
っていたので、だれも「あなたはどなたで
すか」と進んで尋ねる者がなかった。 *13*イ
エスはそこにきて、パンをとり彼らに与え、
また魚も同じようにされた。 *14*イエスが死
人の中からよみがえったのち、弟子たち
にあらわれたのは、これで既に三度目で
ある。 *15*彼らが食事をすませると、イエス
はシモン・ペテロに言われた、「ヨハネの
子シモンよ、あなたはこの人たちが愛する
以上に、わたしを愛するか」。ペテロは言
った、「主よ、そうです。わたしがあなたを
愛することは、あなたがご存じです」。イエ
スは彼に「わたしの小羊を養いなさい」と
言われた。 *16*またもう一度彼に言われた
、「ヨハネの子シモンよ、わたしを愛するか
」。彼はイエスに言った、「主よ、そうです。
わたしがあなたを愛することは、あなたが
ご存じです」。イエスは彼に言われた、「わ
たしの羊を飼いなさい」。 *17*イエスは三度
目に言われた、「ヨハネの子シモンよ、わ
たしを愛するか」。ペテロは「わたしを愛す
るか」とイエスが三度も言わ れたので、心
をいためてイエスに言った、「主よ、あなた
はすべてをご存じです。わたしがあなたを
愛していることは、おわかりになっていま
す」。イエスは彼に言われた、「わたしの羊
を養いなさい。 *18*よくよくあなたに言って
おく。あなたが若かった時には、自分で帯
をしめて、思いのままに歩きまわっていた
。しかし年をとってからは、自分の手をの
ばすことになろう。そして、ほかの人があ
なたに帯を結びつけ、行きたくない所へ
連れて行くであろう」。 *19*これは、ペテロ
がどんな死に方で、神の栄光をあらわす
かを示すために、お話しになったのである
。こう話してから、「わたしに従ってきなさ
い」と言われた。 *20*ペテロはふり返ると、イ
エスの愛しておられた弟子がついて来る
のを見た。この弟子は、あの夕食のときイ
エスの胸近くに寄りかかって、「主よ、あな
たを裏切る者は、だれなのですか」と尋ね
た人である。 *21*ペテロはこの弟子を見て
、イエスに言った、「主よ、この人はどうな
のですか」。 *22*イエスは彼に言われた、
「たとい、わたしの来る時まで彼が生き残
っていることを、わたしが望んだとしても、
あなたにはなんの係わりがあるか。あなた
は、わたしに従ってきなさい」。 *23*こういう
わけで、この弟子は死ぬことがないという
うわさが、兄弟たちの間にひろまった。し
かし、イエスは彼が死ぬことはないと言わ
れたのではなく、ただ「たとい、わたしの来
る時まで彼が生き残っていることを、わた
しが望んだとしても、あなたにはなんの係
わりがあるか」と言われただけである。
*24*これらの事についてあかしをし、またこ
れらの事を書いたのは、この弟子である。
そして彼のあかしが真実であることを、わ
たしたちは知っている。 *25*イエスのなさっ
たことは、このほかにまだ数多くある。もし
いちいち書きつけるならば、世界もその書
かれた文書を収めきれないであろうと思う
。

---

[i] イザヤ書40章3節と比較せよ.

[ii] 旧約聖書では、「イオウオの使」と言う表現は出エジプト記3章2節など52カ所で使用され、「主の使」と言う表現が一度も使用されない。ただし、本文の異文「御使」も存在する。ヨハネ5章4節を含んでいない本文も存在する。

[iii] イザヤ書54章13節と比較せよ. 引用の原文は「神」のかわりに「イオウオ」が使用されるから、ここで「イオウオ」とした。

[iv] 詩編118編25、26節と比較せよ。

[v] イザヤ書53章1節と比較せよ。ここで引用された異文、「主よ」(＝κύριε)は七十人訳聖書(LXX)と一致する。しかし、イザヤ書の25、26、33、37、38、63、64章の15カ所で「イオウオよ」が使用される。「主よ」と言う異文はイザヤ書6章11節、38章14、16節でしか使用されない。マソラ本文によると、上記3カ所では、本来「イオウオよ」が使用された。ソフェリム(＝書記)はここで「主よ」とした。C.D.Ginsburg(1894): The Massoretico-Critical Text of the Hebrew Bible を参照。そして、死海文書のイザヤ書(1QIsa[a])の6章11節も、「イオウオよ」とする。それゆえに、ここで「主よ」を「イオウオよ」とした。

[vi] イザヤ書53章1節と比較せよ。

1 テオピロよ、わたしは先に第一巻を著
わして、イエスが行い、また教えはじめて
から、 *2*お選びになった使徒たちに、聖霊
によって命じたのち、天に上げられた日ま
でのことを、ことごとくしるした。 *3*イエスは
苦難を受けたのち、自分の生きていること
を数々の確かな証拠によって示し、四十
日にわたってたびたび彼らに現れて、神
の国のことを語られた。 *4*そして食事を共
にしているとき、彼らにお命じになった、
「エルサレムから離れないで、かねてわた
しから聞いていた父の約束を待っている
がよい。 *5*すなわち、ヨハネは水でバプテ
スマを授けたが、あなたがたは間もなく聖
霊によって、バプテスマを授けられるであ
ろう」。 *6*さて、弟子たちが一緒に集まった
とき、イエスに問うて言った、「主よ、イスラ
エルのために国を復興なさるのは、この
時なのですか」。 *7*彼らに言われた、「時
期や場合は、父がご自分の権威によって
定めておられるのであって、あなたがたの
知る限りではない。 *8*ただ、聖霊があなた
がたにくだる時、あなたがたは力を受けて
、エルサレム、ユダヤとサマリヤの全土、さ
らに地のはてまで、わたしの証人となるで
あろう」。 *9*こう言い終ると、イエスは彼らの
見ている前で天に上げられ、雲に迎えら
れて、その姿が見えなくなった。 *10*イエス
の上って行かれるとき、彼らが天を見つめ
ていると、見よ、白い衣を着たふたりの人
が、彼らのそばに立っていて *11*言った、
「ガリラヤの人たちよ、なぜ天を仰いで立
っているのか。あなたがたを離れて天に
上げられたこのイエスは、天に上って行か
れるのをあなたがたが見たのと同じ有様
で、またおいでになるであろう」。 *12*それ
から彼らは、オリブという山を下ってエル
サレムに帰った。この山はエルサレムに近
く、安息日に許されている距離のところに
ある。 *13*彼らは、市内に行って、その泊ま
っていた屋上の間にあがった。その人た
ちは、ペテロ、ヨハネ、ヤコブ、アンデレ、
ピリポとトマス、バルトロマイとマタイ、アル
パヨの子ヤコブと熱心党のシモンとヤコブ
の子ユダとであった。 *14*彼らはみな、婦
人たち、特にイエスの母マリヤ、およびイ
エスの兄弟たちと共に、心を合わせて、ひ
たすら祈をしていた。 *15*そのころ、百二十
名ばかりの人々が、一団となって集まって
いたが、ペテロはこれらの兄弟たちの中
に立って言った、 *16*「兄弟たちよ、イエス
を捕えた者たちの手びきになったユダに
ついては、聖霊がダビデの口をとおして
預言したその言葉は、成就しなければな
らなかった。 *17*彼はわたしたちの仲間に
加えられ、この務を授かっていた者であっ
た。(*18*彼は不義の報酬で、ある地所を
手に入れたが、そこへまっさかさまに落ち
て、腹がまん中から引き裂け、はらわたが
みな流れ出てしまった。 *19*そして、この事
はエルサレムの全住民に知れわたり、そ
こで、この地所が彼らの国語でアケルダ
マと呼ばれるようになった。「血の地所」と
の意である。) *20*詩篇に、『その屋敷は荒
れ果てよ、そこにはひとりも住む者がいな
くなれ』と書いてあり、また『その職は、ほ
かの者に取らせよ』とあるとおりである。
*21*そういうわけで、主イエスがわたしたち
の間にゆききされた期間中、 *22*すなわち
、ヨハネのバプテスマの時から始まって、
わたしたちを離れて天に上げられた日に
至るまで、始終わたしたちと行動を共にし
た人たちのうち、だれかひとりが、わたした
ちに加わって主の復活の証人にならねば
ならない」。 *23*そこで一同は、バルサバと
呼ばれ、またの名をユストというヨセフと、
マッテヤとのふたりを立て、 *24*祈って言っ
た、「すべての人の心をご存じであるイオ
ウオ(?)[i]よ。このふたりのうちのどちらを選
んで、 *25*ユダがこの使徒の職務から落ち
て、自分の行くべきところへ行ったそのあ
とを継がせなさいますか、お示し下さい」。
*26*それから、ふたりのためにくじを引いた
ところ、マッテヤに当ったので、この人が
十一人の使徒たちに加えられることにな
った。

2 五旬節の日がきて、みんなの者が一緒
に集まっていると、 *2*突然、激しい風が吹
いてきたような音が天から起ってきて、一
同がすわっていた家いっぱいに響きわた
った。 *3*また、舌のようなものが、炎のよう
に分れて現れ、ひとりびとりの上にとどま
った。 *4*すると、一同は聖霊に満たされ、
御霊が語らせるままに、いろいろの他国
の言葉で語り出した。 *5*さて、エルサレム

には、天下のあらゆる国々から、信仰深い
ユダヤ人たちがきて住んでいたが、 *6*この
物音に大ぜいの人が集まってきて、彼ら
の生れ故郷の国語で、使徒たちが話して
いるのを、だれもかれも聞いてあっけに取
られた。 *7*そして驚き怪しんで言った、「見
よ、いま話しているこの人たちは、皆ガリラ
ヤ人ではないか。 *8*それだのに、わたした
ちがそれぞれ、生れ故郷の国語を彼らか
ら聞かされるとは、いったい、どうしたこと
か。 *9*わたしたちの中には、パルテヤ人、
メジヤ人、エラム人もおれば、メソポタミヤ
、ユダヤ、カパドキヤ、ポントとアジヤ、
*10*フルギヤとパンフリヤ、エジプトとクレネ
に近いリビヤ地方などに住む者もいるし、
またローマ人で旅にきている者、 *11*ユダ
ヤ人と改宗者、クレテ人とアラビヤ人もい
るのだが、あの人々がわたしたちの国語
で、神の大きな働きを述べるのを聞くとは
、どうしたことか」。 *12*みんなの者は驚き惑
って、互に言い合った、「これは、いった
い、どういうわけなのだろう」。 *13*しかし、
ほかの人たちはあざ笑って、「あの人たち
は新しい酒で酔っているのだ」と言った。
*14*そこで、ペテロが十一人の者と共に立
ちあがり、声をあげて人々に語りかけた。
「ユダヤの人たち、ならびにエルサレムに
住むすべてのかたがた、どうか、この事を
知っていただきたい。わたしの言うことに
耳を傾けていただきたい。 *15*今は朝の九
時であるから、この人たちは、あなたがた
が思っているように、酒に酔っているので
はない。 *16*そうではなく、これは預言者ヨ
エルが預言していたことに外ならないので
ある。すなわち、 *17*『神[ii]がこう仰せになる
。終りの時には、わたしの霊をすべての人
に注ごう。そして、あなたがたのむすこ娘
は預言をし、若者たちは幻を見、老人た
ちは夢を見るであろう。 *18*その時には、わ
たしの男女の僕たちにもわたしの霊を注
ごう。そして彼らも預言をするであろう。
*19*また、上では、天に奇跡を見せ、下で
は、地にしるしを、すなわち、血と火と立ち
こめる煙とを、見せるであろう。 *20*イオウ
オ[iii]の大いなる輝かしい日が来る前に、日
はやみに月は血に変るであろう。 *21*そのと
き、イオウオ(?)[iv]の名を呼び求める者は
、みな救われるであろう』。 *22*イスラエル
の人たちよ、今わたしの語ることを聞きな
さい。あなたがたがよく知っているとおり、
ナザレ人イエスは、神が彼をとおして、あ
なたがたの中で行われた数々の力あるわ
ざと奇跡としるしとにより、神からつかわさ
れた者であることを、あなたがたに示され
たかたであった。 *23*このイエスが渡された
のは神の定めた計画と予知とによるので
あるが、あなたがたは彼を不法の人々の
手で十字架につけて殺した。 *24*神はこの
イエスを死の苦しみから解き放って、よみ
がえらせたのである。イエスが死に支配さ
れているはずはなかったからである。 *25*
ダビデはイエスについてこう言っている、
『わたしは常に目の前にイオウオ(?)[v]を見
た。主は、わたしが動かされないため、わ
たしの右にいて下さるからである。 *26*それ
ゆえ、わたしの心は楽しみ、わたしの舌は
よろこび歌った。わたしの肉体もまた、望
みに生きるであろう。 *27*あなたは、わたし
の魂を黄泉に捨ておくことをせず、あなた
の聖者が朽ち果てるのを、お許しにならな
いであろう。 *28*あなたは、いのちの道を
わたしに示し、み前にあって、わたしを喜
びで満たして下さるであろう』。 *29*兄弟た
ちよ、族長ダビデについては、わたしはあ
なたがたにむかって大胆に言うことができ
る。彼は死んで葬られ、現にその墓が今
日に至るまで、わたしたちの間に残ってい
る。 *30*彼は預言者であって、『その子孫
のひとりを王位につかせよう』と、神が堅く
彼に誓われたことを認めていたので、
*31*キリストの復活をあらかじめ知って、
『彼は黄泉に捨ておかれることがなく、ま
たその肉体が朽ち果てることもない』と語
ったのである。 *32*このイエスを、神はよみ
がえらせた。そして、わたしたちは皆その
証人なのである。 *33*それで、イエスは神
の右に上げられ、父から約束の聖霊を受
けて、それをわたしたちに注がれたのであ
る。このことは、あなたがたが現に見聞き
しているとおりである。 *34*ダビデが天に上
ったのではない。彼自身こう言っている、
『イオウオ(?)[vi]はわが主に仰せになった、
*35*あなたの敵をあなたの足台にするまで
は、わたしの右に座していなさい』。 *36*だ
から、イスラエルの全家は、この事をしかと
知っておくがよい。あなたがたが十字架に

つけたこのイエスを、神は、主またキリスト
としてお立てになったのである」。 *37*人々
はこれを聞いて、強く心を刺され、ペテロ
やほかの使徒たちに、「兄弟たちよ、わた
したちは、どうしたらよいのでしょうか」と言
った。 *38*すると、ペテロが答えた、「悔い
改めなさい。そして、あなたがたひとりびと
りが罪のゆるしを得るために、イエス・キリ
ストの名によって、バプテスマを受けなさ
い。そうすれば、あなたがたは聖霊の賜
物を受けるであろう。 *39*この約束は、われ
らの神、イオウオ(?)[vii]の召しにあずかるす
べての者、すなわちあなたがたと、あなた
がたの子らと、遠くの者一同とに、与えら
れているものである」。 *40*ペテロは、ほか
になお多くの言葉であかしをなし、人々に
「この曲った時代から救われよ」と言って
勧めた。 *41*そこで、彼の勧めの言葉を受
けいれた者たちは、バプテスマを受けた
が、その日、仲間に加わったものが三千
人ほどあった。 *42*そして一同はひたすら
、使徒たちの教を守り、信徒の交わりをな
し、共にパンをさき、祈をしていた。 *43*み
んなの者におそれの念が生じ、多くの奇
跡としるしとが、使徒たちによって、次々
に行われた。 *44*信者たちはみな一緒に
いて、いっさいの物を共有にし、 *45*資産
や持ち物を売っては、必要に応じてみん
なの者に分け与えた。 *46*そして日々心を
一つにして、絶えず宮もうでをなし、家で
はパンをさき、よろこびと、まごころとをもっ
て、食事を共にし、 *47*神をさんびし、すべ
ての人に好意を持たれていた。そして
主[viii]は、救われる者を日々仲間に加えて
下さったのである。

3 さて、ペテロとヨハネとが、午後三時の
祈のときに宮に上ろうとしていると、 *2*生れ
ながら足のきかない男が、かかえられてき
た。この男は、宮もうでに来る人々に施し
をこうため、毎日、「美しの門」と呼ばれる
宮の門のところに、置かれていた者である
。 *3*彼は、ペテロとヨハネとが、宮にはいっ
て行こうとしているのを見て、施しをこうた
。 *4*ペテロとヨハネとは彼をじっと見て、
「わたしたちを見なさい」と言った。 *5*彼は
何かもらえるのだろうと期待して、ふたりに
注目していると、 *6*ペテロが言った、「金銀
はわたしには無い。しかし、わたしにある
ものをあげよう。ナザレ人イエス・キリストの
名によって歩きなさい」。 *7*こう言って彼の
右手を取って起してやると、足と、くるぶし
とが、立ちどころに強くなって、 *8*踊りあが
って立ち、歩き出した。そして、歩き回っ
たり踊ったりして神をさんびしながら、彼ら
と共に宮にはいって行った。 *9*民衆はみ
な、彼が歩き回り、また神をさんびしてい
るのを見、 *10*これが宮の「美しの門」のそ
ばにすわって、施しをこうていた者である
と知り、彼の身に起ったことについて、驚
き怪しんだ。 *11*彼がなおもペテロとヨハネ
とにつきまとっているとき、人々は皆ひどく
驚いて、「ソロモンの廊」と呼ばれる柱廊に
いた彼らのところに駆け集まってきた。
*12*ペテロはこれを見て、人々にむかって
言った、「イスラエルの人たちよ、なぜこの
事を不思議に思うのか。また、わたしたち
が自分の力や信心で、あの人を歩かせた
かのように、なぜわたしたちを見つめてい
るのか。 *13*アブラハム、イサク、ヤコブの
神、わたしたちの先祖の神は、その僕イエ
スに栄光を賜わったのであるが、あなたが
たは、このイエスを引き渡し、ピラトがゆる
すことに決めていたのに、それを彼の面
前で拒んだ。 *14*あなたがたは、この聖な
る正しいかたを拒んで、人殺しの男をゆる
すように要求し、 *15*いのちの君を殺してし
まった。しかし、神はこのイエスを死人の
中から、よみがえらせた。わたしたちは、
その事の証人である。 *16*そして、イエスの
名が、それを信じる信仰のゆえに、あなた
がたのいま見て知っているこの人を、強く
したのであり、イエスによる信仰が、彼をあ
なたがた一同の前で、このとおり完全にい
やしたのである。 *17*さて、兄弟たちよ、あ
なたがたは知らずにあのような事をしたの
であり、あなたがたの指導者たちとても同
様であったことは、わたしにわかっている
。 *18*神はあらゆる預言者の口をとおして、
キリストの受難を予告しておられたが、そ
れをこのように成就なさったのである。
*19*だから、自分の罪をぬぐい去っていた
だくために、悔い改めて本心に立ちかえり
なさい。 *20*それは、イオウオ(?)[ix]のみ前か
ら慰めの時がきて、あなたがたのためにあ
らかじめ定めてあったキリストなるイエスを

、神がつかわして下さるためである。 *21*このイエスは、神が聖なる預言者たちの口をとおして、昔から預言しておられた万物更新の時まで、天にとどめておかれねばならなかった。 *22*モーセは言った、『イオウオ(?)[x]神は、わたしをお立てになったように、あなたがたの兄弟の中から、ひとりの預言者をお立てになるであろう。その預言者があなたがたに語ることには、ことごとく聞きしたがいなさい。 *23*彼に聞きしたがわない者は、みな民の中から滅ぼし去られるであろう』。 *24*サムエルをはじめ、その後つづいて語ったほどの預言者はみな、この時のことを予告した。 *25*あなたがたは預言者の子であり、神があなたがたの先祖たちと結ばれた契約の子である。神[xi]はアブラハムに対して、『地上の諸民族は、あなたの子孫によって祝福を受けるであろう』と仰せられた。 *26*神がまずあなたがたのために、その僕を立てて、おつかわしになったのは、あなたがたひとりびとりを、悪から立ちかえらせて、祝福にあずからせるためなのである」。

4 彼らが人々にこのように語っているあいだに、祭司たち、宮守がしら、サドカイ人たちが近寄ってきて、 *2*彼らが人々に教を説き、イエス自身に起った死人の復活を宣伝しているのに気をいら立て、 *3*彼らに手をかけて捕え、はや日が暮れていたので、翌朝まで留置しておいた。 *4*しかし、彼らの話を聞いた多くの人たちは信じた。そして、その男の数が五千人ほどになった。 *5*明くる日、役人、長老、律法学者たちが、エルサレムに召集された。 *6*大祭司アンナスをはじめ、カヤパ、ヨハネ、アレキサンデル、そのほか大祭司の一族もみな集まった。 *7*そして、そのまん中に使徒たちを立たせて尋問した、「あなたがたは、いったい、なんの権威、また、だれの名によって、このことをしたのか」。 *8*その時、ペテロが聖霊に満たされて言った、「民の役人たち、ならびに長老たちよ、 *9*わたしたちが、きょう、取調べを受けているのは、病人に対してした良いわざについてであり、この人がどうしていやされたかについてであるなら、 *10*あなたがたご一同も、またイスラエルの人々全体も、知っていてもらいたい。この人が元気になってみんなの前に立っているのは、ひとえに、あなたがたが十字架につけて殺したのを、神が死人の中からよみがえらせたナザレ人イエス・キリストの御名によるのである。 *11*このイエスこそは『あなたがた家造りらに捨てられたが、隅のかしら石となった石』なのである。 *12*この人による以外に救はない。わたしたちを救いうる名は、これを別にしては、天下のだれにも与えられていないからである」。 *13*人々はペテロとヨハネとの大胆な話しぶりを見、また同時に、ふたりが無学な、ただの人たちであることを知って、不思議に思った。そして彼らがイエスと共にいた者であることを認め、 *14*かつ、彼らにいやされた者がそのそばに立っているのを見ては、まったく返す言葉がなかった。 *15*そこで、ふたりに議会から退場するように命じてから、互に協議をつづけて *16*言った、「あの人たちを、どうしたらよかろうか。彼らによって著しいしるしが行われたことは、エルサレムの住民全体に知れわたっているので、否定しようもない。 *17*ただ、これ以上このことが民衆の間にひろまらないように、今後はこの名によって、いっさいだれにも語ってはいけないと、おどしてやろうではないか」。 *18*そこで、ふたりを呼び入れて、イエスの名によって語ることも説くことも、いっさい相成らぬと言いわたした。 *19*ペテロとヨハネとは、これに対して言った、「神に聞き従うよりも、あなたがたに聞き従う方が、神の前に正しいかどうか、判断してもらいたい。 *20*わたしたちとしては、自分の見たこと聞いたことを、語らないわけにはいかない」。 *21*そこで、彼らはふたりを更におどしたうえ、ゆるしてやった。みんなの者が、この出来事のために、神をあがめていたので、その人々の手前、ふたりを罰するすべがなかったからである。 *22*そのしるしによっていやされたのは、四十歳あまりの人であった。 *23*ふたりはゆるされてから、仲間の者たちのところに帰って、祭司長たちや長老たちが言ったいっさいのことを報告した。 *24*一同はこれを聞くと、口をそろえて、神にむかい声をあげて言った、「天と地と海と、その中のすべてのものとの造りぬしなる主[xii]よ。 *25*あなたは、わたしたちの

先祖、あなたの僕ダビデの口をとおして、
聖霊によって、こう仰せになりました、『な
ぜ、異邦人らは、騒ぎ立ち、もろもろの民
は、むなしいことを図り、*26*地上の王たち
は、立ちかまえ、支配者たちは、党を組ん
で、イオウオ(?)[xiii]とそのキリストとに逆らっ
たのか』。*27*まことに、ヘロデとポンテオ・
ピラトとは、異邦人らやイスラエルの民と一
緒になって、この都に集まり、あなたから
油を注がれた聖なる僕イエスに逆らい、
*28*み手とみ旨とによって、あらかじめ定め
られていたことを、なし遂げたのです。
*29*イオウオ(?)[xiv]よ、いま、彼らの脅迫に目
をとめ、僕たちに、思い切って大胆に御
言葉を語らせて下さい。*30*そしてみ手を
伸ばしていやしをなし、聖なる僕イエスの
名によって、しるしと奇跡とを行わせて下
さい」。*31*彼らが祈り終えると、その集まっ
ていた場所が揺れ動き、一同は聖霊に満
たされて、大胆に神の言を語り出した。
*32*信じた者の群れは、心を一つにし思い
を一つにして、だれひとりその持ち物を自
分のものだと主張する者がなく、いっさい
の物を共有にしていた。*33*使徒たちは主
イエスの復活について、非常に力強くあ
かしをした。そして大きなめぐみが、彼ら
一同に注がれた。*34*彼らの中に乏しい者
は、ひとりもいなかった。地所や家屋を持
っている人たちは、それを売り、売った物
の代金をもってきて、*35*使徒たちの足もと
に置いた。そしてそれぞれの必要に応じ
て、だれにでも分け与えられた。*36*クプロ
生れのレビ人で、使徒たちにバルナバ
(「慰めの子」との意)と呼ばれていたヨセ
フは、*37*自分の所有する畑を売り、その
代金をもってきて、使徒たちの足もとに置
いた。

5 ところが、アナニヤという人とその妻サ
ッピラとは共に資産を売ったが、*2*共謀し
て、その代金をごまかし、一部だけを持っ
てきて、使徒たちの足もとに置いた。*3*そ
こで、ペテロが言った、「アナニヤよ、どう
してあなたは、自分の心をサタンに奪わ
れて、聖霊を欺き、地所の代金をごまかし
たのか。*4*売らずに残しておけば、あなた
のものであり、売ってしまっても、あなたの
自由になったはずではないか。どうして、
こんなことをする気になったのか。あなた
は人を欺いたのではなくて、神を欺いた
のだ」。*5*アナニヤはこの言葉を聞いてい
るうちに、倒れて息が絶えた。このことを伝
え聞いた人々は、みな非常なおそれを感
じた。*6*それから、若者たちが立って、そ
の死体を包み、運び出して葬った。*7*三
時間ばかりたってから、たまたま彼の妻が
、この出来事を知らずに、はいってきた。
*8*そこで、ペテロが彼女にむかって言った
、「あの地所は、これこれの値段で売った
のか。そのとおりか」。彼女は「そうです、
その値段です」と答えた。*9*ペテロは言っ
た、「あなたがたふたりが、心を合わせて
イオウオ(?)[xv]の御霊を試みるとは、何事で
あるか。見よ、あなたの夫を葬った人たち
の足が、そこの門口にきている。あなたも
運び出されるであろう」。*10*すると女は、
たちまち彼の足もとに倒れて、息が絶えた
。そこに若者たちがはいってきて、女が死
んでしまっているのを見、それを運び出し
てその夫のそばに葬った。*11*教会全体な
らびにこれを伝え聞いた人たちは、みな
非常なおそれを感じた。*12*そのころ、多く
のしるしと奇跡とが、次々に使徒たちの手
により人々の中で行われた。そして、一同
は心を一つにして、ソロモンの廊に集まっ
ていた。*13*ほかの者たちは、だれひとり、
その交わりに入ろうとはしなかったが、民
衆は彼らを尊敬していた。*14*しかし、主を
信じて仲間に加わる者が、男女とも、ます
ます多くなってきた。*15*ついには、病人を
大通りに運び出し、寝台や寝床の上に置
いて、ペテロが通るとき、彼の影なりと、そ
のうちのだれかにかかるようにしたほどで
あった。*16*またエルサレム附近の町々か
らも、大ぜいの人が、病人や汚れた霊に
苦しめられている人たちを引き連れて、集
まってきたが、その全部の者が、ひとり残
らずいやされた。*17*そこで、大祭司とその
仲間の者、すなわち、サドカイ派の人たち
が、みな嫉妬の念に満たされて立ちあが
り、*18*使徒たちに手をかけて捕え、公共
の留置場に入れた。*19*ところが夜、イオウ
オ(?)[xvi]の使が獄の戸を開き、彼らを連れ
出して言った、*20*「さあ行きなさい。そして
、宮の庭に立ち、この命の言葉を漏れなく
、人々に語りなさい」。*21*彼らはこれを聞

き、夜明けごろ宮にはいって教えはじめた
。一方では、大祭司とその仲間の者とが、
集まってきて、議会とイスラエル人の長老
一同とを召集し、使徒たちを引き出してこ
させるために、人を獄につかわした。
22そこで、下役どもが行って見ると、使徒
たちが獄にいないので、引き返して報告
した、23「獄には、しっかりと錠がかけてあ
り、戸口には、番人が立っていました。とこ
ろが、あけて見たら、中にはだれもいませ
んでした」。24宮守がしらと祭司長たちと
は、この報告を聞いて、これは、いったい
、どんな事になるのだろうと、あわて惑って
いた。25そこへ、ある人がきて知らせた、
「行ってごらんなさい。あなたがたが獄に
入れたあの人たちが、宮の庭に立って、
民衆を教えています」。26そこで宮守がし
らが、下役どもと一緒に出かけて行って、
使徒たちを連れてきた。しかし、人々に石
で打ち殺されるのを恐れて、手荒なことは
せず、27彼らを連れてきて、議会の中に
立たせた。すると、大祭司が問うて 28言
った、「あの名を使って教えてはならない
と、きびしく命じておいたではないか。そ
れだのに、なんという事だ。エルサレム中
にあなたがたの教を、はんらんさせている
。あなたがたは確かに、あの人の血の責
任をわたしたちに負わせようと、たくらんで
いるのだ」。29これに対して、ペテロをは
じめ使徒たちは言った、「人間に従うより
は、神に従うべきである。30わたしたちの
先祖の神は、あなたがたが木にかけて殺
したイエスをよみがえらせ、31そして、イ
スラエルを悔い改めさせてこれに罪のゆ
るしを与えるために、このイエスを導き手と
し救主として、ご自身の右に上げられたの
である。32わたしたちはこれらの事の証
人である。神がご自身に従う者に賜わっ
た聖霊もまた、その証人である」。33これ
を聞いた者たちは、激しい怒りのあまり、
使徒たちを殺そうと思った。34ところが、
国民全体に尊敬されていた律法学者ガ
マリエルというパリサイ人が、議会で立っ
て、使徒たちをしばらくのあいだ外に出す
ように要求してから、35一同にむかって
言った、「イスラエルの諸君、あの人たち
をどう扱うか、よく気をつけるがよい。36先
ごろ、チゥダが起って、自分を何か偉い者
のように言いふらしたため、彼に従った男
の数が、四百人ほどもあったが、結局、彼
は殺されてしまい、従った者もみな四散し
て、全く跡方もなくなっている。37そのの
ち、人口調査の時に、ガリラヤ人ユダが民
衆を率いて反乱を起したが、この人も滅
び、従った者もみな散らされてしまった。
38そこで、この際、諸君に申し上げる。あ
の人たちから手を引いて、そのなすままに
しておきなさい。その企てや、しわざが、
人間から出たものなら、自滅するだろう。
39しかし、もし神から出たものなら、あの
人たちを滅ぼすことはできまい。まかり違
えば、諸君は神を敵にまわすことになるか
も知れない」。そこで彼らはその勧告にし
たがい、40使徒たちを呼び入れて、むち
打ったのち、今後イエスの名によって語る
ことは相成らぬと言いわたして、ゆるして
やった。41使徒たちは、御名のために恥
を加えられるに足る者とされたことを喜び
ながら、議会から出てきた。42そして、毎
日、宮や家で、イエスがキリストであること
を、引きつづき教えたり宣べ伝えたりした
。

6 そのころ、弟子の数がふえてくるにつ
れて、ギリシヤ語を使うユダヤ人たちから
、ヘブル語を使うユダヤ人たちに対して、
自分たちのやもめらが、日々の配給で、
おろそかにされがちだと、苦情を申し立て
た。2そこで、十二使徒は弟子全体を呼
び集めて言った、「わたしたちが神の言を
さしおいて、食卓のことに携わるのはおも
しろくない。3そこで、兄弟たちよ、あなた
がたの中から、御霊と知恵とに満ちた、評
判のよい人たち七人を捜し出してほしい。
その人たちにこの仕事をまかせ、4わたし
たちは、もっぱら祈と御言のご用に当る
ことにしよう」。5この提案は会衆一同の賛
成するところとなった。そして信仰と聖霊と
に満ちた人ステパノ、それからピリポ、プロ
コロ、ニカノル、テモン、パルメナ、および
アンテオケの改宗者ニコラオを選び出し
て、6使徒たちの前に立たせた。すると、
使徒たちは祈って手を彼らの上においた
。7こうして神の言は、ますますひろまり、
エルサレムにおける弟子の数が、非常に
ふえていき、祭司たちも多数、信仰を受け

いれるようになった。 *8*さて、ステパノは恵
みと力とに満ちて、民衆の中で、めざまし
い奇跡としるしとを行っていた。 *9*すると、
いわゆる「リベルテン」の会堂に属する人
々、クレネ人、アレキサンドリヤ人、キリキ
ヤやアジヤからきた人々などが立って、ス
テパノと議論したが、 *10*彼は知恵と御霊
とで語っていたので、それに対抗できなか
った。 *11*そこで、彼らは人々をそそのかし
て、「わたしたちは、彼がモーセと神とを汚
す言葉を吐くのを聞いた」と言わせた。
*12*その上、民衆や長老たちや律法学者
たちを煽動し、彼を襲って捕えさせ、議会
にひっぱってこさせた。 *13*それから、偽り
の証人たちを立てて言わせた、「この人は
、この聖所と律法とに逆らう言葉を吐いて
、どうしても、やめようとはしません。 *14*『あ
のナザレ人イエスは、この聖所を打ちこわ
し、モーセがわたしたちに伝えた慣例を
変えてしまうだろう』などと、彼が言うのを、
わたしたちは聞きました」。 *15*議会で席に
ついていた人たちは皆、ステパノに目を
注いだが、彼の顔は、ちょうど天使の顔の
ように見えた。

7 大祭司は「そのとおりか」と尋ねた。
*2*そこで、ステパノが言った、「兄弟たち、
父たちよ、お聞き下さい。わたしたちの父
祖アブラハムが、カランに住む前、まだメ
ソポタミヤにいたとき、栄光の神が彼に現
れて *3*仰せになった、『あなたの土地と親
族から離れて、あなたにさし示す地に行き
なさい』。 *4*そこで、アブラハムはカルデヤ
人の地を出て、カランに住んだ。そして、
彼の父が死んだのち、神は彼をそこから、
今あなたがたの住んでいるこの地に移住
させたが、 *5*そこでは、遺産となるものは
何一つ、一歩の幅の土地すらも、与えら
れなかった。ただ、その地を所領として授
けようとの約束を、彼と、そして彼にはまだ
子がなかったのに、その子孫とに与えら
れたのである。 *6*神はこう仰せになった、
『彼の子孫は他国に身を寄せるであろう。
そして、そこで四百年のあいだ、奴隷にさ
れて虐待を受けるであろう』。 *7*それから、
さらに仰せになった、『彼らを奴隷にする
国民を、わたしはさばくであろう。その後、
彼らはそこからのがれ出て、この場所でわ
たしを礼拝するであろう』。 *8*そして、神は
アブラハムに、割礼の契約をお与えになっ
た。こうして、彼はイサクの父となり、これ
に八日目に割礼を施し、それから、イサク
はヤコブの父となり、ヤコブは十二人の族
長たちの父となった。 *9*族長たちは、ヨセ
フをねたんで、エジプトに売りとばした。し
かし、神は彼と共にいまして、 *10*あらゆる
苦難から彼を救い出し、エジプト王パロの
前で恵みを与え、知恵をあらわさせた。そ
こで、パロは彼を宰相の任につかせ、エ
ジプトならびに王家全体の支配に当らせ
た。 *11*時に、エジプトとカナンとの全土に
わたって、ききんが起り、大きな苦難が襲
ってきて、わたしたちの先祖たちは、食物
が得られなくなった。 *12*ヤコブは、エジプ
トには食糧があると聞いて、初めに先祖た
ちをつかわしたが、 *13*二回目の時に、ヨ
セフが兄弟たちに、自分の身の上を打ち
明けたので、彼の親族関係がパロに知れ
てきた。 *14*ヨセフは使をやって、父ヤコブ
と七十五人にのぼる親族一同とを招いた
。 *15*こうして、ヤコブはエジプトに下り、彼
自身も先祖たちもそこで死に、 *16*それか
ら彼らは、シケムに移されて、かねてアブ
ラハムがいくらかの金を出してこの地のハ
モルの子らから買っておいた墓に、葬ら
れた。 *17*神がアブラハムに対して立てら
れた約束の時期が近づくにつれ、民はふ
えてエジプト全土にひろがった。 *18*やが
て、ヨセフのことを知らない別な王が、エ
ジプトに起った。 *19*この王は、わたしたち
の同族に対し策略をめぐらして、先祖たち
を虐待し、その幼な子らを生かしておかな
いように捨てさせた。 *20*モーセが生れた
のは、ちょうどこのころのことである。彼は
まれに見る美しい子であった。三か月の
間は、父の家で育てられたが、 *21*そのの
ち捨てられたのを、パロの娘が拾いあげ
て、自分の子として育てた。 *22*モーセは
エジプト人のあらゆる学問を教え込まれ、
言葉にもわざにも、力があった。 *23*四十
歳になった時、モーセは自分の兄弟であ
るイスラエル人たちのために尽すことを、
思い立った。 *24*ところが、そのひとりがい
じめられているのを見て、これをかばい、
虐待されているその人のために、相手の
エジプト人を撃って仕返しをした。 *25*彼は

、自分の手によって神が兄弟たちを救って下さることを、みんなが悟るものと思っていたが、実際はそれを悟らなかったのである。 *26*翌日モーセは、彼らが争い合っているところに現れ、仲裁しようとして言った、『まて、君たちは兄弟同志ではないか。どうして互に傷つけ合っているのか』。
*27*すると、仲間をいじめていた者が、モーセを突き飛ばして言った、『だれが、君をわれわれの支配者や裁判人にしたのか。 *28*君は、きのう、エジプト人を殺したように、わたしも殺そうと思っているのか』。
*29*モーセは、この言葉を聞いて逃げ、ミデアンの地に身を寄せ、そこで男の子ふたりをもうけた。 *30*四十年たった時、シナイ山の荒野において、御使が柴の燃える炎の中でモーセに現れた。 *31*彼はこの光景を見て不思議に思い、それを見きわめるために近寄ったところ、イオウオ(?)[xvii]の声が聞えてきた、 *32*『わたしは、あなたの先祖たちの神、アブラハム、イサク、ヤコブの神である』。モーセは恐れおののいて、もうそれを見る勇気もなくなった。 *33*すると、イオウオ(?)[xviii]が彼に言われた、『あなたの足から、くつを脱ぎなさい。あなたの立っているこの場所は、聖なる地である。 *34*わたしは、エジプトにいるわたしの民が虐待されている有様を確かに見とどけ、その苦悩のうめき声を聞いたので、彼らを救い出すために下ってきたのである。さあ、今あなたをエジプトにつかわそう』。 *35*こうして、『だれが、君を支配者や裁判人にしたのか』と言って排斥されたこのモーセを、神は、柴の中で彼に現れた御使の手によって、支配者、解放者として、おつかわしになったのである。 *36*この人が、人々を導き出して、エジプトの地においても、紅海においても、また四十年のあいだ荒野においても、奇跡としるしとを行ったのである。 *37*この人が、イスラエル人たちに、『イオウオ(?)神[xix]はわたしをお立てになったように、あなたがたの兄弟たちの中から、ひとりの預言者をお立てになるであろう』と言ったモーセである。 *38*この人が、シナイ山で、彼に語りかけた御使や先祖たちと共に、荒野における集会にいて、生ける御言葉を授かり、それをあなたがたに伝えたのである。 *39*ところが、先祖たちは彼に従おうとはせず、かえって彼を退け、心の中でエジプトにあこがれて、 *40*『わたしたちを導いてくれる神々を造って下さい。わたしたちをエジプトの地から導いてきたあのモーセがどうなったのか、わかりませんから』とアロンに言った。 *41*そのころ、彼らは子牛の像を造り、その偶像に供え物をささげ、自分たちの手で造ったものを祭ってうち興じていた。 *42*そこで、神は顔をそむけ、彼らを天の星を拝むままに任せられた。預言者の書にこう書いてあるとおりである、『イスラエルの家よ、四十年のあいだ荒野にいた時に、いけにえと供え物とを、わたしにささげたことがあったか。
*43*あなたがたは、モロクの幕屋やロンパの星の神を、かつぎ回った。それらは、拝むために自分で造った偶像に過ぎぬ。だからわたしは、あなたがたをバビロンのかなたへ、移してしまうであろう』。 *44*わたしたちの先祖には、荒野にあかしの幕屋があった。それは、見たままの型にしたがって造るようにと、モーセに語ったかたのご命令どおりに造ったものである。 *45*この幕屋は、わたしたちの先祖が、ヨシュアに率いられ、神によって諸民族を彼らの前から追い払い、その所領をのり取ったときに、そこに持ち込まれ、次々に受け継がれて、ダビデの時代に及んだものである。
*46*ダビデは、神の恵みをこうむり、そして、ヤコブの神のために宮を造営したいと願った。 *47*けれども、じっさいにその宮を建てたのは、ソロモンであった。 *48*しかし、いと高き者は、手で造った家の内にはお住みにならない。預言者が言っているとおりである、 *49*『イオウオ(?)[xx]が仰せられる、どんな家をわたしのために建てるのか。わたしのいこいの場所は、どれか。天はわたしの王座、地はわたしの足台である。
*50*これは皆わたしの手が造ったものではないか』。 *51*ああ、強情で、心にも耳にも割礼のない人たちよ。あなたがたは、いつも聖霊に逆らっている。それは、あなたがたの先祖たちと同じである。 *52*いったい、あなたがたの先祖が迫害しなかった預言者が、ひとりでもいたか。彼らは正しいかたの来ることを予告した人たちを殺し、今やあなたがたは、その正しいかたを裏切る者、また殺す者となった。 *53*あなたがた

は、御使たちによって伝えられた律法を
受けたのに、それを守ることをしなかった」
。 *54*人々はこれを聞いて、心の底から激
しく怒り、ステパノにむかって、歯ぎしりを
した。 *55*しかし、彼は聖霊に満たされて、
天を見つめていると、神の栄光が現れ、イ
エスが神の右に立っておられるのが見え
た。 *56*そこで、彼は「ああ、天が開けて、
人の子が神の右に立っておいでになるの
が見える」と言った。 *57*人々は大声で叫
びながら、耳をおおい、ステパノを目がけ
て、いっせいに殺到し、 *58*彼を市外に引
き出して、石で打った。これに立ち合った
人たちは、自分の上着を脱いで、サウロと
いう若者の足もとに置いた。 *59*こうして、
彼らがステパノに石を投げつけている間、
ステパノは祈りつづけて言った、「主イエ
スよ、わたしの霊をお受け下さい」。 *60*そ
して、ひざまずいて、大声で叫んだ、「イ
オウオ(?)[xxi]よ、どうぞ、この罪を彼らに負わ
せないで下さい」。こう言って、彼は眠りに
ついた。

8 サウロは、ステパノを殺すことに賛成し
ていた。その日、エルサレムの教会に対し
て大迫害が起り、使徒以外の者はことごと
く、ユダヤとサマリヤとの地方に散らされて
行った。 *2*信仰深い人たちはステパノを葬
り、彼のために胸を打って、非常に悲しん
だ。 *3*ところが、サウロは家々に押し入っ
て、男や女を引きずり出し、次々に獄に渡
して、教会を荒し回った。 *4*さて、散らされ
て行った人たちは、御言を宣べ伝えなが
ら、めぐり歩いた。 *5*ピリポはサマリヤの町
に下って行き、人々にキリストを宣べはじ
めた。 *6*群衆はピリポの話を聞き、その行
っていたしるしを見て、こぞって彼の語る
ことに耳を傾けた。 *7*汚れた霊につかれた
多くの人々からは、その霊が大声でわめ
きながら出て行くし、また、多くの中風をわ
ずらっている者や、足のきかない者がい
やされたからである。 *8*それで、この町で
は人々が、大変なよろこびかたであった。
*9*さて、この町に以前からシモンという人
がいた。彼は魔術を行ってサマリヤの人
たちを驚かし、自分をさも偉い者のように
言いふらしていた。 *10*それで、小さい者
から大きい者にいたるまで皆、彼につい
て行き、「この人こそは『大能』と呼ばれる
神の力である」と言っていた。 *11*彼らがこ
の人について行ったのは、ながい間その
魔術に驚かされていたためであった。
*12*ところが、ピリポが神の国とイエス・キリ
ストの名について宣べ伝えるに及んで、
男も女も信じて、ぞくぞくとバプテスマを受
けた。 *13*シモン自身も信じて、バプテスマ
を受け、それから、引きつづきピリポにつ
いて行った。そして、数々のしるしやめざ
ましい奇跡が行われるのを見て、驚いて
いた。 *14*エルサレムにいる使徒たちは、
サマリヤの人々が、神の言を受け入れた
と聞いて、ペテロとヨハネとを、そこにつか
わした。 *15*ふたりはサマリヤに下って行っ
て、みんなが聖霊を受けるようにと、彼ら
のために祈った。 *16*それは、彼らはただ
主イエスの名によってバプテスマを受けて
いただけで、聖霊はまだだれにも下って
いなかったからである。 *17*そこで、ふたり
が手を彼らの上においたところ、彼らは聖
霊を受けた。 *18*シモンは、使徒たちが手
をおいたために、御霊が人々に授けられ
たのを見て、金をさし出し、 *19*「わたしが
手をおけばだれにでも聖霊が授けられる
ように、その力をわたしにも下さい」と言っ
た。 *20*そこで、ペテロが彼に言った、「お
まえの金は、おまえもろとも、うせてしまえ
。神の賜物が、金で得られるなどと思っ
ているのか。 *21*おまえの心が神の前に正し
くないから、おまえは、とうてい、この事に
あずかることができない。 *22*だから、この
悪事を悔いて、イオウオ(?)[xxii]に祈れ。そう
すればあるいはそんな思いを心にいだい
たことが、ゆるされるかも知れない。 *23*お
まえには、まだ苦い胆汁があり、不義のな
わ目がからみついている。それが、わたし
にわかっている」。 *24*シモンはこれを聞い
て言った、「仰せのような事が、わたしの
身に起らないように、どうぞ、わたしのため
にイオウオ(?)[xxiii]に祈って下さい」。 *25*使
徒たちは力強くあかしをなし、また主[xxiv]の
言を語った後、サマリヤ人の多くの村々に
福音を宣べ伝えて、エルサレムに帰った
。 *26*しかし、イオウオ(?)[xxv]の使がピリポに
むかって言った、「立って南方に行き、エ
ルサレムからガザへ下る道に出なさい」
(このガザは、今は荒れはてている)。

*27*そこで、彼は立って出かけた。すると、
ちょうど、エチオピヤ人の女王カンダケの
高官で、女王の財宝全部を管理していた
宦官であるエチオピヤ人が、礼拝のため
エルサレムに上り、 *28*その帰途について
いたところであった。彼は自分の馬車に
乗って、預言者イザヤの書を読んでいた
。 *29*御霊がピリポに「進み寄って、あの馬
車に並んで行きなさい」と言った。 *30*そこ
でピリポが駆けて行くと、預言者イザヤの
書を読んでいるその人の声が聞えたので
、「あなたは、読んでいることが、おわかり
ですか」と尋ねた。 *31*彼は「だれかが、手
びきをしてくれなければ、どうしてわかりま
しょう」と答えた。そして、馬車に乗って一
緒にすわるようにと、ピリポにすすめた。
*32*彼が読んでいた聖書の箇所は、これ
であった、「彼は、ほふり場に引かれて行
く羊のように、また、黙々として、毛を刈る
者の前に立つ小羊のように、口を開かな
い。 *33*彼は、いやしめられて、そのさばき
も行われなかった。だれが、彼の子孫のこ
とを語ることができようか、彼の命が地上
から取り去られているからには」。 *34*宦官
はピリポにむかって言った、「お尋ねしま
すが、ここで預言者はだれのことを言って
いるのですか。自分のことですか、それと
も、だれかほかの人のことですか」。 *35*そ
こでピリポは口を開き、この聖句から説き
起して、イエスのことを宣べ伝えた。 *36*道
を進んで行くうちに、水のある所にきたの
で、宦官が言った、「ここに水があります。
わたしがバプテスマを受けるのに、なんの
さしつかえがありますか」。〔 *37*これに対し
て、ピリポは、「あなたがまごころから信じ
るなら、受けてさしつかえはありません」と
言った。すると、彼は「わたしは、イエス・キ
リストを神の子と信じます」と答えた。〕
*38*そこで車をとめさせ、ピリポと宦官と、
ふたりとも、水の中に降りて行き、ピリポが
宦官にバプテスマを授けた。 *39*ふたりが
水から上がると、イオウオ(?)[xxvi]の霊がピリ
ポをさらって行ったので、宦官はもう彼を
見ることができなかった。宦官はよろこび
ながら旅をつづけた。 *40*その後、ピリポは
アゾトに姿をあらわして、町々をめぐり歩き
、いたるところで福音を宣べ伝えて、つい
にカイザリヤに着いた。

9 さてサウロは、なおも主の弟子たちに
対する脅迫、殺害の息をはずませながら
、大祭司のところに行って、 *2*ダマスコの
諸会堂あての添書を求めた。それは、こ
の道の者を見つけ次第、男女の別なく縛
りあげて、エルサレムにひっぱって来るた
めであった。 *3*ところが、道を急いでダマ
スコの近くにきたとき、突然、天から光がさ
して、彼をめぐり照した。 *4*彼は地に倒れ
たが、その時「サウロ、サウロ、なぜわたし
を迫害するのか」と呼びかける声を聞いた
。 *5*そこで彼は「主よ、あなたは、どなたで
すか」と尋ねた。すると答があった、「わた
しは、あなたが迫害しているイエスである
。 *6*さあ立って、町にはいって行きなさい。
そうすれば、そこであなたのなすべき事が
告げられるであろう」。 *7*サウロの同行者た
ちは物も言えずに立っていて、声だけは
聞えたが、だれも見えなかった。 *8*サウロ
は地から起き上がって目を開いてみたが
、何も見えなかった。そこで人々は、彼の
手を引いてダマスコへ連れて行った。
*9*彼は三日間、目が見えず、また食べるこ
とも飲むこともしなかった。 *10*さて、ダマス
コにアナニヤというひとりの弟子がいた。こ
の人に主が幻の中に現れて、「アナニヤ
よ」とお呼びになった。彼は「主よ、わたし
でございます」と答えた。 *11*そこで主が彼
に言われた、「立って、『真すぐ』という名
の路地に行き、ユダの家でサウロというタ
ルソ人を尋ねなさい。彼はいま祈っている
。 *12*彼はアナニヤという人がはいってきて
、手を自分の上において再び見えるよう
にしてくれるのを、幻で見たのである」。
*13*アナニヤは答えた、「主よ、あの人がエ
ルサレムで、どんなにひどい事をあなたの
聖徒たちにしたかについては、多くの人
たちから聞いています。 *14*そして彼はここ
でも、御名をとなえる者たちをみな捕縛す
る権を、祭司長たちから得てきているので
す」。 *15*しかし、主は仰せになった、「さあ
、行きなさい。あの人は、異邦人たち、王
たち、またイスラエルの子らにも、わたしの
名を伝える器として、わたしが選んだ者で
ある。 *16*わたしの名のために彼がどんな
に苦しまなければならないかを、彼に知ら
せよう」。 *17*そこでアナニヤは、出かけて
行ってその家にはいり、手をサウロの上に

おいて言った、「兄弟サウロよ、あなたが
来る途中で現れた主イエスは、あなたが
再び見えるようになるため、そして聖霊に
満たされるために、わたしをここにおつか
わしになったのです」。 *18*するとたちどこ
ろに、サウロの目から、うろこのようなもの
が落ちて、元どおり見えるようになった。そ
こで彼は立ってバプテスマを受け、 *19*ま
た食事をとって元気を取りもどした。サウロ
は、ダマスコにいる弟子たちと共に数日間
を過ごしてから、 *20*ただちに諸会堂でイ
エスのことを宣べ伝え、このイエスこそ神
の子であると説きはじめた。 *21*これを聞い
た人たちはみな非常に驚いて言った、「あ
れは、エルサレムでこの名をとなえる者た
ちを苦しめた男ではないか。その上ここに
やってきたのも、彼らを縛りあげて、祭司
長たちのところへひっぱって行くためでは
なかったか」。 *22*しかし、サウロはますま
す力が加わり、このイエスがキリストであ
ることを論証して、ダマスコに住むユダヤ人
たちを言い伏せた。 *23*相当の日数がたっ
たころ、ユダヤ人たちはサウロを殺す相談
をした。 *24*ところが、その陰謀が彼の知る
ところとなった。彼らはサウロを殺そうとし
て、夜昼、町の門を見守っていたのである
。 *25*そこで彼の弟子たちが、夜の間に彼
をかごに乗せて、町の城壁づたいにつり
おろした。 *26*サウロはエルサレムに着い
て、弟子たちの仲間に加わろうと努めたが
、みんなの者は彼を弟子だとは信じない
で、恐れていた。 *27*ところが、バルナバは
彼の世話をして使徒たちのところへ連れ
て行き、途中で主が彼に現れて語りかけ
たことや、彼がダマスコでイエスの名で大
胆に宣べ伝えた次第を、彼らに説明して
聞かせた。 *28*それ以来、彼は使徒たちの
仲間に加わり、エルサレムに出入りし、主
の名によって大胆に語り、 *29*ギリシヤ語を
使うユダヤ人たちとしばしば語り合い、ま
た論じ合った。しかし、彼らは彼を殺そうと
ねらっていた。 *30*兄弟たちはそれと知っ
て、彼をカイザリヤに連れてくだり、タルソ
へ送り出した。 *31*こうして教会は、ユダヤ
、ガリラヤ、サマリヤ全地方にわたって平
安を保ち、基礎がかたまり、主[xxvii]をおそれ
聖霊にはげまされて歩み、次第に信徒の
数を増して行った。 *32*ペテロは方々をめ
ぐり歩いたが、ルダに住む聖徒たちのとこ
ろへも下って行った。 *33*そして、そこで、
八年間も床についているアイネヤという人
に会った。この人は中風であった。 *34*ペ
テロが彼に言った、「アイネヤよ、イエス・
キリストがあなたをいやして下さるのだ。起
きなさい。そして床を取りあげなさい」。す
ると、彼はただちに起きあがった。 *35*ルダ
とサロンに住む人たちは、みなそれを見
て、主に帰依した。 *36*ヨッパにタビタ（これ
を訳すと、ドルカス、すなわち、かもしか）
という女弟子がいた。数々のよい働きや施
しをしていた婦人であった。 *37*ところが、
そのころ病気になって死んだので、人々
はそのからだを洗って、屋上の間に安置
した。 *38*ルダはヨッパに近かったので、弟
子たちはペテロがルダにきていると聞き、
ふたりの者を彼のもとにやって、「どうぞ、
早くこちらにおいで下さい」と頼んだ。
*39*そこでペテロは立って、ふたりの者に
連れられてきた。彼が着くとすぐ、屋上の
間に案内された。すると、やもめたちがみ
んな彼のそばに寄ってきて、ドルカスが生
前つくった下着や上着の数々を、泣きな
がら見せるのであった。 *40*ペテロはみん
なの者を外に出し、ひざまずいて祈った。
それから死体の方に向いて、「タビタよ、
起きなさい」と言った。すると彼女は目をあ
け、ペテロを見て起きなおった。 *41*ペテロ
は彼女に手をかして立たせた。それから、
聖徒たちや、やもめたちを呼び入れて、
彼女が生きかえっているのを見せた。
*42*このことがヨッパ中に知れわたり、多く
の人々が主を信じた。 *43*ペテロは、皮な
めしシモンという人の家に泊まり、しばらく
の間ヨッパに滞在した。

10 さて、カイザリヤにコルネリオという名
の人がいた。イタリヤ隊と呼ばれた部隊の
百卒長で、 *2*信心深く、家族一同と共に
神を敬い、民に数々の施しをなし、絶えず
神に祈をしていた。 *3*ある日の午後三時
ごろ、神の使が彼のところにきて、「コルネ
リオよ」と呼ぶのを、幻ではっきり見た。
*4*彼は御使を見つめていたが、恐ろしくな
って、「主よ、なんでございますか」と言っ
た。すると御使が言った、「あなたの祈や
施しは神のみ前にとどいて、おぼえられて

いる。 *5*ついては今、ヨッパに人をやって
、ペテロと呼ばれるシモンという人を招き
なさい。 *6*この人は、海べに家をもつ皮な
めしシモンという者の客となっている」。
*7*このお告げをした御使が立ち去ったの
ち、コルネリオは、僕ふたりと、部下の中で
信心深い兵卒ひとりとを呼び、 *8*いっさい
の事を説明して聞かせ、ヨッパへ送り出し
た。 *9*翌日、この三人が旅をつづけて町
の近くにきたころ、ペテロは祈をするため
屋上にのぼった。時は昼の十二時ごろで
あった。 *10*彼は空腹をおぼえて、何か食
べたいと思った。そして、人々が食事の用
意をしている間に、夢心地になった。
*11*すると、天が開け、大きな布のような入
れ物が、四すみをつるされて、地上に降り
て来るのを見た。 *12*その中には、地上の
四つ足や這うもの、また空の鳥など、各種
の生きものがはいっていた。 *13*そして声
が彼に聞えてきた、「ペテロよ。立って、そ
れらをほふって食べなさい」。 *14*ペテロは
言った、「主よ、それはできません。わたし
は今までに、清くないもの、汚れたものは
、何一つ食べたことがありません」。 *15*す
ると、声が二度目にかかってきた、「神が
きよめたものを、清くないなどと言ってはな
らない」。 *16*こんなことが三度もあってから
、その入れ物はすぐ天に引き上げられた
。 *17*ペテロが、いま見た幻はなんの事だ
ろうかと、ひとり思案にくれていると、ちょう
どその時、コルネリオから送られた人たち
が、シモンの家を尋ね当てて、その門口
に立っていた。 *18*そして声をかけて、「ペ
テロと呼ばれるシモンというかたが、こちら
にお泊まりではございませんか」と尋ねた
。 *19*ペテロはなおも幻について、思いめ
ぐらしていると、御霊が言った、「ごらんな
さい、三人の人たちが、あなたを尋ねてき
ている。 *20*さあ、立って下に降り、ためら
わないで、彼らと一緒に出かけるがよい。
わたしが彼らをよこしたのである」。 *21*そこ
でペテロは、その人たちのところに降りて
行って言った、「わたしがお尋ねのペテロ
です。どんなご用でおいでになったので
すか」。 *22*彼らは答えた、「正しい人で、
神を敬い、ユダヤの全国民に好感を持た
れている百卒長コルネリオが、あなたを家
に招いてお話を伺うようにとのお告げを、
聖なる御使から受けましたので、参りまし
た」。 *23*そこで、ペテロは、彼らを迎えて
泊まらせた。翌日、ペテロは立って、彼ら
と連れだって出発した。ヨッパの兄弟たち
数人も一緒に行った。 *24*その次の日に、
一行はカイザリヤに着いた。コルネリオは
親族や親しい友人たちを呼び集めて、待
っていた。 *25*ペテロがいよいよ到着すると
、コルネリオは出迎えて、彼の足もとにひ
れ伏して拝した。 *26*するとペテロは、彼を
引き起して言った、「お立ちなさい。わたし
も同じ人間です」。 *27*それから共に話しな
がら、へやにはいって行くと、そこには、
すでに大ぜいの人が集まっていた。 *28*ペ
テロは彼らに言った、「あなたがたが知っ
ているとおり、ユダヤ人が他国の人と交際
したり、出入りしたりすることは、禁じられ
ています。ところが、神は、どんな人間をも
清くないとか、汚れているとか言ってはな
らないと、わたしにお示しになりました。
*29*お招きにあずかった時、少しもためら
わずに参ったのは、そのためなのです。
そこで伺いますが、どういうわけで、わたし
を招いてくださったのですか」。 *30*これに
対してコルネリオが答えた、「四日前、ちょ
うどこの時刻に、わたしが自宅で午後三
時の祈をしていますと、突然、輝いた衣を
着た人が、前に立って申しました、 *31*『コ
ルネリオよ、あなたの祈は聞きいれられ、
あなたの施しは神のみ前におぼえられて
いる。 *32*そこでヨッパに人を送ってペテロ
と呼ばれるシモンを招きなさい。その人は
皮なめしシモンの海沿いの家に泊まって
いる』。 *33*それで、早速あなたをお呼びし
たのです。ようこそおいで下さいました。
今わたしたちは、イオウオ(?)[xxviii]があなた
にお告げになったことを残らず伺おうとし
て、みな神のみ前にまかり出ているので
す」。 *34*そこでペテロは口を開いて言った
、「神は人をかたよりみないかたで、 *35*神
を敬い義を行う者はどの国民でも受けい
れて下さることが、ほんとうによくわかって
きました。 *36*あなたがたは、神がすべての
者の主なるイエス・キリストによって平和の
福音を宣べ伝えて、イスラエルの子らに
お送り下さった御言をご存じでしょう。
*37*それは、ヨハネがバプテスマを説いた
後、ガリラヤから始まってユダヤ全土にひ

ろまった福音を述べたものです。 *38*神は
ナザレのイエスに聖霊と力とを注がれまし
た。このイエスは、神が共におられるので
、よい働きをしながら、また悪魔に押えつ
けられている人々をことごとくいやしながら
、巡回されました。 *39*わたしたちは、イエ
スがこうしてユダヤ人の地やエルサレムで
なさったすべてのことの証人であります。
人々はこのイエスを木にかけて殺したの
です。 *40*しかし神はイエスを三日目によ
みがえらせ、 *41*全部の人々にではなかっ
たが、わたしたち証人としてあらかじめ選
ばれた者たちに現れるようにして下さいま
した。わたしたちは、イエスが死人の中か
ら復活された後、共に飲食しました。 *42*そ
れから、イエスご自身が生者と死者との審
判者として神に定められたかたであること
を、人々に宣べ伝え、またあかしするよう
にと、神はわたしたちにお命じになったの
です。 *43*預言者たちもみな、イエスを信じ
る者はことごとく、その名によって罪のゆる
しが受けられると、あかしをしています」。
*44*ペテロがこれらの言葉をまだ語り終え
ないうちに、それを聞いていたみんなの
人たちに、聖霊がくだった。 *45*割礼を受
けている信者で、ペテロについてきた人
たちは、異邦人たちにも聖霊の賜物が注
がれたのを見て、驚いた。 *46*それは、彼
らが異言を語って神をさんびしているのを
聞いたからである。そこで、ペテロが言い
出した、 *47*「この人たちがわたしたちと同
じように聖霊を受けたからには、彼らに水
でバプテスマを授けるのを、だれがこばみ
得ようか」。 *48*こう言って、ペテロはその人
々に命じて、イエス・キリストの名によって
バプテスマを受けさせた。それから、彼ら
はペテロに願って、なお数日のあいだ滞
在してもらった。

11 さて、異邦人たちも神の言を受けい
れたということが、使徒たちやユダヤにい
る兄弟たちに聞えてきた。 *2*そこでペテロ
がエルサレムに上ったとき、割礼を重んじ
る者たちが彼をとがめて言った、 *3*「あな
たは、割礼のない人たちのところに行って
、食事を共にしたということだが」。 *4*そこ
でペテロは口を開いて、順序正しく説明し
て言った、 *5*「わたしがヨッパの町で祈っ
ていると、夢心地になって幻を見た。大き
な布のような入れ物が、四すみをつるされ
て、天から降りてきて、わたしのところにと
どいた。 *6*注意して見つめていると、地上
の四つ足、野の獣、這うもの、空の鳥など
が、はいっていた。 *7*それから声がして、
『ペテロよ、立って、それらをほふって食
べなさい』と、わたしに言うのが聞えた。
*8*わたしは言った、『主よ、それはできませ
ん。わたしは今までに、清くないものや汚
れたものを口に入れたことが一度もござい
ません』。 *9*すると、二度目に天から声が
かかってきた、『神がきよめたものを、清く
ないなどと言ってはならない』。 *10*こんな
ことが三度もあってから、全部のものがま
た天に引き上げられてしまった。 *11*ちょう
どその時、カイザリヤからつかわされてき
た三人の人が、わたしたちの泊まってい
た家に着いた。 *12*御霊がわたしに、ため
らわずに彼らと共に行けと言ったので、こ
こにいる六人の兄弟たちも、わたしと一緒
に出かけて行き、一同がその人の家には
いった。 *13*すると彼はわたしたちに、御使
が彼の家に現れて、『ヨッパに人をやって
、ペテロと呼ばれるシモンを招きなさい。
*14*この人は、あなたとあなたの全家族と
が救われる言葉を語って下さるであろう』
と告げた次第を、話してくれた。 *15*そこで
わたしが語り出したところ、聖霊が、ちょう
ど最初わたしたちの上にくだったと同じよ
うに、彼らの上にくだった。 *16*その時わた
しは、主が『ヨハネは水でバプテスマを授
けたが、あなたがたは聖霊によってバプ
テスマを受けるであろう』と仰せになった
言葉を思い出した。 *17*このように、わたし
たちが主イエス・キリストを信じた時に下さ
ったのと同じ賜物を、神が彼らにもお与え
になったとすれば、わたしのような者が、
どうして神を妨げることができようか」。
*18*人々はこれを聞いて黙ってしまった。
それから神をさんびして、「それでは神は
、異邦人にも命にいたる悔改めをお与え
になったのだ」と言った。 *19*さて、ステパノ
のことで起った迫害のために散らされた
人々は、ピニケ、クプロ、アンテオケまでも
進んで行ったが、ユダヤ人以外の者には
、だれにも御言を語っていなかった。 *20*と
ころが、その中に数人のクプロ人とクレネ

人がいて、アンテオケに行ってからギリシ
ヤ人にも呼びかけ、主イエスを宣べ伝え
ていた。 *21*そして、主[xxix]のみ手が彼らと
共にあったため、信じて主に帰依するもの
の数が多かった。 *22*このうわさがエルサ
レムにある教会に伝わってきたので、教会
はバルナバをアンテオケにつかわした。
*23*彼は、そこに着いて、神のめぐみを見
てよろこび、主に対する信仰を揺るがない
心で持ちつづけるようにと、みんなの者を
励ました。 *24*彼は聖霊と信仰とに満ちた
立派な人であったからである。こうして主
に加わる人々が、大ぜいになった。 *25*そ
こでバルナバはサウロを捜しにタルソへ出
かけて行き、 *26*彼を見つけたうえ、アンテ
オケに連れて帰った。ふたりは、まる一年
、ともどもに教会で集まりをし、大ぜいの
人々を教えた。このアンテオケで初めて、
弟子たちがクリスチャンと呼ばれるように
なった。 *27*そのころ、預言者たちがエル
サレムからアンテオケにくだってきた。
*28*その中のひとりであるアガボという者が
立って、世界中に大ききんが起るだろうと
、御霊によって預言したところ、果してそ
れがクラウデオ帝の時に起った。 *29*そこ
で弟子たちは、それぞれの力に応じて、
ユダヤに住んでいる兄弟たちに援助を送
ることに決めた。 *30*そして、それをバルナ
バとサウロとの手に託して、長老たちに送
りとどけた。

12 そのころ、ヘロデ王は教会のある者
たちに圧迫の手をのばし、 *2*ヨハネの兄
弟ヤコブをつるぎで切り殺した。 *3*そして、
それがユダヤ人たちの意にかなったのを
見て、さらにペテロをも捕えにかかった。
それは除酵祭の時のことであった。 *4*ヘロ
デはペテロを捕えて獄に投じ、四人一組
の兵卒四組に引き渡して、見張りをさせて
おいた。過越の祭のあとで、彼を民衆の
前に引き出すつもりであったのである。
*5*こうして、ペテロは獄に入れられていた
。教会では、彼のために熱心な祈が神に
ささげられた。 *6*ヘロデが彼を引き出そうと
していたその夜、ペテロは二重の鎖につ
ながれ、ふたりの兵卒の間に置かれて眠
っていた。番兵たちは戸口で獄を見張っ
ていた。 *7*すると、突然、イオウオ(?)[xxx]の
使がそばに立ち、光が獄内を照した。そし
て御使はペテロのわき腹をつついて起し
、「早く起きあがりなさい」と言った。すると
鎖が彼の両手から、はずれ落ちた。 *8*御
使が「帯をしめ、くつをはきなさい」と言っ
たので、彼はそのとおりにした。それから
「上着を着て、ついてきなさい」と言われた
ので、 *9*ペテロはついて出て行った。彼に
は御使のしわざが現実のこととは考えられ
ず、ただ幻を見ているように思われた。
*10*彼らは第一、第二の衛所を通りすぎて
、町に抜ける鉄門のところに来ると、それ
がひとりでに開いたので、そこを出て一つ
の通路に進んだとたんに、御使は彼を離
れ去った。 *11*その時ペテロはわれにかえ
って言った、「今はじめて、ほんとうのこと
がわかった。イオウオ(?)[xxxi]が御使をつか
わして、ヘロデの手から、またユダヤ人た
ちの待ちもうけていたあらゆる災から、わ
たしを救い出して下さったのだ」。 *12*ペテ
ロはこうとわかってから、マルコと呼ばれて
いるヨハネの母マリヤの家に行った。その
家には大ぜいの人が集まって祈っていた
。 *13*彼が門の戸をたたいたところ、ロダと
いう女中が取次ぎに出てきたが、 *14*ペテ
ロの声だとわかると、喜びのあまり、門をあ
けもしないで家に駆け込み、ペテロが門
口に立っていると報告した。 *15*人々は「あ
なたは気が狂っている」と言ったが、彼女
は自分の言うことに間違いはないと、言い
張った。そこで彼らは「それでは、ペテロ
の御使だろう」と言った。 *16*しかし、ペテロ
が門をたたきつづけるので、彼らがあける
と、そこにペテロがいたのを見て驚いた。
*17*ペテロは手を振って彼らを静め、イオ
ウオ(?)[xxxii]が獄から彼を連れ出して下さっ
た次第を説明し、「このことを、ヤコブやほ
かの兄弟たちに伝えて下さい」と言い残し
て、どこかほかの所へ出て行った。 *18*夜
が明けると、兵卒たちの間に、ペテロはい
ったいどうなったのだろうと、大へんな騒
ぎが起った。 *19*ヘロデはペテロを捜して
も見つからないので、番兵たちを取り調べ
たうえ、彼らを死刑に処するように命じ、そ
して、ユダヤからカイザリヤにくだって行っ
て、そこに滞在した。 *20*さて、ツロとシドン
との人々は、ヘロデの怒りに触ていたの
で、一同うちそろって王をおとずれ、王の

侍従官ブラストに取りいって、和解かたを
依頼した。彼らの地方が、王の国から食
糧を得ていたからである。 *21*定められた
日に、ヘロデは王服をまとって王座にす
わり、彼らにむかって演説をした。 *22*集ま
った人々は、「これは神の声だ、人間の声
ではない」と叫びつづけた。 *23*するとたち
まち、イオウオ(?)[xxxiii]の使が彼を打った。
神に栄光を帰することをしなかったから
である。彼は虫にかまれて息が絶えてしまっ
た。 *24*こうして、主[xxxiv]の言はますます盛
んにひろまって行った。 *25*バルナバとサ
ウロとは、その任務を果したのち、マルコと
呼ばれていたヨハネを連れて、エルサレ
ムから帰ってきた。

13 さて、アンテオケにある教会には、バ
ルナバ、ニゲルと呼ばれるシメオン、クレ
ネ人ルキオ、領主ヘロデの乳兄弟マナエ
ン、およびサウロなどの預言者や教師が
いた。 *2*一同がイオウオ(?)[xxxv]に礼拝をさ
さげ、断食をしていると、聖霊が「さあ、バ
ルナバとサウロとを、わたしのために聖別
して、彼らに授けておいた仕事に当らせ
なさい」と告げた。 *3*そこで一同は、断食と
祈とをして、手をふたりの上においた後、
出発させた。 *4*ふたりは聖霊に送り出され
て、セルキヤにくだり、そこから舟でクプロ
に渡った。 *5*そしてサラミスに着くと、ユダ
ヤ人の諸会堂で神の言を宣べはじめた。
彼らはヨハネを助け手として連れていた。
*6*島全体を巡回して、パポスまで行ったと
ころ、そこでユダヤ人の魔術師、バルイエ
スというにせ預言者に出会った。 *7*彼は地
方総督セルギオ・パウロのところに出入り
をしていた。この総督は賢明な人であって
、バルナバとサウロとを招いて、神の言を
聞こうとした。 *8*ところが魔術師エルマ（彼
の名は「魔術師」との意）は、総督を信仰
からそらそうとして、しきりにふたりの邪魔
をした。 *9*サウロ、またの名はパウロ、は聖
霊に満たされ、彼をにらみつけて *10*言っ
た、「ああ、あらゆる偽りと邪悪とでかたま
っている悪魔の子よ、すべて正しいものの
敵よ。イオウオ(?)[xxxvi]のまっすぐな道を曲
げることを止めないのか。 *11*見よ、イオウ
オ(?)[xxxvii]のみ手がおまえの上に及んでい
る。おまえは盲になって、当分、日の光が
見えなくなるのだ」。たちまち、かすみとや
みとが彼にかかったため、彼は手さぐりし
ながら、手を引いてくれる人を捜しまわっ
た。 *12*総督はこの出来事を見て、主[xxxviii]
の教にすっかり驚き、そして信じた。 *13*パ
ウロとその一行は、パポスから船出して、
パンフリヤのペルガに渡った。ここでヨハ
ネは一行から身を引いて、エルサレムに
帰ってしまった。 *14*しかしふたりは、ペル
ガからさらに進んで、ピシデヤのアンテオ
ケに行き、安息日に会堂にはいって席に
着いた。 *15*律法と預言書の朗読があった
のち、会堂司たちが彼らのところに人をつ
かわして、「兄弟たちよ、もしあなたがたの
うち、どなたか、この人々に何か奨励の言
葉がありましたら、どうぞお話し下さい」と
言わせた。 *16*そこでパウロが立ちあがり、
手を振りながら言った。「イスラエルの人た
ち、ならびに神を敬うかたがたよ、お聞き
下さい。 *17*この民イスラエルの神は、わた
したちの先祖を選び、エジプトの地に滞
在中、この民を大いなるものとし、み腕を
高くさし上げて、彼らをその地から導き出
された。 *18*そして約四十年にわたって、
荒野で彼らをはぐくみ、 *19*カナンの地で
は七つの異民族を打ち滅ぼし、その地を
彼らに譲り与えられた。 *20*それらのことが
約四百五十年の年月にわたった。その後
、神はさばき人たちをおつかわしになり、
預言者サムエルの時に及んだ。 *21*その
時、人々が王を要求したので、神はベニ
ヤミン族の人、キスの子サウロを四十年間
、彼らにおつかわしになった。 *22*それから
神はサウロを退け、ダビデを立てて王とさ
れたが、彼についてあかしをして、『わたし
はエッサイの子ダビデを見つけた。彼は
わたしの心にかなった人で、わたしの思う
ところを、ことごとく実行してくれるであろう
』と言われた。 *23*神は約束にしたがって、
このダビデの子孫の中から救主イエスをイ
スラエルに送られたが、 *24*そのこられる前
に、ヨハネがイスラエルのすべての民に悔
改めのバプテスマを、あらかじめ宣べ伝え
ていた。 *25*ヨハネはその一生の行程を終
ろうとするに当って言った、『わたしは、あ
なたがたが考えているような者ではない。
しかし、わたしのあとから来るかたがいる。
わたしはそのくつを脱がせてあげる値うち

もない』。 *26*兄弟たち、アブラハムの子孫
のかたがた、ならびに皆さんの中の神を
敬う人たちよ。この救の言葉はわたしたち
に送られたのである。 *27*エルサレムに住
む人々やその指導者たちは、イエスを認
めずに刑に処し、それによって、安息日ご
とに読む預言者の言葉が成就した。 *28*ま
た、なんら死に当る理由が見いだせなか
ったのに、ピラトに強要してイエスを殺して
しまった。 *29*そして、イエスについて書い
てあることを、皆なし遂げてから、人々はイ
エスを木から取りおろして墓に葬った。
*30*しかし、神はイエスを死人の中から、よ
みがえらせたのである。 *31*イエスは、ガリ
ラヤからエルサレムへ一緒に上った人た
ちに、幾日ものあいだ現れ、そして、彼ら
は今や、人々に対してイエスの証人となっ
ている。 *32*わたしたちは、神が先祖たち
に対してなされた約束を、ここに宣べ伝え
ているのである。 *33*神は、イエスをよみが
えらせて、わたしたち子孫にこの約束を、
お果しになった。それは詩篇の第二篇に
も、『あなたこそは、わたしの子。きょう、わ
たしはあなたを生んだ』と書いてあるとおり
である。 *34*また、神がイエスを死人の中か
らよみがえらせて、いつまでも朽ち果てる
ことのないものとされたことについては、
『わたしは、ダビデに約束した確かな聖な
る祝福を、あなたがたに授けよう』と言わ
れた。 *35*だから、ほかの箇所でもこう言っ
ておられる、『あなたの聖者が朽ち果てる
ようなことは、お許しにならないであろう』。
*36*事実、ダビデは、その時代の人々に神
のみ旨にしたがって仕えたが、やがて眠り
につき、先祖たちの中に加えられて、つ
いに朽ち果ててしまった。 *37*しかし、神が
よみがえらせたかたは、朽ち果てることが
なかったのである。 *38*だから、兄弟たちよ
、この事を承知しておくがよい。すなわち
、このイエスによる罪のゆるしの福音が、
今やあなたがたに宣べ伝えられている。
そして、モーセの律法では義とされること
ができなかったすべての事についても、
*39*信じる者はもれなく、イエスによって義
とされるのである。 *40*だから預言者たちの
書にかいてある次のようなことが、あなた
がたの身に起らないように気をつけなさい
。 *41*『見よ、侮る者たちよ。驚け、そして滅
び去れ。わたしは、あなたがたの時代に
一つの事をする。それは、人がどんなに
説明して聞かせても、あなたがたのとうて
い信じないような事なのである』」。 *42*ふた
りが会堂を出る時、人々は次の安息日に
も、これと同じ話をしてくれるようにと、しき
りに願った。 *43*そして集会が終ってからも
、大ぜいのユダヤ人や信心深い改宗者た
ちが、パウロとバルナバとについてきたの
で、ふたりは、彼らが引きつづき神のめぐ
みにとどまっているようにと、説きすすめた
。 *44*次の安息日には、ほとんど全市をあ
げて、神[xxxix]の言を聞きに集まってきた。
*45*するとユダヤ人たちは、その群衆を見
てねたましく思い、パウロの語ることに口
ぎたなく反対した。 *46*パウロとバルナバと
は大胆に語った、「神の言は、まず、あな
たがたに語り伝えられなければならなかっ
た。しかし、あなたがたはそれを退け、自
分自身を永遠の命にふさわしからぬ者に
してしまったから、さあ、わたしたちはこれ
から方向をかえて、異邦人たちの方に行
くのだ。 *47*イオウオ(?)[xl]はわたしたちに、
こう命じておられる、『わたしは、あなたを
立てて異邦人の光とした。あなたが地の
果までも救をもたらすためである』」。 *48*異
邦人たちはこれを聞いてよろこび、主[xli]の
御言をほめたたえてやまなかった。そして
、永遠の命にあずかるように定められてい
た者は、みな信じた。 *49*こうして、主[xlii]の
御言はこの地方全体にひろまって行った
。 *50*ところが、ユダヤ人たちは、信心深い
貴婦人たちや町の有力者たちを煽動して
、パウロとバルナバを迫害させ、ふたりを
その地方から追い出させた。 *51*ふたりは
、彼らに向けて足のちりを払い落して、イ
コニオムへ行った。 *52*弟子たちは、ます
ます喜びと聖霊とに満たされていた。

14 ふたりは、イコニオムでも同じようにユ
ダヤ人の会堂にはいって語った結果、ユ
ダヤ人やギリシヤ人が大ぜい信じた。 *2*と
ころが、信じなかったユダヤ人たちは異邦
人たちをそそのかして、兄弟たちに対して
悪意をいだかせた。 *3*それにもかかわら
ず、ふたりは長い期間をそこで過ごして、
大胆に主[xliii]のことを語った。主は、彼らの
手によってしるしと奇跡とを行わせ、その

めぐみの言葉をあかしされた。 *4*そこで町
の人々が二派に分れ、ある人たちはユダ
ヤ人の側につき、ある人たちは使徒の側
についた。 *5*その時、異邦人やユダヤ人
が役人たちと一緒になって反対運動を起
し、使徒たちをはずかしめ、石で打とうとし
たので、 *6*ふたりはそれと気づいて、ルカ
オニヤの町々、ルステラ、デルベおよびそ
の附近の地へのがれ、 *7*そこで引きつづ
き福音を伝えた。 *8*ところが、ルステラに
足のきかない人が、すわっていた。彼は
生れながらの足なえで、歩いた経験が全
くなかった。 *9*この人がパウロの語るのを
聞いていたが、パウロは彼をじっと見て、
いやされるほどの信仰が彼にあるのを認
め、 *10*大声で「自分の足で、まっすぐに
立ちなさい」と言った。すると彼は踊り上が
って歩き出した。 *11*群衆はパウロのしたこ
とを見て、声を張りあげ、ルカオニヤの地
方語で、「神々が人間の姿をとって、わた
したちのところにお下りになったのだ」と叫
んだ。 *12*彼らはバルナバをゼウスと呼び
、パウロはおもに語る人なので、彼をヘル
メスと呼んだ。 *13*そして、郊外にあるゼウ
ス神殿の祭司が、群衆と共に、ふたりに犠
牲をささげようと思って、雄牛数頭と花輪
とを門前に持ってきた。 *14*ふたりの使徒
バルナバとパウロとは、これを聞いて自分
の上着を引き裂き、群衆の中に飛び込ん
で行き、叫んで *15*言った、「皆さん、なぜ
こんな事をするのか。わたしたちとても、あ
なたがたと同じような人間である。そして、
あなたがたがこのような愚にもつかぬもの
を捨てて、天と地と海と、その中のすべて
のものをお造りになった生ける神に立ち
帰るようにと、福音を説いているものであ
る。 *16*神は過ぎ去った時代には、すべて
の国々の人が、それぞれの道を行くまま
にしておかれたが、 *17*それでも、ご自分
のことをあかししないでおられたわけでは
ない。すなわち、あなたがたのために天か
ら雨を降らせ、実りの季節を与え、食物と
喜びとで、あなたがたの心を満たすなど、
いろいろのめぐみをお与えになっている
のである」。 *18*こう言って、ふたりは、やっ
とのことで、群衆が自分たちに犠牲をささ
げるのを、思い止まらせた。 *19*ところが、
あるユダヤ人たちはアンテオケやイコニオ
ムから押しかけてきて、群衆を仲間に引き
入れたうえ、パウロを石で打ち、死んでし
まったと思って、彼を町の外に引きずり出
した。 *20*しかし、弟子たちがパウロを取り
囲んでいる間に、彼は起きあがって町に
はいって行った。そして翌日には、バルナ
バと一緒にデルベにむかって出かけた。
*21*その町で福音を伝えて、大ぜいの人を
弟子とした後、ルステラ、イコニオム、アン
テオケの町々に帰って行き、 *22*弟子たち
を力づけ、信仰を持ちつづけるようにと奨
励し、「わたしたちが神の国にはいるのに
は、多くの苦難を経なければならない」と
語った。 *23*また教会ごとに彼らのために
長老たちを任命し、断食をして祈り、彼ら
をその信じている主[xliv]にゆだねた。 *24*そ
れから、ふたりはピシデヤを通過してパン
フリヤにきたが、 *25*ペルガで御言[xlv]を語っ
た後、アタリヤにくだり、 *26*そこから舟でア
ンテオケに帰った。彼らが今なし終った働
きのために、神の祝福を受けて送り出され
たのは、このアンテオケからであった。
*27*彼らは到着早々、教会の人々を呼び
集めて、神が彼らと共にいてして下さった
数々のこと、また信仰の門を異邦人に開
いて下さったことなどを、報告した。 *28*そ
して、ふたりはしばらくの間、弟子たちと一
緒に過ごした。

15 さて、ある人たちがユダヤから下って
きて、兄弟たちに「あなたがたも、モーセ
の慣例にしたがって割礼を受けなければ
、救われない」と、説いていた。 *2*そこで、
パウロやバルナバと彼らとの間に、少なか
らぬ紛糾と争論とが生じたので、パウロ、
バルナバそのほか数人の者がエルサレム
に上り、使徒たちや長老たちと、この問題
について協議することになった。 *3*彼らは
教会の人々に見送られ、ピニケ、サマリヤ
をとおって、道すがら、異邦人たちの改宗
の模様をくわしく説明し、すべての兄弟た
ちを大いに喜ばせた。 *4*エルサレムに着く
と、彼らは教会と使徒たち、長老たちに迎
えられて、神が彼らと共にいてなされたこ
とを、ことごとく報告した。 *5*ところが、パリ
サイ派から信仰にはいってきた人たちが
立って、「異邦人にも割礼を施し、またモ
ーセの律法を守らせるべきである」と主張

した。 *6*そこで、使徒たちや長老たちが、
この問題について審議するために集まっ
た。 *7*激しい争論があった後、ペテロが立
って言った、「兄弟たちよ、ご承知のとおり
、異邦人がわたしの口から福音の言葉を
聞いて信じるようにと、神は初めのころに、
諸君の中からわたしをお選びになったの
である。 *8*そして、人の心をご存じである
神は、聖霊をわれわれに賜わったと同様
に彼らにも賜わって、彼らに対してあかし
をなし、 *9*また、その信仰によって彼らの
心をきよめ、われわれと彼らとの間に、な
んの分けへだてもなさらなかった。 *10*しか
るに、諸君はなぜ、今われわれの先祖も
われわれ自身も、負いきれなかったくびき
をあの弟子たちの首にかけて、神を試み
るのか。 *11*確かに、主イエスのめぐみによ
って、われわれは救われるのだと信じるが
、彼らとても同様である」。 *12*すると、全会
衆は黙ってしまった。それから、バルナバ
とパウロとが、彼らをとおして異邦人の間
に神が行われた数々のしるしと奇跡のこと
を、説明するのを聞いた。 *13*ふたりが語り
終えた後、ヤコブはそれに応じて述べた、
「兄弟たちよ、わたしの意見を聞いていた
だきたい。 *14*神が初めに異邦人たちを顧
みて、その中から御名を負う民を選び出さ
れた次第は、シメオンがすでに説明した。
*15*預言者たちの言葉も、それと一致して
いる。すなわち、こう書いてある、 *16*『その
後、わたしは帰ってきて、倒れたダビデの
幕屋を建てかえ、くずれた箇所を修理し、
それを立て直そう。 *17*残っている人々も、
わたしの名を唱えているすべての異邦人
も、イオウオ(?)[xlvi]を尋ね求めるようになる
ためである。 *18*世の初めからこれらの事を
知らせておられるイオウオ(?)[xlvii]が、こう仰
せになった』。 *19*そこで、わたしの意見で
は、異邦人の中から神に帰依している人
たちに、わずらいをかけてはいけない。
*20*ただ、偶像に供えて汚れた物と、不品
行と、絞め殺したものと、血とを、避けるよ
うにと、彼らに書き送ることにしたい。 *21*古
い時代から、どの町にもモーセの律法を
宣べ伝える者がいて、安息日ごとにそれ
を諸会堂で朗読するならわしであるから」
。 *22*そこで、使徒たちや長老たちは、全
教会と協議した末、お互の中から人々を
選んで、パウロやバルナバと共に、アンテ
オケに派遣することに決めた。選ばれた
のは、バルサバというユダとシラスとであっ
たが、いずれも兄弟たちの間で重んじら
れていた人たちであった。 *23*この人たち
に託された書面はこうである。「あなたが
たの兄弟である使徒および長老たちから
、アンテオケ、シリヤ、キリキヤにいる異邦
人の兄弟がたに、あいさつを送る。 *24*こ
ちらから行ったある者たちが、わたしたち
からの指示もないのに、いろいろなことを
言って、あなたがたを騒がせ、あなたがた
の心を乱したと伝え聞いた。 *25*そこで、わ
たしたちは人々を選んで、愛するバルナ
バおよびパウロと共に、あなたがたのもと
に派遣することに、衆議一決した。 *26*この
ふたりは、われらの主イエス・キリストの名
のために、その命を投げ出した人々であ
るが、 *27*彼らと共に、ユダとシラスとを派
遣する次第である。この人たちは、あなた
がたに、同じ趣旨のことを、口頭でも伝え
るであろう。 *28*すなわち、聖霊とわたした
ちとは、次の必要事項のほかは、どんな
負担をも、あなたがたに負わせないことに
決めた。 *29*それは、偶像に供えたものと、
血と、絞め殺したものと、不品行とを、避け
るということである。これらのものから遠ざ
かっておれば、それでよろしい。以上」。
*30*さて、一行は人々に見送られて、アン
テオケに下って行き、会衆を集めて、その
書面を手渡した。 *31*人々はそれを読んで
、その勧めの言葉をよろこんだ。 *32*ユダと
シラスとは共に預言者であったので、多く
の言葉をもって兄弟たちを励まし、また力
づけた。 *33*ふたりは、しばらくの時を、そ
こで過ごした後、兄弟たちから、旅の平安
を祈られて、見送りを受け、自分らを派遣
した人々のところに帰って行った。〔 *34*し
かし、シラスだけは、引きつづきとどまるこ
とにした。〕 *35*パウロとバルナバとはアン
テオケに滞在をつづけて、ほかの多くの
人たちと共に、主[xlviii]の言葉を教えかつ宣
べ伝えた。 *36*幾日かの後、パウロはバル
ナバに言った、「さあ、前に主[xlix]の言葉を
伝えたすべての町々にいる兄弟たちを、
また訪問して、みんながどうしているかを
見てこようではないか」。 *37*そこで、バル
ナバはマルコというヨハネも一緒に連れて

行くつもりでいた。 *38*しかし、パウロは、前
にパンフリヤで一行から離れて、働きを共
にしなかったような者は、連れて行かない
がよいと考えた。 *39*こうして激論が起り、
その結果ふたりは互に別れ別れになり、
バルナバはマルコを連れてクプロに渡っ
て行き、 *40*パウロはシラスを選び、兄弟た
ちから主[l]の恵みにゆだねられて、出発し
た。 *41*そしてパウロは、シリヤ、キリキヤの
地方をとおって、諸教会を力づけた。

16 それから、彼はデルベに行き、次に
ルステラに行った。そこにテモテという名
の弟子がいた。信者のユダヤ婦人を母と
し、ギリシヤ人を父としており、 *2*ルステラ
とイコニオムの兄弟たちの間で、評判のよ
い人物であった。 *3*パウロはこのテモテを
連れて行きたかったので、その地方にい
るユダヤ人の手前、まず彼に割礼を受け
させた。彼の父がギリシヤ人であることは
、みんな知っていたからである。 *4*それか
ら彼らは通る町々で、エルサレムの使徒
たちや長老たちの取り決めた事項を守る
ようにと、人々にそれを渡した。 *5*こうして
、諸教会はその信仰を強められ、日ごとに
数を増していった。 *6*それから彼らは、ア
ジヤで御言を語ることを聖霊に禁じられた
ので、フルギヤ・ガラテヤ地方をとおって
行った。 *7*そして、ムシヤのあたりにきてか
ら、ビテニヤに進んで行こうとしたところ、
イエスの御霊がこれを許さなかった。 *8*そ
れで、ムシヤを通過して、トロアスに下っ
て行った。 *9*ここで夜、パウロは一つの幻
を見た。ひとりのマケドニヤ人が立って、
「マケドニヤに渡ってきて、わたしたちを助
けて下さい」と、彼に懇願するのであった
。 *10*パウロがこの幻を見た時、これは彼ら
に福音を伝えるために、神がわたしたちを
お招きになったのだと確信して、わたした
ちは、ただちにマケドニヤに渡って行くこ
とにした。 *11*そこで、わたしたちはトロアス
から船出して、サモトラケに直航し、翌日
ネアポリスに着いた。 *12*そこからピリピへ
行った。これはマケドニヤのこの地方第一
の町で、植民都市であった。わたしたちは
、この町に数日間滞在した。 *13*ある安息
日に、わたしたちは町の門を出て、祈り場
があると思って、川のほとりに行った。そし
て、そこにすわり、集まってきた婦人たち
に話をした。 *14*ところが、テアテラ市の紫
布の商人で、神を敬うルデヤという婦人が
聞いていた。主[li]は彼女の心を開いて、パ
ウロの語ることに耳を傾けさせた。 *15*そし
て、この婦人もその家族も、共にバプテス
マを受けたが、その時、彼女は「もし、わ
たしを主[lii]を信じる者とお思いでしたら、ど
うぞ、わたしの家にきて泊まって下さい」と
懇望し、しいてわたしたちをつれて行った
。 *16*ある時、わたしたちが、祈り場に行く
途中、占いの霊につかれた女奴隷に出
会った。彼女は占いをして、その主人たち
に多くの利益を得させていた者である。
*17*この女が、パウロやわたしたちのあとを
追ってきては、「この人たちは、いと高き神
の僕たちで、あなたがたに救の道を伝え
るかただ」と、叫び出すのであった。 *18*そ
して、そんなことを幾日間もつづけていた
。パウロは困りはてて、その霊にむかい
「イエス・キリストの名によって命じる。その
女から出て行け」と言った。すると、その瞬
間に霊が女から出て行った。 *19*彼女の主
人たちは、自分らの利益を得る望みが絶
えたのを見て、パウロとシラスとを捕え、役
人に引き渡すため広場に引きずって行っ
た。 *20*それから、ふたりを長官たちの前
に引き出して訴えた、「この人たちはユダ
ヤ人でありまして、わたしたちの町をかき
乱し、 *21*わたしたちローマ人が、採用も
実行もしてはならない風習を宣伝している
のです」。 *22*群衆もいっせいに立って、ふ
たりを責めたてたので、長官たちはふたり
の上着をはぎ取り、むちで打つことを命じ
た。 *23*それで、ふたりに何度もむちを加
えさせたのち、獄に入れ、獄吏にしっかり
番をするようにと命じた。 *24*獄吏はこの厳
命を受けたので、ふたりを奥の獄屋に入
れ、その足に足かせをしっかとかけておい
た。 *25*真夜中ごろ、パウロとシラスとは
、神に祈り、さんびを歌いつづけたが、囚
人たちは耳をすまして聞きいっていた。
*26*ところが突然、大地震が起って、獄の
土台が揺れ動き、戸は全部たちまち開い
て、みんなの者の鎖が解けてしまった。
*27*獄吏は目をさまし、獄の戸が開いてし
まっているのを見て、囚人たちが逃げ出し
たものと思い、つるぎを抜いて自殺しかけ

た。 *28*そこでパウロは大声をあげて言った、「自害してはいけない。われわれは皆
ひとり残らず、ここにいる」。 *29*すると、獄
吏は、あかりを手に入れた上、獄に駆け
込んできて、おののきながらパウロとシラ
スの前にひれ伏した。 *30*それから、ふたり
を外に連れ出して言った、「先生がた、わ
たしは救われるために、何をすべきでしょ
うか」。 *31*ふたりが言った、「主イエスを信
じなさい。そうしたら、あなたもあなたの家
族も救われます」。 *32*それから、彼とその
家族一同とに、神[liii]の言を語って聞かせ
た。 *33*彼は真夜中にもかかわらず、ふた
りを引き取って、その打ち傷を洗ってやっ
た。そして、その場で自分も家族も、ひとり
残らずバプテスマを受け、 *34*さらに、ふた
りを自分の家に案内して食事のもてなしを
し、神を信じる者となったことを、全家族と
共に心から喜んだ。 *35*夜が明けると、長
官たちは警吏らをつかわして、「あの人た
ちを釈放せよ」と言わせた。 *36*そこで、獄
吏はこの言葉をパウロに伝えて言った、
「長官たちが、あなたがたを釈放させるよ
うにと、使をよこしました。さあ、出てきて、
無事にお帰りなさい」。 *37*ところが、パウロ
は警吏らに言った、「彼らは、ローマ人で
あるわれわれを、裁判にかけもせずに、公
衆の前でむち打ったあげ く、獄に入れて
しまった。しかるに今になって、ひそかに、
われわれを出そうとするのか。それは、い
けない。彼ら自身がここにきて、われわれ
を連れ出すべきである」。 *38*警吏らはこの
言葉を長官たちに報告した。すると長官
たちは、ふたりがローマ人だと聞いて恐れ
、 *39*自分でやってきてわびた上、ふたり
を獄から連れ出し、町から立ち去るように
と頼んだ。 *40*ふたりは獄を出て、ルデヤ
の家に行った。そして、兄弟たちに会って
勧めをなし、それから出かけた。

17 一行は、アムピポリスとアポロニヤとを
とおって、テサロニケに行った。ここには
ユダヤ人の会堂があった。 *2*パウロは例
によって、その会堂にはいって行って、三
つの安息日にわたり、聖書に基いて彼ら
と論じ、 *3*キリストは必ず苦難を受け、そし
て死人の中からよみがえるべきこと、また
「わたしがあなたがたに伝えているこのイ
エスこそは、キリストである」とのことを、説
明もし論証もした。 *4*ある人たちは納得が
いって、パウロとシラスにしたがった。その
中には、信心深いギリシヤ人が多数あり、
貴婦人たちも少なくなかった。 *5*ところが、
ユダヤ人たちは、それをねたんで、町を
ぶらついているならず者らを集めて暴動
を起し、町を騒がせた。それからヤソンの
家を襲い、ふたりを民衆の前にひっぱり
出そうと、しきりに捜した。 *6*しかし、ふたり
が見つからないので、ヤソンと兄弟たち数
人を、市の当局者のところに引きずって行
き、叫んで言った、「天下をかき回してきた
この人たちが、ここにもはいり込んでいま
す。 *7*その人たちをヤソンが自分の家に
迎え入れました。この連中は、みなカイザ
ルの詔勅にそむいて行動し、イエスという
別の王がいるなどと言っています」。 *8*こ
れを聞いて、群衆と市の当局者は不安に
感じた。 *9*そして、ヤソンやほかの者たち
から、保証金を取った上、彼らを釈放した
。 *10*そこで、兄弟たちはただちに、パウロ
とシラスとを、夜の間にベレヤへ送り出し
た。ふたりはベレヤに到着すると、ユダヤ
人の会堂に行った。 *11*ここにいるユダヤ
人はテサロニケの者たちよりも素直であっ
て、心から教を受けいれ、果してそのとお
りかどうかを知ろうとして、日々聖書を調べ
ていた。 *12*そういうわけで、彼らのうちの
多くの者が信者になった。また、ギリシヤ
の貴婦人や男子で信じた者も、少なくな
かった。 *13*テサロニケのユダヤ人たちは
、パウロがベレヤでも神の言を伝えている
ことを知り、そこにも押しかけてきて、群衆
を煽動して騒がせた。 *14*そこで、兄弟た
ちは、ただちにパウロを送り出して、海べ
まで行かせ、シラスとテモテとはベレヤに
居残った。 *15*パウロを案内した人たちは
、彼をアテネまで連れて行き、テモテとシ
ラスとになるべく早く来るようにとのパウロ
の伝言を受けて、帰った。 *16*さて、パウロ
はアテネで彼らを待っている間に、市内
に偶像がおびただしくあるのを見て、心に
憤りを感じた。 *17*そこで彼は、会堂ではユ
ダヤ人や信心深い人たちと論じ、広場で
は毎日そこで出会う人々を相手に論じた
。 *18*また、エピクロス派やストア派の哲学
者数人も、パウロと議論を戦わせていたが

、その中のある者たちが言った、「このおしゃべ りは、いったい、何を言おうとしているのか」。また、ほかの者たちは、「あれは、異国の神々を伝えようとしているらしい」と言った。パウロが、イエスと復 活とを、宣べ伝えていたからであった。 *19*そこで、彼らはパウロをアレオパゴスの評議所に連れて行って、「君の語っている新しい教がどんなものか、知らせてもらえまいか。 *20*君がなんだか珍らしいことをわれわれに聞かせているので、それがなんの事なのか知りたいと思うのだ」と言った。 *21*いったい、アテネ人もそこに滞在している外国人もみな、何か耳新しいことを話したり聞いたりすることのみに、時を過ごしていたのである。 *22*そこでパウロは、アレオパゴスの評議所のまん中に立って言った。「アテネの人たちよ、あなたがたは、あらゆる点において、すこぶる宗教心に富んでおられると、わたしは見ている。 *23*実は、わたしが道を通りながら、あなたがたの拝むいろいろなものを、よく見ているうちに、『知られない神に』と刻まれた祭壇もあるのに気がついた。そこで、あなたがたが知らずに拝んでいるものを、いま知らせてあげよう。 *24*この世界と、その中にある万物とを造った神は、天地の主であるのだから、手で造った宮などにはお住みにならない。 *25*また、何か不足でもしておるかのように、人の手によって仕えられる必要もない。神は、すべての人々に命と息と万物とを与え、 *26*また、ひとりの人から、あらゆる民族を造り出して、地の全面に住まわせ、それぞれに時代を区分し、国土の境界を定めて下さったのである。 *27*こうして、人々が熱心に追い求めて捜しさえすれば、神を見いだせるようにして下さった。事実、神はわれわれひとりびとりから遠く離れておいでになるのではない。 *28*われわれは神のうちに生き、動き、存在しているからである。あなたがたのある詩人たちも言ったように、『われわれも、確かにその子孫である』。 *29*このように、われわれは神の子孫なのであるから、神たる者を、人間の技巧や空想で金や銀や石などに彫り付けたものと同じと、見なすべきではない。 *30*神は、このような無知の時代を、これまでは見過ごしにされていたが、今はどこにおる人でも、みな悔い改めなければならないことを命じておられる。 *31*神は、義をもってこの世界をさばくためその日を定め、お選びになったかたによってそれをなし遂げようとされている。すなわち、このかたを死人の中からよみがえらせ、その確証をすべての人に示されたのである」。

*32*死人のよみがえりのことを聞くと、ある者たちはあざ笑い、またある者たちは、「この事については、いずれまた聞くことにする」と言った。 *33*こうして、パウロは彼らの中から出て行った。 *34*しかし、彼にしたがって信じた者も、幾人かあった。その中には、アレオパゴスの裁判人デオヌシオとダマリスという女、また、その他の人々もいた。

18 その後、パウロはアテネを去ってコリントへ行った。 *2*そこで、アクラというポント生れのユダヤ人と、その妻プリスキラとに出会った。クラウデオ帝が、すべてのユダヤ人をローマから退去させるようにと、命令したため、彼らは近ごろイタリヤから出てきたのである。 *3*パウロは彼らのところに行ったが、互に同業であったので、その家に住み込んで、一緒に仕事をした。天幕造りがその職業であった。 *4*パウロは安息日ごとに会堂で論じては、ユダヤ人やギリシヤ人の説得に努めた。 *5*シラスとテモテが、マケドニヤから下ってきてからは、パウロは御言を伝えることに専念し、イエスがキリストであることを、ユダヤ人たちに力強くあかしした。 *6*しかし、彼らがこれに反抗してののしり続けたので、パウロは自分の上着を振りはらって、彼らに言った、「あなたがたの血は、あなたがた自身にかえれ。わたしには責任がない。今からわたしは異邦人の方に行く」。 *7*こう言って、彼はそこを去り、テテオ・ユストという神を敬う人の家に行った。その家は会堂と隣り合っていた。 *8*会堂司クリスポは、その家族一同と共に主を信じた。また多くのコリント人も、パウロの話を聞いて信じ、ぞくぞくとバプテスマを受けた。 *9*すると、ある夜、幻のうちに主がパウロに言われた、「恐れるな。語りつづけよ、黙っているな。 *10*あなたには、わたしがついている。だれもあなたを襲って、危害を加えるような

ことはない。この町には、わたしの民が大
ぜいいる」。 *11*パウロは一年六か月の間
ここに腰をすえて、神の言を彼らの間に教
えつづけた。 *12*ところが、ガリオがアカヤ
の総督であった時、ユダヤ人たちは一緒
になってパウロを襲い、彼を法廷にひっ
ぱって行って訴えた、 *13*「この人は、律法
にそむいて神を拝むように、人々をそその
かしています」。 *14*パウロが口を開こうと
すると、ガリオはユダヤ人たちに言った、
「ユダヤ人諸君、何か不法行為とか、悪質
の犯罪とかのことなら、わたしは当然、諸
君の訴えを取り上げもしようが、 *15*これは
諸君の言葉や名称や律法に関する問題
なのだから、諸君みずから始末するがよ
かろう。わたしはそんな事の裁判人にはな
りたくない」。 *16*こう言って、彼らを法廷か
ら追いはらった。 *17*そこで、みんなの者は
、会堂司ソステネを引き捕え、法廷の前で
打ちたたいた。ガリオはそれに対して、そ
知らぬ顔をしていた。 *18*さてパウロは、な
お幾日ものあいだ滞在した後、兄弟たち
に別れを告げて、シリヤへ向け出帆した。
プリスキラとアクラも同行した。パウロは、
かねてから、ある誓願を立てていたので、
ケンクレヤで頭をそった。 *19*一行がエペ
ソに着くと、パウロはふたりをそこに残して
おき、自分だけ会堂にはいって、ユダヤ
人たちと論じた。 *20*人々は、パウロにもっ
と長いあいだ滞在するように願ったが、彼
は聞きいれないで、 *21*「神[liv]のみこころな
ら、またあなたがたのところに帰ってこよう
」と言って、別れを告げ、エペソから船出
した。 *22*それから、カイザリヤで上陸して
エルサレムに上り、教会にあいさつしてか
ら、アンテオケに下って行った。 *23*そこに
しばらくいてから、彼はまた出かけ、ガラテ
ヤおよびフルギヤの地方を歴訪して、す
べての弟子たちを力づけた。 *24*さて、ア
レキサンデリヤ生れで、聖書に精通し、し
かも、雄弁なアポロというユダヤ人が、エ
ペソにきた。 *25*この人は主[lv]の道に通じて
おり、また、霊に燃えてイエスのことを詳し
く語ったり教えたりしていたが、ただヨハネ
のバプテスマしか知っていなかった。
*26*彼は会堂で大胆に語り始めた。それを
プリスキラとアクラとが聞いて、彼を招きい
れ、さらに詳しく神の道を解き聞かせた。
*27*それから、アポロがアカヤに渡りたいと
思っていたので、兄弟たちは彼を励まし、
先方の弟子たちに、彼をよく迎えるように
と、手紙を書き送った。彼は到着して、す
でにめぐみによって信者になっていた人
たちに、大いに力になった。 *28*彼はイエ
スがキリストであることを、聖書に基いて示
し、公然と、ユダヤ人たちを激しい語調で
論破したからである。

19 アポロがコリントにいた時、パウロは
奥地をとおってエペソにきた。そして、あ
る弟子たちに出会って、 *2*彼らに「あなた
がたは、信仰にはいった時に、聖霊を受
けたのか」と尋ねたところ、「いいえ、聖霊
なるものがあることさえ、聞いたことがあり
ません」と答えた。 *3*「では、だれの名によ
ってバプテスマを受けたのか」と彼がきくと
、彼らは「ヨハネの名によるバプテスマを
受けました」と答えた。 *4*そこで、パウロが
言った、「ヨハネは悔改めのバプテスマを
授けたが、それによって、自分のあとに来
るかた、すなわち、イエスを信じるように、
人々に勧めたのである」。 *5*人々はこれを
聞いて、主イエスの名によるバプテスマを
受けた。 *6*そして、パウロが彼らの上に手
をおくと、聖霊が彼らにくだり、それから彼
らは異言を語ったり、預言をしたりし出し
た。 *7*その人たちはみんなで十二人ほど
であった。 *8*それから、パウロは会堂には
いって、三か月のあいだ、大胆に神の国
について論じ、また勧めをした。 *9*ところが
、ある人たちは心をかたくなにして、信じよ
うとせず、会衆の前でこの道をあしざまに
言ったので、彼は弟子たちを引き連れて
、その人たちから離れ、ツラノの講堂で毎
日論じた。 *10*それが二年間も続いたので
、アジヤに住んでいる者は、ユダヤ人もギ
リシヤ人も皆、主の言を聞いた。 *11*神は、
パウロの手によって、異常な力あるわざを
次々になされた。 *12*たとえば、人々が、彼
の身につけている手ぬぐいや前掛けを取
って病人にあてると、その病気が除かれ、
悪霊が出て行くのであった。 *13*そこで、ユ
ダヤ人のまじない師で、遍歴している者た
ちが、悪霊につかれている者にむかって
、主イエスの名をとなえ、「パウロの宣べ伝
えているイエスによって命じる。出て行け」

と、ためしに言ってみた。 *14*ユダヤの祭
司長スケワという者の七人のむすこたちも
、そんなことをしていた。 *15*すると悪霊が
これに対して言った、「イエスなら自分は
知っている。パウロもわかっている。だが、
おまえたちは、いったい何者だ」。 *16*そし
て、悪霊につかれている人が、彼らに飛
びかかり、みんなを押えつけて負かしたの
で、彼らは傷を負ったまま裸になって、そ
の家を逃げ出した。 *17*このことがエペソに
住むすべてのユダヤ人やギリシヤ人に知
れわたって、みんな恐怖に襲われ、そし
て、主イエスの名があがめられた。 *18*また
信者になった者が大ぜいきて、自分の行
為を打ちあけて告白した。 *19*それから、
魔術を行っていた多くの者が、魔術の本
を持ち出してきては、みんなの前で焼き
捨てた。その値段を総計したところ、銀五
万にも上ることがわかった。 *20*このように
して、主[lvi]の言はますます盛んにひろまり
、また力を増し加えていった。 *21*これらの
事があった後、パウロは御霊に感じて、マ
ケドニヤ、アカヤをとおって、エルサレム
へ行く決心をした。そして言った、「わたし
は、そこに行ったのち、ぜひローマをも見
なければならない」。 *22*そこで、自分に仕
えている者の中から、テモテとエラストとの
ふたりを、まずマケドニヤに送り出し、パウ
ロ自身は、なおしばらくアジヤにとどまっ
た。 *23*そのころ、この道[lvii]について容易な
らぬ騒動が起った。 *24*そのいきさつは、こ
うである。デメテリオという銀細工人が、銀
でアルテミス神殿の模型を造って、職人
たちに少なからぬ利益を得させていた。
*25*この男がその職人たちや、同類の仕事
をしていた者たちを集めて言った、「諸君
、われわれがこの仕事で、金もうけをして
いることは、ご承知のとおりだ。 *26*しかる
に、諸君の見聞きしているように、あのパ
ウロが、手で造られたものは神様ではない
などと言って、エペソばかりか、ほとんどア
ジヤ全体にわたって、大ぜいの人々を説
きつけて誤らせた。 *27*これでは、お互の
仕事に悪評が立つおそれがあるばかりか
、大女神アルテミスの宮も軽んじられ、ひ
いては全アジヤ、いや全世界が拝んでい
るこの大女神のご威光さえも、消えてしま
いそうである」。 *28*これを聞くと、人々は怒
りに燃え、大声で「大いなるかな、エペソ
人のアルテミス」と叫びつづけた。 *29*そし
て、町中が大混乱に陥り、人々はパウロの
道連れであるマケドニヤ人ガイオとアリス
タルコとを捕えて、いっせいに劇場へなだ
れ込んだ。 *30*パウロは群衆の中にはいっ
て行こうとしたが、弟子たちがそれをさせ
なかった。 *31*アジヤ州の議員で、パウロ
の友人であった人たちも、彼に使をよこし
て、劇場にはいって行かないようにと、し
きりに頼んだ。 *32*中では、集会が混乱に
陥ってしまって、ある者はこのことを、ほか
の者はあのことを、どなりつづけていたの
で、大多数の者は、なんのために集まっ
たのかも、わからないでいた。 *33*そこで、
ユダヤ人たちが、前に押し出したアレキサ
ンデルなる者を、群衆の中のある人たち
が促したため、彼は手を振って、人々に
弁明を試みようとした。 *34*ところが、彼が
ユダヤ人だとわかると、みんなの者がいっ
せいに「大いなるかな、エペソ人のアルテ
ミス」と二時間ばかりも叫びつづけた。
*35*ついに、市の書記役が群衆を押し静
めて言った、「エペソの諸君、エペソ市が
大女神アルテミスと、天くだったご神体と
の守護役であることを知らない者が、ひと
りでもいるだろうか。 *36*これは否定のでき
ない事実であるから、諸君はよろしく静か
にしているべきで、乱暴な行動は、いっさ
いしてはならない。 *37*諸君はこの人たち
をここにひっぱってきたが、彼らは宮を荒
す者でも、われわれの女神をそしる者でも
ない。 *38*だから、もしデメテリオなりその職
人仲間なりが、だれかに対して訴え事が
あるなら、裁判の日はあるし、総督もいる
のだから、それぞれ訴え出るがよい。 *39*し
かし、何かもっと要求したい事があれば、
それは正式の議会で解決してもらうべき
だ。 *40*きょうの事件については、この騒ぎ
を弁護できるような理由が全くないのだか
ら、われわれは治安をみだす罪に問われ
るおそれがある」。 *41*こう言って、彼はこ
の集会を解散させた。

20 騒ぎがやんだ後、パウロは弟子たち
を呼び集めて激励を与えた上、別れのあ
いさつを述べ、マケドニヤへ向かって出
発した。 *2*そして、その地方をとおり、多く

の言葉で人々を励ましたのち、ギリシヤに
きた。 *3*彼はそこで三か月を過ごした。そ
れからシリヤへ向かって、船出しようとして
いた矢先、彼に対するユダヤ人の陰謀が
起ったので、マケドニヤを経由して帰る
ことに決した。 *4*プロの子であるエペソ人ソ
パテロ、テサロニケ人アリスタルコとセクン
ド、デルベ人ガイオ、それからテモテ、ま
たアジヤ人テキコとトロピモがパウロの同
行者であった。 *5*この人たちは先発して、
トロアスでわたしたちを待っていた。 *6*わ
たしたちは、除酵祭が終ったのちに、ピリ
ピから出帆し、五日かかってトロアスに到
着して、彼らと落ち合い、そこに七日間滞
在した。 *7*週の初めの日に、わたしたちが
パンをさくために集まった時、パウロは翌
日出発することにしていたので、しきりに
人々と語り合い、夜中まで語りつづけた。
*8*わたしたちが集まっていた屋上の間に
は、あかりがたくさんともしてあった。 *9*ユ
テコという若者が窓に腰をかけていたとこ
ろ、パウロの話がながながと続くので、ひ
どく眠けがさしてきて、とうとうぐっすり寝入
ってしまい、三階から下に落ちた。抱き起
してみたら、もう死んでいた。 *10*そこでパ
ウロは降りてきて、若者の上に身をかがめ
、彼を抱きあげて、「騒ぐことはない。まだ
命がある」と言った。 *11*そして、また上が
って行って、パンをさいて食べてから、明
けがたまで長いあいだ人々と語り合って、
ついに出発した。 *12*人々は生きかえった
若者を連れかえり、ひとかたならず慰めら
れた。 *13*さて、わたしたちは先に舟に乗り
込み、アソスへ向かって出帆した。そこか
らパウロを舟に乗せて行くことにしていた
。彼だけは陸路をとることに決めていたか
らである。 *14*パウロがアソスで、わたした
ちと落ち合った時、わたしたちは彼を舟に
乗せてミテレネに行った。 *15*そこから出帆
して、翌日キヨスの沖合にいたり、次の日
にサモスに寄り、その翌日ミレトに着いた
。 *16*それは、パウロがアジヤで時間をとら
れないため、エペソには寄らないで続航
することに決めていたからである。彼は、
できればペンテコステの日には、エルサレ
ムに着いていたかったので、旅を急いだ
わけである。 *17*そこでパウロは、ミレトから
エペソに使をやって、教会の長老たちを
呼び寄せた。 *18*そして、彼のところに寄り
集まってきた時、彼らに言った。「わたしが
、アジヤの地に足を踏み入れた最初の日
以来、いつもあなたがたとどんなふうに過
ごしてきたか、よくご存じである。 *19*すな
わち、謙遜の限りをつくし、涙を流し、ユダ
ヤ人の陰謀によってわたしの身に及んだ
数々の試練の中にあって、主に仕えてき
た。 *20*また、あなたがたの益になることは
、公衆の前でも、また家々でも、すべてあ
ますところなく話して聞かせ、また教え、
*21*ユダヤ人にもギリシヤ人にも、神に対
する悔改めと、わたしたちの主イエスに対
する信仰とを、強く勧めてきたのである。
*22*今や、わたしは御霊に迫られてエルサ
レムへ行く。あの都で、どんな事がわたし
の身にふりかかって来るか、わたしにはわ
からない。 *23*ただ、聖霊が至るところの町
々で、わたしにはっきり告げているのは、
投獄と患難とが、わたしを待ちうけている
ということだ。 *24*しかし、わたしは自分の
行程を走り終え、主イエスから賜わった、
神のめぐみの福音をあかしする任務を果
し得さえしたら、このいのちは自分にとっ
て、少しも惜しいとは思わない。 *25*わたし
はいま信じている、あなたがたの間を歩き
回って御国[lviii]を宣べ伝えたこのわたしの
顔を、みんなが今後二度と見ることはある
まい。 *26*だから、きょう、この日にあなたが
たに断言しておく。わたしは、すべての人
の血について、なんら責任がない。 *27*神
のみ旨を皆あますところなく、あなたがた
に伝えておいたからである。 *28*どうか、あ
なたがた自身に気をつけ、また、すべて
の群れに気をくばっていただきたい。聖
霊は、神が御子の血であがない取られた
神の教会を牧させるために、あなたがたを
その群れの監督者にお立てになったので
ある。 *29*わたしが去った後、狂暴なおお
かみが、あなたがたの中にはいり込んでき
て、容赦なく群れを荒すようになることを、
わたしは知っている。 *30*また、あなたがた
自身の中からも、いろいろ曲ったことを言
って、弟子たちを自分の方に、ひっぱり込
もうとする者らが起るであろう。 *31*だから、
目をさましていなさい。そして、わたしが三
年の間、夜も昼も涙をもって、あなたがた
ひとりびとりを絶えずさとしてきたことを、

忘れないでほしい。 *32*今わたしは、主と
その恵みの言とに、あなたがたをゆだねる
。御言には、あなたがたの徳をたて、聖別
されたすべての人々と共に、御国をつが
せる力がある。 *33*わたしは、人の金や銀
や衣服をほしがったことはない。 *34*あなた
がた自身が知っているとおり、わたしのこ
の両手は、自分の生活のためにも、また
一緒にいた人たちのためにも、働いてき
たのだ。 *35*わたしは、あなたがたもこのよ
うに働いて、弱い者を助けなければならな
いこと、また『受けるよりは与える方が、さ
いわいである』と言われた主イエスの言葉
を記憶しているべきことを、万事について
教え示したのである」。 *36*こう言って、パウ
ロは一同と共にひざまずいて祈った。
*37*みんなの者は、はげしく泣き悲しみ、
パウロの首を抱いて、幾度も接吻し、 *38*も
う二度と自分の顔を見ることはあるまいと
彼が言ったので、特に心を痛めた。それ
から彼を舟まで見送った。

21 さて、わたしたちは人々と別れて船出
してから、コスに直航し、次の日はロドスに
、そこからパタラに着いた。 *2*ここでピニケ
行きの舟を見つけたので、それに乗り込
んで出帆した。 *3*やがてクプロが見えてき
たが、それを左手にして通りすぎ、シリヤ
へ航行をつづけ、ツロに入港した。ここで
積荷が陸上げされることになっていたから
である。 *4*わたしたちは、弟子たちを捜し
出して、そこに七日間泊まった。ところが
彼らは、御霊の示しを受けて、エルサレム
には上って行かないようにと、しきりにパウ
ロに注意した。 *5*しかし、滞在期間が終っ
た時、わたしたちはまた旅立つことにした
ので、みんなの者は、妻や子供を引き連
れて、町はずれまで、わたしたちを見送り
にきてくれた。そこで、共に海岸にひざま
ずいて祈り、 *6*互に別れを告げた。それか
ら、わたしたちは舟に乗り込み、彼らはそ
れぞれ自分の家に帰った。 *7*わたしたち
は、ツロからの航行を終ってトレマイに着
き、そこの兄弟たちにあいさつをし、彼ら
のところに一日滞在した。 *8*翌日そこをた
って、カイザリヤに着き、かの七人のひとり
である伝道者ピリポの家に行き、そこに泊
まった。 *9*この人に四人の娘があったが、
いずれも処女であって、預言をしていた。
*10*幾日か滞在している間に、アガボという
預言者がユダヤから下ってきた。 *11*そし
て、わたしたちのところにきて、パウロの帯
を取り、それで自分の手足を縛って言っ
た、「聖霊がこうお告げになっている、『こ
の帯の持ち主を、ユダヤ人たちがエルサ
レムでこのように縛って、異邦人の手に渡
すであろう』」。 *12*わたしたちはこれを聞い
て、土地の人たちと一緒になって、エルサ
レムには上って行かないようにと、パウロ
に願い続けた。 *13*その時パウロは答えた
、「あなたがたは、泣いたり、わたしの心を
くじいたりして、いったい、どうしようとする
のか。わたしは、主イエスの名のためなら
、エルサレムで縛られるだけでなく、死ぬ
ことをも覚悟しているのだ」。 *14*こうして、
パウロが勧告を聞きいれてくれないので、
わたしたちは「主[lix]のみこころが行われま
すように」と言っただけで、それ以上、何も
言わなかった。 *15*数日後、わたしたちは
旅装を整えてエルサレムへ上って行った
。 *16*カイザリヤの弟子たちも数人、わたし
たちと同行して、古くからの弟子であるク
プロ人マナソンの家に案内してくれた。わ
たしたちはその家に泊まることになって
いたのである。 *17*わたしたちがエルサレム
に到着すると、兄弟たちは喜んで迎えてく
れた。 *18*翌日パウロはわたしたちを連れ
て、ヤコブを訪問しに行った。そこに長老
たちがみな集まっていた。 *19*パウロは彼
らにあいさつをした後、神が自分の働きを
とおして、異邦人の間になさった事どもを
一々説明した。 *20*一同はこれを聞いて神
をほめたたえ、そして彼に言った、「兄弟
よ、ご承知のように、ユダヤ人の中で信者
になった者が、数万にものぼっているが、
みんな律法に熱心な人たちである。 *21*と
ころが、彼らが伝え聞いているところによ
れば、あなたは異邦人の中にいるユダヤ
人一同に対して、子供に割礼を施すな、
またユダヤの慣例にしたがうなと言って、
モーセにそむくことを教えている、という
ことである。 *22*どうしたらよいか。あなたがこ
ここにきていることは、彼らもきっと聞き込む
に違いない。 *23*ついては、今わたしたち
が言うとおりのことをしなさい。わたしたち
の中に、誓願を立てている者が四人いる

。 24この人たちを連れて行って、彼らと共
にきよめを行い、また彼らの頭をそる費用
を引き受けてやりなさい。そうすれば、あ
なたについて、うわさされていることは、根
も葉もないことで、あなたは律法を守って
、正しい生活をしていることが、みんなに
わかるであろう。 25異邦人で信者になっ
た人たちには、すでに手紙で、偶像に供
えたものと、血と、絞め殺したものと、不品
行とを、慎むようにとの決議が、わたした
ちから知らせてある」。 26そこでパウロは、
その次の日に四人の者を連れて、彼らと
共にきよめを受けてから宮にはいった。そ
してきよめの期間が終って、ひとりびとりの
ために供え物をささげる時を報告しておい
た。 27七日の期間が終ろうとしていた
時、アジヤからきたユダヤ人たちが、宮の
内でパウロを見かけて、群衆全体を煽動
しはじめ、パウロに手をかけて叫び立てた
、 28「イスラエルの人々よ、加勢にきてく
れ。この人は、いたるところで民と律法とこ
の場所にそむくことを、みんなに教えてい
る。その上に、ギリシヤ人を宮の内に連れ
込んで、この神聖な場所を汚したのだ」。
29彼らは、前にエペソ人トロピモが、パウ
ロと一緒に町を歩いていたのを見かけて、
その人をパウロが宮の内に連れ込んだの
だと思ったのである。 30そこで、市全体が
騒ぎ出し、民衆が駆け集まってきて、パウ
ロを捕え、宮の外に引きずり出した。そし
て、すぐそのあとに宮の門が閉ざされた。
31彼らがパウロを殺そうとしていた時に、
エルサレム全体が混乱状態に陥っている
との情報が、守備隊の千卒長にとどいた。
32そこで、彼はさっそく、兵卒や百卒長
たちを率いて、その場に駆けつけた。人
々は千卒長や兵卒たちを見て、パウロを
打ちたたくのをやめた。 33千卒長は近寄
ってきてパウロを捕え、彼を二重の鎖で縛
っておくように命じた上、パウロは何者か、
また何をしたのか、と尋ねた。 34しかし、
群衆がそれぞれ違ったことを叫びつづけ
るため、騒がしくて、確かなことがわからな
いので、彼はパウロを兵営に連れて行くよ
うに命じた。 35パウロが階段にさしかかっ
た時には、群衆の暴行を避けるため、兵
卒たちにかつがれて行くという始末であっ
た。 36大ぜいの民衆が「あれをやっつけ
てしまえ」と叫びながら、ついてきたからで
ある。 37パウロが兵営の中に連れて行か
れようとした時、千卒長に、「ひと言あなた
にお話してもよろしいですか」と尋ねると、
千卒長が言った、「おまえはギリシヤ語が
話せるのか。 38では、もしかおまえは、先
ごろ反乱を起した後、四千人の刺客を引
き連れて荒野へ逃げて行ったあのエジプ
ト人ではないのか」。 39パウロは答えた、
「わたしはタルソ生れのユダヤ人で、キリ
キヤのれっきとした都市の市民です。お
願いですが、民衆に話をさせて下さい」。
40千卒長が許してくれたので、パウロは
階段の上に立ち、民衆にむかって手を振
った。すると、一同がすっかり静粛になっ
たので、パウロはヘブル語で話し出した。

22 「兄弟たち、父たちよ、いま申し上げ
るわたしの弁明を聞いていただきたい」。
2パウロが、ヘブル語でこう語りかけるの
を聞いて、人々はますます静粛になった
。 3そこで彼は言葉をついで言った、「わ
たしはキリキヤのタルソで生れたユダヤ人
であるが、この都で育てられ、ガマリエル
のひざもとで先祖伝来の律法について、
きびしい薫陶を受け、今日の皆さんと同じ
く神に対して熱心な者であった。 4そして
、この道を迫害し、男であれ女であれ、縛
りあげて獄に投じ、彼らを死に至らせた。
5このことは、大祭司も長老たち一同も、
証明するところである。さらにわたしは、こ
の人たちからダマスコの同志たちへあて
た手紙をもらって、その地にいる者たちを
縛りあげ、エルサレムにひっぱってきて、
処罰するため、出かけて行った。 6旅をつ
づけてダマスコの近くにきた時に、真昼ご
ろ、突然、つよい光が天からわたしをめぐ
り照した。 7わたしは地に倒れた。そして、
『サウロ、サウロ、なぜわたしを迫害するの
か』と、呼びかける声を聞いた。 8これに
対してわたしは、『主よ、あなたはどなたで
すか』と言った。すると、その声が、『わた
しは、あなたが迫害しているナザレ人イエ
スである』と答えた。 9わたしと一緒にいた
者たちは、その光は見たが、わたしに語り
かけたかたの声は聞かなかった。 10わた
しが『主よ、わたしは何をしたらよいでしょ
うか』と尋ねたところ、主は言われた、

『起きあがってダマスコに行きなさい。そう
すれば、あなたがするように決めてある事
が、すべてそこで告げられるであろう』。
*11*わたしは、光の輝きで目がくらみ、何も
見えなくなっていたので、連れの者たちに
手を引かれながら、ダマスコに行った。
*12*すると、律法に忠実で、ダマスコ在住
のユダヤ人全体に評判のよいアナニヤと
いう人が、*13*わたしのところにきて、そば
に立ち、『兄弟サウロよ、見えるようになり
なさい』と言った。するとその瞬間に、わた
しの目が開いて、彼の姿が見えた。*14*彼
は言った、『わたしたちの先祖の神が、あ
なたを選んでみ旨を知らせ、かの義人を
見させ、その口から声をお聞かせになっ
た。*15*それはあなたが、その見聞きした
事につき、すべての人に対して、彼の証
人になるためである。*16*そこで今、なんの
ためらうことがあろうか。すぐ立って、み名
をとなえてバプテスマを受け、あなたの罪
を洗い落しなさい』。*17*それからわたしは
、エルサレムに帰って宮で祈っているうち
に、夢うつつになり、*18*主にまみえたが、
主は言われた、『急いで、すぐにエルサレ
ムを出て行きなさい。わたしについてのあ
なたのあかしを、人々が受けいれないから
』。*19*そこで、わたしが言った、『主よ、彼
らは、わたしがいたるところの会堂で、あ
なたを信じる人々を獄に投じたり、むち打
ったりしていたことを、知っています。*20*ま
た、あなたの証人ステパノの血が流された
時も、わたしは立ち合っていてそれに賛
成し、また彼を殺した人たちの上着の番
をしていたのです』。*21*すると、主がわた
しに言われた、『行きなさい。わたしが、あ
なたを遠く異邦の民へつかわすのだ』」。
*22*彼の言葉をここまで聞いていた人々は
、このとき、声を張りあげて言った、「こん
な男は地上から取り除いてしまえ。生かし
おくべきではない」。*23*人々がこうわめき
立てて、空中に上着を投げ、ちりをまき散
らす始末であったので、*24*千卒長はパウ
ロを兵営に引き入れるように命じ、どういう
わけで、彼に対してこんなにわめき立てて
いるのかを確かめるため、彼をむちの拷
問にかけて、取り調べるように言いわたし
た。*25*彼らがむちを当てるため、彼を縛り
つけていた時、パウロはそばに立っている
百卒長に言った、「ローマの市民たる者を
、裁判にかけもしないで、むち打ってよい
のか」。*26*百卒長はこれを聞き、千卒長
のところに行って報告し、そして言った、
「どうなさいますか。あの人はローマの市
民なのです」。*27*そこで、千卒長がパウロ
のところにきて言った、「わたしに言ってく
れ。あなたはローマの市民なのか」。パウ
ロは「そうです」と言った。*28*これに対して
千卒長が言った、「わたしはこの市民権を
、多額の金で買い取ったのだ」。するとパ
ウロは言った、「わたしは生れながらの市
民です」。*29*そこで、パウロを取り調べよう
としていた人たちは、ただちに彼から身を
引いた。千卒長も、パウロがローマの市民
であること、また、そういう人を縛っていた
ことがわかって、恐れた。*30*翌日、彼は、
ユダヤ人がなぜパウロを訴え出たのか、
その真相を知ろうと思って彼を解いてやり
、同時に祭司長たちと全議会とを召集さ
せ、そこに彼を引き出して、彼らの前に立
たせた。

23 パウロは議会を見つめて言った、「兄
弟たちよ、わたしは今日まで、神の前に、
ひたすら明らかな良心にしたがって行動
してきた」。*2*すると、大祭司アナニヤが、
パウロのそばに立っている者たちに、彼
の口を打てと命じた。*3*そのとき、パウロは
アナニヤにむかって言った、「白く塗られ
た壁よ、神があなたを打つであろう。あな
たは、律法にしたがって、わたしをさばく
ために座についているのに、律法にそむ
いて、わたしを打つことを命じるのか」。
*4*すると、そばに立っている者たちが言っ
た、「神の大祭司に対して無礼なことを言
うのか」。*5*パウロは言った、「兄弟たちよ、
彼が大祭司だとは知らなかった。聖書に
『民のかしらを悪く言ってはいけない』と、
書いてあるのだった」。*6*パウロは、議員
の一部がサドカイ人であり、一部はパリサ
イ人であるのを見て、議会の中で声を高
めて言った、「兄弟たちよ、わたしはパリサ
イ人であり、パリサイ人の子である。わたし
は、死人の復活の望みをいだいていること
で、裁判を受けているのである」。*7*彼が
こう言ったところ、パリサイ人とサドカイ人と
の間に争論が生じ、会衆が相分れた。

*8*元来、サドカイ人は、復活とか天使とか
霊とかは、いっさい存在しないと言い、パ
リサイ人は、それらは、みな存在すると主
張している。*9*そこで、大騒ぎとなった。パ
リサイ派のある律法学者たちが立って、強
く主張して言った、「われわれは、この人
には何も悪いことがないと思う。あるいは、
霊か天使かが、彼に告げたのかも知れな
い」。*10*こうして、争論が激しくなったので
、千卒長は、パウロが彼らに引き裂かれる
のを気づかって、兵卒どもに、降りて行っ
てパウロを彼らの中から力づくで引き出し
、兵営に連れて来るように、命じた。*11*そ
の夜、主がパウロに臨んで言われた、「し
っかりせよ。あなたは、エルサレムでわた
しのことをあかししたように、ローマでもあ
かしをしなくてはならない」。*12*夜が明け
ると、ユダヤ人らは申し合わせをして、パ
ウロを殺すまでは飲食をいっさい断つと、
誓い合った。*13*この陰謀に加わった者は
、四十人あまりであった。*14*彼らは、祭司
長たちや長老たちのところに行って、こう
言った。「われわれは、パウロを殺すまで
は何も食べないと、堅く誓い合いました。
*15*ついては、あなたがたは議会と組んで
、彼のことでなお詳しく取調べをするよう
に見せかけ、パウロをあなたがたのところ
に連れ出すように、千卒長に頼んで下さ
い。われわれとしては、パウロがそこにこ
ないうちに殺してしまう手はずをしていま
す」。*16*ところが、パウロの姉妹の子が、こ
の待伏せのことを耳にし、兵営にはいって
行って、パウロにそれを知らせた。*17*そこ
でパウロは、百卒長のひとりを呼んで言っ
た、「この若者を千卒長のところに連れて
行ってください。何か報告することがある
ようですから」。*18*この百卒長は若者を連
れて行き、千卒長に引きあわせて言った、
「囚人のパウロが、この若者があなたに話
したいことがあるので、あなたのところに連
れて行ってくれるようにと、わたしを呼んで
頼みました」。*19*そこで千卒長は、若者の
手を取り、人のいないところへ連れて行っ
て尋ねた、「わたしに話したいことというの
は、何か」。*20*若者が言った、「ユダヤ人
たちが、パウロのことをもっと詳しく取調べ
をすると見せかけて、あす議会に彼を連
れ出すように、あなたに頼むことに決めて
います。*21*どうぞ、彼らの頼みを取り上げ
ないで下さい。四十人あまりの者が、パウ
ロを待伏せしているのです。彼らは、パウ
ロを殺すまでは飲食をいっさい断つと、堅
く誓い合っています。そして、いま手はず
をととのえて、あなたの許可を待っている
ところなのです」。*22*そこで千卒長は、「こ
のことをわたしに知らせたことは、だれにも
口外するな」と命じて、若者を帰した。
*23*それから彼は、百卒長ふたりを呼んで
言った、「歩兵二百名、騎兵七十名、槍兵
二百名を、カイザリヤに向け出発できるよ
うに、今夜九時までに用意せよ。*24*また、
パウロを乗せるために馬を用意して、彼を
総督ペリクスのもとへ無事に連れて行け」
。*25*さらに彼は、次のような文面の手紙を
書いた。*26*「クラウデオ・ルシヤ、つつし
んで総督ペリクス閣下の平安を祈ります。
*27*本人のパウロが、ユダヤ人らに捕えら
れ、まさに殺されようとしていたのを、彼の
ローマ市民であることを知ったので、わた
しは兵卒たちを率いて行って、彼を救い
出しました。*28*それから、彼が訴えられた
理由を知ろうと思い、彼を議会に連れて
行きました。*29*ところが、彼はユダヤ人の
律法の問題で訴えられたものであり、なん
ら死刑または投獄に当る罪のないことが
わかりました。*30*しかし、この人に対して
陰謀がめぐらされているとの報告がありま
したので、わたしは取りあえず、彼を閣下
のもとにお送りすることにし、訴える者たち
には、閣下の前で、彼に対する申立てを
するようにと、命じておきました」。*31*そこ
で歩兵たちは、命じられたとおりパウロを
引き取って、夜の間にアンテパトリスまで
連れて行き、*32*翌日は、騎兵たちにパウ
ロを護送させることにして、兵営に帰って
行った。*33*騎兵たちは、カイザリヤに着く
と、手紙を総督に手渡し、さらにパウロを
彼に引きあわせた。*34*総督は手紙を読ん
でから、パウロに、どの州の者かと尋ね、
キリキヤの出だと知って、*35*「訴え人たち
がきた時に、おまえを調べることにする」と
言った。そして、ヘロデの官邸に彼を守っ
ておくように命じた。

24 五日の後、大祭司アナニヤは、長老
数名と、テルトロという弁護人とを連れて
下り、総督にパウロを訴え出た。 2パウロ
が呼び出されたので、テルトロは論告を始
めた。「ペリクス閣下、わたしたちが、閣下
のお陰でじゅうぶんに平和を楽しみ、また
この国が、ご配慮によって、 3あらゆる方
面に、またいたるところで改善されている
ことは、わたしたちの感謝してやまないと
ころであります。 4しかし、ご迷惑をかけな
いように、くどくどと述べずに、手短かに申
し上げますから、どうぞ、忍んでお聞き取
りのほど、お願いいたします。 5さて、この
男は、疫病のような人間で、世界中のす
べてのユダヤ人の中に騒ぎを起している
者であり、また、ナザレ人らの異端のかし
らであります。 6この者が宮までも汚そうと
していたので、わたしたちは彼を捕縛した
のです。〔そして、律法にしたがって、さば
こうとしていたところ、 7千卒長ルシヤが干
渉して、彼を無理にわたしたちの手から引
き離してしまい、 8彼を訴えた人たちには
、閣下のところに来るようにと命じました。〕
それで、閣下ご自身でお調べになれば、
わたしたちが彼を訴え出た理由が、全部
おわかりになるでしょう」。 9ユダヤ人たち
も、この訴えに同調して、全くそのとおりだ
と言った。 10そこで、総督が合図をして発
言を促したので、パウロは答弁して言った
。「閣下が、多年にわたり、この国民の裁
判をつかさどっておられることを、よく承知
していますので、わたしは喜んで、自分の
ことを弁明いたします。 11お調べになれ
ばわかるはずですが、わたしが礼拝をし
にエルサレムに上ってから、まだ十二日
そこそこにしかなりません。 12そして、宮
の内でも、会堂内でも、あるいは市内でも
、わたしがだれかと争論したり、群衆を煽
動したりするのを見たものはありませんし、
13今わたしを訴え出ていることについて、
閣下の前に、その証拠をあげうるものはあ
りません。 14ただ、わたしはこの事は認め
ます。わたしは、彼らが異端だとしている
道にしたがって、わたしたちの先祖の神
に仕え、律法の教えるところ、また預言者
の書に書いてあることを、ことごとく信じ、
15また、正しい者も正しくない者も、やが
てよみがえるとの希望を、神を仰いでいだ
いているものです。この希望は、彼ら自身
も持っているのです。 16わたしはまた、神
に対しまた人に対して、良心に責められる
ことのないように、常に努めています。
17さてわたしは、幾年ぶりかに帰ってきて
、同胞に施しをし、また、供え物をしてい
ました。 18そのとき、彼らはわたしが宮で
きよめを行っているのを見ただけであって
、群衆もいず、騒動もなかったのです。
19ところが、アジヤからきた数人のユダヤ
人が――彼らが、わたしに対して、何かと
がめ立てをすることがあったなら、よろしく
閣下の前にきて、訴えるべきでした。 20あ
るいは、何かわたしに不正なことがあった
なら、わたしが議会の前に立っていた時、
彼らみずから、それを指摘すべきでした。
21ただ、わたしは、彼らの中に立って、
『わたしは、死人のよみがえりのことで、きょ
う、あなたがたの前でさばきを受けている
のだ』と叫んだだけのことです」。 22ここ
でペリクスは、この道のことを相当わきまえ
ていたので、「千卒長ルシヤが下って来る
のを待って、おまえたちの事件を判決す
ることにする」と言って、裁判を延期した。
23そして百卒長に、パウロを監禁するよう
に、しかし彼を寛大に取り扱い、友人らが
世話をするのを止めないようにと、命じた
。 24数日たってから、ペリクスは、ユダヤ
人である妻ドルシラと一緒にきて、パウロ
を呼び出し、キリスト・イエスに対する信仰
のことを、彼から聞いた。 25そこで、パウ
ロが、正義、節制、未来の審判などについ
て論じていると、ペリクスは不安を感じて
きて、言った、「きょうはこれで帰るがよ
い。また、よい機会を得たら、呼び出すこ
とにする」。 26彼は、それと同時に、パウ
ロから金をもらいたい下ごころがあったの
で、たびたびパウロを呼び出しては語り合
った。 27さて、二か年たった時、ポルキオ
・フェストが、ペリクスと交代して任につい
た。ペリクスは、ユダヤ人の歓心を買おう
と思って、パウロを監禁したままにしておい
た。

25 さて、フェストは、任地に着いてから
三日の後、カイザリヤからエルサレムに上
ったところ、 2祭司長たちやユダヤ人の重
立った者たちが、パウロを訴え出て、

*3*彼をエルサレムに呼び出すよう取り計らっていただきたいと、しきりに願った。彼らは途中で待ち伏せして、彼を殺す考えであった。 *4*ところがフェストは、パウロがカイザリヤに監禁してあり、自分もすぐそこへ帰ることになっていると答え、 *5*そして言った、「では、もしあの男に何か不都合なことがあるなら、おまえたちのうちの有力者らが、わたしと一緒に下って行って、訴えるがよかろう」。 *6*フェストは、彼らのあいだに八日か十日ほど滞在した後、カイザリヤに下って行き、その翌日、裁判の席について、パウロを引き出すように命じた。 *7*パウロが姿をあらわすと、エルサレムから下ってきたユダヤ人たちが、彼を取りかこみ、彼に対してさまざまの重い罪状を申し立てたが、いずれもその証拠をあげることはできなかった。 *8*パウロは「わたしは、ユダヤ人の律法に対しても、宮に対しても、またカイザルに対しても、なんら罪を犯したことはない」と弁明した。 *9*ところが、フェストはユダヤ人の歓心を買おうと思って、パウロにむかって言った、「おまえはエルサレムに上り、この事件に関し、わたしからそこで裁判を受けることを承知するか」。
*10*パウロは言った、「わたしは今、カイザルの法廷に立っています。わたしはこの法廷で裁判されるべきです。よくご承知のとおり、わたしはユダヤ人たちに、何も悪いことをしてはいません。 *11*もしわたしが悪いことをし、死に当るようなことをしているのなら、死を免れようとはしません。しかし、もし彼らの訴えることに、なんの根拠もないとすれば、だれもわたしを彼らに引き渡す権利はありません。わたしはカイザルに上訴します」。 *12*そこでフェストは、陪席の者たちと協議したうえ答えた、「おまえはカイザルに上訴を申し出た。カイザルのところに行くがよい」。 *13*数日たった後、アグリッパ王とベルニケとが、フェストに敬意を表するため、カイザリヤにきた。
*14*ふたりは、そこに何日間も滞在していたので、フェストは、パウロのことを王に話して言った、「ここに、ペリクスが囚人として残して行ったひとりの男がいる。 *15*わたしがエルサレムに行った時、この男のことを、祭司長たちやユダヤ人の長老たちが、わたしに報告し、彼を罪に定めるようにと要求した。 *16*そこでわたしは、彼らに答えた、『訴えられた者が、訴えた者の前に立って、告訴に対し弁明する機会を与えられない前に、その人を見放してしまうのは、ローマ人の慣例にはないことである』。
*17*それで、彼らがここに集まってきた時、わたしは時をうつさず、次の日に裁判の席について、その男を引き出させた。
*18*訴えた者たちは立ち上がったが、わたしが推測していたような悪事は、彼について何一つ申し立てはしなかった。 *19*ただ、彼と争い合っているのは、彼ら自身の宗教に関し、また、死んでしまったのに生きているとパウロが主張しているイエスなる者に関する問題に過ぎない。 *20*これらの問題を、どう取り扱ってよいかわからなかったので、わたしは彼に、『エルサレムに行って、これらの問題について、そこでさばいてもらいたくはないか』と尋ねてみた。 *21*ところがパウロは、皇帝の判決を受ける時まで、このまま自分をとどめておいてほしいと言うので、カイザルに彼を送りとどける時までとどめておくようにと、命じておいた」。 *22*そこで、アグリッパがフェストに「わたしも、その人の言い分を聞いて見たい」と言ったので、フェストは、「では、あす彼から聞きとるようにしてあげよう」と答えた。 *23*翌日、アグリッパとベルニケとは、大いに威儀をととのえて、千卒長たちや市の重立った人たちと共に、引見所にはいってきた。すると、フェストの命によって、パウロがそこに引き出された。 *24*そこで、フェストが言った、「アグリッパ王、ならびにご臨席の諸君。ごらんになっているこの人物は、ユダヤ人たちがこぞって、エルサレムにおいても、また、この地においても、これ以上、生かしておくべきでないと叫んで、わたしに訴え出ている者である。 *25*しかし、彼は死に当ることは何もしていないと、わたしは見ているのだが、彼自身が皇帝に上訴すると言い出したので、彼をそちらへ送ることに決めた。 *26*ところが、彼について、主君に書きおくる確かなものが何もないので、わたしは、彼を諸君の前に、特に、アグリッパ王よ、あなたの前に引き出して、取調べをしたのち、上書すべき材料を得ようと思う。 *27*囚人を送るのに、

その告訴の理由を示さないということは、
不合理だと思えるからである」。

26 アグリッパはパウロに、「おまえ自身
のことを話してもよい」と言った。そこでパ
ウロは、手をさし伸べて、弁明をし始めた
。 *2*「アグリッパ王よ、ユダヤ人たちから訴
えられているすべての事に関して、きょう、
あなたの前で弁明することになったのは、
わたしのしあわせに思うところであります。
*3*あなたは、ユダヤ人のあらゆる慣例や問
題を、よく知り抜いておられるかたですか
ら、わたしの申すことを、寛大なお心で聞
いていただきたいのです。 *4*さて、わたし
は若い時代には、初めから自国民の中で
、またエルサレムで過ごしたのですが、そ
のころのわたしの生活ぶりは、ユダヤ人が
みんなよく知っているところです。 *5*彼らは
わたしを初めから知っているので、証言し
ようと思えばできるのですが、わたしは、
わたしたちの宗教の最も厳格な派にした
がって、パリサイ人としての生活をしてい
たのです。 *6*今わたしは、神がわたしたち
の先祖に約束なさった希望をいだいてい
るために、裁判を受けているのであります
。 *7*わたしたちの十二の部族は、夜昼、熱
心に神に仕えて、その約束を得ようと望ん
でいるのです。王よ、この希望のために、
わたしはユダヤ人から訴えられています。
*8*神が死人をよみがえらせるということが、
あなたがたには、どうして信じられないこと
と思えるのでしょうか。 *9*わたし自身も、以
前には、ナザレ人イエスの名に逆らって
反対の行動をすべきだと、思っていました
。 *10*そしてわたしは、それをエルサレムで
敢行し、祭司長たちから権限を与えられ
て、多くの聖徒たちを獄に閉じ込め、彼ら
が殺される時には、それに賛成の意を表
しました。 *11*それから、いたるところの会
堂で、しばしば彼らを罰して、無理やりに
神をけがす言葉を言わせようとし、彼らに
対してひどく荒れ狂い、ついに外国の町
々にまで、迫害の手をのばすに至りました
。 *12*こうして、わたしは、祭司長たちから
権限と委任とを受けて、ダマスコに行った
のですが、 *13*王よ、その途中、真昼に、
光が天からさして来るのを見ました。それ
は、太陽よりも、もっと光り輝いて、わたし
と同行者たちとをめぐり照しました。 *14*わ
たしたちはみな地に倒れましたが、その
時ヘブル語でわたしにこう呼びかける声
を聞きました、『サウロ、サウロ、なぜわた
しを迫害するのか。とげのあるむちをけれ
ば、傷を負うだけである』。 *15*そこで、わた
しが『主よ、あなたはどなたですか』と尋ね
ると、主は言われた、『わたしは、あなたが
迫害しているイエスである。 *16*さあ、起き
あがって、自分の足で立ちなさい。わたし
があなたに現れたのは、あなたがわたし
に会った事と、あなたに現れて示そうとし
ている事とをあかしし、これを伝える務に、
あなたを任じるためである。 *17*わたしは、
この国民と異邦人との中から、あなたを救
い出し、あらためてあなたを彼らにつかわ
すが、 *18*それは、彼らの目を開き、彼らを
やみから光へ、悪魔の支配から神のみも
とへ帰らせ、また、彼らが罪のゆるしを得、
わたしを信じる信仰によって、聖別された
人々に加わるためである』。 *19*それです
から、アグリッパ王よ、わたしは天よりの啓
示にそむかず、 *20*まず初めにダマスコに
いる人々に、それからエルサレムにいる人
々、さらにユダヤ全土、ならびに異邦人た
ちに、悔い改めて神に立ち帰り、悔改め
にふさわしいわざを行うようにと、説き勧め
ました。 *21*そのために、ユダヤ人は、わた
しを宮で引き捕えて殺そうとしたのです。
*22*しかし、わたしは今日に至るまで神の
加護を受け、このように立って、小さい者
にも大きい者にもあかしをなし、預言者た
ちやモーセが、今後起るべきだと語ったこ
とを、そのまま述べてきました。 *23*すなわ
ち、キリストが苦難を受けること、また、死
人の中から最初によみがえって、この国
民と異邦人とに、光を宣べ伝えるに至るこ
とを、あかししたのです」。 *24*パウロがこの
ように弁明をしていると、フェストは大声で
言った、「パウロよ、おまえは気が狂って
いる。博学が、おまえを狂わせている」。
*25*パウロが言った、「フェスト閣下よ、わた
しは気が狂ってはいません。わたしは、ま
じめな真実の言葉を語っているだけです
。 *26*王はこれらのことをよく知っておられ
るので、王に対しても、率直に申し上げて
いるのです。それは、片すみで行われた
のではないのですから、一つとして、王が

見のがされたことはないと信じます。 *27*アグリッパ王よ、あなたは預言者を信じますか。信じておられると思います」。 *28*アグリッパがパウロに言った、「おまえは少し説いただけで、わたしをクリスチャンにしようとしている」。 *29*パウロが言った、「説くことが少しであろうと、多くであろうと、わたしが神に祈るのは、ただあなただけでなく、きょう、わたしの言葉を聞いた人もみな、わたしのようになって下さることです。このような鎖は別ですが」。 *30*それから、王も総督もベルニケも、また列席の人々も、みな立ちあがった。 *31*退場してから、互に語り合って言った、「あの人は、死や投獄に当るようなことをしてはいない」。 *32*そして、アグリッパがフェストに言った、「あの人は、カイザルに上訴していなかったら、ゆるされたであろうに」。

27 さて、わたしたちが、舟でイタリヤに行くことが決まった時、パウロとそのほか数人の囚人とは、近衛隊の百卒長ユリアスに託された。 *2*そしてわたしたちは、アジヤ沿岸の各所に寄港することになっているアドラミテオの舟に乗り込んで、出帆した。テサロニケのマケドニヤ人アリスタルコも同行した。 *3*次の日、シドンに入港したが、ユリアスは、パウロを親切に取り扱い、友人をおとずれてかんたいを受けることを、許した。 *4*それからわたしたちは、ここから船出したが、逆風にあったので、クプロの島かげを航行し、 *5*キリキヤとパンフリヤの沖を過ぎて、ルキヤのミラに入港した。 *6*そこに、イタリヤ行きのアレキサンドリヤの舟があったので、百卒長は、わたしたちをその舟に乗り込ませた。 *7*幾日ものあいだ、舟の進みがおそくて、わたしたちは、かろうじてクニドの沖合にきたが、風がわたしたちの行く手をはばむので、サルモネの沖、クレテの島かげを航行し、 *8*その岸に沿って進み、かろうじて「良き港」と呼ばれる所に着いた。その近くにラサヤの町があった。 *9*長い時が経過し、断食期も過ぎてしまい、すでに航海が危険な季節になったので、パウロは人々に警告して言った、 *10*「皆さん、わたしの見るところでは、この航海では、積荷や船体ばかりでなく、われわれの生命にも、危害と大きな損失が及ぶであろう」。 *11*しかし百卒長は、パウロの意見よりも、船長や船主の方を信頼した。 *12*なお、この港は冬を過ごすのに適しないので、大多数の者は、ここから出て、できればなんとかして、南西と北西とに面しているクレテのピニクス港に行って、そこで冬を過ごしたいと主張した。 *13*時に、南風が静かに吹いてきたので、彼らは、この時とばかりにいかりを上げて、クレテの岸に沿って航行した。 *14*すると間もなく、ユーラクロンと呼ばれる暴風が、島から吹きおろしてきた。 *15*そのために、舟が流されて風に逆らうことができないので、わたしたちは吹き流されるままに任せた。 *16*それから、クラウダという小島の陰に、はいり込んだので、わたしたちは、やっとのことで小舟を処置することができ、 *17*それを舟に引き上げてから、綱で船体を巻きつけた。また、スルテスの洲に乗り上げるのを恐れ、帆をおろして流れるままにした。 *18*わたしたちは、暴風にひどく悩まされつづけたので、次の日に、人々は積荷を捨てはじめ、 *19*三日目には、船具までも、てずから投げすてた。 *20*幾日ものあいだ、太陽も星も見えず、暴風は激しく吹きすさぶので、わたしたちの助かる最後の望みもなくなった。 *21*みんなの者は、長いあいだ食事もしないでいたが、その時、パウロが彼らの中に立って言った、「皆さん、あなたがたが、わたしの忠告を聞きいれて、クレテから出なかったら、このような危害や損失を被らなくてすんだはずであった。 *22*だが、この際、お勧めする。元気を出しなさい。舟が失われるだけで、あなたがたの中で生命を失うものは、ひとりもいないであろう。 *23*昨夜、わたしが仕え、また拝んでいる神からの御使が、わたしのそばに立って言った、 *24*『パウロよ、恐れるな。あなたは必ずカイザルの前に立たなければならない。たしかに神は、あなたと同船の者を、ことごとくあなたに賜わっている』。 *25*だから、皆さん、元気を出しなさい。万事はわたしに告げられたとおりに成って行くと、わたしは、神かけて信じている。 *26*われわれは、どこかの島に打ちあげられるに相違ない」。 *27*わたしたちがアドリヤ海に漂ってから十四日目の夜になった時、真夜中ごろ、水夫らはどこか

の陸地に近づいたように感じた。 *28*そこで、水の深さを測ってみたところ、二十ひろであることがわかった。それから少し進んで、もう一度測ってみたら、十五ひろであった。 *29*わたしたちが、万一暗礁に乗り上げては大変だと、人々は気づかって、ともから四つのいかりを投げおろし、夜の明けるのを待ちわびていた。 *30*その時、水夫らが舟から逃げ出そうと思って、へさきからいかりを投げおろすと見せかけ、小舟を海におろしていたので、 *31*パウロは、百卒長や兵卒たちに言った、「あの人たちが、舟に残っていなければ、あなたがたは助からない」。 *32*そこで兵卒たちは、小舟の綱を断ち切って、その流れて行くままに任せた。 *33*夜が明けかけたころ、パウロは一同の者に、食事をするように勧めて言った、「あなたがたが食事もせずに、見張りを続けてから、何も食べないで、きょうが十四日目に当る。 *34*だから、いま食事を取ることをお勧めする。それが、あなたがたを救うことになるのだから。たしかに髪の毛ひとすじでも、あなたがたの頭から失われることはないであろう」。 *35*彼はこう言って、パンを取り、みんなの前で神に感謝し、それをさいて食べはじめた。 *36*そこで、みんなの者も元気づいて食事をした。 *37*舟にいたわたしたちは、合わせて二百七十六人であった。 *38*みんなの者は、じゅうぶんに食事をした後、穀物を海に投げすてて舟を軽くした。 *39*夜が明けて、どこの土地かよくわからなかったが、砂浜のある入江が見えたので、できれば、それに舟を乗り入れようということになった。 *40*そこで、いかりを切り離して海に捨て、同時にかじの綱をゆるめ、風に前の帆をあげて、砂浜にむかって進んだ。 *41*ところが、潮流の流れ合う所に突き進んだため、舟を浅瀬に乗りあげてしまって、へさきがめり込んで動かなくなり、ともの方は激浪のためにこわされた。 *42*兵卒たちは、囚人らが泳いで逃げるおそれがあるので、殺してしまおうと図ったが、 *43*百卒長は、パウロを救いたいと思うところから、その意図をしりぞけ、泳げる者はまず海に飛び込んで陸に行き、 *44*その他の者は、板や舟の破片に乗って行くように命じた。こうして、全部の者が上陸して救われたのであった。

28 わたしたちが、こうして救われてからわかったが、これはマルタと呼ばれる島であった。 *2*土地の人々は、わたしたちに並々ならぬ親切をあらわしてくれた。すなわち、降りしきる雨や寒さをしのぐために、火をたいてわたしたち一同をねぎらってくれたのである。 *3*そのとき、パウロはひとかかえの柴をたばねて火にくべたところ、熱気のためにまむしが出てきて、彼の手にかみついた。 *4*土地の人々は、この生きものがパウロの手からぶら下がっているのを見て、互に言った、「この人は、きっと人殺しに違いない。海からはのがれたが、ディケーの神様が彼を生かしてはおかないのだ」。 *5*ところがパウロは、まむしを火の中に振り落して、なんの害も被らなかった。
*6*彼らは、彼が間もなくはれ上がるか、あるいは、たちまち倒れて死ぬだろうと、様子をうかがっていた。しかし、長い間うかがっていても、彼の身になんの変ったことも起らないのを見て、彼らは考えを変えて、「この人は神様だ」と言い出した。 *7*さて、その場所の近くに、島の首長、ポプリオという人の所有地があった。彼は、そこにわたしたちを招待して、三日のあいだ親切にもてなしてくれた。 *8*たまたま、ポプリオの父が赤痢をわずらい、高熱で床についていた。そこでパウロは、その人のところにはいって行って祈り、手を彼の上においていやしてやった。 *9*このことがあってから、ほかに病気をしている島の人たちが、ぞくぞくとやってきて、みないやされた。 *10*彼らはわたしたちを非常に尊敬し、出帆の時には、必要な品々を持ってきてくれた。 *11*三か月たった後、わたしたちは、この島に冬ごもりをしていたデオスクリの船飾りのあるアレキサンドリヤの舟で、出帆した。 *12*そして、シラクサに寄港して三日のあいだ停泊し、 *13*そこから進んでレギオンに行った。それから一日おいて、南風が吹いてきたのに乗じ、ふつか目にポテオリに着いた。 *14*そこで兄弟たちに会い、勧められるまま、彼らのところに七日間も滞在した。それからわたしたちは、ついにローマに到着した。 *15*ところが、兄弟

たちは、わたしたちのことを聞いて、アピオ・ポロおよびトレス・タベルネまで出迎えてくれた。パウロは彼らに会って、神に感謝し勇み立った。 *16*わたしたちがローマに着いた後、パウロは、ひとりの番兵をつけられ、ひとりで住むことを許された。
*17*三日たってから、パウロは、重立ったユダヤ人たちを招いた。みんなの者が集まったとき、彼らに言った、「兄弟たちよ、わたし は、わが国民に対しても、あるいは先祖伝来の慣例に対しても、何一つそむく行為がなかったのに、エルサレムで囚人としてローマ人たちの手に引き渡された。
*18*彼らはわたしを取り調べた結果、なんら死に当る罪状もないので、わたしを釈放しようと思ったのであるが、 *19*ユダヤ人たちがこれに反対したため、わたしはやむを得ず、カイザルに上訴するに至ったのである。しかしわたしは、わが同胞を訴えようなどとしているのではない。 *20*こういうわけで、あなたがたに会って語り合いたいと願っていた。事実、わたしは、イスラエルのいだいている希望のゆえに、この鎖につながれているのである」。 *21*そこで彼らは、パウロに言った、「わたしたちは、ユダヤ人たちから、あなたについて、なんの文書も受け取っていないし、また、兄弟たちの中からここにきて、あなたについて不利な報告をしたり、悪口を言ったりした者もなかった。 *22*わたしたちは、あなたの考えていることを、直接あなたから聞くのが、正しいことだと思っている。実は、この宗派については、いたるところで反対のあることが、わたしたちの耳にもはいっている」。
*23*そこで、日を定めて、大ぜいの人が、パウロの宿につめかけてきたので、朝から晩まで、パウロは語り続け、神の国のことをあかしし、またモーセの律法や預言者の書を引いて、イエスについて彼らの説得につとめた。 *24*ある者はパウロの言うことを受けいれ、ある者は信じようともしなかった。 *25*互に意見が合わなくて、みんなの者が帰ろうとしていた時、パウロはひとこと述べて言った、「聖霊はよくも預言者イザヤによって、あなたがたの先祖に語ったものである。 *26*『この民に行って言え、あなたがたは聞くには聞くが、決して悟らない。見るには見るが、決して認めない。
*27*この民の心は鈍くなり、その耳は聞えにくく、その目は閉じている。それは、彼らが目で見ず、耳で聞かず、心で悟らず、悔い改めていやされることがないためである』。 *28*そこで、あなたがたは知っておくがよい。神のこの救の言葉は、異邦人に送られたのだ。彼らは、これに聞きしたがうであろう」。〔 *29*パウロがこれらのことを述べ終ると、ユダヤ人らは、互に論じ合いながら帰って行った。〕 *30*パウロは、自分の借りた家に満二年のあいだ住んで、たずねて来る人々をみな迎え入れ、 *31*はばからず、また妨げられることもなく、神の国を宣べ伝え、主イエス・キリストのことを教えつづけた。

---

[i] Hutter (1599), Stolz (1828), UBS (1979) を参照。エレミア書11章20節、17章10節、詩編7編8、9節とも比較せよ。

[ii] 引用されたヨエル書3章1～5節では、「神」のかわりに「イオウオ」が使用される。

[iii] ヨエル書3章4節と比較せよ。

[iv] ヨエル書3章5節と比較せよ。

[v] 詩編16編8節と比較せよ。

[vi] 詩編110編1節と比較せよ。

[vii] ヨエル書3章5節と比較せよ。Hutter (1599), Fry (1817), Biesenthal (1855), Delitzsch (1877), Salkinson (1885), UBS (1979) も参照。

[viii] Hutter (1599), Delitzsch (1877), Salkinson (1885), UBS (1979) はここで「イオウオ(?)」とする。サムエル記下3章9節、歴代志上21章3節、詩編115編14節とも比較せよ。

[ix] Hutter (1599), Delitzsch (1877) を参照。出エジプト記34節24節、詩編34編17節、66編12節とも比較せよ。

[x] 申命記18章15、19節と比較せよ。

[xi] 引用された創世記22章15～18節では、「神」のかわりに「イオウオ」が使用される。

[xii] 出エジプト記20章11節、詩編146編6節、ネヘミア記9章6節と比較せよ。引用の場合、「主」のかわらに「イオウオ(?)」が使用されたかもしれない。

[xiii] 詩編2編1、2節と比較せよ。

[xiv] Hutter (1599), Fry (1817), Biesenthal (1855), Delitzsch (1877), Salkinson (1885), UBS (1979) を参照。イザヤ書37章17節、哀歌5章1節、イザヤ書58章1節、ミカ書3章8節とも比較せよ。

[xv] Hutter (1599), Delitzsch (1877) を参照。出エジプト記17章2節、申命記6章16節、詩編78編18、41、56節とも比較せよ。旧約聖書では、「イオウオの御霊」と言う表現は士師記3章10節など17カ所で使用される。

[xvi] Hutter (1599), Biesenthal (1855), Delitzsch (1877), Salkinson (1885), UBS (1976) を参照。詩編34編7節と比較せよ。旧約聖書では、「イオウオの使」と言う表現は出エジプト記3章2節など52カ所で使用され、「主の使」と言う表現が一度も使用されない。

[xvii] 出エジプト記3章4節と比較せよ。

[xviii] 出エジプト記3章5節と比較せよ。

[xix] 本文の異文:「神」。申命記18章15節と比較せよ。Hutter (1599), Fry (1817)、Biesenthal (1855), Delitzsch (1877) も参照。

[xx] イザヤ書66章1、2節と比較せよ。

[xxi] Fry (1817), Biesenthal (1855), Delitzsch (1877), Salkinson (1885), UBS (1979) を参照。エズラ記9章5節、ダニエル書6章10節とも比較せよ。

[xxii] Delitzsch (1877), Salkinson (1885), UBS (1979) を参照。イザヤ書55章6、7節、列王紀上8章46～48節、歴代志下33章12、13節とも比較せよ。

[xxiii] Delitzsch (1877), Salkinson (1885), UBS (1979) を参照。 出エジプト記8章8節、サムエル記上12章19、23節、列王紀上13章6節、エレミア書42章2節とも比較せよ。

[xxiv] Hutter (1599), Biesenthal (1855), Delitzsch (1877), Salkinson (1885), UBS (1979) はここで「イオウオ(?)」とする。イザヤ書2章3節、エレミア書6章10節、31章10節とも比較せよ。旧約聖書では、「イオウオの言」と言う表現は創世記15章1節を始め、201カ所で使用され、「主イオウオの言」はエゼキエル書6章3節、25章3節と36章4節で使用される。「主の言」は使用されない。

[xxv] Hutter (1599), Delitzsch (1877), Salkinson (1885) を参照。民数記22章35節、列王紀下1章15節とも比較せよ。旧約聖書では、「イオウオの使」と言う表現は出エジプト記3章2節など52カ所で使用され、「主の使」と言う表現が一度も使用されない。

[xxvi] Hutter (1599), Biesenthal (1855), Delitzsch (1877), Salkinson (1885), UBS (1979) を参照。列王紀上18章12節、列王紀下2章16節とも比較せよ。

[xxvii] Hutter (1599), Biesenthal (1855), Delitzsch (1877), Salkinson (1885), UBS (1979) はここで「イオウオ(?)」とする。歴代志下19章9節、詩編34章12節、箴言14章26節とも比較せよ。

[xxviii] Hutter (1599), Biesenthal (1855), Delitzsch (1877), Salkinson (1885), UBS (1979) を参照。申命記5章16節、サムエル記下24章15節、エレミア書13章5節とも比較せよ。旧約聖書では、「イオウオが命じた」のような表現は創世記7章5節を始め、165カ所で使用される。

[xxix] Delitzsch (1877), Salkinson (1885) はここで「イオウオ(?)」とする。エズラ書7章6節、ヨシュア4章24節、イザヤ書59章1節とも比較せよ。旧約聖書では、「イオウオのみ手」と言う表現は出エジプト記9章3節など39カ所で使用され、「主イオウオのみ手」がエゼキエル書8章1節で使用される。

[xxx] Hutter (1599), Biesenthal (1855), Delitzsch (1877), Salkinson (1885), UBS (1979) を参照。 詩編34編7節と比較せよ。旧約聖書では、「イオウオの使」と言う表現は出エジプト記3章2節など52カ所で使用され、「主の使」と言う表現が一度も使用されない。

[xxxi] Hutter (1599), Biesenthal (1855), Salkinson (1885) を参照。創世記24章7、40節、詩編91章11節、ダニエル書3章28節、6章23節とも比較せよ。

[xxxii] Hutter (1599), Biesenthal (1855), Salkinson (1885) はここで「イオウオ(?)」とする。申命記5章6節、詩編34編18、20節、エレミア書20章13節、29章13、14節とも比較せよ。

[xxxiii] Hutter (1599) Delitzsch (1877) を参照。列王紀下19章35節、エレミア書37章36節とも比較せよ。旧約聖書では、「イオウオの使」と言う表現は出エジプト記3章2節など52カ所で使用され、「主の使」と言う表現が一度も使用されない。

[xxxiv] Hutter (1599), Biesenthal (1855), Delitzsch (1877), Salkinson (1885), UBS (1979) はここで「イオウオ(?)」とする。イザヤ書2章3節、エレミア書31章10節、ミカ書4章2節とも比較せよ。旧約聖書では、「イオウオの言」と言う表現は創世記15章1節を始め、201カ所で使用され、「主イオウオの言」はエゼキエル書6章3節、25章3節と36章4節で使用される。「主の言」は使用されない。

[xxxv] Hutter (1599) Delitzsch (1877) を参照。申命記10章12節、エレミア書30章9節、ダニエル書9章3節、ヨエル書2章12節、ヨナ書3章5節とも比較せよ。

[xxxvi] Hutter (1599), Biesenthal (1855), Delitzsch (1877), Salkinson (1885), UBS (1979) を参照。ホセア書14章10節、詩編25編8節、92編16節、エレミア書2章17節、5章4、5節、エゼキエル書18章25節とも比較せよ。

[xxxvii] Hutter (1599), Biesenthal (1855), Delitzsch (1877), Salkinson (1885), UBS (1979 を参照。歴代志上28章19節、エゼキエル書3章14、22節、33章22節とも比較せよ。旧約聖書では、「イオウオのみ手」と言う表現は出エジプト記9章3節など39カ所で使用され、「主イオウオのみ手」がエゼキエル書8章1節で使用される。

[xxxviii] Hutter (1599), Biesenthal (1855), Delitzsch (1877), Salkinson (1885), UBS (1979) はここで「イオウオ(?)」とする。イザヤ書2章3節、ミカ書4章2節とも比較せよ。

[xxxix] Hutter (1599), Delitzsch (1877) はここで「イオウオ(?)」とする。旧約聖書では、「イオウオの言」と言う表現は創世記15章1節を始め、201カ所で使用され、「主イオウオの言」はエゼキエル書6章3節、25章3節と36章4節で使用される。「主の言」

は使用されない。「神の言」は士師記3章20節など、6カ所で使用される。

[xl] イザヤ書49章6節と比較せよ。

[xli] Hutter (1599), Delitzsch (1877), UBS (1979) はここで「イオウオ(?)」とする。詩編138編2、4章とも比較せよ。旧約聖書では、「イオウオの言」と言う表現は創世記15章1節を始め、201カ所で使用され、「主イオウオの言」はエゼキエル書6章3節、25章3節と36章4節で使用される。「主の言」は使用されない。

[xlii] Hutter (1599), Biesenthal (1855), Delitzsch (1877), UBS (1979) はここで「イオウオ(?)」とする。イザヤ書2章3節、エレミア書31章10節、ミカ書4章2節とも比較せよ。旧約聖書では、「イオウオの言」と言う表現は創世記15章1節を始め、201カ所で使用され、「主イオウオの言」はエゼキエル書6章3節、25章3節と36章4節で使用される。「主の言」は使用されない。

[xliii] Hutter (1599), Biesenthal (1855), Delitzsch (1877), Salkinson (1885), UBS (1979) はここで「イオウオ(?)」とする。詩編40編4節、91編2節、エレミア書17章7節、申命記31章6節、列王紀上19章10、14節とも比較せよ。

[xliv] Hutter (1599), Delitzsch (1877), Salkinson (1885) はここで「イオウオ(?)」とする。士師記11章30～40節、サムエル記上1章28節、イザヤ書45章11節とも比較せよ。

[xlv] 本文の異文:「主の御言」。他の異文:「神の御言」。Delitzsch (1877) はここでテトラグラマトンを使用する。イザヤ書2章3節、エレミア書6章10節、31章10節とも比較せよ。旧約聖書では、「イオウオの言」と言う表現は創世記15章1節を始め、201カ所で使用され、「主イオウオの言」はエゼキエル書6章3節、25章3節と36章4節で使用される。「主の言」は使用されない。「神の言」は士師記3章20節など、6カ所で使用される。

[xlvi] アモス書9章11、12節と比較せよ。

[xlvii] 同上。

[xlviii] Delitzsch (1877), Salkinson (1885), UBS (1979) はここで「イオウオ(?)」とする。申命記5章5節と比較せよ。旧約聖書では、「イオウオの言」と言う表現は創世記15章1節を始め、201カ所で使用され、「主イオウオの言」はエゼキエル書6章3節、25章3節と36章4節で使用される。「主の言」は使用されない。

[xlix] Hutter (1599), Delitzsch (1877), Salkinson (1885), UBS (1979) はここで「イオウオ(?)」とする。イザヤ書2章3節、エレミア書6章10節、31章10節とも比較せよ。旧約聖書では、「イオウオの言」と言う表現は創世記15章1節を始め、201カ所で使用され、「主イオウオの言」はエゼキエル書6章3節、25章3節と36章4節で使用される。「主の言」は使用されない。

[l] Delitzsch (1877), Salkinson (1885), UBS (1979) はここで「イオウオ(?)」とする。創世記6章8節、列王紀下13章23節、詩編84編12節、イザヤ書33章2節とも比較せよ。

[li] Hutter (1599), Delitzsch (1877), Salkinson (1885) はここで「イオウオ(?)」とする。イザヤ書50章5節とも比較せよ。イザヤ書50章5節、箴言20章12節、申命記29章3節、エレミア書31章33節とも比較せよ。

[lii] Hutter (1599) はここで「イオウオ(?)」とする。出エジプト記14章31節、歴代志下20章20節、詩編116編10節、エレミア書43章10節とも比較せよ。

[liii] 本文の異文:「主の言」。Hutter (1599), Delitzsch (1877), Salkinson (1885), UBS (1979) はここで「イオウオ(?)」とする。旧約聖書では、「イオウオの言」と言う表現は創世記15章1節を始め、201カ所で使用され、「主イオウオの言」はエゼキエル書6章3節、25章3節と36章4節で使用される。「主の言」は使用されない。「神の言」は士師記3章20節など、6カ所で使用される。

[liv] Delitzsch (1877) はここでテトラグラマトンを使用する。イザヤ書53章10節、詩編33編10節、エズラ記7章10節とも比較せよ。

[lv] Hutter (1599), Biesenthal (1855) はここで「イオウオ(?)」とする。創世記18章19節、士師記2章22節、箴言10章29節とも比較せよ。

[lvi] Hutter (1599), Biesenthal (1855), Delitzsch (1877), Salkinson (1885) はここで「イオウオ(?)」とする。イザヤ書2章3節、エレミア書31章10節、ミカ書4章2節とも比較せよ。旧約聖書では、「イオウオの言」と言う表現は創世記15章1節を始め、201カ所で使用され、「主イオウオの言」はエゼキエル書6章3節、25章3節と36章4節で使用される。「主の言」は使用されない。

[lvii] 本文の異文:「神の道」。他の異文:「主の道」。Delitzsch (1877), Salkinson (1885) はここで「イオウオ(?)の道」とする。創世記18章19節、士師記2章22節、箴言10章29節、ヨブ記40章19節とも比較せよ。

[lviii] 本文の異文:「神の御国」。Delitzsch (1877) はここで「イオウオ(?)の御国」とする。詩編22章29節、103編19節、145編11～13節、ダニエル書6章27節とも比較せよ。

[lix] Hutter (1599), Delitzsch (1877), Salkinson (1885) はここで「イオウオ(?)」とする。創世記18章19節、士師記2章22節、箴言10章29節とも比較せよ。

1 キリスト・イエスの僕、神の福音のため
に選び別たれ、召されて使徒となったパ
ウロから―― 2この福音は、神が、預言者
たちにより、聖書の中で、あらかじめ約束
されたものであって、 3御子に関するもの
である。御子は、肉によればダビデの子
孫から生れ、 4聖なる霊によれば、死人か
らの復活により、御力をもって神の御子と
定められた。これがわたしたちの主イエス
・キリストである。 5わたしたちは、その御
名のために、すべての異邦人を信仰の従
順に至らせるようにと、彼によって恵みと
使徒の務とを受けたのであり、 6あなたが
たもまた、彼らの中にあって、召されてイ
エス・キリストに属する者となったのである
―― 7ローマにいる、神に愛され、召され
た聖徒一同へ。わたしたちの父なる神お
よび主イエス・キリストから、恵みと平安と
が、あなたがたにあるように。 8まず第一
に、わたしは、あなたがたの信仰が全世
界に言い伝えられていることを、イエス・キ
リストによって、あなたがた一同のために、
わたしの神に感謝する。 9 10わたしは、
祈のたびごとに、絶えずあなたがたを覚え
、いつかは御旨にかなって道が開かれ、
どうにかして、あなたがたの所に行けるよう
にと願っている。このことについて、わたし
のためにあかしをして下さるのは、わたし
が霊により、御子の福音を宣べ伝えて仕
えている神である。 11わたしは、あなたが
たに会うことを熱望している。あなたがた
に霊の賜物を幾分でも分け与えて、力づ
けたいからである。 12それは、あなたがた
の中にいて、あなたがたとわたしとのお互
の信仰によって、共に励まし合うためにほ
かならない。 13兄弟たちよ。このことを知
らずにいてもらいたくない。わたしはほか
の異邦人の間で得たように、あなたがた
の間でも幾分かの実を得るために、あな
たがたの所に行こうとしばしば企てたが、
今まで妨げられてきた。 14わたしには、ギ
リシヤ人にも未開の人にも、賢い者にも無
知な者にも、果すべき責任がある。 15そ
こで、わたしとしての切なる願いは、ロー
マにいるあなたがたにも、福音を宣べ伝
えることなのである。 16わたしは福音を恥
としない。それは、ユダヤ人をはじめ、ギリ
シヤ人にも、すべて信じる者に、救を得さ
せる神の力である。 17神の義は、その福
音の中に啓示され、信仰に始まり信仰に
至らせる。これは、「信仰による義人は生
きる」と書いてあるとおりである。 18神の怒
りは、不義をもって真理をはばもうとする
人間のあらゆる不信心と不義とに対して、
天から啓示される。 19なぜなら、神につ
いて知りうる事がらは、彼らには明らかで
あり、神がそれを彼らに明らかにされたの
である。 20神の見えない性質、すなわち
、神の永遠の力と神性とは、天地創造こ
のかた、被造物において知られていて、
明らかに認められるからである。したがっ
て、彼らには弁解の余地がない。 21なぜ
なら、彼らは神を知っていながら、神とし
てあがめず、感謝もせず、かえってその思
いはむなしくなり、その無知な心は暗くな
ったからである。 22彼らは自ら知者と称し
ながら、愚かになり、 23不朽の神の栄光
を変えて、朽ちる人間や鳥や獣や這うも
のの像に似せたのである。 24ゆえに、神
は、彼らが心の欲情にかられ、自分のか
らだを互にはずかしめて、汚すままに任
せられた。 25彼らは神の真理を変えて虚
偽とし、創造者の代りに被造物を拝み、こ
れに仕えたのである。創造者こそ永遠に
ほむべきものである、アァメン。 26それゆ
え、神は彼らを恥ずべき情欲に任せられ
た。すなわち、彼らの中の女は、その自然
の関係を不自然なものに代え、 27男もま
た同じように女との自然の関係を捨てて、
互にその情欲の炎を燃やし、男は男に対
して恥ずべきことをなし、そしてその乱行
の当然の報いを、身に受けたのである。
28そして、彼らは神を認めることを正しい
としなかったので、神は彼らを正しからぬ
思いにわたし、なすべからざる事をなすに
任せられた。 29すなわち、彼らは、あらゆ
る不義と悪と貪欲と悪意とにあふれ、ねた
みと殺意と争いと詐欺と悪念とに満ち、ま
た、ざん言する者、 30そしる者、神を憎む
者、不遜な者、高慢な者、大言壮語する
者、悪事をたくらむ者、親に逆らう者となり
、 31無知、不誠実、無情、無慈悲な者と
なっている。 32彼らは、こうした事を行う
者どもが死に価するという神の定めをよく
知りながら、自らそれを行うばかりではなく
、それを行う者どもを是認さえしている。

2 だから、ああ、すべて人をさばく者よ。
あなたには弁解の余地がない。あなたは
、他人をさばくことによって、自分自身を
罪に定めている。さばくあなたも、同じこと
を行っているからである。 2わたしたちは、
神のさばきが、このような事を行う者どもの
上に正しく下ることを、知っている。 3ああ
、このような事を行う者どもをさばきながら
、しかも自ら同じことを行う人よ。あなたは
、神のさばきをのがれうると思うのか。 4そ
れとも、神の慈愛があなたを悔改めに導く
ことも知らないで、その慈愛と忍耐と寛容
との富を軽んじるのか。 5あなたのかたく
なな、悔改めのない心のゆえに、あなた
は、神の正しいさばきの現れる怒りの日の
ために神の怒りを、自分の身に積んでい
るのである。 6神は、おのおのに、そのわ
ざにしたがって報いられる。 7すなわち、
一方では、耐え忍んで善を行って、光栄
とほまれと朽ちぬものとを求める人に、永
遠のいのちが与えられ、 8他方では、党
派心をいだき、真理に従わないで不義に
従う人に、怒りと激しい憤りとが加えられる
。 9悪を行うすべての人には、ユダヤ人を
はじめギリシヤ人にも、患難と苦悩とが与
えられ、 10善を行うすべての人には、ユ
ダヤ人をはじめギリシヤ人にも、光栄とほ
まれと平安とが与えられる。 11なぜなら、
神には、かたより見ることがないからである
。 12そのわけは、律法なしに罪を犯した
者は、また律法なしに滅び、律法のもとで
罪を犯した者は、律法によってさばかれる
。 13なぜなら、律法を聞く者が、神の前に
義なるものではなく、律法を行う者が、義
とされるからである。 14すなわち、律法を
持たない異邦人が、自然のままで、律法
の命じる事を行うなら、たとい律法を持た
なくても、彼らにとっては自分自身が律法
なのである。 15彼らは律法の要求がその
心にしるされていることを現し、そのことを
彼らの良心も共にあかしをして、その判断
が互にあるいは訴え、あるいは弁明し合う
のである。 16そして、これらのことは、わた
しの福音によれば、神がキリスト・イエスに
よって人々の隠れた事がらをさばかれる
その日に、明らかにされるであろう。 17も
しあなたが、自らユダヤ人と称し、律法に
安んじ、神を誇とし、 18御旨を知り、律法
に教えられて、なすべきことをわきまえて
おり、 19 20さらに、知識と真理とが律法
の中に形をとっているとして、自ら盲人の
手引き、やみにおる者の光、愚かな者の
導き手、幼な子の教師をもって任じている
のなら、 21なぜ、人を教えて自分を教え
ないのか。盗むなと人に説いて、自らは盗
むのか。 22姦淫するなと言って、自らは
姦淫するのか。偶像を忌みきらいながら、
自らは宮の物をかすめるのか。 23律法を
誇としながら、自らは律法に違反して、神
を侮っているのか。 24聖書に書いてある
とおり、「神の御名は、あなたがたのゆえ
に、異邦人の間で汚されている」。 25もし
、あなたが律法を行うなら、なるほど、割
礼は役に立とう。しかし、もし律法を犯す
なら、あなたの割礼は無割礼となってしま
う。 26だから、もし無割礼の者が律法の
規定を守るなら、その無割礼は割礼と見
なされるではないか。 27かつ、生れなが
ら無割礼の者であって律法を全うする者
は、律法の文字と割礼とを持ちながら律
法を犯しているあなたを、さばくのである。
28というのは、外見上のユダヤ人がユダ
ヤ人ではなく、また、外見上の肉における
割礼が割礼でもない。 29かえって、隠れ
たユダヤ人がユダヤ人であり、また、文字
によらず霊による心の割礼こそ割礼であ
って、そのほまれは人からではなく、神か
ら来るのである。

3 では、ユダヤ人のすぐれている点は何
か。また割礼の益は何か。 2それは、いろ
いろの点で数多くある。まず第一に、神の
言が彼らにゆだねられたことである。 3す
ると、どうなるのか。もし、彼らのうちに不
真実の者があったとしたら、その不真実に
よって、神の真実は無になるであろうか。
4断じてそうではない。あらゆる人を偽り
者としても、神を真実なものとすべきであ
る。それは、「あなたが言葉を述べるときは
、義とせられ、あなたがさばきを受けるとき
、勝利を得るため」と書いてあるとおりであ
る。 5しかし、もしわたしたちの不義が、神
の義を明らかにするとしたら、なんと言うべ
きか。怒りを下す神は、不義であると言う
のか(これは人間的な言い方ではある)。
6断じてそうではない。もしそうであったら

、神はこの世を、どうさばかれるだろうか。
7しかし、もし神の真実が、わたしの偽りによりいっそう明らかにされて、神の栄光となるなら、どうして、わたしはなおも罪人としてさばかれるのだろうか。 8むしろ、「善をきたらせるために、わたしたちは悪をしようではないか」（わたしたちがそう言っていると、ある人々はそしっている）。彼らが罰せられるのは当然である。 9すると、どうなるのか。わたしたちには何かまさったところがあるのか。絶対にない。ユダヤ人もギリシヤ人も、ことごとく罪の下にあることを、わたしたちはすでに指摘した。 10次のように書いてある、「義人はいない、ひとりもいない。 11悟りのある人はいない、神を求める人はいない。 12すべての人は迷い出て、ことごとく無益なものになっている。善を行う者はいない、ひとりもいない。
13彼らののどは、開いた墓であり、彼らは、その舌で人を欺き、彼らのくちびるには、まむしの毒があり、 14彼らの口は、のろいと苦い言葉とで満ちている。 15彼らの足は、血を流すのに速く、 16彼らの道には、破壊と悲惨とがある。 17そして、彼らは平和の道を知らない。 18彼らの目の前には、神に対する恐れがない」。 19さて、わたしたちが知っているように、すべて律法の言うところは、律法のもとにある者たちに対して語られている。それは、すべての口がふさがれ、全世界が神のさばきに服するためである。 20なぜなら、律法を行うことによっては、すべての人間は神の前に義とせられないからである。律法によっては、罪の自覚が生じるのみである。
21しかし今や、神の義が、律法とは別に、しかも律法と預言者とによってあかしされて、現された。 22それは、イエス・キリストを信じる信仰による神の義であって、すべて信じる人に与えられるものである。そこにはなんらの差別もない。 23すなわち、すべての人は罪を犯したため、神の栄光を受けられなくなっており、 24彼らは、価なしに、神の恵みにより、キリスト・イエスによるあがないによって義とされるのである。
25神はこのキリストを立てて、その血による、信仰をもって受くべきあがないの供え物とされた。それは神の義を示すためであった。すなわち、今までに犯された罪を、神は忍耐をもって見のがしておられたが、 26それは、今の時に、神の義を示すためであった。こうして、神みずからが義となり、さらに、イエスを信じる者を義とされるのである。 27すると、どこにわたしたちの誇があるのか。全くない。なんの法則によってか。行いの法則によってか。そうではなく、信仰の法則によってである。 28わたしたちは、こう思う。人が義とされるのは、律法の行いによるのではなく、信仰によるのである。 29それとも、神はユダヤ人だけの神であろうか。また、異邦人の神であるのではないか。確かに、異邦人の神でもある。 30まことに、神は唯一であって、割礼のある者を信仰によって義とし、また、無割礼の者をも信仰のゆえに義とされるのである。 31すると、信仰のゆえに、わたしたちは律法を無効にするのであるか。断じてそうではない。かえって、それによって律法を確立するのである。

4 それでは、肉によるわたしたちの先祖アブラハムの場合については、なんと言ったらよいか。 2もしアブラハムが、その行いによって義とされたのであれば、彼は誇ることができよう。しかし、神のみまえでは、できない。 3なぜなら、聖書はなんと言っているか、「アブラハムはイオウオ(?)[i]を信じた。それによって、彼は義と認められた」とある。 4いったい、働く人に対する報酬は、恩恵としてではなく、当然の支払いとして認められる。 5しかし、働きはなくても、不信心な者を義とするかたを信じる人は、その信仰が義と認められるのである。
6ダビデもまた、行いがなくても神に義と認められた人の幸福について、次のように言っている、 7「不法をゆるされ、罪をおおわれた人たちは、さいわいである。
8罪をイオウオ(?)[ii]に認められない人は、さいわいである」。 9さて、この幸福は、割礼の者だけが受けるのか。それとも、無割礼の者にも及ぶのか。わたしたちは言う、「アブラハムには、その信仰が義と認められた」のである。 10それでは、どういう場合にそう認められたのか。割礼を受けてからか、それとも受ける前か。割礼を受けてからではなく、無割礼の時であった。
11そして、アブラハムは割礼というしるし

を受けたが、それは、無割礼のままで信
仰によって受けた義の証印であって、彼
が、無割礼のままで信じて義とされるに至
るすべての人の父となり、 *12*かつ、割礼
の者の父となるためなのである。割礼の者
というのは、割礼を受けた者ばかりではな
く、われらの父アブラハムが無割礼の時に
持っていた信仰の足跡を踏む人々をもさ
すのである。 *13*なぜなら、世界を相続さ
せるとの約束が、アブラハムとその子孫と
に対してなされたのは、律法によるのでは
なく、信仰の義によるからである。 *14*もし、
律法に立つ人々が相続人であるとすれば
、信仰はむなしくなり、約束もまた無効に
なってしまう。 *15*いったい、律法は怒りを
招くものであって、律法のないところには
違反なるものはない。 *16*このようなわけで
、すべては信仰によるのである。それは恵
みによるのであって、すべての子孫に、す
なわち、律法に立つ者だけにではなく、ア
ブラハムの信仰に従う者にも、この約束が
保証されるのである。アブラハムは、神の
前で、わたしたちすべての者の父であっ
て、 *17*「わたしは、あなたを立てて多くの
国民の父とした」と書いてあるとおりである
。彼はこの神、すなわち、死人を生かし、
無から有を呼び出される神を信じたので
ある。 *18*彼は望み得ないのに、なおも望
みつつ信じた。そのために、「あなたの子
孫はこうなるであろう」と言われているとお
り、多くの国民の父となったのである。
*19*すなわち、およそ百歳となって、彼自
身のからだが死んだ状態であり、また、サ
ラの胎が不妊であるのを認めながらも、な
お彼の信仰は弱らなかった。 *20*彼は、神
の約束を不信仰のゆえに疑うようなことは
せず、かえって信仰によって強められ、栄
光を神に帰し、 *21*神はその約束されたこ
とを、また成就することができると確信した
。 *22*だから、彼は義と認められたのである
。 *23*しかし「義と認められた」と書いてある
のは、アブラハムのためだけではなく、
*24*わたしたちのためでもあって、わたした
ちの主イエスを死人の中からよみがえら
せたかたを信じるわたしたちも、義と認め
られるのである。 *25*主は、わたしたちの罪
過のために死に渡され、わたしたちが義
とされるために、よみがえらされたのであ
る。

5 このように、わたしたちは、信仰によっ
て義とされたのだから、わたしたちの主イ
エス・キリストにより、神に対して平和を得
ている。 *2*わたしたちは、さらに彼により、
いま立っているこの恵みに信仰によって
導き入れられ、そして、神の栄光にあずか
る希望をもって喜んでいる。 *3*それだけで
はなく、患難をも喜んでいる。なぜなら、
患難は忍耐を生み出し、 *4*忍耐は錬達を
生み出し、錬達は希望を生み出すことを、
知っているからである。 *5*そして、希望は
失望に終ることはない。なぜなら、わたし
たちに賜わっている聖霊によって、神の
愛がわたしたちの心に注がれているから
である。 *6*わたしたちがまだ弱かったころ、
キリストは、時いたって、不信心な者たち
のために死んで下さったのである。 *7*正し
い人のために死ぬ者は、ほとんどいない
であろう。善人のためには、進んで死ぬ者
もあるいはいるであろう。 *8*しかし、まだ罪
人であった時、わたしたちのためにキリス
トが死んで下さったことによって、神はわ
たしたちに対する愛を示されたのである。
*9*わたしたちは、キリストの血によって今は
義とされているのだから、なおさら、彼によ
って神の怒りから救われるであろう。 *10*も
し、わたしたちが敵であった時でさえ、御
子の死によって神との和解を受けたとす
れば、和解を受けている今は、なおさら、
彼のいのちによって救われるであろう。
*11*そればかりではなく、わたしたちは、今
や和解を得させて下さったわたしたちの
主イエス・キリストによって、神を喜ぶので
ある。 *12*このようなわけで、ひとりの人によ
って、罪がこの世にはいり、また罪によっ
て死がはいってきたように、こうして、すべ
ての人が罪を犯したので、死が全人類に
はいり込んだのである。 *13*というのは、律
法以前にも罪は世にあったが、律法がな
ければ、罪は罪として認められないのであ
る。 *14*しかし、アダムからモーセまでの間
においても、アダムの違反と同じような罪
を犯さなかった者も、死の支配を免れな
かった。このアダムは、きたるべき者の型
である。 *15*しかし、恵みの賜物は罪過の

場合とは異なっている。すなわち、もしひ
とりの罪過のために多くの人が死んだとす
れば、まして、神の恵みと、ひとりの人イエ
ス・キリストの恵みによる賜物とは、さらに
豊かに多くの人々に満ちあふれたはずで
ではないか。 *16*かつ、この賜物は、ひとりの
犯した罪の結果とは異なっている。なぜな
ら、さばきの場合は、ひとりの罪過から、罪
に定めることになったが、恵みの場合には
、多くの人の罪過から、義とする結果にな
るからである。 *17*もし、ひとりの罪過によっ
て、そのひとりをとおして死が支配するに
至ったとすれば、まして、あふれるばかり
の恵みと義の賜物とを受けている者たち
は、ひとりのイエス・キリストをとおし、いの
ちにあって、さらに力強く支配するはずで
ではないか。 *18*このようなわけで、ひとりの
罪過によってすべての人が罪に定められ
たように、ひとりの義なる行為によって、い
のちを得させる義がすべての人に及ぶの
である。 *19*すなわち、ひとりの人の不従順
によって、多くの人が罪人とされたと同じ
ように、ひとりの従順によって、多くの人が
義人とされるのである。 *20*律法がはいり
込んできたのは、罪過の増し加わるため
である。しかし、罪の増し加わったところに
は、恵みもますます満ちあふれた。 *21*そ
れは、罪が死によって支配するに至った
ように、恵みもまた義によって支配し、わ
たしたちの主イエス・キリストにより、永遠
のいのちを得させるためである。

6 では、わたしたちは、なんと言おうか。
恵みが増し加わるために、罪にとどまるべ
きであろうか。 *2*断じてそうではない。罪に
対して死んだわたしたちが、どうして、な
お、その中に生きておれるだろうか。 *3*そ
れとも、あなたがたは知らないのか。キリス
ト・イエスにあずかるバプテスマを受けた
わたしたちは、彼の死にあずかるバプテス
マを受けたのである。 *4*すなわち、わたし
たちは、その死にあずかるバプテスマによ
って、彼と共に葬られたのである。それは
、キリストが父の栄光によって、死人の中
からよみがえらされたように、わたしたちも
また、新しいいのちに生きるためである。
*5*もしわたしたちが、彼に結びついてその
死の様にひとしくなるなら、さらに、彼の復
活の様にもひとしくなるであろう。 *6*わたし
たちは、この事を知っている。わたしたち
の内の古き人はキリストと共に十字架につ
けられた。それは、この罪のからだが滅び
、わたしたちがもはや、罪の奴隷となること
がないためである。 *7*それは、すでに死ん
だ者は、罪から解放されているからである
。 *8*もしわたしたちが、キリストと共に死ん
だなら、また彼と共に生きることを信じる。
*9*キリストは死人の中からよみがえらされ
て、もはや死ぬことがなく、死はもはや彼
を支配しないことを、知っているからであ
る。 *10*なぜなら、キリストが死んだのは、た
だ一度罪に対して死んだのであり、キリス
トが生きるのは、神に生きるのだからであ
る。 *11*このように、あなたがた自身も、罪
に対して死んだ者であり、キリスト・イエス
にあって神に生きている者であることを、
認むべきである。 *12*だから、あなたがたの
死ぬべきからだを罪の支配にゆだねて、
その情欲に従わせることをせず、 *13*また、
あなたがたの肢体を不義の武器として罪
にささげてはならない。むしろ、死人の中
から生かされた者として、自分自身を神に
ささげ、自分の肢体を義の武器として神に
ささげるがよい。 *14*なぜなら、あなたがた
は律法の下にあるのではなく、恵みの下
にあるので、罪に支配されることはないか
らである。 *15*それでは、どうなのか。律法
の下にではなく、恵みの下にあるからとい
って、わたしたちは罪を犯すべきであろう
か。断じてそうではない。 *16*あなたがたは
知らないのか。あなたがた自身が、だれか
の僕になって服従するなら、あなたがたは
自分の服従するその者の僕であって、死
に至る罪の僕ともなり、あるいは、義にい
たる従順の僕ともなるのである。 *17*しかし
、神は感謝すべきかな。あなたがたは罪
の僕であったが、伝えられた教の基準に
心から服従して、 *18*罪から解放され、義
の僕となった。 *19*わたしは人間的な言い
方をするが、それは、あなたがたの肉の弱
さのゆえである。あなたがたは、かつて自
分の肢体を汚れと不法との僕としてささげ
て不法に陥ったように、今や自分の肢体
を義の僕としてささげて、きよくならねばな
らない。 *20*あなたがたが罪の僕であった
時は、義とは縁のない者であった。

*21*その時あなたがたは、どんな実を結んだのか。それは、今では恥とするようなものであった。それらのものの終極は、死である。 *22*しかし今や、あなたがたは罪から解放されて神に仕え、きよきに至る実を結んでいる。その終極は永遠のいのちである。 *23*罪の支払う報酬は死である。しかし神の賜物は、わたしたちの主キリスト・イエスにおける永遠のいのちである。

7 それとも、兄弟たちよ。あなたがたは知らないのか。わたしは律法を知っている人々に語るのであるが、律法は人をその生きている期間だけ支配するものである。
*2*すなわち、夫のある女は、夫が生きている間は、律法によって彼につながれている。しかし、夫が死ねば、夫の律法から解放される。 *3*であるから、夫の生存中に他の男に行けば、その女は淫婦と呼ばれるが、もし夫が死ねば、その律法から解かれるので、他の男に行っても、淫婦とはならない。 *4*わたしの兄弟たちよ。このように、あなたがたも、キリストのからだをとおして、律法に対して死んだのである。それは、あなたがたが他の人、すなわち、死人の中からよみがえられたかたのものとなり、こうして、わたしたちが神のために実を結ぶに至るためなのである。 *5*というのは、わたしたちが肉にあった時には、律法による罪の欲情が、死のために実を結ばせようとして、わたしたちの肢体のうちに働いていた。 *6*しかし今は、わたしたちをつないでいたものに対して死んだので、わたしたちは律法から解放され、その結果、古い文字によってではなく、新しい霊によって仕えているのである。 *7*それでは、わたしたちは、なんと言おうか。律法は罪なのか。断じてそうではない。しかし、律法によらなければ、わたしは罪を知らなかったであろう。すなわち、もし律法が「むさぼるな」と言わなかったら、わたしはむさぼりなるものを知らなかったであろう。 *8*しかるに、罪は戒めによって機会を捕え、わたしの内に働いて、あらゆるむさぼりを起させた。すなわち、律法がなかったら、罪は死んでいるのである。 *9*わたしはかつては、律法なしに生きていたが、戒めが来るに及んで、罪は生き返り、 *10*わたしは死んだ。そして、いのちに導くべき戒めそのものが、かえってわたしを死に導いて行くことがわかった。 *11*なぜなら、罪は戒めによって機会を捕え、わたしを欺き、戒めによってわたしを殺したからである。 *12*このようなわけで、律法そのものは聖なるものであり、戒めも聖であって、正しく、かつ善なるものである。 *13*では、善なるものが、わたしにとって死となったのか。断じてそうではない。それはむしろ、罪の罪たることが現れるための、罪のしわざである。すなわち、罪は、戒めによって、はなはだしく悪性なものとなるために、善なるものによってわたしを死に至らせたのである。 *14*わたしたちは、律法は霊的なものであると知っている。しかし、わたしは肉につける者であって、罪の下に売られているのである。
*15*わたしは自分のしていることが、わからない。なぜなら、わたしは自分の欲する事は行わず、かえって自分の憎む事をしているからである。 *16*もし、自分の欲しない事をしているとすれば、わたしは律法が良いものであることを承認していることになる。 *17*そこで、この事をしているのは、もはやわたしではなく、わたしの内に宿っている罪である。 *18*わたしの内に、すなわち、わたしの肉の内には、善なるものが宿っていないことを、わたしは知っている。なぜなら、善をしようとする意志は、自分にあるが、それをする力がないからである。
*19*すなわち、わたしの欲している善はしないで、欲していない悪は、これを行っている。 *20*もし、欲しないことをしているとすれば、それをしているのは、もはやわたしではなく、わたしの内に宿っている罪である。 *21*そこで、善をしようと欲しているわたしに、悪がはいり込んでいるという法則があるのを見る。 *22*すなわち、わたしは、内なる人としては神の律法を喜んでいるが、
*23*わたしの肢体には別の律法があって、わたしの心の法則に対して戦いをいどみ、そして、肢体に存在する罪の法則の中に、わたしをとりこにしているのを見る。
*24*わたしは、なんというみじめな人間なのだろう。だれが、この死のからだから、わたしを救ってくれるだろうか。 *25*わたしたちの主イエス・キリストによって、神は感謝すべきかな。このようにして、わたし自身は、

心では神の律法に仕えているが、肉では
罪の律法に仕えているのである。

8 こういうわけで、今やキリスト・イエスに
ある者は罪に定められることがない。 *2*な
ぜなら、キリスト・イエスにあるいのちの御
霊の法則は、罪と死との法則からあなたを
解放したからである。 *3*律法が肉により無
力になっているためになし得なかった事
を、神はなし遂げて下さった。すなわち、
御子を、罪の肉の様で罪のためにつかわ
し、肉において罪を罰せられたのである。
*4*これは律法の要求が、肉によらず霊に
よって歩くわたしたちにおいて、満たされ
るためである。 *5*なぜなら、肉に従う者は
肉のことを思い、霊に従う者は霊のことを
思うからである。 *6*肉の思いは死であるが
、霊の思いは、いのちと平安とである。
*7*なぜなら、肉の思いは神に敵するから
である。すなわち、それは神の律法に従
わず、否、従い得ないのである。 *8*また、
肉にある者は、神を喜ばせることができな
い。 *9*しかし、神の御霊があなたがたの内
に宿っているなら、あなたがたは肉におる
のではなく、霊におるのである。もし、キリ
ストの霊を持たない人がいるなら、その人
はキリストのものではない。 *10*もし、キリス
トがあなたがたの内におられるなら、から
だは罪のゆえに死んでいても、霊は義の
ゆえに生きているのである。 *11*もし、イエ
スを死人の中からよみがえらせたかたの
御霊が、あなたがたの内に宿っているなら
、キリスト・イエスを死人の中からよみがえ
らせたかたは、あなたがたの内に宿って
いる御霊によって、あなたがたの死ぬべき
からだをも、生かしてくださるであろう。
*12*それゆえに、兄弟たちよ。わたしたち
は、果すべき責任を負っている者である
が、肉に従って生きる責任を肉に対して
負っているのではない。 *13*なぜなら、もし
、肉に従って生きるなら、あなたがたは死
ぬ外はないからである。しかし、霊によっ
てからだの働きを殺すなら、あなたがたは
生きるであろう。 *14*すべて神の御霊に導
かれている者は、すなわち、神の子である
。 *15*あなたがたは再び恐れをいだかせる
奴隷の霊を受けたのではなく、子たる身
分を授ける霊を受けたのである。その霊
によって、わたしたちは「アバ、父よ」と呼
ぶのである。 *16*御霊みずから、わたした
ちの霊と共に、わたしたちが神の子であ
ることをあかしして下さる。 *17*もし子であれ
ば、相続人でもある。神の相続人であって
、キリストと栄光を共にするために苦難を
も共にしている以上、キリストと共同の相
続人なのである。 *18*わたしは思う。今のこ
の時の苦しみは、やがてわたしたちに現
されようとする栄光に比べると、言うに足り
ない。 *19*被造物は、実に、切なる思いで
神の子たちの出現を待ち望んでいる。
*20*なぜなら、被造物が虚無に服したのは
、自分の意志によるのではなく、服従させ
たかたによるのであり、 *21*かつ、被造物
自身にも、滅びのなわめから解放されて、
神の子たちの栄光の自由に入る望みが
残されているからである。 *22*実に、被造
物全体が、今に至るまで、共にうめき共に
産みの苦しみを続けていることを、わたし
たちは知っている。 *23*それだけではなく、
御霊の最初の実を持っているわたしたち
自身も、心の内でうめきながら、子たる身
分を授けられること、すなわち、からだの
あがなわれることを待ち望んでいる。 *24*わ
たしたちは、この望みによって救われて
いるのである。しかし、目に見える望みは望
みではない。なぜなら、現に見ている事を
、どうして、なお望む人があろうか。 *25*もし
、わたしたちが見ないことを望むなら、わ
たしたちは忍耐して、それを待ち望むの
である。 *26*御霊もまた同じように、弱いわ
たしたちを助けて下さる。なぜなら、わたし
たちはどう祈ったらよいかわからないが、
御霊みずから、言葉にあらわせない切な
るうめきをもって、わたしたちのためにとり
なして下さるからである。 *27*そして、人の
心を探り知るかたは、御霊の思うところが
なんであるかを知っておられる。なぜなら
、御霊は、聖徒のために、神の御旨にか
なうとりなしをして下さるからである。 *28*神
は、神を愛する者たち、すなわち、ご計画
に従って召された者たちと共に働いて、
万事を益となるようにして下さることを、わ
たしたちは知っている。 *29*神はあらかじめ
知っておられる者たちを、更に御子のか
たちに似たものとしようとして、あらかじめ
定めて下さった。それは、御子を多くの兄

弟の中で長子とならせるためであった。
*30*そして、あらかじめ定めた者たちを更
に召し、召した者たちを更に義とし、義と
した者たちには、更に栄光を与えて下さ
ったのである。*31*それでは、これらの事に
ついて、なんと言おうか。もし、神がわたし
たちの味方であるなら、だれがわたしたち
に敵し得ようか。*32*ご自身の御子をさえ
惜しまないで、わたしたちすべての者のた
めに死に渡されたかたが、どうして、御子
のみならず万物をも賜わらないことがあろ
うか。*33*だれが、神の選ばれた者たちを
訴えるのか。神は彼らを義とされるのであ
る。*34*だれが、わたしたちを罪に定めるの
か。キリスト・イエスは、死んで、否、よみが
えって、神の右に座し、また、わたしたち
のためにとりなして下さるのである。*35*だ
れが、キリストの愛からわたしたちを離れさ
せるのか。患難か、苦悩か、迫害か、飢え
か、裸か、危難か、剣か。*36*「わたしたち
はあなたのために終日、死に定められて
おり、ほふられる羊のように見られている」
と書いてあるとおりである。*37*しかし、わた
したちを愛して下さったかたによって、わ
たしたちは、これらすべての事において
勝ち得て余りがある。*38*わたしは確信す
る。死も生も、天使も支配者も、現在のも
のも将来のものも、力あるものも、*39*高い
ものも深いものも、その他どんな被造物も
、わたしたちの主キリスト・イエスにおける
神の愛から、わたしたちを引き離すことは
できないのである。

9 わたしはキリストにあって真実を語る。
偽りは言わない。わたしの良心も聖霊によ
って、わたしにこうあかしをしている。*2*す
なわち、わたしに大きな悲しみがあり、わ
たしの心に絶えざる痛みがある。*3*実際、
わたしの兄弟、肉による同族のためなら、
わたしのこの身がのろわれて、キリストから
離されてもいとわない。*4*彼らはイスラエ
ル人であって、子たる身分を授けられるこ
とも、栄光も、もろもろの契約も、律法を授
けられることも、礼拝も、数々の約束も彼ら
のもの、*5*また父祖たちも彼らのものであ
り、肉によればキリストもまた彼らから出ら
れたのである。万物の上にいます神は、
永遠にほむべきかな、アァメン。*6*しかし、
神の言が無効になったというわけではな
い。なぜなら、イスラエルから出た者が全
部イスラエルなのではなく、*7*また、アブラ
ハムの子孫だからといって、その全部が
子であるのではないからである。かえって
「イサクから出る者が、あなたの子孫と呼
ばれるであろう」。*8*すなわち、肉の子が
そのまま神の子なのではなく、むしろ約束
の子が子孫として認められるのである。
*9*約束の言葉はこうである。「来年の今ご
ろ、わたしはまた来る。そして、サラに男子
が与えられるであろう」。*10*そればかりで
はなく、ひとりの人、すなわち、わたしたち
の父祖イサクによって受胎したリベカの場
合も、また同様である。*11*まだ子供らが生
れもせず、善も悪もしない先に、神の選び
の計画が、*12*わざによらず、召したかた
によって行われるために、「兄は弟に仕え
るであろう」と、彼女に仰せられたのである
。*13*「わたしはヤコブを愛しエサウを憎ん
だ」と書いてあるとおりである。*14*では、わ
たしたちはなんと言おうか。神の側に不正
があるのか。断じてそうではない。*15*神は
モーセに言われた、「わたしは自分のあわ
れもうとする者をあわれみ、いつくしもうと
する者を、いつくしむ」。*16*ゆえに、それ
は人間の意志や努力によるのではなく、
ただ神のあわれみによるのである。*17*聖
書はパロにこう言っている、「わたしがあな
たを立てたのは、この事のためである。す
なわち、あなたによってわたしの力をあら
わし、また、わたしの名が全世界に言いひ
ろめられるためである」。*18*だから、神は
そのあわれもうと思う者をあわれみ、かたく
なにしようと思う者を、かたくなになさるの
である。*19*そこで、あなたは言うであろう、
「なぜ神は、なおも人を責められるのか。
だれが、神の意図に逆らい得ようか」。
*20*ああ人よ。あなたは、神に言い逆らうと
は、いったい、何者なのか。造られたもの
が造った者に向かって、「なぜ、わたしを
このように造ったのか」と言うことがあろうか
。*21*陶器を造る者は、同じ土くれから、一
つを尊い器に、他を卑しい器に造りあげる
権能がないのであろうか。*22*もし、神が怒
りをあらわし、かつ、ご自身の力を知らせ
ようと思われつつも、滅びることになって
いる怒りの器を、大いなる寛容をもって忍

ばれたとすれば、 *23*かつ、栄光にあずか
らせるために、あらかじめ用意されたあわ
れみの器にご自身の栄光の富を知らせよ
うとされたとすれば、どうであろうか。 *24*神
は、このあわれみの器として、またわたし
たちをも、ユダヤ人の中からだけではなく
、異邦人の中からも召されたのである。
*25*それは、ホセアの書でも言われている
とおりである、「わたしは、わたしの民でな
い者を、わたしの民と呼び、愛されなかっ
た者を、愛される者と呼ぶであろう。 *26*あ
なたがたはわたしの民ではないと、彼らに
言ったその場所で、彼らは生ける神の子
らであると、呼ばれるであろう」。 *27*また、
イザヤはイスラエルについて叫んでいる、
「たとい、イスラエルの子らの数は、浜の
砂のようであっても、救われるのは、残さ
れた者だけであろう。 *28*イオウオ(?)[iii]は、
御言をきびしくまたすみやかに、地上にな
しとげられるであろう」。 *29*さらに、イザヤ
は預言した、「もし、万軍のイオウオ(?)[iv]が
わたしたちに子孫を残されなかったなら、
わたしたちはソドムのようになり、ゴモラと
同じようになったであろう」。 *30*では、わた
したちはなんと言おうか。義を追い求めな
かった異邦人は、義、すなわち、信仰によ
る義を得た。 *31*しかし、義の律法を追い
求めていたイスラエルは、その律法に達し
なかった。 *32*なぜであるか。信仰によらな
いで、行いによって得られるかのように、
追い求めたからである。彼らは、つまずき
の石につまずいたのである。 *33*「見よ、わ
たしはシオンに、つまずきの石、さまたげ
の岩を置く。それにより頼む者は、失望に
終ることがない」と書いてあるとおりである
。

10 兄弟たちよ。わたしの心の願い、彼ら
のために神にささげる祈は、彼らが救わ
れることである。 *2*わたしは、彼らが神に対
して熱心であることはあかしするが、その
熱心は深い知識によるものではない。
*3*なぜなら、彼らは神の義を知らないで、
自分の義を立てようと努め、神の義に従
わなかったからである。 *4*キリストは、すべ
て信じる者に義を得させるために、律法の
終りとなられたのである。 *5*モーセは、律
法による義を行う人は、その義によって生
きる、と書いている。 *6*しかし、信仰による
義は、こう言っている、「あなたは心のうち
で、だれが天に上るであろうかと言うな」。
それは、キリストを引き降ろすことである。
*7*また、「だれが底知れぬ所に下るであろ
うかと言うな」。それは、キリストを死人の中
から引き上げることである。 *8*では、なんと
言っているか。「言葉はあなたの近くにあ
る。あなたの口にあり、心にある」。この言
葉とは、わたしたちが宣べ伝えている信
仰の言葉である。 *9*すなわち、自分の口
で、イエスは主であると告白し、自分の心
で、神が死人の中からイエスをよみがえら
せたと信じるなら、あなたは救われる。
*10*なぜなら、人は心に信じて義とされ、口
で告白して救われるからである。 *11*聖書
は、「すべて彼を信じる者は、失望に終る
ことがない」と言っている。 *12*ユダヤ人と
ギリシヤ人との差別はない。同一の主が
万民の主であって、彼を呼び求めるすべ
ての人を豊かに恵んで下さるからである。
*13*なぜなら、「イオウオ(?)[v]の御名を呼び
求める者は、すべて救われる」とあるから
である。 *14*しかし、信じたことのない者を、
どうして呼び求めることがあろうか。聞いた
ことのない者を、どうして信じることがあろ
うか。宣べ伝える者がいなくては、どうして
聞くことがあろうか。 *15*つかわされなくて
は、どうして宣べ伝えることがあろうか。「あ
あ、麗しいかな、良きおとずれを告げる者
の足は」と書いてあるとおりである。 *16*し
かし、すべての人が福音に聞き従ったの
ではない。イザヤは、「イオウオ(?)[vi]よ、だ
れがわたしたちから聞いたことを信じまし
たか」と言っている。 *17*したがって、信仰
は聞くことによるのであり、聞くことはキリス
トの言葉から来るのである。 *18*しかしわた
しは言う、彼らには聞えなかったのであろ
うか。否、むしろ「その声は全地にひびき
わたり、その言葉は世界のはてにまで及
んだ」。 *19*なお、わたしは言う、イスラエル
は知らなかったのであろうか。まずモーセ
は言っている、「わたしはあなたがたに、
国民でない者に対してねたみを起させ、
無知な国民に対して、怒りをいだかせる
であろう」。 *20*イザヤも大胆に言っている
、「わたしは、わたしを求めない者たちに
見いだされ、わたしを尋ねない者に、

自分を現した」。*21*そして、イスラエルについては、「わたしは服従せずに反抗する民に、終日わたしの手をさし伸べていた」と言っている。

11 そこで、わたしは問う、「神はその民を捨てたのであろうか」。断じてそうではない。わたしもイスラエル人であり、アブラハムの子孫、ベニヤミン族の者である。 *2*神は、あらかじめ知っておられたその民を、捨てることはされなかった。聖書がエリヤについてなんと言っているか、あなたがたは知らないのか。すなわち、彼はイスラエルを神に訴えてこう言った。 *3*「イオウオ(?)[vii]よ、彼らはあなたの預言者たちを殺し、あなたの祭壇をこぼち、そして、わたしひとりが取り残されたのに、彼らはわたしのいのちをも求めています」。 *4*しかし、彼に対する御告げはなんであったか、「バアルにひざをかがめなかった七千人を、わたしのために残しておいた」。 *5*それと同じように、今の時にも、恵みの選びによって残された者がいる。 *6*しかし、恵みによるのであれば、もはや行いによるのではない。そうでないと、恵みはもはや恵みでなくなるからである。 *7*では、どうなるのか。イスラエルはその追い求めているものを得ないで、ただ選ばれた者が、それを得た。そして、他の者たちはかたくなになった。 *8*「神は、彼らに鈍い心と、見えない目と、聞えない耳とを与えて、きょう、この日に及んでいる」と書いてあるとおりである。 *9*ダビデもまた言っている、「彼らの食卓は、彼らのわなとなれ、網となれ、つまずきとなれ、報復となれ。 *10*彼らの目は、くらんで見えなくなれ、彼らの背は、いつまでも曲っておれ」。 *11*そこで、わたしは問う、「彼らがつまずいたのは、倒れるためであったのか」。断じてそうではない。かえって、彼らの罪過によって、救が異邦人に及び、それによってイスラエルを奮起させるためである。 *12*しかし、もし、彼らの罪過が世の富となり、彼らの失敗が異邦人の富となったとすれば、まして彼らが全部救われたなら、どんなにかすばらしいことであろう。
*13*そこでわたしは、あなたがた異邦人に言う。わたし自身は異邦人の使徒なのであるから、わたしの務を光栄とし、 *14*どうにかしてわたしの骨肉を奮起させ、彼らの幾人かを救おうと願っている。 *15*もし彼らの捨てられたことが世の和解となったとすれば、彼らの受けいれられることは、死人の中から生き返ることではないか。 *16*もし、麦粉の初穂がきよければ、そのかたまりもきよい。もし根がきよければ、その枝もきよい。 *17*しかし、もしある枝が切り去られて、野生のオリブであるあなたがそれにつがれ、オリブの根の豊かな養分にあずかっているとすれば、 *18*あなたはその枝に対して誇ってはならない。たとえ誇るとしても、あなたが根をささえているのではなく、根があなたをささえているのである。
*19*すると、あなたは、「枝が切り去られたのは、わたしがつがれるためであった」と言うであろう。 *20*まさに、そのとおりである。彼らは不信仰のゆえに切り去られ、あなたは信仰のゆえに立っているのである。高ぶった思いをいだかないで、むしろ恐れなさい。 *21*もし神が元木の枝を惜しまなかったとすれば、あなたを惜しむようなことはないであろう。 *22*神の慈愛と峻厳とを見よ。神の峻厳は倒れた者たちに向けられ、神の慈愛は、もしあなたがその慈愛にとどまっているなら、あなたに向けられる。そうでないと、あなたも切り取られるであろう。 *23*しかし彼らも、不信仰を続けなければ、つがれるであろう。神には彼らを再びつぐ力がある。 *24*なぜなら、もしあなたが自然のままの野生のオリブから切り取られ、自然の性質に反して良いオリブにつがれたとすれば、まして、これら自然のままの良い枝は、もっとたやすく、元のオリブにつがれないであろうか。 *25*兄弟たちよ。あなたがたが知者だと自負することのないために、この奥義を知らないでいてもらいたくない。一部のイスラエル人がかたくなになったのは、異邦人が全部救われるに至る時までのことであって、 *26*こうして、イスラエル人は、すべて救われるであろう。すなわち、次のように書いてある、「救う者がシオンからきて、ヤコブから不信心を追い払うであろう。 *27*そして、これが、彼らの罪を除き去る時に、彼らに対して立てるわたしの契約である」。 *28*福音について言えば、彼らは、あなたがたのゆえに、神の敵とされているが、選びについて

言えば、父祖たちのゆえに、神に愛せら
れる者である。 *29*神の賜物と召しとは、変
えられることがない。 *30*あなたがたが、か
つては神に不従順であったが、今は彼ら
の不従順によってあわれみを受けたよう
に、 *31*彼らも今は不従順になっているが
、それは、あなたがたの受けたあわれみ
によって、彼ら自身も今あわれみを受ける
ためなのである。 *32*すなわち、神はすべ
ての人をあわれむために、すべての人を
不従順のなかに閉じ込めたのである。
*33*ああ深いかな、神の知恵と知識との富
は。そのさばきは窮めがたく、その道は測
りがたい。 *34*「だれが、イオウオ(?)[viii]の心
を知っていたか。だれが、主の計画にあ
ずかったか。 *35*また、だれが、まず主に与
えて、その報いを受けるであろうか」。
*36*万物は、神からいで、神によって成り、
神に帰するのである。栄光がとこしえに神
にあるように、アァメン。

12 兄弟たちよ。そういうわけで、神のあ
われみによってあなたがたに勧める。あな
たがたのからだを、神に喜ばれる、生きた
、聖なる供え物としてささげなさい。それ
が、あなたがたのなすべき霊的な礼拝で
ある。 *2*あなたがたは、この世と妥協して
はならない。むしろ、心を新たにすること
によって、造りかえられ、何が神の御旨で
あるか、何が善であって、神に喜ばれ、か
つ全きことであるかを、わきまえ知るべき
である。 *3*わたしは、自分に与えられた恵
みによって、あなたがたひとりびとりに言う
。思うべき限度を越えて思いあがることな
く、むしろ、神が各自に分け与えられた信
仰の量りにしたがって、慎み深く思うべき
である。 *4*なぜなら、一つのからだにたくさ
んの肢体があるが、それらの肢体がみな
同じ働きをしてはいないように、 *5*わたした
ちも数は多いが、キリストにあって一つの
からだであり、また各自は互に肢体だから
である。 *6*このように、わたしたちは与えら
れた恵みによって、それぞれ異なった賜
物を持っているので、もし、それが預言で
あれば、信仰の程度に応じて預言をし、
*7*奉仕であれば奉仕をし、また教える者
であれば教え、 *8*勧めをする者であれば
勧め、寄附する者は惜しみなく寄附し、指
導する者は熱心に指導し、慈善をする者
は快く慈善をすべきである。 *9*愛には偽り
があってはならない。悪は憎み退け、善に
は親しみ結び、 *10*兄弟の愛をもって互に
いつくしみ、進んで互に尊敬し合いなさい
。 *11*熱心で、うむことなく、霊に燃え、主[ix]
に仕え、 *12*望みをいだいて喜び、患難に
耐え、常に祈りなさい。 *13*貧しい聖徒を
助け、努めて旅人をもてなしなさい。 *14*あ
なたがたを迫害する者を祝福しなさい。祝
福して、のろってはならない。 *15*喜ぶ者と
共に喜び、泣く者と共に泣きなさい。
*16*互に思うことをひとつにし、高ぶった思
いをいだかず、かえって低い者たちと交
わるがよい。自分が知者だと思いあがって
はならない。 *17*だれに対しても悪をもって
悪に報いず、すべての人に対して善を図
りなさい。 *18*あなたがたは、できる限りす
べての人と平和に過ごしなさい。 *19*愛す
る者たちよ。自分で復讐をしないで、むし
ろ、神の怒りに任せなさい。なぜなら、「イ
オウオ(?)[x]が言われる。復讐はわたしのす
ることである。わたし自身が報復する」と書
いてあるからである。 *20*むしろ、「もしあな
たの敵が飢えるなら、彼に食わせ、かわく
なら、彼に飲ませなさい。そうすることによ
って、あなたは彼の頭に燃えさかる炭火を
積むことになるのである」。 *21*悪に負けて
はいけない。かえって、善をもって悪に勝
ちなさい。

13 すべての人は、上に立つ権威に従う
べきである。なぜなら、神によらない権威
はなく、おおよそ存在している権威は、す
べて神によって立てられたものだからであ
る。 *2*したがって、権威に逆らう者は、神の
定めにそむく者である。そむく者は、自分
の身にさばきを招くことになる。 *3*いったい
、支配者たちは、善事をする者には恐怖
でなく、悪事をする者にこそ恐怖である。
あなたは権威を恐れないことを願うのか。
それでは、善事をするがよい。そうすれば
、彼からほめられるであろう。 *4*彼は、あな
たに益を与えるための神の僕なのである
。しかし、もしあなたが悪事をすれば、恐
れなければならない。彼はいたずらに剣
を帯びているのではない。彼は神の僕で
あって、悪事を行う者に対しては、怒りを

もって報いるからである。 *5*だから、ただ怒
りをのがれるためだけではなく、良心のた
めにも従うべきである。 *6*あなたがたが貢
を納めるのも、また同じ理由からである。
彼らは神に仕える者として、もっぱらこの
務に携わっているのである。 *7*あなたがた
は、彼らすべてに対して、義務を果しなさ
い。すなわち、貢を納むべき者には貢を
納め、税を納むべき者には税を納め、恐
るべき者は恐れ、敬うべき者は敬いなさい
。 *8*互に愛し合うことの外は、何人にも借り
があってはならない。人を愛する者は、律
法を全うするのである。 *9*「姦淫するな、殺
すな、盗むな、むさぼるな」など、そのほか
に、どんな戒めがあっても、結局「自分を
愛するようにあなたの隣り人を愛せよ」と
うこの言葉に帰する。 *10*愛は隣り人に害
を加えることはない。だから、愛は律法を
完成するものである。 *11*なお、あなたがた
は時を知っているのだから、特に、この事
を励まねばならない。すなわち、あなたが
たの眠りからさめるべき時が、すでにきて
いる。なぜなら今は、わたしたちの救が、
初め信じた時よりも、もっと近づいている
からである。 *12*夜はふけ、日が近づいて
いる。それだから、わたしたちは、やみの
わざを捨てて、光の武具を着けようではな
いか。 *13*そして、宴楽と泥酔、淫乱と好色
、争いとねたみを捨てて、昼歩くように、つ
つましく歩こうではないか。 *14*あなたがた
は、主イエス・キリストを着なさい。肉の欲
を満たすことに心を向けてはならない。

14 信仰の弱い者を受けいれなさい。た
だ、意見を批評するためであってはならな
い。 *2*ある人は、何を食べてもさしつかえ
ないと信じているが、弱い人は野菜だけを
食べる。 *3*食べる者は食べない者を軽ん
じてはならず、食べない者も食べる者をさ
ばいてはならない。神は彼を受けいれて
下さったのであるから。 *4*他人の僕をさば
くあなたは、いったい、何者であるか。彼
が立つのも倒れるのも、その主人によるの
である。しかし、彼は立つようになる。イオ
ウオ[xi]は彼を立たせることができるからで
ある。 *5*また、ある人は、この日がかの日より
も大事であると考え、ほかの人はどの日も
同じだと考える。各自はそれぞれ心の中
で、確信を持っておるべきである。 *6*日を
重んじる者は、主[xii]のために重んじる。ま
た食べる者も主[xiii]のために食べる。神に
感謝して食べるからである。食べない者も
主[xiv]のために食べない。そして、神に感謝
する。 *7*すなわち、わたしたちのうち、だれ
ひとり自分のために生きる者はなく、だれ
ひとり自分のために死ぬ者はない。 *8*わた
したちは、生きるのも主[xv]のために生き、
死ぬのも主[xvi]のために死ぬ。だから、生き
るにしても死ぬにしても、わたしたちは
主[xvii]のものなのである。 *9*なぜなら、キリス
トは、死者と生者との主となるために、死
んで生き返られたからである。 *10*それだ
のに、あなたは、なぜ兄弟をさばくのか。
あなたは、なぜ兄弟を軽んじるのか。わた
したちはみな、神のさばきの座の前に立
つのである。 *11*すなわち、「イオウオ(?)[xviii]
が言われる。わたしは生きている。すべて
のひざは、わたしに対してかがみ、すべて
の舌は、神にさんびをささげるであろう」と
書いてある。 *12*だから、わたしたちひとり
びとりは、神に対して自分の言いひらきを
すべきである。 *13*それゆえ、今後わたし
たちは、互にさばき合うことをやめよう。む
しろ、あなたがたは、妨げとなる物や、つ
まずきとなる物を兄弟の前に置かないこと
に、決めるがよい。 *14*わたしは、主イエス
にあって知りかつ確信している。それ自体
、汚れているものは一つもない。ただ、そ
れが汚れていると考える人にだけ、汚れ
ているのである。 *15*もし食物のゆえに兄
弟を苦しめるなら、あなたは、もはや愛に
よって歩いているのではない。あなたの食
物によって、兄弟を滅ぼしてはならない。
キリストは彼のためにも、死なれたのであ
る。 *16*それだから、あなたがたにとって良
い事が、そしりの種にならぬようにしなさい
。 *17*神の国は飲食ではなく、義と、平和と
、聖霊における喜びとである。 *18*こうして
キリストに仕える者は、神に喜ばれ、かつ
、人にも受けいれられるのである。 *19*こう
いうわけで、平和に役立つことや、互の徳
を高めることを、追い求めようではないか
。 *20*食物のことで、神のみわざを破壊し
てはならない。すべての物はきよい。ただ
、それを食べて人をつまずかせる者には
、悪となる。 *21*肉を食わず、酒を飲まず、

そのほか兄弟をつまずかせないのは、良
いことである。 *22*あなたの持っている信仰
を、神のみまえに、自分自身に持ってい
なさい。自ら良いと定めたことについて、
やましいと思わない人は、さいわいである
。 *23*しかし、疑いながら食べる者は、信仰
によらないから、罪に定められる。すべて
信仰によらないことは、罪である。

15 わたしたち強い者は、強くない者たち
の弱さをになうべきであって、自分だけを
喜ばせることをしてはならない。 *2*わたし
たちひとりびとりは、隣り人の徳を高めるた
めに、その益を図って彼らを喜ばすべき
である。 *3*キリストさえ、ご自身を喜ばせる
ことはなさらなかった。むしろ「あなたをそ
しる者のそしりが、わたしに降りかかった」
と書いてあるとおりであった。 *4*これまでに
書かれた事がらは、すべてわたしたちの
教のために書かれたのであって、それは
聖書の与える忍耐と慰めとによって、望み
をいだかせるためである。 *5*どうか、忍耐と
慰めとの神が、あなたがたに、キリスト・イ
エスにならって互に同じ思いをいだかせ、
*6*こうして、心を一つにし、声を合わせて、
わたしたちの主イエス・キリストの父なる神
をあがめさせて下さるように。 *7*こういうわ
けで、キリストもわたしたちを受けいれて下
さったように、あなたがたも互に受けいれ
て、神の栄光をあらわすべきである。 *8*わ
たしは言う、キリストは神の真実を明らか
にするために、割礼のある者の僕となられ
た。それは父祖たちの受けた約束を保証
すると共に、 *9*異邦人もあわれみを受けて
神をあがめるようになるためである、「それ
ゆえ、わたしは、異邦人の中であなたにさ
んびをささげ、また、御名をほめ歌う」と書
いてあるとおりである。 *10*また、こう言って
いる、「異邦人よ、主の民と共に喜べ」。
*11*また、「すべての異邦人よ、イオウ
オ(?)[xix]をほめまつれ。もろもろの民よ、主
をほめたたえよ」。 *12*またイザヤは言って
いる、「エッサイの根から芽が出て、異邦
人を治めるために立ち上がる者が来る。
異邦人は彼に望みをおくであろう」。 *13*ど
うか、望みの神が、信仰から来るあらゆる
喜びと平安とを、あなたがたに満たし、聖
霊の力によって、あなたがたを、望みにあ
ふれさせて下さるように。 *14*さて、わたし
の兄弟たちよ。あなたがた自身が、善意
にあふれ、あらゆる知恵に満たされ、そし
て互に訓戒し合う力のあることを、わたし
は堅く信じている。 *15*しかし、わたしはあ
なたがたの記憶を新たにするために、とこ
ろどころ、かなり思いきって書いた。それ
は、神からわたしに賜わった恵みによって
、書いたのである。 *16*このように恵みを受
けたのは、わたしが異邦人のためにキリス
ト・イエスに仕える者となり、神の福音のた
めに祭司の役を勤め、こうして異邦人を、
聖霊によってきよめられた、御旨にかなう
ささげ物とするためである。 *17*だから、わ
たしは神への奉仕については、キリスト・イ
エスにあって誇りうるのである。 *18*わたし
は、異邦人を従順にするために、キリスト
がわたしを用いて、言葉とわざ、 *19*しるし
と不思議との力、聖霊の力によって、働か
せて下さったことの外には、あえて何も語
ろうとは思わない。こうして、わたしはエル
サレムから始まり、巡りめぐってイルリコに
至るまで、キリストの福音を満たしてきた。
*20*その際、わたしの切に望んだところは、
他人の土台の上に建てることをしないで、
キリストの御名がまだ唱えられていない所
に福音を宣べ伝えることであった。 *21*す
なわち、「彼のことを宣べ伝えられていな
かった人々が見、聞いていなかった人々
が悟るであろう」と書いてあるとおりである
。 *22*こういうわけで、わたしはあなたがた
の所に行くことを、たびたび妨げられてき
た。 *23*しかし今では、この地方にはもは
や働く余地がなく、かつイスパニヤに赴く
場合、あなたがたの所に行くことを、多年
、熱望していたので、―― *24*その途中あ
なたがたに会い、まず幾分でもわたしの
願いがあなたがたによって満たされたら、
あなたがたに送られてそこへ行くことを、
望んでいるのである。 *25*しかし今の場合
、聖徒たちに仕えるために、わたしはエル
サレムに行こうとしている。 *26*なぜなら、マ
ケドニヤとアカヤとの人々は、エルサレム
におる聖徒の中の貧しい人々を援助する
ことに賛成したからである。 *27*たしかに、
彼らは賛成した。しかし同時に、彼らはか
の人々に負債がある。というのは、もし異
邦人が彼らの霊の物にあずかったとすれ

ば、肉の物をもって彼らに仕えるのは、当
然だからである。 *28*そこでわたしは、この
仕事を済ませて彼らにこの実を手渡した
後、あなたがたの所をとおって、イスパニ
ヤに行こうと思う。 *29*そしてあなたがたの
所に行く時には、キリストの満ちあふれる
祝福をもって行くことと、信じている。 *30*兄
弟たちよ。わたしたちの主イエス・キリスト
により、かつ御霊の愛によって、あなたが
たにお願いする。どうか、共に力をつくし
て、わたしのために神に祈ってほしい。
*31*すなわち、わたしがユダヤにおる不信
の徒から救われ、そしてエルサレムに対
するわたしの奉仕が聖徒たちに受けいれ
られるものとなるように、 *32*また、神の御
旨により、喜びをもってあなたがたの所に
行き、共になぐさめ合うことができるように
祈ってもらいたい。 *33*どうか、平和の神が
あなたがた一同と共にいますように、アァ
メン。

16 ケンクレヤにある教会の執事、わたし
たちの姉妹フィベを、あなたがたに紹介
する。 *2*どうか、聖徒たるにふさわしく、主
にあって彼女を迎え、そして、彼女があな
たがたにしてもらいたいことがあれば、何
事でも、助けてあげてほしい。彼女は多く
の人の援助者であり、またわたし自身の
援助者でもあった。 *3*キリスト・イエスにあ
るわたしの同労者プリスカとアクラとに、よ
ろしく言ってほしい。 *4*彼らは、わたしのい
のちを救うために、自分の首をさえ差し出
してくれたのである。彼らに対しては、わ
たしだけではなく、異邦人のすべての教
会も、感謝している。 *5*また、彼らの家の
教会にも、よろしく。わたしの愛するエパ
ネトに、よろしく言ってほしい。彼は、キリス
トにささげられたアジヤの初穂である。
*6*あなたがたのために一方ならず労苦し
たマリヤに、よろしく言ってほしい。 *7*わた
しの同族であって、わたしと一緒に投獄さ
れたことのあるアンデロニコとユニアスとに
、よろしく。彼らは使徒たちの間で評判が
よく、かつ、わたしよりも先にキリストを信じ
た人々である。 *8*主にあって愛するアムプ
リアトに、よろしく。 *9*キリストにあるわたし
たちの同労者ウルバノと、愛するスタキス
とに、よろしく。 *10*キリストにあって錬達な
アペレに、よろしく。アリストブロの家の人
たちに、よろしく。 *11*同族のヘロデオンに
、よろしく。ナルキソの家の、主にある人た
ちに、よろしく。 *12*主にあって労苦して
いるツルパナとツルポサとに、よろしく。主に
あって一方ならず労苦した愛するペルシ
スに、よろしく。 *13*主にあって選ばれたル
ポスと、彼の母とに、よろしく。彼の母は、
わたしの母でもある。 *14*アスンクリト、フレ
ゴン、ヘルメス、パトロバ、ヘルマスおよび
彼らと一緒にいる兄弟たちに、よろしく。
*15*ピロロゴとユリヤとに、またネレオとその
姉妹とに、オルンパに、また彼らと一緒に
いるすべての聖徒たちに、よろしく言って
ほしい。 *16*きよい接吻をもって、互にあい
さつをかわしなさい。キリストのすべての
教会から、あなたがたによろしく。 *17*さて
兄弟たちよ。あなたがたに勧告する。あな
たがたが学んだ教にそむいて分裂を引き
起し、つまずきを与える人々を警戒し、か
つ彼らから遠ざかるがよい。 *18*なぜなら、
こうした人々は、わたしたちの主キリストに
仕えないで、自分の腹に仕え、そして甘
言と美辞とをもって、純朴な人々の心を欺
く者どもだからである。 *19*あなたがたの従
順は、すべての人々の耳に達しており、
それをあなたがたのために喜んでいる。し
かし、わたしの願うところは、あなたがたが
善にさとく、悪には、うとくあってほしいこと
である。 *20*平和の神は、サタンをすみや
かにあなたがたの足の下に踏み砕くであ
ろう。どうか、わたしたちの主イエスの恵み
が、あなたがたと共にあるように。 *21*わた
しの同労者テモテおよび同族のルキオ、
ヤソン、ソシパテロから、あなたがたによろ
しく。 *22*(この手紙を筆記したわたしテル
テオも、主にあってあなたがたにあいさつ
の言葉をおくる。) *23*わたしと全教会との
家主ガイオから、あなたがたによろしく。市
の会計係エラストと兄弟クワルトから、あな
たがたによろしく。〔 *24*わたしたちの主イ
エス・キリストの恵みが、あなたがた一同と
共にあるように、アァメン。〕 *25 26*願わくは
、わたしの福音とイエス・キリストの宣教と
により、かつ、長き世々にわたって、隠さ
れていたが、今やあらわされ、預言の書
をとおして、永遠の神の命令に従い、信
仰の従順に至らせるために、もろもろの国

人に告げ知らされた奥義の啓示によって
、あなたがたを力 づけることのできるかた
、 *27*すなわち、唯一の知恵深き神に、イ
エス・キリストにより、栄光が永遠より永遠
にあるように、アァメン。

---

[i] ここで創世記15章1節は直接引用される。引用原文では「神」のかわり「イオウオ」が使用される。だから、ロマ人への手紙の伝統本文で使用される「神」のかわり「イオウオ」とした。

[ii] 詩編32編1、2節を参照。

[iii] イザヤ書10章22、23節を参照。

[iv] イザヤ書1章9節を参照。

[v] ヨエル書3章5節を参照。

[vi] イザヤ書53章1節と比較せよ。ここで引用された異文、「主よ」(＝κύριε)は七十人訳聖書(LXX)と一致する。しかし、イザヤ書の25、26、33、37、38、63、64章の15カ所で「イオウオよ」が使用される。「主よ」と言う異文はイザヤ書6章11節、38章14、16節でしか使用されない。マソラ本文によると、上記3カ所では、本来「イオウオよ」が使用された。ソフェリム(＝書記)はここで「主よ」とした。C.D.Ginsburg(1894): The Massoretico-Critical Text of the Hebrew Bible を参照。そして、死海文書のイザヤ書(1QIsa[a])の6章11節も、「イオウオよ」とする。それゆえに、ここで「主よ」を「イオウオ(?)よ」とした。

[vii] 列王紀上19章10節を参照。

[viii] イザヤ書40章13節を参照。

[ix] Hutter (1599), Salkinson (1885) はここで「イオウオ(?)」とする。申命記10章12節、詩編102編23節、エレミア書30章3節とも比較せよ。

[x] 申命記32章35節を参照。36節は35節と連結しているであろう。36節では「イオウオ」が使用される。そして、このモーセの歌では、「主」と言う表現は使用されず、「イオウオ」が使用される。それゆえに、ここで「イオウオ(?)」とする。

[xi] 本文の異文:「神」。Salkinson (1885) を参照。 詩編68編16節、145編14節、146編8節、イザヤ書40章25節とも比較せよ。

[xii] Hutter (1599), Salkinson (1885), UBS (1979) はここで「イオウオ(?)」とする。出エジプト記12章14節、13章6節、民数記6章6節とも比較せよ。

[xiii] Hutter (1599), Salkinson (1885), UBS (1979) はここで「イオウオ(?)」とする。出エジプト記12章11節、民数記18章13節、申命記15章20節とも比較せよ。

[xiv] Hutter (1599), UBS (1979) はここで「イオウオ(?)」とする。歴代志下20章3節、ヨエル書2章12節、ゼカリヤ書8章19節とも比較せよ。

[xv] Hutter (1599), Biesenthal (1855), Salkinson (1885) はここで「イオウオ(?)」とする。申命記4章4節、詩編27編1、4節、116編9節とも比較せよ。

[xvi] Hutter (1599), Biesenthal (1855), Salkinson (1885) はここで「イオウオ(?)」とする。詩編116編15節、列王記19章10、14節とも比較せよ。

[xvii] Hutter (1599), Biesenthal (1855), Salkinson (1885) はここで「イオウオ(?)」とする。出エジプト記34章9節、申命記7章6節、詩編135編4節、マラキ書3章17節とも比較せよ。

[xviii] イザヤ書45章23節を参照。18節で始まる段落の一部である。その段落は「イオウオが言われる」で始まる。それゆえに、ここで「イオウオ(?)」とする。

[xix] 詩編117編1節を参照。

1 神の御旨により召されてキリスト・イエス
の使徒となったパウロと、兄弟ソステネか
ら、 2コリントにある神の教会、すなわち、
わたしたちの主イエス・キリストの御名を至
る所で呼び求めているすべての人々と共
に、キリスト・イエスにあってきよめられ、聖
徒として召されたかたがたへ。このキリスト
は、わたしたちの主であり、また彼らの主
であられる。 3わたしたちの父なる神と主
イエス・キリストから、恵みと平安とが、あな
たがたにあるように。 4わたしは、あなたが
たがキリスト・イエスにあって与えられた神
の恵みを思って、いつも神に感謝してい
る。 5あなたがたはキリストにあって、すべ
てのことに、すなわち、すべての言葉にも
すべての知識にも恵まれ、 6キリストのた
めのあかしが、あなたがたのうちに確かな
ものとされ、 7こうして、あなたがたは恵み
の賜物にいささかも欠けることがなく、わた
したちの主イエス・キリストの現れるのを待
ち望んでいる。 8主もまた、あなたがたを
最後まで堅くささえて、わたしたちの主イ
エス・キリストの日に、責められるところの
ない者にして下さるであろう。 9神は真実
なかたである。あなたがたは神によって召
され、御子、わたしたちの主イエス・キリス
トとの交わりに、はいらせていただいたの
である。 10さて兄弟たちよ。わたしたちの
主イエス・キリストの名によって、あなたが
たに勧める。みな語ることを一つにし、お
互の間に分争がないようにし、同じ心、同
じ思いになって、堅く結び合っていてほし
い。 11わたしの兄弟たちよ。実は、クロエ
の家の者たちから、あなたがたの間に争
いがあると聞かされている。 12はっきり言
うと、あなたがたがそれぞれ、「わたしはパ
ウロにつく」「わたしはアポロに」「わたしは
ケパに」「わたしはキリストに」と言い合って
いることである。 13キリストは、いくつにも
分けられたのか。パウロは、あなたがたの
ために十字架につけられたことがあるの
か。それとも、あなたがたは、パウロの名
によってバプテスマを受けたのか。 14わ
たしは感謝しているが、クリスポとガイオ以
外には、あなたがたのうちのだれにも、バ
プテスマを授けたことがない。 15それは
あなたがたがわたしの名によってバプテス
マを受けたのだと、だれにも言われること
のないためである。 16もっとも、ステパナ
の家の者たちには、バプテスマを授けた
ことがある。しかし、そのほかには、だれに
も授けた覚えがない。 17いったい、キリス
トがわたしをつかわされたのは、バプテス
マを授けるためではなく、福音を宣べ伝え
るためであり、しかも知恵の言葉を用いず
に宣べ伝えるためであった。それは、キリ
ストの十字架が無力なものになってしまわ
ないためなのである。 18十字架の言は、
滅び行く者には愚かであるが、救にあず
かるわたしたちには、神の力である。
19すなわち、聖書に、「わたしは知者の
知恵を滅ぼし、賢い者の賢さをむなしいも
のにする」と書いてある。 20知者はどこに
いるか。学者はどこにいるか。この世の論
者はどこにいるか。神はこの世の知恵を、
愚かにされたではないか。 21この世は、
自分の知恵によって神を認めるに至らな
かった。それは、神の知恵にかなっている
。そこで神は、宣教の愚かさによって、信
じる者を救うこととされたのである。 22ユダ
ヤ人はしるしを請い、ギリシヤ人は知恵を
求める。 23しかしわたしたちは、十字架に
つけられたキリストを宣べ伝える。このキリ
ストは、ユダヤ人にはつまずかせるもの、
異邦人には愚かなものであるが、 24召さ
れた者自身にとっては、ユダヤ人にもギリ
シヤ人にも、神の力、神の知恵たるキリス
トなのである。 25神の愚かさは人よりも賢
く、神の弱さは人よりも強いからである。
26兄弟たちよ。あなたがたが召された時
のことを考えてみるがよい。人間的には、
知恵のある者が多くはなく、権力のある者
も多くはなく、身分の高い者も多くはいな
い。 27それだのに神は、知者をはずかし
めるために、この世の愚かな者を選び、強
い者をはずかしめるために、この世の弱
い者を選び、 28有力な者を無力な者に
するために、この世で身分の低い者や軽
んじられている者、すなわち、無きに等し
い者を、あえて選ばれたのである。 29そ
れは、どんな人間でも、神のみまえに誇る
ことがないためである。 30あなたがたがキ
リスト・イエスにあるのは、神によるのであ
る。キリストは神に立てられて、わたしたち
の知恵となり、義と聖とあがないとになら

れたのである。 *31*それは、「誇る者はイオウオ(?)[i]を誇れ」と書いてあるとおりである。

2 兄弟たちよ。わたしもまた、あなたがたの所に行ったとき、神のあかしを宣べ伝えるのに、すぐれた言葉や知恵を用いなかった。 *2*なぜなら、わたしはイエス・キリスト、しかも十字架につけられたキリスト以外のことは、あなたがたの間では何も知るまいと、決心したからである。 *3*わたしがあなたがたの所に行った時には、弱くかつ恐れ、ひどく不安であった。 *4*そして、わたしの言葉もわたしの宣教も、巧みな知恵の言葉によらないで、霊と力との証明によったのである。 *5*それは、あなたがたの信仰が人の知恵によらないで、神の力によるものとなるためであった。 *6*しかしわたしたちは、円熟している者の間では、知恵を語る。この知恵は、この世の者の知恵ではなく、この世の滅び行く支配者たちの知恵でもない。 *7*むしろ、わたしたちが語るのは、隠された奥義としての神の知恵である。それは神が、わたしたちの受ける栄光のために、世の始まらぬ先から、あらかじめ定めておかれたものである。 *8*この世の支配者たちのうちで、この知恵を知っていた者は、ひとりもいなかった。もし知っていたなら、栄光の主を十字架につけはしなかったであろう。 *9*しかし、聖書に書いてあるとおり、「目がまだ見ず、耳がまだ聞かず、人の心に思い浮びもしなかったことを、神は、ご自分を愛する者たちのために備えられた」のである。 *10*そして、それを神は、御霊によってわたしたちに啓示して下さったのである。御霊はすべてのものをきわめ、神の深みまでもきわめるのだからである。 *11*いったい、人間の思いは、その内にある人間の霊以外に、だれが知っていようか。それと同じように神の思いも、神の御霊以外には、知るものはない。 *12*ところが、わたしたちが受けたのは、この世の霊ではなく、神からの霊である。それによって、神から賜わった恵みを悟るためである。 *13*この賜物について語るにも、わたしたちは人間の知恵が教える言葉を用いないで、御霊の教える言葉を用い、霊によって霊のことを解釈するのである。 *14*生れながらの人は、神の御霊の賜物を受けいれない。それは彼には愚かなものだからである。また、御霊によって判断されるべきであるから、彼はそれを理解することができない。 *15*しかし、霊の人は、すべてのものを判断するが、自分自身はだれからも判断されることはない。 *16*「だれがイオウオ(?)[ii]の思いを知って、彼を教えることができようか」。しかし、わたしたちはキリストの思いを持っている。

3 兄弟たちよ。わたしはあなたがたには、霊の人に対するように話すことができず、むしろ、肉に属する者、すなわち、キリストにある幼な子に話すように話した。 *2*あなたがたに乳を飲ませて、堅い食物は与えなかった。食べる力が、まだあなたがたになかったからである。今になってもその力がない。 *3*あなたがたはまだ、肉の人だからである。あなたがたの間に、ねたみや争いがあるのは、あなたがたが肉の人であって、普通の人間のように歩いているためではないか。 *4*すなわち、ある人は「わたしはパウロに」と言い、ほかの人は「わたしはアポロに」と言っているようでは、あなたがたは普通の人間ではないか。 *5*アポロは、いったい、何者か。また、パウロは何者か。あなたがたを信仰に導いた人にすぎない。しかもそれぞれ、主から与えられた分に応じて仕えているのである。 *6*わたしは植え、アポロは水をそそいだ。しかし成長させて下さるのは、神である。 *7*だから、植える者も水をそそぐ者も、ともに取るに足りない。大事なのは、成長させて下さる神のみである。 *8*植える者と水をそそぐ者とは一つであって、それぞれその働きに応じて報酬を得るであろう。 *9*わたしたちは神の同労者である。あなたがたは神の畑であり、神の建物である。 *10*神から賜わった恵みによって、わたしは熟練した建築師のように、土台をすえた。そして他の人がその上に家を建てるのである。しかし、どういうふうに建てるか、それぞれ気をつけるがよい。 *11*なぜなら、すでにすえられている土台以外のものをすえることは、だれにもできない。そして、この土台はイエス・キリストである。 *12*この土台の上に、だれかが金、銀、宝石、木、草、または、わらを用いて建てるならば、 *13*それぞれ

の仕事は、はっきりとわかってくる。すなわ
ち、かの日は火の中に現れて、それを明
らかにし、またその火は、それぞれの仕事
がどんなものであるかを、ためすであろう
。 *14*もしある人の建てた仕事がそのまま
残れば、その人は報酬を受けるが、 *15*そ
の仕事が焼けてしまえば、損失を被るで
あろう。しかし彼自身は、火の中をくぐって
きた者のようにではあるが、救われるであ
ろう。 *16*あなたがたは神の宮であって、神
の御霊が自分のうちに宿っていることを知
らないのか。 *17*もし人が、神の宮を破壊
するなら、神はその人を滅ぼすであろう。
なぜなら、神の宮は聖なるものであり、そ
して、あなたがたはその宮なのだからであ
る。 *18*だれも自分を欺いてはならない。も
しあなたがたのうちに、自分がこの世の知
者だと思う人がいるなら、その人は知者に
なるために愚かになるがよい。 *19*なぜな
ら、この世の知恵は、神の前では愚かなも
のだからである。「神は、知者たちをその
悪知恵によって捕える」と書いてあり、
*20*更にまた、「イオウオ(?)[iii]は、知者たち
の論議のむなしいことをご存じである」と
書いてある。 *21*だから、だれも人間を誇っ
てはいけない。すべては、あなたがたのも
のなのである。 *22*パウロも、アポロも、ケパ
も、世界も、生も、死も、現在のものも、将
来のものも、ことごとく、あなたがたのもの
である。 *23*そして、あなたがたはキリストの
もの、キリストは神のものである。

4 このようなわけだから、人はわたしたち
を、キリストに仕える者、神の奥義を管理
している者と見るがよい。 *2*この場合、管
理者に要求されているのは、忠実である
ことである。 *3*わたしはあなたがたにさば
かれたり、人間の裁判にかけられたりして
も、なんら意に介しない。いや、わたしは
自分をさばくこともしない。 *4*わたしは自ら
省みて、なんらやましいことはないが、そ
れで義とされているわけではない。わたし
をさばくかたは、主[iv]である。 *5*だから、主
がこられるまでは、何事についても、先走
りをしてさばいてはいけない。主は暗い中
に隠れていることを明るみに出し、心の中
で企てられていることを、あらわにされるで
あろう。その時には、神からそれぞれほま
れを受けるであろう。 *6*兄弟たちよ。これら
のことをわたし自身とアポロとに当てはめ
て言って聞かせたが、それはあなたがた
が、わたしたちを例にとって、「しるされて
いる定めを越えない」ことを学び、ひとりの
人をあがめ、ほかの人を見さげて高ぶるこ
とのないためである。 *7*いったい、あなた
を偉くしているのは、だれなのか。あなた
の持っているもので、もらっていないもの
があるか。もしもらっているなら、なぜもら
っていないもののように誇るのか。 *8*あな
たがたは、すでに満腹しているのだ。すで
に富み栄えているのだ。わたしたちを差し
おいて、王になっているのだ。ああ、王に
なっていてくれたらと思う。そうであったな
ら、わたしたちも、あなたがたと共に王に
なれたであろう。 *9*わたしはこう考える。神
はわたしたち使徒を死刑囚のように、最後
に出場する者として引き出し、こうしてわ
たしたちは、全世界に、天使にも人々にも
見せ物にされたのだ。 *10*わたしたちはキ
リストのゆえに愚かな者となり、あなたがた
はキリストにあって賢い者となっている。わ
たしたちは弱いが、あなたがたは強い。あ
なたがたは尊ばれ、わたしたちは卑しめら
れている。 *11*今の今まで、わたしたちは
飢え、かわき、裸にされ、打たれ、宿なし
であり、 *12*苦労して自分の手で働いてい
る。はずかしめられては祝福し、迫害され
ては耐え忍び、 *13*ののしられては優しい
言葉をかけている。わたしたちは今に至る
まで、この世のちりのように、人間のくずの
ようにされている。 *14*わたしがこのようなこ
とを書くのは、あなたがたをはずかしめる
ためではなく、むしろ、わたしの愛児として
さとすためである。 *15*たといあなたがたに
、キリストにある養育掛が一万人あったと
しても、父が多くあるのではない。キリスト・
イエスにあって、福音によりあなたがたを
生んだのは、わたしなのである。 *16*そこで
、あなたがたに勧める。わたしにならう者と
なりなさい。 *17*このことのために、わたし
は主にあって愛する忠実なわたしの子テ
モテを、あなたがたの所につかわした。彼
は、キリスト・イエスにおけるわたしの生活
のしかたを、わたしが至る所の教会で教
えているとおりに、あなたがたに思い起さ
せてくれるであろう。 *18*しかしある人々は

、わたしがあなたがたの所に来ることはあ
るまいとみて、高ぶっているということであ
る。 *19*しかし主[v]のみこころであれば、わた
しはすぐにでもあなたがたの所に行って、
高ぶっている者たちの言葉ではなく、その
力を見せてもらおう。 *20*神の国は言葉で
はなく、力である。 *21*あなたがたは、どち
らを望むのか。わたしがむちをもって、あ
なたがたの所に行くことか、それとも、愛と
柔和な心とをもって行くことであるか。

5 現に聞くところによると、あなたがたの
間に不品行な者があり、しかもその不品
行は、異邦人の間にもないほどのもので、
ある人がその父の妻と一緒に住んでいる
ということである。 *2*それだのに、なお、あ
なたがたは高ぶっている。むしろ、そんな
行いをしている者が、あなたがたの中から
除かれねばならないことを思って、悲しむ
べきではないか。 *3*しかし、わたし自身とし
ては、からだは離れていても、霊では一緒
にいて、その場にいる者のように、そんな
行いをした者を、すでにさばいてしまって
いる。 *4*すなわち、主イエスの名によって
、あなたがたもわたしの霊も共に、わたし
たちの主イエスの権威のもとに集まって、
*5*彼の肉が滅ぼされても、その霊が主の
さばきの日に救われるように、彼をサタン
に引き渡してしまったのである。 *6*あなた
がたが誇っているのは、よろしくない。あ
なたがたは、少しのパン種が粉のかたまり
全体をふくらませることを、知らないのか。
*7*新しい粉のかたまりになるために、古い
パン種を取り除きなさい。あなたがたは、
事実パン種のない者なのだから。わたし
たちの過越の小羊であるキリストは、すで
にほふられたのだ。 *8*ゆえに、わたしたち
は、古いパン種や、また悪意と邪悪とのパ
ン種を用いずに、パン種のはいっていな
い純粋で真実なパンをもって、祭をしよう
ではないか。 *9*わたしは前の手紙で、不
品行な者たちと交際してはいけないと書
いたが、 *10*それは、この世の不品行な者
、貪欲な者、略奪をする者、偶像礼拝を
する者などと全然交際してはいけないと、
言ったのではない。もしそうだとしたら、あ
なたがたはこの世から出て行かねばなら
ないことになる。 *11*しかし、わたしが実際
に書いたのは、兄弟と呼ばれる人で、不
品行な者、貪欲な者、偶像礼拝をする者
、人をそしる者、酒に酔う者、略奪をする
者があれば、そんな人と交際をしてはい
けない、食事を共にしてもいけない、とい
うことであった。 *12*外の人たちをさばくの
は、わたしのすることであろうか。あなたが
たのさばくべき者は、内の人たちではない
か。外の人たちは、神がさばくのである。
*13*その悪人を、あなたがたの中から除い
てしまいなさい。

6 あなたがたの中のひとりが、仲間の者と
何か争いを起した場合、それを聖徒に訴
えないで、正しくない者に訴え出るような
ことをするのか。 *2*それとも、聖徒は世をさ
ばくものであることを、あなたがたは知らな
いのか。そして、世があなたがたによって
さばかれるべきであるのに、きわめて小さ
い事件でもさばく力がないのか。 *3*あなた
がたは知らないのか、わたしたちは御使
をさえさばく者である。ましてこの世の事
件などは、いうまでもないではないか。
*4*それだのに、この世の事件が起ると、教
会で軽んじられている人たちを、裁判の
席につかせるのか。 *5*わたしがこう言うの
は、あなたがたをはずかしめるためである
。いったい、あなたがたの中には、兄弟の
間の争いを仲裁することができるほどの知
者は、ひとりもいないのか。 *6*しかるに、兄
弟が兄弟を訴え、しかもそれを不信者の
前に持ち出すのか。 *7*そもそも、互に訴え
合うこと自体が、すでにあなたがたの敗北
なのだ。なぜ、むしろ不義を受けないのか
。なぜ、むしろだまされていないのか。 *8*し
かるに、あなたがたは不義を働き、だまし
取り、しかも兄弟に対してそうしているの
である。 *9*それとも、正しくない者が神の
国をつぐことはないのを、知らないのか。
まちがってはいけない。不品行な者、偶
像を礼拝する者、姦淫をする者、男娼とな
る者、男色をする者、盗む者、 *10*貪欲な
者、酒に酔う者、そしる者、略奪する者は
、いずれも神の国をつぐことはないのであ
る。 *11*あなたがたの中には、以前はそん
な人もいた。しかし、あなたがたは、主イエ
ス・キリストの名によって、またわたしたち
の神の霊によって、洗われ、きよめられ、

義とされたのである。 *12*すべてのことは、
わたしに許されている。しかし、すべての
ことが益になるわけではない。すべてのこ
とは、わたしに許されている。しかし、わた
しは何ものにも支配されることはない。
*13*食物は腹のため、腹は食物のためで
ある。しかし神は、それもこれも滅ぼすで
あろう。からだは不品行のためではなく、
主のためであり、主はからだのためである
。 *14*そして、神は主をよみがえらせたが、
その力で、わたしたちをもよみがえらせて
下さるであろう。 *15*あなたがたは自分のか
らだがキリストの肢体であることを、知らな
いのか。それだのに、キリストの肢体を取
って遊女の肢体としてよいのか。断じてい
けない。 *16*それとも、遊女につく者はそれ
と一つのからだになることを、知らないの
か。「ふたりの者は一体となるべきである」
とあるからである。 *17*しかし主につく者は
、主と一つの霊になるのである。 *18*不品
行を避けなさい。人の犯すすべての罪は
、からだの外にある。しかし不品行をする
者は、自分のからだに対して罪を犯すの
である。 *19*あなたがたは知らないのか。
自分のからだは、神から受けて自分の内
に宿っている聖霊の宮であって、あなた
がたは、もはや自分自身のものではない
のである。 *20*あなたがたは、代価を払っ
て買いとられたのだ。それだから、自分の
からだをもって、神の栄光をあらわしなさ
い。

7 さて、あなたがたが書いてよこした事に
ついて答えると、男子は婦人にふれない
がよい。 *2*しかし、不品行に陥ることのな
いために、男子はそれぞれ自分の妻を持
ち、婦人もそれぞれ自分の夫を持つがよ
い。 *3*夫は妻にその分を果し、妻も同様に
夫にその分を果すべきである。 *4*妻は自
分のからだを自由にすることはできない。
それができるのは夫である。夫も同様に
自分のからだを自由にすることはできない
。それができるのは妻である。 *5*互に拒ん
ではいけない。ただし、合意の上で祈に
専心するために、しばらく相別れ、それか
らまた一緒になることは、さしつかえない。
そうでないと、自制力のないのに乗じて、
サタンがあなたがたを誘惑するかも知れ
ない。 *6*以上のことは、譲歩のつもりで言
うのであって、命令するのではない。 *7*わ
たしとしては、みんなの者がわたし自身の
ようになってほしい。しかし、ひとりびとり神
からそれぞれの賜物をいただいていて、
ある人はこうしており、他の人はそうしてい
る。 *8*次に、未婚者たちとやもめたちとに
言うが、わたしのように、ひとりでおれば、
それがいちばんよい。 *9*しかし、もし自制
することができないなら、結婚するがよい
。情の燃えるよりは、結婚する方が、よい
からである。 *10*更に、結婚している者たち
に命じる。命じるのは、わたしではなく主
であるが、妻は夫から別れてはいけない。
11(しかし、万一別れているなら、結婚し
ないでいるか、それとも夫と和解するかし
なさい)。また夫も妻と離婚してはならない
。 *12*そのほかの人々に言う。これを言うの
は、主ではなく、わたしである。ある兄弟
に不信者の妻があり、そして共にいること
を喜んでいる場合には、離婚してはいけ
ない。 *13*また、ある婦人の夫が不信者で
あり、そして共にいることを喜んでいる場
合には、離婚してはいけない。 *14*なぜな
ら、不信者の夫は妻によってきよめられて
おり、また、不信者の妻も夫によってきよ
められているからである。もしそうでなけれ
ば、あなたがたの子は汚れていることになる
が、実際はきよいではないか。 *15*しかし
、もし不信者の方が離れて行くのなら、離
れるままにしておくがよい。兄弟も姉妹も、
こうした場合には、束縛されてはいない。
神は、あなたがたを平和に暮させるため
に、召されたのである。 *16*なぜなら、妻よ
、あなたが夫を救いうるかどうか、どうして
わかるか。また、夫よ、あなたも妻を救いう
るかどうか、どうしてわかるか。 *17*ただ、各
自は、主[vi]から賜わった分に応じ、また神[vii]
に召されたままの状態にしたがって、歩む
べきである。これが、すべての教会に対し
てわたしの命じるところである。 *18*召され
たとき割礼を受けていたら、その跡をなく
そうとしないがよい。また、召されたとき割
礼を受けていなかったら、割礼を受けよう
としないがよい。 *19*割礼があってもなくて
も、それは問題ではない。大事なのは、た
だ神の戒めを守ることである。 *20*各自は、
召されたままの状態にとどまっているべき

である。 *21*召されたとき奴隷であっても、
それを気にしないがよい。しかし、もし自
由の身になりうるなら、むしろ自由になりな
さい。 *22*主にあって召された奴隷は、主
によって自由人とされた者であり、また、
召された自由人はキリストの奴隷なのであ
る。 *23*あなたがたは、代価を払って買いと
られたのだ。人の奴隷となってはいけない
。 *24*兄弟たちよ。各自は、その召されたま
まの状態で、神のみまえにいるべきである
。 *25*おとめのことについては、わたしは主
の命令を受けてはいないが、主のあわれ
みにより信任を受けている者として、意見
を述べよう。 *26*わたしはこう考える。現在
迫っている危機のゆえに、人は現状にと
どまっているがよい。 *27*もし妻に結ばれて
いるなら、解こうとするな。妻に結ばれて
いないなら、妻を迎えようとするな。 *28*し
かし、たとい結婚しても、罪を犯すのでは
ない。また、おとめが結婚しても、罪を犯
すのではない。ただ、それらの人々はそ
の身に苦難を受けるであろう。わたしは、
あなたがたを、それからのがれさせたいの
だ。 *29*兄弟たちよ。わたしの言うことを聞
いてほしい。時は縮まっている。今からは
妻のある者はないもののように、 *30*泣く者
は泣かないもののように、喜ぶ者は喜ば
ないもののように、買う者は持たないもの
のように、 *31*世と交渉のある者は、それに
深入りしないようにすべきである。なぜな
ら、この世の有様は過ぎ去るからである。
*32*わたしはあなたがたが、思い煩わない
ようにしていてほしい。未婚の男子は主の
ことに心をくばって、どうかして主を喜ば
せようとするが、 *33*結婚している男子はこ
の世のことに心をくばって、どうかして妻を
喜ばせようとして、その心が分れるのであ
る。 *34*未婚の婦人とおとめとは、主のこと
に心をくばって、身も魂もきよくなろうとす
るが、結婚した婦人はこの世のことに心を
くばって、どうかして夫を喜ばせようとする
。 *35*わたしがこう言うのは、あなたがたの
利益になると思うからであって、あなたが
たを束縛するためではない。そうではなく
、正しい生活を送って、余念なく主に奉仕
させたいからである。 *36*もしある人が、相
手のおとめに対して、情熱をいだくように
なった場合、それは適当でないと思いつ
つも、やむを得なければ、望みどおりにし
てもよい。それは罪を犯すことではない。
ふたりは結婚するがよい。 *37*しかし、彼が
心の内で堅く決心していて、無理をしない
で自分の思いを制することができ、その上
で、相手のおとめをそのままにしておこう
と、心の中で決めたなら、そうしてもよい。
*38*だから、相手のおとめと結婚することは
さしつかえないが、結婚しない方がもっと
よい。 *39*妻は夫が生きている間は、その
夫につながれている。夫が死ねば、望む
人と結婚してもさしつかえないが、それは
主にある者とに限る。 *40*しかし、わたしの
意見では、そのままでいたなら、もっと幸
福である。わたしも神の霊を受けていると
思う。

8 偶像への供え物について答えると、
「わたしたちはみな知識を持っている」こと
は、わかっている。しかし、知識は人を誇
らせ、愛は人の徳を高める。 *2*もし人が、
自分は何か知っていると思うなら、その人
は、知らなければならないほどの事すら、
まだ知っていない。 *3*しかし、人が神を愛
するなら、その人は神に知られているので
ある。 *4*さて、偶像への供え物を食べるこ
とについては、わたしたちは、偶像なるも
のは実際は世に存在しないこと、また、唯
一の神のほかには神がないことを、知って
いる。 *5*というのは、たとい神々といわれる
ものが、あるいは天に、あるいは地にある
としても、そして、多くの神、多くの主があ
るようではあるが、 *6*わたしたちには、父な
る唯一の神のみがいますのである。万物
はこの神から出て、わたしたちもこの神に
帰する。また、唯一の主イエス・キリストの
みがいますのである。万物はこの主により
、わたしたちもこの主によっている。 *7*しか
し、この知識をすべての人が持っているの
ではない。ある人々は、偶像についての、
これまでの習慣上、偶像への供え物とし
て、それを食べるが、彼らの良心が、弱い
ために汚されるのである。 *8*食物は、わた
したちを神に導くものではない。食べなく
ても損はないし、食べても益にはならない
。 *9*しかし、あなたがたのこの自由が、弱
い者たちのつまずきにならないように、気
をつけなさい。 *10*なぜなら、ある人が、

知識のあるあなたが偶像の宮で食事をし
ているのを見た場合、その人の良心が弱
いため、それに「教育されて」、偶像への
供え物を食べるようにならないだろうか。
*11*するとその弱い人は、あなたの知識に
よって滅びることになる。この弱い兄弟の
ためにも、キリストは死なれたのである。
*12*このようにあなたがたが、兄弟たちに
対して罪を犯し、その弱い良心を痛める
のは、キリストに対して罪を犯すことなので
ある。 *13*だから、もし食物がわたしの兄弟
をつまずかせるなら、兄弟をつまずかせ
ないために、わたしは永久に、断じて肉を
食べることはしない。

9 わたしは自由な者ではないか。使徒で
はないか。わたしたちの主イエスを見たで
はないか。あなたがたは、主にあるわたし
の働きの実ではないか。 *2*わたしは、ほか
の人に対しては使徒でないとしても、あな
たがたには使徒である。あなたがたが主
にあることは、わたしの使徒職の印なので
ある。 *3*わたしの批判者たちに対する弁
明は、これである。 *4*わたしたちには、飲
み食いをする権利がないのか。 *5*わたし
たちには、ほかの使徒たちや主の兄弟た
ちやケパのように、信者である妻を連れて
歩く権利がないのか。 *6*それとも、わたしと
バルナバとだけには、労働をせずにいる
権利がないのか。 *7*いったい、自分で費
用を出して軍隊に加わる者があろうか。ぶ
どう畑を作っていて、その実を食べない者
があろうか。また、羊を飼っていて、その
乳を飲まない者があろうか。 *8*わたしは、
人間の考えでこう言うのではない。律法も
また、そのように言っているではないか。
*9*すなわち、モーセの律法に、「穀物をこ
なしている牛に、くつこをかけてはならな
い」と書いてある。神は、牛のことを心にか
けておられるのだろうか。 *10*それとも、も
っぱら、わたしたちのために言っておられ
るのか。もちろん、それはわたしたちのた
めにしるされたのである。すなわち、耕す
者は望みをもって耕し、穀物をこなす者
は、その分け前をもらう望みをもってこな
すのである。 *11*もしわたしたちが、あなた
がたのために霊のものをまいたのなら、肉
のものをあなたがたから刈りとるのは、行
き過ぎだろうか。 *12*もしほかの人々が、あ
なたがたに対するこの権利にあずかって
いるとすれば、わたしたちはなおさらのこ
とではないか。しかしわたしたちは、この
権利を利用せず、かえってキリストの福音
の妨げにならないようにと、すべてのこと
を忍んでいる。 *13*あなたがたは、宮仕え
をしている人たちは宮から下がる物を食
べ、祭壇に奉仕している人たちは祭壇の
供え物の分け前にあずかることを、知らな
いのか。 *14*それと同様に、主は、福音を
宣べ伝えている者たちが福音によって生
活すべきことを、定められたのである。
*15*しかしわたしは、これらの権利を一つも
利用しなかった。また、自分がそうしてもら
いたいから、このように書くのではない。そ
うされるよりは、死ぬ方がましである。わた
しのこの誇は、何者にも奪い去られてはな
らないのだ。 *16*わたしが福音を宣べ伝え
ても、それは誇にはならない。なぜなら、
わたしは、そうせずにはおれないからであ
る。もし福音を宣べ伝えないなら、わたし
はわざわいである。 *17*進んでそれをすれ
ば、報酬を受けるであろう。しかし、進んで
しないとしても、それは、わたしにゆだねら
れた務なのである。 *18*それでは、その報
酬はなんであるか。福音を宣べ伝えるの
にそれを無代価で提供し、わたしが宣教
者として持つ権利を利用しないことである
。 *19*わたしは、すべての人に対して自由
であるが、できるだけ多くの人を得るため
に、自ら進んですべての人の奴隷になっ
た。 *20*ユダヤ人には、ユダヤ人のようになっ
た。ユダヤ人を得るためである。律法の
下にある人には、わたし自身は律法の下
にはないが、律法の下にある者のようになっ
た。律法の下にある人を得るためである
。 *21*律法のない人には――わたしは神の
律法の外にあるのではなく、キリストの律
法の中にあるのだが――律法のない人の
ようになった。律法のない人を得るためで
ある。 *22*弱い人には弱い者になった。弱
い人を得るためである。すべての人に対
しては、すべての人のようになった。なん
とかして幾人かを救うためである。 *23*福音
のために、わたしはどんな事でもする。わ
たしも共に福音にあずかるためである。
*24*あなたがたは知らないのか。競技場で

走る者は、みな走りはするが、賞を得る者
はひとりだけである。あなたがたも、賞を
得るように走りなさい。 *25*しかし、すべて
競技をする者は、何ごとにも節制をする。
彼らは朽ちる冠を得るためにそうするが、
わたしたちは朽ちない冠を得るためにそう
するのである。 *26*そこで、わたしは目標の
はっきりしないような走り方をせず、空を打
つような拳闘はしない。 *27*すなわち、自
分のからだを打ちたたいて服従させるの
である。そうしないと、ほかの人に宣べ伝
えておきながら、自分は失格者になるかも
知れない。

10 兄弟たちよ。このことを知らずにいて
もらいたくない。わたしたちの先祖はみな
雲の下におり、みな海を通り、 *2*みな雲の
中、海の中で、モーセにつくバプテスマを
受けた。 *3*また、みな同じ霊の食物を食べ
、 *4*みな同じ霊の飲み物を飲んだ。すな
わち、彼らについてきた霊の岩から飲ん
だのであるが、この岩はキリストにほかなら
ない。 *5*しかし、彼らの中の大多数は、神
のみこころにかなわなかったので、荒野で
滅ぼされてしまった。 *6*これらの出来事は
、わたしたちに対する警告であって、彼ら
が悪をむさぼったように、わたしたちも悪
をむさぼることのないためなのである。
*7*だから、彼らの中のある者たちのように、
偶像礼拝者になってはならない。すなわ
ち、「民は座して飲み食いをし、また立っ
て踊り戯れた」と書いてある。 *8*また、ある
者たちがしたように、わたしたちは不品行
をしてはならない。不品行をしたため倒さ
れた者が、一日に二万三千人もあった。
*9*また、ある者たちがしたように、わたした
ちはイオウオ(?)[viii]を試みてはならない。主
を試みた者は、へびに殺された。 *10*また
、ある者たちがつぶやいたように、つぶや
いてはならない。つぶやいた者は、「死の
使」に滅ぼされた。 *11*これらの事が彼らに
起ったのは、他に対する警告としてであっ
て、それが書かれたのは、世の終りに臨
んでいるわたしたちに対する訓戒のため
である。 *12*だから、立っていると思う者は
、倒れないように気をつけるがよい。 *13*あ
なたがたの会った試錬で、世の常でない
ものはない。神は真実である。あなたがた
を耐えられないような試錬に会わせること
はないばかりか、試錬と同時に、それに耐
えられるように、のがれる道も備えて下さる
のである。 *14*それだから、愛する者たちよ
。偶像礼拝を避けなさい。 *15*賢明なあな
たがたに訴える。わたしの言うことを、自ら
判断してみるがよい。 *16*わたしたちが祝
福する祝福の杯、それはキリストの血にあ
ずかることではないか。わたしたちがさく
パン、それはキリストのからだにあずかるこ
とではないか。 *17*パンが一つであるから、
わたしたちは多くいても、一つのからだな
のである。みんなの者が一つのパンを共
にいただくからである。 *18*肉によるイスラ
エルを見るがよい。供え物を食べる人た
ちは、祭壇にあずかるのではないか。
*19*すると、なんと言ったらよいか。偶像に
ささげる供え物は、何か意味があるのか。
また、偶像は何かほんとうにあるものか。
*20*そうではない。人々が供える物は、悪
霊ども、すなわち、神ならぬ者に供えるの
である。わたしは、あなたがたが悪霊の仲
間になることを望まない。 *21*主[ix]の杯と悪
霊どもの杯とを、同時に飲むことはできな
い。主[x]の食卓と悪霊どもの食卓とに、同
時にあずかることはできない。 *22*それとも
、わたしたちは主[xi]のねたみを起そうとする
のか。わたしたちは、主よりも強いのだろう
か。 *23*すべてのことは許されている。しか
し、すべてのことが益になるわけではない
。すべてのことは許されている。しかし、す
べてのことが人の徳を高めるのではない。
*24*だれでも、自分の益を求めないで、ほ
かの人の益を求めるべきである。 *25*すべ
て市場で売られている物は、いちいち良
心に問うことをしないで、食べるがよい。
*26*地とそれに満ちている物とは、イオウ
オ(?)[xii]のものだからである。 *27*もしあなた
がたが、不信者のだれかに招かれて、そ
こに行こうと思う場合、自分の前に出され
る物はなんでも、いちいち良心に問うこと
をしないで、食べるがよい。 *28*しかし、だ
れかがあなたがたに、これはささげ物の肉
だと言ったなら、それを知らせてくれた人
のために、また良心のために、食べない
がよい。[xiii] *29*良心と言ったのは、自分の
良心ではなく、他人の良心のことである。
なぜなら、わたしの自由が、どうして他人

の良心によって左右されることがあろうか
。 *30*もしわたしが感謝して食べる場合、そ
の感謝する物について、どうして人のそし
りを受けるわけがあろうか。 *31*だから、飲
むにも食べるにも、また何事をするにも、
すべて神の栄光のためにすべきである。
*32*ユダヤ人にもギリシヤ人にも神の教会
にも、つまずきになってはいけない。 *33*わ
たしもまた、何事にもすべての人に喜ば
れるように努め、多くの人が救われるため
に、自分の益ではなく彼らの益を求めて
いる。

11 わたしがキリストにならう者であるよう
に、あなたがたもわたしにならう者になりな
さい。 *2*あなたがたが、何かにつけわたし
を覚えていて、あなたがたに伝えたとおり
に言伝えを守っているので、わたしは満
足に思う。 *3*しかし、あなたがたに知って
いてもらいたい。すべての男のかしらはキ
リストであり、女のかしらは男であり、キリス
トのかしらは神である。 *4*祈をしたり預言を
したりする時、かしらに物をかぶる男は、
そのかしらをはずかしめる者である。 *5*祈
をしたり預言をしたりする時、かしらにおお
いをかけない女は、そのかしらをはずかし
める者である。それは、髪をそったのとま
ったく同じだからである。 *6*もし女がおお
いをかけないなら、髪を切ってしまうがよ
い。髪を切ったりそったりするのが、女にと
って恥ずべきことであるなら、おおいをか
けるべきである。 *7*男は、神のかたちであ
り栄光であるから、かしらに物をかぶるべ
きではない。女は、また男の光栄である。
*8*なぜなら、男が女から出たのではなく、
女が男から出たのだからである。 *9*また、
男は女のために造られたのではなく、女
が男のために造られたのである。 *10*それ
だから、女は、かしらに権威のしるしをか
ぶるべきである。それは天使たちのため
でもある。 *11*ただ、主にあっては、男なし
には女はないし、女なしには男はない。
*12*それは、女が男から出たように、男もま
た女から生れたからである。そして、すべ
てのものは神から出たのである。 *13*あな
たがた自身で判断してみるがよい。女が
おおいをかけずに神に祈るのは、ふさわ
しいことだろうか。 *14*自然そのものが教え
ているではないか。男に長い髪があれば
彼の恥になり、 *15*女に長い髪があれば彼
女の光栄になるのである。長い髪はおお
いの代りに女に与えられているものだか
らである。 *16*しかし、だれかがそれに反対
の意見を持っていても、そんな風習はわ
たしたちにはなく、神の諸教会にもない。
*17*ところで、次のことを命じるについては
、あなたがたをほめるわけにはいかない。
というのは、あなたがたの集まりが利益に
ならないで、かえって損失になっているか
らである。 *18*まず、あなたがたが教会に
集まる時、お互の間に分争があることを、
わたしは耳にしており、そしていくぶんか
、それを信じている。 *19*たしかに、あなた
がたの中でほんとうの者が明らかにされる
ためには、分派もなければなるまい。
*20*そこで、あなたがたが一緒に集まるとき
、主の晩餐を守ることができないでいる。
*21*というのは、食事の際、各自が自分の
晩餐をかってに先に食べるので、飢えて
いる人があるかと思えば、酔っている人が
ある始末である。 *22*あなたがたには、飲
み食いをする家がないのか。それとも、神
の教会を軽んじ、貧しい人々をはずかし
めるのか。わたしはあなたがたに対して、
なんと言おうか。あなたがたを、ほめようか
。この事では、ほめるわけにはいかない。
*23*わたしは、主[xiv]から受けたことを、また、
あなたがたに伝えたのである。すなわち、
主イエスは、渡される夜、パンをとり、
*24*感謝してこれをさき、そして言われた、
「これはあなたがたのための、わたしのか
らだである。わたしを記念するため、この
ように行いなさい」。 *25*食事ののち、杯を
も同じようにして言われた、「この杯は、わ
たしの血による新しい契約である。飲むた
びに、わたしの記念として、このように行い
なさい」。 *26*だから、あなたがたは、この
パンを食し、この杯を飲むごとに、それに
よって、主がこられる時に至るまで、主の
死を告げ知らせるのである。 *27*だから、ふ
さわしくないままでパンを食し主の杯を飲
む者は、主のからだと血とを犯すのである
。 *28*だれでもまず自分を吟味し、それか
らパンを食べ杯を飲むべきである。 *29*主
のからだをわきまえないで飲み食いする
者は、その飲み食いによって自分にさば

きを招くからである。 *30*あなたがたの中に
、弱い者や病人が大ぜいおり、また眠っ
た者も少なくないのは、そのためである。
*31*しかし、自分をよくわきまえておくなら
ば、わたしたちはさばかれることはないで
あろう。 *32*しかし、さばかれるとすれば、そ
れは、この世と共に罪に定められないた
めに、イオウオ(?)[xv]の懲らしめを受けること
なのである。 *33*それだから、兄弟たちよ。
食事のために集まる時には、互に待ち合
わせなさい。 *34*もし空腹であったら、さば
きを受けに集まることにならないため、家
で食べるがよい。そのほかの事は、わたし
が行った時に、定めることにしよう。

12 兄弟たちよ。霊の賜物については、
次のことを知らずにいてもらいたくない。
*2*あなたがたがまだ異邦人であった時、
誘われるまま、物の言えない偶像のところ
に引かれて行ったことは、あなたがたの承
知しているとおりである。 *3*そこで、あなた
がたに言っておくが、神の霊によって語る
者はだれも「イエスはのろわれよ」とは言
わないし、また、聖霊によらなければ、だ
れも「イエスは主である」と言うことができな
い。 *4*霊の賜物は種々あるが、御霊は同
じである。 *5*務は種々あるが、主は同じで
ある。 *6*働きは種々あるが、すべてのもの
の中に働いてすべてのことをなさる神は、
同じである。 *7*各自が御霊の現れを賜わ
っているのは、全体の益になるためである
。 *8*すなわち、ある人には御霊によって知
恵の言葉が与えられ、ほかの人には、同
じ御霊によって知識の言、 *9*またほかの
人には、同じ御霊によって信仰、またほか
の人には、一つの御霊によっていやしの
賜物、 *10*またほかの人には力あるわざ、
またほかの人には預言、またほかの人に
は霊を見わける力、またほかの人には種
々の異言、またほかの人には異言を解く
力が、与えられている。 *11*すべてこれらの
ものは、一つの同じ御霊の働きであって、
御霊は思いのままに、それらを各自に分
け与えられるのである。 *12*からだが一つ
であっても肢体は多くあり、また、からだの
すべての肢体が多くあっても、からだは一
つであるように、キリストの場合も同様であ
る。 *13*なぜなら、わたしたちは皆、ユダヤ
人もギリシヤ人も、奴隷も自由人も、一つ
の御霊によって、一つのからだとなるよう
にバプテスマを受け、そして皆一つの御
霊を飲んだからである。 *14*実際、からだ
は一つの肢体だけではなく、多くのものか
らできている。 *15*もし足が、わたしは手で
はないから、からだに属していないと言っ
ても、それで、からだに属さないわけでは
ない。 *16*また、もし耳が、わたしは目では
ないから、からだに属していないと言って
も、それで、からだに属さないわけではな
い。 *17*もしからだ全体が目だとすれば、ど
こで聞くのか。もし、からだ全体が耳だと
すれば、どこでかぐのか。 *18*そこで神は
御旨のままに、肢体をそれぞれ、からだに
備えられたのである。 *19*もし、すべてのも
のが一つの肢体なら、どこにからだがある
のか。 *20*ところが実際、肢体は多くあるが
、からだは一つなのである。 *21*目は手に
むかって、「おまえはいらない」とは言えず
、また頭は足にむかって、「おまえはいら
ない」とも言えない。 *22*そうではなく、むし
ろ、からだのうちで他よりも弱く見える肢体
が、かえって必要なのであり、 *23*からだの
うちで、他よりも見劣りがすると思えるところ
に、ものを着せていっそう見よくする。麗
しくない部分はいっそう麗しくするが、
*24*麗しい部分はそうする必要がない。神
は劣っている部分をいっそう見よくして、
からだに調和をお与えになったのである。
*25*それは、からだの中に分裂がなく、それ
ぞれの肢体が互にいたわり合うためなの
である。 *26*もし一つの肢体が悩めば、ほ
かの肢体もみな共に悩み、一つの肢体が
尊ばれると、ほかの肢体もみな共に喜ぶ
。 *27*あなたがたはキリストのからだであり、
ひとりびとりはその肢体である。 *28*そして
、神は教会の中で、人々を立てて、第一
に使徒、第二に預言者、第三に教師とし
、次に力あるわざを行う者、次にいやしの
賜物を持つ者、また補助者、管理者、種
々の異言を語る者をおかれた。 *29*みんな
が使徒だろうか。みんなが預言者だろうか
。みんなが教師だろうか。みんなが力ある
わざを行う者だろうか。 *30*みんながいやし
の賜物を持っているのだろうか。みんなが
異言を語るのだろうか。みんなが異言を
解くのだろうか。 *31*だが、あなたがたは、

更に大いなる賜物を得ようと熱心に努め
なさい。そこで、わたしは最もすぐれた道
をあなたがたに示そう。

13 たといわたしが、人々の言葉や御使
たちの言葉を語っても、もし愛がなければ
、わたしは、やかましい鐘や騒がしい鐃鉢
と同じである。 2たといまた、わたしに預言
をする力があり、あらゆる奥義とあらゆる知
識とに通じていても、また、山を移すほど
の強い信仰があっても、もし愛がなければ
、わたしは無に等しい。 3たといまた、わた
しが自分の全財産を人に施しても、また、
自分のからだを焼かれるために渡しても、
もし愛がなければ、いっさいは無益である
。 4愛は寛容であり、愛は情深い。また、
ねたむことをしない。愛は高ぶらない、誇
らない、 5不作法をしない、自分の利益を
求めない、いらだたない、恨みをいだかな
い。 6不義を喜ばないで真理を喜ぶ。
7そして、すべてを忍び、すべてを信じ、
すべてを望み、すべてを耐える。 8愛は
いつまでも絶えることがない。しかし、預
言はすたれ、異言はやみ、知識はすたれ
るであろう。 9なぜなら、わたしたちの知る
ところは一部分であり、預言するところも
一部分にすぎない。 10全きものが来る時
には、部分的なものはすたれる。 11わた
したちが幼な子であった時には、幼な子
らしく語り、幼な子らしく感じ、また、幼な
子らしく考えていた。しかし、おとなとなっ
た今は、幼な子らしいことを捨ててしまっ
た。 12わたしたちは、今は、鏡に映して見
るようにおぼろげに見ている。しかしその
時には、顔と顔とを合わせて、見るであろ
う。わたしの知るところは、今は一部分に
すぎない。しかしその時には、わたしが完
全に知られているように、完全に知るであ
ろう。 13このように、いつまでも存続するも
のは、信仰と希望と愛と、この三つである
。このうちで最も大いなるものは、愛である
。

14 愛を追い求めなさい。また、霊の賜物
を、ことに預言することを、熱心に求めなさ
い。 2異言を語る者は、人にむかって語る
のではなく、神にむかって語るのである。
それはだれにもわからない。彼はただ、霊
によって奥義を語っているだけである。
3しかし預言をする者は、人に語ってその
徳を高め、彼を励まし、慰めるのである。
4異言を語る者は自分だけの徳を高める
が、預言をする者は教会の徳を高める。
5わたしは実際、あなたがたがひとり残ら
ず異言を語ることを望むが、特に預言をし
てもらいたい。教会の徳を高めるように異
言を解かない限り、異言を語る者よりも、
預言をする者の方がまさっている。 6だか
ら、兄弟たちよ。たといわたしがあなたが
たの所に行って異言を語るとしても、啓示
か知識か預言か教かを語らなければ、あ
なたがたに、なんの役に立つだろうか。
7また、笛や立琴のような楽器でも、もし
その音に変化がなければ、何を吹いてい
るのか、弾いているのか、どうして知ること
ができようか。 8また、もしラッパがはっきり
した音を出さないなら、だれが戦闘の準
備をするだろうか。 9それと同様に、もしあ
なたがたが異言ではっきりしない言葉を
語れば、どうしてその語ることがわかるだ
ろうか。それでは、空にむかって語ってい
ることになる。 10世には多種多様の言葉
があるだろうが、意味のないものは一つも
ない。 11もしその言葉の意味がわからな
いなら、語っている人にとっては、わたし
は異国人であり、語っている人も、わたし
にとっては異国人である。 12だから、あな
たがたも、霊の賜物を熱心に求めている
以上は、教会の徳を高めるために、それ
を豊かにいただくように励むがよい。 13こ
のようなわけであるから、異言を語る者は
、自分でそれを解くことができるように祈り
なさい。 14もしわたしが異言をもって祈る
なら、わたしの霊は祈るが、知性は実を結
ばないからである。 15すると、どうしたらよ
いのか。わたしは霊で祈ると共に、知性で
も祈ろう。霊でさんびを歌うと共に、知性
でも歌おう。 16そうでないと、もしあなたが
霊で祝福の言葉を唱えても、初心者の席
にいる者は、あなたの感謝に対して、どう
してアァメンと言えようか。あなたが何を言
っているのか、彼には通じない。 17感謝
するのは結構だが、それで、ほかの人の
徳を高めることにはならない。 18わたしは
、あなたがたのうちのだれよりも多く異言
が語れることを、神に感謝する。 19しかし

教会では、一万の言葉を異言で語るよりも、ほかの人たちをも教えるために、むしろ五つの言葉を知性によって語る方が願わしい。 *20*兄弟たちよ。物の考えかたでは、子供となってはいけない。悪事については幼な子となるのはよいが、考えかたでは、おとなとなりなさい。 *21*律法にこう書いてある、「わたしは、異国の舌と異国のくちびるとで、この民に語るが、それでも、彼らはわたしに耳を傾けない、とイオウオ(?)[xvi]が仰せになる」。 *22*このように、異言は信者のためではなく未信者のためのしるしであるが、預言は未信者のためではなく信者のためのしるしである。 *23*もし全教会が一緒に集まって、全員が異言を語っているところに、初心者か不信者かがはいってきたら、彼らはあなたがたを気違いだと言うだろう。 *24*しかし、全員が預言をしているところに、不信者か初心者がはいってきたら、彼の良心はみんなの者に責められ、みんなの者にさばかれ、 *25*その心の秘密があばかれ、その結果、ひれ伏して神を拝み、「まことに、神があなたがたのうちにいます」と告白するに至るであろう。 *26*すると、兄弟たちよ。どうしたらよいのか。あなたがたが一緒に集まる時、各自はさんびを歌い、教をなし、啓示を告げ、異言を語り、それを解くのであるが、すべては徳を高めるためにすべきである。 *27*もし異言を語る者があれば、ふたりか、多くて三人の者が、順々に語り、そして、ひとりがそれを解くべきである。 *28*もし解く者がいない時には、教会では黙っていて、自分に対しまた神に対して語っているべきである。 *29*預言をする者の場合にも、ふたりか三人かが語り、ほかの者はそれを吟味すべきである。 *30*しかし、席にいる他の者が啓示を受けた場合には、初めの者は黙るがよい。 *31*あなたがたは、みんなが学びみんなが勧めを受けるために、ひとりずつ残らず預言をすることができるのだから。 *32*かつ、預言者の霊は預言者に服従するものである。 *33*神は無秩序の神ではなく、平和の神である。聖徒たちのすべての教会で行われているように、 *34*婦人たちは教会では黙っていなければならない。彼らは語ることが許されていない。だから、律法も命じているように、服従すべきである。 *35*もし何か学びたいことがあれば、家で自分の夫に尋ねるがよい。教会で語るのは、婦人にとっては恥ずべきことである。 *36*それとも、神の言はあなたがたのところから出たのか。あるいは、あなたがただけにきたのか。 *37*もしある人が、自分は預言者か霊の人であると思っているなら、わたしがあなたがたに書いていることは、主の命令だと認めるべきである。 *38*もしそれを無視する者があれば、その人もまた無視される。 *39*わたしの兄弟たちよ。このようなわけだから、預言することを熱心に求めなさい。また、異言を語ることを妨げてはならない。 *40*しかし、すべてのことを適宜に、かつ秩序を正して行うがよい。

15 兄弟たちよ。わたしが以前あなたがたに伝えた福音、あなたがたが受けいれ、それによって立ってきたあの福音を、思い起してもらいたい。 *2*もしあなたがたが、いたずらに信じないで、わたしの宣べ伝えたとおりの言葉を固く守っておれば、この福音によって救われるのである。 *3*わたしが最も大事なこととしてあなたがたに伝えたのは、わたし自身も受けたことであった。すなわちキリストが、聖書に書いてあるとおり、わたしたちの罪のために死んだこと、 *4*そして葬られたこと、聖書に書いてあるとおり、三日目によみがえったこと、 *5*ケパに現れ、次に、十二人に現れたことである。 *6*そののち、五百人以上の兄弟たちに、同時に現れた。その中にはすでに眠った者たちもいるが、大多数はいまなお生存している。 *7*そののち、ヤコブに現れ、次に、すべての使徒たちに現れ、 *8*そして最後に、いわば、月足らずに生れたようなわたしにも、現れたのである。 *9*実際わたしは、神の教会を迫害したのであるから、使徒たちの中でいちばん小さい者であって、使徒と呼ばれる値うちのない者である。 *10*しかし、神の恵みによって、わたしは今日あるを得ているのである。そして、わたしに賜わった神の恵みはむだにならず、むしろ、わたしは彼らの中のだれよりも多く働いてきた。しかしそれは、わたし自身ではなく、わたしと共にあった神の恵みである。 *11*とにかく、わたしにせよ

彼らにせよ、そのように、わたしたちは宣
べ伝えており、そのように、あなたがたは
信じたのである。 *12*さて、キリストは死人
の中からよみがえったのだと宣べ伝えら
れているのに、あなたがたの中のある者
が、死人の復活などはないと言っている
のは、どうしたことか。 *13*もし死人の復活
がないならば、キリストもよみがえらなかっ
たであろう。 *14*もしキリストがよみがえらな
かったとしたら、わたしたちの宣教はむな
しく、あなたがたの信仰もまたむなしい。
*15*すると、わたしたちは神にそむく偽証
人にさえなるわけだ。なぜなら、万一死人
がよみがえらないとしたら、わたしたちは
神が実際よみがえらせなかったはずのキ
リストを、よみがえらせたと言って、神に反
するあかしを立てたことになるからである。
*16*もし死人がよみがえらないなら、キリスト
もよみがえらなかったであろう。 *17*もしキリ
ストがよみがえらなかったとすれば、あな
たがたの信仰は空虚なものとなり、あなた
がたは、いまなお罪の中にいることになろ
う。 *18*そうだとすると、キリストにあって眠
った者たちは、滅んでしまったのである。
*19*もしわたしたちが、この世の生活でキリ
ストにあって単なる望みをいだいているだ
けだとすれば、わたしたちは、すべての人
の中で最もあわれむべき存在となる。
*20*しかし事実、キリストは眠っている者の
初穂として、死人の中からよみがえったの
である。 *21*それは、死がひとりの人によっ
てきたのだから、死人の復活もまた、ひと
りの人によってこなければならない。 *22*ア
ダムにあってすべての人が死んでいるの
と同じように、キリストにあってすべての人
が生かされるのである。 *23*ただ、各自は
それぞれの順序に従わねばならない。最
初はキリスト、次に、主の来臨に際してキリ
ストに属する者たち、 *24*それから終末とな
って、その時に、キリストはすべての君た
ち、すべての権威と権力とを打ち滅ぼして
、国を父なる神に渡されるのである。 *25*な
ぜなら、キリストはあらゆる敵をその足もと
に置く時までは、支配を続けることになっ
ているからである。 *26*最後の敵として滅
ぼされるのが、死である。 *27*「神は万物を
彼の足もとに従わせた」からである。ところ
が、万物を従わせたと言われる時、万物
を従わせたかたがそれに含まれていない
ことは、明らかである。 *28*そして、万物が
神に従う時には、御子自身もまた、万物を
従わせたそのかたに従うであろう。それは
、神がすべての者にあって、すべてとなら
れるためである。 *29*そうでないとすれば、
死者のためにバプテスマを受ける人々は
、なぜそれをするのだろうか。もし死者が
全くよみがえらないとすれば、なぜ人々が
死者のためにバプテスマを受けるのか。
*30*また、なんのために、わたしたちはいつ
も危険を冒しているのか。 *31*兄弟たちよ。
わたしたちの主キリスト・イエスにあって、
わたしがあなたがたにつき持っている誇
にかけて言うが、わたしは日々死んでいる
のである。 *32*もし、わたしが人間の考えに
よってエペソで獣と戦ったとすれば、それ
はなんの役に立つのか。もし死人がよみ
がえらないのなら、「わたしたちは飲み食
いしようではないか。あすもわからぬいの
ちなのだ」。 *33*まちがってはいけない。
「悪い交わりは、良いならわしをそこなう」。
*34*目ざめて身を正し、罪を犯さないように
しなさい。あなたがたのうちには、神につ
いて無知な人々がいる。あなたがたをは
ずかしめるために、わたしはこう言うのだ。
*35*しかし、ある人は言うだろう。「どんなふ
うにして、死人がよみがえるのか。どんな
からだをして来るのか」。 *36*おろかな人で
ある。あなたのまくものは、死ななければ、
生かされないではないか。 *37*また、あな
たのまくのは、やがて成るべきからだをま
くのではない。麦であっても、ほかの種で
あっても、ただの種粒にすぎない。 *38*ところ
が、神はみこころのままに、これにからだ
を与え、その一つ一つの種にそれぞれ
のからだをお与えになる。 *39*すべての肉
が、同じ肉なのではない。人の肉があり、
獣の肉があり、鳥の肉があり、魚の肉があ
る。 *40*天に属するからだもあれば、地に
属するからだもある。天に属するものの栄
光は、地に属するものの栄光と違っている
。 *41*日の栄光があり、月の栄光があり、星
の栄光がある。また、この星とあの星との
間に、栄光の差がある。 *42*死人の復活も
、また同様である。朽ちるものでまかれ、
朽ちないものによみがえり、 *43*卑しいもの
でまかれ、栄光あるものによみがえり、

弱いものでまかれ、強いものによみがえり
、 44肉のからだでまかれ、霊のからだに
よみがえるのである。肉のからだがあるの
だから、霊のからだもあるわけである。
45聖書に「最初の人アダムは生きたもの
となった」と書いてあるとおりである。しかし
最後のアダムは命を与える霊となった。
46最初にあったのは、霊のものではなく
肉のものであって、その後に霊のものが
来るのである。 47第一の人は地から出て
土に属し、第二の人は天から来る。 48こ
の土に属する人に、土に属している人々
は等しく、この天に属する人に、天に属し
ている人々は等しいのである。 49すなわ
ち、わたしたちは、土に属している形をと
っているのと同様に、また天に属している
形をとるであろう。 50兄弟たちよ。わたし
はこの事を言っておく。肉と血とは神の国
を継ぐことができないし、朽ちるものは朽
ちないものを継ぐことがない。 51ここで、
あなたがたに奥義を告げよう。わたしたち
すべては、眠り続けるのではない。終りの
ラッパの響きと共に、またたく間に、一瞬
にして変えられる。 52というのは、ラッパ
が響いて、死人は朽ちない者によみがえ
らされ、わたしたちは変えられるのである。
53なぜなら、この朽ちるものは必ず朽ち
ないものを着、この死ぬものは必ず死な
ないものを着ることになるからである。
54この朽ちるものが朽ちないものを着、こ
の死ぬものが死なないものを着るとき、聖
書に書いてある言葉が成就するのである
。 55「死は勝利にのまれてしまった。死よ
、おまえの勝利は、どこにあるのか。死よ、
おまえのとげは、どこにあるのか」。56死の
とげは罪である。罪の力は律法である。
57しかし感謝すべきことには、神はわたし
たちの主イエス・キリストによって、わたし
たちに勝利を賜わったのである。 58だか
ら、愛する兄弟たちよ。堅く立って動かさ
れず、いつも全力を注いで主のわざに励
みなさい。主にあっては、あなたがたの労
苦がむだになることはないと、あなたがた
は知っているからである。

16 聖徒たちへの献金については、わた
しはガラテヤの諸教会に命じておいたが
、あなたがたもそのとおりにしなさい。 2一
週の初めの日ごとに、あなたがたはそれ
ぞれ、いくらでも収入に応じて手もとにた
くわえておき、わたしが着いた時になって
初めて集めることのないようにしなさい。
3わたしが到着したら、あなたがたが選ん
だ人々に手紙をつけ、あなたがたの贈り
物を持たせて、エルサレムに送り出すこと
にしよう。 4もしわたしも行く方がよければ
、一緒に行くことになろう。 5わたしは、マ
ケドニヤを通過してから、あなたがたのと
ころに行くことになろう。マケドニヤは通過
するだけだが、 6あなたがたの所では、た
ぶん滞在するようになり、あるいは冬を過
ごすかも知れない。そうなれば、わたしが
どこへゆくにしても、あなたがたに送っても
らえるだろう。 7わたしは今、あなたがたに
旅のついでに会うことは好まない。もし
主[xvii]のお許しがあれば、しばらくあなたが
たの所に滞在したいと望んでいる。 8しか
し五旬節までは、エペソに滞在するつもり
だ。というのは、有力な働きの門がわたし
のために大きく開かれているし、 9また敵
対する者も多いからである。 10もしテモテ
が着いたら、あなたがたの所で不安なし
に過ごせるようにしてあげてほしい。彼は
わたしと同様に、主[xviii]のご用にあたって
いるのだから。 11だれも彼を軽んじてはい
けない。そして、わたしの所に来るように、
どうか彼を安らかに送り出してほしい。わ
たしは彼が兄弟たちと一緒に来るのを待
っている。 12兄弟アポロについては、兄
弟たちと一緒にあなたがたの所に行くよう
に、たびたび勧めてみた。しかし彼には、
今行く意志は、全くない。適当な機会があ
れば、行くだろう。 13目をさましていなさ
い。信仰に立ちなさい。男らしく、強くあっ
てほしい。 14いっさいのことを、愛をもっ
て行いなさい。 15兄弟たちよ。あなたがた
に勧める。あなたがたが知っているように
、ステパナの家はアカヤの初穂であって、
彼らは身をもって聖徒に奉仕してくれた。
16どうか、このような人々と、またすべて
彼らと共に働き共に労する人々とに、従っ
てほしい。 17わたしは、ステパナとポルト
ナトとアカイコとがきてくれたのを喜んでい
る。彼らはあなたがたの足りない所を満た
し、 18わたしの心とあなたがたの心とを、
安らかにしてくれた。こうした人々は、重ん

じなければならない。 *19*アジヤの諸教会
から、あなたがたによろしく。アクラとプリス
カとその家の教会から、主にあって心から
よろしく。 *20*すべての兄弟たちから、よろ
しく。あなたがたも互に、きよい接吻をもっ
てあいさつをかわしなさい。 *21*ここでパウ
ロが、手ずからあいさつをしるす。 *22*もし
主を愛さない者があれば、のろわれよ。マ
ラナ・タ(われらの主よ、きたりませ)。
*23*主イエスの恵みが、あなたがたと共に
あるように。 *24*わたしの愛が、キリスト・イ
エスにあって、あなたがた一同と共にある
ように。

---

[i] エレミア書9章22、23節と比較せよ。

[ii] イザヤ書40章13節と比較せよ。

[iii] 詩編94編11節と比較せよ。

[iv] Hutter (1599), Delitzsch (1877), Salkinson (1885) はここで「イオウオ(?)」とする。箴言29章26節、詩編50編6節、箴言21章2節とも比較せよ。

[v] Hutter (1599), Delitzsch (1877), UBS (1979) はここで「イオウオ(?)」とする。イザヤ書53章10節、詩編33編10節、箴言10章29節とも比較せよ。

[vi] 本文の異文:「神」。KINT (1985) はここで「イオウオ(?)」とする。ヨシュア記14章5節、18章6～10節、エゼキエル書48章29節とも比較せよ。

[vii] 本文の異文:「主」。Hutter (1599), KINT (1969) はここで「イオウオ(?)」とする。出エジプト記35章30節、イザヤ書49章1節、ヨエル書3章5節とも比較せよ。

[viii] 本文の異文:「キリスト」。民数記21章4～6節と比較せよ。出エジプト記17章2節とも比較せよ。

[ix] Hutter (1599) はここで「イオウオ(?)」とする。列王紀上18章21節、イザヤ書65章11節、エレミア書44章25節、ヨエル書1章9節、サムエル記下23章16節とも比較せよ。

[x] Hutter (1599) はここで「イオウオ(?)」とする。列王紀上18章21節、イザヤ書65章11節、エレミア書44章8節、マラキ書1章7、12節とも比較せよ。

[xi] Hutter (1599) はここで「イオウオ(?)」とする。申命記6章14、15節、列王紀上14章22節、詩編78編58節、イザヤ書45章9節とも比較せよ。

[xii] 詩編24編1節と比較せよ。

[xiii] 本文の異文の追加:「世界と、そのなかに住む者とはイオウオ(?)のものである」。詩編24編1節と比較せよ。Hutter (1599), Fry (1817), Delitzsch (1877) もここ「イオウオ(?)」とする。

[xiv] McCaul et al (1838), Reichardt (1846) はここで「イオウオ(?)」とする。詩編24編5節とも比較せよ。

[xv] 箴言3章11節と比較せよ。

[xvi] イザヤ書28章11～13節と比較せよ。

[xvii] Hutter (1599), Delitzsch (1877), Salkinson (1885), UBS (1979) はここで「イオウオ(?)」とする。箴言19章21節、エレミア書10章23節とも比較せよ。

[xviii] Hutter (1599), Delitzsch (1877), Salkinson (1885) はここで「イオウオ(?)」とする。エレミア書48章10節、申命記11章7節、ヨシュア24章31節とも比較せよ。

1 神の御旨によりキリスト・イエスの使徒となったパウロと、兄弟テモテとから、コリントにある神の教会、ならびにアカヤ全土にいるすべての聖徒たちへ。 *2*わたしたちの父なる神と主イエス・キリストから、恵みと平安とが、あなたがたにあるように。 *3*ほむべきかな、わたしたちの主イエス・キリストの父なる神、あわれみ深き父、慰めに満ちたる神。 *4*神は、いかなる患難の中にいる時でもわたしたちを慰めて下さり、また、わたしたち自身も、神に慰めていただくその慰めをもって、あらゆる患難の中にある人々を慰めることができるようにして下さるのである。 *5*それは、キリストの苦難がわたしたちに満ちあふれているように、わたしたちの受ける慰めもまた、キリストによって満ちあふれているからである。 *6*わたしたちが患難に会うなら、それはあなたがたの慰めと救とのためであり、慰めを受けるなら、それはあなたがたの慰めのためであって、その慰めは、わたしたちが受けているのと同じ苦難に耐えさせる力となるのである。 *7*だから、あなたがたに対していだいているわたしたちの望みは、動くことがない。あなたがたが、わたしたちと共に苦難にあずかっているように、慰めにも共にあずかっていることを知っているからである。 *8*兄弟たちよ。わたしたちがアジヤで会った患難を、知らずにいてもらいたくない。わたしたちは極度に、耐えられないほど圧迫されて、生きる望みをさえ失ってしまい、 *9*心のうちで死を覚悟し、自分自身を頼みとしないで、死人をよみがえらせて下さる神を頼みとするに至った。 *10*神はこのような死の危険から、わたしたちを救い出して下さった、また救い出して下さるであろう。わたしたちは、神が今後も救い出して下さることを望んでいる。 *11*そして、あなたがたもまた祈をもって、ともどもに、わたしたちを助けてくれるであろう。これは多くの人々の願いによりわたしたちに賜わった恵みについて、多くの人が感謝をささげるようになるためである。 *12*さて、わたしたちがこの世で、ことにあなたがたに対し、人間の知恵によってではなく神の恵みによって、神の神聖と真実とによって行動してきたことは、実にわたしたちの誇であって、良心のあかしするところである。 *13*わたしたちが書いていることは、あなたがたが読んで理解できないことではない。それを完全に理解してくれるように、わたしは希望する。 *14*すでにある程度わたしたちを理解してくれているとおり、わたしたちの主イエスの日には、あなたがたがわたしたちの誇であるように、わたしたちもあなたがたの誇なのである。 *15*この確信をもって、わたしたちはもう一度恵みを得させたいので、まずあなたがたの所に行き、 *16*それからそちらを通ってマケドニヤにおもむき、そして再びマケドニヤからあなたがたの所に帰り、あなたがたの見送りを受けてユダヤに行く計画を立てたのである。 *17*この計画を立てたのは、軽率なことであったであろうか。それとも、自分の計画を肉の思いによって計画したため、わたしの「しかり、しかり」が同時に「否、否」であったのだろうか。 *18*神の真実にかけて言うが、あなたがたに対するわたしの言葉は、「しかり」と同時に「否」というようなものではない。 *19*なぜなら、わたしたち、すなわち、わたしとシルワノとテモテとが、あなたがたに宣べ伝えた神の子キリスト・イエスは、「しかり」となると同時に「否」となったのではない。そうではなく、「しかり」がイエスにおいて実現されたのである。 *20*なぜなら、神の約束はことごとく、彼において「しかり」となったからである。だから、わたしたちは、彼によって「アァメン」と唱えて、神に栄光を帰するのである。 *21*あなたがたと共にわたしたちを、キリストのうちに堅くささえ、油をそそいで下さったのは、神である。 *22*神はまた、わたしたちに証印をおし、その保証として、わたしたちの心に御霊を賜わったのである。 *23*わたしは自分の魂をかけ、神を証人に呼び求めて言うが、わたしがコリントに行かないでいるのは、あなたがたに対して寛大でありたいためである。 *24*わたしたちは、あなたがたの信仰を支配する者ではなく、あなたがたの喜びのために共に働いている者にすぎない。あなたがたは、信仰に堅く立っているからである。

2 そこでわたしは、あなたがたの所に再び悲しみをもって行くことはすまいと、決心したのである。

2もしあなたがたを悲しませるとすれば、
わたしが悲しませているその人以外に、
だれがわたしを喜ばせてくれるのか。 3こ
のような事を書いたのは、わたしが行く時
、わたしを喜ばせてくれるはずの人々から
、悲しい思いをさせられたくないためであ
る。わたし自身の喜びはあなたがた全体
の喜びであることを、あなたがたすべてに
ついて確信しているからである。 4わたし
は大きな患難と心の憂いの中から、多くの
涙をもってあなたがたに書きおくった。そ
れは、あなたがたを悲しませるためではな
く、あなたがたに対してあふれるばかりに
いだいているわたしの愛を、知ってもらう
ためであった。 5しかし、もしだれかが人
を悲しませたとすれば、それはわたしを悲
しませたのではなく、控え目に言うが、あ
る程度、あなたがた一同を悲しませたの
である。 6その人にとっては、多数の者か
ら受けたあの処罰でもう十分なのだから、
7あなたがたはむしろ彼をゆるし、また慰
めてやるべきである。そうしないと、その人
はますます深い悲しみに沈むかも知れな
い。 8そこでわたしは、彼に対して愛を示
すように、あなたがたに勧める。 9わたし
が書きおくったのも、あなたがたがすべて
の事について従順であるかどうかを、ため
すためにほかならなかった。 10もしあなた
がたが、何かのことについて人をゆるすな
ら、わたしもまたゆるそう。そして、もしわた
しが何かのことでゆるしたとすれば、それ
は、あなたがたのためにキリストのみまえ
でゆるしたのである。 11そうするのは、サ
タンに欺かれることのないためである。わ
たしたちは、彼の策略を知らないわけで
はない。 12さて、キリストの福音のために
トロアスに行ったとき、わたしのために主
の門が開かれたにもかかわらず、 13兄弟
テトスに会えなかったので、わたしは気が
気でなく、人々に別れて、マケドニヤに出
かけて行った。 14しかるに、神は感謝す
べきかな。神はいつもわたしたちをキリスト
の凱旋に伴い行き、わたしたちをとおして
キリストを知る知識のかおりを、至る所に
放って下さるのである。 15わたしたちは、
救われる者にとっても滅びる者にとっても
、神に対するキリストのかおりである。
16後者にとっては、死から死に至らせる
かおりであり、前者にとっては、いのちか
らいのちに至らせるかおりである。いった
い、このような任務に、だれが耐え得よう
か。 17しかし、わたしたちは、多くの人の
ように神の言を売物にせず、真心をこめて
、神につかわされた者として神のみまえで
、キリストにあって語るのである。

3 わたしたちは、またもや、自己推薦をし
始めているのだろうか。それとも、ある人
々のように、あなたがたにあてた、あるい
は、あなたがたからの推薦状が必要なの
だろうか。 2わたしたちの推薦状は、あな
たがたなのである。それは、わたしたちの
心にしるされていて、すべての人に知られ
、かつ読まれている。 3そして、あなたが
たは自分自身が、わたしたちから送られ
たキリストの手紙であって、墨によらず生
ける神の霊によって書かれ、石の板にで
はなく人の心の板に書かれたものである
ことを、はっきりとあらわしている。 4こうし
た確信を、わたしたちはキリストにより神に
対していだいている。 5もちろん、自分自
身で事を定める力が自分にある、と言うの
ではない。わたしたちのこうした力は、神
からきている。 6神はわたしたちに力を与
えて、新しい契約に仕える者とされたので
ある。それは、文字に仕える者ではなく、
霊に仕える者である。文字は人を殺し、霊
は人を生かす。 7もし石に彫りつけた文字
による死の務が栄光のうちに行われ、そ
のためイスラエルの子らは、モーセの顔の
消え去るべき栄光のゆえに、その顔を見
つめることができなかったとすれば、 8まし
て霊の務は、はるかに栄光あるものでは
なかろうか。 9もし罪を宣告する務が栄光
あるものだとすれば、義を宣告する務は、
はるかに栄光に満ちたものである。 10そ
して、すでに栄光を受けたものも、この場
合、はるかにまさった栄光のまえに、その
栄光を失ったのである。 11もし消え去る
べきものが栄光をもって現れたのなら、ま
して永存すべきものは、もっと栄光のある
べきものである。 12こうした望みをいだい
ているので、わたしたちは思いきって大胆
に語り、 13そしてモーセが、消え去ってい
くものの最後をイスラエルの子らに見られ
まいとして、顔におおいをかけたようなこと

はしない。 *14*実際、彼らの思いは鈍くな
っていた。今日に至るまで、彼らが古い契
約を朗読する場合、その同じおおいが取
り去られないままで残っている。それは、
キリストにあってはじめて取り除かれるの
である。 *15*今日に至るもなお、モーセの
書が朗読されるたびに、おおいが彼らの
心にかかっている。 *16*しかしイオウオ(?)[i]
に向く時には、そのおおいは取り除かれ
る。 *17*主[ii]は霊である。そして、主[iii]の霊の
あるところには、自由がある。 *18*わたしたち
はみな、顔おおいなしに、主[iv]の栄光を
鏡に映すように見つつ、栄光から栄光へ
と、主と同じ姿に変えられていく。これは
霊なる主[v]の働きによるのである。

4 このようにわたしたちは、あわれみを受
けてこの務についているのだから、落胆
せずに、 *2*恥ずべき隠れたことを捨て去り
、悪巧みによって歩かず、神の言を曲げ
ず、真理を明らかにし、神のみまえに、す
べての人の良心に自分を推薦するのであ
る。 *3*もしわたしたちの福音がおおわれて
いるなら、滅びる者どもにとっておおわれ
ているのである。 *4*彼らの場合、この世の
神が不信の者たちの思いをくらませて、
神のかたちであるキリストの栄光の福音の
輝きを、見えなくしているのである。 *5*しか
し、わたしたちは自分自身を宣べ伝える
のではなく、主なるキリスト・イエスを宣べ
伝える。わたしたち自身は、ただイエスの
ために働くあなたがたの僕にすぎない。
6「やみの中から光が照りいでよ」と仰せ
になった神は、キリストの顔に輝く神の栄
光の知識を明らかにするために、わたし
たちの心を照して下さったのである。 *7*し
かしわたしたちは、この宝を土の器の中に
持っている。その測り知れない力は神のも
のであって、わたしたちから出たものでな
いことが、あらわれるためである。 *8*わたし
たちは、四方から患難を受けても窮しない
。途方にくれても行き詰まらない。 *9*迫害
に会っても見捨てられない。倒されても滅
びない。 *10*いつもイエスの死をこの身に
負うている。それはまた、イエスのいのち
が、この身に現れるためである。 *11*わたし
たち生きている者は、イエスのために絶え
ず死に渡されているのである。それはイエ
スのいのちが、わたしたちの死ぬべき肉
体に現れるためである。 *12*こうして、死は
わたしたちのうちに働き、いのちはあなた
がたのうちに働くのである。 *13*「わたしは
信じた。それゆえに語った」としるしてある
とおり、それと同じ信仰の霊を持っている
ので、わたしたちも信じている。それゆえ
に語るのである。 *14*それは、主イエスをよ
みがえらせたかたが、わたしたちをもイエ
スと共によみがえらせ、そして、あなたが
たと共にみまえに立たせて下さることを、
知っているからである。 *15*すべてのことは
、あなたがたの益であって、恵みがますま
す多くの人に増し加わるにつれ、感謝が
満ちあふれて、神の栄光となるのである。
*16*だから、わたしたちは落胆しない。たと
いわたしたちの外なる人は滅びても、内な
る人は日ごとに新しくされていく。 *17*なぜ
なら、このしばらくの軽い患難は働いて、
永遠の重い栄光を、あふれるばかりにわ
たしたちに得させるからである。 *18*わたし
たちは、見えるものにではなく、見えない
ものに目を注ぐ。見えるものは一時的であ
り、見えないものは永遠につづくのである
。

5 わたしたちの住んでいる地上の幕屋が
こわれると、神からいただく建物、すなわ
ち天にある、人の手によらない永遠の家
が備えてあることを、わたしたちは知って
いる。 *2*そして、天から賜わるそのすみか
を、上に着ようと切に望みながら、この幕
屋の中で苦しみもだえている。 *3*それを着
たなら、裸のままではいないことになろう。
*4*この幕屋の中にいるわたしたちは、重荷
を負って苦しみもだえている。それを脱ご
うと願うからではなく、その上に着ようと願
うからであり、それによって、死ぬべきもの
がいのちにのまれてしまうためである。
*5*わたしたちを、この事にかなう者にして
下さったのは、神である。そして、神はそ
の保証として御霊をわたしたちに賜わっ
たのである。 *6*だから、わたしたちはいつ
も心強い。そして、肉体を宿としている間
は主から離れていることを、よく知っている
。 *7*わたしたちは、見えるものによらないで
、信仰によって歩いているのである。 *8*そ
れで、わたしたちは心強い。そして、

むしろ肉体から離れて主と共に住むことが、願わしいと思っている。 *9*そういうわけだから、肉体を宿としているにしても、それから離れているにしても、ただ主に喜ばれる者となるのが、心からの願いである。 *10*なぜなら、わたしたちは皆、キリストのさばきの座の前にあらわれ、善であれ悪であれ、自分の行ったことに応じて、それぞれ報いを受けねばならないからである。 *11*このようにわたしたちは、主の恐るべきことを知っているので、人々に説き勧める。わたしたちのことは、神のみまえには明らかになっている。さらに、あなたがたの良心にも明らかになるようにと望む。 *12*わたしたちは、あなたがたに対して、またもや自己推薦をしようとするのではない。ただわたしたちを誇る機会を、あなたがたに持たせ、心を誇るのではなくうわべだけを誇る人々に答えうるようにさせたいのである。 *13*もしわたしたちが、気が狂っているのなら、それは神のためであり、気が確かであるのなら、それはあなたがたのためである。 *14*なぜなら、キリストの愛がわたしたちに強く迫っているからである。わたしたちはこう考えている。ひとりの人がすべての人のために死んだ以上、すべての人が死んだのである。 *15*そして、彼がすべての人のために死んだのは、生きている者がもはや自分のためにではなく、自分のために死んでよみがえったかたのために、生きるためである。 *16*それだから、わたしたちは今後、だれをも肉によって知ることはすまい。かつてはキリストを肉によって知っていたとしても、今はもうそのような知り方をすまい。 *17*だれでもキリストにあるならば、その人は新しく造られた者である。古いものは過ぎ去った、見よ、すべてが新しくなったのである。 *18*しかし、すべてこれらの事は、神から出ている。神はキリストによって、わたしたちをご自分に和解させ、かつ和解の務をわたしたちに授けて下さった。 *19*すなわち、神はキリストにおいて世をご自分に和解させ、その罪過の責任をこれに負わせることをしないで、わたしたちに和解の福音をゆだねられたのである。 *20*神がわたしたちをとおして勧めをなさるのであるから、わたしたちはキリストの使者なのである。そこで、キリストに代って願う、神の和解を受けなさい。 *21*神はわたしたちの罪のために、罪を知らないかたを罪とされた。それは、わたしたちが、彼にあって神の義となるためなのである。

6 わたしたちはまた、神と共に働く者として、あなたがたに勧める。神の恵みをいたずらに受けてはならない。 *2*神はこう言われる、「わたしは、恵みの時にあなたの願いを聞きいれ、救の日にあなたを助けた」。見よ、今は恵みの時、見よ、今は救の日である。 *3*この務がそしりを招かないために、わたしたちはどんな事にも、人につまずきを与えないようにし、 *4*かえって、あらゆる場合に、神の僕として、自分を人々にあらわしている。すなわち、極度の忍苦にも、患難にも、危機にも、行き詰まりにも、 *5*むち打たれることにも、入獄にも、騒乱にも、労苦にも、徹夜にも、飢餓にも、 *6*真実と知識と寛容と、慈愛と聖霊と偽りのない愛と、 *7*真理の言葉と神の力とにより、左右に持っている義の武器により、 *8*ほめられても、そしられても、悪評を受けても、好評を博しても、神の僕として自分をあらわしている。わたしたちは、人を惑わしているようであるが、しかも真実であり、 *9*人に知られていないようであるが、認められ、死にかかっているようであるが、見よ、生きており、懲らしめられているようであるが、殺されず、 *10*悲しんでいるようであるが、常に喜んでおり、貧しいようであるが、多くの人を富ませ、何も持たないようであるが、すべての物を持っている。 *11*コリントの人々よ。あなたがたに向かってわたしたちの口は開かれており、わたしたちの心は広くなっている。 *12*あなたがたは、わたしたちに心をせばめられていたのではなく、自分で心をせばめていたのだ。 *13*わたしは子供たちに対するように言うが、どうかあなたがたの方でも心を広くして、わたしに応じてほしい。 *14*不信者と、つり合わないくびきを共にするな。義と不義となんの係わりがあるか。光とやみとなんの交わりがあるか。 *15*キリストとベリアルとなんの調和があるか。信仰と不信仰となんの関係があるか。 *16*神の宮と偶像となんの一致があるか。わたしたちは、生ける神の宮

である。神がこう仰せになっている、「わたしは彼らの間に住み、かつ出入りをするであろう。そして、わたしは彼らの神となり、彼らはわたしの民となるであろう」。*17*だから、「彼らの間から出て行き、彼らと分離せよ、とイオウオ(?)[vi]は言われる。そして、汚れたものに触てはならない。触なければ、わたしはあなたがたを受けいれよう。*18*そしてわたしは、あなたがたの父となり、あなたがたは、わたしのむすこ、むすめとなるであろう。全能のイオウオ(?)[vii]が、こう言われる」。

7 愛する者たちよ。わたしたちは、このような約束を与えられているのだから、肉と霊とのいっさいの汚れから自分をきよめ、神をおそれて全く清くなろうではないか。 *2*どうか、わたしたちに心を開いてほしい。わたしたちは、だれにも不義をしたことがなく、だれをも破滅におとしいれたことがなく、だれからもだまし取ったことがない。 *3*わたしは、責めるつもりでこう言うのではない。前にも言ったように、あなたがたはわたしの心のうちにいて、わたしたちと生死を共にしているのである。 *4*わたしはあなたがたを大いに信頼し、大いに誇っている。また、あふれるばかり慰めを受け、あらゆる患難の中にあって喜びに満ちあふれている。 *5*さて、マケドニヤに着いたとき、わたしたちの身に少しの休みもなく、さまざまの患難に会い、外には戦い、内には恐れがあった。 *6*しかるに、うちしおれている者を慰める神は、テトスの到来によって、わたしたちを慰めて下さった。 *7*ただ彼の到来によるばかりではなく、彼があなたがたから受けたその慰めをもって、慰めて下さった。すなわち、あなたがたがわたしを慕っていること、嘆いていること、またわたしに対して熱心であることを知らせてくれたので、わたしの喜びはいよいよ増し加わったのである。 *8*そこで、たとい、あの手紙であなたがたを悲しませたとしても、わたしはそれを悔いていない。あの手紙がしばらくの間ではあるが、あなたがたを悲しませたのを見て悔いたとしても、 *9*今は喜んでいる。それは、あなたがたが悲しんだからではなく、悲しんで悔い改めるに至ったからである。あなたがたがそのように悲しんだのは、神のみこころに添うたことであって、わたしたちからはなんの損害も受けなかったのである。 *10*神のみこころに添うた悲しみは、悔いのない救を得させる悔改めに導き、この世の悲しみは死をきたらせる。 *11*見よ、神のみこころに添うたその悲しみが、どんなにか熱情をあなたがたに起させたことか。また、弁明、義憤、恐れ、愛慕、熱意、それから処罰に至らせたことか。あなたがたはあの問題については、すべての点において潔白であることを証明したのである。 *12*だから、わたしがあなたがたに書きおくったのは、不義をした人のためでも、不義を受けた人のためでもなく、わたしたちに対するあなたがたの熱情が、神の前にあなたがたの間で明らかになるためである。 *13*こういうわけで、わたしたちは慰められたのである。これらの慰めの上にテトスの喜びが加わって、わたしたちはなおいっそう喜んだ。彼があなたがた一同によって安心させられたからである。 *14*そして、わたしは彼に対してあなたがたのことを少しく誇ったが、それはわたしの恥にならないですんだ。あなたがたにいっさいのことを真実に語ったように、テトスに対して誇ったことも真実となってきたのである。 *15*また彼は、あなたがた一同が従順であって、おそれおののきつつ自分を迎えてくれたことを思い出して、ますます心をあなたがたの方に寄せている。 *16*わたしは、あなたがたに全く信頼することができて、喜んでいる。

8 兄弟たちよ。わたしたちはここで、マケドニヤの諸教会に与えられた神の恵みを、あなたがたに知らせよう。 *2*すなわち、彼らは、患難のために激しい試錬をうけたが、その満ちあふれる喜びは、極度の貧しさにもかかわらず、あふれ出て惜しみなく施す富となったのである。 *3*わたしはあかしするが、彼らは力に応じて、否、力以上に施しをした。すなわち、自ら進んで、 *4*聖徒たちへの奉仕に加わる恵みにあずかりたいと、わたしたちに熱心に願い出て、 *5*わたしたちの希望どおりにしたばかりか、自分自身をまず、神のみこころにしたがって、主にささげ、また、わたしたちにもささげたのである。

*6*そこで、この募金をテトスがあなたがたの所で、すでに始めた以上、またそれを完成するようにと、わたしたちは彼に勧めたのである。 *7*さて、あなたがたがあらゆる事がらについて富んでいるように、すなわち、信仰にも言葉にも知識にも、あらゆる熱情にも、また、あなたがたに対するわたしたちの愛にも富んでいるように、この恵みのわざにも富んでほしい。 *8*こう言っても、わたしは命令するのではない。ただ、他の人たちの熱情によって、あなたがたの愛の純真さをためそうとするのである。 *9*あなたがたは、わたしたちの主イエス・キリストの恵みを知っている。すなわち、主は富んでおられたのに、あなたがたのために貧しくなられた。それは、あなたがたが、彼の貧しさによって富む者になるためである。 *10*そこで、わたしは、この恵みのわざについて意見を述べよう。それがあなたがたの益になるからである。あなたがたはこの事を、昨年以来、他に先んじて実行したばかりではなく、それを願っていた。 *11*だから今、それをやりとげなさい。あなたがたが心から願っているように、持っているところに応じて、それをやりとげなさい。 *12*もし心から願ってそうするなら、持たないところによらず、持っているところによって、神に受けいれられるのである。 *13*それは、ほかの人々に楽をさせて、あなたがたに苦労をさせようとするのではなく、持ち物を等しくするためである。 *14*すなわち、今の場合は、あなたがたの余裕があの人たちの欠乏を補い、後には、彼らの余裕があなたがたの欠乏を補い、こうして等しくなるようにするのである。 *15*それは「多く得た者も余ることがなく、少ししか得なかった者も足りないことはなかった」と書いてあるとおりである。 *16*わたしがあなたがたに対して持っている同じ熱情を、テトスの心にも与えて下さった神に感謝する。 *17*彼はわたしの勧めを受けいれ、そして更に熱心になって、自分から進んであなたがたのところに行った。 *18*わたしたちはまた、テトスと一緒に、ひとりの兄弟を送る。この兄弟が福音宣伝の上で得たほまれは、すべての教会に聞えているが、 *19*そのうえ、彼は、主ご自身の栄光があらわれるため、また、わたしたちの好意を示すために、骨を折って贈り物を集めているわたしたちの同伴者として、諸教会から選ばれたのである。 *20*そうしたのは、わたしたちが集めているこの寄附金のことについて、人にかれこれ言われるのを避けるためである。 *21*わたしたちは、主[viii]のみまえばかりではなく、人の前でも公正であるように、気を配っているのである。 *22*また、もうひとりの兄弟を彼らと一緒に送る。わたしたちは、多くの事について彼が熱心であったことを、たびたび認めた。彼は今、あなたがたを非常に信頼して、ますます熱心になっている。 *23*テトスについて言えば、彼はわたしの仲間であり、あなたがたに対するわたしの協力者である。この兄弟たちについて言えば、彼らは諸教会の使者、キリストの栄光である。 *24*だから、あなたがたの愛と、また、あなたがたについてわたしたちがいだいている誇とが、真実であることを、諸教会の前で彼らにあかししていただきたい。

9 聖徒たちに対する援助については、いまさら、あなたがたに書きおくる必要はない。 *2*わたしは、あなたがたの好意を知っており、そのために、あなたがたのことをマケドニヤの人々に誇って、アカヤでは昨年以来、すでに準備をしているのだと言った。そして、あなたがたの熱心は、多くの人を奮起させたのである。 *3*わたしが兄弟たちを送ることにしたのは、あなたがたについてわたしたちの誇ったことが、この場合むなしくならないで、わたしが言ったとおり準備していてもらいたいからである。 *4*そうでないと、万一マケドニヤ人がわたしと一緒に行って、準備ができていないのを見たら、あなたがたはもちろん、わたしたちも、かように信じきっていただけに、恥をかくことになろう。 *5*だから、わたしは兄弟たちを促して、あなたがたの所へ先に行かせ、以前あなたがたが約束していた贈り物の準備をさせておくことが必要だと思った。それをしぶりながらではなく、心をこめて用意していてほしい。 *6*わたしの考えはこうである。少ししかまかない者は、少ししか刈り取らず、豊かにまく者は、豊かに刈り取ることになる。 *7*各自は惜しむ心からでなく、また、しいられてでもなく、

自ら心で決めたとおりにすべきである。神
は喜んで施す人を愛して下さるのである。
*8*神はあなたがたにあらゆる恵みを豊か
に与え、あなたがたを常にすべてのことに
満ち足らせ、すべての良いわざに富ませ
る力のあるかたなのである。 *9*「彼は貧し
い人たちに散らして与えた。その義は永
遠に続くであろう」と書いてあるとおりで
ある。 *10*種まく人に種と食べるためのパンと
を備えて下さるかたは、あなたがたにも種
を備え、それをふやし、そしてあなたがた
の義の実を増して下さるのである。 *11*こう
して、あなたがたはすべてのことに豊かに
なって、惜しみなく施し、その施しはわた
したちの手によって行われ、神に感謝す
るに至るのである。 *12*なぜなら、この援助
の働きは、聖徒たちの欠乏を補えだけで
はなく、神に対する多くの感謝によってま
すます豊かになるからである。 *13*すなわ
ち、この援助を行った結果として、あなた
がたがキリストの福音の告白に対して従順
であることや、彼らにも、すべての人にも、
惜しみなく施しをしていることがわかってき
て、彼らは神に栄光を帰し、 *14*そして、あ
なたがたに賜わったきわめて豊かな神の
恵みのゆえに、あなたがたを慕い、あなた
がたのために祈るのである。 *15*言いつく
せない賜物のゆえに、神に感謝する。

10 さて、「あなたがたの間にいて面と向
かってはおとなしいが、離れていると、気
が強くなる」このパウロが、キリストの優しさ
、寛大さをもって、あなたがたに勧める。
*2*わたしたちを肉に従って歩いているか
のように思っている人々に対しては、わた
しは勇敢に行動するつもりであるが、あな
たがたの所では、どうか、そのような思い
きったことをしないですむようでありたい。
*3*わたしたちは、肉にあって歩いてはいる
が、肉に従って戦っているのではない。
*4*わたしたちの戦いの武器は、肉のもの
ではなく、神のためには要塞をも破壊する
ほどの力あるものである。わたしたちはさ
まざまな議論を破り、 *5*神の知恵に逆らっ
て立てられたあらゆる障害物を打ちこわし
、すべての思いをとりこにしてキリストに服
従させ、 *6*そして、あなたがたが完全に服
従した時、すべて不従順な者を処罰しよう
と、用意しているのである。 *7*あなたがた
は、うわべの事だけを見ている。もしある
人が、キリストに属する者だと自任してい
るなら、その人はもう一度よく反省すべき
である。その人がキリストに属する者であ
るように、わたしたちもそうである。 *8*たとい
、あなたがたを倒すためではなく高めるた
めに主からわたしたちに賜わった権威に
ついて、わたしがやや誇りすぎたとしても
、恥にはなるまい。 *9*ただ、わたしは、手
紙であなたがたをおどしているのだと、思
われたくはない。 *10*人は言う、「彼の手紙
は重味があって力強いが、会って見ると
外見は弱々しく、話はつまらない」。 *11*そ
ういう人は心得ているがよい。わたしたち
は、離れていて書きおくる手紙の言葉ど
おりに、一緒にいる時でも同じようにふる
まうのである。 *12*わたしたちは、自己推薦
をするような人々と自分を同列においたり
比較したりはしない。彼らは仲間同志で
互にはかり合ったり、互に比べ合ったりし
ているが、知恵のないしわざである。 *13*し
かし、わたしたちは限度をこえて誇るよう
なことはしない。むしろ、神が割り当てて
下さった地域の限度内で誇るにすぎない
。わたしはその限度にしたがって、あなた
がたの所まで行ったのである。 *14*わたし
たちは、あなたがたの所まで行けない者
であるかのように、むりに手を延ばしてい
るのではない。事実、わたしたちが最初に
キリストの福音を携えて、あなたがたの所
までも行ったのである。 *15*わたしたちは限
度をこえて、他人の働きを誇るようなことは
しない。ただ、あなたがたの信仰が成長
するにつれて、わたしたちの働きの範囲
があなたがたの中でますます大きくなるこ
とを望んでいる。 *16*こうして、わたしたち
はほかの人の地域ですでになされている
ことを誇ることはせずに、あなたがたを越
えたさきざきにまで、福音を宣べ伝えたい
。 *17*誇る者はイオウオ(?)[ix]を誇るべきであ
る。 *18*自分で自分を推薦する人ではなく
、主[x]に推薦される人こそ、確かな人なの
である。

11 わたしが少しばかり愚かなことを言う
のを、どうか、忍んでほしい。もちろん忍ん
でくれるのだ。

2わたしは神の熱情をもって、あなたがた
を熱愛している。あなたがたを、きよいおと
めとして、ただひとりの男子キリストにささ
げるために、婚約させたのである。3ただ
恐れるのは、エバがへびの悪巧みで誘惑
されたように、あなたがたの思いが汚され
て、キリストに対する純情と貞操とを失い
はしないかということである。4というのは、
もしある人がきて、わたしたちが宣べ伝え
もしなかったような異なるイエスを宣べ伝
え、あるいは、あなたがたが受けたことの
ない違った霊を受け、あるいは、受けいれ
たことのない違った福音を聞く場合に、あ
なたがたはよくもそれを忍んでいる。5事
実、わたしは、あの大使徒たちにいささか
も劣ってはいないと思う。6たとい弁舌は
つたなくても、知識はそうでない。わたし
は、事ごとに、いろいろの場合に、あなた
がたに対してそれを明らかにした。7それ
とも、あなたがたを高めるために自分を低
くして、神の福音を価なしにあなたがたに
宣べ伝えたことが、罪になるのだろうか。
8わたしは他の諸教会をかすめたと言わ
れながら得た金で、あなたがたに奉仕し、
9あなたがたの所にいて貧乏をした時にも
、だれにも負担をかけたことはなかった。
わたしの欠乏は、マケドニヤからきた兄弟
たちが、補ってくれた。こうして、わたしは
すべての事につき、あなたがたに重荷を
負わせまいと努めてきたし、今後も努めよ
う。10わたしの内にあるキリストの真実に
かけて言う、この誇がアカヤ地方で封じら
れるようなことは、決してない。11なぜで
あるか。わたしがあなたがたを愛していな
いからか。それは、神がご存じである。
12しかし、わたしは、現在していることを
今後もしていこう。それは、わたしたちと同
じように誇りうる立ち場を得ようと機会をね
らっている者どもから、その機会を断ち切
ってしまうためである。13こういう人々は
にせ使徒、人をだます働き人であって、キ
リストの使徒に擬装しているにすぎないか
らである。14しかし、驚くには及ばない。
サタンも光の天使に擬装するのだから。
15だから、たといサタンの手下どもが、義
の奉仕者のように擬装したとしても、不思
議ではない。彼らの最期は、そのしわざに
合ったものとなろう。16繰り返して言うが、
だれも、わたしを愚か者と思わないでほし
い。もしそう思うなら、愚か者あつかいにさ
れてもよいから、わたしにも、少し誇らせて
ほしい。17いま言うことは、主によって言う
のではなく、愚か者のように、自分の誇と
するところを信じきって言うのである。
18多くの人が肉によって誇っているから、
わたしも誇ろう。19あなたがたは賢い人た
ちなのだから、喜んで愚か者を忍んでく
れるだろう。20実際、あなたがたは奴隷
にされても、食い倒されても、略奪されて
も、いばられても、顔をたたかれても、そ
れを忍んでいる。21言うのも恥ずかしいこ
とだが、わたしたちは弱すぎたのだ。もし
ある人があえて誇るなら、わたしは愚か者
になって言うが、わたしもあえて誇ろう。
22彼らはヘブル人なのか。わたしもそうで
ある。彼らはイスラエル人なのか。わたしも
そうである。彼らはアブラハムの子孫なの
か。わたしもそうである。23彼らはキリスト
の僕なのか。わたしは気が狂ったようになっ
て言う、わたしは彼ら以上にそうである。
苦労したことはもっと多く、投獄されたこと
ももっと多く、むち打たれたことは、はるか
におびただしく、死に面したこともしばし
ばあった。24ユダヤ人から四十に一つ足
りないむちを受けたことが五度、25ローマ
人にむちで打たれたことが三度、石で打
たれたことが一度、難船したことが三度、
そして、一昼夜、海の上を漂ったこともあ
る。26幾たびも旅をし、川の難、盗賊の
難、同国民の難、異邦人の難、都会の難
、荒野の難、海上の難、にせ兄弟の難に
会い、27労し苦しみ、たびたび眠られぬ
夜を過ごし、飢えかわき、しばしば食物が
なく、寒さに凍え、裸でいたこともあった。
28なおいろいろの事があった外に、日々
わたしに迫って来る諸教会の心配ごとが
ある。29だれかが弱っているのに、わたし
も弱らないでおれようか。だれかが罪を犯
しているのに、わたしの心が燃えないでお
れようか。30もし誇らねばならないのなら
、わたしは自分の弱さを誇ろう。31永遠に
ほむべき、主イエス・キリストの父なる神は
、わたしが偽りを言っていないことを、ご存
じである。32ダマスコでアレタ王の代官が
、わたしを捕えるためにダマスコ人の町を
監視したことがあったが、

*33*その時わたしは窓から町の城壁づたいに、かごでつり降ろされて、彼の手からのがれた。

12 わたしは誇らざるを得ないので、無益ではあろうが、主のまぼろしと啓示とについて語ろう。 *2*わたしはキリストにあるひとりの人を知っている。この人は十四年前に第三の天にまで引き上げられた――それが、からだのままであったか、わたしは知らない。からだを離れてであったか、それも知らない。神がご存じである。 *3*この人が――それが、からだのままであったか、からだを離れてであったか、わたしは知らない。神がご存じである―― *4*パラダイスに引き上げられ、そして口に言い表わせない、人間が語ってはならない言葉を聞いたのを、わたしは知っている。 *5*わたしはこういう人について誇ろう。しかし、わたし自身については、自分の弱さ以外には誇ることをすまい。 *6*もっとも、わたしが誇ろうとすれば、ほんとうの事を言うのだから、愚か者にはならないだろう。しかし、それはさし控えよう。わたしがすぐれた啓示を受けているので、わたしについて見たり聞いたりしている以上に、人に買いかぶられるかも知れないから。 *7*そこで、高慢にならないように、わたしの肉体に一つのとげが与えられた。それは、高慢にならないように、わたしを打つサタンの使なのである。 *8*このことについて、わたしは彼を離れ去らせて下さるようにと、三度も主に祈った。 *9*ところが、主が言われた、「わたしの恵みはあなたに対して十分である。わたしの力は弱いところに完全にあらわれる」。それだから、キリストの力がわたしに宿るように、むしろ、喜んで自分の弱さを誇ろう。 *10*だから、わたしはキリストのためならば、弱さと、侮辱と、危機と、迫害と、行き詰まりとに甘んじよう。なぜなら、わたしが弱い時にこそ、わたしは強いからである。 *11*わたしは愚か者となった。あなたがたが、むりにわたしをそうしてしまったのだ。実際は、あなたがたから推薦されるべきであった。というのは、たといわたしは取るに足りない者だとしても、あの大使徒たちにはなんら劣るところがないからである。 *12*わたしは、使徒たるの実を、しるしと奇跡と力あるわざとにより、忍耐をつくして、あなたがたの間であらわしてきた。 *13*いったい、あなたがたが他の教会よりも劣っている点は何か。ただ、このわたしがあなたがたに負担をかけなかったことだけではないか。この不義は、どうか、ゆるしてもらいたい。 *14*さて、わたしは今、三度目にあなたがたの所に行く用意をしている。しかし、負担はかけないつもりである。わたしの求めているのは、あなたがたの持ち物ではなく、あなたがた自身なのだから。いったい、子供は親のために財をたくわえて置く必要はなく、親が子供のためにたくわえて置くべきである。 *15*そこでわたしは、あなたがたの魂のためには、大いに喜んで費用を使い、また、わたし自身をも使いつくそう。わたしがあなたがたを愛すれば愛するほど、あなたがたからますます愛されなくなるのであろうか。 *16*わたしは、あなたがたに重荷を負わせなかったとしても、悪がしこくて、あなたがたからだまし取ったのだと、人は言う。 *17*わたしは、あなたがたにつかわした人たちのうちのだれかをとおして、あなたがたからむさぼり取っただろうか。 *18*わたしは、テトスに勧めてそちらに行かせ、また、かの兄弟を同行させた。テトスは、あなたがたからむさぼり取ったことがあろうか。わたしたちは、みな同じ心で歩いたではないか。同じ足並みで歩いたではないか。 *19*あなたがたは、わたしたちがあなたがたに対して弁明をしているのだと、今までずっと思ってきたであろう。しかし、わたしたちは、神のみまえでキリストにあって語っているのである。愛する者たちよ。これらすべてのことは、あなたがたの徳を高めるためなのである。 *20*わたしは、こんな心配をしている。わたしが行ってみると、もしかしたら、あなたがたがわたしの願っているような者ではなく、わたしも、あなたがたの願っているような者でないことになりはすまいか。もしかしたら、争い、ねたみ、怒り、党派心、そしり、ざんげん、高慢、騒乱などがありはすまいか。 *21*わたしが再びそちらに行った場合、わたしの神が、あなたがたの前でわたしに恥をかかせ、その上、多くの人が前に罪を犯していながら、その汚れと不品行と

好色とを悔い改めていないので、わたしを
悲しませることになりはすまいか。

13 わたしは今、三度目にあなたがたの
所に行こうとしている。すべての事がらは
、ふたりか三人の証人の証言によって確
定する。 *2*わたしは、前に罪を犯した者た
ちやその他のすべての人々に、二度目に
滞在していたとき警告しておいたが、離れ
ている今またあらかじめ言っておく。今度
行った時には、決して容赦はしない。 *3*な
ぜなら、あなたがたが、キリストのわたしに
あって語っておられるという証拠を求めて
いるからである。キリストは、あなたがたに
対して弱くはなく、あなたがたのうちにあっ
て強い。 *4*すなわち、キリストは弱さのゆえ
に十字架につけられたが、神の力によっ
て生きておられるのである。このように、わ
たしたちもキリストにあって弱い者である
が、あなたがたに対しては、神の力によっ
て、キリストと共に生きるのである。 *5*あな
たがたは、はたして信仰があるかどうか、
自分を反省し、自分を吟味するがよい。そ
れとも、イエス・キリストがあなたがたのうち
におられることを、悟らないのか。もし悟ら
なければ、あなたがたは、にせものとして
見捨てられる。 *6*しかしわたしは、自分た
ちが見捨てられた者ではないことを、知っ
ていてもらいたい。 *7*わたしたちは、あな
たがたがどんな悪をも行わないようにと、
神に祈る。それは、自分たちがほんとうの
者であることを見せるためではなく、たと
いわたしたちが見捨てられた者のようになっ
ても、あなたがたに良い行いをしてもら
いたいためである。 *8*わたしたちは、真理
に逆らっては何をする力もなく、真理にし
たがえば力がある。 *9*わたしたちは、自分
は弱くても、あなたがたが強ければ、それ
を喜ぶ。わたしたちが特に祈るのは、あな
たがたが完全に良くなってくれることであ
る。 *10*こういうわけで、離れていて以上の
ようなことを書いたのは、わたしがあなた
がたの所に行ったとき、倒すためではなく
高めるために主が授けて下さった権威を
用いて、きびしい処置をする必要がない
ようにしたいためである。 *11*最後に、兄弟
たちよ。いつも喜びなさい。全き者となりな
さい。互に励まし合いなさい。思いを一つ
にしなさい。平和に過ごしなさい。そうす
れば、愛と平和の神があなたがたと共に
いて下さるであろう。 *12*きよい接吻をもっ
て互にあいさつをかわしなさい。聖徒たち
一同が、あなたがたによろしく。 *13*主イエ
ス・キリストの恵みと、神の愛と、聖霊の交
わりとが、あなたがた一同と共にあるように
。

---

[i] 出エジプト記34章34節と比較せよ。

[ii] Hutter (1599) はここで「イオウオ(?)」とする。イザヤ書31章3節とも比較せよ。

[iii] Hutter (1599), UBS (1979) はここで「イオウオ(?)」とする。出エジプト記17章2節、申命記6章16節、詩編78編18、41、56節とも比較せよ。旧約聖書では、「イオウオの御霊」と言う表現は士師記3章10節など17カ所で使用される。列王紀上18章12節、列王紀下2章16節とも比較せよ。

[iv] Hutter (1599), UBS (1979) はここで「イオウオ(?)」とする。イザヤ書40章5節、60章1節、35章2節、エゼキエル書3章23節とも比較せよ。

[v] Hutter (1599), UBS (1979) はここで「イオウオ(?)」とする。イザヤ書31章3節とも比較せよ。

[vi] イザヤ書52章11節と比較せよ。「とイオウオは言われる」は52章で4回使用され、5節の場合、11節と同一の段落で使用されるから、ここで「イオウオ(?)」とする。

[vii] サムエル記下7章14節、歴代志上17章13節とイザヤ書43章6節と比較せよ。引用された上記の章では、いつも「イオウオ」が使用される。ゼカリヤ書10章3節とも比較せよ。ここで「万軍のイオウオ」が使用される。それゆえに、ここで「イオウオ」(?)」とする。ホセア書1章10節、詩編22章30節とも比較せよ。

[viii] Hutter (1599) はここで「イオウオ(?)」とする。出エジプト記34節24節、詩編34編17節、66編12節とも比較せよ。箴言3章4節、サムエル記上2章26節と比較せよ。

[ix] エレミア書9章24節と比較せよ。

[x] Hutter (1599), Delitzsch (1877), Salkinson (1885), UBS (1979) はここで「イオウオ(?)」とする。箴言27章2節、詩編146編11節、ゼパニや書3章20節とも比較せよ。

1 人々からでもなく、人によってでもなく、
イエス・キリストと彼を死人の中からよみが
えらせた父なる神とによって立てられた使
徒パウロ、 *2*ならびにわたしと共にいる兄
弟たち一同から、ガラテヤの諸教会へ。
*3*わたしたちの父なる神と主イエス・キリス
トから、恵みと平安とが、あなたがたにある
ように。 *4*キリストは、わたしたちの父なる
神の御旨に従い、わたしたちを今の悪の
世から救い出そうとして、ご自身をわたし
たちの罪のためにささげられたのである。
*5*栄光が世々限りなく神にあるように、アァ
メン。 *6*あなたがたがこんなにも早く、あな
たがたをキリストの恵みの内へお招きになっ
たかたから離れて、違った福音に落ち
ていくことが、わたしには不思議でならな
い。 *7*それは福音というべきものではなく、
ただ、ある種の人々があなたがたをかき乱
し、キリストの福音を曲げようとしているだ
けのことである。 *8*しかし、たといわたした
ちであろうと、天からの御使であろうと、わ
たしたちが宣べ伝えた福音に反すること
をあなたがたに宣べ伝えるなら、その人は
のろわるべきである。 *9*わたしたちが前に
言っておいたように、今わたしは重ねて言
う。もしある人が、あなたがたの受けいれ
た福音に反することを宣べ伝えているなら
、その人はのろわるべきである。 *10*今わ
たしは、人に喜ばれようとしているのか、
それとも、神に喜ばれようとしているのか。
あるいは、人の歓心を買おうと努めている
のか。もし、今もなお人の歓心を買おうと
しているとすれば、わたしはキリストの僕で
はあるまい。 *11*兄弟たちよ。あなたがたに
、はっきり言っておく。わたしが宣べ伝え
た福音は人間によるものではない。 *12*わ
たしは、それを人間から受けたのでも教え
られたのでもなく、ただイエス・キリストの
啓示によったのである。 *13*ユダヤ教を信
じていたころのわたしの行動については、
あなたがたはすでによく聞いている。すな
わち、わたしは激しく神の教会を迫害し、
また荒しまわっていた。 *14*そして、同国人
の中でわたしと同年輩の多くの者にまさっ
てユダヤ教に精進し、先祖たちの言伝え
に対して、だれよりもはるかに熱心であっ
た。 *15*ところが、母の胎内にある時からわ
たしを聖別し、み恵みをもってわたしをお
召しになったかたが、 *16*異邦人の間に宣
べ伝えさせるために、御子をわたしの内
に啓示して下さった時、わたしは直ちに、
血肉に相談もせず、 *17*また先輩の使徒
たちに会うためにエルサレムにも上らず、
アラビヤに出て行った。それから再びダマ
スコに帰った。 *18*その後三年たってから、
わたしはケパをたずねてエルサレムに上
り、彼のもとに十五日間、滞在した。 *19*し
かし、主の兄弟ヤコブ以外には、ほかの
どの使徒にも会わなかった。 *20*ここに書
いていることは、神のみまえで言うが、決
して偽りではない。 *21*その後、わたしはシ
リヤとキリキヤとの地方に行った。 *22*しか
し、キリストにあるユダヤの諸教会には、
顔を知られていなかった。 *23*ただ彼らは
、「かつて自分たちを迫害した者が、以前
には撲滅しようとしていたその信仰を、今
は宣べ伝えている」と聞き、 *24*わたしのこ
とで、神をほめたたえた。

2 その後十四年たってから、わたしはバ
ルナバと一緒に、テトスをも連れて、再び
エルサレムに上った。 *2*そこに上ったのは
、啓示によってである。そして、わたしが
異邦人の間に宣べ伝えている福音を、人
々に示し、「重だった人たち」には個人的
に示した。それは、わたしが現に走ってお
り、またすでに走ってきたことが、むだにな
らないためである。 *3*しかし、わたしが連
れていたテトスでさえ、ギリシヤ人であった
のに、割礼をしいられなかった。 *4*それは
、忍び込んできたにせ兄弟らがいたので
――彼らが忍び込んできたのは、キリスト
・イエスにあって持っているわたしたちの
自由をねらって、わたしたちを奴隷にする
ためであった。 *5*わたしたちは、福音の真
理があなたがたのもとに常にとどまってい
るように、瞬時も彼らの強要に屈服しなか
った。 *6*そして、かの「重だった人たち」か
らは――彼らがどんな人であったにしても
、それは、わたしには全く問題ではない。
神[i]は人を分け隔てなさらないのだから―
―事実、かの「重だった人たち」は、わた
しに何も加えることをしなかった。 *7*それど
ころか、彼らは、ペテロが割礼の者への福
音をゆだねられているように、わたしには
無割礼の者への福音がゆだねられている

ことを認め、 *8*(というのは、ペテロに働き
かけて割礼の者への使徒の務につかせ
たかたは、わたしにも働きかけて、異邦人
につかわして下さったからである)、 *9*か
つ、わたしに賜わった恵みを知って、柱と
して重んじられているヤコブとケパとヨハ
ネとは、わたしとバルナバとに、交わりの
手を差し伸べた。そこで、わたしたちは異
邦人に行き、彼らは割礼の者に行くことに
なったのである。 *10*ただ一つ、わたしたち
が貧しい人々をかえりみるようにとのことで
あったが、わたしはもとより、この事のため
にも大いに努めてきたのである。 *11*ところ
が、ケパがアンテオケにきたとき、彼に非
難すべきことがあったので、わたしは面と
むかって彼をなじった。 *12*というのは、ヤ
コブのもとからある人々が来るまでは、彼
は異邦人と食を共にしていたのに、彼ら
がきてからは、割礼の者どもを恐れ、しだ
いに身を引いて離れて行ったからである。
*13*そして、ほかのユダヤ人たちも彼と共
に偽善の行為をし、バルナバまでがその
ような偽善に引きずり込まれた。 *14*彼らが
福音の真理に従ってまっすぐに歩いてい
ないのを見て、わたしは衆人の面前でケ
パに言った、「あなたは、ユダヤ人である
のに、自分自身はユダヤ人のように生活
しないで、異邦人のように生活していなが
ら、どうして異邦人にユダヤ人のようになる
ことをしいるのか」。 *15*わたしたちは生
れながらのユダヤ人であって、異邦人な
る罪人ではないが、 *16*人の義とされるの
は律法の行いによるのではなく、ただキリ
スト・イエスを信じる信仰によることを認め
て、わたしたちもキリスト・イエスを信じたの
である。それは、律法の行いによるのでは
なく、キリストを信じる信仰によって義とさ
れるためである。なぜなら、律法の行いに
よっては、だれひとり義とされることがない
からである。 *17*しかし、キリストにあって義
とされることを求めることによって、わたし
たち自身が罪人であるとされるのなら、キ
リストは罪に仕える者なのであろうか。断じ
てそうではない。 *18*もしわたしが、いった
ん打ちこわしたものを、再び建てるとすれ
ば、それこそ、自分が違反者であることを
表明することになる。 *19*わたしは、神に生
きるために、律法によって律法に死んだ。
わたしはキリストと共に十字架につけられ
た。 *20*生きているのは、もはや、わたしで
はない。キリストが、わたしのうちに生きて
おられるのである。しかし、わたしがいま
肉にあって生きているのは、わたしを愛し
、わたしのためにご自身をささげられた神
の御子を信じる信仰によって、生きている
のである。 *21*わたしは、神の恵みを無に
はしない。もし、義が律法によって得られ
るとすれば、キリストの死はむだであった
ことになる。

3 ああ、物わかりのわるいガラテヤ人よ。
十字架につけられたイエス・キリストが、あ
なたがたの目の前に描き出されたのに、
いったい、だれがあなたがたを惑わしたの
か。 *2*わたしは、ただこの一つの事を、あ
なたがたに聞いてみたい。あなたがたが
御霊を受けたのは、律法を行ったからか、
それとも、聞いて信じたからか。 *3*あなた
がたは、そんなに物わかりがわるいのか。
御霊で始めたのに、今になって肉で仕上
げるというのか。 *4*あれほどの大きな経験
をしたことは、むだであったのか。まさか、
むだではあるまい。 *5*すると、あなたがた
に御霊を賜い、力あるわざをあなたがた
の間でなされたのは、律法を行ったから
か、それとも、聞いて信じたからか。 *6*この
ように、アブラハムは「イオウオ(?)[ii]を信じ
た。それによって、彼は義と認められた」
のである。 *7*だから、信仰による者こそア
ブラハムの子であることを、知るべきであ
る。 *8*聖書は、神が異邦人を信仰によって
義とされることを、あらかじめ知って、アブ
ラハムに、「あなたによって、すべての国
民は祝福されるであろう」との良い知らせ
を、予告したのである。 *9*このように、信仰
による者は、信仰の人アブラハムと共に、
祝福を受けるのである。 *10*いったい、律
法の行いによる者は、皆のろいの下にあ
る。「律法の書に書いてあるいっさいのこ
とを守らず、これを行わない者は、皆のろ
われる」と書いてあるからである。 *11*そこ
で、律法によっては、神のみまえに義とさ
れる者はひとりもないことが、明らかである
。なぜなら、「信仰による義人は生きる」か
らである。 *12*律法は信仰に基いているも
のではない。かえって、「律法を行う者は

律法によって生きる」のである。 *13*キリストは、わたしたちのためにのろいとなって、わたしたちを律法ののろいからあがない出して下さった。聖書に、「木にかけられる者は、すべてのろわれる」と書いてある。 *14*それは、アブラハムの受けた祝福が、イエス・キリストにあって異邦人に及ぶためであり、約束された御霊を、わたしたちが信仰によって受けるためである。 *15*兄弟たちよ。世のならわしを例にとって言おう。人間の遺言でさえ、いったん作成されたら、これを無効にしたり、これに付け加えたりすることは、だれにもできない。
*16*さて、約束は、アブラハムと彼の子孫とに対してなされたのである。それは、多数をさして「子孫たちとに」と言わずに、ひとりをさして「あなたの子孫とに」と言っている。これは、キリストのことである。 *17*わたしの言う意味は、こうである。神によってあらかじめ立てられた契約が、四百三十年の後にできた律法によって破棄されて、その約束がむなしくなるようなことはない。
*18*もし相続が、律法に基いてなされるとすれば、もはや約束に基いたものではない。ところが事実、神は約束によって、相続の恵みをアブラハムに賜わったのである。 *19*それでは、律法はなんであるか。それは違反を促すため、あとから加えられたのであって、約束されていた子孫が来るまで存続するだけのものであり、かつ、天使たちをとおし、仲介者の手によって制定されたものにすぎない。 *20*仲介者なるものは、一方だけに属する者ではない。しかし、神[iii]はひとりである。 *21*では、律法は神の約束と相いれないものか。断じてそうではない。もし人を生かす力のある律法が与えられていたとすれば、義はたしかに律法によって実現されたであろう。
*22*しかし、約束が、信じる人々にイエス・キリストに対する信仰によって与えられるために、聖書はすべての人を罪の下に閉じ込めたのである。 *23*しかし、信仰が現れる前には、わたしたちは律法の下で監視されており、やがて啓示される信仰の時まで閉じ込められていた。 *24*このようにして律法は、信仰によって義とされるために、わたしたちをキリストに連れて行く養育掛となったのである。 *25*しかし、いったん信仰が現れた以上、わたしたちは、もはや養育掛のもとにはいない。 *26*あなたがたはみな、キリスト・イエスにある信仰によって、神の子なのである。 *27*キリストに合うバプテスマを受けたあなたがたは、皆キリストを着たのである。 *28*もはや、ユダヤ人もギリシヤ人もなく、奴隷も自由人もなく、男も女もない。あなたがたは皆、キリスト・イエスにあって一つだからである。 *29*もしキリストのものであるなら、あなたがたはアブラハムの子孫であり、約束による相続人なのである。

4 わたしの言う意味は、こうである。相続人が子供である間は、全財産の持ち主でありながら、僕となんの差別もなく、 *2*父親の定めた時期までは、管理人や後見人の監督の下に置かれているのである。 *3*それと同じく、わたしたちも子供であった時には、いわゆるこの世のもろもろの霊力の下に、縛られていた者であった。 *4*しかし、時の満ちるに及んで、神は御子を女から生れさせ、律法の下に生れさせて、おつかわしになった。 *5*それは、律法の下にある者をあがない出すため、わたしたちに子たる身分を授けるためであった。 *6*このように、あなたがたは子であるのだから、神はわたしたちの心の中に、「アバ、父よ」と呼ぶ御子の霊を送って下さったのである。 *7*したがって、あなたがたはもはや僕ではなく、子である。子である以上、また神による相続人である。 *8*神を知らなかった当時、あなたがたは、本来神ならぬ神々の奴隷になっていた。 *9*しかし、今では神を知っているのに、否、むしろ神に知られているのに、どうして、あの無力で貧弱な、もろもろの霊力に逆もどりして、またもや、新たにその奴隷になろうとするのか。
*10*あなたがたは、日や月や季節や年などを守っている。 *11*わたしは、あなたがたのために努力してきたことが、あるいは、むだになったのではないかと、あなたがたのことが心配でならない。 *12*兄弟たちよ。お願いする。どうか、わたしのようになってほしい。わたしも、あなたがたのようになったのだから。あなたがたは、一度もわたしに対して不都合なことをしたことはない。
*13*あなたがたも知っているとおり、最初

わたしがあなたがたに福音を伝えたのは
、わたしの肉体が弱っていたためであっ
た。 *14*そして、わたしの肉体にはあなた
がたにとって試錬となるものがあったのに
、それを卑しめもせず、またきらいもせず、
かえってわたしを、神の使かキリスト・イエ
スかでもあるように、迎えてくれた。 *15*そ
の時のあなたがたの感激は、今どこにある
のか。はっきり言うが、あなたがたは、でき
ることなら、自分の目をえぐり出してでも、
わたしにくれたかったのだ。 *16*それだの
に、真理を語ったために、わたしはあなた
がたの敵になったのか。 *17*彼らがあなた
がたに対して熱心なのは、善意からでは
ない。むしろ、自分らに熱心にならせるた
めに、あなたがたをわたしから引き離そう
としているのである。 *18*わたしがあなたが
たの所にいる時だけでなく、いつも、良い
ことについて熱心に慕われるのは、良いこ
とである。 *19*ああ、わたしの幼な子たちよ
。あなたがたの内にキリストの形ができる
までは、わたしは、またもや、あなたがた
のために産みの苦しみをする。 *20*できる
ことなら、わたしは今あなたがたの所にい
て、語調を変えて話してみたい。わたしは
、あなたがたのことで、途方にくれている。
*21*律法の下にとどまっていたいと思う人
たちよ。わたしに答えなさい。あなたがた
は律法の言うところを聞かないのか。
*22*そのしるすところによると、アブラハム
にふたりの子があったが、ひとりは女奴隷
から、ひとりは自由の女から生れた。 *23*女
奴隷の子は肉によって生れたのであり、
自由の女の子は約束によって生れたので
あった。 *24*さて、この物語は比喩としてみ
られる。すなわち、この女たちは二つの契
約をさす。そのひとりはシナイ山から出て
、奴隷となる者を産む。ハガルがそれであ
る。 *25*ハガルといえば、アラビヤではシナ
イ山のことで、今のエルサレムに当る。な
ぜなら、それは子たちと共に、奴隷となっ
ているからである。 *26*しかし、上なるエル
サレムは、自由の女であって、わたしたち
の母をさす。 *27*すなわち、こう書いてある
、「喜べ、不妊の女よ。声をあげて喜べ、
産みの苦しみを知らない女よ。ひとり者と
なっている女は多くの子を産み、その数
は、夫ある女の子らよりも多い」。 *28*兄弟た
ちよ。あなたがたは、イサクのように、約束
の子である。 *29*しかし、その当時、肉によ
って生れた者が、霊によって生れた者を
迫害したように、今でも同様である。 *30*し
かし、聖書はなんと言っているか。「女奴
隷とその子とを追い出せ。女奴隷の子は
、自由の女の子と共に相続をしてはなら
ない」とある。 *31*だから、兄弟たちよ。わた
したちは女奴隷の子ではなく、自由の女
の子なのである。

5 自由を得させるために、キリストはわた
したちを解放して下さったのである。だか
ら、堅く立って、二度と奴隷のくびきにつ
ながれてはならない。 *2*見よ、このパウロ
があなたがたに言う。もし割礼を受けるな
ら、キリストはあなたがたに用のないもの
になろう。 *3*割礼を受けようとするすべて
の人たちに、もう一度言っておく。そういう
人たちは、律法の全部を行う義務がある。
*4*律法によって義とされようとするあなた
がたは、キリストから離れてしまっている。
恵みから落ちている。 *5*わたしたちは、御
霊の助けにより、信仰によって義とされる
望みを強くいだいている。 *6*キリスト・イエ
スにあっては、割礼があってもなくても、
問題ではない。尊いのは、愛によって働く
信仰だけである。 *7*あなたがたはよく走り
続けてきたのに、だれが邪魔をして、真理
にそむかせたのか。 *8*そのような勧誘は、
あなたがたを召されたかたから出たもの
ではない。 *9*少しのパン種でも、粉のかたま
り全体をふくらませる。 *10*あなたがたはい
ささかもわたしと違った思いをいだくことは
ないと、主[iv]にあって信頼している。しかし
、あなたがたを動揺させている者は、それ
がだれであろうと、さばきを受けるであろう
。 *11*兄弟たちよ。わたしがもし今でも割礼
を宣べ伝えていたら、どうして、いまなお
迫害されるはずがあろうか。そうしていた
ら、十字架のつまずきは、なくなっている
であろう。 *12*あなたがたの煽動者どもは、
自ら不具になるがよかろう。 *13*兄弟たちよ
。あなたがたが召されたのは、実に、自由
を得るためである。ただ、その自由を、肉
の働く機会としないで、愛をもって互に仕
えなさい。 *14*律法の全体は、「自分を愛
するように、あなたの隣り人を愛せよ」とい

うこの一句に尽きるからである。 *15*気をつけるがよい。もし互にかみ合い、食い合っているなら、あなたがたは互に滅ぼされてしまうだろう。 *16*わたしは命じる、御霊によって歩きなさい。そうすれば、決して肉の欲を満たすことはない。 *17*なぜなら、肉の欲するところは御霊に反し、また御霊の欲するところは肉に反するからである。こうして、二つのものは互に相さからい、その結果、あなたがたは自分でしようと思うことを、することができないようになる。 *18*もしあなたがたが御霊に導かれるなら、律法の下にはいない。 *19*肉の働きは明白である。すなわち、不品行、汚れ、好色、 *20*偶像礼拝、まじない、敵意、争い、そねみ、怒り、党派心、分裂、分派、 *21*ねたみ、泥酔、宴楽、および、そのたぐいである。わたしは以前も言ったように、今も前もって言っておく。このようなことを行う者は、神の国をつぐことがない。 *22*しかし、御霊の実は、愛、喜び、平和、寛容、慈愛、善意、忠実、 *23*柔和、自制であって、これらを否定する律法はない。 *24*キリスト・イエスに属する者は、自分の肉を、その情と欲と共に十字架につけてしまったのである。
*25*もしわたしたちが御霊によって生きるのなら、また御霊によって進もうではないか。 *26*互にいどみ合い、互にねたみ合って、虚栄に生きてはならない。

6 兄弟たちよ。もしもある人が罪過に陥っていることがわかったなら、霊の人であるあなたがたは、柔和な心をもって、その人を正しなさい。それと同時に、もしか自分自身も誘惑に陥ることがありはしないかと、反省しなさい。 *2*互に重荷を負い合いなさい。そうすれば、あなたがたはキリストの律法を全うするであろう。 *3*もしある人が、事実そうでないのに、自分が何か偉い者であるように思っているとすれば、その人は自分を欺いているのである。 *4*ひとりびとり、自分の行いを検討してみるがよい。そうすれば、自分だけには誇ることができても、ほかの人には誇れなくなるであろう。 *5*人はそれぞれ、自分自身の重荷を負うべきである。 *6*御言を教えてもらう人は、教える人と、すべて良いものを分け合いなさい。 *7*まちがってはいけない、神は侮られるようなかたではない。人は自分のまいたものを、刈り取ることになる。 *8*すなわち、自分の肉にまく者は、肉から滅びを刈り取り、霊にまく者は、霊から永遠のいのちを刈り取るであろう。 *9*わたしたちは、善を行うことに、うみ疲れてはならない。たゆまないでいると、時が来れば刈り取るようになる。 *10*だから、機会のあるごとに、だれに対しても、とくに信仰の仲間に対して、善を行おうではないか。 *11*ごらんなさい。わたし自身いま筆をとって、こんなに大きい字で、あなたがたに書いていることを。
*12*いったい、肉において見えを飾ろうとする者たちは、キリスト・イエスの十字架のゆえに、迫害を受けたくないばかりに、あなたがたにしいて割礼を受けさせようとする。 *13*事実、割礼のあるもの自身が律法を守らず、ただ、あなたがたの肉について誇りたいために、割礼を受けさせようとしているのである。 *14*しかし、わたし自身には、わたしたちの主イエス・キリストの十字架以外に、誇とするものは、断じてあってはならない。この十字架につけられて、この世はわたしに対して死に、わたしもこの世に対して死んでしまったのである。
*15*割礼のあるなしは問題ではなく、ただ、新しく造られることこそ、重要なのである。
*16*この法則に従って進む人々の上に、平和とあわれみとがあるように。また、神のイスラエルの上にあるように。 *17*だれも今後は、わたしに煩いをかけないでほしい。わたしは、イエスの焼き印を身に帯びているのだから。 *18*兄弟たちよ。わたしたちの主イエス・キリストの恵みが、あなたがたの霊と共にあるように、アァメン。

---

[i] Hutter (1599) はここで「神」のかわりに「イオウオ」(?)」とする。申命記10章17節、ヨブ記34章19節とも比較せよ。

[ii] Hutter (1599) と比較せよ。ここで創世記15章1節は直接引用される。引用原文では「神」のかわりに「イオウオ」が使用される。それゆえに、ガラテヤ人への手紙の伝統本文で使用される「神」のかわりに「イオウオ」とした。ローマ4章3節とも比較せよ。

[iii] Hutter (1599) を参照。ここで申命記6章5節は引用される。引用原文では「神」のかわりに「イオウオ」が使用される。それゆえに、ガラテヤ人への手紙の伝統本文で使用される「神」のかわりに「イオウオ」とした。

[iv] Hutter (1599) はここで「イオウオ(?)」とする。詩編91編2節、イザヤ書12章2節と比較せよ。詩編9編11節、、エレミア書17章7節、ナホム書1章7節とも比較せよ。

1 神の御旨によるキリスト・イエスの使徒
パウロから、エペソにいる、キリスト・イエス
にあって忠実な聖徒たちへ。 2わたしたち
の父なる神と主イエス・キリストから、恵み
と平安とが、あなたがたにあるように。 3ほ
むべきかな、わたしたちの主イエス・キリス
トの父なる神。神はキリストにあって、天上
で霊のもろもろの祝福をもって、わたした
ちを祝福し、 4みまえにきよく傷のない者
となるようにと、天地の造られる前から、キ
リストにあってわたしたちを選び、 5わたし
たちに、イエス・キリストによって神の子た
る身分を授けるようにと、御旨のよしとする
ところに従い、愛のうちにあらかじめ定め
て下さったのである。 6これは、その愛す
る御子によって賜わった栄光ある恵みを、
わたしたちがほめたたえるためである。
7わたしたちは、御子にあって、神の豊か
な恵みのゆえに、その血によるあがない、
すなわち、罪過のゆるしを受けたのである
。 8神はその恵みをさらに増し加えて、あ
らゆる知恵と悟りとをわたしたちに賜わり、
9御旨の奥義を、自らあらかじめ定められ
た計画に従って、わたしたちに示して下さ
ったのである。 10それは、時の満ちるに
及んで実現されるご計画にほかならない
。それによって、神は天にあるもの地にあ
るものを、ことごとく、キリストにあって一つ
に帰せしめようとされたのである。 11わた
したちは、御旨の欲するままにすべての
事をなさるかたの目的の下に、キリストに
あってあらかじめ定められ、神の民として
選ばれたのである。 12それは、早くからキ
リストに望みをおいているわたしたちが、
神の栄光をほめたたえる者となるためで
ある。 13あなたがたもまた、キリストにあっ
て、真理の言葉、すなわち、あなたがたの
救の福音を聞き、また、彼を信じた結果、
約束された聖霊の証印をおされたのであ
る。 14この聖霊は、わたしたちが神の国
をつぐことの保証であって、やがて神につ
ける者が全くあがなわれ、神の栄光をほ
めたたえるに至るためである。 15こういう
わけで、わたしも、主イエスに対するあな
たがたの信仰と、すべての聖徒に対する
愛とを耳にし、 16わたしの祈のたびごとに
あなたがたを覚えて、絶えずあなたがた
のために感謝している。 17どうか、わたし
たちの主イエス・キリストの神、栄光の父が
、知恵と啓示との霊をあなたがたに賜わっ
て神を認めさせ、 18あなたがたの心の目
を明らかにして下さるように、そして、あな
たがたが神に召されていだいている望み
がどんなものであるか、聖徒たちがつぐべ
き神の国がいかに栄光に富んだものであ
るか、 19また、神の力強い活動によって
働く力が、わたしたち信じる者にとってい
かに絶大なものであるかを、あなたがたが
知るに至るように、と祈っている。 20神は
その力をキリストのうちに働かせて、彼を
死人の中からよみがえらせ、天上におい
てご自分の右に座せしめ、 21彼を、すべ
ての支配、権威、権力、権勢の上におき、
また、この世ばかりでなくきたるべき世に
おいても唱えられる、あらゆる名の上にお
かれたのである。 22そして、万物をキリス
トの足の下に従わせ、彼を万物の上にか
しらとして教会に与えられた。 23この教会
はキリストのからだであって、すべてのも
のを、すべてのもののうちに満たしている
かたが、満ちみちているものに、ほかなら
ない。

2 さてあなたがたは、先には自分の罪過
と罪とによって死んでいた者であって、
2かつてはそれらの中で、この世のならわ
しに従い、空中の権をもつ君、すなわち、
不従順の子らの中に今も働いている霊に
従って、歩いていたのである。 3また、わ
たしたちもみな、かつては彼らの中にいて
、肉の欲に従って日を過ごし、肉とその思
いとの欲するままを行い、ほかの人々と同
じく、生れながらの怒りの子であった。 4し
かるに、あわれみに富む神は、わたしたち
を愛して下さったその大きな愛をもって、
5罪過によって死んでいたわたしたちを、
キリストと共に生かし――あなたがたの救
われたのは、恵みによるのである―― 6キ
リスト・イエスにあって、共によみがえらせ
、共に天上で座につかせて下さったのの
である。 7それは、キリスト・イエスにあってわ
たしたちに賜わった慈愛による神の恵み
の絶大な富を、きたるべき世々に示すた
めであった。 8あなたがたの救われたの
は、実に、恵みにより、信仰によるのであ
る。それは、あなたがた自身から出たもの

ではなく、神の賜物である。 *9*決して行い
によるのではない。それは、だれも誇る
ことがないためなのである。 *10*わたしたちは
神の作品であって、良い行いをするように
、キリスト・イエスにあって造られたのであ
る。神は、わたしたちが、良い行いをして
日を過ごすようにと、あらかじめ備えて下
さったのである。 *11*だから、記憶しておき
なさい。あなたがたは以前には、肉によれ
ば異邦人であって、手で行った肉の割礼
ある者と称せられる人々からは、無割礼の
者と呼ばれており、 *12*またその当時は、
キリストを知らず、イスラエルの国籍がなく
、約束されたいろいろの契約に縁がなく、
この世の中で希望もなく神もない者であっ
た。 *13*ところが、あなたがたは、このように
以前は遠く離れていたが、今ではキリスト
・イエスにあって、キリストの血によって近
いものとなったのである。 *14*キリストはわ
たしたちの平和であって、二つのものを一
つにし、敵意という隔ての中垣を取り除き
、ご自分の肉によって、 *15*数々の規定か
ら成っている戒めの律法を廃棄したので
ある。それは、彼にあって、二つのものを
ひとりの新しい人に造りかえて平和をきた
らせ、 *16*十字架によって、二つのものを
一つのからだとして神と和解させ、敵意を
十字架にかけて滅ぼしてしまったのであ
る。 *17*それから彼は、こられた上で、遠く
離れているあなたがたに平和を宣べ伝え
、また近くにいる者たちにも平和を宣べ伝
えられたのである。 *18*というのは、彼によ
って、わたしたち両方の者が一つの御霊
の中にあって、父のみもとに近づくことが
できるからである。 *19*そこであなたがたは
、もはや異国人でも宿り人でもなく、聖徒
たちと同じ国籍の者であり、神の家族なの
である。 *20*またあなたがたは、使徒たち
や預言者たちという土台の上に建てられ
たものであって、キリスト・イエスご自身が
隅のかしら石である。 *21*このキリストにあ
って、建物全体が組み合わされ、主[i]にあ
る聖なる宮に成長し、 *22*そしてあなたが
たも、主にあって共に建てられて、霊なる
神のすまいとなるのである。

3 こういうわけで、あなたがた異邦人のた
めにキリスト・イエスの囚人となっている
このパウロ―― *2*わたしがあなたがたのた
めに神から賜わった恵みの務について、
あなたがたはたしかに聞いたであろう。
*3*すなわち、すでに簡単に書きおくったよ
うに、わたしは啓示によって奥義を知らさ
れたのである。 *4*あなたがたはそれを読め
ば、キリストの奥義をわたしがどう理解し
ているかがわかる。 *5*この奥義は、いまは、
御霊によって彼の聖なる使徒たちと預言
者たちとに啓示されているが、前の時代
には、人の子らに対して、そのように知ら
されてはいなかったのである。 *6*それは、
異邦人が、福音によりキリスト・イエスにあ
って、わたしたちと共に神の国をつぐ者と
なり、共に一つのからだとなり、共に約束
にあずかる者となることである。 *7*わたしは
、神の力がわたしに働いて、自分に与え
られた神の恵みの賜物により、福音の僕と
されたのである。 *8*すなわち、聖徒たちの
うちで最も小さい者であるわたしにこの恵
みが与えられたが、それは、キリストの無
尽蔵の富を異邦人に宣べ伝え、 *9*更にま
た、万物の造り主である神の中に世々隠
されていた奥義にあずかる務がどんなも
のであるかを、明らかに示すためである。
*10*それは今、天上にあるもろもろの支配
や権威が、教会をとおして、神の多種多
様な知恵を知るに至るためであって、
*11*わたしたちの主キリスト・イエスにあって
実現された神の永遠の目的にそうものの
である。 *12*この主キリストにあって、わたした
ちは、彼に対する信仰によって、確信をも
って大胆に神に近づくことができるのであ
る。 *13*だから、あなたがたのためにわたし
が受けている患難を見て、落胆しないで
いてもらいたい。わたしの患難は、あなた
がたの光栄なのである。 *14*こういうわけで
、わたしはひざをかがめて、 *15*天上にあり
地上にあって「父」と呼ばれているあらゆ
るものの源なる父に祈る。 *16*どうか父が、
その栄光の富にしたがい、御霊により、力
をもってあなたがたの内なる人を強くして
下さるように、 *17*また、信仰によって、キリ
ストがあなたがたの心のうちに住み、あな
たがたが愛に根ざし愛を基として生活す
ることにより、 *18*すべての聖徒と共に、

その広さ、長さ、高さ、深さを理解することができ、 *19*また人知をはるかに越えたキリストの愛を知って、神に満ちているもののすべてをもって、あなたがたが満たされるように、と祈る。 *20*どうか、わたしたちのうちに働く力によって、わたしたちが求めまた思うところのいっさいを、はるかに越えてかなえて下さることができるかたに、 *21*教会により、また、キリスト・イエスによって、栄光が世々限りなくあるように、アァメン。

4 さて、主にある囚人であるわたしは、あなたがたに勧める。あなたがたが召されたその召しにふさわしく歩き、 *2*できる限り謙虚で、かつ柔和であり、寛容を示し、愛をもって互に忍びあい、 *3*平和のきずなで結ばれて、聖霊による一致を守り続けるように努めなさい。 *4*からだは一つ、御霊も一つである。あなたがたが召されたのは、一つの望みを目ざして召されたのと同様である。 *5*主は一つ、信仰は一つ、バプテスマは一つ。 *6*すべてのものの上にあり、すべてのものを貫き、すべてのものの内にいます、すべてのものの父なる神は一つである。 *7*しかし、キリストから賜わる賜物のはかりに従って、わたしたちひとりびとりに、恵みが与えられている。 *8*そこで、こう言われている、「彼は高いところに上った時、とりこを捕えて引き行き、人々に賜物を分け与えた」。 *9*さて「上った」と言う以上、また地下の低い底にも降りてこられたわけではないか。 *10*降りてこられた者自身は、同時に、あらゆるものに満ちるために、もろもろの天の上にまで上られたかたなのである。 *11*そして彼は、ある人を使徒とし、ある人を預言者とし、ある人を伝道者とし、ある人を牧師、教師として、お立てになった。 *12*それは、聖徒たちをととのえて奉仕のわざをさせ、キリストのからだを建てさせ、 *13*わたしたちすべての者が、神の子を信じる信仰の一致と彼を知る知識の一致とに到達し、全き人となり、ついに、キリストの満ちみちた徳の高さにまで至るためである。 *14*こうして、わたしたちはもはや子供ではないので、だまし惑わす策略により、人々の悪巧みによって起る様々な教の風に吹きまわされたり、もてあそばれたりすることがなく、 *15*愛にあって真理を語り、あらゆる点において成長し、かしらなるキリストに達するのである。 *16*また、キリストを基として、全身はすべての節々の助けにより、しっかりと組み合わされ結び合わされ、それぞれの部分は分に応じて働き、からだを成長させ、愛のうちに育てられていくのである。 *17*そこで、わたしは主にあっておごそかに勧める。あなたがたは今後、異邦人がむなしい心で歩いているように歩いてはならない。 *18*彼らの知力は暗くなり、その内なる無知と心の硬化とにより、神のいのちから遠く離れ、 *19*自ら無感覚になって、ほしいままにあらゆる不潔な行いをして、放縦に身をゆだねている。 *20*しかしあなたがたは、そのようにキリストに学んだのではなかった。 *21*あなたがたはたしかに彼に聞き、彼にあって教えられて、イエスにある真理をそのまま学んだはずである。 *22*すなわち、あなたがたは、以前の生活に属する、情欲に迷って滅び行く古き人を脱ぎ捨て、 *23*心の深みまで新たにされて、 *24*真の義と聖とをそなえた神にかたどって造られた新しき人を着るべきである。 *25*こういうわけだから、あなたがたは偽りを捨てて、おのおの隣り人に対して、真実を語りなさい。わたしたちは、お互に肢体なのであるから。 *26*怒ることがあっても、罪を犯してはならない。憤ったままで、日が暮れるようであってはならない。 *27*また、悪魔に機会を与えてはいけない。 *28*盗んだ者は、今後、盗んではならない。むしろ、貧しい人々に分け与えるようになるために、自分の手で正当な働きをしなさい。 *29*悪い言葉をいっさい、あなたがたの口から出してはいけない。必要があれば、人の徳を高めるのに役立つような言葉を語って、聞いている者の益になるようにしなさい。 *30*神の聖霊を悲しませてはいけない。あなたがたは、あがないの日のために、聖霊の証印を受けたのである。 *31*すべての無慈悲、憤り、怒り、騒ぎ、そしり、また、いっさいの悪意を捨て去りなさい。 *32*互に情深く、あわれみ深い者となり、神がキリストにあってあなたがたをゆるして下さったように、あなたがたも互にゆるし合いなさい。

5 こうして、あなたがたは、神に愛されている子供として、神にならう者になりなさい。 2また愛のうちを歩きなさい。キリストもあなたがたを愛して下さって、わたしたちのために、ご自身を、神へのかんばしいかおりのささげ物、また、いけにえとしてささげられたのである。 3また、不品行といろいろな汚れや貪欲などを、聖徒にふさわしく、あなたがたの間では、口にすることさえしてはならない。 4また、卑しい言葉と愚かな話やみだらな冗談を避けなさい。これらは、よろしくない事である。それよりは、むしろ感謝をささげなさい。 5あなたがたは、よく知っておかねばならない。すべて不品行な者、汚れたことをする者、貪欲な者、すなわち、偶像を礼拝する者は、キリストと神との国をつぐことができない。 6あなたがたは、だれにも不誠実な言葉でだまされてはいけない。これらのことから、神の怒りは不従順の子らに下るのである。 7だから、彼らの仲間になってはいけない。 8あなたがたは、以前はやみであったが、今は主にあって光となっている。光の子らしく歩きなさい―― 9光はあらゆる善意と正義と真実との実を結ばせるものである―― 10主に喜ばれるものがなんであるかを、わきまえ知りなさい。 11実を結ばないやみのわざに加わらないで、むしろ、それを指摘してやりなさい。 12彼らが隠れて行っていることは、口にするだけでも恥ずかしい事である。 13しかし、光にさらされる時、すべてのものは、明らかになる。 14明らかにされたものは皆、光となるのである。だから、こう書いてある、「眠っている者よ、起きなさい。死人のなかから、立ち上がりなさい。そうすれば、キリストがあなたを照すであろう」。 15そこで、あなたがたの歩きかたによく注意して、賢くない者のようにではなく、賢い者のように歩き、 16今の時を生かして用いなさい。今は悪い時代なのである。 17だから、愚かな者にならないで、主[ii]の御旨がなんであるかを悟りなさい。 18酒に酔ってはいけない。それは乱行のもとである。むしろ御霊に満たされて、 19詩とさんびと霊の歌とをもって語り合い、主[iii]にむかって心からさんびの歌をうたいなさい。 20そしてすべてのことにつき、いつも、わたしたちの主イエス・キリストの御名によって、父なる神に感謝し、 21キリストに対する恐れの心をもって、互に仕え合うべきである。 22妻たる者よ。主に仕えるように自分の夫に仕えなさい。 23キリストが教会のかしらであって、自らは、からだなる教会の救主であられるように、夫は妻のかしらである。 24そして教会がキリストに仕えるように、妻もすべてのことにおいて、夫に仕えるべきである。 25夫たる者よ。キリストが教会を愛してそのためにご自身をささげられたように、妻を愛しなさい。 26キリストがそうなさったのは、水で洗うことにより、言葉によって、教会をきよめて聖なるものとするためであり、 27また、しみも、しわも、そのたぐいのものがいっさいなく、清くて傷のない栄光の姿の教会を、ご自分に迎えるためである。 28それと同じく、夫も自分の妻を、自分のからだのように愛さねばならない。自分の妻を愛する者は、自分自身を愛するのである。 29自分自身を憎んだ者は、いまだかつて、ひとりもいない。かえって、キリストが教会になさったようにして、おのれを育て養うのが常である。 30わたしたちは、キリストのからだの肢体なのである。 31「それゆえに、人は父母を離れてその妻と結ばれ、ふたりの者は一体となるべきである」。 32この奥義は大きい。それは、キリストと教会とをさしている。 33いずれにしても、あなたがたは、それぞれ、自分の妻を自分自身のように愛しなさい。妻もまた夫を敬いなさい。

6 子たる者よ。主にあって両親に従いなさい。これは正しいことである。 2「あなたの父と母とを敬え」。これが第一の戒めであって、次の約束がそれについている、 3「そうすれば、あなたは幸福になり、地上でながく生きながらえるであろう」。 4父たる者よ。子供をおこらせないで、主[iv]の薫陶と訓戒とによって、彼らを育てなさい。 5僕たる者よ。キリストに従うように、恐れおののきつつ、真心をこめて、肉による主人に従いなさい。 6人にへつらおうとして目先だけの勤めをするのでなく、キリストの僕として心から神の御旨を行い、 7人にではなく主[v]に仕えるように、快く仕えなさい。

*8*あなたがたが知っているとおり、だれでも良いことを行えば、僕であれ、自由人であれ、それに相当する報いを、それぞれ主[vi]から受けるであろう。 *9*主人たる者よ。僕たちに対して、同様にしなさい。おどすことを、してはならない。あなたがたが知っているとおり、彼らとあなたがたとの主は天にいますのであり、かつ人をかたより見ることをなさらないのである。 *10*最後に言う。主にあって、その偉大な力によって、強くなりなさい。 *11*悪魔の策略に対抗して立ちうるために、神の武具で身を固めなさい。 *12*わたしたちの戦いは、血肉に対するものではなく、もろもろの支配と、権威と、やみの世の主権者、また天上にいる悪の霊に対する戦いである。 *13*それだから、悪しき日にあたって、よく抵抗し、完全に勝ち抜いて、堅く立ちうるために、神の武具を身につけなさい。 *14*すなわち、立って真理の帯を腰にしめ、正義の胸当を胸につけ、 *15*平和の福音の備えを足にはき、 *16*その上に、信仰のたてを手に取りなさい。それをもって、悪しき者の放つ火の矢を消すことができるであろう。 *17*また、救のかぶとをかぶり、御霊の剣、すなわち、神の言を取りなさい。 *18*絶えず祈と願いをし、どんな時でも御霊によって祈り、そのために目をさましてうむことがなく、すべての聖徒のために祈りつづけなさい。 *19*また、わたしが口を開くときに語るべき言葉を賜わり、大胆に福音の奥義を明らかに示しうるように、わたしのためにも祈ってほしい。 *20*わたしはこの福音のための使節であり、そして鎖につながれているのであるが、つながれていても、語るべき時には大胆に語れるように祈ってほしい。 *21*わたしがどういう様子か、何をしているかを、あなたがたに知ってもらうために、主にあって忠実に仕えている愛する兄弟テキコが、いっさいの事を報告するであろう。 *22*彼をあなたがたのもとに送るのは、あなたがたがわたしたちの様子を知り、また彼によって心に励ましを受けるようになるためなのである。 *23*父なる神とわたしたちの主イエス・キリストから平安ならびに信仰に伴う愛が、兄弟たちにあるように。 *24*変らない真実をもって、わたしたちの主イエス・キリストを愛するすべての人々に、恵みがあるように。

---

[i] Hutter (1599), Delitzsch (1877), Salkinson (1885), UBS (1979) はここで「イオウオ(?)」とする。サカリヤ書6章12～15節と比較せよ。詩編118編22～26節、イザヤ書28章16節、エズラ記3章10節とも比較せよ。コリント第一3章16節とも比較せよ。

[ii] Hutter (1599) はここで「イオウオ(?)」とする。詩編14編2節、53編3節、エレミア書10章21節、ダニエル12章10節、ホセア書14章10節とも比較せよ。

[iii] Hutter (1599) はここで「イオウオ(?)」とする。詩編33編2、3節とも比較せよ。詩編95編1、2節、100編2、4節147編7節とも比較せよ。

[iv] Hutter (1599), UBS (1979) はここで「イオウオ(?)」とする。創世記18章19節、申命記4章10節、6章7、20～25節、11章19節、詩編34編11節、78編4～6節とも比較せよ。

[v] Hutter (1599) はここで「イオウオ(?)」とする。歴代志下19章6節、詩編118編8節、箴言29章25節、エレミア書17章5節とも比較せよ。

[vi] UBS (1979) はここで「イオウオ(?)」とする。コロサイ3章22～24節とも比較せよ。創世記39章3節、申命記29章8節、歴代志上22章13節、詩編1編3節、24編5節、箴言11章18節とも比較せよ。

1 キリスト・イエスの僕たち、パウロとテモ
テから、ピリピにいる、キリスト・イエスにあ
るすべての聖徒たち、ならびに監督たちと
執事たちへ。 2わたしたちの父なる神と主
イエス・キリストから、恵みと平安とが、あな
たがたにあるように。 3わたしはあなたが
たを思うたびごとに、わたしの神に感謝し
、 4あなたがた一同のために祈るとき、い
つも喜びをもって祈り、 5あなたがたが最
初の日から今日に至るまで、福音にあず
かっていることを感謝している。 6そして、
あなたがたのうちに良いわざを始められた
かたが、キリスト・イエスの日までにそれを
完成して下さるにちがいないと、確信して
いる。 7わたしが、あなたがた一同のため
に、そう考えるのは当然である。それは、
わたしが獄に捕われている時にも、福音
を弁明し立証する時にも、あなたがたをみ
な、共に恵みにあずかる者として、わたし
の心に深く留めているからである。 8わた
しがキリスト・イエスの熱愛をもって、どん
なに深くあなたがた一同を思っていること
か、それを証明して下さるかたは神である
。 9わたしはこう祈る。あなたがたの愛が、
深い知識において、するどい感覚におい
て、いよいよ増し加わり、 10それによって
、あなたがたが、何が重要であるかを判別
することができ、キリストの日に備えて、純
真で責められるところのないものとなり、
11イエス・キリストによる義の実に満たさ
れて、神の栄光とほまれとをあらわすに至
るように。 12さて、兄弟たちよ。わたしの
身に起った事が、むしろ福音の前進に役
立つようになったことを、あなたがたに知
ってもらいたい。 13すなわち、わたしが獄
に捕われているのはキリストのためであ
ることが、兵営全体にもそのほかのすべて
の人々にも明らかになり、 14そして兄弟
たちのうち多くの者は、わたしの入獄によ
って主にある確信を得、恐れることなく、ま
すます勇敢に、神の言を語るようになった
。 15一方では、ねたみや闘争心からキリ
ストを宣べ伝える者がおり、他方では善意
からそうする者がいる。 16後者は、わたし
が福音を弁明するために立てられている
ことを知り、愛の心でキリストを伝え、 17前
者は、わたしの入獄の苦しみに更に患難
を加えようと思って、純真な心からではな
く、党派心からそうしている。 18すると、ど
うなのか。見えからであるにしても、真実
からであるにしても、要するに、伝えられ
ているのはキリストなのだから、わたしはそ
れを喜んでいるし、また喜ぶであろう。
19なぜなら、あなたがたの祈と、イエス・
キリストの霊の助けとによって、この事がつ
いには、わたしの救となることを知ってい
るからである。 20そこで、わたしが切実な
思いで待ち望むことは、わたしが、どんな
ことがあっても恥じることなく、かえって、
いつものように今も、大胆に語ることによっ
て、生きるにも死ぬにも、わたしの身によ
ってキリストがあがめられることである。
21わたしにとっては、生きることはキリスト
であり、死ぬことは益である。 22しかし、
肉体において生きていることが、わたしに
とっては実り多い働きになるのだとすれば
、どちらを選んだらよいか、わたしにはわ
からない。 23わたしは、これら二つのもの
の間に板ばさみになっている。わたしの
願いを言えば、この世を去ってキリストと
共にいることであり、実は、その方がはる
かに望ましい。 24しかし、肉体にとどまっ
ていることは、あなたがたのためには、さら
に必要である。 25こう確信しているので、
わたしは生きながらえて、あなたがた一同
のところにとどまり、あなたがたの信仰を進
ませ、その喜びを得させようと思う。 26そう
なれば、わたしが再びあなたがたのところ
に行くので、あなたがたはわたしによって
キリスト・イエスにある誇を増すことになろう
。 27ただ、あなたがたはキリストの福音に
ふさわしく生活しなさい。そして、わたしが
行ってあなたがたに会うにしても、離れて
いるにしても、あなたがたが一つの霊によ
って堅く立ち、一つ心になって福音の信
仰のために力を合わせて戦い、 28かつ、
何事についても、敵対する者どもにろうば
いさせられないでいる様子を、聞かせて
ほしい。このことは、彼らには滅びのしるし
、あなたがたには救のしるしであって、そ
れは神から来るのである。 29あなたがた
はキリストのために、ただ彼を信じることだ
けではなく、彼のために苦しむことをも賜
わっている。

*30*あなたがたは、さきにわたしについて
見、今またわたしについて聞いているのと
同じ苦闘を、続けているのである。

2 そこで、あなたがたに、キリストによる勧
め、愛の励まし、御霊の交わり、熱愛とあ
われみとが、いくらかでもあるなら、 *2*どう
か同じ思いとなり、同じ愛の心を持ち、心
を合わせ、一つ思いになって、わたしの
喜びを満たしてほしい。 *3*何事も党派心
や虚栄からするのでなく、へりくだった心
をもって互に人を自分よりすぐれた者とし
なさい。 *4*おのおの、自分のことばかりで
なく、他人のことも考えなさい。 *5*キリスト・
イエスにあっていだいているのと同じ思い
を、あなたがたの間でも互に生かしなさい
。 *6*キリストは、神のかたちであられたが、
神と等しくあることを固守すべき事とは思
わず、 *7*かえって、おのれをむなしうして
僕のかたちをとり、人間の姿になられた。
その有様は人と異ならず、 *8*おのれを低く
して、死に至るまで、しかも十字架の死に
至るまで従順であられた。 *9*それゆえに、
神は彼を高く引き上げ、すべての名にま
さる名を彼に賜わった。 *10*それは、イエス
の御名によって、天上のもの、地上のもの
、地下のものなど、あらゆるものがひざを
かがめ、 *11*また、あらゆる舌が、「イエス・
キリストは主である」と告白して、栄光を父
なる神に帰するためである。 *12*わたしの
愛する者たちよ。そういうわけだから、あな
たがたがいつも従順であったように、わた
しが一緒にいる時だけでなく、いない今は
、いっそう従順でいて、恐れおののいて自
分の救の達成に努めなさい。 *13*あなたが
たのうちに働きかけて、その願いを起させ
、かつ実現に至らせるのは神であって、そ
れは神のよしとされるところだからである。
*14*すべてのことを、つぶやかず疑わない
でしなさい。 *15*それは、あなたがたが責
められるところのない純真な者となり、曲
った邪悪な時代のただ中にあって、傷の
ない神の子となるためである。あなたがた
は、いのちの言葉を堅く持って、彼らの間
で星のようにこの世に輝いている。 *16*この
ようにして、キリストの日に、わたしは自分
の走ったことがむだでなく、労したこともむ
だではなかったと誇ることができる。 *17*そ
して、たとい、あなたがたの信仰の供え物
をささげる祭壇に、わたしの血をそそぐこ
とがあっても、わたしは喜ぼう。あなたがた
一同と共に喜ぼう。 *18*同じように、あなた
がたも喜びなさい。わたしと共に喜びなさ
い。 *19*さて、わたしは、まもなくテモテをあ
なたがたのところに送りたいと、主イエスに
あって願っている。それは、あなたがたの
様子を知って、わたしも力づけられたいか
らである。 *20*テモテのような心で、親身に
なってあなたがたのことを心配している者
は、ほかにひとりもない。 *21*人はみな、自
分のことを求めるだけで、キリスト・イエス
のことは求めていない。 *22*しかし、テモテ
の錬達ぶりは、あなたがたの知っていると
おりである。すなわち、子が父に対するよ
うにして、わたしと一緒に福音に仕えてき
たのである。 *23*そこで、この人を、わたし
の成行きがわかりしだい、すぐにでも、そ
ちらへ送りたいと願っている。 *24*わたし自
身もまもなく行けるものと、主にあって確
信している。 *25*しかし、さしあたり、わたし
の同労者で戦友である兄弟、また、あな
たがたの使者としてわたしの窮乏を補っ
てくれたエパフロデトを、あなたがたのもと
に送り返すことが必要だと思っている。
*26*彼は、あなたがた一同にしきりに会い
たがっているからである。その上、自分の
病気のことがあなたがたに聞えたので、彼
は心苦しく思っている。 *27*彼は実に、ひ
ん死の病気にかかったが、神は彼をあわ
れんで下さった。彼ばかりではなく、わた
しをもあわれんで下さったので、わたしは
悲しみに悲しみを重ねないですんだので
ある。 *28*そこで、大急ぎで彼を送り返す。
これで、あなたがたは彼と再び会って喜
び、わたしもまた、心配を和らげることがで
きよう。 *29*こういうわけだから、大いに喜ん
で、主にあって彼を迎えてほしい。また、
こうした人々は尊重せねばならない。
*30*彼は、わたしに対してあなたがたが奉
仕のできなかった分を補おうとして、キリス
トのわざのために命をかけ、死ぬばかりに
なったのである。

3 最後に、わたしの兄弟たちよ。主にあ
って喜びなさい。さきに書いたのと同じこ
とをここで繰り返すが、それは、わたしに

は煩らわしいことではなく、あなたがたに
は安全なことになる。 *2*あの犬どもを警戒
しなさい。悪い働き人たちを警戒しなさい
。肉に割礼の傷をつけている人たちを警
戒しなさい。 *3*神の霊によって礼拝をし、
キリスト・イエスを誇とし、肉を頼みとしない
わたしたちこそ、割礼の者である。 *4*もとよ
り、肉の頼みなら、わたしにも無くはない。
もし、だれかほかの人が肉を頼みとしてい
ると言うなら、わたしはそれをもっと頼みと
している。 *5*わたしは八日目に割礼を受け
た者、イスラエルの民族に属する者、ベニ
ヤミン族の出身、ヘブル人の中のヘブル
人、律法の上ではパリサイ人、 *6*熱心の
点では教会の迫害者、律法の義につい
ては落ち度のない者である。 *7*しかし、わ
たしにとって益であったこれらのものを、キ
リストのゆえに損と思うようになった。 *8*わ
たしは、更に進んで、わたしの主キリスト・
イエスを知る知識の絶大な価値のゆえに
、いっさいのものを損と思っている。キリス
トのゆえに、わたしはすべてを失ったが、
それらのものを、ふん土のように思ってい
る。それは、わたしがキリストを得るためで
あり、 *9*律法による自分の義ではなく、キリ
ストを信じる信仰による義、すなわち、信
仰に基く神からの義を受けて、キリストのう
ちに自分を見いだすようになるためである
。 *10*すなわち、キリストとその復活の力と
を知り、その苦難にあずかって、その死の
さまとひとしくなり、 *11*なんとかして死人の
うちからの復活に達したいのである。 *12*わ
たしがすでにそれを得たとか、すでに完
全な者になっているとか言うのではなく、
ただ捕えようとして追い求めているのであ
る。そうするのは、キリスト・イエスによって
捕えられているからである。 *13*兄弟たちよ
。わたしはすでに捕えたとは思っていない
。ただこの一事を努めている。すなわち、
後のものを忘れ、前のものに向かってから
だを伸ばしつつ、 *14*目標を目ざして走り
、キリスト・イエスにおいて上に召して下さ
る神の賞与を得ようと努めているのである
。 *15*だから、わたしたちの中で全き人たち
は、そのように考えるべきである。しかし、
あなたがたが違った考えを持っているなら
、神はそのことも示して下さるであろう。
*16*ただ、わたしたちは、達し得たところに
従って進むべきである。 *17*兄弟たちよ。どう
か、わたしにならう者となってほしい。また、
あなたがたの模範にされているわたし
たちにならって歩く人たちに、目をとめな
さい。 *18*わたしがそう言うのは、キリストの
十字架に敵対して歩いている者が多いか
らである。わたしは、彼らのことをしばしば
あなたがたに話したが、今また涙を流して
語る。 *19*彼らの最後は滅びである。彼ら
の神はその腹、彼らの栄光はその恥、彼
らの思いは地上のことである。 *20*しかし、
わたしたちの国籍は天にある。そこから、
救主、主イエス・キリストのこられるのを、
わたしたちは待ち望んでいる。 *21*彼は、
万物をご自身に従わせうる力の働きによ
って、わたしたちの卑しいからだを、ご自
身の栄光のからだと同じかたちに変えて
下さるであろう。

4 だから、わたしの愛し慕っている兄弟た
ちよ。わたしの喜びであり冠である愛する
者たちよ。このように、主[i]にあって堅く立
ちなさい。 *2*わたしはユウオデヤに勧め、
またスントケに勧める。どうか、主にあって
一つ思いになってほしい。 *3*ついては、真
実な協力者よ。あなたにお願いする。この
ふたりの女を助けてあげなさい。彼らは、
「いのちの書」に名を書きとめられているク
レメンスや、その他の同労者たちと協力し
て、福音のためにわたしと共に戦ってくれ
た女たちである。 *4*あなたがたは、主[ii]に
あっていつも喜びなさい。繰り返して言うが
、喜びなさい。 *5*あなたがたの寛容を、み
んなの人に示しなさい。主[iii]は近い。 *6*何
事も思い煩ってはならない。ただ、事ごと
に、感謝をもって祈と願いとをささげ、あな
たがたの求めるところを神に申し上げるが
よい。 *7*そうすれば、人知ではとうてい測り
知ることのできない神の平安が、あなたが
たの心と思いとを、キリスト・イエスにあっ
て守るであろう。 *8*最後に、兄弟たちよ。
すべて真実なこと、すべて尊ぶべきこと、
すべて正しいこと、すべて純真なこと、す
べて愛すべきこと、すべてほまれあること
、また徳といわれるもの、称賛に値するも
のがあれば、それらのものを心にとめなさ
い。 *9*あなたがたが、わたしから学んだこ
と、受けたこと、聞いたこと、見たことは、

これを実行しなさい。そうすれば、平和の
神が、あなたがたと共にいますであろう。
*10*さて、わたしが主[iv]にあって大いに喜ん
でいるのは、わたしを思う心が、あなたが
たに今またついに芽ばえてきたことである
。実は、あなたがたは、わたしのことを心
にかけてくれてはいたが、よい機会がなか
ったのである。*11*わたしは乏しいから、こ
う言うのではない。わたしは、どんな境遇
にあっても、足ることを学んだ。*12*わたし
は貧に処する道を知っており、富におる
道も知っている。わたしは、飽くことにも飢
えることにも、富むことにも乏しいことにも、
ありとあらゆる境遇に処する秘けつを心得
ている。*13*わたしを強くして下さるかたに
よって、何事でもすることができる。*14*し
かし、あなたがたは、よくもわたしと患難を
共にしてくれた。*15*ピリピの人たちよ。あ
なたがたも知っているとおり、わたしが福
音を宣伝し始めたころ、マケドニヤから出
かけて行った時、物のやりとりをしてわた
しの働きに参加した教会は、あなたがた
のほかには全く無かった。*16*またテサロ
ニケでも、一再ならず、物を送ってわたし
の欠乏を補ってくれた。*17*わたしは、贈り
物を求めているのではない。わたしの求
めているのは、あなたがたの勘定をふや
していく果実なのである。*18*わたしは、す
べての物を受けてあり余るほどである。エ
パフロデトから、あなたがたの贈り物をい
ただいて、飽き足りている。それは、かん
ばしいかおりであり、神[v]の喜んで受けて
下さる供え物である。*19*わたしの神は、ご
自身の栄光の富の中から、あなたがたの
いっさいの必要を、キリスト・イエスにあっ
て満たして下さるであろう。*20*わたしたち
の父なる神に、栄光が世々限りなくあるよ
うに、アァメン。*21*キリスト・イエスにある聖
徒のひとりびとりに、よろしく。わたしと一
緒にいる兄弟たちから、あなたがたによろ
しく。*22*すべての聖徒たちから、特にカイ
ザルの家の者たちから、よろしく。*23*主イ
エス・キリストの恵みが、あなたがたの霊と
共にあるように。

---

[i] Hutter (1599) はここで「イオウオ(?)」とする。詩編9編10節、18編3節、27編14節、112編7節、125編1節、箴言10章29節、ヨエル書4章16節、ナホム書1章7節とも比較せよ。

[ii] Hutter (1599) はここで「イオウオ(?)」とする。詩編32編11節、33編1節、ハバクク書3章18節とも比較せよ。

[iii] Hutter (1599) はここで「イオウオ(?)」とする。詩編34編19節、85編10節、119編151節、145編18節、イザヤ書55章6節とも比較せよ。

[iv] Hutter (1599) はここで「イオウオ(?)」とする。サムエル記上2章1節、イザヤ書65章13節、ヨエル書2章23節、ゼカリヤ書10章7節とも比較せよ。

[v] Hutter (1599) はここで「神」のかわりに「イオウオ(?)」とする。出エジプト記29章18節、民数記15章3節、マラキ書3章4節と比較せよ。

1 神の御旨によるキリスト・イエスの使徒
パウロと兄弟テモテから、 2コロサイにいる
、キリストにある聖徒たち、忠実な兄弟た
ちへ。わたしたちの父なる神から、恵みと
平安とが、あなたがたにあるように。 3わた
したちは、いつもあなたがたのために祈り
、わたしたちの主イエス・キリストの父なる
神に感謝している。 4これは、キリスト・イ
エスに対するあなたがたの信仰と、すべ
ての聖徒に対していだいているあなたが
たの愛とを、耳にしたからである。 5この愛
は、あなたがたのために天にたくわえられ
ている望みに基くものであり、その望みに
ついては、あなたがたはすでに、あなたが
たのところまで伝えられた福音の真理の
言葉によって聞いている。 6そして、この
福音は、世界中いたる所でそうであるよう
に、あなたがたのところでも、これを聞いて
神の恵みを知ったとき以来、実を結んで
成長しているのである。 7あなたがたはこ
の福音を、わたしたちと同じ僕である、愛
するエペフラスから学んだのであった。彼
はあなたがたのためのキリストの忠実な奉
仕者であって、 8あなたがたが御霊によっ
ていだいている愛を、わたしたちに知らせ
てくれたのである。 9そういうわけで、これ
らの事を耳にして以来、わたしたちも絶え
ずあなたがたのために祈り求めているの
は、あなたがたがあらゆる霊的な知恵と理
解力とをもって、神の御旨を深く知り、
10主[i]のみこころにかなった生活をして真
に主を喜ばせ、あらゆる良いわざを行って
実を結び、神を知る知識をいよいよ増し
加えるに至ることである。 11更にまた祈る
のは、あなたがたが、神の栄光の勢いに
したがって賜わるすべての力によって強く
され、何事も喜んで耐えかつ忍び、 12光
のうちにある聖徒たちの特権にあずかる
に足る者とならせて下さった父なる神に、
感謝することである。 13神は、わたしたち
をやみの力から救い出して、その愛する
御子の支配下に移して下さった。 14わた
したちは、この御子によってあがない、す
なわち、罪のゆるしを受けているのである
。 15御子は、見えない神のかたちであっ
て、すべての造られたものに先だって生
れたかたである。 16万物は、天にあるも
のも地にあるものも、見えるものも見えな
いものも、位も主権も、支配も権威も、み
な御子にあって造られたからである。これ
らいっさいのものは、御子によって造られ
、御子のために造られたのである。 17彼
は万物よりも先にあり、万物は彼にあって
成り立っている。 18そして自らは、そのか
らだなる教会のかしらである。彼は初めの
者であり、死人の中から最初に生れたか
たである。それは、ご自身がすべてのこと
において第一の者となるためである。
19神は、御旨によって、御子のうちにす
べての満ちみちた徳を宿らせ、 20そして
、その十字架の血によって平和をつくり、
万物、すなわち、地にあるもの、天にある
ものを、ことごとく、彼によってご自分と和
解させて下さったのである。 21あなたがた
も、かつては悪い行いをして神から離れ、
心の中で神に敵対していた。 22しかし今
では、御子はその肉のからだにより、その
死をとおして、あなたがたを神と和解させ
、あなたがたを聖なる、傷のない、責めら
れるところのない者として、みまえに立た
せて下さったのである。 23ただし、あなた
がたは、ゆるぐことがなく、しっかりと信仰
にふみとどまり、すでに聞いている福音の
望みから移り行くことのない ようにすべき
である。この福音は、天の下にあるすべて
の造られたものに対して宣べ伝えられた
ものであって、それにこのパウロが奉仕して
いるのである。 24今わたしは、あなたがた
のための苦難を喜んで受けており、キリス
トのからだなる教会のために、キリストの苦
しみのなお足りないところを、わたしの肉
体をもって補っている。 25わたしは、神の
言を告げひろめる務を、あなたがたのた
めに神から与えられているが、そのために
教会に奉仕する者になっているのである
。 26その言の奥義は、代々にわたってこ
の世から隠されていたが、今や神の聖徒
たちに明らかにされたのである。 27神は
彼らに、異邦人の受くべきこの奥義が、い
かに栄光に富んだものであるかを、知ら
せようとされたのである。この奥義は、あな
たがたのうちにいますキリストであり、栄光
の望みである。 28わたしたちはこのキリス
トを宣べ伝え、知恵をつくしてすべての人
を訓戒し、また、すべての人を教えている
。それは、彼らがキリストにあって全き者

として立つようになるためである。 *29*わたしはこのために、わたしのうちに力強く働いておられるかたの力により、苦闘しながら努力しているのである。

2 わたしが、あなたがたとラオデキヤにいる人たちのため、また、直接にはまだ会ったことのない人々のために、どんなに苦闘しているか、わかってもらいたい。 *2*それは彼らが、心を励まされ、愛によって結び合わされ、豊かな理解力を十分に与えられ、神の奥義なるキリストを知るに至るためである。 *3*キリストのうちには、知恵と知識との宝が、いっさい隠されている。 *4*わたしがこう言うのは、あなたがたが、だれにも巧みな言葉で迷わされることのないためである。 *5*たとい、わたしは肉体においては離れていても、霊においてはあなたがたと一緒にいて、あなたがたの秩序正しい様子とキリストに対するあなたがたの強固な信仰とを見て、喜んでいる。 *6*このように、あなたがたは主キリスト・イエスを受けいれたのだから、彼にあって歩きなさい。 *7*また、彼に根ざし、彼にあって建てられ、そして教えられたように、信仰が確立されて、あふれるばかり感謝しなさい。 *8*あなたがたは、むなしいだましごとの哲学で、人のとりこにされないように、気をつけなさい。それはキリストに従わず、世のもろもろの霊力に従う人間の言伝えに基くものにすぎない。 *9*キリストにこそ、満ちみちているいっさいの神の徳が、かたちをとって宿っており、 *10*そしてあなたがたは、キリストにあって、それに満たされているのである。彼はすべての支配と権威とのかしらであり、 *11*あなたがたはまた、彼にあって、手によらない割礼、すなわち、キリストの割礼を受けて、肉のからだを脱ぎ捨てたのである。 *12*あなたがたはバプテスマを受けて彼と共に葬られ、同時に、彼を死人の中からよみがえらせた神の力を信じる信仰によって、彼と共によみがえらされたのである。 *13*あなたがたは、先には罪の中にあり、かつ肉の割礼がないままで死んでいた者であるが、神は、あなたがたをキリストと共に生かし、わたしたちのいっさいの罪をゆるして下さった。 *14*神は、わたしたちを責めて不利におとしいれる証書を、その規定もろともぬり消し、これを取り除いて、十字架につけてしまわれた。 *15*そして、もろもろの支配と権威との武装を解除し、キリストにあって凱旋し、彼らをその行列に加えて、さらしものとされたのである。 *16*だから、あなたがたは、食物と飲み物とにつき、あるいは祭や新月や安息日などについて、だれにも批評されてはならない。 *17*これらは、きたるべきものの影であって、その本体はキリストにある。 *18*あなたがたは、わざとらしい謙そんと天使礼拝とにおぼれている人々から、いろいろと悪評されてはならない。彼らは幻を見たことを重んじ、肉の思いによっていたずらに誇るだけで、 *19*キリストなるかしらに、しっかりと着くことをしない。このかしらから出て、からだ全体は、節と節、筋と筋とによって強められ結び合わされ、神に育てられて成長していくのである。 *20*もしあなたがたが、キリストと共に死んで世のもろもろの霊力から離れたのなら、なぜ、なおこの世に生きているもののように、 *21*「さわるな、味わうな、触れるな」などという規定に縛られているのか。 *22*これらは皆、使えば尽きてしまうもの、人間の規定や教によっているものである。 *23*これらのことは、ひとりよがりの礼拝とわざとらしい謙そんと、からだの苦行とをともなうので、知恵のあるしわざらしく見えるが、実は、ほしいままな肉欲を防ぐのに、なんの役にも立つものではない。

3 このように、あなたがたはキリストと共によみがえらされたのだから、上にあるものを求めなさい。そこではキリストが神の右に座しておられるのである。 *2*あなたがたは上にあるものを思うべきであって、地上のものに心を引かれてはならない。 *3*あなたがたはすでに死んだものであって、あなたがたのいのちは、キリストと共に神のうちに隠されているのである。 *4*わたしたちのいのちなるキリストが現れる時には、あなたがたも、キリストと共に栄光のうちに現れるであろう。 *5*だから、地上の肢体、すなわち、不品行、汚れ、情欲、悪欲、また貪欲を殺してしまいなさい。貪欲は偶像礼拝にほかならない。 *6*これらのことのために、神の怒りが下るのである。

*7*あなたがたも、以前これらのうちに日を
過ごしていた時には、これらのことをして
歩いていた。 *8*しかし今は、これらいっさ
いのことを捨て、怒り、憤り、悪意、そしり、
口から出る恥ずべき言葉を、捨ててしまい
なさい。 *9*互にうそを言ってはならない。あ
なたがたは、古き人をその行いと一緒に
脱ぎ捨て、 *10*造り主のかたちに従って新
しくされ、真の知識に至る新しき人を着た
のである。 *11*そこには、もはやギリシヤ人
とユダヤ人、割礼と無割礼、未開の人、ス
クテヤ人、奴隷、自由人の差別はない。キ
リストがすべてであり、すべてのもののうち
にいますのである。 *12*だから、あなたがた
は、神に選ばれた者、聖なる、愛されてい
る者であるから、あわれみの心、慈愛、謙
そん、柔和、寛容を身に着けなさい。
*13*互に忍びあい、もし互に責むべきこと
があれば、ゆるし合いなさい。主[ii]もあなた
がたをゆるして下さったのだから、そのよう
に、あなたがたもゆるし合いなさい。 *14*こ
れらいっさいのものの上に、愛を加えなさ
い。愛は、すべてを完全に結ぶ帯である。
*15*キリスト[iii]の平和が、あなたがたの心を支
配するようにしなさい。あなたがたが召さ
れて一体となったのは、このためでもある
。いつも感謝していなさい。 *16*キリストの
言葉を、あなたがたのうちに豊かに宿らせ
なさい。そして、知恵をつくして互に教え
また訓戒し、詩とさんびと霊の歌とによっ
て、感謝して心から神[iv]をほめたたえなさ
い。 *17*そして、あなたのすることはすべて
、言葉によるとわざによるとを問わず、いっ
さい主イエスの名によってなし、彼によっ
て父なる神に感謝しなさい。 *18*妻たる者
よ、夫に仕えなさい。それが、主にある者
にふさわしいことである。 *19*夫たる者よ、
妻を愛しなさい。つらくあたってはいけな
い。 *20*子たる者よ、何事についても両親
に従いなさい。これが主に喜ばれることで
ある。 *21*父たる者よ、子供をいらだたせて
はいけない。心がいじけるかも知れないか
ら。 *22*僕たる者よ、何事についても、肉に
よる主人に従いなさい。人にへつらおうと
して、目先だけの勤めをするのではなく、
真心をこめて主[v]を恐れつつ、従いなさい
。 *23*何をするにも、人に対してではなく、
主[vi]に対してするように、心から働きなさい
。 *24*あなたがたが知っているとおり、あな
たがたは御国をつぐことを、報いとして主
[vii]から受けるであろう。あなたがたは、主キ
リストに仕えているのである。 *25*不正を行
う者は、自分の行った不正に対して報い
を受けるであろう。それには差別扱いはな
い。

4 主人たる者よ、僕を正しく公平に扱い
なさい。あなたがたにも主が天にいますこ
とが、わかっているのだから。 *2*目をさまし
て、感謝のうちに祈り、ひたすら祈り続け
なさい。 *3*同時にわたしたちのためにも、
神が御言のために門を開いて下さって、
わたしたちがキリストの奥義を語れるように
（わたしは、実は、そのために獄につなが
れているのである）、 *4*また、わたしが語る
べきことをはっきりと語れるように、祈って
ほしい。 *5*今の時を生かして用い、そとの
人に対して賢く行動しなさい。 *6*いつも、
塩で味つけられた、やさしい言葉を使い
なさい。そうすれば、ひとりびとりに対して
どう答えるべきか、わかるであろう。 *7*わた
しの様子については、主にあって共に僕
であり、また忠実に仕えている愛する兄弟
テキコが、あなたがたにいっさいのことを
報告するであろう。 *8*わたしが彼をあなた
がたのもとに送るのは、わたしたちの様子
を知り、また彼によって心に励ましを受け
るためなのである。 *9*あなたがたのひとり、
忠実な愛する兄弟オネシモをも、彼と共
に送る。彼らはあなたがたに、こちらのい
っさいの事情を知らせるであろう。 *10*わた
しと一緒に捕われの身となっているアリス
タルコと、バルナバのいとこマルコとが、あ
なたがたによろしくと言っている。このマル
コについては、もし彼があなたがたのもと
に行くなら、迎えてやるようにとのさしずを
、あなたがたはすでに受けているはずで
ある。 *11*また、ユストと呼ばれているイエ
スからもよろしく。割礼の者の中で、この三
人だけが神の国のために働く同労者であ
って、わたしの慰めとなった者である。
*12*あなたがたのうちのひとり、キリスト・イ
エスの僕エパフラスから、よろしく。彼はい
つも、祈のうちであなたがたを覚え、あな
たがたが全き人となり、神の御旨をことごと
く確信して立つようにと、熱心に祈ってい

る。 *13*わたしは、彼があなたがたのため、
またラオデキヤとヒエラポリスの人々のた
めに、ひじょうに心労していることを、証言
する。 *14*愛する医者ルカとデマスとが、あ
なたがたによろしく。 *15*ラオデキヤの兄弟
たちに、またヌンパとその家にある教会と
に、よろしく。 *16*この手紙があなたがたの
所で朗読されたら、ラオデキヤの教会でも
朗読されるように、取り計らってほしい。ま
たラオデキヤからまわって来る手紙を、あ
なたがたも朗読してほしい。 *17*アルキポ
に、「主にあって受けた務をよく果すように
」と伝えてほしい。 *18*パウロ自身が、手ず
からこのあいさつを書く。わたしが獄につ
ながれていることを、覚えていてほしい。
恵みが、あなたがたと共にあるように。

---

[i] Hutter (1599) はここで「イオウオ(?)」とする。ミカ書4章5節、民数14章8節、列王記上10章9節、歴代志下9章8節、詩編147編11節とも比較せよ。

[ii] Bauchet (1975) はここで「イオウオ(?)」とする。民数記14章20節、詩編25編11節、32編5節、86編5節、99編8節、エレミア書31章34節、50章20節とも比較せよ。マタイ9章2～6節、マルコ2章5～11節とも比較せよ。

[iii] 本文の異文:「神の平和」。Hutter (1599) はここで「イオウオ(?)の平和」とする。詩編4編9節、29編11節、箴言16章7節、イザヤ章26編12節、45章7節、66章12節とも比較せよ。

[iv] 本文の異文:「主」。Hutter (1599), Delitzsch (1877) はここで「イオウオ(?)」とする。詩編33編2、3節とも比較せよ。詩編95編1、2節、100編2、4節147編7節とも比較せよ。

[v] Salkinson (1885), UBS (1979) はここで「イオウオ(?)」とする。詩編15編4節、ヨナ書1章9節、マラキ書3章16とも比較せよ。

[vi] Hutter (1599), Delitzsch (1877), Salkinson (1885), UBS (1979) はここで「イオウオ(?)」とする。歴代志下19章6節、詩編118編8節、箴言29章25節、エレミア書17章5節とも比較せよ。

[vii] Hutter (1599), Delitzsch (1877), Salkinson (1885), UBS (1979) はここで「イオウオ(?)」とする。創世記39章3節、申命記29章8節、歴代志上22章13節、詩編1編3節、24編5節、箴言11章18節とも比較せよ。

テサロニケ人への第一の手紙

1 パウロとシルワノとテモテから、父なる
神と主イエス・キリストとにあるテサロニケ
人たちの教会へ。恵みと平安とが、あなた
がたにあるように。 2わたしたちは祈の時
にあなたがたを覚え、あなたがた一同のこ
とを、いつも神に感謝し、 3あなたがたの
信仰の働きと、愛の労苦と、わたしたちの
主イエス・キリストに対する望みの忍耐とを
、わたしたちの父なる神のみまえに、絶え
ず思い起している。 4神に愛されている兄
弟たちよ。わたしたちは、あなたがたが神
に選ばれていることを知っている。 5なぜ
なら、わたしたちの福音があなたがたに伝
えられたとき、それは言葉だけによらず、
力と聖霊と強い確信とによったからである
。わたしたちが、あなたがたの間で、みん
なのためにどんなことをしたか、あなたが
たの知っているとおりである。 6そしてあな
たがたは、多くの患難の中で、聖霊による
喜びをもって御言を受けいれ、わたしたち
と主とにならう者となり、 7こうして、マケド
ニヤとアカヤとにいる信者全体の模範に
なった。 8すなわち、主[i]の言葉はあなた
がたから出て、ただマケドニヤとアカヤと
に響きわたっているばかりではなく、至る
ところで、神に対するあなたがたの信仰の
ことが言いひろめられたので、これについ
ては何も述べる必要はないほどである。
9わたしたちが、どんなにしてあなたがた
の所にはいって行ったか、また、あなたが
たが、どんなにして偶像を捨てて神に立
ち帰り、生けるまことの神に仕えるようになり、 10そして、死人の中からよみがえった
神の御子、すなわち、わたしたちをきたる
べき怒りから救い出して下さるイエスが、
天から下ってこられるのを待つようになっ
たかを、彼ら自身が言いひろめているの
である。

2 兄弟たちよ。あなたがた自身が知って
いるとおり、わたしたちがあなたがたの所
にはいって行ったことは、むだではなかっ
た。 2それどころか、あなたがたが知って
いるように、わたしたちは、先にピリピで苦
しめられ、はずかしめられたにもかかわら
ず、わたしたちの神に勇気を与えられて、
激しい苦闘のうちに神の福音をあなたが
たに語ったのである。 3いったい、わたし
たちの宣教は、迷いや汚れた心から出た
ものでもなく、だましごとでもない。 4かえ
って、わたしたちは神の信任を受けて福
音を託されたので、人間に喜ばれるため
ではなく、わたしたちの心を見分ける神に
喜ばれるように、福音を語るのである。
5わたしたちは、あなたがたが知っている
ように、決してへつらいの言葉を用いたこ
ともなく、口実を設けて、むさぼったことも
ない。それは、神があかしして下さる。 6ま
た、わたしたちは、キリストの使徒として重
んじられることができたのであるが、あなた
がたからにもせよ、ほかの人々からにもせ
よ、人間からの栄誉を求めることはしなか
った。 7むしろ、あなたがたの間で、ちょう
ど母がその子供を育てるように、やさしく
ふるまった。 8このように、あなたがたを慕
わしく思っていたので、ただ神の福音ば
かりではなく、自分のいのちまでもあなた
がたに与えたいと願ったほどに、あなたが
たを愛したのである。 9兄弟たちよ。あな
たがたはわたしたちの労苦と努力とを記
憶していることであろう。すなわち、あなた
がたのだれにも負担をかけまいと思って、
日夜はたらきながら、あなたがたに神の福
音を宣べ伝えた。 10あなたがたもあかし
し、神もあかしして下さるように、わたした
ちはあなたがた信者の前で、信心深く、
正しく、責められるところがないように、生
活をしたのである。 11そして、あなたがた
も知っているとおり、父がその子に対して
するように、あなたがたのひとりびとりに対
して、 12御国とその栄光とに召して下さっ
た神のみこころにかなって歩くようにと、勧
め、励まし、また、さとしたのである。 13こ
れらのことを考えて、わたしたちがまた絶
えず神に感謝しているのは、あなたがた
がわたしたちの説いた神の言を聞いた時
に、そ れを人間の言葉としてではなく、神
の言として――事実そのとおりであるが――
受けいれてくれたことである。そして、こ
の神の言は、信じるあなたがたのうちに働
いているのである。 14兄弟たちよ。あなた
がたは、ユダヤの、キリスト・イエスにある
神の諸教会にならう者となった。すなわち
、彼らがユダヤ人たちから苦しめられたと
同じように、あなたがたもまた同国人から
苦しめられた。

*15*ユダヤ人たちは主イエスと預言者たち
とを殺し、わたしたちを迫害し、神を喜ば
せず、すべての人に逆らい、 *16*わたした
ちが異邦人に救の言を語るのを妨げて、
絶えず自分の罪を満たしている。そこで、
神の怒りは最も激しく彼らに臨むに至った
のである。 *17*兄弟たちよ。わたしたちは、
しばらくの間、あなたがたから引き離され
ていたので――心においてではなく、か
らだだけではあるが――なおさら、あなた
がたの顔を見たいと切にこいねがった。
*18*だから、わたしたちは、あなたがたの所
に行こうとした。ことに、このパウロは、一
再ならず行こうとしたのである。それだの
に、わたしたちはサタンに妨げられた。
*19*実際、わたしたちの主イエスの来臨に
あたって、わたしたちの望みと喜びと誇の
冠となるべき者は、あなたがたを外にして
、だれがあるだろうか。 *20*あなたがたこそ
、実にわたしたちのほまれであり、喜びで
ある。

3 そこで、わたしたちはこれ以上耐えられ
なくなって、わたしたちだけがアテネに留
まることに定め、 *2*わたしたちの兄弟で、
キリストの福音における神の同労者テモテ
をつかわした。それは、あなたがたの信仰
を強め、 *3*このような患難の中にあって、
動揺する者がひとりもないように励ますた
めであった。あなたがたの知っているとお
り、わたしたちは患難に会うように定めら
れているのである。 *4*そして、あなたがた
の所にいたとき、わたしたちがやがて患難
に会うことをあらかじめ言っておいたが、
あなたがたの知っているように、今そのと
おりになったのである。 *5*そこで、わたしは
これ以上耐えられなくなって、もしや「試
みる者」があなたがたを試み、そのために
わたしたちの労苦がむだになりはしない
かと気づかって、あなたがたの信仰を知る
ために、彼をつかわしたのである。 *6*とこ
ろが今テモテが、あなたがたの所からわた
したちのもとに帰ってきて、あなたがたの
信仰と愛とについて知らせ、また、あなた
が たがいつもわたしたちのことを覚え、わ
たしたちがあなたがたに会いたく思って
いると同じように、わたしたちにしきりに会い
たがっているという吉報をもたらした。
*7*兄弟たちよ。それによって、わたしたち
はあらゆる苦難と患難との中にありながら
、あなたがたの信仰によって慰められた。
*8*なぜなら、あなたがたが主にあって堅く
立ってくれるなら、わたしたちはいま生き
ることになるからである。 *9*ほんとうに、わ
たしたちの神のみまえで、あなたがたのこ
とで喜ぶ大きな喜びのために、どんな感
謝を神にささげたらよいだろうか。 *10*わた
したちは、あなたがたの顔を見、あなたが
たの信仰の足りないところを補いたいと、
日夜しきりに願っているのである。 *11*どう
か、わたしたちの父なる神ご自身と、わた
したちの主イエスとが、あなたがたのところ
へ行く道を、わたしたちに開いて下さるよ
うに。 *12*どうか、主が、あなたがた相互の
愛とすべての人に対する愛とを、わたした
ちがあなたがたを愛する愛と同じように、
増し加えて豊かにして下さるように。 *13*そ
して、どうか、わたしたちの主イエスが、そ
のすべての聖なる者と共にこられる時、神
のみまえに、あなたがたの心を強め、清く
、責められるところのない者にして下さるよ
うに。

4 最後に、兄弟たちよ。わたしたちは主イ
エスにあってあなたがたに願いかつ勧め
る。あなたがたが、どのように歩いて神を
喜ばすべきかをわたしたちから学んだよう
に、また、いま歩いているとおりに、ますま
す歩き続けなさい。 *2*わたしたちがどういう
教を主イエスによって与えたか、あなたが
たはよく知っている。 *3*神のみこころは、あ
なたがたが清くなることである。すなわち、
不品行を慎み、 *4*各自、気をつけて自分
のからだを清く尊く保ち、 *5*神を知らない
異邦人のように情欲をほしいままにせず、
*6*また、このようなことで兄弟を踏みつけた
り、だましたりしてはならない。前にもあな
たがたにきびしく警告しておいたように、
主[ii]はこれらすべてのことについて、報い
をなさるからである。 *7*神がわたしたちを
召されたのは、汚れたことをするためでは
なく、清くなるためである。 *8*こういうわけで
あるから、これらの警告を拒む者は、人を
拒むのではなく、聖霊をあなたがたの心
に賜わる神を拒むのである。 *9*兄弟愛に
ついては、今さら書きおくる必要はない。

あなたがたは、互に愛し合うように神[iii]に直
接教えられており、 *10*また、事実マケドニ
ヤ全土にいるすべての兄弟に対して、そ
れを実行しているのだから。しかし、兄弟
たちよ。あなたがたに勧める。ますます、
そうしてほしい。 *11*そして、あなたがたに
命じておいたように、つとめて落ち着いた
生活をし、自分の仕事に身をいれ、手ず
から働きなさい。 *12*そうすれば、外部の人
々に対して品位を保ち、まただれの世話
にもならずに、生活できるであろう。 *13*兄
弟たちよ。眠っている人々については、無
知でいてもらいたくない。望みを持たない
外の人々のように、あなたがたが悲しむこ
とのないためである。 *14*わたしたちが信じ
ているように、イエスが死んで復活された
からには、同様に神はイエスにあって眠っ
ている人々をも、イエスと一緒に導き出し
て下さるであろう。 *15*わたしたちは主[iv]の
言葉によって言うが、生きながらえて主の
来臨の時まで残るわたしたちが、眠った
人々より先になることは、決してないであ
ろう。 *16*すなわち、主[v]ご自身が天使のか
しらの声と神のラッパの鳴り響くうちに、合
図の声で、天から下ってこられる。その時
、キリストにあって死んだ人々が、まず最
初によみがえり、 *17*それから生き残って
いるわたしたちが、彼らと共に雲に包まれ
て引き上げられ、空中で主[vi]に会い、こうし
て、いつも主[vii]と共にいるであろう。 *18*だ
から、あなたがたは、これらの言葉をもっ
て互に慰め合いなさい。

5 兄弟たちよ。その時期と場合とについ
ては、書きおくる必要はない。 *2*あなたがた自身がよく知っているとおり、主[viii]の日
は盗人が夜くるように来る。 *3*人々が平和
だ無事だと言っているその矢先に、ちょう
ど妊婦に産みの苦しみが臨むように、突
如として滅びが彼らをおそって来る。そし
て、それからのがれることは決してできな
い。 *4*しかし兄弟たちよ。あなたがたは暗
やみの中にいないのだから、その日が、
盗人のようにあなたがたを不意に襲うこと
はないであろう。 *5*あなたがたはみな光の
子であり、昼の子なのである。わたしたち
は、夜の者でもやみの者でもない。 *6*だか
ら、ほかの人々のように眠っていないで、
目をさまして慎んでいよう。 *7*眠る者は夜
眠り、酔う者は夜酔うのである。 *8*しかし、
わたしたちは昼の者なのだから、信仰と愛
との胸当を身につけ、救の望みのかぶと
をかぶって、慎んでいよう。 *9*神は、わたし
たちを怒りにあわせるように定められたの
ではなく、わたしたちの主イエス・キリスト
によって救を得るように定められたのであ
る。 *10*キリストがわたしたちのために死な
れたのは、さめていても眠っていても、わ
たしたちが主と共に生きるためである。
*11*だから、あなたがたは、今しているよう
に、互に慰め合い、相互の徳を高めなさ
い。 *12*兄弟たちよ。わたしたちはお願い
する。どうか、あなたがたの間で労し、主
にあってあなたがたを指導し、かつ訓戒し
ている人々を重んじ、 *13*彼らの働きを思
って、特に愛し敬いなさい。互に平和に
過ごしなさい。 *14*兄弟たちよ。あなたがた
にお勧めする。怠惰な者を戒め、小心な
者を励まし、弱い者を助け、すべての人
に対して寛容でありなさい。 *15*だれも悪を
もって悪に報いないように心がけ、お互に
、またみんなに対して、いつも善を追い求
めなさい。 *16*いつも喜んでいなさい。
*17*絶えず祈りなさい。 *18*すべての事につ
いて、感謝しなさい。これが、キリスト・イエ
スにあって、神があなたがたに求めておら
れることである。 *19*御霊を消してはいけな
い。 *20*預言を軽んじてはならない。 *21*す
べてのものを識別して、良いものを守り、
*22*あらゆる種類の悪から遠ざかりなさい。
*23*どうか、平和の神ご自身が、あなたが
たを全くきよめて下さるように。また、あな
たがたの霊と心とからだとを完全に守って
、わたしたちの主イエス・キリストの来臨の
ときに、責められるところのない者にして
下さるように。 *24*あなたがたを召されたか
たは真実であられるから、このことをして
下さるであろう。 *25*兄弟たちよ。わたした
ちのためにも、祈ってほしい。 *26*すべて
の兄弟たちに、きよい接吻をもって、よろ
しく伝えてほしい。 *27*わたしは主[ix]によっ
て命じる。この手紙を、みんなの兄弟に読
み聞かせなさい。 *28*わたしたちの主イエ
ス・キリストの恵みが、あなたがたと共にあ
るように。

---

[i] Hutter (1599), Delitzsch (1877), Salkinson (1885), UBS (1979) はここで「イオウオ(?)」とする。イザヤ書2章3節とも比較せよ。旧約聖書では、「イオウオの言」と言う表現は創世記15章1節を始め、201カ所で使用され、「主イオウオの言」はエゼキエル書6章3節、25章3節と36章4節で使用される。「主の言」は使用されない。

[ii] Hutter (1599), Delitzsch (1877), Salkinson (1885), UBS (1979) はここで「イオウオ(?)」とする。詩編33編2、3節とも比較せよ。レビ記19章11、13節、25章17節、箴言11章1節、20章23節とも比較せよ。

[iii] Delitzsch (1877) はここで「イオウオ(?)」とする。エレミア書31章33、34節、詩編133章1節 とも比較せよ。

[iv] Hutter (1599), Delitzsch (1877), Salkinson (1885) はここで「イオウオ(?)」とする。列王記上13章17節とも比較せよ。旧約聖書では、「イオウオの言」と言う表現は創世記15章1節を始め、201カ所で使用され、「主イオウオの言」はエゼキエル書6章3節、25章3節と36章4節で使用される。「主の言」は使用されない。

[v] Hutter (1599) はここで「イオウオ(?)」とする。創世記11章5節、出エジプト記19章11、18、20節、ミカ書1章8節、士師記5章13節、エレミア書21章13節、ヨエル書2章11節、ゼカリヤ9章14節とも比較せよ。

[vi] Hutter (1599) はここで「イオウオ(?)」とする。列王畿2章11、16節、ダニエル書7章13節、民数記14章14節、詩編17編15節とも比較せよ、。

[vii] Hutter (1599) はここで「イオウオ(?)」とする。申命記33章12節、サムエル記上2章21節、詩編15編1節とも比較せよ。

[viii] Hutter (1599), Delitzsch (1877), Salkinson (1885), UBS (1979) はここで「イオウオ(?)」とする。イザヤ書13章6、9節、エレミア書23章20節、エゼキエル30章3節、ヨエル書3章4節と比較せよ、ゼパニヤ章1章7～18節とも比較せよ。

[ix] Hutter (1599) はここで「イオウオ(?)」とする。列王記上22章14、16節、歴代志下18章13、15節、エレミア書42章5節とも比較せよ。

テサロニケ人への第二の手紙

1 パウロとシルワノとテモテから、わたしたちの父なる神と主イエス・キリストとにあるテサロニケ人たちの教会へ。 *2*父なる神と主イエス・キリストから、恵みと平安とが、あなたがたにあるように。 *3*兄弟たちよ。わたしたちは、いつもあなたがたのことを神に感謝せずにはおられない。またそうするのが当然である。それは、あなたがたの信仰が大いに成長し、あなたがたひとりびとりの愛が、お互の間に増し加わっているからである。 *4*そのために、わたしたち自身は、あなたがたがいま受けているあらゆる迫害と患難とのただ中で示している忍耐と信仰とにつき、神の諸教会に対してあなたがたを誇としている。 *5*これは、あなたがたを、神の国にふさわしい者にしようとする神のさばきが正しいことを、証拠だてるものである。その神の国のために、あなたがたも苦しんでいるのである。 *6*すなわち、あなたがたを悩ます者には患難をもって報い、悩まされているあなたがたには、わたしたちと共に、休息をもって報いて下さるのが、神にとって正しいことだからである。 *7*それは、主イエスが炎の中で力ある天使たちを率いて天から現れる時に実現する。 *8*その時、主は神を認めない者たちや、わたしたちの主イエスの福音に聞き従わない者たちに報復し、 *9*そして、彼らは主のみ顔とその力の栄光から退けられて、永遠の滅びに至る刑罰を受けるであろう。 *10*その日に、イエスは下ってこられ、聖徒たちの中であがめられ、すべて信じる者たちの間で驚嘆されるであろう――わたしたちのこのあかしは、あなたがたによって信じられているのである。 *11*このためにまた、わたしたちは、わたしたちの神があなたがたを召しにかなう者となし、善に対するあらゆる願いと信仰の働きとを力強く満たして下さるようにと、あなたがたのために絶えず祈っている。 *12*それは、わたしたちの神と主イエス・キリストとの恵みによって、わたしたちの主イエスの御名があなたがたの間であがめられ、あなたがたも主にあって栄光を受けるためである。

2 さて兄弟たちよ。わたしたちの主イエス・キリストの来臨と、わたしたちがみもとに集められることとについて、あなたがたにお願いすることがある。 *2*霊により、あるいは言葉により、あるいはわたしたちから出たという手紙によって、主[i]の日はすでにきたとふれまわる者があっても、すぐさま心を動かされたり、あわてたりしてはいけない。 *3*だれがどんな事をしても、それにだまされてはならない。まず背教のことが起り、不法の者、すなわち、滅びの子が現れるにちがいない。 *4*彼は、すべて神と呼ばれたり拝まれたりするものに反抗して立ち上がり、自ら神の宮に座して、自分は神だと宣言する。 *5*わたしがまだあなたがたの所にいた時、これらの事をくり返して言ったのを思い出さないのか。 *6*そして、あなたがたが知っているとおり、彼が自分に定められた時になってから現れるように、いま彼を阻止しているものがある。 *7*不法の秘密の力が、すでに働いているのである。ただそれは、いま阻止している者が取り除かれる時までのことである。 *8*その時になると、不法の者が現れる。この者を、主イエスは口の息をもって殺し、来臨の輝きによって滅ぼすであろう。 *9*不法の者が来るのは、サタンの働きによるのであって、あらゆる偽りの力と、しるしと、不思議と、 *10*また、あらゆる不義の惑わしとを、滅ぶべき者どもに対して行うためである。彼らが滅びるのは、自分らの救となるべき真理に対する愛を受けいれなかった報いである。 *11*そこで神は、彼らが偽りを信じるように、迷わす力を送り、 *12*こうして、真理を信じないで不義を喜んでいたすべての人を、さばくのである。 *13*しかし、主[ii]に愛されている兄弟たちよ。わたしたちはいつもあなたがたのことを、神に感謝せずにはおられない。それは、神があなたがたを初めから選んで、御霊によるきよめと、真理に対する信仰とによって、救を得させようとし、 *14*そのために、わたしたちの福音によりあなたがたを召して、わたしたちの主イエス・キリストの栄光にあずからせて下さるからである。 *15*そこで、兄弟たちよ。堅く立って、わたしたちの言葉や手紙で教えられた言伝えを、しっかりと守り続けなさい。 *16*どうか、わたしたちの主イエス・キリストご自身と、わたしたちを愛し、恵みをもって永遠の慰めと確かな望みとを賜わる

わたしたちの父なる神とが、 *17*あなたがたの心を励まし、あなたがたを強めて、すべての良いわざを行い、正しい言葉を語る者として下さるように。

3 最後に、兄弟たちよ。わたしたちのために祈ってほしい。どうか主[iii]の言葉が、あなたがたの所と同じように、ここでも早く広まり、また、あがめられるように。 *2*また、どうか、わたしたちが不都合な悪人から救われるように。事実、すべての人が信仰を持っているわけではない。 *3*しかし、主は真実なかたであるから、あなたがたを強め、悪しき者から守って下さるであろう。 *4*わたしたちが命じる事を、あなたがたは現に実行しており、また、実行するであろうと、わたしたちは、主にあって確信している。
*5*どうか、主があなたがたの心を導いて、神の愛とキリストの忍耐とを持たせて下さるように。 *6*兄弟たちよ。主イエス・キリストの名によってあなたがたに命じる。怠惰な生活をして、わたしたちから受けた言伝えに従わないすべての兄弟たちから、遠ざかりなさい。 *7*わたしたちに、どうならうべきであるかは、あなたがた自身が知っているはずである。あなたがたの所にいた時には、わたしたちは怠惰な生活をしなかったし、 *8*人からパンをもらって食べることもしなかった。それどころか、あなたがたのだれにも負担をかけまいと、日夜、労苦し努力して働き続けた。 *9*それは、わたしたちにその権利がないからではなく、ただわたしたちにあなたがたが見習うように、身をもって模範を示したのである。 *10*また、あなたがたの所にいた時に、「働こうとしない者は、食べることもしてはならない」と命じておいた。 *11*ところが、聞くところによると、あなたがたのうちのある者は怠惰な生活を送り、働かないで、ただいたずらに動きまわっているとのことである。 *12*こうした人々に対しては、静かに働いて自分で得たパンを食べるように、主イエス・キリストによって命じまた勧める。 *13*兄弟たちよ。あなたがたは、たゆまずに良い働きをしなさい。 *14*もしこの手紙にしるしたわたしたちの言葉に聞き従わない人があれば、そのような人には注意をして、交際しないがよい。彼が自ら恥じるようになるためである。 *15*しかし、彼を敵のように思わないで、兄弟として訓戒しなさい。 *16*どうか、平和の主ご自身が、いついかなる場合にも、あなたがたに平和を与えて下さるように。主があなたがた一同と共におられるように。
*17*ここでパウロ自身が、手ずからあいさつを書く。これは、わたしのどの手紙にも書く印である。わたしは、このように書く。
*18*どうか、わたしたちの主イエス・キリストの恵みが、あなたがた一同と共にあるように。

---

[i] 本文の異文:「キリストの日」。Salkinson (1885), UBS (1979) はここで「イオウオ(?)」とする。創世記49章1節 、イザヤ書13章6、9節、エレミア書23章20節、エゼキエル30章3節、ヨエル書3章4節と比較せよ、ゼパニヤ章1章7～18節とも比較せよ。

[ii] McCaul et al (1872), Biesenthal/Reichard (1866) はここで「イオウオ(?)」とする。サムエル記下12章25節、エレミア書31章3節、マラキ書1章2節とも比較せよ。

[iii] Hutter (1599), Delitzsch (1877), Salkinson (1885), UBS (1979) はここで「イオウオ(?)」とする。詩編138編2節とも比較せよ。旧約聖書では、「イオウオの言」と言う表現は創世記15章1節を始め、201カ所で使用され、「主イオウオの言」はエゼキエル書6章3節、25章3節と36章4節で使用される。「主の言」は使用されない。

1 わたしたちの救主なる神と、わたしたち
の望みであるキリスト・イエスとの任命によ
るキリスト・イエスの使徒パウロから、 2信
仰によるわたしの真実な子テモテへ。父
なる神とわたしたちの主キリスト・イエスか
ら、恵みとあわれみと平安とが、あなたに
あるように。 3わたしがマケドニヤに向かっ
て出発する際、頼んでおいたように、あな
たはエペソにとどまっていて、ある人々に
、違った教を説くことをせず、 4作り話や
はてしのない系図などに気をとられること
もないように、命じなさい。そのようなこと
は信仰による神の務を果すものではなく、
むしろ論議を引き起させるだけのものであ
る。 5わたしのこの命令は、清い心と正し
い良心と偽りのない信仰とから出てくる愛
を目標としている。 6ある人々はこれらの
ものからそれて空論に走り、 7律法の教師
たることを志していながら、自分の言って
いることも主張していることも、わからない
でいる。 8わたしたちが知っているとおり、
律法なるものは、法に従って用いるなら、
良いものである。 9すなわち、律法は正し
い人のために定められたのではなく、不
法な者と法に服さない者、不信心な者と
罪ある者、神聖を汚す者と俗悪な者、父
を殺す者と母を殺す者、人を殺す者、
10不品行な者、男色をする者、誘かいす
る者、偽る者、偽り誓う者、そのほか健全
な教にもとることがあれば、そのために定
められていることを認むべきである。 11こ
れは、祝福に満ちた神の栄光の福音が示
すところであって、わたしはこの福音をゆ
だねられているのである。 12わたしは、自
分を強くして下さったわたしたちの主キリ
スト・イエスに感謝する。主はわたしを忠
実な者と見て、この務に任じて下さったの
である。 13わたしは以前には、神をそしる
者、迫害する者、不遜な者であった。しか
しわたしは、これらの事を、信仰がなかっ
たとき、無知なためにしたのだから、あわ
れみをこうむったのである。 14その上、わ
たしたちの主の恵みが、キリスト・イエスに
ある信仰と愛とに伴い、ますます増し加わ
ってきた。 15「キリスト・イエスは、罪人を
救うためにこの世にきて下さった」という言
葉は、確実で、そのまま受けいれるに足る
ものである。わたしは、その罪人のかしら
なのである。 16しかし、わたしがあわれみ
をこうむったのは、キリスト・イエスが、まず
わたしに対して限りない寛容を示し、そし
て、わたしが今後、彼を信じて永遠のいの
ちを受ける者の模範となるためである。
17世々の支配者、不朽にして見えざる唯
一の神に、世々限りなく、ほまれと栄光と
があるように、アァメン。 18わたしの子テモ
テよ。以前あなたに対してなされた数々の
預言の言葉に従って、この命令を与える。
あなたは、これらの言葉に励まされて、信
仰と正しい良心とを保ちながら、りっぱに
戦いぬきなさい。 19ある人々は、正しい良
心を捨てたため、信仰の破船に会った。
20その中に、ヒメナオとアレキサンデルとが
いる。わたしは、神を汚さないことを学
ばせるため、このふたりをサタンの手に渡
したのである。

2 そこで、まず第一に勧める。すべての
人のために、王たちと上に立っているす
べての人々のために、願いと、祈と、とりな
しと、感謝とをささげなさい。 2それはわた
したちが、安らかで静かな一生を、真に信
心深くまた謹厳に過ごすためである。 3こ
れは、わたしたちの救主である神のみま
えに良いことであり、また、みこころにかな
うことである。 4神は、すべての人が救わ
れて、真理を悟るに至ることを望んでおら
れる。 5神は唯一であり、神と人との間の
仲保者もただひとりであって、それは人な
るキリスト・イエスである。 6彼は、すべて
の人のあがないとしてご自身をささげられ
たが、それは、定められた時になされたあ
かしにほかならない。 7そのために、わた
しは立てられて宣教者、使徒となり（わた
しは真実を言っている、偽ってはいない）
、また異邦人に信仰と真理とを教える教
師となったのである。 8男は、怒ったり争
ったりしないで、どんな場所でも、きよい手
をあげて祈ってほしい。 9また、女はつつ
ましい身なりをし、適度に慎み深く身を飾
るべきであって、髪を編んだり、金や真珠
をつけたり、高価な着物を着たりしてはい
けない。 10むしろ、良いわざをもって飾り
とすることが、信仰を言いあらわしている
女に似つかわしい。 11女は静かにして
て、万事につけ従順に教を学ぶがよい。

*12*女が教えたり、男の上に立ったりすることを、わたしは許さない。むしろ、静かにしているべきである。 *13*なぜなら、アダムがさきに造られ、それからエバが造られたからである。 *14*またアダムは惑わされなかったが、女は惑わされて、あやまちを犯した。 *15*しかし、女が慎み深く、信仰と愛と清さとを持ち続けるなら、子を産むことによって救われるであろう。

3 「もし人が監督の職を望むなら、それは良い仕事を願うことである」とは正しい言葉である。 *2*さて、監督は、非難のない人で、ひとりの妻の夫であり、自らを制し、慎み深く、礼儀正しく、旅人をもてなし、よく教えることができ、 *3*酒を好まず、乱暴でなく、寛容であって、人と争わず、金に淡泊で、 *4*自分の家をよく治め、謹厳であって、子供たちを従順な者に育てている人でなければならない。 *5*自分の家を治めることも心得ていない人が、どうして神の教会を預かることができようか。 *6*彼はまた、信者になって間もないものであってはならない。そうであると、高慢になって、悪魔と同じ審判を受けるかも知れない。 *7*さらにまた、教会外の人々にもよく思われている人でなければならない。そうでないと、そしりを受け、悪魔のわなにかかるであろう。 *8*それと同様に、執事も謹厳であって、二枚舌を使わず、大酒を飲まず、利をむさぼらず、 *9*きよい良心をもって、信仰の奥義を保っていなければならない。
*10*彼らはまず調べられて、不都合なことがなかったなら、それから執事の職につかすべきである。 *11*女たちも、同様に謹厳で、他人をそしらず、自らを制し、すべてのことに忠実でなければならない。
*12*執事はひとりの妻の夫であって、子供と自分の家とをよく治める者でなければならない。 *13*執事の職をよくつとめた者は、良い地位を得、さらにキリスト・イエスを信じる信仰による、大いなる確信を得るであろう。 *14*わたしは、あなたの所にすぐ行きたいと望みながら、この手紙を書いている。 *15*万一わたしが遅れる場合には、神の家でいかに生活すべきかを、あなたに知ってもらいたいからである。神の家というのは、生ける神の教会のことであって、それは真理の柱、真理の基礎なのである。
*16*確かに偉大なのは、この信心の奥義である、「キリストは肉において現れ、霊において義とせられ、御使たちに見られ、諸国民の間に伝えられ、世界の中で信じられ、栄光のうちに天に上げられた」。

4 しかし、御霊は明らかに告げて言う。後の時になると、ある人々は、惑わす霊と悪霊の教とに気をとられて、信仰から離れ去るであろう。 *2*それは、良心に焼き印をおされている偽り者の偽善のしわざである。
*3*これらの偽り者どもは、結婚を禁じたり、食物を断つことを命じたりする。しかし食物は、信仰があり真理を認める者が、感謝して受けるようにと、神の造られたものである。 *4*神の造られたものは、みな良いものであって、感謝して受けるなら、何ひとつ捨てるべきものはない。 *5*それらは、神の言と祈とによって、きよめられるからである。 *6*これらのことを兄弟たちに教えるなら、あなたは、信仰の言葉とあなたの従ってきた良い教の言葉とに養われて、キリスト・イエスのよい奉仕者になるであろう。
*7*しかし、俗悪で愚にもつかない作り話は避けなさい。信心のために自分を訓練しなさい。 *8*からだの訓練は少しは益するところがあるが、信心は、今のいのちと後の世のいのちとが約束されてあるので、万事に益となる。 *9*これは確実で、そのまま受けいれるに足る言葉である。 *10*わたしたちは、このために労し苦しんでいる。それは、すべての人の救主、特に信じる者たちの救主なる生ける神に、望みを置いてきたからである。 *11*これらの事を命じ、また教えなさい。 *12*あなたは、年が若いために人に軽んじられてはならない。むしろ、言葉にも、行状にも、愛にも、信仰にも、純潔にも、信者の模範になりなさい。
*13*わたしがそちらに行く時まで、聖書を朗読することと、勧めをすることと、教えることとに心を用いなさい。 *14*長老の按手を受けた時、預言によってあなたに与えられて内に持っている恵みの賜物を、軽視してはならない。 *15*すべての事にあなたの進歩があらわれるため、これらの事を実行し、それを励みなさい。 *16*自分のことと教のこととに気をつけ、それらを常に努め

なさい。そうすれば、あなたは、自分自身
とあなたの教を聞く者たちとを、救うことに
なる。

5 老人をとがめてはいけない。むしろ父
親に対するように、話してあげなさい。若
い男には兄弟に対するように、 *2*年とった
女には母親に対するように、若い女には、
真に純潔な思いをもって、姉妹に対する
ように、勧告しなさい。 *3*やもめについて
は、真にたよりのないやもめたちを、よくし
てあげなさい。 *4*やもめに子か孫かがある
場合には、これらの者に、まず自分の家
で孝養をつくし、親の恩に報いることを学
ばせるべきである。それが、神のみこころ
にかなうことなのである。 *5*真にたよりのな
い、ひとり暮しのやもめは、望みを神にお
いて、日夜、たえず願いと祈とに専心する
が、 *6*これに反して、みだらな生活をして
いるやもめは、生けるしかばねにすぎない
。 *7*これらのことを命じて、彼女たちを非難
のない者としなさい。 *8*もしある人が、その
親族を、ことに自分の家族をかえりみない
場合には、その信仰を捨てたことになるの
であって、不信者以上にわるい。 *9*やもめ
として登録さるべき者は、六十歳以下のも
のではなくて、ひとりの夫の妻であった者
、 *10*また子女をよく養育し、旅人をもてな
し、聖徒の足を洗い、困っている人を助け
、種々の善行に努めるなど、そのよいわざ
でひろく認められている者でなければなら
ない。 *11*若いやもめは除外すべきである
。彼女たちがキリストにそむいて気ままに
なると、結婚をしたがるようになり、 *12*初め
の誓いを無視したという非難を受けねば
ならないからである。 *13*その上、彼女たち
はなまけていて、家々を遊び歩くことをお
ぼえ、なまけるばかりか、むだごとをしゃべ
って、いたずらに動きまわり、口にしては
ならないことを言う。 *14*そういうわけだから
、若いやもめは結婚して子を産み、家を
おさめ、そして、反対者にそしられるすき
を作らないようにしてほしい。 *15*彼女たち
のうちには、サタンのあとを追って道を踏
みはずした者もある。 *16*女の信者が家に
やもめを持っている場合には、自分でそ
のやもめの世話をしてあげなさい。教会の
やっかいになってはいけない。教会は、
真にたよりのないやもめの世話をしなけれ
ばならない。 *17*よい指導をしている長老、
特に宣教と教とのために労している長老
は、二倍の尊敬を受けるにふさわしい者
である。 *18*聖書は、「穀物をこなしている
牛に、くつこをかけてはならない」また「働
き人がその報酬を受けるのは当然である」
と言っている。 *19*長老に対する訴訟は、
ふたりか三人の証人がない場合には、受
理してはならない。 *20*罪を犯した者に対
しては、ほかの人々も恐れをいだくに至る
ために、すべての人の前でその罪をとが
むべきである。 *21*わたしは、神とキリスト・
イエスと選ばれた御使たちとの前で、おご
そかにあなたに命じる。これらのことを偏
見なしに守り、何事についても、不公平な
仕方をしてはならない。 *22*軽々しく人に
手をおいてはならない。また、ほかの人の
罪に加わってはいけない。自分をきよく守
りなさい。 *23*(これからは、水ばかりを飲ま
ないで、胃のため、また、たびたびのいた
みを和らげるために、少量のぶどう酒を用
いなさい。) *24*ある人の罪は明白であって
、すぐ裁判にかけられるが、ほかの人の罪
は、あとになってわかって来る。 *25*それと
同じく、良いわざもすぐ明らかになり、そう
ならない場合でも、隠れていることはあり
得ない。

6 くびきの下にある奴隷はすべて、自分
の主人を、真に尊敬すべき者として仰ぐ
べきである。それは、神の御名と教とが、
そしりを受けないためである。 *2*信者であ
る主人を持っている者たちは、その主人
が兄弟であるというので軽視してはならな
い。むしろ、ますます励んで仕えるべきで
ある。その益を受ける主人は、信者であり
愛されている人だからである。あなたは、
これらの事を教えかつ勧めなさい。 *3*もし
違ったことを教えて、わたしたちの主イエ
ス・キリストの健全な言葉、ならびに信心
にかなう教に同意しないような者があれば
、 *4*彼は高慢であって、何も知らず、ただ
論議と言葉の争いとに病みついている者
である。そこから、ねたみ、争い、そしり、
さいぎの心が生じ、 *5*また知性が腐って、
真理にそむき、信心を利得と心得る者ど
もの間に、はてしのないいがみ合いが起

るのである。 *6*しかし、信心があって足ることを知るのは、大きな利得である。 *7*わたしたちは、何ひとつ持たないでこの世にきた。また、何ひとつ持たないでこの世を去って行く。 *8*ただ衣食があれば、それで足れりとすべきである。 *9*富むことを願い求める者は、誘惑と、わなとに陥り、また、人を滅びと破壊とに沈ませる、無分別な恐ろしいさまざまの情欲に陥るのである。
*10*金銭を愛することは、すべての悪の根である。ある人々は欲ばって金銭を求めたため、信仰から迷い出て、多くの苦痛をもって自分自身を刺しとおした。 *11*しかし、神の人よ。あなたはこれらの事を避けなさい。そして、義と信心と信仰と愛と忍耐と柔和とを追い求めなさい。 *12*信仰の戦いをりっぱに戦いぬいて、永遠のいのちを獲得しなさい。あなたは、そのために召され、多くの証人の前で、りっぱなあかしをしたのである。 *13*わたしはすべてのものを生かして下さる神のみまえと、またポンテオ・ピラトの面前でりっぱなあかしをなさったキリスト・イエスのみまえで、あなたに命じる。 *14*わたしたちの主イエス・キリストの出現まで、その戒めを汚すことがなく、また、それを非難のないように守りなさい。
*15*時がくれば、祝福に満ちた、ただひとりの力あるかた、もろもろの王の王、もろもろの主の主が、キリストを出現させて下さるであろう。 *16*神はただひとり不死を保ち、近づきがたい光の中に住み、人間の中でだれも見た者がなく、見ることもできないかたである。ほまれと永遠の支配とが、神にあるように、アァメン。 *17*この世で富んでいる者たちに、命じなさい。高慢にならず、たよりにならない富に望みをおかず、むしろ、わたしたちにすべての物を豊かに備えて楽しませて下さる神に、のぞみをおくように、 *18*また、良い行いをし、良いわざに富み、惜しみなく施し、人に分け与えることを喜び、 *19*こうして、真のいのちを得るために、未来に備えてよい土台を自分のために築き上げるように、命じなさい。 *20*テモテよ。あなたにゆだねられていることを守りなさい。そして、俗悪なむだ話と、偽りの「知識」による反対論とを避けなさい。 *21*ある人々はそれに熱中して、信仰からそれてしまったのである。恵みが、あなたがたと共にあるように。

1 神の御旨により、キリスト・イエスにある
いのちの約束によって立てられたキリスト・
イエスの使徒パウロから、 2愛する子テモ
テへ。父なる神とわたしたちの主キリスト・
イエスから、恵みとあわれみと平安とが、
あなたにあるように。 3わたしは、日夜、祈
の中で、絶えずあなたのことを思い出して
は、きよい良心をもって先祖以来つかえ
ている神に感謝している。 4わたしは、あ
なたの涙をおぼえており、あなたに会って
喜びで満たされたいと、切に願っている。
5また、あなたがいだいている偽りのない
信仰を思い起している。この信仰は、まず
あなたの祖母ロイスとあなたの母ユニケと
に宿ったものであったが、今あなたにも宿
っていると、わたしは確信している。 6こう
いうわけで、あなたに注意したい。わたし
の按手によって内にいただいた神の賜物
を、再び燃えたたせなさい。 7というのは、
神がわたしたちに下さったのは、臆する霊
ではなく、力と愛と慎みとの霊なのである
。 8だから、あなたは、わたしたちの主の
あかしをすることや、わたしが主の囚人で
あることを、決して恥ずかしく思ってはなら
ない。むしろ、神の力にささえられて、福
音のために、わたしと苦しみを共にしてほ
しい。 9神はわたしたちを救い、聖なる招
きをもって召して下さったのであるが、そ
れは、わたしたちのわざによるのではなく
、神ご自身の計画に基き、また、永遠の昔
にキリスト・イエスにあってわたしたちに賜
わっていた恵み、 10そして今や、わたし
たちの救主キリスト・イエスの出現によって
明らかにされた恵みによるのである。キリ
ストは死を滅ぼし、福音によっていのちと
不死とを明らかに示されたのである。
11わたしは、この福音のために立てられ
て、その宣教者、使徒、教師になった。
12そのためにまた、わたしはこのような苦
しみを受けているが、それを恥としない。
なぜなら、わたしは自分の信じてきたかた
を知っており、またそのかたは、わたしに
ゆだねられているものを、かの日に至るま
で守って下さることができると、確信して
いるからである。 13あなたは、キリスト・イエ
スに対する信仰と愛とをもって、わたしか
ら聞いた健全な言葉を模範にしなさい。
14そして、あなたにゆだねられている尊
いものを、わたしたちの内に宿っている聖
霊によって守りなさい。 15あなたの知って
いるように、アジヤにいる者たちは、皆わ
たしから離れて行った。その中には、フゲ
ロとヘルモゲネもいる。 16どうか、主が、
オネシポロの家にあわれみをたれて下さ
るように。彼はたびたび、わたしを慰めてく
れ、またわたしの鎖を恥とも思わないで、
17ローマに着いた時には、熱心にわたし
を捜しまわった末、尋ね出してくれたので
ある。 18どうか、イオウオ(?)[i]がかの日に、
あわれみを彼に賜わるように。――彼が
エペソで、どれほどわたしに仕えてくれた
かは、だれよりもあなたがよく知っている。

2 そこで、わたしの子よ。あなたはキリスト
・イエスにある恵みによって、強くなりなさ
い。 2そして、あなたが多くの証人の前で
わたしから聞いたことを、さらにほかの者
たちにも教えることのできるような忠実な
人々に、ゆだねなさい。 3キリスト・イエス
の良い兵卒として、わたしと苦しみを共に
してほしい。 4兵役に服している者は、日
常生活の事に煩わされてはいない。ただ
、兵を募った司令官を喜ばせようと努める
。 5また、競技をするにしても、規定に従
って競技をしなければ、栄冠は得られな
い。 6労苦をする農夫が、だれよりも先に
、生産物の分配にあずかるべきである。
7わたしの言うことを、よく考えてみなさい
。主は、それを十分に理解する力をあな
たに賜わるであろう。 8ダビデの子孫とし
て生れ、死人のうちからよみがえったイエ
ス・キリストを、いつも思っていなさい。これ
がわたしの福音である。 9この福音のため
に、わたしは悪者のように苦しめられ、つ
いに鎖につながれるに至った。しかし、神
の言はつながれてはいない。 10それだか
ら、わたしは選ばれた人たちのために、い
っさいのことを耐え忍ぶのである。それは
、彼らもキリスト・イエスによる救を受け、ま
た、それと共に永遠の栄光を受けるため
である。 11次の言葉は確実である。「もし
わたしたちが、彼と共に死んだなら、また
彼と共に生きるであろう。 12もし耐え忍ぶ
なら、彼と共に支配者となるであろう。もし
彼を否むなら、彼もわたしたちを否むであ
ろう。 13たとい、わたしたちは不真実で

あっても、彼は常に真実である。彼は自分
を偽ることが、できないのである」。 *14*あな
たは、これらのことを彼らに思い出させて
、なんの益もなく、聞いている人々を破滅
におとしいれるだけである言葉の争いをし
ないように、神のみまえでおごそかに命じ
なさい。 *15*あなたは真理の言葉を正しく
教え、恥じるところのない錬達した働き人
になって、神に自分をささげるように努め
はげみなさい。 *16*俗悪なむだ話を避けな
さい。それによって人々は、ますます不信
心に落ちていき、 *17*彼らの言葉は、がん
のように腐れひろがるであろう。その中に
はヒメナオとピレトとがいる。 *18*彼らは真
理からはずれ、復活はすでに済んでしま
ったと言い、そして、ある人々の信仰をく
つがえしている。 *19*しかし、神のゆるがな
い土台はすえられていて、それに次の句
が証印として、しるされている。「主[ii]は自
分の者たちを知る」。また「主[iii]の名を呼ぶ
者は、すべて不義から離れよ」。 *20*大きな
家には、金や銀の器ばかりではなく、木や
土の器もあり、そして、あるものは尊いこと
に用いられ、あるものは卑しいことに用い
られる。 *21*もし人が卑しいものを取り去っ
て自分をきよめるなら、彼は尊いきよめら
れた器となって、主人に役立つものとなり
、すべての良いわざに間に合うようになる
。 *22*そこで、あなたは若い時の情欲を避
けなさい。そして、きよい心をもって主を呼
び求める人々と共に、義と信仰と愛と平和
とを追い求めなさい。 *23*愚かで無知な論
議をやめなさい。それは、あなたが知って
いるとおり、ただ争いに終るだけである。
*24*主の僕たる者は争ってはならない。だ
れに対しても親切であって、よく教え、よく
忍び、 *25*反対する者を柔和な心で教え
導くべきである。おそらく神は、彼らに悔
改めの心を与えて、真理を知らせ、 *26*一
度は悪魔に捕えられてその欲するままに
なっていても、目ざめて彼のわなからのが
れさせて下さるであろう。

3 しかし、このことは知っておかねばなら
ない。終りの時には、苦難の時代が来る。
*2*その時、人々は自分を愛する者、金を
愛する者、大言壮語する者、高慢な者、
神をそしる者、親に逆らう者、恩を知らぬ
者、神聖を汚す者、 *3*無情な者、融和しな
い者、そしる者、無節制な者、粗暴な者、
善を好まない者、 *4*裏切り者、乱暴者、高
言をする者、神よりも快楽を愛する者、
*5*信心深い様子をしながらその実を捨て
る者となるであろう。こうした人々を避けな
さい。 *6*彼らの中には、人の家にもぐり込
み、そして、さまざまの欲に心を奪われて
、多くの罪を積み重ねている愚かな女ども
を、とりこにしている者がある。 *7*彼女たち
は、常に学んではいるが、いつになっても
真理の知識に達することができない。 *8*ち
ょうど、ヤンネとヤンブレとがモーセに逆ら
ったように、こうした人々も真理に逆らうの
である。彼らは知性の腐った、信仰の失
格者である。 *9*しかし、彼らはそのまま進
んでいけるはずがない。彼らの愚かさは、
あのふたりの場合と同じように、多くの人
に知れて来るであろう。 *10*しかしあなたは
、わたしの教、歩み、こころざし、信仰、寛
容、愛、忍耐、 *11*それから、わたしがアン
テオケ、イコニオム、ルステラで受けた数
々の迫害、苦難に、よくも続いてきてくれ
た。そのひどい迫害にわたしは耐えてき
たが、主はそれらいっさいのことから、救
い出して下さったのである。 *12*いったい、
キリスト・イエスにあって信心深く生きようと
する者は、みな、迫害を受ける。 *13*悪人と
詐欺師とは人を惑わし人に惑わされて、
悪から悪へと落ちていく。 *14*しかし、あな
たは、自分が学んで確信しているところに
、いつもとどまっていなさい。あなたは、そ
れをだれから学んだか知っており、 *15*ま
た幼い時から、聖書に親しみ、それが、キ
リスト・イエスに対する信仰によって救に至
る知恵を、あなたに与えうる書物であるこ
とを知っている。 *16*聖書は、すべて神の
霊感を受けて書かれたものであって、人
を教え、戒め、正しくし、義に導くのに有
益である。 *17*それによって、神の人が、あ
らゆる良いわざに対して十分な準備がで
きて、完全にととのえられた者になるので
ある。

4 神のみまえと、生きている者と死んだ者
とをさばくべきキリスト・イエスのみまえで、
キリストの出現とその御国とを思い、おご
そかに命じる。 *2*御言を宣べ伝えなさい。

時が良くても悪くても、それを励み、あくまでも寛容な心でよく教えて、責め、戒め、勧めなさい。 *3*人々が健全な教に耐えられなくなり、耳ざわりのよい話をしてもらおうとして、自分勝手な好みにまかせて教師たちを寄せ集め、 *4*そして、真理からは耳をそむけて、作り話の方にそれていく時が来るであろう。 *5*しかし、あなたは、何事にも慎み、苦難を忍び、伝道者のわざをなし、自分の務を全うしなさい。 *6*わたしは、すでに自身を犠牲としてささげている。わたしが世を去るべき時はきた。 *7*わたしは戦いをりっぱに戦いぬき、走るべき行程を走りつくし、信仰を守りとおした。 *8*今や、義の冠がわたしを待っているばかりである。かの日には、公平な審判者である主が、それを授けて下さるであろう。わたしばかりではなく、主の出現を心から待ち望んでいたすべての人にも授けて下さるであろう。 *9*わたしの所に、急いで早くきてほしい。 *10*デマスはこの世を愛し、わたしを捨ててテサロニケに行ってしまい、クレスケンスはガラテヤに、テトスはダルマテヤに行った。 *11*ただルカだけが、わたしのもとにいる。マルコを連れて、一緒にきなさい。彼はわたしの務のために役に立つから。 *12*わたしはテキコをエペソにつかわした。 *13*あなたが来るときに、トロアスのカルポの所に残しておいた上着を持ってきてほしい。また書物も、特に、羊皮紙のを持ってきてもらいたい。 *14*銅細工人のアレキサンデルが、わたしを大いに苦しめた。主[iv]はそのしわざに対して、彼に報いなさるだろう。 *15*あなたも、彼を警戒しなさい。彼は、わたしたちの言うことに強く反対したのだから。 *16*わたしの第一回の弁明の際には、わたしに味方をする者はひとりもなく、みなわたしを捨てて行った。どうか、彼らが、そのために責められることがないように。 *17*しかし、わたしが御言を余すところなく宣べ伝えて、すべての異邦人に聞かせるように、主はわたしを助け、力づけて下さった。そして、わたしは、ししの口から救い出されたのである。 *18*主はわたしを、すべての悪のわざから助け出し、天にある御国に救い入れて下さるであろう。栄光が永遠から永遠にわたって主にあるように、アァメン。 *19*プリスカとアクラとに、またオネシポロの家に、よろしく伝えてほしい。 *20*エラストはコリントにとどまっており、トロピモは病気なので、ミレトに残してきた。 *21*冬になる前に、急いできてほしい。ユブロ、プデス、リノス、クラウデヤならびにすべての兄弟たちから、あなたによろしく。 *22*主が、あなたの霊と共にいますように。恵みが、あなたがたと共にあるように。

---

[i] Hutter (1599), Delitzsch (1877), Salkinson (1885), UBS (1979) と比較せよ。創世記6章8節、出エジプト記33章17節、列王記下13章23節、エズラ記9章8節、詩編84編12節、130編2、3節とも比較せよ。

[ii] Delitzsch (1877), Salkinson (1885), UBS (1979) はここで「イオウオ(?)」とする。民数記16章5節、詩編1章6節、37編18、28節とも比較せよ。

[iii] 本文の異文:「キリストの名」。Hutter (1599), Delitzsch (1877), Salkinson (1885), UBS (1979) はここで「イオウオ(?)」とする。詩編34編14節、37編27節、97編10節とも比較せよ。

[iv] Hutter (1599), Delitzsch (1877), Salkinson (1885), UBS (1979) はここで「イオウオ(?)」とする。サムエル記下3章39節、詩編28編4節、62編12節、109編20節とも比較せよ。

1 神の僕、イエス・キリストの使徒パウロか
ら――わたしが使徒とされたのは、神に選
ばれた者たちの信仰を強め、また、信心
にかなう真理の知識を彼らに得させるた
めであり、 2偽りのない神が永遠の昔に約
束された永遠のいのちの望みに基くので
ある。 3神は、定められた時に及んで、御
言を宣教によって明らかにされたが、わた
しは、わたしたちの救主なる神の任命によ
って、この宣教をゆだねられたのである――
4信仰を同じうするわたしの真実の子
テトスへ。父なる神とわたしたちの救主キ
リスト・イエスから、恵みと平安とが、あなた
にあるように。 5あなたをクレテにおいてき
たのは、わたしがあなたに命じておいたよ
うに、そこにし残してあることを整理しても
らい、また、町々に長老を立ててもらうた
めにほかならない。 6長老は、責められる
点がなく、ひとりの妻の夫であって、その
子たちも不品行のうわさをたてられず、親
不孝をしない信者でなくてはならない。
7監督たる者は、神に仕える者として、責
められる点がなく、わがままでなく、軽々し
く怒らず、酒を好まず、乱暴でなく、利を
むさぼらず、 8かえって、旅人をもてなし、
善を愛し、慎み深く、正しく、信仰深く、自
制する者であり、 9教にかなった信頼す
べき言葉を守る人でなければならない。
それは、彼が健全な教によって人をさとし
、また、反対者の誤りを指摘することがで
きるためである。 10実は、法に服さない者
、空論に走る者、人の心を惑わす者が多
くおり、とくに、割礼のある者の中に多い。
11彼らの口を封ずべきである。彼らは恥
ずべき利のために、教えてはならないこと
を教えて、数々の家庭を破壊してしまって
いる。 12クレテ人のうちのある預言者が
「クレテ人は、いつもうそつき、たちの悪い
けもの、なまけ者の食いしんぼう」と言って
いるが、 13この非難はあたっている。だか
ら、彼らをきびしく責めて、その信仰を健
全なものにし、 14ユダヤ人の作り話や、
真理からそれていった人々の定めなどに
、気をとられることがないようにさせなさい
。 15きよい人には、すべてのものがきよい
。しかし、汚れている不信仰な人には、き
よいものは一つもなく、その知性も良心も
汚れてしまっている。 16彼らは神を知っ
ていると、口では言うが、行いではそれを
否定している。彼らは忌まわしい者、また
不従順な者であって、いっさいの良いわ
ざに関しては、失格者である。

2 しかし、あなたは、健全な教にかなうこ
とを語りなさい。 2老人たちには自らを制
し、謹厳で、慎み深くし、また、信仰と愛と
忍耐とにおいて健全であるように勧め、
3年老いた女たちにも、同じように、たち
居ふるまいをうやうやしくし、人をそしった
り大酒の奴隷になったりせず、良いことを
教える者となるように、勧めなさい。 4そう
すれば、彼女たちは、若い女たちに、夫
を愛し、子供を愛し、 5慎み深く、純潔で
、家事に努め、善良で、自分の夫に従順
であるように教えることになり、したがって
、神の言がそしりを受けないようになるで
あろう。 6若い男にも、同じく、万事につけ
慎み深くあるように、勧めなさい。 7あなた
自身を良いわざの模範として示し、人を
教える場合には、清廉と謹厳とをもってし
、 8非難のない健全な言葉を用いなさい
。そうすれば、反対者も、わたしたちにつ
いてなんの悪口も言えなくなり、自ら恥じ
いるであろう。 9奴隷には、万事につけそ
の主人に服従して、喜ばれるようになり、
反抗をせず、 10盗みをせず、どこまでも
心をこめた真実を示すようにと、勧めなさ
い。そうすれば、彼らは万事につけ、わた
したちの救主なる神の教を飾ることになろ
う。 11すべての人を救う神の恵みが現れ
た。 12そして、わたしたちを導き、不信心
とこの世の情欲とを捨てて、慎み深く、正
しく、信心深くこの世で生活し、 13祝福に
満ちた望み、すなわち、大いなる神、わた
したちの救主キリスト・イエスの栄光の出
現を待ち望むようにと、教えている。 14こ
のキリストが、わたしたちのためにご自身
をささげられたのは、わたしたちをすべて
の不法からあがない出して、良いわざに
熱心な選びの民を、ご自身のものとして
聖別するためにほかならない。 15あなた
は、権威をもってこれらのことを語り、勧め
、また責めなさい。だれにも軽んじられて
はならない。

3 あなたは彼らに勧めて、支配者、権威
ある者に服し、これに従い、いつでも良い
わざをする用意があり、 *2*だれをもそしら
ず、争わず、寛容であって、すべての人
に対してどこまでも柔和な態度を示すべ
きことを、思い出させなさい。 *3*わたしたち
も以前には、無分別で、不従順な、迷っ
ていた者であって、さまざまの情欲と快楽
との奴隷になり、悪意とねたみとで日を過
ごし、人に憎まれ、互に憎み合っていた。
*4*ところが、わたしたちの救主なる神の慈
悲と博愛とが現れたとき、 *5*わたしたちの
行った義のわざによってではなく、ただ神
のあわれみによって、再生の洗いを受け
、聖霊により新たにされて、わたしたちは
救われたのである。 *6*この聖霊は、わたし
たちの救主イエス・キリストをとおして、わ
たしたちの上に豊かに注がれた。 *7*これ
は、わたしたちが、キリストの恵みによって
義とされ、永遠のいのちを望むことによっ
て、御国をつぐ者となるためである。 *8*こ
の言葉は確実である。わたしは、あなたが
それらのことを主張するのを願っている。
それは、神を信じている者たちが、努めて
良いわざを励むことを心がけるようになる
ためである。これは良いことであって、人
々の益となる。 *9*しかし、愚かな議論と、系
図と、争いと、律法についての論争とを、
避けなさい。それらは無益かつ空虚なこと
である。 *10*異端者は、一、二度、訓戒を
加えた上で退けなさい。 *11*たしかに、こう
いう人たちは、邪道に陥り、自ら悪と知り
つつも、罪を犯しているからである。 *12*わ
たしがアルテマスかテキコかをあなたのと
ころに送ったなら、急いでニコポリにいる
わたしの所にきなさい。わたしは、そこで
冬を過ごすことにした。 *13*法学者ゼナスと
、アポロとを、急いで旅につかせ、不自由
のないようにしてあげなさい。 *14*わたした
ちの仲間も、さし迫った必要に備えて、努
めて良いわざを励み、実を結ばぬ者とな
らないように、心がけるべきである。 *15*わ
たしと共にいる一同の者から、あなたによ
ろしく。わたしたちを愛している信徒たち
に、よろしく。恵みが、あなたがた一同と共
にあるように。

ピレモンへの手紙

1 キリスト・イエスの囚人パウロと兄弟テモ
テから、わたしたちの愛する同労者ピレモ
ン、 2姉妹アピヤ、わたしたちの戦友アル
キポ、ならびに、あなたの家にある教会へ
。 3わたしたちの父なる神と主イエス・キリ
ストから、恵みと平安とが、あなたがたにあ
るように。 4わたしは、祈の時にあなたを
おぼえて、いつもわたしの神に感謝して
いる。 5それは、主イエスに対し、また、す
べての聖徒に対するあなたの愛と信仰と
について、聞いているからである。 6どう
か、あなたの信仰の交わりが強められて、
わたしたちの間でキリストのためになされ
ているすべての良いことが、知られて来る
ようになってほしい。 7兄弟よ。わたしは、
あなたの愛によって多くの喜びと慰めとを
与えられた。聖徒たちの心が、あなたによ
って力づけられたからである。 8こういうわ
けで、わたしは、キリストにあってあなたの
なすべき事を、きわめて率直に指示しても
よいと思うが、 9むしろ、愛のゆえにお願
いする。すでに老年になり、今またキリスト
・イエスの囚人となっているこのパウロが、
10捕われの身で産んだわたしの子供オ
ネシモについて、あなたにお願いする。
11彼は以前は、あなたにとって無益な者
であったが、今は、あなたにも、わたしにも
、有益な者になった。 12彼をあなたのもと
に送りかえす。彼はわたしの心である。
13わたしは彼を身近に引きとめておいて
、わたしが福音のために捕われている間
、あなたに代って仕えてもらいたかったの
である。 14しかし、わたしは、あなたの承
諾なしには何もしたくない。あなたが強制
されて良い行いをするのではなく、自発
的にすることを願っている。 15彼がしばら
くの間あなたから離れていたのは、あなた
が彼をいつまでも留めておくためであった
かも知れない。 16しかも、もはや奴隷とし
てではなく、奴隷以上のもの、愛する兄弟
としてである。とりわけ、わたしにとってそう
であるが、ましてあなたにとっては、肉に
おいても、主にあっても、それ以上であろ
う。 17そこで、もしわたしをあなたの信仰
の友と思ってくれるなら、わたし同様に彼
を受けいれてほしい。 18もし、彼があなた
に何か不都合なことをしたか、あるいは、
何か負債があれば、それをわたしの借り
にしておいてほしい。 19このパウロが手
ずからしるす、わたしがそれを返済する。
この際、あなたが、あなた自身をわたしに
負うていることについては、何も言うまい。
20兄弟よ。わたしはあなたから、主にあっ
て何か益を得たいものである。わたしの心
を、主にあって力づけてもらいたい。 21わ
たしはあなたの従順を堅く信じて、この手
紙を書く。あなたは、確かにわたしが言う
以上のことをしてくれるだろう。 22ついで
にお願いするが、わたしのために宿を用
意しておいてほしい。あなたがたの祈によ
って、あなたがたの所に行かせてもらえる
ように望んでいるのだから。 23キリスト・イ
エスにあって、わたしと共に捕われの身に
なっているエパフラスから、あなたによろし
く。 24わたしの同労者たち、マルコ、アリ
スタルコ、デマス、ルカからも、よろしく。
25主イエス・キリストの恵みが、あなたが
たの霊と共にあるように。

1 神は、むかしは、預言者たちにより、いろいろな時に、いろいろな方法で、先祖たちに語られたが、 2この終りの時には、御子によって、わたしたちに語られたのである。神は御子を万物の相続者と定め、また、御子によって、もろもろの世界を造られた。 3御子は神の栄光の輝きであり、神の本質の真の姿であって、その力ある言葉をもって万物を保っておられる。そして罪のきよめのわざをなし終えてから、いと高き所にいます大能者の右に、座につかれたのである。 4御子は、その受け継がれた名が御使たちの名にまさっているので、彼らよりもすぐれた者となられた。 5いったい、神は御使たちのだれに対して、「あなたこそは、わたしの子。きょう、わたしはあなたを生んだ」と言い、さらにまた、「わたしは彼の父となり、彼はわたしの子となるであろう」と言われたことがあるか。 6さらにまた、神は、その長子を世界に導き入れるに当って、「神の御使たちはことごとく、彼を拝すべきである」と言われた。 7また、御使たちについては、「神は、御使たちを風とし、ご自分に仕える者たちを炎とされる」と言われているが、 8御子については、「神よ、あなたの御座は、世々限りなく続き、あなたの支配のつえは、公平のつえである。 9あなたは義を愛し、不法を憎まれた。それゆえに、神、あなたの神は、喜びのあぶらを、あなたの友に注ぐよりも多く、あなたに注がれた」と言い、 10さらに、「主よ、あなたは初めに、地の基をおすえになった。もろもろの天も、み手のわざである。 11これらのものは滅びてしまうが、あなたは、いつまでもいますかたである。すべてのものは衣のように古び、 12それらをあなたは、外套のように巻かれる。これらのものは、衣のように変るが、あなたは、いつも変ることがなく、あなたのよわいは、尽きることがない」とも言われている。 13神は、御使たちのだれに対して、「あなたの敵を、あなたの足台とするときまでは、わたしの右に座していなさい」と言われたことがあるか。 14御使たちはすべて仕える霊であって、救を受け継ぐべき人々に奉仕するため、つかわされたものではないか。

2 こういうわけだから、わたしたちは聞かされていることを、いっそう強く心に留めねばならない。そうでないと、おし流されてしまう。 2というのは、御使たちをとおして語られた御言が効力を持ち、あらゆる罪過と不従順とに対して正当な報いが加えられたとすれば、 3わたしたちは、こんなに尊い救をなおざりにしては、どうして報いをのがれることができようか。この救は、初め主によって語られたものであって、聞いた人々からわたしたちにあかしされ、 4さらに神も、しるしと不思議とさまざまな力あるわざとにより、また、御旨に従い聖霊を各自に賜うことによって、あかしをされたのである。 5いったい、神は、わたしたちがここで語っているきたるべき世界を、御使たちに服従させることは、なさらなかった。 6聖書はある箇所で、こうあかししている、「人間が何者だから、これを御心に留められるのだろうか。人の子が何者だから、これをかえりみられるのだろうか。 7あなたは、しばらくの間、彼を御使たちよりも低い者となし、栄光とほまれとを冠として彼に与え、 8万物をその足の下に服従させて下さった」。「万物を彼に服従させて下さった」という以上、服従しないものは、何ひとつ残されていないはずである。しかし、今もなお万物が彼に服従している事実を、わたしたちは見ていない。 9ただ、「しばらくの間、御使たちよりも低い者とされた」イエスが、死の苦しみのゆえに、栄光とほまれとを冠として与えられたのを見る。それは、彼が神の恵みによって、すべての人のために死を味わわれるためであった。 10なぜなら、万物の帰すべきかた、万物を造られたかたが、多くの子らを栄光に導くのに、彼らの救の君を、苦難をとおして全うされたのは、彼にふさわしいことであったからである。 11実に、きよめるかたも、きよめられる者たちも、皆ひとりのかたから出ている。それゆえに主は、彼らを兄弟と呼ぶことを恥とされない。 12すなわち、「わたしは、御名をわたしの兄弟たちに告げ知らせ、教会の中で、あなたをほめ歌おう」と言い、 13また、「わたしは、彼により頼む」、また、「見よ、わたしと、イオウオ(?)[i]がわたしに賜わった子らとは」と言われた。 14このように、子たちは血と

肉とに共にあずかっているので、イエスも
また同様に、それらをそなえておられる。
それは、死の力を持つ者、すなわち悪魔
を、ご自分の死によって滅ぼし、 *15*死の
恐怖のために一生涯、奴隷となっていた
者たちを、解き放つためである。 *16*確か
に、彼は天使たちを助けることはしないで
、アブラハムの子孫を助けられた。 *17*そこ
で、イエスは、神のみまえにあわれみ深い
忠実な大祭司となって、民の罪をあがなう
ために、あらゆる点において兄弟たちと同
じようにならねばならなかった。 *18*主ご自
身、試錬を受けて苦しまれたからこそ、試
錬の中にある者たちを助けることができる
のである。

3 そこで、天の召しにあずかっている聖
なる兄弟たちよ。あなたがたは、わたした
ちが告白する信仰の使者また大祭司なる
イエスを、思いみるべきである。 *2*彼は、
モーセが神の家の全体に対して忠実であ
ったように、自分を立てたかたに対して忠
実であられた。 *3*おおよそ、家を造る者が
家そのものよりもさらに尊ばれるように、彼
は、モーセ以上に、大いなる光栄を受け
るにふさわしい者とされたのである。 *4*家
はすべて、だれかによって造られるもので
あるが、すべてのものを造られたかたは、
神である。 *5*さて、モーセは、後に語らる
べき事がらについてあかしをするために、
仕える者として、神の家の全体に対して
忠実であったが、 *6*キリストは御子として、
神の家を治めるのに忠実であられたので
ある。もしわたしたちが、望みの確信と誇
とを最後までしっかりと持ち続けるなら、わ
たしたちは神の家なのである。 *7*だから、
聖霊が言っているように、「きょう、あなた
がたがみ声を聞いたなら、 *8*荒野におけ
る試錬の日に、神にそむいた時のように、
あなたがたの心を、かたくなにしてはいけ
ない。 *9*あなたがたの先祖たちは、そこで
わたしを試みためし、 *10*しかも、四十年の
間わたしのわざを見たのである。だから、
わたしはその時代の人々に対して、いき
どおって言った、彼らの心は、いつも迷っ
ており、彼らは、わたしの道を認めなかっ
た。 *11*そこで、わたしは怒って、彼らをわ
たしの安息にはいらせることはしない、と
誓った」。 *12*兄弟たちよ。気をつけなさい。
あなたがたの中には、あるいは、不信仰な
悪い心をいだいて、生ける神から離れ去
る者があるかも知れない。 *13*あなたがた
の中に、罪の惑わしに陥って、心をかたく
なにする者がないように、「きょう」というう
ちに、日々、互に励まし合いなさい。 *14*も
し最初の確信を、最後までしっかりと持ち
続けるならば、わたしたちはキリストにあず
かる者となるのである。 *15*それについて、
こう言われている、「きょう、み声を聞いた
なら、神にそむいた時のように、あなたが
たの心を、かたくなにしてはいけない」。
*16*すると、聞いたのにそむいたのは、だ
れであったのか。モーセに率いられて、エ
ジプトから出て行ったすべての人々では
なかったか。 *17*また、四十年の間、神が
いきどおられたのはだれに対してであっ
たか。罪を犯して、その死かばねを荒野
にさらした者たちに対してではなかったか
。 *18*また、神が、わたしの安息に、はいら
せることはしない、と誓われたのは、だれ
に向かってであったか。不従順な者に向
かってではなかったか。 *19*こうして、彼ら
がはいることのできなかったのは、不信仰
のゆえであることがわかる。

4 それだから、神の安息にはいるべき約
束が、まだ存続しているにかかわらず、万
一にも、はいりそこなう者が、あなたがたの
中から出ることがないように、注意しようで
はないか。 *2*というのは、彼らと同じく、わ
たしたちにも福音が伝えられているのであ
る。しかし、その聞いた御言は、彼らには
無益であった。それが、聞いた者たちに、
信仰によって結びつけられなかったから
である。 *3*ところが、わたしたち信じている
者は、安息にはいることができる。それは
、「わたしが怒って、彼らをわたしの安息
に、はいらせることはしないと、誓ったよう
に」と言われているとおりである。しかも、
みわざ[ii]は世の初めに、でき上がっていた
。 *4*すなわち、聖書のある箇所で、七日目
のことについて、「神は、七日目にすべて
のわざをやめて休まれた」と言われており
、 *5*またここで、「彼らをわたしの安息に、
はいらせることはしない」と言われている。
*6*そこで、その安息にはいる機会が、人々

になお残されているのであり、しかも、初
めに福音を伝えられた人々は、不従順の
ゆえに、はいることをしなかったのである
から、 7神は、あらためて、ある日を「きょう
」として定め、長く時がたってから、先に引
用したとおり、「きょう、み声を聞いたなら、
あなたがたの心を、かたくなにしてはいけ
ない」とダビデをとおして言われたのであ
る。 8もしヨシュアが彼らを休ませていたと
すれば、神はあとになって、ほかの日のこ
とについて語られたはずはない。 9こうい
うわけで、安息日の休みが、神の民のた
めにまだ残されているのである。 10なぜ
なら、神の安息にはいった者は、神がみ
わざをやめて休まれたように、自分もわざ
を休んだからである。 11したがって、わた
したちは、この安息にはいるように努力し
ようではないか。そうでないと、同じような
不従順の悪例にならって、落ちて行く者
が出るかもしれない。 12というのは、神の
言は生きていて、力があり、もろ刃のつる
ぎよりも鋭くて、精神と霊魂と、関節と骨髄
とを切り離すまでに刺しとおして、心の思
いと志とを見分けることができる。 13そし
て、神のみまえには、あらわでない被造物
はひとつもなく、すべてのものは、神の目
には裸であり、あらわにされているのであ
る。この神に対して、わたしたちは言い開
きをしなくてはならない。 14さて、わたした
ちには、もろもろの天をとおって行かれた
大祭司なる神の子イエスがいますのであ
るから、わたしたちの告白する信仰をかた
く守ろうではないか。 15この大祭司は、わ
たしたちの弱さを思いやることのできない
ようなかたではない。罪は犯されなかった
が、すべてのことについて、わたしたちと
同じように試錬に会われたのである。
16だから、わたしたちは、あわれみを受
け、また、恵みにあずかって時機を得た
助けを受けるために、はばかることなく恵
みの御座に近づこうではないか。

5 大祭司なるものはすべて、人間の中か
ら選ばれて、罪のために供え物といけに
えとをささげるように、人々のために神に
仕える役に任じられた者である。 2彼は自
分自身、弱さを身に負うているので、無知
な迷っている人々を、思いやることができ
ると共に、 3その弱さのゆえに、民のため
だけではなく自分自身のためにも、罪に
ついてささげものをしなければならないの
である。 4かつ、だれもこの栄誉ある務を
自分で得るのではなく、アロンの場合のよ
うに、神の召しによって受けるのである。
5同様に、キリストもまた、大祭司の栄誉
を自分で得たのではなく、「あなたこそは
、わたしの子。きょう、わたしはあなたを生
んだ」と言われたかたから、お受けになっ
たのである。 6また、ほかの箇所でこう言
われている、「あなたこそは、永遠に、メル
キゼデクに等しい祭司である」。 7キリスト
は、その肉の生活の時には、激しい叫び
と涙とをもって、ご自分を死から救う力の
あるかたに、祈と願いとをささげ、そして、
その深い信仰のゆえに聞きいれられたの
である。 8彼は御子であられたにもかかわ
らず、さまざまの苦しみによって従順を学
び、 9そして、全き者とされたので、彼に
従順であるすべての人に対して、永遠の
救の源となり、 10神によって、メルキゼデ
クに等しい大祭司と、となえられたのであ
る。 11このことについては、言いたいこと
がたくさんあるが、あなたがたの耳が鈍く
なっているので、それを説き明かすことは
むずかしい。 12あなたがたは、久しい以
前からすでに教師となっているはずなの
に、もう一度神の言の初歩を、人から手ほ
どきしてもらわねばならない始末である。
あなたがたは堅い食物ではなく、乳を必
要としている。 13すべて乳を飲んでいる
者は、幼な子なのだから、義の言葉を味
わうことができない。 14しかし、堅い食物
は、善悪を見わける感覚を実際に働かせ
て訓練された成人のとるべきものである。

6 そういうわけだから、わたしたちは、キリ
ストの教の初歩をあとにして、完成を目ざ
して進もうではないか。今さら、死んだ行
いの悔改めと神への信仰、 2洗いごとに
ついての教と按手、死人の復活と永遠の
さばき、などの基本の教をくりかえし学ぶ
ことをやめようではないか。 3神の許しを
得て、そうすることにしよう。 4いったん、
光を受けて天よりの賜物を味わい、聖霊
にあずかる者となり、 5また、神の良きみ
言葉と、きたるべき世の力とを味わった者

たちが、6そののち堕落した場合には、
またもや神の御子を、自ら十字架につけて
、さらしものにするわけであるから、ふたた
び悔改めにたち帰ることは不可能である。
7たとえば、土地が、その上にたびたび降
る雨を吸い込で、耕す人々に役立つ作物
を育てるなら、神の祝福にあずかる。8し
かし、いばらやあざみをはえさせるなら、
それは無用になり、やがてのろわれ、つい
には焼かれてしまう。9しかし、愛する者
たちよ。こうは言うものの、わたしたちは、
救にかかわる更に良いことがあるのを、あ
なたがたについて確信している。10神は
不義なかたではないから、あなたがたの
働きや、あなたがたがかつて聖徒に仕え
、今もなお仕えて、御名のために示してく
れた愛を、お忘れになることはない。11わ
たしたちは、あなたがたがひとり残らず、
最後まで望みを持ちつづけるためにも、
同じ熱意を示し、12怠ることがなく、信仰
と忍耐とをもって約束のものを受け継ぐ人
々に見習う者となるように、と願ってやまな
い。13さて、神がアブラハムに対して約
束されたとき、さして誓うのに、ご自分より
も上のものがないので、ご自分をさして誓
って、14「わたしは、必ずあなたを祝福し
、必ずあなたの子孫をふやす」と言われた
。15このようにして、アブラハムは忍耐強
く待ったので、約束のものを得たのである
。16いったい、人間は自分より上のものを
さして誓うのであり、そして、その誓いはす
べての反対論を封じる保証となるのである
。17そこで、神は、約束のものを受け継ぐ
人々に、ご計画の不変であることを、いっ
そうはっきり示そうと思われ、誓いによって
保証されたのである。18それは、偽ること
のあり得ない神に立てられた二つの不変
の事がらによって、前におかれている望
みを捕えようとして世をのがれてきたわた
したちが、力強い励ましを受けるためであ
る。19この望みは、わたしたちにとって、
いわば、たましいを安全にし不動にする
錨であり、かつ「幕の内」にはいり行かせ
るものである。20その幕の内に、イエスは
、永遠にメルキゼデクに等しい大祭司とし
て、わたしたちのためにさきがけとなって、
はいられたのである。

7 このメルキゼデクはサレムの王であり、
いと高き神の祭司であったが、王たちを
撃破して帰るアブラハムを迎えて祝福し、
2それに対して、アブラハムは彼にすべ
ての物の十分の一を分け与えたのである
。その名の意味は、第一に義の王、次に
またサレムの王、すなわち平和の王であ
る。3彼には父がなく、母がなく、系図が
なく、生涯の初めもなく、生命の終りもなく
、神の子のようであって、いつまでも祭司
なのである。4そこで、族長のアブラハム
が最もよいぶんどり品の十分の一を与え
たのだから、この人がどんなにすぐれた人
物であったかが、あなたがたにわかるであ
ろう。5さて、レビの子のうちで祭司の務を
している者たちは、兄弟である民から、同
じくアブラハムの子孫であるにもかかわら
ず、十分の一を取るように、律法によって
命じられている。6ところが、彼らの血統に
属さないこの人が、アブラハムから十分の
一を受けとり、約束を受けている者を祝福
したのである。7言うまでもなく、小なる者
が大なる者から祝福を受けるのである。
8その上、一方では死ぬべき人間が、十
分の一を受けているが、他方では「彼は
生きている者」とあかしされた人が、それ
を受けている。9そこで、十分の一を受け
るべきレビでさえも、アブラハムを通じて
十分の一を納めた、と言える。10なぜな
ら、メルキゼデクがアブラハムを迎えた時
には、レビはまだこの父祖の腰の中にい
たからである。11もし全うされることがレビ
系の祭司制によって可能であったら――
民は祭司制の下に律法を与えられたので
あるが――なんの必要があって、なお、
「アロンに等しい」と呼ばれない、別な「メ
ルキゼデクに等しい」祭司が立てられるの
であるか。12祭司制に変更があれば、律
法にも必ず変更があるはずである。13さ
て、これらのことは、いまだかつて祭壇に
奉仕したことのない、他の部族に関して言
われているのである。14というのは、わた
したちの主がユダ族の中から出られたこと
は、明らかであるが、モーセは、この部族
について、祭司に関することでは、ひとこ
とも言っていない。15そしてこの事は、メ
ルキゼデクと同様な、ほかの祭司が立て
られたことによって、ますます明白になる。

*16*彼は、肉につける戒めの律法によらないで、朽ちることのないいのちの力によって立てられたのである。 *17*それについては、聖書に「あなたこそは、永遠に、メルキゼデクに等しい祭司である」とあかしされている。 *18*このようにして、一方では、前の戒めが弱くかつ無益であったために無効になると共に、 *19*(律法は、何事をも全うし得なかったからである)、他方では、さらにすぐれた望みが現れてきて、わたしたちを神に近づかせるのである。 *20*その上に、このことは誓いをもってなされた。人々は、誓いをしないで祭司とされるのであるが、 *21*この人の場合は、次のような誓いをもってされたのである。すなわち、彼について、こう言われている、「イオウオ(?)[iii]は誓われたが、心を変えることをされなかった。あなたこそは、永遠に祭司である」。 *22*このようにして、イエスは更にすぐれた契約の保証となられたのである。 *23*かつ、死ということがあるために、務を続けることができないので、多くの人々が祭司に立てられるのである。 *24*しかし彼は、永遠にいますかたであるので、変らない祭司の務を持ちつづけておられるのである。 *25*そこでまた、彼は、いつも生きていて彼らのためにとりなしておられるので、彼によって神に来る人々を、いつも救うことができるのである。 *26*このように、聖にして、悪も汚れもなく、罪人とは区別され、かつ、もろもろの天よりも高くされている大祭司こそ、わたしたちにとってふさわしいかたである。 *27*彼は、ほかの大祭司のように、まず自分の罪のため、次に民の罪のために、日々、いけにえをささげる必要はない。なぜなら、自分をささげて、一度だけ、それをされたからである。 *28*律法は、弱さを身に負う人間を立てて大祭司とするが、律法の後にきた誓いの御言は、永遠に全うされた御子を立てて、大祭司としたのである。

8 以上述べたことの要点は、このような大祭司がわたしたちのためにおられ、天にあって大能者の御座の右に座し、 *2*人間によらず主[iv]によって設けられた真の幕屋なる聖所で仕えておられる、ということである。 *3*おおよそ、大祭司が立てられるのは、供え物やいけにえをささげるためにほかならない。したがって、この大祭司もまた、何かささぐべき物を持っておられねばならない。 *4*そこで、もし彼が地上におられたなら、律法にしたがって供え物をささげる祭司たちが、現にいるのだから、彼は祭司ではあり得なかったであろう。 *5*彼らは、天にある聖所のひな型と影とに仕えている者にすぎない。それについては、モーセが幕屋を建てようとしたとき、御告げを受け、「山で示された型どおりに、注意してそのいっさいを作りなさい」と言われたのである。 *6*ところがキリストは、はるかにすぐれた務を得られたのである。それは、さらにまさった約束に基いて立てられた、さらにまさった契約の仲保者となられたことによる。 *7*もし初めの契約に欠けたところがなかったなら、あとのものが立てられる余地はなかったであろう。 *8*ところが、神は彼らを責めて言われた、「イオウオ(?)[v]は言われる、見よ、わたしがイスラエルの家およびユダの家と、新しい契約を結ぶ日が来る。 *9*それは、わたしが彼らの先祖たちの手をとって、エジプトの地から導き出した日に、彼らと結んだ契約のようなものではない。彼らがわたしの契約にとどまることをしないので、わたしも彼らをかえりみなかったからであると、イオウオ(?)[vi]が言われる。 *10*わたしが、それらの日の後、イスラエルの家と立てようとする契約はこれである、とイオウオ(?)[vii]が言われる。すなわち、わたしの律法を彼らの思いの中に入れ、彼らの心に書きつけよう。こうして、わたしは彼らの神となり、彼らはわたしの民となるであろう。 *11*彼らは、それぞれ、その同胞に、また、それぞれ、その兄弟に、イオウオ(?)[viii]を知れ、と言って教えることはなくなる。なぜなら、大なる者から小なる者に至るまで、彼らはことごとく、わたしを知るようになるからである。 *12*わたしは、彼らの不義をあわれみ、もはや、彼らの罪を思い出すことはしない」。 *13*神は、「新しい」と言われたことによって、初めの契約を古いとされたのである。年を経て古びたものは、やがて消えていく。

9 さて、初めの契約にも、礼拝についてのさまざまな規定と、地上の聖所とがあった。 *2*すなわち、まず幕屋が設けられ、その前の場所には燭台と机と供えのパンとが置かれていた。これが、聖所と呼ばれた。 *3*また第二の幕の後に、別の場所があり、それは至聖所と呼ばれた。 *4*そこには金の香壇と全面金でおおわれた契約の箱とが置かれ、その中にはマナのはいっている金のつぼと、芽を出したアロンのつえと、契約の石板とが入れてあり、 *5*箱の上には栄光に輝くケルビムがあって、贖罪所をおおっていた。これらのことについては、今ここで、いちいち述べることができない。 *6*これらのものが、以上のように整えられた上で、祭司たちは常に幕屋の前の場所にはいって礼拝をするのであるが、 *7*幕屋の奥には大祭司が年に一度だけはいるのであり、しかも自分自身と民とのあやまちのためにささげる血をたずさえないで行くことはない。 *8*それによって聖霊は、前方の幕屋が存在している限り、聖所にはいる道はまだ開かれていないことを、明らかに示している。 *9*この幕屋というのは今の時代に対する比喩である。すなわち、供え物やいけにえはささげられるが、儀式にたずさわる者の良心を全うすることはできない。 *10*それらは、ただ食物と飲み物と種々の洗いごとに関する行事であって、改革の時まで課せられている肉の規定にすぎない。 *11*しかしキリストがすでに現れた祝福の大祭司としてこられたとき、手で造られず、この世界に属さない、さらに大きく、完全な幕屋をとおり、 *12*かつ、やぎと子牛との血によらず、ご自身の血によって、一度だけ聖所にはいられ、それによって永遠のあがないを全うされたのである。 *13*もし、やぎや雄牛の血や雌牛の灰が、汚れた人たちの上にまきかけられて、肉体をきよめ聖別するとすれば、 *14*永遠の聖霊によって、ご自身を傷なき者として神にささげられたキリストの血は、なおさら、わたしたちの良心をきよめて死んだわざを取り除き、生ける神に仕える者としないであろうか。 *15*それだから、キリストは新しい契約の仲保者なのである。それは、彼が初めの契約のもとで犯した罪過をあがなうために死なれた結果、召された者たちが、約束された永遠の国を受け継ぐためにほかならない。 *16*いったい、遺言には、遺言者の死の証明が必要である。 *17*遺言は死によってのみその効力を生じ、遺言者が生きている間は、効力がない。 *18*だから、初めの契約も、血を流すことなしに成立したのではない。 *19*すなわち、モーセが、律法に従ってすべての戒めを民全体に宣言したとき、水と赤色の羊毛とヒソプとの外に、子牛とやぎとの血を取って、契約書と民全体とにふりかけ、 *20*そして、「これは、神[ix]があなたがたに対して立てられた契約の血である」と言った。 *21*彼はまた、幕屋と儀式用の器具いっさいにも、同様に血をふりかけた。 *22*こうして、ほとんどすべての物が、律法に従い、血によってきよめられたのである。血を流すことなしには、罪のゆるしはあり得ない。 *23*このように、天にあるもののひな型は、これらのものできよめられる必要があるが、天にあるものは、これらより更にすぐれたいけにえで、きよめられねばならない。 *24*ところが、キリストは、ほんとうのものの模型にすぎない、手で造った聖所にはいらないで、上なる天にはいり、今やわたしたちのために神のみまえに出て下さったのである。 *25*大祭司は、年ごとに、自分以外のものの血をたずさえて聖所にはいるが、キリストは、そのように、たびたびご自身をささげられるのではなかった。 *26*もしそうだとすれば、世の初めから、たびたび苦難を受けねばならなかったであろう。しかし事実、ご自身をいけにえとしてささげて罪を取り除くために、世の終りに、一度だけ現れたのである。 *27*そして、一度だけ死ぬことと、死んだ後さばきを受けることとが、人間に定まっているように、 *28*キリストもまた、多くの人の罪を負うために、一度だけご自身をささげられた後、彼を待ち望んでいる人々に、罪を負うためではなしに二度目に現れて、救を与えられるのである。

10 いったい、律法はきたるべき良いことの影をやどすにすぎず、そのものの真のかたちをそなえているものではないから、年ごとに引きつづきささげられる同じようないけにえによっても、みまえに近づいて

来る者たちを、全うすることはできないのである。 *2*もしできたとすれば、儀式にたずさわる者たちは、一度きよめられた以上、もはや罪の自覚がなくなるのであるから、ささげ物をすることがやんだはずではあるまいか。 *3*しかし実際は、年ごとに、いけにえによって罪の思い出がよみがえって来るのである。 *4*なぜなら、雄牛ややぎなどの血は、罪を除き去ることができないからである。 *5*それだから、キリストがこの世にこられたとき、次のように言われた、「あなたは、いけにえやささげ物を望まれないで、わたしのために、からだを備えて下さった。 *6*あなたは燔祭や罪祭を好まれなかった。 *7*その時、わたしは言った、『神よ、わたしにつき、巻物の書物に書いてあるとおり、見よ、御旨を行うためにまいりました』」。 *8*ここで、初めに、「あなたは、いけにえとささげ物と燔祭と罪祭と（すなわち、律法に従ってささげられるもの）を望まれず、好まれもしなかった」とあり、 *9*次に、「見よ、わたしは御旨を行うためにまいりました」とある。すなわち、彼は、後のものを立てるために、初めのものを廃止されたのである。 *10*この御旨に基きただ一度イエス・キリストのからだがささげられたことによって、わたしたちはきよめられたのである。 *11*こうして、すべての祭司は立って日ごとに儀式を行い、たびたび同じようないけにえをささげるが、それらは決して罪を除き去ることはできない。 *12*しかるに、キリストは多くの罪のために一つの永遠のいけにえをささげた後、神の右に座し、 *13*それから、敵をその足台とするときまで、待っておられる。 *14*彼は一つのささげ物によって、きよめられた者たちを永遠に全うされたのである。 *15*聖霊もまた、わたしたちにあかしをして、 *16*「わたしが、それらの日の後、彼らに対して立てようとする契約はこれであると、イオウオ(?)[x]が言われる。わたしの律法を彼らの心に与え、彼らの思いのうちに書きつけよう」と言い、 *17*さらに、「もはや、彼らの罪と彼らの不法とを、思い出すことはしない」と述べている。

*18*これらのことに対するゆるしがある以上、罪のためのささげ物は、もはやあり得ない。 *19*兄弟たちよ。こういうわけで、わたしたちはイエスの血によって、はばかることなく聖所にはいることができ、 *20*彼の肉体なる幕をとおり、わたしたちのために開いて下さった新しい生きた道をとおって、はいって行くことができるのであり、 *21*さらに、神の家を治める大いなる祭司があるのだから、 *22*心はすすがれて良心のとがめを去り、からだは清い水で洗われ、まごころをもって信仰の確信に満たされつつ、みまえに近づこうではないか。 *23*また、約束をして下さったのは忠実なかたであるから、わたしたちの告白する望みを、動くことなくしっかりと持ち続け、 *24*愛と善行とを励むように互に努め、 *25*ある人たちがいつもしているように、集会をやめることはしないで互に励まし、かの日が近づいているのを見て、ますます、そうしようではないか。 *26*もしわたしたちが、真理の知識を受けたのちにもなお、ことさらに罪を犯しつづけるなら、罪のためのいけにえは、もはやあり得ない。 *27*ただ、さばきと、逆らう者たちを焼きつくす激しい火とを、恐れつつ待つことだけがある。 *28*モーセの律法を無視する者が、あわれみを受けることなしに、二、三の人の証言に基いて死刑に処せられるとすれば、 *29*神の子を踏みつけ、自分がきよめられた契約の血を汚れたものとし、さらに恵みの御霊を侮る者は、どんなにか重い刑罰に価することであろう。 *30*「復讐はわたしのすることである。わたし自身が報復する[xi]」と言われ、また「イオウオ(?)[xii]はその民をさばかれる」と言われたかたを、わたしたちは知っている。 *31*生ける神のみ手のうちに落ちるのは、恐ろしいことである。 *32*あなたがたは、光に照されたのち、苦しい大きな戦いによく耐えた初めのころのことを、思い出してほしい。 *33*そしられ苦しめられて見せ物にされたこともあれば、このようなめに会った人々の仲間にされたこともあった。

*34*さらに獄に入れられた人々を思いやり、また、もっとまさった永遠の宝を持っていることを知って、自分の財産が奪われても喜んでそれを忍んだ。 *35*だから、あなたがたは自分の持っている確信を放棄してはいけない。その確信には大きな報いが伴っているのである。 *36*神の御旨を行って約束のものを受けるため、あなたがたに必要なのは、忍耐である。

37「もうしばらくすれば、きたるべきかたが
お見えになる。遅くなることはない。*38*わ
が義人は、信仰によって生きる。もし信仰
を捨てるなら、わたしのたましいはこれを
喜ばない」。 *39*しかしわたしたちは、信仰
を捨てて滅びる者ではなく、信仰に立っ
て、いのちを得る者である。

11 さて、信仰とは、望んでいる事がらを
確信し、まだ見ていない事実を確認する
ことである。 *2*昔の人たちは、この信仰の
ゆえに賞賛された。 *3*信仰によって、わた
したちは、この世界が神の言葉で造られ
たのであり、したがって、見えるものは現
れているものから出てきたのでないことを
、悟るのである。 *4*信仰によって、アベル
はカインよりもまさったいけにえを神にささ
げ、信仰によって義なる者と認められた。
神が、彼の供え物をよしとされたからであ
る。彼は死んだが、信仰によって今もなお
語っている。 *5*信仰によって、エノクは死
を見ないように天に移された。神がお移し
になったので、彼は見えなくなった。彼が
移される前に、神に喜ばれた者と、あかし
されていたからである。 *6*信仰がなくては
、神に喜ばれることはできない。なぜなら
、神に来る者は、神のいますことと、ご自
身を求める者に報いて下さることとを、必
ず信じるはずだからである。 *7*信仰によっ
て、ノアはまだ見ていない事がらについて
御告げを受け、恐れかしこみつつ、その
家族を救うために箱舟を造り、その信仰
によって世の罪をさばき、そして、信仰に
よる義を受け継ぐ者となった。 *8*信仰によ
って、アブラハムは、受け継ぐべき地に出
て行けとの召しをこうむった時、それに従
い、行く先を知らないで出て行った。 *9*信
仰によって、他国にいるようにして約束の
地に宿り、同じ約束を継ぐイサク、ヤコブと
共に、幕屋に住んだ。 *10*彼は、ゆるがぬ
土台の上に建てられた都を、待ち望んで
いたのである。その都をもくろみ、また建
てたのは、神である。 *11*信仰によって、サ
ラもまた、年老いていたが、種を宿す力を
与えられた。約束をなさったかたは真実で
あると、信じていたからである。 *12*このよう
にして、ひとりの死んだと同様な人から、
天の星のように、海べの数えがたい砂の
ように、おびただしい人が生れてきたので
ある。 *13*これらの人はみな、信仰をいだ
いて死んだ。まだ約束のものは受けてい
なかったが、はるかにそれを望み見て喜
び、そして、地上では旅人であり寄留者で
あることを、自ら言いあらわした。 *14*そう言
いあらわすことによって、彼らがふるさとを
求めていることを示している。 *15*もしその
出てきた所のことを考えていたなら、帰る
機会はあったであろう。 *16*しかし実際、彼
らが望んでいたのは、もっと良い、天にあ
るふるさとであった。だから神は、彼らの
神と呼ばれても、それを恥とはされなかっ
た。事実、神は彼らのために、都を用意さ
れていたのである。 *17*信仰によって、ア
ブラハムは、試錬を受けたとき、イサクをさ
ささげた。すなわち、約束を受けていた彼が
、そのひとり子をささげたのである。 *18*こ
の子については、「イサクから出る者が、
あなたの子孫と呼ばれるであろう」と言わ
れていたのであった。 *19*彼は、神が死人
の中から人をよみがえらせる力がある、と
信じていたのである。だから彼は、いわば
、イサクを生きかえして渡されたわけであ
る。 *20*信仰によって、イサクは、きたるべ
きことについて、ヤコブとエサウとを祝福し
た。 *21*信仰によって、ヤコブは死のまぎ
わに、ヨセフの子らをひとりびとり祝福し、
そしてそのつえのかしらによりかかって礼
拝した。 *22*信仰によって、ヨセフはその臨
終に、イスラエルの子らの出て行くことを
思い、自分の骨のことについてさしずした
。 *23*信仰によって、モーセの生れたとき、
両親は、三か月のあいだ彼を隠した。そ
れは、彼らが子供のうるわしいのを見たか
らである。彼らはまた、王の命令をも恐れ
なかった。 *24*信仰によって、モーセは、成
人したとき、パロの娘の子と言われることを
拒み、 *25*罪のはかない歓楽にふけるより
は、むしろ神の民と共に虐待されることを
選び、 *26*キリストのゆえに受けるそしりを、
エジプトの宝にまさる富と考えた。それは
、彼が報いを望み見ていたからである。
*27*信仰によって、彼は王の憤りをも恐れ
ず、エジプトを立ち去った。彼は、見えな
いかたを見ているようにして、忍びとおし
た。 *28*信仰によって、滅ぼす者が、長子
らに手を下すことのないように、彼は過越

を行い血を塗った。 *29*信仰によって、人
々は紅海をかわいた土地をとおるように
渡ったが、同じことを企てたエジプト人は
おぼれ死んだ。 *30*信仰によって、エリコ
の城壁は、七日にわたってまわったため
に、くずれおちた。 *31*信仰によって、遊女
ラハブは、探りにきた者たちをおだやかに
迎えたので、不従順な者どもと一緒に滅
びることはなかった。 *32*このほか、何を言
おうか。もしギデオン、バラク、サムソン、
エフタ、ダビデ、サムエル及び預言者たち
について語り出すなら、時間が足りないで
あろう。 *33*彼らは信仰によって、国々を征
服し、義を行い、約束のものを受け、しし
の口をふさぎ、 *34*火の勢いを消し、つる
ぎの刃をのがれ、弱いものは強くされ、戦
いの勇者となり、他国の軍を退かせた。
*35*女たちは、その死者たちをよみがえら
させてもらった。ほかの者は、更にまさっ
たいのちによみがえるために、拷問の苦
しみに甘んじ、放免されることを願わなか
った。 *36*なおほかの者たちは、あざけら
れ、むち打たれ、しばり上げられ、投獄さ
れるほどのめに会った。 *37*あるいは、石
で打たれ、さいなまれ、のこぎりで引かれ
、つるぎで切り殺され、羊の皮や、やぎの
皮を着て歩きまわり、無一物になり、悩ま
され、苦しめられ、 *38*(この世は彼らの住
む所ではなかった)、荒野と山の中と岩の
穴と土の穴とを、さまよい続けた。 *39*さて
、これらの人々はみな、信仰によってあか
しされたが、約束のものは受けなかった。
*40*神はわたしたちのために、さらに良いも
のをあらかじめ備えて下さっているので、
わたしたちをほかにしては彼らが全うされ
ることはない。

12 こういうわけで、わたしたちは、このよ
うな多くの証人に雲のように囲まれている
のであるから、いっさいの重荷と、からみ
つく罪とをかなぐり捨てて、わたしたちの
参加すべき競走を、耐え忍んで走りぬこう
ではないか。 *2*信仰の導き手であり、また
その完成者であるイエスを仰ぎ見つつ、
走ろうではないか。彼は、自分の前におか
れている喜びのゆえに、恥をもいとわない
で十字架を忍び、神の御座の右に座
するに至ったのである。 *3*あなたがたは、
弱り果てて意気そそうしないために、罪人
らのこのような反抗を耐え忍んだかたのこ
とを、思いみるべきである。 *4*あなたがた
は、罪と取り組んで戦う時、まだ血を流す
ほどの抵抗をしたことがない。 *5*また子た
ちに対するように、あなたがたに語られた
この勧めの言葉を忘れている、「わたしの
子よ、イオウオ(?)[xiii]の訓練を軽んじてはい
けない。主に責められるとき、弱り果てて
はならない。 *6*イオウオ(?)[xiv]は愛する者を
訓練し、受けいれるすべての子を、むち
打たれるのである」。 *7*あなたがたは訓練
として耐え忍びなさい。神はあなたがたを
、子として取り扱っておられるのである。い
ったい、父に訓練されない子があるだろう
か。 *8*だれでも受ける訓練が、あなたがた
に与えられないとすれば、それこそ、あな
たがたは私生子であって、ほんとうの子で
はない。 *9*その上、肉親の父はわたしたち
を訓練するのに、なお彼をうやまうとすれ
ば、なおさら、わたしたちは、たましいの父
に服従して、真に生きるべきではないか。
*10*肉親の父は、しばらくの間、自分の考え
に従って訓練を与えるが、たましいの父は
、わたしたちの益のため、そのきよさにあ
ずからせるために、そうされるのである。
*11*すべての訓練は、当座は、喜ばしいも
のとは思われず、むしろ悲しいものと思わ
れる。しかし後になれば、それによって鍛
えられる者に、平安な義の実を結ばせる
ようになる。 *12*それだから、あなたがたの
なえた手と、弱くなっているひざとを、まっ
すぐにしなさい。 *13*また、足のなえている
者が踏みはずすことなく、むしろいやされ
るように、あなたがたの足のために、まっ
すぐな道をつくりなさい。 *14*すべての人と
相和し、また、自らきよくなるように努めな
さい。きよくならなければ、だれも主を見る
ことはできない。 *15*気をつけて、神の恵
みからもれることがないように、また、苦い
根がはえ出て、あなたがたを悩まし、それ
によって多くの人が汚されることのないよう
にしなさい。 *16*また、一杯の食のために
長子の権利を売ったエサウのように、不品
行な俗悪な者にならないようにしなさい。
*17*あなたがたの知っているように、彼はそ
の後、祝福を受け継ごうと願ったけれども
、捨てられてしまい、涙を流してそれを求

めたが、悔改めの機会を得なかったのである。 *18*あなたがたが近づいているのは、手で触れることができ、火が燃え、黒雲や暗やみやあらしにつつまれ、 *19*また、ラッパの響や、聞いた者たちがそれ以上、耳にしたくないと願ったような言葉がひびいてきた山ではない。 *20*そこでは、彼らは、「けものであっても、山に触たら、石で打ち殺されてしまえ」という命令の言葉に、耐えることができなかったのである。 *21*その光景が恐ろしかったのでモーセさえも、「わたしは恐ろしさのあまり、おののいている」と言ったほどである。 *22*しかしあなたがたが近づいているのは、シオンの山、生ける神の都、天にあるエルサレム、無数の天使の祝会、 *23*天に登録されている長子たちの教会、万民の審判者なる神、全うされた義人の霊、 *24*新しい契約の仲保者イエス、ならびに、アベルの血よりも力強く語るそそがれた血である。 *25*あなたがたは、語っておられるかたを拒むことがないように、注意しなさい。もし地上で御旨を告げた者を拒んだ人々が、罰をのがれることができなかったなら、天から告げ示すかたを退けるわたしたちは、なおさらそうなるのではないか。 *26*あの時には、御声が地を震わせた。しかし今は、約束して言われた、「わたしはもう一度、地ばかりでなく天をも震わそう」。 *27*この「もう一度」という言葉は、震われないものが残るために、震われるものが、造られたものとして取り除かれることを示している。 *28*このように、わたしたちは震われない国を受けているのだから、感謝をしようではないか。そして感謝しつつ、恐れかしこみ、神に喜ばれるように、仕えていこう。 *29*わたしたちの神は、実に、焼きつくす火である。

13 兄弟愛を続けなさい。 *2*旅人をもてなすことを忘れてはならない。このようにして、ある人々は、気づかないで御使たちをもてなした。 *3*獄につながれている人たちを、自分も一緒につながれている心持で思いやりなさい。また、自分も同じ肉体にある者だから、苦しめられている人たちのことを、心にとめなさい。 *4*すべての人は、結婚を重んずべきである。また寝床を汚してはならない。神は、不品行な者や姦淫をする者をさばかれる。 *5*金銭を愛することをしないで、自分の持っているもので満足しなさい。主は、「わたしは、決してあなたを離れず、あなたを捨てない」と言われた。 *6*だから、わたしたちは、はばからずに言おう、「イオウオ(?)[xv]はわたしの助け主である。わたしには恐れはない。人は、わたしに何ができようか」。 *7*神の言をあなたがたに語った指導者たちのことを、いつも思い起しなさい。彼らの生活の最後を見て、その信仰にならいなさい。 *8*イエス・キリストは、きのうも、きょうも、いつまでも変ることがない。 *9*さまざまな違った教によって、迷わされてはならない。食物によらず、恵みによって、心を強くするがよい。食物によって歩いた者は、益を得ることがなかった。 *10*わたしたちには一つの祭壇がある。幕屋で仕えている者たちは、その祭壇の食物をたべる権利はない。 *11*なぜなら、大祭司によって罪のためにささげられるけものの血は、聖所のなかに携えて行かれるが、そのからだは、営所の外で焼かれてしまうからである。 *12*だから、イエスもまた、ご自分の血で民をきよめるために、門の外で苦難を受けられたのである。 *13*したがって、わたしたちも、彼のはずかしめを身に負い、営所の外に出て、みもとに行こうではないか。 *14*この地上には、永遠の都はない。きたらんとする都こそ、わたしたちの求めているものである。 *15*だから、わたしたちはイエスによって、さんびのいけにえ、すなわち、彼の御名をたたえるくちびるの実を、たえず神にささげようではないか。 *16*そして、善を行うことと施しをすることとを、忘れてはいけない。神は、このようないけにえを喜ばれる。 *17*あなたがたの指導者たちの言うことを聞きいれて、従いなさい。彼らは、神に言いひらきをすべき者として、あなたがたのたましいのために、目をさましている。彼らが嘆かないで、喜んでこのことをするようにしなさい。そうでないと、あなたがたの益にならない。 *18*わたしたちのために、祈ってほしい。わたしたちは明らかな良心を持っていると信じており、何事についても、正しく行動しようと願っている。 *19*わたしがあなたがたの所に早く帰れるため、祈ってくれるように、特にお願いする。

*20*永遠の契約の血による羊の大牧者、
わたしたちの主イエスを、死人の中から引
き上げられた平和の神が、*21*イエス・キリ
ストによって、みこころにかなうことをわた
したちにして下さり、あなたがたが御旨を
行うために、すべての良きものを備えて下
さるようにこい願う。栄光が、世々限りなく
神にあるように、アァメン。*22*兄弟たちよ。
どうかわたしの勧めの言葉を受けいれて
ほしい。わたしは、ただ手みじかに書いた
のだから。*23*わたしたちの兄弟テモテが
ゆるされたことを、お知らせする。もし彼が
早く来れば、彼と一緒にわたしはあなたが
たに会えるだろう。*24*あなたがたの指導
者一同と聖徒たち一同に、よろしく伝えて
ほしい。イタリヤからきた人々から、あなた
がたによろしく。*25*恵みが、あなたがた一
同にあるように。

---

[i] ここで直接引用されたイザヤ書8章18節では、「神」のかわりに「イオウオ」が使用される。それゆえに、ヘブルの伝統異文で使用される「神」のかわりに「イオウオ」(?)」とした。

[ii] 本文の異文:「神のみざわ」。Delitzsch (1877) はここで「イオウオ(?)のみざわ」とする。詩編95編11節、創世記2章2節、申命記11章7節とも比較せよ。

[iii] 詩編110編4節と比較せよ。

[iv] Hutter (1599), Biesenthal (1855), Delitzsch (1877), Salkinson (1885), UBS (1979) はここで「イオウオ(?)」とする。出エジプト記29章45節、レビ記26章11節、列王紀上8章27節、エゼキエル書37章27節とも比較せよ。

[v] エレミア31章31節と比較せよ。

[vi] エレミア31章32節と比較せよ。

[vii] エレミア31章33節と比較せよ。

[viii] エレミア31章34節と比較せよ。

[ix] Hutter (1599) はここで「イオウオ(?)」とする。出エジプト記24章8節とも比較せよ。

[x] エレミア31章33節と比較せよ。

[xi] 本文の異文の追加:「と主が言われる」。Hutter (1599), Biesenthal (1855) はここで「とイオウオ(?)が言われる」とする。

[xii] 申命記32章36節と比較せよ。

[xiii] 箴言3章11節と比較せよ。

[xiv] 箴言3章12節と比較せよ。

[xv] 詩編118編6節比較せよ。

1 神と主イエス・キリストとの僕ヤコブから
、離散している十二部族の人々へ、あい
さつをおくる。 2わたしの兄弟たちよ。あな
たがたが、いろいろな試錬に会った場合
、それをむしろ非常に喜ばしいことと思い
なさい。 3あなたがたの知っているとおり、
信仰がためされることによって、忍耐が生
み出されるからである。 4だから、なんら
欠点のない、完全な、でき上がった人とな
るように、その忍耐力を十分に働かせるが
よい。 5あなたがたのうち、知恵に不足し
ている者があれば、その人は、とがめもせ
ずに惜しみなくすべての人に与える神に
、願い求めるがよい。そうすれば、与えら
れるであろう。 6ただ、疑わないで、信仰
をもって願い求めなさい。疑う人は、風の
吹くままに揺れ動く海の波に似ている。
7そういう人は、主[i]から何かをいただける
もののように思うべきではない。 8そんな
人間は、二心の者であって、そのすべて
の行動に安定がない。 9低い身分の兄弟
は、自分が高くされたことを喜びなさい。
10また、富んでいる者は、自分が低くされ
たことを喜ぶがよい。富んでいる者は、草
花のように過ぎ去るからである。 11たとえ
ば、太陽が上って熱風をおくると、草を枯
らす。そしてその花は落ち、その美しい姿
は消えうせてしまう。それと同じように、富
んでいる者も、その一生の旅なかばで没
落するであろう。 12試錬を耐え忍ぶ人は
、さいわいである。それを忍びとおしたな
ら、神を愛する者たちに[ii]約束されたいの
ちの冠を受けるであろう。 13だれでも誘
惑に会う場合、「この誘惑は、神からきたも
のだ」と言ってはならない。神は悪の誘惑
に陥るようなかたではなく、また自ら進ん
で人を誘惑することもなさらない。 14人が
誘惑に陥るのは、それぞれ、欲に引かれ
、さそわれるからである。 15欲がはらんで
罪を生み、罪が熟して死を生み出す。
16愛する兄弟たちよ。思い違いをしてはい
けない。 17あらゆる良い贈り物、あらゆる
完全な賜物は、上から、光の父から下って
来る。父には、変化とか回転の影とかいう
ものはない。 18父は、わたしたちを、いわ
ば被造物の初穂とするために、真理の
言葉によって御旨のままに、生み出して
下さったのである。 19愛する兄弟たちよ。
このことを知っておきなさい。人はすべて
、聞くに早く、語るにおそく、怒るにおそく
あるべきである。 20人の怒りは、神の義を
全うするものではないからである。 21だか
ら、すべての汚れや、はなはだしい悪を
捨て去って、心に植えつけられている御
言を、すなおに受け入れなさい。御言に
は、あなたがたのたましいを救う力がある
。 22そして、御言を行う人になりなさい。
おのれを欺いて、ただ聞くだけの者となっ
てはいけない。 23おおよそ御言を聞くだ
けで行わない人は、ちょうど、自分の生れ
つきの顔を鏡に映して見る人のようである
。 24彼は自分を映して見てそこから立ち
去ると、そのとたんに、自分の姿がどんな
であったかを忘れてしまう。 25これに反し
て、完全な自由の律法を一心に見つめて
たゆまない人は、聞いて忘れてしまう人で
はなくて、実際に行う人である。こういう人
は、その行いによって祝福される。 26もし
人が信心深い者だと自任しながら、舌を
制することをせず、自分の心を欺いている
ならば、その人の信心はむなしいもので
ある。 27父なる神のみまえに清く汚れの
ない信心とは、困っている孤児や、やもめ
を見舞い、自らは世の汚れに染まずに、
身を清く保つことにほかならない。

2 わたしの兄弟たちよ。わたしたちの栄
光の主イエス・キリストへの信仰を守るの
に、分け隔てをしてはならない。 2たとえ
ば、あなたがたの会堂に、金の指輪をは
め、りっぱな着物を着た人がはいって来る
と同時に、みすぼらしい着物を着た貧し
い人がはいってきたとする。 3その際、り
っぱな着物を着た人に対しては、うやうや
しく「どうぞ、こちらの良い席にお掛け下さ
い」と言い、貧しい人には、「あなたは、そ
こに立っていなさい。それとも、わたしの
足もとにすわっているがよい」と言ったとし
たら、 4あなたがたは、自分たちの間で差
別立てをし、よからぬ考えで人をさばく者
になったわけではないか。 5愛する兄弟
たちよ。よく聞きなさい。神は、この世の貧
しい人たちを選んで信仰に富ませ、神を
愛する者たちに約束された御国の相続者
とされたではないか。 6しかるに、あなた
がたは貧しい人をはずかしめたのである。

あなたがたをしいたげ、裁判所に引きずり
込むのは、富んでいる者たちではないか
。 *7*あなたがたに対して唱えられた尊い御
名を汚すのは、実に彼らではないか。 *8*し
かし、もしあなたがたが、「自分を愛するよ
うに、あなたの隣り人を愛せよ」という聖書
の言葉に従って、このきわめて尊い律法
を守るならば、それは良いことである。 *9*し
かし、もし分け隔てをするならば、あなた
がたは罪を犯すことになり、律法によって
違反者として宣告される。 *10*なぜなら、律
法をことごとく守ったとしても、その一つの
点にでも落ち度があれば、全体を犯した
ことになるからである。 *11*たとえば、「姦淫
するな」と言われたかたは、また「殺すな」
とも仰せになった。そこで、たとい姦淫は
しなくても、人殺しをすれば、律法の違反
者になったことになる。 *12*だから、自由の
律法によってさばかるべき者らしく語り、か
つ行いなさい。 *13*あわれみを行わなかっ
た者に対しては、仮借のないさばきが下さ
れる。あわれみは、さばきにうち勝つ。
*14*わたしの兄弟たちよ。ある人が自分に
は信仰があると称していても、もし行いが
なかったら、なんの役に立つか。その信
仰は彼を救うことができるか。 *15*ある兄弟
または姉妹が裸でいて、その日の食物に
もこと欠いている場合、 *16*あなたがたのう
ち、だれかが、「安らかに行きなさい。暖ま
って、食べ飽きなさい」と言うだけで、その
からだに必要なものを何ひとつ与えなか
ったとしたら、なんの役に立つか。 *17*信仰
も、それと同様に、行いを伴わなければ、
それだけでは死んだものである。 *18*しか
し、「ある人には信仰があり、またほかの人
には行いがある」と言う者があろう。それな
ら、行いのないあなたの信仰なるものを見
せてほしい。そうしたら、わたしの行いによ
って信仰を見せてあげよう。 *19*あなたは、
神はただひとりであると信じているのか。
それは結構である。悪霊どもでさえ、信じ
ておののいている。 *20*ああ、愚かな人よ。
行いを伴わない信仰のむなしいことを知り
たいのか。 *21*わたしたちの父祖アブラハ
ムは、その子イサクを祭壇にささげた時、
行いによって義とされたのではなかったか
。 *22*あなたが知っているとおり、彼におい
ては、信仰が行いと共に働き、その行い
によって信仰が全うされ、 *23*こうして、「ア
ブラハムはイオウオ(?)[iii]を信じた。それに
よって、彼は義と認められた」という聖書の
言葉が成就し、そして、彼は「神[iv]の友」と
唱えられたのである。 *24*これでわかるよう
に、人が義とされるのは、行いによるので
あって、信仰だけによるのではない。
*25*同じように、かの遊女ラハブでさえも、
使者たちをもてなし、彼らを別な道から送
り出した時、行いによって義とされたでは
ないか。 *26*霊魂のないからだが死んだも
のであると同様に、行いのない信仰も死
んだものなのである。

3 わたしの兄弟たちよ。あなたがたのうち
多くの者は、教師にならないがよい。わた
したち教師が、他の人たちよりも、もっとき
びしいさばきを受けることが、よくわかって
いるからである。 *2*わたしたちは皆、多くの
あやまちを犯すものである。もし、言葉の
上であやまちのない人があれば、そういう
人は、全身をも制御することのできる完全
な人である。 *3*馬を御するために、その口
にくつわをはめるなら、その全身を引きま
わすことができる。 *4*また船を見るがよい。
船体が非常に大きく、また激しい風に吹き
まくられても、ごく小さなかじ一つで、操縦
者の思いのままに運転される。 *5*それと同
じく、舌は小さな器官ではあるが、よく大
言壮語する。見よ、ごく小さな火でも、非
常に大きな森を燃やすではないか。 *6*舌
は火である。不義の世界である。舌は、わ
たしたちの器官の一つとしてそなえられた
ものであるが、全身を汚し、生存の車輪を
燃やし、自らは地獄の火で焼かれる。 *7*あ
らゆる種類の獣、鳥、這うもの、海の生物
は、すべて人類に制せられるし、また制せ
られてきた。 *8*ところが、舌を制しうる人は
、ひとりもいない。それは、制しにくい悪で
あって、死の毒に満ちている。 *9*わたした
ちは、この舌で父なるイオウオ(?)[v]をさん
びし、また、その同じ舌で、神にかたどっ
て造られた人間をのろっている。 *10*同じ
口から、さんびとのろいとが出て来る。わ
たしの兄弟たちよ。このような事は、あるべ
きでない。
*11*泉が、甘い水と苦い水とを、同じ穴から
ふき出すことがあろうか。 *12*わたしの兄弟

たちよ。いちじくの木がオリブの実を結び
、ぶどうの木がいちじくの実を結ぶことが
できようか。塩水も、甘い水を出すことは
できない。 *13*あなたがたのうちで、知恵が
あり物わかりのよい人は、だれであるか。
その人は、知恵にかなう柔和な行いをし
ていることを、よい生活によって示すがよ
い。 *14*しかし、もしあなたがたの心の中に
、苦々しいねたみや党派心をいだいてい
るのなら、誇り高ぶってはならない。また、
真理にそむいて偽ってはならない。 *15*そ
のような知恵は、上から下ってきたもので
はなくて、地につくもの、肉に属するもの、
悪魔的なものである。 *16*ねたみと党派心
とのあるところには、混乱とあらゆる忌む
べき行為とがある。 *17*しかし上からの知恵
は、第一に清く、次に平和、寛容、温順で
あり、あわれみと良い実とに満ち、かたより
見ず、偽りがない。 *18*義の実は、平和を
造り出す人たちによって、平和のうちにま
かれるものである。

4 あなたがたの中の戦いや争いは、いっ
たい、どこから起るのか。それはほかでは
ない。あなたがたの肢体の中で相戦う欲
情からではないか。 *2*あなたがたは、むさ
ぼるが得られない。そこで人殺しをする。
熱望するが手に入れることができない。そ
こで争い戦う。あなたがたは、求めないか
ら得られないのだ。 *3*求めても与えられな
いのは、快楽のために使おうとして、悪い
求め方をするからだ。 *4*不貞のやからよ。
世を友とするのは、神への敵対であること
を、知らないか。おおよそ世の友となろうと
思う者は、自らを神の敵とするのである。
*5*それとも、「神は、わたしたちの内に住ま
わせた霊を、ねたむほどに愛しておられる
」と聖書に書いてあるのは、むなしい言葉
だと思うのか。 *6*しかし神は、いや増しに
恵みを賜う。であるから、「神は高ぶる者を
しりぞけ、へりくだる者に恵みを賜う」とあ
る。 *7*そういうわけだから、神に従いなさい
。そして、悪魔に立ちむかいなさい。そう
すれば、彼はあなたがたから逃げ去るで
あろう。 *8*神に近づきなさい。そうすれば、
神はあなたがたに近づいて下さるであろう
。罪人どもよ、手をきよめよ。二心の者ども
よ、心を清くせよ。 *9*苦しめ、悲しめ、泣け
。あなたがたの笑いを悲しみに、喜びを憂
いに変えよ。 *10*主[vi]のみまえにへりくだれ
。そうすれば、主は、あなたがたを高くして
下さるであろう。 *11*兄弟たちよ。互に悪口
を言い合ってはならない。兄弟の悪口を
言ったり、自分の兄弟をさばいたりする者
は、律法をそしり、律法をさばくやからで
ある。もしあなたが律法をさばくなら、律法
の実行者ではなくて、その審判者なので
ある。 *12*しかし、立法者であり審判者で
あるかたは、ただひとりであって、救うことも
滅ぼすこともできるのである。しかるに、隣
り人をさばくあなたは、いったい、何者で
あるか。 *13*よく聞きなさい。「きょうか、あす
、これこれの町へ行き、そこに一か年滞在
し、商売をして一もうけしよう」と言う者たち
よ。 *14*あなたがたは、あすのこともわから
ぬ身なのだ。あなたがたのいのちは、どん
なものであるか。あなたがたは、しばしの
間あらわれて、たちまち消え行く霧にすぎ
ない。 *15*むしろ、あなたがたは「主[vii]のみ
こころであれば、わたしは生きながらえも
し、あの事この事もしよう」と言うべきである
。 *16*ところが、あなたがたは誇り高ぶって
いる。このような高慢は、すべて悪である。
*17*人が、なすべき善を知りながら行わな
ければ、それは彼にとって罪である。

5 富んでいる人たちよ。よく聞きなさい。
あなたがたは、自分の身に降りかかろうと
しているわざわいを思って、泣き叫ぶがよ
い。 *2*あなたがたの富は朽ち果て、着物
はむしばまれ、 *3*金銀はさびている。そし
て、そのさびの毒は、あなたがたの罪を責
め、あなたがたの肉を火のように食いつく
すであろう。あなたがたは、終りの時にい
るのに、なお宝をたくわえている。 *4*見よ、
あなたがたが労働者たちに畑の刈入れを
させながら、支払わずにいる賃銀が、叫ん
でいる。そして、刈入れをした人たちの叫
び声が、すでに万軍のイオウオ(?)[viii]の耳
に達している。 *5*あなたがたは、地上でお
ごり暮し、快楽にふけり、「ほふらるる日」
のために、おのが心を肥やしている。 *6*そ
して、義人を罪に定め、これを殺した。し
かも彼は、あなたがたに抵抗しない。 *7*だ
から、兄弟たちよ。主の来臨の時まで耐え
忍びなさい。見よ、農夫は、地の尊い実り

を、前の雨と後の雨とがあるまで、耐え
忍んで待っている。 *8*あなたがたも、主の
来臨が近づいているから、耐え忍びなさ
い。心を強くしていなさい。 *9*兄弟たちよ。
互に不平を言い合ってはならない。さばき
を受けるかも知れないから。見よ、さばき
主が、すでに戸口に立っておられる。
*10*兄弟たちよ。苦しみを耐え忍ぶことに
ついては、主[ix]の御名によって語った預言
者たちを模範にするがよい。 *11*忍び抜い
た人たちはさいわいであると、わたしたち
は思う。あなたがたは、ヨブの忍耐のこと
を聞いている。また、イオウオ(?)[x]が彼にな
さったことの結末を見て、イオウオ(?)[xi]がい
かに慈愛とあわれみとに富んだかたであ
るかが、わかるはずである。 *12*さて、わた
しの兄弟たちよ。何はともあれ、誓いをし
てはならない。天をさしても、地をさしても
、あるいは、そのほかのどんな誓 いによっ
ても、いっさい誓ってはならない。むしろ、
「しかり」を「しかり」とし、「否」を「否」としな
さい。そうしないと、あなたがたは、さばき
を受けることになる。 *13*あなたがたの中に
、苦しんでいる者があるか。その人は、祈
るがよい。喜んでいる者があるか。その人
は、さんびするがよい。 *14*あなたがたの
中に、病んでいる者があるか。その人は、
教会の長老たちを招き、主[xii]の御名によっ
て、オリブ油を注いで祈ってもらうがよい。
*15*信仰による祈は、病んでいる人を救い
、そして、主[xiii]はその人を立ちあがらせて
下さる。かつ、その人が罪を犯していたな
ら、それもゆるされる。 *16*だから、互に罪
を告白し合い、また、いやされるようにお
互のために祈りなさい。義人の祈は、大い
に力があり、効果のあるものである。 *17*エ
リヤは、わたしたちと同じ人間であったが
、雨が降らないようにと祈をささげたところ
、三年六か月のあいだ、地上に雨が降ら
なかった。 *18*それから、ふたたび祈ったと
ころ、天は雨を降らせ、地はその実をみの
らせた。 *19*わたしの兄弟たちよ。あなたが
たのうち、真理の道から踏み迷う者があり
、だれかが彼を引きもどすなら、 *20*かよう
に罪人を迷いの道から引きもどす人は、
そのたましいを死から救い出し、かつ、多
くの罪をおおうものであることを、知るべき
である。

---

[i] Hutter (1599), Delitzsch (1877), Salkinson (1885), UBS (1979) はここで「イオウオ(?)」とする。箴言15章8節、21章27節、イザヤ章1章15節、58章3、4節とも比較せよ。

[ii] Hutter (1599), Delitzsch (1877) はここで「イオウオ(?)が約束された」とする。

[iii] 創世記15章6節と比較せよ。神のかわりに「イオウオ(?)」とした。

[iv] Delitzsch (1877) はここで「イオウオ(?)」とする。ザヤ書41章8節と比較せよ。

[v] 詩編34編1節、141編3節と比較せよ。

[vi] Hutter (1599), Delitzsch (1877), Salkinson (1885), UBS (1979) はここで「イオウオ(?)」とする。歴代志下7章14節とも比較せよ。

[vii] Hutter (1599), Delitzsch (1877), Salkinson (1885), UBS (1979) はここで「イオウオ(?)」とする。詩編143編10節とも比較せよ。

[viii] 申命記24章15節と比較せよ。旧約聖書では、「万軍のイオウオ」と言う表現がサムエル記上1章3節を始め、約255カ所で使用され、「 万軍の主」が使用されない。

[ix] Hutter (1599), Delitzsch (1877), Salkinson (1885), UBS (1979) はここで「イオウオ(?)」とする。歴代志下 36章17節とも比較せよ。

[x] ヨブ記42章10～16節比較せよ。

[xi] 同上。詩編103編8節とも比較せよ。

[xii] Hutter (1599), Delitzsch (1877), Salkinson (1885), UBS (1979) はここで「イオウオ(?)」とする。

[xiii] Hutter (1599), Delitzsch (1877), Salkinson (1885), UBS (1979) はここで「イオウオ(?)」とする。ホセア書6章7節とも比較せよ。

1 イエス・キリストの使徒ペテロから、ポン
ト、ガラテヤ、カパドキヤ、アジヤおよびビ
テニヤに離散し寄留している人たち、 2すな
わち、イエス・キリストに従い、かつ、その
血のそそぎを受けるために、父なる神の予
知されたところによって選ばれ、御霊のき
よめにあずかっている人たちへ。恵みと平
安とが、あなたがたに豊かに加わるように。
3ほむべきかな、わたしたちの主イエス・
キリストの父なる神。神は、その豊かなあ
われみにより、イエス・キリストを死人の
中からよみがえらせ、それにより、わたし
たちを新たに生れさせて生ける望みをいだ
かせ、 4あなたがたのために天にたくわえ
てある、朽ちず汚れず、しぼむことのない
資産を受け継ぐ者として下さったのである。
5あなたがたは、終りの時に啓示さるべき
救にあずかるために、信仰により神の御力
に守られているのである。 6そのことを
思って、今しばらくのあいだは、さまざま
な試錬で悩まねばならないかも知れないが、
あなたがたは大いに喜んでいる。 7こう
して、あなたがたの信仰はためされて、火
で精錬されても朽ちる外はない金よりもは
るかに尊いことが明らかにされ、イエス・
キリストの現れるとき、さんびと栄光とほ
まれとに変るであろう。 8あなたがたは、
イエス・キリストを見たことはないが、彼
を愛している。現在、見てはいないけれど
も、信じて、言葉につくせない、輝きにみ
ちた喜びにあふれている。 9それは、信仰
の結果なるたましいの救を得ているからで
ある。 10この救については、あなたがた
に対する恵みのことを預言した預言者たち
も、たずね求め、かつ、つぶさに調べた。
11彼らは、自分たちのうちにいますキリス
トの霊が、キリストの苦難とそれに続く栄
光とを、あらかじめあかしした時、それは、
いつの時、どんな場合をさしたのかを、調
べたのである。 12そして、それらについて
調べたのは、自分たちのためではなくて、
あなたがたのための奉仕であることを示さ
れた。それらの事は、 天からつかわされた
聖霊に感じて福音をあなたがたに宣べ伝え
た人々によって、今や、あなたがたに告げ
知らされたのであるが、これは、御使たち
も、うかがい 見たいと願っている事である。
13それだから、心の腰に帯を締め、身を
慎み、イエス・キリストの現れる時に与え
られる恵みを、いささかも疑わずに待ち望
んでいなさい。 14従順な子供として、無
知であった時代の欲情に従わず、 15むし
ろ、あなたがたを召して下さった聖なるか
たにならって、あなたがた自身も、あらゆ
る行いにおいて聖なる者となりなさい。
16聖書に、「わたしが聖なる者であるから、
あなたがたも聖なる者になるべきである」
と書いてあるからである。 17あなたがた
は、人をそれぞれのしわざに応じて、公平
にさばくかたを、父と呼んでいるからには、
地上に宿っている間を、おそれの心をもって
過ごすべきである。 18あなたがたのよく
知っているとおり、あなたがたが先祖伝来
の空疎な生活からあがない出されたのは、
銀や金のような朽ちる物によったのではな
く、 19きずも、しみもない小羊のようなキ
リストの尊い血によったのである。 20キ
リストは、天地が造られる前から、あらか
じめ知られていたのであるが、この終りの
時に至って、あなたがたのために現れたの
である。 21あなたがたは、このキリスト
によって、彼を死人の中からよみがえらせ
て、栄光をお与えになった神を信じる者と
なったのであり、したがって、あなたがた
の信仰と望みとは、神にかかっているのである。
22あなたがたは、真理に従うことによって、
たましいをきよめ、偽りのない兄弟愛をい
だくに至ったのであるから、互に心から熱
く愛し合いなさい。 23あなたがたが新た
に生れたのは、朽ちる種からではなく、朽
ちない種から、すなわち、神の変ることの
ない生ける御言によったのである。 24「
人はみな草のごとく、その栄華はみな草の
花に似ている。草は枯れ、花は散る。しか
し、イオウオ(?)[i]の言葉は、とこしえに残る」。
25これが、あなたがたに宣べ伝えられた
御言葉である。

2 だから、あらゆる悪意、あらゆる偽り、
偽善、そねみ、いっさいの悪口を捨てて、
2今生れたばかりの乳飲み子のように、混
じりけのない霊の乳を慕い求めなさい。それ
によっておい育ち、救に入るようになるた
めである。 3あなたがたは、主が恵み深い
かたであることを、すでに味わい知ったは
ずである。

*4*主は、人には捨てられたが、神にとって
は選ばれた尊い生ける石である。 *5*この
主のみもとにきて、あなたがたも、それぞ
れ生ける石となって、霊の家に築き上げら
れ、聖なる祭司となって、イエス・キリスト
により、神によろこばれる霊のいけにえを
、ささげなさい。 *6*聖書にこう書いてある、
「見よ、わたしはシオンに、選ばれた尊い
石、隅のかしら石を置く。それにより頼む
者は、決して、失望に終ることがない」。
*7*この石は、より頼んでいるあなたがたに
は尊いものであるが、不信仰な人々には「
家造りらの捨てた石で、隅のかしら石とな
ったもの」、 *8*また「つまずきの石、妨げの
岩」である。しかし、彼らがつまずくのは、
御言に従わないからであって、彼らは、実
は、そうなるように定められていたのである
。 *9*しかし、あなたがたは、選ばれた種族
、祭司の国、聖なる国民、神につける民で
ある。それによって、暗やみから驚くべき
み光に招き入れて下さったかたのみわざ
を、あなたがたが語り伝えるためである。
*10*あなたがたは、以前は神の民でなかっ
たが、いまは神の民であり、以前は、あわ
れみを受けたことのない者であったが、い
まは、あわれみを受けた者となっている。
*11*愛する者たちよ。あなたがたに勧める。
あなたがたは、この世の旅人であり寄留
者であるから、たましいに戦いをいどむ肉
の欲を避けなさい。 *12*異邦人の中にあっ
て、りっぱな行いをしなさい。そうすれば、
彼らは、あなたがたを悪人呼ばわりしてい
ても、あなたがたのりっぱなわざを見て、
かえって、おとずれの日に神をあがめるよ
うになろう。 *13*あなたがたは、すべて人の
立てた制度に、主[ii]のゆえに従いなさい。
主権者としての王であろうと、 *14*あるいは
、悪を行う者を罰し善を行う者を賞するた
めに、王からつかわされた長官であろうと
、これに従いなさい。 *15*善を行うことによ
って、愚かな人々の無知な発言を封じる
のは、神の御旨なのである。 *16*自由人に
ふさわしく行動しなさい。ただし、自由を
ば悪を行う口実として用いず、神の僕に
ふさわしく行動しなさい。 *17*すべての人を
うやまい、兄弟たちを愛し、神をおそれ、
王を尊びなさい。 *18*僕たる者よ。心からの
おそれをもって、主人に仕えなさい。善良
で寛容な主人だけにでなく、気むずかし
い主人にも、そうしなさい。 *19*もしだれか
が、不当な苦しみを受けても、神を仰いで
その苦痛を耐え忍ぶなら、それはよみせ
られることである。 *20*悪いことをして打ち
たたかれ、それを忍んだとしても、なんの
手柄になるのか。しかし善を行って苦しみ
を受け、しかもそれを耐え忍んでいるとす
れば、これこそ神によみせられることで
ある。 *21*あなたがたは、実に、そうするように
と召されたのである。キリストも、あなたが
たのために苦しみを受け、御足の跡を踏
み従うようにと、模範を残されたのである。
*22*キリストは罪を犯さず、その口には偽り
がなかった。 *23*ののしられても、ののしり
かえさず、苦しめられても、おびやかすこ
とをせず、正しいさばきをするかたに、い
っさいをゆだねておられた。 *24*さらに、わ
たしたちが罪に死に、義に生きるために、
十字架にかかって、わたしたちの罪をご
自分の身に負われた。その傷によって、
あなたがたは、いやされたのである。 *25*あ
なたがたは、羊のようにさ迷っていたが、
今は、たましいの牧者であり監督であるか
たのもとに、たち帰ったのである。

3 同じように、妻たる者よ。夫に仕えなさ
い。そうすれば、たとい御言に従わない夫
であっても、 *2*あなたがたのうやうやしく清
い行いを見て、その妻の無言の行いによ
って、救に入れられるようになるであろう。
*3*あなたがたは、髪を編み、金の飾りをつ
け、服装をととのえるような外面の飾り で
はなく、 *4*かくれた内なる人、柔和で、しと
やかな霊という朽ちることのない飾りを、
身につけるべきである。これこそ、神のみ
まえに、きわめて尊いものである。 *5*むか
し、神を仰ぎ望んでいた聖なる女たちも、
このように身を飾って、その夫に仕えたの
である。 *6*たとえば、サラはアブラハムに
仕えて、彼を主と呼んだ。あなたがたも、
何事にもおびえ臆することなく善を行えば
、サラの娘たちとなるのである。 *7*夫たる
者よ。あなたがたも同じように、女は自分
よりも弱い器であることを認めて、知識に
従って妻と共に住み、いのちの恵みを共
どもに受け継ぐ者として、尊びなさい。そ
れは、あなたがたの祈が妨げられないた

めである。 *8*最後に言う。あなたがたは皆
、心をひとつにし、同情し合い、兄弟愛を
もち、あわれみ深くあり、謙虚でありなさい
。 *9*悪をもって悪に報いず、悪口をもって
悪口に報いず、かえって、祝福をもって報
いなさい。あなたがたが召されたのは、祝
福を受け継ぐためなのである。 *10*「いのち
を愛し、さいわいな日々を過ごそうと願う
人は、舌を制して悪を言わず、くちびるを
閉じて偽りを語らず、 *11*悪を避けて善を
行い、平和を求めて、これを追え。 *12*イオ
ウオ(?)[iii]の目は義人たちに注がれ、主の
耳は彼らの祈にかたむく。しかしイオウオ
(?)[iv]の御顔は、悪を行う者に対して向かう
」。 *13*そこで、もしあなたがたが善に熱心
であれば、だれが、あなたがたに危害を
加えようか。 *14*しかし、万一義のために苦
しむようなことがあっても、あなたがたはさ
いわいである。彼らを恐れたり、心を乱し
たりしてはならない。 *15*ただ、心の中でキ
リストを主[v]とあがめなさい。また、あなたが
たのうちにある望みについて説明を求め
る人には、いつでも弁明のできる用意をし
ていなさい。 *16*しかし、やさしく、慎み深く
、明らかな良心をもって、弁明しなさい。
そうすれば、あなたがたがキリストにあって
営んでいる良い生活をそしる人々も、その
ようにののしったことを恥じいるであろう。
*17*善をおこなって苦しむことは――それ
が神の御旨であれば――悪をおこなって
苦しむよりも、まさっている。 *18*キリストも、
あなたがたを神に近づけようとして、自ら
は義なるかたであるのに、不義なる人々
のために、ひとたび罪のゆえに死なれた。
ただし、肉においては殺されたが、霊に
おいては生かされたのである。 *19*こうして
、彼は獄に捕われている霊どものところに
下って行き、宣べ伝えることをされた。
*20*これらの霊というのは、むかしノアの箱
舟が造られていた間、神が寛容をもって
待っておられたのに従わなかった者ども
のことである。その箱舟に乗り込み、水を
経て救われたのは、わずかに八名だけで
あった。 *21*この水はバプテスマを象徴す
るものであって、今やあなたがたをも救う
のである。それは、イエス・キリストの復活
によるのであって、からだの汚れを除く
ことではなく、明らかな良心を神に願い求め
ることである。 *22*キリストは天に上って神
の右に座し、天使たちともろもろの権威、
権力を従えておられるのである。

4 このように、キリストは肉において苦しま
れたのであるから、あなたがたも同じ覚悟
で心の武装をしなさい。肉において苦し
んだ人は、それによって罪からのがれた
のである。 *2*それは、肉における残りの生
涯を、もはや人間の欲情によらず、神の
御旨によって過ごすためである。 *3*過ぎ去
った時代には、あなたがたは、異邦人の
好みにまかせて、好色、欲情、酔酒、宴
楽、暴飲、気ままな偶像礼拝などにふけ
ってきたが、もうそれで十分であろう。 *4*今
はあなたがたが、そうした度を過ごした乱
行に加わらないので、彼らは驚きあやし
み、かつ、ののしっている。 *5*彼らは、や
がて生ける者と死ねる者とをさばくかたに
、申し開きをしなくてはならない。 *6*死人に
さえ福音が宣べ伝えられたのは、彼らは
肉においては人間としてさばきを受けるが
、霊においては神に従って生きるようにな
るためである。 *7*万物の終りが近づいてい
る。だから、心を確かにし、身を慎んで、
努めて祈りなさい。 *8*何よりもまず、互の愛
を熱く保ちなさい。愛は多くの罪をおおう
ものである。 *9*不平を言わずに、互にもて
なし合いなさい。 *10*あなたがたは、それ
ぞれ賜物をいただいているのだから、神
のさまざまな恵みの良き管理人として、そ
れをお互のために役立てるべきである。
*11*語る者は、神の御言を語る者にふさわ
しく語り、奉仕する者は、神から賜わる力
による者にふさわしく奉仕すべきである。
それは、すべてのことにおいてイエス・キリ
ストによって、神があがめられるためであ
る。栄光と力とが世々限りなく、彼にあるよ
うに、アァメン。 *12*愛する者たちよ。あなた
がたを試みるために降りかかって来る火
のような試錬を、何か思いがけないことが
起ったかのように驚きあやしむことなく、
*13*むしろ、キリストの苦しみにあずかれば
あずかるほど、喜ぶがよい。それは、キリ
ストの栄光が現れる際に、よろこびにあふ
れるためである。 *14*キリストの名のために
そしられるなら、あなたがたはさいわいで
ある。その時には、栄光の霊、神の霊が、

あなたがたに宿るからである。 *15*あなたがたのうち、だれも、人殺し、盗人、悪を行う者、あるいは、他人に干渉する者として苦しみに会うことのないようにしなさい。 *16*しかし、クリスチャンとして苦しみを受けるのであれば、恥じることはない。かえって、この名によって神をあがめなさい。 *17*さばきが神の家から始められる時がきた。それが、わたしたちからまず始められるとしたら、神の福音に従わない人々の行く末は、どんなであろうか。 *18*また義人でさえ、かろうじて救われるのだとすれば、不信なる者や罪人は、どうなるであろうか。 *19*だから、神の御旨に従って苦しみを受ける人々は、善をおこない、そして、真実であられる創造者に、自分のたましいをゆだねるがよい。

5 そこで、あなたがたのうちの長老たちに勧める。わたしも、長老のひとりで、キリストの苦難についての証人であり、また、やがて現れようとする栄光にあずかる者である。 *2*あなたがたにゆだねられている神の羊の群れを牧しなさい。しいられてするのではなく、神に従って自ら進んでなし、恥ずべき利得のためではなく、本心から、それをしなさい。 *3*また、ゆだねられた者たちの上に権力をふるうことをしないで、むしろ、群れの模範となるべきである。 *4*そうすれば、大牧者が現れる時には、しぼむことのない栄光の冠を受けるであろう。
*5*同じように、若い人たちよ。長老たちに従いなさい。また、みな互に謙遜を身につけなさい。神は高ぶる者をしりぞけ、へりくだる者に恵みを賜うからである。 *6*だから、あなたがたは、神の力強い御手の下に、自らを低くしなさい。時が来れば神はあなたがたを高くして下さるであろう。 *7*神はあなたがたをかえりみていて下さるのであるから、自分の思いわずらいを、いっさい神にゆだねるがよい。 *8*身を慎み、目をさましていなさい。あなたがたの敵である悪魔が、ほえたけるししのように、食いつくすべきものを求めて歩き回っている。 *9*この悪魔にむかい、信仰にかたく立って、抵抗しなさい。あなたがたのよく知っているとおり、全世界にいるあなたがたの兄弟たちも、同じような苦しみの数々に会っているのである。 *10*あなたがたをキリストにある永遠の栄光に招き入れて下さったあふるる恵みの神は、しばらくの苦しみの後、あなたがたをいやし、強め、力づけ、不動のものとして下さるであろう。 *11*どうか、力が世々限りなく、神にあるように、アァメン。 *12*わたしは、忠実な兄弟として信頼しているシルワノの手によって、この短い手紙をあなたがたにおくり、勧めをし、また、これが神のまことの恵みであることをあかしした。この恵みのうちに、かたく立っていなさい。 *13*あなたがたと共に選ばれてバビロンにある教会、ならびに、わたしの子マルコから、あなたがたによろしく。 *14*愛の接吻をもって互にあいさつをかわしなさい。キリストにあるあなたがた一同に、平安があるように。

---

[i] イザヤ書40章6～8節、詩編119編89節と比較せよ。

[ii] 本文の異文:「神」。Hutter (1599) はここで「イオウオ(?)」とする。箴言17章11節、24章21節、エレミア書29章7節とも比較せよ。

[iii] 詩編34編16節と比較せよ。

[iv] 詩編34編17節と比較せよ。

[v] 本文の異文:「主なる神」。Hutter (1599), Delitzsch (1877) はここで「イオウオ(?)神」とする。民数記20章12節、イザヤ書5章16節、29章23節とも比較せよ。

1 イエス・キリストの僕また使徒であるシメ
オン・ペテロから、わたしたちの神と救主イ
エス・キリストとの義によって、わたしたちと
同じ尊い信仰を授かった人々へ。 2神と
わたしたちの主イエスとを知ることによって
、恵みと平安とが、あなたがたに豊かに加
わるように。 3いのちと信心とにかかわる
すべてのことは、主イエスの神聖な力によ
って、わたしたちに与えられている。それ
は、ご自身の栄光と徳とによって、わたし
たちを召されたかたを知る知識によるので
ある。 4また、それらのものによって、尊く
、大いなる約束が、わたしたちに与えられ
ている。それは、あなたがたが、世にある
欲のために滅びることを免れ、神の性質
にあずかる者となるためである。 5それだ
から、あなたがたは、力の限りをつくして、
あなたがたの信仰に徳を加え、徳に知識
を、 6知識に節制を、節制に忍耐を、忍
耐に信心を、 7信心に兄弟愛を、兄弟愛
に愛を加えなさい。 8これらのものがあな
たがたに備わって、いよいよ豊かになるな
らば、わたしたちの主イエス・キリストを知
る知識について、あなたがたは、怠る者、
実を結ばない者となることはないであろう
。 9これらのものを備えていない者は、盲
人であり、近視の者であり、自分の以前の
罪がきよめられたことを忘れている者であ
る。 10兄弟たちよ。それだから、ますます
励んで、あなたがたの受けた召しと選びと
を、確かなものにしなさい。そうすれば、
決してあやまちに陥ることはない。 11こう
して、わたしたちの主また救主イエス・キリ
ストの永遠の国に入る恵みが、あなたがた
に豊かに与えられるからである。 12それ
だから、あなたがたは既にこれらのことを
知っており、また、いま持っている真理に
堅く立ってはいるが、わたしは、これらのこ
とをいつも、あなたがたに思い起させたい
のである。 13わたしがこの幕屋にいる間、
あなたがたに思い起させて、奮い立たせ
ることが適当と思う。 14それは、わたした
ちの主イエス・キリストもわたしに示して下
さったように、わたしのこの幕屋を脱ぎ去
る時が間近であることを知っているからで
ある。 15わたしが世を去った後にも、これ
らのことを、あなたがたにいつも思い出さ
せるように努めよう。 16わたしたちの主イ
エス・キリストの力と来臨とを、あなたがた
に知らせた時、わたしたちは、巧みな作り
話を用いることはしなかった。わたしたち
が、そのご威光の目撃者なのだからであ
る。 17イエスは父なる神からほまれと栄光
とをお受けになったが、その時、おごそか
な栄光の中から次のようなみ声がかかっ
たのである、「これはわたしの愛する子、
わたしの心にかなう者である」。 18わたし
たちもイエスと共に聖なる山にいて、天か
ら出たこの声を聞いたのである。 19こうし
て、預言の言葉は、わたしたちにいっそう
確実なものになった。あなたがたも、夜が
明け、明星がのぼって、あなたがたの心
の中を照すまで、この預言の言葉を暗や
みに輝くともしびとして、それに目をとめて
いるがよい。 20聖書の預言はすべて、自
分勝手に解釈すべきでないことを、まず
第一に知るべきである。 21なぜなら、預
言は決して人間の意志から出たものでは
なく、人々が聖霊に感じ、神によって語っ
たものだからである。

2 しかし、民の間に、にせ預言者が起っ
たことがあるが、それと同じく、あなたがた
の間にも、にせ教師が現れるであろう。彼
らは、滅びに至らせる異端をひそかに持
ち込み、自分たちをあがなって下さった主
を否定して、すみやかな滅亡を自分の身
に招いている。 2また、大ぜいの人が彼ら
の放縦を見習い、そのために、真理の道
がそしりを受けるに至るのである。 3彼ら
は、貪欲のために、甘言をもってあなたが
たをあざむき、利をむさぼるであろう。彼ら
に対するさばきは昔から猶予なく行われ、
彼らの滅亡も滞ることはない。 4神は、罪
を犯した御使たちを許しておかないで、
彼らを下界におとしいれ、さばきの時まで
暗やみの穴に閉じ込めておかれた。 5ま
た、古い世界をそのままにしておかない
で、その不信仰な世界に洪水をきたらせ
、ただ、義の宣伝者ノアたち八人の者だ
けを保護された。 6また、ソドムとゴモラの
町々を灰に帰せしめて破滅に処し、不信
仰に走ろうとする人々の見せしめとし、
7ただ、非道の者どもの放縦な行いによ
ってなやまされていた義人ロトだけを救い
出された。 8(この義人は、彼らの間に住

み、彼らの不法の行いを日々見聞きして
、その正しい心を痛めていたのである。）
*9*こういうわけで、主[i]は、信心深い者を試
錬の中から救い出し、また、不義な者ども
、*10*特に、汚れた情欲におぼれ肉にした
がって歩み、また、権威ある者を軽んじる
人々を罰して、さばきの日まで閉じ込めて
おくべきことを、よくご存じなのである。こう
いう人々は、大胆不敵なわがまま者であ
って、栄光ある者たちをそしってはばかる
ところがない。*11*しかし、御使たちは、勢
いにおいても力においても、彼らにまさっ
ているにかかわらず、彼らを主[ii]のみまえ
に訴えそしることはしない。*12*これらの者
は、捕えられ、ほふられるために生れてき
た、分別のない動物のようなもので、自分
が知りもしないことをそしり、その不義の報
いとして罰を受け、必ず滅ぼされてしまう
のである。*13*彼らは、真昼でさえ酒食を
楽しみ、あなたがたと宴会に同席して、だ
ましごとにふけっている。彼らは、しみであ
り、きずである。*14*その目は淫行を追い、
罪を犯して飽くことを知らない。彼らは心
の定まらない者を誘惑し、その心は貪欲
に慣れ、のろいの子となっている。*15*彼ら
は正しい道からはずれて迷いに陥り、ベ
オルの子バラムの道に従った。バラムは
不義の実を愛し、*16*そのために、自分の
あやまちに対するとがめを受けた。ものを
言わないろばが、人間の声でものを言い
、この預言者の狂気じみたふるまいをは
ばんだのである。*17*この人々は、いわば
、水のない井戸、突風に吹きはらわれる
霧であって、彼らには暗やみが用意され
ている。*18*彼らはむなしい誇を語り、迷い
の中に生きている人々の間から、かろうじ
てのがれてきた者たちを、肉欲と色情とに
よって誘惑し、*19*この人々に自由を与え
ると約束しながら、彼ら自身は滅亡の奴隷
になっている。おおよそ、人は征服者の
奴隷となるものである。*20*彼らが、主また
救主なるイエス・キリストを知ることにより、
この世の汚れからのがれた後、またそれ
に巻き込まれて征服されるならば、彼らの
後の状態は初めよりも、もっと悪くなる。
*21*義の道を心得ていながら、自分に授け
られた聖なる戒めにそむくよりは、むしろ
義の道を知らなかった方がよい。*22*ことわ
ざに、「犬は自分の吐いた物に帰り、豚は
洗われても、また、どろの中にころがって
行く」とあるが、彼らの身に起ったことは、
そのとおりである。

3 愛する者たちよ。わたしは今この第二
の手紙をあなたがたに書きおくり、これら
の手紙によって記憶を呼び起し、あなた
がたの純真な心を奮い立たせようとした。
*2*それは、聖なる預言者たちがあらかじめ
語った言葉と、あなたがたの使徒たちが
伝えた主なる救主の戒めとを、思い出さ
せるためである。*3*まず次のことを知るべ
きである。終りの時にあざける者たちが、
あざけりながら出てきて、自分の欲情のま
まに生活し、*4*「主の来臨の約束はどうな
ったのか。先祖たちが眠りについてから、
すべてのものは天地創造の初めからその
ままであって、変ってはいない」と言うであ
ろう。*5*すなわち、彼らはこのことを認めよ
うとはしない。古い昔に天が存在し、地は
神の言によって、水がもとになり、また、水
によって成ったのであるが、*6*その時の世
界は、御言により水でおおわれて滅んで
しまった。*7*しかし、今の天と地とは、同じ
御言によって保存され、不信仰な人々が
さばかれ、滅ぼさるべき日に火で焼かれ
る時まで、そのまま保たれているのである
。*8*愛する者たちよ。この一事を忘れては
ならない。イオウオ(?)[iii]にあっては、一日
は千年のようであり、千年は一日のようで
ある。*9*ある人々がおそいと思っているよう
に、イオウオ(?)[iv]は約束の実行をおそくし
ておられるのではない。ただ、ひとりも滅
びることがなく、すべての者が悔改めに至
ることを望み、あなたがたに対してながく
忍耐しておられるのである。*10*しかし、主[v]
の日は盗人のように襲って来る。その日に
は、天は大音響をたてて消え去り、天体
は焼けてくずれ、地とその上に造り出され
たものも、みな焼きつくされるであろう。
*11*このように、これらはみなくずれ落ちて
いくものであるから、神の日の到来を熱心
に待ち望んでいるあなたがたは、*12*極力
、きよく信心深い行いをしていなければな
らない。その日[vi]には、天は燃えくずれ、
天体は焼けうせてしまう。*13*しかし、わた
したちは、神の約束に従って、義の住む

新しい天と新しい地とを待ち望んでいる。
*14*愛する者たちよ。それだから、この日を
待っているあなたがたは、しみもなくきず
もなく、安らかな心で、神のみまえに出ら
れるように励みなさい。 *15*また、わたした
ちの主の寛容は救のためであると思いな
さい。このことは、わたしたちの愛する兄
弟パウロが、彼に与えられた知恵によって
、あなたがたに書きおくったとおりである。
*16*彼は、どの手紙にもこれらのことを述べ
ている。その手紙の中には、ところどころ、
わかりにくい箇所もあって、無学で心の定
まらない者たちは、ほかの聖書について
もしているように、無理な解釈をほどこして
、自分の滅亡を招いている。 *17*愛する者
たちよ。それだから、あなたがたはかねて
から心がけているように、非道の者の惑わ
しに誘い込まれて、あなたがた自身の確
信を失うことのないように心がけなさい。
*18*そして、わたしたちの主また救主イエス
・キリストの恵みと知識とにおいて、ますま
す豊かになりなさい。栄光が、今も、また
永遠の日に至るまでも、主にあるように、
アァメン。

---

[i] Hutter (1599), Delitzsch (1877), Salkinson (1885), UBS (1979) はここで「イオウオ(?)」とする。詩編4編3節、34編15～19節、37編33節、ヨブ記5章13節とも比較せよ。

[ii] Hutter (1599), Delitzsch (1877), Salkinson (1885), UBS (1979) はここで「イオウオ(?)」とする。詩編103編20節、ヨブ記1章9～11節、2章4、5節とも比較せよ。

[iii] ここで詩編90編4節が引用される。この段落は、1節で「イオウオよ」で始まる。詩編90編では、「主」が使用されない。それゆえに、ここで「イオウオ」(?)」とした。

[iv] ハバクク書2章2、3節と比較せよ。イザヤ書30章18節、エゼキエル書12章25節、33章11節とも比較せよ。

[v] Hutter (1599), Delitzsch (1877), Salkinson (1885), UBS (1979) はここで「イオウオ(?)」とする。イザヤ書13章6、9節、エレミア書23章20節、エゼキエル30章3節、ヨエル書3章4節と比較せよ、ゼパニヤ章1章7～18節とも比較せよ。

[vi] Hutter (1599), Delitzsch (1877) はここで「イオウオ(?)の日」とする。イザヤ書13章6、9節、エレミア書23章20節、エゼキエル30章3節、ヨエル書3章4節と比較せよ、ゼパニヤ章1章7～18節とも比較せよ。

1 初めからあったもの、わたしたちが聞いたもの、目で見たもの、よく見て手でさわったもの、すなわち、いのちの言について―― 2このいのちが現れたので、この永遠のいのちをわたしたちは見て、そのあかしをし、かつ、あなたがたに告げ知らせるのである。この永遠のいのちは、父と共にいましたが、今やわたしたちに現れたものである―― 3すなわち、わたしたちが見たもの、聞いたものを、あなたがたにも告げ知らせる。それは、あなたがたも、わたしたちの交わりにあずかるようになるためである。わたしたちの交わりとは、父ならびに御子イエス・キリストとの交わりのことである。 4これを書きおくるのは、わたしたちの喜びが満ちあふれるためである。
5わたしたちがイエスから聞いて、あなたがたに伝えるおとずれは、こうである。神は光であって、神には少しの暗いところもない。 6神と交わりをしていると言いながら、もし、やみの中を歩いているなら、わたしたちは偽っているのであって、真理を行っているのではない。 7しかし、神が光の中にいますように、わたしたちも光の中を歩くならば、わたしたちは互に交わりをもち、そして、御子イエスの血が、すべての罪からわたしたちをきよめるのである。 8もし、罪がないと言うなら、それは自分を欺くことであって、真理はわたしたちのうちにない。 9もし、わたしたちが自分の罪を告白するならば、神は真実で正しいかたであるから、その罪をゆるし、すべての不義からわたしたちをきよめて下さる。 10もし、罪を犯したことがないと言うなら、それは神を偽り者とするのであって、神の言はわたしたちのうちにない。

2 わたしの子たちよ。これらのことを書きおくるのは、あなたがたが罪を犯さないようになるためである。もし、罪を犯す者があれば、父のみもとには、わたしたちのために助け主、すなわち、義なるイエス・キリストがおられる。 2彼は、わたしたちの罪のための、あがないの供え物である。ただ、わたしたちの罪のためばかりではなく、全世界の罪のためである。 3もし、わたしたちが彼の戒めを守るならば、それによって彼を知っていることを悟るのである。
4「彼を知っている」と言いながら、その戒めを守らない者は、偽り者であって、真理はその人のうちにない。 5しかし、彼の御言を守る者があれば、その人のうちに、神の愛が真に全うされるのである。それによって、わたしたちが彼にあることを知るのである。 6「彼におる」と言う者は、彼が歩かれたように、その人自身も歩くべきである。 7愛する者たちよ。わたしがあなたがたに書きおくるのは、新しい戒めではなく、あなたがたが初めから受けていた古い戒めである。その古い戒めとは、あなたがたがすでに聞いた御言である。 8しかも、新しい戒めを、あなたがたに書きおくるのである。そして、それは、彼にとってもあなたがたにとっても、真理なのである。なぜなら、やみは過ぎ去り、まことの光がすでに輝いているからである。 9「光の中にいる」と言いながら、その兄弟を憎む者は、今なお、やみの中にいるのである。 10兄弟を愛する者は、光におるのであって、つまずくことはない。 11兄弟を憎む者は、やみの中におり、やみの中を歩くのであって、自分ではどこへ行くのかわからない。やみが彼の目を見えなくしたからである。
12子たちよ。あなたがたにこれを書きおくるのは、御名のゆえに、あなたがたの多くの罪がゆるされたからである。 13父たちよ。あなたがたに書きおくるのは、あなたがたが、初めからいますかたを知ったからである。若者たちよ。あなたがたに書きおくるのは、あなたがたが、悪しき者にうち勝ったからである。 14子供たちよ。あなたがたに書きおくったのは、あなたがたが父を知ったからである。父たちよ。あなたがたに書きおくったのは、あ なたがたが、初めからいますかたを知ったからである。若者たちよ。あなたがたに書きおくったのは、あなたがたが強い者であり、神の言があなたがたに宿り、そして、あなたがたが悪しき者にうち勝ったからである。 15世と世にあるものとを、愛してはいけない。もし、世を愛する者があれば、父の愛は彼のうちにない。 16すべて世にあるもの、すなわち、肉の欲、目の欲、持ち物の誇は、父から出たものではなく、世から出たものである。 17世と世の欲とは過ぎ去る。しかし、神の御旨を行う者は、永遠にながらえる

。 *18*子供たちよ。今は終りの時である。あ
なたがたがかねて反キリストが来ると聞い
ていたように、今や多くの反キリストが現れ
てきた。それによって今が終りの時である
ことを知る。 *19*彼らはわたしたちから出て
行った。しかし、彼らはわたしたちに属す
る者ではなかったのである。もし属する者
であったなら、わた したちと一緒にとどま
っていたであろう。しかし、出て行ったの
は、元来、彼らがみなわたしたちに属さな
い者であることが、明らかにされるためで
ある。 *20*しかし、あなたがたは聖なる者に
油を注がれているので、あなたがたすべ
てが、そのことを知っている。 *21*わたしが
書きおくったのは、あなたがたが真理を知
らないからではなく、それを知っているか
らであり、また、すべての偽りは真理から
出るものでないことを、知っているからで
ある。 *22*偽り者とは、だれであるか。イエ
スのキリストであることを否定する者ではな
いか。父と御子とを否定する者は、反キリ
ストである。 *23*御子を否定する者は父を
持たず、御子を告白する者は、また父をも
持つのである。 *24*初めから聞いたことが、
あなたがたのうちに、とどまるようにしなさ
い。初めから聞いたことが、あなたがたの
うちにとどまっておれば、あなたがたも御
子と父とのうちに、とどまることになる。
*25*これが、彼自らわたしたちに約束され
た約束であって、すなわち、永遠のいの
ちである。 *26*わたしは、あなたがたを惑わ
す者たちについて、これらのことを書きお
くった。 *27*あなたがたのうちには、キリスト
からいただいた油がとどまっているので、
だれにも教えてもらう必要はない。この油
が、すべてのことをあなたがたに教える。
それはまことであって、偽りではないから、
その油が教えたように、あなたがたは彼の
うちにとどまっていなさい。 *28*そこで、子
たちよ。キリストのうちにとどまっていなさ
い。それは、彼が現れる時に、確信を持ち
、その来臨に際して、みまえに恥じいるこ
とがないためである。 *29*彼の義なるかた
であることがわかれば、義を行う者はみな
彼から生れたものであることを、知るであ
ろう。

3 わたしたちが神の子と呼ばれるために
は、どんなに大きな愛を父から賜わったこ
とか、よく考えてみなさい。わたしたちは、
すでに神の子なのである。世がわたしたち
を知らないのは、父を知らなかったから
である。 *2*愛する者たちよ。わたしたちは
今や神の子である。しかし、わたしたちが
どうなるのか、まだ明らかではない。彼が
現れる時、わたしたちは、自分たちが彼に
似るものとなることを知っている。そのまこ
との御姿を見るからである。 *3*彼についてこ
の望みをいだいている者は皆、彼がきよ
くあられるように、自らをきよくする。 *4*すべ
て罪を犯す者は、不法を行う者である。罪
は不法である。 *5*あなたがたが知っている
とおり、彼は罪をとり除くために現れたの
であって、彼にはなんらの罪がない。 *6*す
べて彼におる者は、罪を犯さない。すべ
て罪を犯す者は彼を見たこともなく、知っ
たこともない者である。 *7*子たちよ。だれに
も惑わされてはならない。彼が義人である
と同様に、義を行う者は義人である。 *8*罪
を犯す者は、悪魔から出た者である。悪
魔は初めから罪を犯しているからである。
神の子が現れたのは、悪魔のわざを滅ぼ
してしまうためである。 *9*すべて神から生
れた者は、罪を犯さない。神の種が、その
人のうちにとどまっているからである。また
、その人は、神から生れた者であるから、
罪を犯すことができない。 *10*神の子と悪
魔の子との区別は、これによって明らかで
ある。すなわち、すべて義を行わない者
は、神から出た者ではない。兄弟を愛さな
い者も、同様である。 *11*わたしたちは互
に愛し合うべきである。これが、あなたが
たの初めから聞いていたおとずれである。
*12*カインのようになってはいけない。彼は
悪しき者から出て、その兄弟を殺したので
ある。なぜ兄弟を殺したのか。彼のわざが
悪く、その兄弟のわざは正しかったからで
ある。 *13*兄弟たちよ。世があなたがたを憎
んでも、驚くには及ばない。 *14*わたしたち
は、兄弟を愛しているので、死からいのち
へ移ってきたことを、知っている。愛さない
者は、死のうちにとどまっている。 *15*あな
たがたが知っているとおり、すべて兄弟を
憎む者は人殺しであり、人殺しはすべて、
そのうちに永遠のいのちをとどめてはいな

い。 *16*主は、わたしたちのためにいのち
を捨てて下さった。それによって、わたし
たちは愛ということを知った。それゆえに、
わたしたちもまた、兄弟のためにいのちを
捨てるべきである。 *17*世の富を持ってい
ながら、兄弟が困っているのを見て、あわ
れみの心を閉じる者には、どうして神の愛
が、彼のうちにあろうか。 *18*子たちよ。わ
たしたちは言葉や口先だけで愛するので
はなく、行いと真実とをもって愛し合おう
ではないか。 *19*それによって、わたしたちが
真理から出たものであることがわかる。そ
して、神のみまえに心を安んじていよう。
*20*なぜなら、たといわたしたちの心に責
められるようなことがあっても、神はわた
したちの心よりも大いなるかたであって、す
べてをご存じだからである。 *21*愛する者
たちよ。もし心に責められるようなことがな
ければ、わたしたちは神に対して確信を
持つことができる。 *22*そして、願い求める
ものは、なんでもいただけるのである。そ
れは、わたしたちが神の戒めを守り、みこ
ころにかなうことを、行っているからである
。 *23*その戒めというのは、神の子イエス・
キリストの御名を信じ、わたしたちに命じら
れたように、互に愛し合うべきことである。
*24*神の戒めを守る人は、神におり、神も
またその人にいます。そして、神がわたし
たちのうちにいますことは、神がわたした
ちに賜わった御霊によって知るのである。

4 愛する者たちよ。すべての霊を信じるこ
とはしないで、それらの霊が神から出たも
のであるかどうか、ためしなさい。多くのに
せ預言者が世に出てきているからである。
*2*あなたがたは、こうして神の霊を知るの
である。すなわち、イエス・キリストが肉体
をとってこられたことを告白する霊は、す
べて神から出ているものであり、 *3*イエス
を告白しない霊は、すべて神から出てい
るものではない。これは、反キリストの霊で
ある。あなたがたは、それが来るとかねて
聞いていたが、今やすでに世にきている
。 *4*子たちよ。あなたがたは神から出た者
であって、彼らにうち勝ったのである。あ
なたがたのうちにいますのは、世にある者
よりも大いなる者なのである。 *5*彼らは世
から出たものである。だから、彼らは世の
ことを語り、世も彼らの言うことを聞くので
ある。 *6*しかし、わたしたちは神から出たも
のである。神を知っている者は、わたした
ちの言うことを聞き、神から出ない者は、
わたしたちの言うことを聞かない。これに
よって、わたしたちは、真理の霊と迷いの
霊との区別を知るのである。 *7*愛する者た
ちよ。わたしたちは互に愛し合おうではな
いか。愛は、神から出たものなのである。
すべて愛する者は、神から生れた者であ
って、神を知っている。 *8*愛さない者は、
神を知らない。神は愛である。 *9*神はその
ひとり子を世につかわし、彼によってわた
したちを生きるようにして下さった。それに
よって、わたしたちに対する神の愛が明ら
かにされたのである。 *10*わたしたちが神
を愛したのではなく、神がわたしたちを愛
して下さって、わたしたちの罪のためにあ
がないの供え物として、御子をおつかわし
になった。ここに愛がある。 *11*愛する者た
ちよ。神がこのようにわたしたちを愛して
下さったのであるから、わたしたちも互に
愛し合うべきである。 *12*神を見た者は、ま
だひとりもいない。もしわたしたちが互に
愛し合うなら、神はわたしたちのうちにい
まし、神の愛がわたしたちのうちに全うさ
れるのである。 *13*神が御霊をわたしたち
に賜わったことによって、わたしたちが神
におり、神がわたしたちにいますことを知
る。 *14*わたしたちは、父が御子を世の救
主としておつかわしになったのを見て、そ
のあかしをするのである。 *15*もし人が、イ
エスを神の子と告白すれば、神はその人
のうちにいまし、その人は神のうちにいる
のである。 *16*わたしたちは、神がわたした
ちに対して持っておられる愛を知り、かつ
信じている。神は愛である。愛のうちにい
る者は、神におり、神も彼にいます。 *17*わ
たしたちもこの世にあって彼のように生き
ているので、さばきの日に確信を持って
立つことができる。そのことによって、愛が
わたしたちに全うされているのである。
*18*愛には恐れがない。完全な愛は恐れ
をとり除く。恐れには懲らしめが伴い、か
つ恐れる者には、愛が全うされていない
からである。 *19*わたしたちが愛し合うのは
、神がまずわたしたちを愛して下さったか
らである。 *20*「神を愛している」と言いなが

ら兄弟を憎む者は、偽り者である。現に見
ている兄弟を愛さない者は、目に見えな
い神を愛することはできない。 *21*神を愛
する者は、兄弟をも愛すべきである。この
戒めを、わたしたちは神から授かっている
。

5 すべてイエスのキリストであることを信じ
る者は、神から生れた者である。すべて生
んで下さったかたを愛する者は、そのか
たから生れた者をも愛するのである。 *2*神
を愛してその戒めを行えば、それによって
わたしたちは、神の子たちを愛していること
を知るのである。 *3*神を愛するとは、す
なわち、その戒めを守ることである。そして
、その戒めはむずかしいものではない。
*4*なぜなら、すべて神から生れた者は、世
に勝つからである。そして、わたしたちの
信仰こそ、世に勝たしめた勝利の力である。
*5*世に勝つ者はだれか。イエスを神の
子と信じる者ではないか。 *6*このイエス・キ
リストは、水と血とをとおってこられたかた
である。水によるだけではなく、水と血とに
よってこられたのである。そのあかしをす
るものは、御霊である。御霊は真理だから
である。 *7*あかしをするものが、三つある。
*8*御霊と水と血とである。そして、この三つ
のものは一致する。 *9*わたしたちは人間の
あかしを受けいれるが、しかし、神のあか
しはさらにまさっている。神のあかしという
のは、すなわち、御子について立てられ
たあかしである。 *10*神の子を信じる者は、
自分のうちにこのあかしを持っている。神
を信じない者は、神を偽り者とする。神が
御子についてあかしせられたそのあかし
を、信じていないからである。 *11*そのあか
しとは、神が永遠のいのちをわたしたちに
賜わり、かつ、そのいのちが御子のうちに
あるということである。 *12*御子を持つ者は
いのちを持ち、神の御子を持たない者は
いのちを持っていない。 *13*これらのことを
あなたがたに書きおくったのは、神の子の
御名を信じるあなたがたに、永遠のいの
ちを持っていることを、悟らせるためであ
る。 *14*わたしたちが神に対していだいて
いる確信は、こうである。すなわち、わたし
たちが何事でも神の御旨に従って願い求
めるなら、神はそれを聞きいれて下さると
いうことである。 *15*そして、わたしたちが
願い求めることは、なんでも聞きいれて下
さるとわかれば、神に願い求めたことはす
でにかなえられたことを、知るのである。
*16*もしだれかが死に至ることのない罪を
犯している兄弟を見たら、神に願い求め
なさい。そうすれば神は、死に至ることの
ない罪を犯している人々には、いのちを
賜わるであろう。死に至る罪がある。これ
については、願い求めよ、とは言わない。
*17*不義はすべて、罪である。しかし、死に
至ることのない罪もある。 *18*すべて神から
生れた者は罪を犯さないことを、わたした
ちは知っている。神から生れたかたが彼
を守っていて下さるので、悪しき者が手を
触れるようなことはない。 *19*また、わたし
たちは神から出た者であり、全世界は悪
しき者の配下にあることを、知っている。
*20*さらに、神の子がきて、真実なかたを
知る知力をわたしたちに授けて下さったこ
とも、知っている。そして、わたしたちは、
真実なかたにおり、御子イエス・キリストに
おるのである。このかたは真実な神であり
、永遠のいのちである。 *21*子たちよ。気を
つけて、偶像を避けなさい。

*1*長老のわたしから、真実に愛している選
ばれた婦人とその子たちへ。あなたがた
を愛しているのは、わたしだけではなく、
真理を知っている者はみなそうである。
*2*それは、わたしたちのうちにあり、また永
遠に共にあるべき真理によるのである。
*3*父なる神および父の御子イエス・キリスト
から、恵みとあわれみと平安とが、真理と
愛のうちにあって、わたしたちと共にある
ように。 *4*あなたの子供たちのうちで、わた
したちが父から受けた戒めどおりに、真理
のうちを歩いている者があるのを見て、わ
たしは非常に喜んでいる。 *5*婦人よ。ここ
にお願いしたいことがある。それは、新し
い戒めを書くわけではなく、初めから持っ
ていた戒めなのであるが、わたしたちは、
みんな互に愛し合おうではないか。 *6*父
の戒めどおりに歩くことが、すなわち、愛
であり、あなたがたが初めから聞いてきた
とおりに愛のうちを歩くことが、すなわち、
戒めなのである。 *7*なぜなら、イエス・キリ
ストが肉体をとってこられたことを告白し
ないで人を惑わす者が、多く世にはいって
きたからである。そういう者は、惑わす者
であり、反キリストである。 *8*よく注意して、
わたしたちの働いて得た成果を失うことが
なく、豊かな報いを受けられるようにしなさ
い。 *9*すべてキリストの教をとおり過ごして
、それにとどまらない者は、神を持ってい
ないのである。その教にとどまっている者
は、父を持ち、また御子をも持つ。 *10*この
教を持たずにあなたがたのところに来る
者があれば、その人を家に入れることも、
あいさつすることもしてはいけない。 *11*そ
のような人にあいさつする者は、その悪い
行いにあずかることになるからである。[i]
*12*あなたがたに書きおくることはたくさん
あるが、紙と墨とで書くことはすまい。むし
ろ、あなたがたのところに行き、直接はな
し合って、共に喜びに満ちあふれたいも
のである。 *13*選ばれたあなたの姉妹の子
供たちが、あなたによろしく。

---

[i] 本部の異文の追加:「見よ！あなたがたは主の日に恥ずかしいと思う事はならないと私が前もって言った」。Hutter (1599) はここで「イオウオ(?)の日に」とする。

*1*長老のわたしから、真実に愛している親
愛なるガイオへ。 *2*愛する者よ。あなたの
たましいがいつも恵まれていると同じく、あ
なたがすべてのことに恵まれ、またすこや
かであるようにと、わたしは祈っている。
*3*兄弟たちがきて、あなたが真理に生きて
いることを、あかししてくれたので、ひじょう
に喜んでいる。事実、あなたは真理のうち
を歩いているのである。 *4*わたしの子供た
ちが真理のうちを歩いていることを聞く以
上に、大きい喜びはない。 *5*愛する者よ。
あなたが、兄弟たち、しかも旅先にある者
につくしていることは、みな真実なわざで
ある。 *6*彼らは、諸教会で、あなたの愛に
ついてあかしをした。それらの人々を、神
のみこころにかなうように送り出してくれた
ら、それは願わしいことである。 *7*彼らは、
御名のために旅立った者であって、異邦
人からは何も受けていない。 *8*それだから
、わたしたちは、真理のための同労者とな
るように、こういう人々を助けねばならない
。 *9*わたしは少しばかり教会に書きおくっ
ておいたが、みんなのかしらになりたがっ
ているデオテレペスが、わたしたちを受け
いれてくれない。 *10*だから、わたしがそち
らへ行った時、彼のしわざを指摘しようと
思う。彼はロぎたなくわたしたちをののしり
、そればかりか、兄弟たちを受けいれよう
ともせず、受けいれようとする人たちを妨
げて、教会から追い出している。 *11*愛す
る者よ。悪にならわないで、善にならいな
さい。善を行う者は神から出た者であり、
悪を行う者は神を見たことのない者である
。 *12*デメテリオについては、あらゆる人も
、また真理そのものも、証明している。わ
たしたちも証明している。そして、あなたが
知っているとおり、わたしたちの証明は真
実である。 *13*あなたに書きおくりたいこと
はたくさんあるが、墨と筆とで書くことはす
まい。 *14*すぐにでもあなたに会って、直
接はなし合いたいものである。 *15*平安が
、あなたにあるように。友人たちから、あな
たによろしく。友人たちひとりびとりに、よ
ろしく。

*1*イエス・キリストの僕またヤコブの兄弟であるユダから、父なる神に愛され、イエス・キリストに守られている召された人々へ。*2*あわれみと平安と愛とが、あなたがたに豊かに加わるように。*3*愛する者たちよ。わたしたちが共にあずかっている救について、あなたがたに書きおくりたいと心から願っていたので、聖徒たちによって、ひとたび伝えられた信仰のために戦うことを勧めるように、手紙をおくる必要を感じるに至った。*4*そのわけは、不信仰な人々がしのび込んできて、わたしたちの神の恵みを放縦な生活に変え、唯一の君であり、わたしたちの主であるイエス・キリストを否定しているからである。彼らは、このようなさばきを受けることに、昔から予告されているのである。*5*あなたがたはみな、じゅうぶんに知っていることではあるが、イオウオ(?)[i]が民をエジプトの地から救い出して後、不信仰な者を滅ぼされたことを、思い起してもらいたい。*6*主は、自分たちの地位を守ろうとはせず、そのおるべき所を捨て去った御使たちを、大いなる日のさばきのために、永久にしばりつけたまま、暗やみの中に閉じ込めておかれた。*7*ソドム、ゴモラも、まわりの町々も、同様であって、同じように淫行にふけり、不自然な肉欲に走ったので、永遠の火の刑罰を受け、人々の見せしめにされている。*8*しかし、これと同じように、これらの人々は、夢に迷わされて肉を汚し、権威ある者たちを軽んじ、栄光ある者たちをそしっている。*9*御使のかしらミカエルは、モーセの死体について悪魔と論じ争った時、相手をののしりさばくことはあえてせず、ただ、「イオウオ(?)[ii]がおまえを戒めて下さるように」と言っただけであった。*10*しかし、この人々は自分が知りもしないことをそしり、また、分別のない動物のように、ただ本能的な知識にあやまられて、自らの滅亡を招いている。*11*彼らはわざわいである。彼らはカインの道を行き、利のためにバラムの惑わしに迷い入り、コラのような反逆をして滅んでしまうのである。*12*彼らは、あなたがたの愛餐に加わるが、それを汚し、無遠慮に宴会に同席して、自分の腹を肥やしている。彼らは、いわば、風に吹きまわされる水なき雲、実らない枯れ果てて、抜き捨てられた秋の木、*13*自分の恥をあわにして出す海の荒波、さまよう星である。彼らには、まっくらなやみが永久に用意されている。*14*アダムから七代目にあたるエノクも彼らについて預言して言った、「見よ、主[iii]は無数の聖徒たちを率いてこられた。*15*それは、すべての者にさばきを行うためであり、また、不信心な者が、信仰を無視して犯したすべての不信心なしわざと、さらに、不信心な罪人が主にそむいて語ったすべての暴言とを責めるためである」。*16*彼らは不平をならべ、不満を鳴らす者であり、自分の欲のままに生活し、その口は大言を吐き、利のために人にへつらう者である。*17*愛する者たちよ。わたしたちの主イエス・キリストの使徒たちが予告した言葉を思い出しなさい。*18*彼らはあなたがたにこう言った、「終りの時に、あざける者たちがあらわれて、自分の不信心な欲のままに生活するであろう」。

*19*彼らは分派をつくる者、肉に属する者、御霊を持たない者たちである。*20*しかし、愛する者たちよ。あなたがたは、最も神聖な信仰の上に自らを築き上げ、聖霊によって祈り、*21*神の愛の中に自らを保ち、永遠のいのちを目あてとして、わたしたちの主イエス・キリストのあわれみを待ち望みなさい。*22*疑いをいだく人々があれば、彼らをあわれみ、*23*火の中から引き出して救ってやりなさい。また、そのほかの人たちを、おそれの心をもってあわれみなさい。しかし、肉に汚れた者に対しては、その下着さえも忌みきらいなさい。*24*あなたがたを守ってつまずかない者とし、また、その栄光のまえに傷なき者として、喜びのうちに立たせて下さるかた、*25*すなわち、わたしたちの救主なる唯一の神に、栄光、大能、力、権威が、わたしたちの主イエス・キリストによって、世々の初めにも、今も、また、世々限りなく、あるように、アァメン。

---

[i] 出エジプト記5章～14章、民数記14章35節と比較せよ。

[ii] ゼカリヤ書3章2節と比較せよ。

[iii] Fry (1817), Delitzsch (1877)はここでイオウオ(?)とする。創世記5章21～24節と比較せよ。

1 イエス・キリストの黙示。この黙示は、神
が、すぐにも起るべきことをその僕たちに
示すためキリストに与え、そして、キリスト
が、御使をつかわして、僕ヨハネに伝えら
れたものである。 2ヨハネは、神の言とイ
エス・キリストのあかしと、すなわち、自分
が見たすべてのことをあかしした。 3この
預言の言葉を朗読する者と、これを聞い
て、その中に書かれていることを守る者た
ちとは、さいわいである。時が近づいてい
るからである。 4ヨハネからアジヤにある七
つの教会へ。今いまし、昔いまし、やがて
きたるべきかたから、また、その御座の前
にある七つの霊から、 5また、忠実な証人
、死人の中から最初に生れた者、地上の
諸王の支配者であるイエス・キリストから、
恵みと平安とが、あなたがたにあるように。
わたしたちを愛し、その血によってわたし
たちを罪から解放し、 6わたしたちを、そ
の父なる神のために、御国の民とし、祭司
として下さったかたに、世々限りなく栄光と
権力とがあるように、アァメン。 7見よ、彼
は、雲に乗ってこられる。すべての人の目
、ことに、彼を刺しとおした者たちは、彼を
仰ぎ見るであろう。また地上の諸族はみな
、彼のゆえに胸を打って嘆くであろう。し
かり、アァメン。 8今いまし、昔いまし、や
がてきたるべき者、全能者にしてイオウ
オ(?)神[i]が仰せになる、「わたしはアルパ
であり、オメガである」。 9あなたがたの兄
弟であり、共にイエスの苦難と御国と忍耐
とにあずかっている、わたしヨハネは、神
の言とイエスのあかしとのゆえに、パトモス
という島にいた。 10ところが、わたしは、主
の日に御霊に感じた。そして、わたしのう
しろの方で、ラッパのような大きな声がす
るのを聞いた。 11その声はこう言った、
「あなたが見ていることを書きものにして、
それをエペソ、スミルナ、ペルガモ、テア
テラ、サルデス、ヒラデルヒヤ、ラオデキヤ
にある七つの教会に送りなさい」。 12そこ
でわたしは、わたしに呼びかけたその声
を見ようとしてふりむいた。ふりむくと、七
つの金の燭台が目についた。 13それらの
燭台の間に、足までたれた上着を着、胸
に金の帯をしめている人の子のような者
がいた。 14そのかしらと髪の毛とは、雪の
ように白い羊毛に似て真白であり、目は
燃える炎のようであった。 15その足は、炉
で精錬されて光り輝くしんちゅうのようであ
り、声は大水のとどろきのようであった。
16その右手に七つの星を持ち、口からは
、鋭いもろ刃のつるぎがつき出ており、顔
は、強く照り輝く太陽のようであった。
17わたしは彼を見たとき、その足もとに倒
れて死人のようになった。すると、彼は右
手をわたしの上において言った、「恐れる
な。わたしは初めであり、終りであり、 18ま
た、生きている者である。わたしは死んだ
ことはあるが、見よ、世々限りなく生きてい
る者である。そして、死と黄泉とのかぎを
持っている。 19そこで、あなたの見たこと
、現在のこと、今後起ろうとすることを、書
きとめなさい。 20あなたがわたしの右手に
見た七つの星と、七つの金の燭台との奥
義は、こうである。すなわち、七つの星は
七つの教会の御使であり、七つの燭台は
七つの教会である。

2 エペソにある教会の御使に、こう書きお
くりなさい。『右の手に七つの星を持つ者
、七つの金の燭台の間を歩く者が、次の
ように言われる。 2わたしは、あなたのわ
ざと労苦と忍耐とを知っている。また、あな
たが、悪い者たちをゆるしておくことがで
きず、使徒と自称してはいるが、その実、
使徒でない者たちをためしてみて、にせ
者であると見抜いたことも、知っている。
3あなたは忍耐をし続け、わたしの名のた
めに忍びとおして、弱り果てることがなか
った。 4しかし、あなたに対して責むべき
ことがある。あなたは初めの愛から離れて
しまった。 5そこで、あなたはどこから落ち
たかを思い起し、悔い改めて初めのわざ
を行いなさい。もし、そうしないで悔い改
めなければ、わたしはあなたのところにき
て、あなたの燭台をその場所から取りのけ
よう。 6しかし、こういうことはある、あなた
はニコライ宗の人々のわざを憎んでおり、
わたしもそれを憎んでいる。 7耳のある者
は、御霊が諸教会に言うことを聞くがよい
。勝利を得る者には、神のパラダイスにあ
るいのちの木の実を食べることをゆるそう』
。 8スミルナにある教会の御使に、こう書き
おくりなさい。『初めであり、終りである者、
死んだことはあるが生き返った者が、

次のように言われる。 *9*わたしは、あなた
の苦難や、貧しさを知っている(しかし実
際は、あなたは富んでいるのだ)。また、
ユダヤ人と自称してはいるが、その実ユダ
ヤ人でなくてサタンの会堂に属する者た
ちにそしられていることも、わたしは知っ
ている。 *10*あなたの受けようとする苦しみを
恐れてはならない。見よ、悪魔が、あなた
がたのうちのある者をためすために、獄に
入れようとしている。あなたがたは十日の
間、苦難にあうであろう。死に至るまで忠
実であれ。そうすれば、いのちの冠を与え
よう。 *11*耳のある者は、御霊が諸教会に
言うことを聞くがよい。勝利を得る者は、第
二の死によって滅ぼされることはない』。
*12*ペルガモにある教会の御使に、こう書
きおくりなさい。『鋭いもろ刃のつるぎを持
っているかたが、次のように言われる。
*13*わたしはあなたの住んでいる所を知っ
ている。そこにはサタンの座がある。あな
たは、わたしの名を堅く持ちつづけ、わた
しの忠実な証人アンテパスがサタンの住
んでいるあなたがたの所で殺された時で
さえ、わたしに対する信仰を捨てなかった
。 *14*しかし、あなたに対して責むべきこと
が、少しばかりある。あなたがたの中には
、現にバラムの教を奉じている者がある。
バラムは、バラクに教え込み、イスラエル
の子らの前に、つまずきになるものを置か
せて、偶像にささげたものを食べさせ、ま
た不品行をさせたのである。 *15*同じように
、あなたがたの中には、ニコライ宗の教を
奉じている者もいる。 *16*だから、悔い改め
なさい。そうしないと、わたしはすぐにあな
たのところに行き、わたしの口のつるぎを
もって彼らと戦おう。 *17*耳のある者は、御
霊が諸教会に言うことを聞くがよい。勝利
を得る者には、隠されているマナを与えよ
う。また、白い石を与えよう。この石の上に
は、これを受ける者のほかだれも知らない
新しい名が書いてある』。 *18*テアテラにあ
る教会の御使に、こう書きおくりなさい。
『燃える炎のような目と光り輝くしんちゅう
のような足とを持った神の子が、次のよう
に言われる。 *19*わたしは、あなたのわざと
、あなたの愛と信仰と奉仕と忍耐とを知っ
ている。また、あなたの後のわざが、初め
のよりもまさっていることを知っている。
*20*しかし、あなたに対して責むべきことが
ある。あなたは、あのイゼベルという女を、
そのなすがままにさせている。この女は女
預言者と自称し、わたしの僕たちを教え、
惑わして、不品行をさせ、偶像にささげた
ものを食べさせている。 *21*わたしは、この
女に悔い改めるおりを与えたが、悔い改
めてその不品行をやめようとはしない。
*22*見よ、わたしはこの女を病の床に投げ
入れる。この女と姦淫する者をも、悔い改
めて彼女のわざから離れなければ、大き
な患難の中に投げ入れる。 *23*また、この
女の子供たちをも打ち殺そう。こうしてす
べての教会は、わたしが人の心の奥底ま
でも探り知る者であることを悟るであろう。
そしてわたしは、あなたがたひとりびとりの
わざに応じて報いよう。 *24*また、テアテラ
にいるほかの人たちで、まだあの女の教
を受けておらず、サタンの、いわゆる「深
み」を知らないあなたがたに言う。わたし
は別にほかの重荷を、あなたがたに負わ
せることはしない。 *25*ただ、わたしが来る
時まで、自分の持っているものを堅く保っ
ていなさい。 *26*勝利を得る者、わたしの
わざを最後まで持ち続ける者には、諸国
民を支配する権威を授ける。 *27*彼は鉄の
つえをもって、ちょうど土の器を砕くように
、彼らを治めるであろう。それは、わたし自
身が父から権威を受けて治めるのと同様
である。 *28*わたしはまた、彼に明けの明
星を与える。 *29*耳のある者は、御霊が諸
教会に言うことを聞くがよい』。

3 サルデスにある教会の御使に、こう書き
おくりなさい。『神の七つの霊と七つの星
とを持つかたが、次のように言われる。わ
たしはあなたのわざを知っている。すなわ
ち、あなたは、生きているというのは名だ
けで、実は死んでいる。 *2*目をさましてい
て、死にかけている残りの者たちを力づけ
なさい。わたしは、あなたのわざが、わた
しの神のみまえに完全であるとは見てい
ない。 *3*だから、あなたが、どのようにして
受けたか、また聞いたかを思い起して、そ
れを守りとおし、かつ悔い改めなさい。も
し目をさましていないなら、わたしは盗人
のように来るであろう。

どんな時にあなたのところに来るか、あなたには決してわからない。 *4*しかし、サルデスにはその衣を汚さない人が、数人いる。彼らは白い衣を着て、わたしと共に歩みを続けるであろう。彼らは、それにふさわしい者である。 *5*勝利を得る者は、このように白い衣を着せられるのである。わたしは、その名をいのちの書から消すようなことを、決してしない。また、わたしの父と御使たちの前で、その名を言いあらわそう。 *6*耳のある者は、御霊が諸教会に言うことを聞くがよい』。 *7*ヒラデルヒヤにある教会の御使に、こう書きおくりなさい。『聖なる者、まことなる者、ダビデのかぎを持つ者、開けばだれにも閉じられることがなく、閉じればだれにも開かれることのない者が、次のように言われる。 *8*わたしは、あなたのわざを知っている。見よ、わたしは、あなたの前に、だれも閉じることのできない門を開いておいた。なぜなら、あなたには少ししか力がなかったにもかかわらず、わたしの言葉を守り、わたしの名を否まなかったからである。 *9*見よ、サタンの会堂に属する者、すなわち、ユダヤ人と自称してはいるが、その実ユダヤ人でなくて、偽る者たちに、こうしよう。見よ、彼らがあなたの足もとにきて平伏するようにし、そして、わたしがあなたを愛していることを、彼らに知らせよう。 *10*忍耐についてのわたしの言葉をあなたが守ったから、わたしも、地上に住む者たちをためすために、全世界に臨もうとしている試錬の時に、あなたを防ぎ守ろう。 *11*わたしは、すぐに来る。あなたの冠がだれにも奪われないように、自分の持っているものを堅く守っていなさい。 *12*勝利を得る者を、わたしの神の聖所における柱にしよう。彼は決して二度と外へ出ることはない。そして彼の上に、わたしの神の御名と、わたしの神の都、すなわち、天とわたしの神のみもとから下ってくる新しいエルサレムの名と、わたしの新しい名とを、書きつけよう。 *13*耳のある者は、御霊が諸教会に言うことを聞くがよい』。 *14*ラオデキヤにある教会の御使に、こう書きおくりなさい。『アァメンたる者、忠実な、まことの証人、神に造られたものの根源であるかたが、次のように言われる。 *15*わたしはあなたのわざを知っている。あなたは冷たくもなく、熱くもない。むしろ、冷たいか熱いかであってほしい。 *16*このように、熱くもなく、冷たくもなく、なまぬるいので、あなたを口から吐き出そう。 *17*あなたは、自分は富んでいる、豊かになった、なんの不自由もないと言っているが、実は、あなた自身がみじめな者、あわれむべき者、貧しい者、目の見えない者、裸な者であることに気がついていない。 *18*そこで、あなたに勧める。富む者となるために、わたしから火で精錬された金を買い、また、あなたの裸の恥をさらさないため身に着けるように、白い衣を買いなさい。また、見えるようになるため、目にぬる目薬を買いなさい。 *19*すべてわたしの愛している者を、わたしはしかったり、懲らしめたりする。だから、熱心になって悔い改めなさい。 *20*見よ、わたしは戸の外に立って、たたいている。だれでもわたしの声を聞いて戸をあけるなら、わたしはその中にはいって彼と食を共にし、彼もまたわたしと食を共にするであろう。 *21*勝利を得る者には、わたしと共にわたしの座につかせよう。それはちょうど、わたしが勝利を得てわたしの父と共にその御座についたのと同様である。 *22*耳のある者は、御霊が諸教会に言うことを聞くがよい』」。

4 その後、わたしが見ていると、見よ、開いた門が天にあった。そして、さきにラッパのような声でわたしに呼びかけるのを聞いた初めの声が、「ここに上ってきなさい。そうしたら、これから後に起るべきことを、見せてあげよう」と言った。 *2*すると、たちまち、わたしは御霊に感じた。見よ、御座が天に設けられており、その御座にいますかたがあった。 *3*その座にいますかたは、碧玉や赤めのうのように見え、また、御座のまわりには、緑玉のように見えるにじが現れていた。 *4*また、御座のまわりには二十四の座があって、二十四人の長老が白い衣を身にまとい、頭に金の冠をかぶって、それらの座についていた。 *5*御座からは、いなずまと、もろもろの声と、雷鳴とが、発していた。また、七つのともし火が、御座の前で燃えていた。これらは、神の七つの霊である。 *6*御座の前は、水晶に似たガラスの海のようであった。

御座のそば近くそのまわりには、四つの
生き物がいたが、その前にも後にも、一面
に目がついていた。 *7*第一の生き物はし
しのようであり、第二の生き物は雄牛のよ
うであり、第三の生き物は人のような顔を
しており、第四の生き物は飛ぶわしのよう
であった。 *8*この四つの生き物には、それ
ぞれ六つの翼があり、その翼のまわりも内
側も目で満ちていた。そして、昼も夜も、
絶え間なくこう叫びつづけていた、「聖な
るかな、聖なるかな、聖なるかな、全能者
にしてイオウオ(?)神[ii]。昔いまし、今いまし
、やがてきたるべき者」。 *9*これらの生き物
が、御座にいまし、かつ、世々限りなく生
きておられるかたに、栄光とほまれとを帰
し、また、感謝をささげている時、 *10*二十
四人の長老は、御座にいますかたのみま
えにひれ伏し、世々限りなく生きておられ
るかたを拝み、彼らの冠を御座のまえに、
投げ出して言った、 *11*「われらの神、イオ
ウオ(?)[iii]よ、あなたこそは、栄光とほまれと
力とを受けるにふさわしいかた。あなたは
万物を造られました。御旨によって、万物
は存在し、また造られたのであります」。

5 わたしはまた、御座にいますかたの右
の手に、巻物があるのを見た。その内側
にも外側にも字が書いてあって、七つの
封印で封じてあった。 *2*また、ひとりの強
い御使が、大声で、「その巻物を開き、封
印をとくのにふさわしい者は、だれか」と呼
ばわっているのを見た。 *3*しかし、天にも
地にも地の下にも、この巻物を開いて、そ
れを見ることのできる者は、ひとりもいなか
った。 *4*巻物を開いてそれを見るのにふさ
わしい者が見当らないので、わたしは激し
く泣いていた。 *5*すると、長老のひとりがわ
たしに言った、「泣くな。見よ、ユダ族のし
し、ダビデの若枝であるかたが、勝利を得
たので、その巻物を開き七つの封印を解
くことができる」。 *6*わたしはまた、御座と四
つの生き物との間、長老たちの間に、ほ
ふられたとみえる小羊が立っているのを
見た。それに七つの角と七つの目とがあ
った。これらの目は、全世界につかわされ
た、神の七つの霊である。 *7*小羊は進み
出て、御座にいますかたの右の手から、
巻物を受けとった。 *8*巻物を受けとった時
、四つの生き物と二十四人の長老とは、
おのおの、立琴と、香の満ちている金の
鉢とを手に持って、小羊の前にひれ伏し
た。この香は聖徒の祈である。 *9*彼らは新
しい歌を歌って言った、「あなたこそは、そ
の巻物を受けとり、封印を解くにふさわし
いかたであります。あなたはほふられ、そ
の血によって、神のために、あらゆる部族
、国語、民族、国民の中から人々をあがな
い、 *10*わたしたちの神のために、彼らを
御国の民とし、祭司となさいました。彼ら
は地上を支配するに至るでしょう」。 *11*さ
らに見ていると、御座と生き物と長老たち
とのまわりに、多くの御使たちの声が上が
るのを聞いた。その数は万の幾万倍、千
の幾千倍もあって、 *12*大声で叫んでいた
、「ほふられた小羊こそは、力と、富と、知
恵と、勢いと、ほまれと、栄光と、さんびと
を受けるにふさわしい」。 *13*またわたしは、
天と地、地の下と海の中にあるすべての
造られたもの、そして、それらの中にある
すべてのものの言う声を聞いた、「御座に
いますかたと小羊とに、さんびと、ほまれと
、栄光と、権力とが、世々限りなくあるよう
に」。 *14*四つの生き物はアァメンと唱え、
長老たちはひれ伏して礼拝した。

6 小羊がその七つの封印の一つを解い
た時、わたしが見ていると、四つの生き物
の一つが、雷のような声で「きたれ」と呼ぶ
のを聞いた。 *2*そして見ていると、見よ、白
い馬が出てきた。そして、それに乗って
る者は、弓を手に持っており、また冠を与
えられて、勝利の上にもなお勝利を得よう
として出かけた。 *3*小羊が第二の封印を
解いた時、第二の生き物が「きたれ」と言う
のを、わたしは聞いた。 *4*すると今度は、
赤い馬が出てきた。そして、それに乗って
る者は、人々が互に殺し合うようになる
ために、地上から平和を奪い取ることを許
され、また、大きなつるぎを与えられた。
*5*また、第三の封印を解いた時、第三の
生き物が「きたれ」と言うのを、わたしは聞
いた。そこで見ていると、見よ、黒い馬が
出てきた。そして、それに乗っている者は
、はかりを手に持っていた。 *6*すると、わた
しは四つの生き物の間から出て来ると思
われる声が、こう言うのを聞いた、

「小麦一ますは一デナリ。大麦三ますも一
デナリ。オリブ油とぶどう酒とを、そこなうな
」。 *7*小羊が第四の封印を解いた時、第四
の生き物が「きたれ」と言う声を、わたしは
聞いた。 *8*そこで見ていると、見よ、青白
い馬が出てきた。そして、それに乗ってい
る者の名は「死」と言い、それに黄泉が従
っていた。彼らには、地の四分の一を支
配する権威、および、つるぎと、ききんと、
死と、地の獣らとによって人を殺す権威と
が、与えられた。 *9*小羊が第五の封印を
解いた時、神の言のゆえに、また、そのあ
かしを立てたために、殺された人々の霊
魂が、祭壇の下にいるのを、わたしは見た
。 *10*彼らは大声で叫んで言った、「聖なる
、まことなる主よ。いつまであなたは、さば
くことをなさらず、また地に住む者に対し
て、わたしたちの血の報復をなさらないの
ですか」。 *11*すると、彼らのひとりびとりに
白い衣が与えられ、それから、「彼らと同じ
く殺されようとする僕仲間や兄弟たちの数
が満ちるまで、もうしばらくの間、休んでい
るように」と言い渡された。 *12*小羊が第六
の封印を解いた時、わたしが見ていると、
大地震が起って、太陽は毛織の荒布のよ
うに黒くなり、月は全面、血のようになり、
*13*天の星は、いちじくのまだ青い実が大
風に揺られて振り落されるように、地に落
ちた。 *14*天は巻物が巻かれるように消え
ていき、すべての山と島とはその場所から
移されてしまった。 *15*地の王たち、高官、
千卒長、富める者、勇者、奴隷、自由人ら
はみな、ほら穴や山の岩かげに、身をかく
した。 *16*そして、山と岩とにむかって言っ
た、「さあ、われわれをおおって、御座に
いますかたの御顔と小羊の怒りとから、か
くまってくれ。 *17*御怒りの大いなる日が、
すでにきたのだ。だれが、その前に立つ
ことができようか」。

7 この後、わたしは四人の御使が地の四
すみに立っているのを見た。彼らは地の
四方の風をひき止めて、地にも海にもす
べての木にも、吹きつけないようにしてい
た。 *2*また、もうひとりの御使が、生ける神
の印を持って、日の出る方から上って来る
のを見た。彼は地と海とをそこなう権威を
授かっている四人の御使にむかって、
大声で叫んで言った、 *3*「わたしたちの神
の僕らの額に、わたしたちが印をおしてし
まうまでは、地と海と木とをそこなってはな
らない」。 *4*わたしは印をおされた者の数
を聞いたが、イスラエルの子らのすべての
部族のうち、印をおされた者は十四万四
千人であった。 *5*ユダの部族のうち、一万
二千人が印をおされ、ルベンの部族のう
ち、一万二千人、ガドの部族のうち、一万
二千人、*6*アセルの部族のうち、一万二千
人、ナフタリの部族のうち、一万二千人、
マナセの部族のうち、一万二千人、*7*シメ
オンの部族のうち、一万二千人、レビの部
族のうち、一万二千人、イサカルの部族
のうち、一万二千人、*8*ゼブルンの部族の
うち、一万二千人、ヨセフの部族のうち、
一万二千人、ベニヤミンの部族のうち、一
万二千人が印をおされた。 *9*その後、わた
しが見ていると、見よ、あらゆる国民、部族
、民族、国語のうちから、数えきれないほ
どの大ぜいの群衆が、白い衣を身にまと
い、しゅろの枝を手に持って、御座と小羊
との前に立ち、 *10*大声で叫んで言った、
「救は、御座にいますわれらの神と小羊か
らきたる」。 *11*御使たちはみな、御座と長
老たちと四つの生き物とのまわりに立って
いたが、御座の前にひれ伏し、神を拝し
て言った、 *12*「アァメン、さんび、栄光、知
恵、感謝、ほまれ、力、勢いが、世々限り
なく、われらの神にあるように、アァメン」。
*13*長老たちのひとりが、わたしにむかっ
て言った、「この白い衣を身にまとってい
る人々は、だれか。また、どこからきたの
か」。 *14*わたしは彼に答えた、「わたしの
主よ、それはあなたがご存じです」。すると
、彼はわたしに言った、「彼らは大きな患
難をとおってきた人たちであって、その衣
を小羊の血で洗い、それを白くしたのであ
る。 *15*それだから彼らは、神の御座の前
におり、昼も夜もその聖所で神に仕えて
いるのである。御座にいますかたは、彼ら
の上に幕屋を張って共に住まわれるであ
ろう。 *16*彼らは、もはや飢えることがなく、
かわくこともない。太陽も炎暑も、彼らを侵
すことはない。 *17*御座の正面にいます小
羊は彼らの牧者となって、いのちの水の
泉に導いて下さるであろう。

また神は、彼らの目から涙をことごとくぬぐいとって下さるであろう」。

8 小羊が第七の封印を解いた時、半時間ばかり天に静けさがあった。 *2*それからわたしは、神のみまえに立っている七人の御使を見た。そして、七つのラッパが彼らに与えられた。 *3*また、別の御使が出てきて、金の香炉を手に持って祭壇の前に立った。たくさんの香が彼に与えられていたが、これは、すべての聖徒の祈に加えて、御座の前の金の祭壇の上にささげるためのものであった。 *4*香の煙は、御使の手から、聖徒たちの祈と共に神のみまえに立ちのぼった。 *5*御使はその香炉をとり、これに祭壇の火を満たして、地に投げつけた。すると、多くの雷鳴と、もろもろの声と、いなずまと、地震とが起った。 *6*そこで、七つのラッパを持っている七人の御使が、それを吹く用意をした。 *7*第一の御使が、ラッパを吹き鳴らした。すると、血のまじった雹と火とがあらわれて、地上に降ってきた。そして、地の三分の一が焼け、木の三分の一が焼け、また、すべての青草も焼けてしまった。 *8*第二の御使が、ラッパを吹き鳴らした。すると、火の燃えさかっている大きな山のようなものが、海に投げ込まれた。そして、海の三分の一は血となり、 *9*海の中の造られた生き物の三分の一は死に、舟の三分の一がこわされてしまった。 *10*第三の御使が、ラッパを吹き鳴らした。すると、たいまつのように燃えている大きな星が、空から落ちてきた。そしてそれは、川の三分の一とその水源との上に落ちた。 *11*この星の名は「苦よもぎ」と言い、水の三分の一が「苦よもぎ」のように苦くなった。水が苦くなったので、そのために多くの人が死んだ。 *12*第四の御使が、ラッパを吹き鳴らした。すると、太陽の三分の一と、月の三分の一と、星の三分の一とが打たれて、これらのものの三分の一は暗くなり、昼の三分の一は明るくなくなり、夜も同じようになった。 *13*また、わたしが見ていると、一羽のわしが中空を飛び、大きな声でこう言うのを聞いた、「ああ、わざわいだ、わざわいだ、地に住む人々は、わざわいだ。なお三人の御使がラッパを吹き鳴らそうとしている」。

9 第五の御使が、ラッパを吹き鳴らした。するとわたしは、一つの星が天から地に落ちて来るのを見た。この星に、底知れぬ所の穴を開くかぎが与えられた。 *2*そして、この底知れぬ所の穴が開かれた。すると、その穴から煙が大きな炉の煙のように立ちのぼり、その穴の煙で、太陽も空気も暗くなった。 *3*その煙の中から、いなごが地上に出てきたが、地のさそりが持っているような力が、彼らに与えられた。 *4*彼らは、地の草やすべての青草、またすべての木をそこなってはならないが、額に神の印がない人たちには害を加えてもよいと、言い渡された。 *5*彼らは、人間を殺すことはしないで、五か月のあいだ苦しめることだけが許された。彼らの与える苦痛は、人がさそりにさされる時のような苦痛であった。 *6*その時には、人々は死を求めても与えられず、死にたいと願っても、死は逃げて行くのである。 *7*これらのいなごは、出陣の用意のととのえられた馬によく似ており、その頭には金の冠のようなものをつけ、その顔は人間の顔のようであり、 *8*また、そのかみの毛は女のかみのようであり、その歯はししの歯のようであった。 *9*また、鉄の胸当のような胸当をつけており、その羽の音は、馬に引かれて戦場に急ぐ多くの戦車の響きのようであった。 *10*その上、さそりのような尾と針とを持っている。その尾には、五か月のあいだ人間をそこなう力がある。 *11*彼らは、底知れぬ所の使を王にいただいており、その名をヘブル語でアバドンと言い、ギリシヤ語ではアポルオンと言う。 *12*第一のわざわいは、過ぎ去った。見よ、この後、なお二つのわざわいが来る。 *13*第六の御使が、ラッパを吹き鳴らした。すると、一つの声が、神のみまえにある金の祭壇の四つの角から出て、 *14*ラッパを持っている第六の御使にこう呼びかけるのを、わたしは聞いた。「大ユウフラテ川のほとりにつながれている四人の御使を、解いてやれ」。 *15*すると、その時、その日、その月、その年に備えておかれた四人の御使が、人間の三分の一を殺すために、解き放たれた。 *16*騎兵隊の数は二億であった。わたしはその数を聞いた。 *17*そして、まぼろしの中で、それらの馬とそれに乗っている者

たちとを見ると、乗っている者たちは、火
の色と青玉色と硫黄の色の胸当をつけて
いた。そして、それらの馬の頭はししの頭
のようであって、その口から火と煙と硫黄
とが、出ていた。 *18*この三つの災害、す
なわち、彼らの口から出て来る火と煙と硫
黄とによって、人間の三分の一は殺され
てしまった。 *19*馬の力はその口と尾とに
ある。その尾はへびに似ていて、それに
頭があり、その頭で人に害を加えるのであ
る。 *20*これらの災害で殺されずに残った
人々は、自分の手で造ったものについて
、悔い改めようとせず、また悪霊のたぐい
や、金、銀、銅、石、木で造られ、見ること
も聞くことも歩くこともできない偶像を礼拝
して、やめようともしなかった。 *21*また、彼
らは、その犯した殺人や、まじないや、不
品行や、盗みを悔い改めようとしなかった
。

10 わたしは、もうひとりの強い御使が、
雲に包まれて、天から降りて来るのを見た
。その頭に、にじをいただき、その顔は太
陽のようで、その足は火の柱のようであっ
た。 *2*彼は、開かれた小さな巻物を手に
持っていた。そして、右足を海の上に、左
足を地の上に踏みおろして、 *3*ししがほえ
るように大声で叫んだ。彼が叫ぶと、七つ
の雷がおのおのその声を発した。 *4*七つ
の雷が声を発した時、わたしはそれを書
きとめようとした。すると、天から声があっ
て、「七つの雷の語ったことを封印せよ。
それを書きとめるな」と言うのを聞いた。
*5*それから、海と地の上に立っているのを
わたしが見たあの御使は、天にむけて右
手を上げ、 *6*天とその中にあるもの、地と
その中にあるもの、海とその中にあるもの
を造り、世々限りなく生きておられるかた
をさして誓った、「もう時がない。 *7*第七の
御使が吹き鳴らすラッパの音がする時に
は、神がその僕、預言者たちにお告げに
なったとおり、神の奥義は成就される」。
*8*すると、前に天から聞えてきた声が、ま
たわたしに語って言った、「さあ行って、海
と地との上に立っている御使の手に開か
れている巻物を、受け取りなさい」。 *9*そこ
で、わたしはその御使のもとに行って、
「その小さな巻物を下さい」と言った。
すると、彼は言った、「取って、それを食べ
てしまいなさい。あなたの腹には苦いが、
口には蜜のように甘い」。 *10*わたしは御使
の手からその小さな巻物を受け取って食
べてしまった。すると、わたしの口には蜜
のように甘かったが、それを食べたら、腹
が苦くなった。 *11*その時、「あなたは、もう
一度、多くの民族、国民、国語、王たちに
ついて、預言せねばならない」と言う声が
した。

11 それから、わたしはつえのような測り
ざおを与えられて、こう命じられた、「さあ
立って、神の聖所[iv]と祭壇と、そこで礼拝
している人々とを、測りなさい。 *2*聖所の
外の庭はそのままにしておきなさい。それ
を測ってはならない。そこは異邦人に与
えられた所だから。彼らは、四十二か月の
間この聖なる都を踏みにじるであろう。
*3*そしてわたしは、わたしのふたりの証人
に、荒布を着て、千二百六十日のあいだ
預言することを許そう」。 *4*彼らは、全地の
主のみまえに立っている二本のオリブの
木、また、二つの燭台である。 *5*もし彼ら
に害を加えようとする者があれば、彼らの
口から火が出て、その敵を滅ぼすであろう
。もし彼らに害を加えようとする者があれ
ば、その者はこのように殺されねばならな
い。 *6*預言をしている期間、彼らは、天を
閉じて雨を降らせないようにする力を持っ
ている。さらにまた、水を血に変え、何度
でも思うままに、あらゆる災害で地を打つ
力を持っている。 *7*そして、彼らがそのあ
かしを終えると、底知れぬ所からのぼって
来る獣が、彼らと戦って打ち勝ち、彼らを
殺す。 *8*彼らの死体はソドムや、エジプト
にたとえられている大いなる都の大通りに
さらされる。彼らの主も、この都で十字架
につけられたのである。 *9*いろいろな民族
、部族、国語、国民に属する人々が、三
日半の間、彼らの死体をながめるが、そ
の死体を墓に納めることは許さない。
*10*地に住む人々は、彼らのことで喜び楽
しみ、互に贈り物をしあう。このふたりの預
言者は、地に住む者たちを悩ましたから
である。 *11*三日半の後、いのちの息が、
神から出て彼らの中にはいり、そして、彼
らが立ち上がったので、それを見た人々

は非常な恐怖に襲われた。 *12*その時、天
から大きな声がして、「ここに上ってきなさ
い」と言うのを、彼らは聞いた。そして、彼
らは雲に乗って天に上った。彼らの敵は
それを見た。 *13*この時、大地震が起って
、都の十分の一は倒れ、その地震で七千
人が死に、生き残った人々は驚き恐れて
、天の神に栄光を帰した。 *14*第二のわざ
わいは、過ぎ去った。見よ、第三のわざわ
いがすぐに来る。 *15*第七の御使が、ラッ
パを吹き鳴らした。すると、大きな声々が
天に起って言った、「この世の国は、われ
らの主とそのキリストとの国となった。主は
世々限りなく支配なさるであろう」。 *16*そし
て、神のみまえで座についている二十四
人の長老は、ひれ伏し、神を拝して言っ
た、 *17*「今いまし、昔いませる、全能者に
してイオウオ(?)神[v]よ。大いなる御力をふ
るって支配なさったことを、感謝します。
*18*諸国民は怒り狂いましたが、あなたも
怒りをあらわされました。そして、死人をさ
ばき、あなたの僕なる預言者、聖徒、小さ
き者も、大いなる者も、すべて御名をおそ
れる者たちに報いを与え、また、地を滅ぼ
す者どもを滅ぼして下さる時がきました」。
*19*そして、天にある神の聖所[vi]が開けて、
聖所の中に契約の箱が見えた。また、い
なずまと、もろもろの声と、雷鳴と、地震と
が起り、大粒の雹が降った。

12 また、大いなるしるしが天に現れた。
ひとりの女が太陽を着て、足の下に月を
踏み、その頭に十二の星の冠をかぶって
いた。 *2*この女は子を宿しており、産みの
苦しみと悩みとのために、泣き叫んでいた
。 *3*また、もう一つのしるしが天に現れた。
見よ、大きな、赤い龍がいた。それに七つ
の頭と十の角とがあり、その頭に七つの冠
をかぶっていた。 *4*その尾は天の星の三
分の一を掃き寄せ、それらを地に投げ落
した。龍は子を産もうとしている女の前に
立ち、生れたなら、その子を食い尽そうと
かまえていた。 *5*女は男の子を産んだが、
彼は鉄のつえをもってすべての国民を治
めるべき者である。この子は、神のみもと
に、その御座のところに、引き上げられた
。 *6*女は荒野へ逃げて行った。そこには、
彼女が千二百六十日のあいだ養われるよ
うに、神の用意された場所があった。 *7*さ
て、天では戦いが起った。ミカエルとその
御使たちとが、龍と戦ったのである。龍も
その使たちも応戦したが、 *8*勝てなかった
。そして、もはや天には彼らのおる所がな
くなった。 *9*この巨大な龍、すなわち、悪
魔とか、サタンとか呼ばれ、全世界を惑わ
す年を経たへびは、地に投げ落され、そ
の使たちも、もろともに投げ落された。
*10*その時わたしは、大きな声が天でこう
言うのを聞いた、「今や、われらの神の救
と力と国と、神のキリストの権威とは、現れ
た。われらの兄弟らを訴える者、夜昼われ
らの神のみまえで彼らを訴える者は、投げ
落された。 *11*兄弟たちは、小羊の血と彼
らのあかしの言葉とによって、彼にうち勝
ち、死に至るまでもそのいのちを惜しまな
かった。 *12*それゆえに、天とその中に住
む者たちよ、大いに喜べ。しかし、地と海
よ、おまえたちはわざわいである。悪魔が
、自分の時が短いのを知り、激しい怒りを
もって、おまえたちのところに下ってきた
からである」。 *13*龍は、自分が地上に投
げ落されたと知ると、男子を産んだ女を追
いかけた。 *14*しかし、女は自分の場所で
ある荒野に飛んで行くために、大きなわし
の二つの翼を与えられた。そしてそこでへ
びからのがれて、一年、二年、また、半年
の間、養われることになっていた。 *15*へび
は女の後に水を川のように、口から吐き出
して、女をおし流そうとした。 *16*しかし、地
は女を助けた。すなわち、地はその口を
開いて、龍が口から吐き出した川を飲み
ほした。 *17*龍は、女に対して怒りを発し、
女の残りの子ら、すなわち、神の戒めを守
り、イエスのあかしを持っている者たちに
対して、戦いをいどむために、出て行った
。 *18*そして、海の砂の上に立った。

13 わたしはまた、一匹の獣が海から上
って来るのを見た。それには角が十本、
頭が七つあり、それらの角には十の冠が
あって、頭には神を汚す名がついていた
。 *2*わたしの見たこの獣はひょうに似てお
り、その足はくまの足のようで、その口はし
しの口のようであった。龍は自分の力と位
と大いなる権威とを、この獣に与えた。

*3*その頭の一つが、死ぬほどの傷を受け
たが、その致命的な傷もなおってしまった
。そこで、全地の人々は驚きおそれて、そ
の獣に従い、 *4*また、龍がその権威を獣
に与えたので、人々は龍を拝み、さらに、
その獣を拝んで言った、「だれが、この獣
に匹敵し得ようか。だれが、これと戦うこと
ができようか」。 *5*この獣には、また、大言
を吐き汚しごとを語る口が与えられ、四十
二か月のあいだ活動する権威が与えられ
た。 *6*そこで、彼は口を開いて神を汚し、
神の御名と、その幕屋、すなわち、天に住
む者たちとを汚した。 *7*そして彼は、聖徒
に戦いをいどんでこれに勝つことを許され
、さらに、すべての部族、民族、国語、国
民を支配する権威を与えられた。 *8*地に
住む者で、ほふられた小羊のいのちの書
に、その名を世の初めからしるされていな
い者はみな、この獣を拝むであろう。 *9*耳
のある者は、聞くがよい。 *10*とりこになる
べき者は、とりこになっていく。つるぎで殺
す者は、自らもつるぎで殺されねばならな
い。ここに、聖徒たちの忍耐と信仰とがあ
る。 *11*わたしはまた、ほかの獣が地から
上って来るのを見た。それには小羊のよう
な角が二つあって、龍のように物を言った
。 *12*そして、先の獣の持つすべての権力
をその前で働かせた。また、地と地に住む
人々に、致命的な傷がいやされた先の獣
を拝ませた。 *13*また、大いなるしるしを行
って、人々の前で火を天から地に降らせ
ることさえした。 *14*さらに、先の獣の前で
行うのを許されたしるしで、地に住む人々
を惑わし、かつ、つるぎの傷を受けてもな
お生きている先の獣の像を造ることを、地
に住む人々に命じた。 *15*それから、その
獣の像に息を吹き込んで、その獣の像が
物を言うことさえできるようにし、また、その
獣の像を拝まない者をみな殺させた。
*16*また、小さき者にも、大いなる者にも、
富める者にも、貧しき者にも、自由人にも
、奴隷にも、すべての人々に、その右の
手あるいは額に刻印を押させ、 *17*この刻
印のない者はみな、物を買うことも売るこ
ともできないようにした。この刻印は、その
獣の名、または、その名の数字のことであ
る。 *18*ここに、知恵が必要である。思慮の
ある者は、獣の数字を解くがよい。その
数字とは、人間をさすものである。そして、
その数字は六百六十六である。

14 なお、わたしが見ていると、見よ、小
羊がシオンの山に立っていた。また、十四
万四千の人々が小羊と共におり、その額
に小羊の名とその父の名とが書かれてい
た。 *2*またわたしは、大水のとどろきのよう
な、激しい雷鳴のような声が、天から出る
のを聞いた。わたしの聞いたその声は、
琴をひく人が立琴をひく音のようでもあっ
た。 *3*彼らは、御座の前、四つの生き物と
長老たちとの前で、新しい歌を歌った。こ
の歌は、地からあがなわれた十四万四千
人のほかは、だれも学ぶことができなかっ
た。 *4*彼らは、女にふれたことのない者で
ある。彼らは、純潔な者である。そして、小
羊の行く所へは、どこへでもついて行く。
彼らは、神と小羊とにささげられる初穂と
して、人間の中からあがなわれた者である
。 *5*彼らの口には偽りがなく、彼らは傷の
ない者であった。 *6*わたしは、もうひとりの
御使が中空を飛ぶのを見た。彼は地に住
む者、すなわち、あらゆる国民、部族、国
語、民族に宣べ伝えるために、永遠の福
音をたずさえてきて、 *7*大声で言った、
「神をおそれ、神に栄光を帰せよ。神のさ
ばきの時がきたからである。天と地と海と
水の源とを造られたかたを、伏し拝め」。
*8*また、ほかの第二の御使が、続いてきて
言った、「倒れた、大いなるバビロンは倒
れた。その不品行に対する激しい怒りの
ぶどう酒を、あらゆる国民に飲ませた者」。
*9*ほかの第三の御使が彼らに続いてきて、
大声で言った、「おおよそ、獣とその像と
を拝み、額や手に刻印を受ける者は、
*10*神の怒りの杯に混ぜものなしに盛られ
た、神の激しい怒りのぶどう酒を飲み、聖
なる御使たちと小羊との前で、火と硫黄と
で苦しめられる。 *11*その苦しみの煙は世
々限りなく立ちのぼり、そして、獣とその像
とを拝む者、また、だれでもその名の刻印
を受けている者は、昼も夜も休みが得ら
れない。 *12*ここに、神の戒めを守り、イエ
スを信じる信仰を持ちつづける聖徒の忍
耐がある」。 *13*またわたしは、天からの声
がこう言うのを聞いた、「書きしるせ、『今か
ら後、主にあって死ぬ死人はさいわいで

ある』」。御霊も言う、「しかり、彼らはその
労苦を解かれて休み、そのわざは彼らに
ついていく」。 *14*また見ていると、見よ、白
い雲があって、その雲の上に人の子のよ
うな者が座しており、頭には金の冠をいた
だき、手には鋭いかまを持っていた。
*15*すると、もうひとりの御使が聖所から出
てきて、雲の上に座している者にむかって
大声で叫んだ、「かまを入れて刈り取りな
さい。地の穀物は全く実り、刈り取るべき
時がきた」。 *16*雲の上に座している者は、
そのかまを地に投げ入れた。すると、地の
ものが刈り取られた。 *17*また、もうひとりの
御使が、天の聖所から出てきたが、彼もま
た鋭いかまを持っていた。 *18*さらに、もう
ひとりの御使で、火を支配する権威を持
っている者が、祭壇から出てきて、鋭いか
まを持つ御使にむかい、大声で言った、
「その鋭いかまを地に入れて、地のぶどう
のふさを刈り集めなさい。ぶどうの実がす
でに熟しているから」。 *19*そこで、御使は
そのかまを地に投げ入れて、地のぶどうを
刈り集め、神の激しい怒りの大きな酒ぶね
に投げ込んだ。 *20*そして、その酒ぶねが
都の外で踏まれた。すると、血が酒ぶね
から流れ出て、馬のくつわにとどくほどに
なり、一千六百丁にわたってひろがった。

15 またわたしは、天に大いなる驚くべき
ほかのしるしを見た。七人の御使が、最後
の七つの災害を携えていた。これらの災
害で神の激しい怒りがその頂点に達する
のである。 *2*またわたしは、火のまじった
ガラスの海のようなものを見た。そして、こ
のガラスの海のそばに、獣とその像とその
名の数字とにうち勝った人々が、神の立
琴を手にして立っているのを見た。 *3*彼ら
は、神の僕モーセの歌と小羊の歌とを歌
って言った、「全能者にしてイオウオ(?)
神[vii]よ。あなたのみわざは、大いなる、また
驚くべきものであります。万民の王よ、あ
なたの道は正しく、かつ真実であります。
*4*イオウオ(?)[viii]よ、あなたをおそれず、御
名をほめたたえない者が、ありましょうか。
あなただけが聖なるかたであり、あらゆる
国民はきて、あなたを伏し拝むでしょう。あ
なたの正しいさばきが、あらわれるに至っ
たからであります」。 *5*その後、わたしが見
ていると、天にある、あかしの幕屋の聖所
が開かれ、 *6*その聖所から、七つの災害
を携えている七人の御使が、汚れのない
、光り輝く亜麻布を身にまとい、金の帯を
胸にしめて、出てきた。 *7*そして、四つの
生き物の一つが、世々限りなく生きておら
れる神の激しい怒りの満ちた七つの金の
鉢を、七人の御使に渡した。 *8*すると、聖
所は神の栄光とその力とから立ちのぼる
煙で満たされ、七人の御使の七つの災害
が終ってしまうまでは、だれも聖所にはい
ることができなかった。

16 それから、大きな声が聖所から出て、
七人の御使にむかい、「さあ行って、神の
激しい怒りの七つの鉢を、地に傾けよ」と
言うのを聞いた。 *2*そして、第一の者が出
て行って、その鉢を地に傾けた。すると、
獣の刻印を持つ人々と、その像を拝む人
々とのからだに、ひどい悪性のでき物が
できた。 *3*第二の者が、その鉢を海に傾
けた。すると、海は死人の血のようになっ
て、その中の生き物がみな死んでしまっ
た。 *4*第三の者がその鉢を川と水の源と
に傾けた。すると、みな血になった。 *5*そ
れから、水をつかさどる御使がこう言うの
を、聞いた、「今いまし、昔いませる聖なる
者よ。このようにお定めになったあなた[ix]は
、正しいかたであります。 *6*聖徒と預言者
との血を流した者たちに、血をお飲ませに
なりましたが、それは当然のことであります
」。 *7*わたしはまた祭壇がこう言うのを聞い
た、「全能者にしてイオウオ(?)神[x]よ。しか
り、あなたのさばきは真実で、かつ正しい
さばきであります」。 *8*第四の者が、その鉢
を太陽に傾けた。すると、太陽は火で人
々を焼くことを許された。 *9*人々は、激し
い炎熱で焼かれたが、これらの災害を支
配する神の御名を汚し、悔い改めて神に
栄光を帰することをしなかった。 *10*第五
の者が、その鉢を獣の座に傾けた。すると
、獣の国は暗くなり、人々は苦痛のあまり
舌をかみ、 *11*その苦痛とでき物とのゆえ
に、天の神をのろった。そして、自分の行
いを悔い改めなかった。 *12*第六の者が、
その鉢を大ユウフラテ川に傾けた。すると
、その水は、日の出る方から来る王たちに
対し道を備えるために、かれてしまった。

*13*また見ると、龍の口から、獣の口から、
にせ預言者の口から、かえるのような三つ
の汚れた霊が出てきた。 *14*これらは、しる
しを行う悪霊の霊であって、全世界の王
たちのところに行き、彼らを召集したが、
それは、全能なる神の大いなる日に、戦
いをするためであった。 *15*(見よ、わたし
は盗人のように来る。裸のままで歩かない
ように、また、裸の恥を見られないように、
目をさまし着物を身に着けている者は、さ
いわいである。) *16*三つの霊は、ヘブル
語でハルマゲドンという所に、王たちを召
集した。 *17*第七の者が、その鉢を空中に
傾けた。すると、大きな声が聖所の中から
、御座から出て、「事はすでに成った」と
言った。 *18*すると、いなずまと、もろもろの
声と、雷鳴とが起り、また激しい地震があ
った。それは人間が地上にあらわれて以
来、かつてなかったようなもので、それほ
どに激しい地震であった。 *19*大いなる都
は三つに裂かれ、諸国民の町々は倒れ
た。神は大いなるバビロンを思い起し、こ
れに神の激しい怒りのぶどう酒の杯を与
えられた。 *20*島々はみな逃げ去り、山々
は見えなくなった。 *21*また一タラントの重
さほどの大きな雹が、天から人々の上に
降ってきた。人々は、この雹の災害のゆえ
に神をのろった。その災害が、非常に大
きかったからである。

17 それから、七つの鉢を持つ七人の御
使のひとりがきて、わたしに語って言った
、「さあ、きなさい。多くの水の上にすわっ
ている大淫婦に対するさばきを、見せよう
。 *2*地の王たちはこの女と姦淫を行い、地
に住む人々はこの女の姦淫のぶどう酒に
酔いしれている」。 *3*御使は、わたしを御
霊に感じたまま、荒野へ連れて行った。わ
たしは、そこでひとりの女が赤い獣に乗っ
ているのを見た。その獣は神を汚すかず
かずの名でおおわれ、また、それに七つ
の頭と十の角とがあった。 *4*この女は紫と
赤の衣をまとい、金と宝石と真珠とで身を
飾り、憎むべきものと自分の姦淫の汚れと
で満ちている金の杯を手に持ち、 *5*その
額には、一つの名がしるされていた。それ
は奥義であって、「大いなるバビロン、淫
婦どもと地の憎むべきものらとの母」という
のであった。 *6*わたしは、この女が聖徒の
血とイエスの証人の血に酔いしれている
のを見た。この女を見た時、わたしは非常
に驚きあやしんだ。 *7*すると、御使はわた
しに言った、「なぜそんなに驚くのか。この
女の奥義と、女を乗せている七つの頭と
十の角のある獣の奥義とを、話してあげよ
う。 *8*あなたの見た獣は、昔はいたが、今
はおらず、そして、やがて底知れぬ所から
上ってきて、ついには滅びに至るもので
ある。地に住 む者のうち、世の初めから
いのちの書に名をしるされていない者た
ちは、この獣が、昔はいたが今はおらず、
やがて来るのを見て、驚きあやしむであろ
う。 *9*ここに、知恵のある心が必要である。
七つの頭は、この女のすわっている七つ
の山であり、また、七人の王のことである。
*10*そのうちの五人はすでに倒れ、ひとり
は今おり、もうひとりは、まだきていない。
それが来れば、しばらくの間だけおること
になっている。 *11*昔はいたが今はいない
という獣は、すなわち第八のものであるが
、またそれは、かの七人の中のひとりであ
って、ついには滅びに至るものである。
*12*あなたの見た十の角は、十人の王のこ
とであって、彼らはまだ国を受けてはいな
いが、獣と共に、一時だけ王としての権威
を受ける。 *13*彼らは心をひとつにしている
。そして、自分たちの力と権威とを獣に与
える。 *14*彼らは小羊に戦いをいどんでく
るが、小羊は、主の主、王の王であるから
、彼らにうち勝つ。また、小羊と共にいる
召された、選ばれた、忠実な者たちも、勝
利を得る」。 *15*御使はまた、わたしに言っ
た、「あなたの見た水、すなわち、淫婦の
すわっている所は、あらゆる民族、群衆、
国民、国語である。 *16*あなたの見た十の
角と獣とは、この淫婦を憎み、みじめな者
にし、裸にし、彼女の肉を食い、火で焼き
尽すであろう。 *17*神は、御言が成就する
時まで、彼らの心の中に、御旨を行い、思
いをひとつにし、彼らの支配権を獣に与
える思いを持つようにされたからである。
*18*あなたの見たかの女は、地の王たちを
支配する大いなる都のことである」。

18 この後、わたしは、もうひとりの御使が
、大いなる権威を持って、天から降りて来
るのを見た。地は彼の栄光によって明るく
された。 *2*彼は力強い声で叫んで言った
、「倒れた、大いなるバビロンは倒れた。
そして、それは悪魔の住む所、あらゆる汚
れた霊の巣くつ、また、あらゆる汚れた憎
むべき鳥の巣くつとなった。 *3*すべての国
民は、彼女の姦淫に対する激しい怒りの
ぶどう酒を飲み、地の王たちは彼女と姦
淫を行い、地上の商人たちは、彼女の極
度のぜいたくによって富を得たからである
」。 *4*わたしはまた、もうひとつの声が天か
ら出るのを聞いた、「わたしの民よ。彼女
から離れ去って、その罪にあずからないよ
うにし、その災害に巻き込まれないように
せよ。 *5*彼女の罪は積り積って天に達して
おり、神はその不義の行いを覚えておら
れる。 *6*彼女がしたとおりに彼女にし返し
、そのしわざに応じて二倍に報復をし、彼
女が混ぜて入れた杯の中に、その倍の量
を、入れてやれ。 *7*彼女が自ら高ぶり、ぜ
いたくをほしいままにしたので、それに対
して、同じほどの苦しみと悲しみとを味わ
わせてやれ。彼女は心の中で『わたしは
女王の位についている者であって、やも
めではないのだから、悲しみを知らない』
と言っている。 *8*それゆえ、さまざまの災
害が、死と悲しみとききんとが、一日のうち
に彼女を襲い、そして、彼女は火で焼か
れてしまう。彼女をさばくイオウオ(?)神[xi]は
、力強いかたなのである。 *9*彼女と姦淫を
行い、ぜいたくをほしいままにしていた地
の王たちは、彼女が焼かれる火の煙を見
て、彼女のために胸を打って泣き悲しみ、
*10*彼女の苦しみに恐れをいだき、遠くに
立って言うであろう、『ああ、わざわいだ、
大いなる都、不落の都、バビロンは、わざ
わいだ。おまえに対するさばきは、一瞬に
してきた』。 *11*また、地の商人たちも彼女
のために泣き悲しむ。もはや、彼らの商品
を買う者が、ひとりもないからである。
*12*その商品は、金、銀、宝石、真珠、麻
布、紫布、絹、緋布、各種の香木、各種の
象牙細工、高価な木材、銅、鉄、大理石
などの器、 *13*肉桂、香料、香、におい油、
乳香、ぶどう酒、オリブ油、麦粉、麦、牛、
羊、馬、車、奴隷、そして人身などである
。 *14*おまえの心の喜びであったくだもの
はなくなり、あらゆるはでな、はなやかな
物はおまえから消え去った。それらのもの
はもはや見られない。 *15*これらの品々を
売って、彼女から富を得た商人は、彼女
の苦しみに恐れをいだいて遠くに立ち、
泣き悲しんで言う、 *16*『ああ、わざわいだ
、麻布と紫布と緋布をまとい、金や宝石や
真珠で身を飾っていた大いなる都は、わ
ざわいだ。 *17*これほどの富が、一瞬にし
て無に帰してしまうとは』。また、すべての
船長、航海者、水夫、すべて海で働いて
いる人たちは、遠くに立ち、 *18*彼女が焼
かれる火の煙を見て、叫んで言う、『これ
ほどの大いなる都は、どこにあろう』。
*19*彼らは頭にちりをかぶり、泣き悲しんで
叫ぶ、『ああ、わざわいだ、この大いなる
都は、わざわいだ。そのおごりによって、
海に舟を持つすべての人が富を得ていた
のに、この都も一瞬にして無に帰してしま
った』。 *20*天よ、聖徒たちよ、使徒たちよ、
預言者たちよ。この都について大いに喜
べ。神は、あなたがたのために、この都を
さばかれたのである」。 *21*すると、ひとりの
力強い御使が、大きなひきうすのような石
を持ちあげ、それを海に投げ込んで言っ
た、「大いなる都バビロンは、このように激
しく打ち倒され、そして、全く姿を消してし
まう。 *22*また、おまえの中では、立琴をひ
く者、歌を歌う者、笛を吹く者、ラッパを吹
き鳴らす者の楽の音は全く聞かれず、あ
らゆる仕事の職人たちも全く姿を消し、ま
た、ひきうすの音も、全く聞かれない。
*23*また、おまえの中では、あかりもともさ
れず、花婿、花嫁の声も聞かれない。とい
うのは、おまえの商人たちは地上で勢力
を張る者となり、すべての国民はおまえの
まじないでだまされ、 *24*また、預言者や
聖徒の血、さらに、地上で殺されたすべて
の者の血が、この都で流されたからである
」。

19 この後、わたしは天の大群衆が大声
で唱えるような声を聞いた、「ハレルヤ、救
と栄光と力とは、われらの神[xii]のものであり
、 *2*そのさばきは、真実で正しい。神は、
姦淫で地を汚した大淫婦をさばき、神の
僕たちの血の報復を彼女になさったから

である」。 *3*再び声があって、「ハレルヤ、
彼女が焼かれる火の煙は、世々限りなく
立ちのぼる」と言った。 *4*すると、二十四人
の長老と四つの生き物とがひれ伏し、御
座にいます神を拝して言った、「アァメン、
ハレルヤ」。 *5*その時、御座から声が出て
言った、「すべての神の僕たちよ、神をお
それる者たちよ。小さき者も大いなる者も
、共に、われらの神をさんびせよ」。 *6*わた
しはまた、大群衆の声、多くの水の音、ま
た激しい雷鳴のようなものを聞いた。それ
はこう言った、「ハレルヤ、全能者にしてイ
オウオ(?)われらの神[xiii]は、王なる支配者
であられる。 *7*わたしたちは喜び楽しみ、
神をあがめまつろう。小羊の婚姻の時がき
て、花嫁はその用意をしたからである。
*8*彼女は、光り輝く、汚れのない麻布の衣
を着ることを許された。この麻布の衣は、
聖徒たちの正しい行いである」。 *9*それか
ら、御使はわたしに言った、「書きしるせ。
小羊の婚宴に招かれた者は、さいわいで
ある」。またわたしに言った、「これらは、神
の真実の言葉である」。 *10*そこで、わたし
は彼の足もとにひれ伏して、彼を拝そうと
した。すると、彼は言った、「そのようなこと
をしてはいけない。わた しは、あなたと同
じ僕仲間であり、またイエスのあかしびと
であるあなたの兄弟たちと同じ僕仲間で
ある。ただ神だけを拝しなさい。イエスの
あかしは、すなわち預言の霊である」。
*11*またわたしが見ていると、天が開かれ、
見よ、そこに白い馬がいた。それに乗って
いるかたは、「忠実で真実な者」と呼ばれ
、義によってさばき、また、戦うかたである
。 *12*その目は燃える炎であり、その頭に
は多くの冠があった。また、彼以外にはだ
れも知らない名がその身にしるされていた
。 *13*彼は血染めの衣をまとい、その名は
「神の言」と呼ばれた。 *14*そして、天の軍
勢が、純白で、汚れのない麻布の衣を着
て、白い馬に乗り、彼に従った。 *15*その
口からは、諸国民を打つために、鋭いつ
るぎが出ていた。彼は、鉄のつえをもって
諸国民を治め、また、全能者なる神の激
しい怒りの酒ぶねを踏む。 *16*その着物に
も、そのももにも、「王の王、主の主」という
名がしるされていた。 *17*また見ていると、
ひとりの御使が太陽の中に立っていた。
彼は、中空を飛んでいるすべての鳥にむ
かって、大声で叫んだ、「さあ、神の大宴
会に集まってこい。 *18*そして、王たちの肉
、将軍の肉、勇者の肉、馬の肉、馬に乗
っている者の肉、また、すべての自由人と
奴隷との肉、小さき者と大いなる者との肉
をくらえ」。 *19*なお見ていると、獣と地の王
たちと彼らの軍勢とが集まり、馬に乗って
いるかたとその軍勢とに対して、戦いをい
どんだ。 *20*しかし、獣は捕えられ、また、
この獣の前でしるしを行って、獣の刻印を
受けた者とその像を拝む者とを惑わした
にせ預言者も、獣と共に捕えられた。そし
て、この両者とも、生きながら、硫黄の燃
えている火の池に投げ込まれた。 *21*それ
以外の者たちは、馬に乗っておられるか
たの口から出るつるぎで切り殺され、その
肉を、すべての鳥が飽きるまで食べた。

20 またわたしが見ていると、ひとりの御
使が、底知れぬ所のかぎと大きな鎖とを
手に持って、天から降りてきた。 *2*彼は、
悪魔でありサタンである龍、すなわち、か
の年を経たへびを捕えて千年の間つなぎ
おき、 *3*そして、底知れぬ所に投げ込み、
入口を閉じてその上に封印し、千年の期
間が終るまで、諸国民を惑わすことがない
ようにしておいた。その後、しばらくの間だ
け解放されることになっていた。 *4*また見
ていると、かず多くの座があり、その上に
人々がすわっていた。そして、彼らにさば
きの権が与えられていた。また、イエス の
あかしをし神の言を伝えたために首を切
られた人々の霊がそこにおり、また、獣を
もその像をも拝まず、その刻印を額や手
に受けることをしなかった人々がい た。彼
らは生きかえって、キリストと共に千年の
間、支配した。 *5*(それ以外の死人は、千
年の期間が終るまで生きかえらなかった。
)これが第一の復活である。 *6*この第一の
復活にあずかる者は、さいわいな者であり
、また聖なる者である。この人たちに対し
ては、第二の死はなんの力もない。彼ら
は神とキリストとの祭司となり、キリストと共
に千年の間、支配する。 *7*千年の期間が
終ると、サタンはその獄から解放される。
*8*そして、出て行き、地の四方にいる諸国
民、すなわちゴグ、マゴグを惑わし、

彼らを戦いのために召集する。その数は
、海の砂のように多い。 *9*彼らは地上の広
い所に上ってきて、聖徒たちの陣営と愛さ
れていた都とを包囲した。すると、天から
火が下ってきて、彼らを焼き尽した。 *10*そ
して、彼らを惑わした悪魔は、火と硫黄と
の池に投げ込まれた。そこには、獣もにせ
預言者もいて、彼らは世々限りなく日夜、
苦しめられるのである。 *11*また見ていると
、大きな白い御座があり、そこにいますか
たがあった。天も地も御顔の前から逃げ
去って、あとかたもなくなった。 *12*また、死
んでいた者が、大いなる者も小さき者も共
に、御座の前に立っているのが見えた。
かずかずの書物が開かれたが、もう一つ
の書物が開かれた。これはいのちの書で
あった。死人はそのしわざに応じ、この書
物に書かれていることにしたがって、さば
かれた。 *13*海はその中にいる死人を出し
、死も黄泉もその中にいる死人を出し、そ
して、おのおのそのしわざに応じて、さば
きを受けた。 *14*それから、死も黄泉も火の
池に投げ込まれた。この火の池が第二の
死である。 *15*このいのちの書に名がしる
されていない者はみな、火の池に投げ込
まれた。

21 わたしはまた、新しい天と新しい地と
を見た。先の天と地とは消え去り、海もな
くなってしまった。 *2*また、聖なる都、新し
いエルサレムが、夫のために着飾った花
嫁のように用意をととのえて、神のもとを出
て、天から下って来るのを見た。 *3*また、
御座から大きな声が叫ぶのを聞いた、「見
よ、神の幕屋が人と共にあり、神が人と共
に住み、人は神の民となり、神自ら人と共
にいまして、 *4*人の目から涙を全くぬぐい
とって下さる。もはや、死もなく、悲しみも、
叫びも、痛みもない。先のものが、すでに
過ぎ去ったからである」。 *5*すると、御座に
いますかたが言われた、「見よ、わたしは
すべてのものを新たにする」。また言われ
た、「書きしるせ。これらの言葉は、信ずべ
きであり、まことである」。 *6*そして、わたし
に仰せられた、「事はすでに成った。わた
しは、アルパでありオメガである。初めで
あり終りである。かわいている者には、い
のちの水の泉から価なしに飲ませよう。
*7*勝利を得る者は、これらのものを受け継
ぐであろう。わたしは彼の神となり、彼はわ
たしの子となる。 *8*しかし、おくびょうな者、
信じない者、忌むべき者、人殺し、姦淫を
行う者、まじないをする者、偶像を拝む者
、すべて偽りを言う者には、火と硫黄の燃
えている池が、彼らの受くべき報いである
。これが第二の死である」。 *9*最後の七つ
の災害が満ちている七つの鉢を持ってい
た七人の御使のひとりがきて、わたしに語
って言った、「さあ、きなさい。小羊の妻な
る花嫁を見せよう」。 *10*この御使は、わた
しを御霊に感じたまま、大きな高い山に連
れて行き、聖都エルサレムが、神の栄光
のうちに、神のみもとを出て天から下って
来るのを見せてくれた。 *11*その都の輝き
は、高価な宝石のようであり、透明な碧玉
のようであった。 *12*それには大きな、高い
城壁があって、十二の門があり、それらの
門には、十二の御使がおり、イスラエルの
子らの十二部族の名が、それに書いてあ
った。 *13*東に三つの門、北に三つの門、
南に三つの門、西に三つの門があった。
*14*また都の城壁には十二の土台があり、
それには小羊の十二使徒の十二の名が
書いてあった。 *15*わたしに語っていた者
は、都とその門と城壁とを測るために、金
の測りざおを持っていた。 *16*都は方形で
あって、その長さと幅とは同じである。彼
がその測りざおで都を測ると、一万二千
丁であった。長さと幅と高さとは、いずれも
同じである。 *17*また城壁を測ると、百四十
四キュビトであった。これは人間の、すな
わち、御使の尺度によるのである。 *18*城
壁は碧玉で築かれ、都はすきとおったガ
ラスのような純金で造られていた。 *19*都の
城壁の土台は、さまざまな宝石で飾られ
ていた。第一の土台は碧玉、第二はサフ
ァイヤ、第三はめのう、第四は緑玉、 *20*第
五は縞めのう、第六は赤めのう、第七はか
んらん石、第八は緑柱石、第九は黄玉石
、第十はひすい、第十一は青玉、第十二
は紫水晶であった。 *21*十二の門は十二
の真珠であり、門はそれぞれ一つの真珠
で造られ、都の大通りは、すきとおったガ
ラスのような純金であった。 *22*わたしは、
この都の中には聖所を見なかった。全能
者にしてイオウオ(?)神[xiv]と小羊とが、

その聖所なのである。 *23*都は、日や月が
それを照す必要がない。神の栄光が都を
明るくし、小羊が都のあかりだからである。
*24*諸国民は都の光の中を歩き、地の王
たちは、自分たちの光栄をそこに携えて
来る。 *25*都の門は、終日、閉ざされること
はない。そこには夜がないからである。
*26*人々は、諸国民の光栄とほまれとをそ
こに携えて来る。 *27*しかし、汚れた者や、
忌むべきこと及び偽りを行う者は、その中
に決してはいれない。はいれる者は、小
羊のいのちの書に名をしるされている者
だけである。

22 御使はまた、水晶のように輝いている
いのちの水の川をわたしに見せてくれた。
この川は、神と小羊との御座から出て、
*2*都の大通りの中央を流れている。川の
両側にはいのちの木があって、十二種の
実を結び、その実は毎月みのり、その木
の葉は諸国民をいやす。 *3*のろわるべき
ものは、もはや何ひとつない。神と小羊と
の御座は都の中にあり、その僕たちは彼
を礼拝し、 *4*御顔を仰ぎ見るのである。彼
らの額には、御名がしるされている。 *5*夜
は、もはやない。あかりも太陽の光も、いら
ない。イオウオ(?)神[xv]が彼らを照し、そし
て、彼らは世々限りなく支配する。 *6*彼は
また、わたしに言った、「これらの言葉は
信ずべきであり、まことである。預言者た
ちのたましいの神なるイオウオ(?)[xvi]は、す
ぐにも起るべきことをその僕たちに示そう
として、御使をつかわされたのである。
*7*見よ、わたしは、すぐに来る。この書の
預言の言葉を守る者は、さいわいである」
。 *8*これらのことを見聞きした者は、このヨ
ハネである。わたしが見聞きした時、それ
らのことを示してくれた御使の足もとにひ
れ伏して拝そうとすると、 *9*彼は言った、
「そのようなことをしてはいけない。わたし
は、あなたや、あなたの兄弟である預言者
たちや、この書の言葉を守る者たちと、同
じ僕仲間である。ただ神だけを拝しなさい
」。 *10*またわたしに言った、「この書の預
言の言葉を封じてはならない。時が近づ
いているからである。 *11*不義な者はさらに
不義を行い、汚れた者はさらに汚れたこと
を行い、義なる者はさらに義を行い、
聖なる者はさらに聖なることを行うままにさ
せよ」。 *12*「見よ、わたしはすぐに来る。報
いを携えてきて、それぞれのしわざに応じ
て報いよう。 *13*わたしはアルパであり、オ
メガである。最初の者であり、最後の者で
ある。初めであり、終りである。 *14*いのち
の木にあずかる特権を与えられ、また門
をとおって都にはいるために、自分の着
物を洗う者たちは、さいわいである。 *15*犬
ども、まじないをする者、姦淫を行う者、人
殺し、偶像を拝む者、また、偽りを好みか
つこれを行う者はみな、外に出されている
。 *16*わたしイエスは、使をつかわして、諸
教会のために、これらのことをあなたがた
にあかしした。わたしは、ダビデの若枝ま
た子孫であり、輝く明けの明星である」。
*17*御霊も花嫁も共に言った、「きたりませ
」。また、聞く者も「きたりませ」と言いなさ
い。かわいている者はここに来るがよい。
いのちの水がほしい者は、価なしにそれ
を受けるがよい。 *18*この書の預言の言葉
を聞くすべての人々に対して、わたしは警
告する。もしこれに書き加える者があれば
、神はその人に、この書に書かれている
災害を加えられる。 *19*また、もしこの預言
の書の言葉をとり除く者があれば、神はそ
の人の受くべき分を、この書に書かれて
いるいのちの木と聖なる都から、とり除か
れる。 *20*これらのことをあかしするかたが
仰せになる、「しかり、わたしはすぐに来る
」。アァメン、主イエスよ、きたりませ。 *21*主
イエスの恵みが、一同の者と共にあるよう
に。

---

[i] イザヤ書44章6節と比較せよ。イザヤ書41章4節とも比較せよ。伝統された新約聖書では、「全能者にして主なる神」(＝Κύριος ὁ Θεός ὁ Παντοκράτωρ)と言う表現が使用された。それは伝統された七十人訳聖書(LXX)と一致し、旧約聖書の「万軍の神、イオウオ」のギリシャ語翻訳である。だたし、LXXは本来神の御名を使用された。旧約聖書の本文では、「万軍の神、イオウオ」と言う表現がサムエル記下5章10節を始め、22カ所で使用され、「万軍の神、主」と言う表現が使用されない。それゆえに、ここで「全能者にしてイオウオ(?)神」とした。

[ii] イザヤ書6章2、3節と比較せよ。伝統された新約聖書では、「全能者にして主なる神」(＝Κύριος ὁ Θεός ὁ Παντοκράτωρ)と言う表現が使用された。それは伝統された七十人訳聖書(LXX)と一致し、

旧約聖書の「万軍の神、イオウオ」のギリシャ語翻訳である。だたし、LXXは本来神の御名を使用された。旧約聖書の本文では、「万軍の神、イオウオ」と言う表現がサムエル記下5章10節を始め、22カ所で使用され、「万軍の神、主」と言う表現が使用されない。それゆえに、ここで「全能者にしてイオウオ(?)神」とした。

iii 歴代志上29章10～13節、詩編99編5～9節、サムエル記上2章2節、創世記1章1節、出エジプト記20章11節とも比較せよ。旧約聖書では、「われらの神、イオウオ」と言う表現が出エジプト記5章3節を始め、91カ所で使用され、「われらの神、主」と言う表現が詩編90編17節とダニエル書9章15節でしか使用されない。ただし、上記2カ所でマソラ本文によると、本来神のみ名「イオウオ」が使用され、ソフェリム(＝書記)はここで「主」とした。C.D.Ginsburg(1894): The Massoretico-Critical Text of the Hebrew Bible を参照。それゆえに、ここで「われらの神、イオウオ(?)」とした。

iv Delitzsch (1877) はここで「イオウオ(?)の聖所」とする。エゼキエル書40章～48章と比較せよ。旧約聖書では、「イオウオの神殿」という表現がサムエル記上1章9節を始め、21カ所で使用され、「神の神殿」という表現が使用されない。

v 詩編22編29節、66編7節、103編19節、ダニエル書2章23節、哀歌5章19節とも比較せよ。伝統された新約聖書では、「全能者にして主なる神」(＝Κύριος ὁ Θεός ὁ Παντοκράτωρ)と言う表現が使用された。それは伝統された七十人訳聖書(LXX)と一致し、旧約聖書の「万軍の神、イオウオ」のギリシャ語翻訳である。だたし、LXXは本来神の御名を使用された。旧約聖書の本文では、「万軍の神、イオウオ」と言う表現がサムエル記下5章10節を始め、22カ所で使用され、「万軍の神、主」と言う表現が使用されない。それゆえに、ここで「全能者にしてイオウオ(?)神」とした。

vi Delitzsch (1877) はここで「イオウオ(?)の聖所」とする。出エジプト記25章10～22節、37章1～8節、列王紀8章6～8節、サムエル記上6章13、19節とも比較せよ。旧約聖書では、「イオウオの神殿」と言う表現がサムエル記上1章9節を始め、21カ所で使用され、「神の神殿」と言う表現が使用されない。

vii 出エジプト記15章1、6、詩編92編5節、詩編111編2、7節、エレミア書10章6、7節と比較せよ。伝統された新約聖書では、「全能者にして主なる神」(＝Κύριος ὁ Θεός ὁ Παντοκράτωρ)と言う表現が使用された。それは伝統された七十人訳聖書(LXX)と一致し、旧約聖書の「万軍の神、イオウオ」のギリシャ語翻訳である。だたし、LXXは本来神の御名を使用された。旧約聖書の本文では、「万軍の神、イオウオ」と言う表現がサムエル記下5章10節を始め、22カ所で使用され、「万軍の神、主」と言う表現が使用されない。それゆえに、ここで「全能者にしてイオウオ(?)神」とした。

viii エレミア書10章6、7節と比較せよ。詩編86編9節 、エレミア書5章22節とも比較せよ。

ix 本文の異文の追加:「あなた、主」。Hutter (1599) はここで「あなた、イオウオ(?)」とする。 旧約聖書では、「あなた、イオウオ」と言う表現が詩編3編4節を始め、17カ所で使用され、「あなた、主」と言う表現は詩編44編23節、73編20節、詩編86編5, 8、15節で使用される、ただし、上記5カ所でマソラ本文によると、本来神のみ名「イオウオ」が使用され、ソフェリム(＝書記)はここで「主」とした。C.D.Ginsburg(1894): The Massoretico-Critical Text of the Hebrew Bible を参照。

x Delitzsch (1877), Salkinson (1885), UBS (1979) はここで「イオウオ(?)」とする。詩編89編9節、イザヤ書5章16節、エレミア書11章20節とも比較せよ。伝統された新約聖書では、「全能者にして主なる神」(＝Κύριος ὁ Θεός ὁ Παντοκράτωρ)と言う表現が使用された。それは伝統された七十人訳聖書(LXX)と一致し、旧約聖書の「万軍の神、イオウオ」のギリシャ語翻訳である。だたし、LXXは本来神の御名を使用された。旧約聖書の本文では、「万軍の神、イオウオ」と言う表現がサムエル記下5章10節を始め、22カ所で使用され、「万軍の神、主」と言う表現が使用されない。それゆえに、ここで「全能者にしてイオウオ(?)神」とした。

xi イザヤ書47章9節、エレミア書50章31、34節、51章58節とも比較せよ。

xii 本文の異文の追加:「主、われらの神」。Hutter (1599) はここで「イオウオ(?)、われらの神」とする。旧約聖書では、「われらの神、イオウオ」と言う表現が出エジプト記5章3節を始め、91カ所 で使用され、「われらの神、主」と言う表現が詩編90編17節とダニエル書9章15節でしか使用されない。ただし、上記2カ所でマソラ本文によると、本来神のみ名「イオウオ」が使用され、ソフェリム(＝書記)はここで「主」とした。C.D.Ginsburg(1894): The Massoretico-Critical Text of the Hebrew Bible を参照。

xiii 本文の異文:「全能者にして主なる神」。Hutter (1599), Delitzsch (1877), Salkinson (1885), UBS (1979) はここで「イオウオ(?)」とする。エレミア書33章11節、詩編93編1節、115編13節、134編1節、詩編146編10節とも比較せよ。伝統された新約聖書では、「全能者にして主なる神」(＝Κύριος ὁ Θεός ὁ Παντοκράτωρ)と言う表現が使用された。それは伝統された七十人訳聖書(LXX)と一致し、旧約聖書の「万軍の神、イオウオ」のギリシャ語翻訳である。だたし、LXXは本来神の御名を使用された。旧約聖書の本文では、「万軍の神、イオウオ」と言う表現がサムエル記下5章10節を始め、22カ所で使用され、「万軍の神、主」と言う表現が使用されない。それゆえに、ここで「全能者にしてイオウオ(?)われら神」とした。

xiv 列王紀上8章27節、歴代志下2章6、18節、イザヤ書66章1節、ハガイ書2章6～8節、ヨハネ2章19～21節とも比較せよ。伝統された新約聖書では、「全能者にして主なる神」(＝Κύριος ὁ Θεός ὁ Παντοκράτωρ)と言う表現が使用された。それは伝統された七十人訳聖書(LXX)と一致し、旧約聖

書の「万軍の神、イオウオ」のギリシャ語翻訳である。だたし、LXXは本来神の御名を使用された。旧約聖書の本文では、「万軍の神、イオウオ」と言う表現がサムエル記下5章10節を始め、22カ所で使用され、「万軍の神、主」と言う表現が使用されない。それゆえに、ここで「全能者にしてイオウオ(?)神」とした。

[xv] イザヤ書60章19、20節、詩編36編9節、84編11節、ダニエル書7章18、27節と比較せよ。

[xvi] 民数期11章29節、ザカリヤ書7章12節、列王紀22章22、23節とも比較せよ。